

# 機動戦艦大和号

## AT完全設定資料集

AT PERFECT ESTABLISHMENT DATA



装甲騎兵ボトムズ

AT完全設定資料集

© 1998



9784758010283



1920076022005

ISBN4-7580-1028-5

C0076 ¥2200E

株式会社スタジオDNA

定価: **本体2200円** +税

©サンライズ



# 機動戦艦ダイアモンド

## AT完全設定資料集

AT PERFECT ESTABLISHMENT DATA

装甲騎兵

# メイズ



## 本書の使い方

本書は、サンライズ制作『装甲騎兵ボトムズ』登場の、ATマシンをはじめとする各種メカニックの設定資料を細大漏らさず収録し、解説いたしました。収録作品は以下の通り。

〈アニメ作品〉

- 装甲騎兵ボトムズ (TV版) 1983年4月1日～1984年3月23日 (総話数 全52話) テレビ東京系
- 装甲騎兵ボトムズ ザ・ラスト・レッドショルダー (OVA) 1985年8月21日
- 装甲騎兵ボトムズ ビッグバトル (OVA) 1986年7月5日
- 装甲騎兵ボトムズ レッドショルダードキュメント 野望のルーツ (OVA) 1988年3月19日
- 機甲猟兵メロウリンク (OVA) 1988年11月21日～1989年4月28日 (全12話)
- 装甲騎兵ボトムズ 赫奕たる異端 (OVA) 1994年3月21日～1994年11月21日 (全5話)

〈ゲーム作品〉

- ザ・バトリングロード スーパーファミコン 1993年10月
- ライトニングスラッシュ プレイステーション 1999年3月
- 鋼鉄の軍勢 プレイステーション 1999年10月

特にATマシンに際しては、当時の状況やデザインの要諦などを、関係者である高橋良輔氏(総監督)、大河原邦男氏(メカニックデザイン)、井上幸一氏(設定制作)三氏に解説を加えて頂きました。詳しくは、下記を参照ください。

### タイトル

それぞれのファイル内容に関する表題です。ATマシンに関しては、アルファベットの他ギルガメス文字も併記してあります。

### 本文ボディブロック

それぞれのメカニックの本編中での概要、ポジショニング、用法などを簡潔に解説しました。

### 人物対比図

ATと人間のサイズ比較。人が横の目安が分かるように描かれています。ATのサイズは人間の約10倍です。

### SCOPE DOG

## 01 スコープドッグ

ギルガメス軍制式1級AT。トータルバランスと拡張性の高さ、汎用性の高さで他の追随を許さない、事実上のATの標準モデル。数10年に渡ってギルガメス軍の主力機の座を占め続け、その状況は...のままである。総生産数はアストラギウス暦2477年の時点で数千機に達し、あまりにも普及しているため、仮に新型ATへの更新が行われるとしても、20年以上の年月が必要だと試算されている。

### COMMENT

高橋：スコープドッグの顔は、頭部鏡に付いた目に見える。その目には、あの小さくて無精な顔が写っていた。美脚にあるものでは、自転車のチェーンの一本に似ているんです。でもその目は、ロボットにはセンスがなかった。

井上：それで頭部鏡、あるいは、頭部カメラでレンズの材料が足りなくて、それを補填するために、「ロボット目」のレンズで代用した。レンズで代用したものは、目というものがあってもいいですね。

### ON THE FRONT LINE

アーム/センサーの構造。エジェクションポート周辺の構造は非常に複雑な構造になっている。

肩甲骨はショックアブソーバーとしても使われ、戦場での安全を大きく保っている。

タンクはブレーキとしても使用可能。戦場でも使用可能。

ATM-09-ST "スコープドッグ" 前・後

ATM-09-ST "スコープドッグ" 左・右

### SPEC

クラス	M級
全高 (mm)	3804
総重量 (kg)	2200
全長 (mm)	1768
全幅 (mm)	1530
標準重量 (kg)	1377
標準搭載兵器 (kg)	1027
最大装甲厚 (mm)	14
最小装甲厚 (mm)	6
0-100km/h加速 (sec)	82.6
0-100km/h減速 (sec)	41
0-100km/h停止 (sec)	230
0-100km/h停止 (sec)	51
MCバックス	スレック方式 1P-MJ/2
使用燃料 (kg/l)	DT-MO 10-2
PR推進力 (kg)	184
手動タンク容量 (l)	20
標準消費電力 (W)	218
制御コンピュータ	MCT-128-C
開発部隊	アルファベット
開発年次 (製作年次、管理年次)	7198

### COMMENT

高橋、大河原、井上各氏に、それぞれのATマシンについて語って頂いた内容を記載しました。

### キャプション

各設定で特記すべき事項を、それぞれの設定脇に併記しました。

### ON THE FRONT LINE

作品映像をもとに、各メカニックの設定がどのように使用されたかを、詳細に考察しました。画面写真キャプション末に添付した記号は、以下の作品から採られたものであることを表します。

(数字)=TV版(話数)、(L)=ザ・ラストレッドショルダー、(B)=ビッグバトル、(Y)=野望のルーツ、(M)=メロウリンク(話数)、(K)=赫奕たる異端(話数)

### SPEC

各ATマシンのスペックを列記しました。

WOTWARRS

AT完全設定資料集  
AT PERFECT ESTABLISHMENT DATA

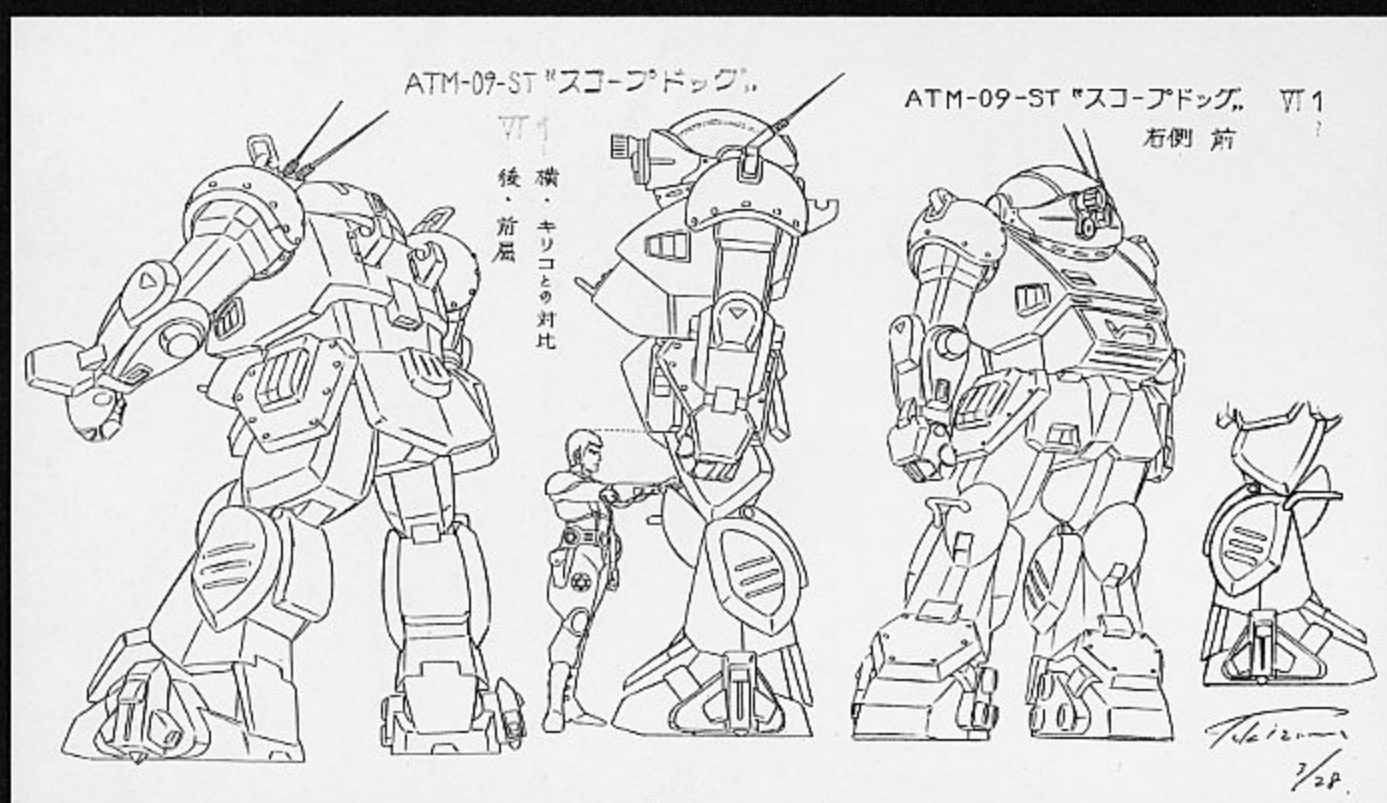
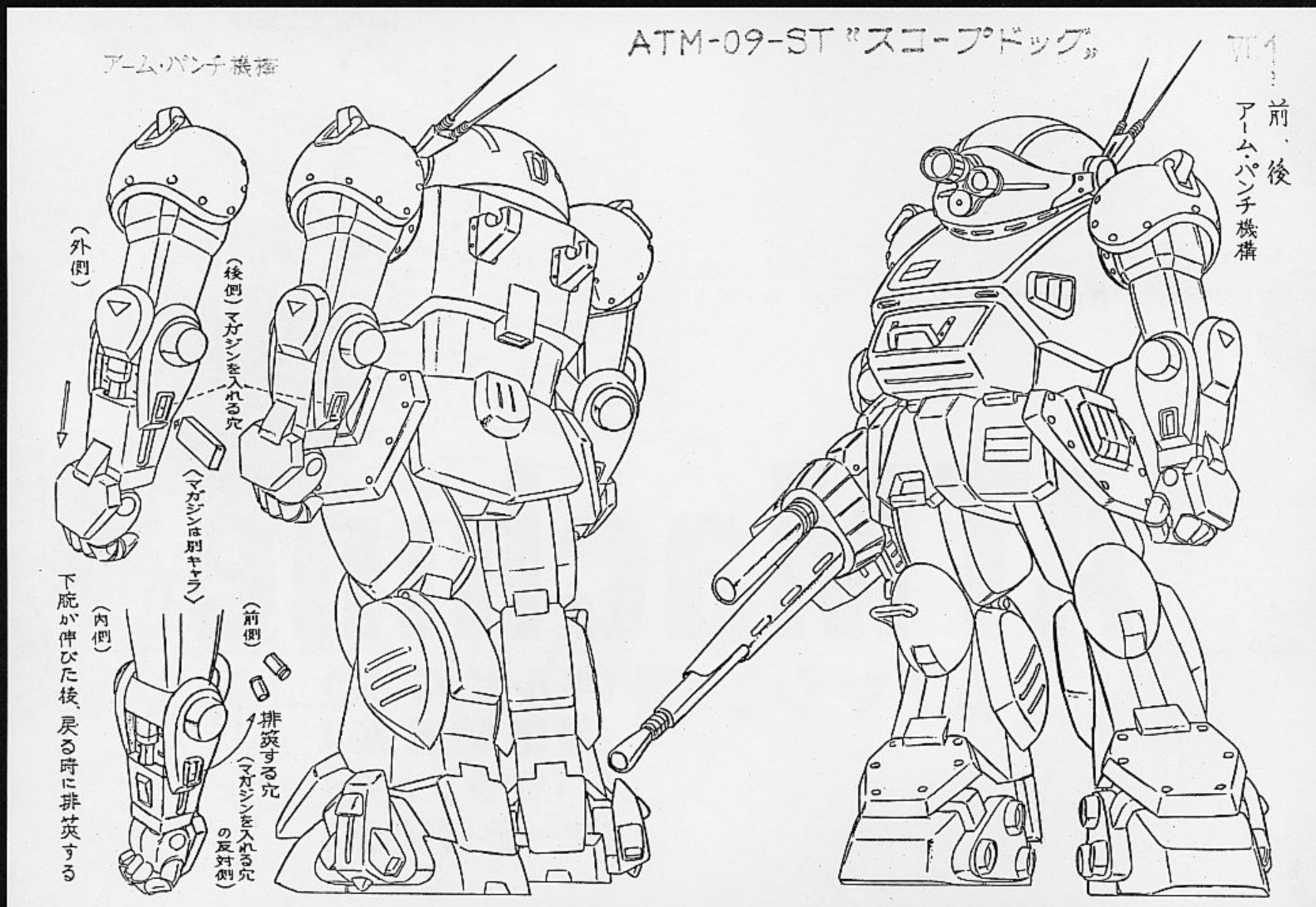
# AT Machine

ATマシン編 〈ギルガメス系〉  
〈秘密結社系〉  
〈バラント系〉  
〈マーティアル系〉

# スコープドッグ

SCOPE DOG  
FTCE>>MI

ギルガメス軍制式M級AT。トータルバランスと拡張性の高さ、汎用性の高さでは他の追随を許さない、事実上のATの標準モデル。数十年にわたってギルガメス軍の主力機の座を占め続け、その状況は当分の間変わらないであろう傑作機でもある。総生産機数はアストラギウス暦7247年の時点で数千万機に達し、あまりにも普及しているため、仮に新型ATへの更新が行われるとしても、20年以上の年月が必要だと試算されている。

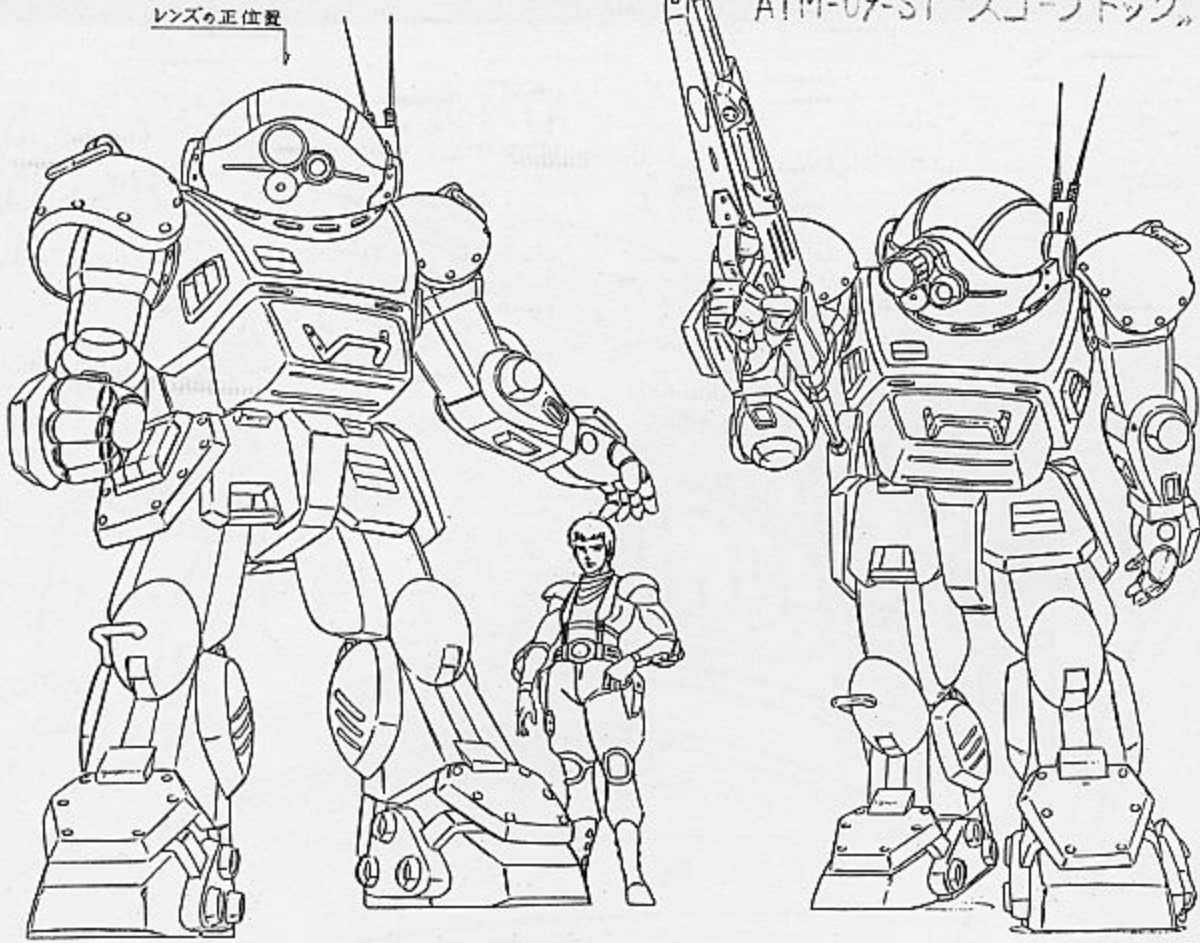


クラス	M級
全高 (mm)	3804
降着時全高 (mm)	2208
全長 (mm)	1763
全幅 (mm)	1936
乾燥重量 (kg)	6387
基本待機重量 (kg)	6627
最大装甲厚 (mm)	14
最小装甲厚 (mm)	6
GH限界走行速度 (km/h)	82.6
GH巡航走行速度 (km/h)	41
GH最大出力 (hp)	230
GH最大トルク (kg/m)	51
MCバック系	スレック方式、1P-MJ-S2
使用PR液 (hp/12)	DT-MO 10.2
PR液総量 (l)	184
予備タンク容量 (l)	20
標準液交換時間 (h)	218
制御コンピューター	MCT-128-C
固定武装・装備	アーム・パンチ
開発団体	アデルハビッツ社
開発年度 (製作年度、登場年度)	7198

レンズの正位置

ATM-09-ST "スコープドッグ" VII

ポーズ  
キリコとの対比



7/25

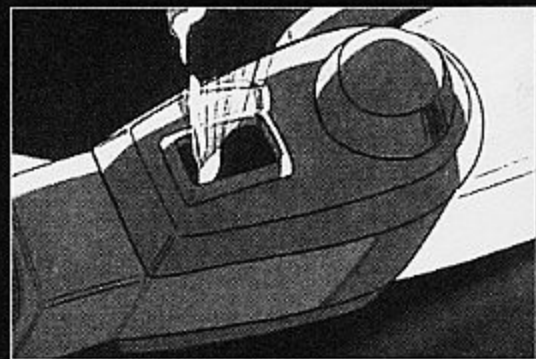
人物対比図

ATと人間のサイズ比較。人が乗り宇宙から地表までをカバーする兵器としては最小のサイズであろう。

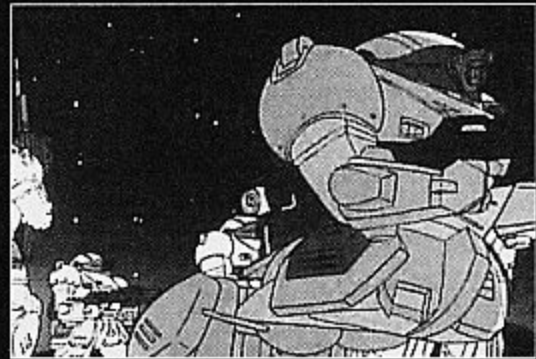
COMMENT

高橋：スコープドッグの眼はね、顕微鏡に行き付く前にあったのは、『ルパン三世』に出てきたラムダ。あの小さくて無機質な眼が好きだった。実際にあるものでは、自転車のチェーンの1コマに似ているんですよ。でもあの眼は、ロボットものにしてはセンスが良すぎた。  
井上：それで顕微鏡。あるいは、報道カメラでレンズが回転する奴がありまして、それを例えに出しまして。「ロボットなのにレンズですか」「レンズでなきゃ駄目なの」というやりとりがあったりもしました。

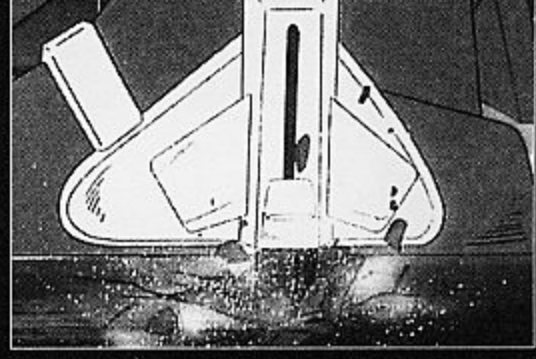
ON THE FRONT LINE



アームパンチの排気。エжекションポート周辺の肉厚は意外なまでに薄いようだ。(51)

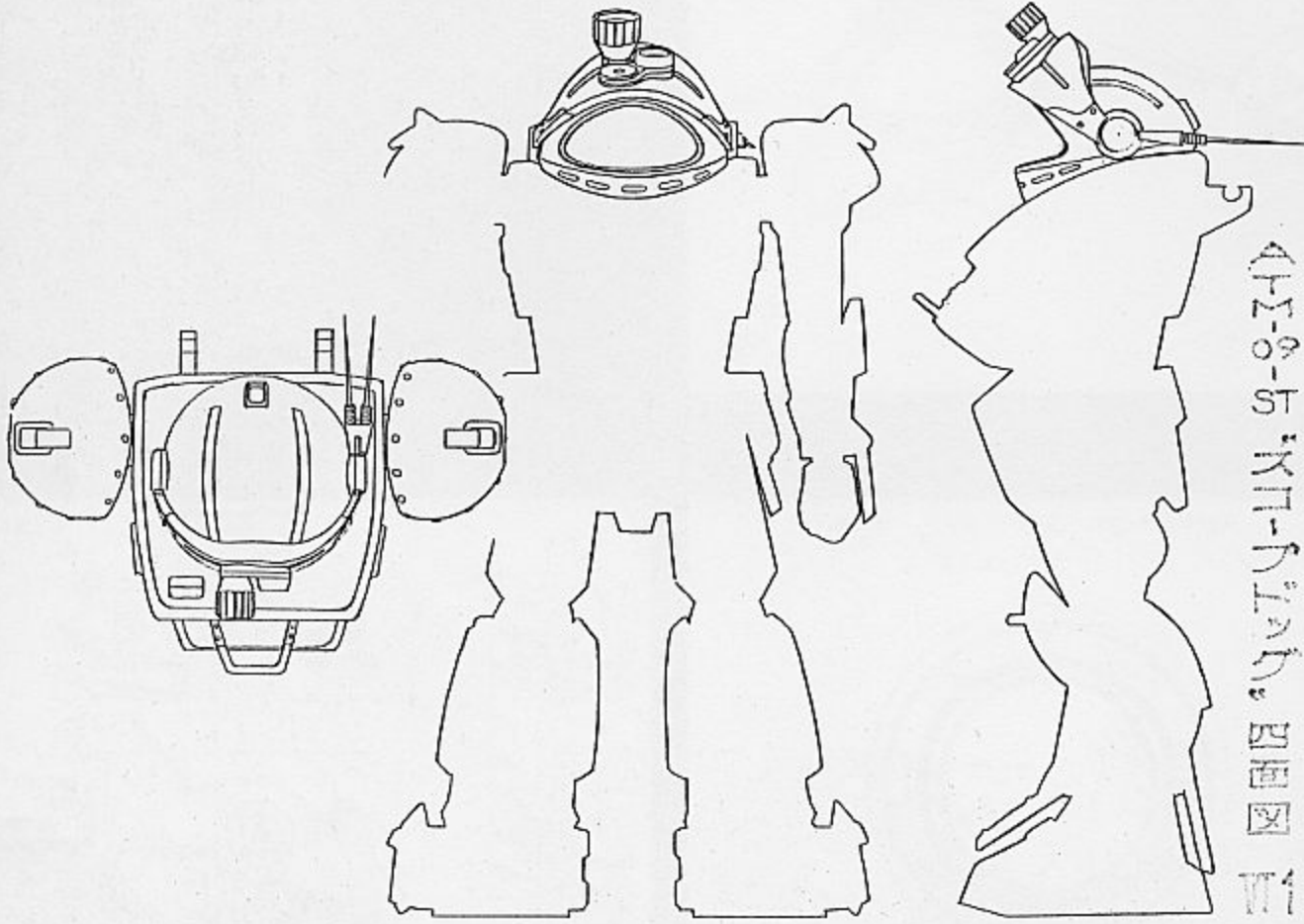
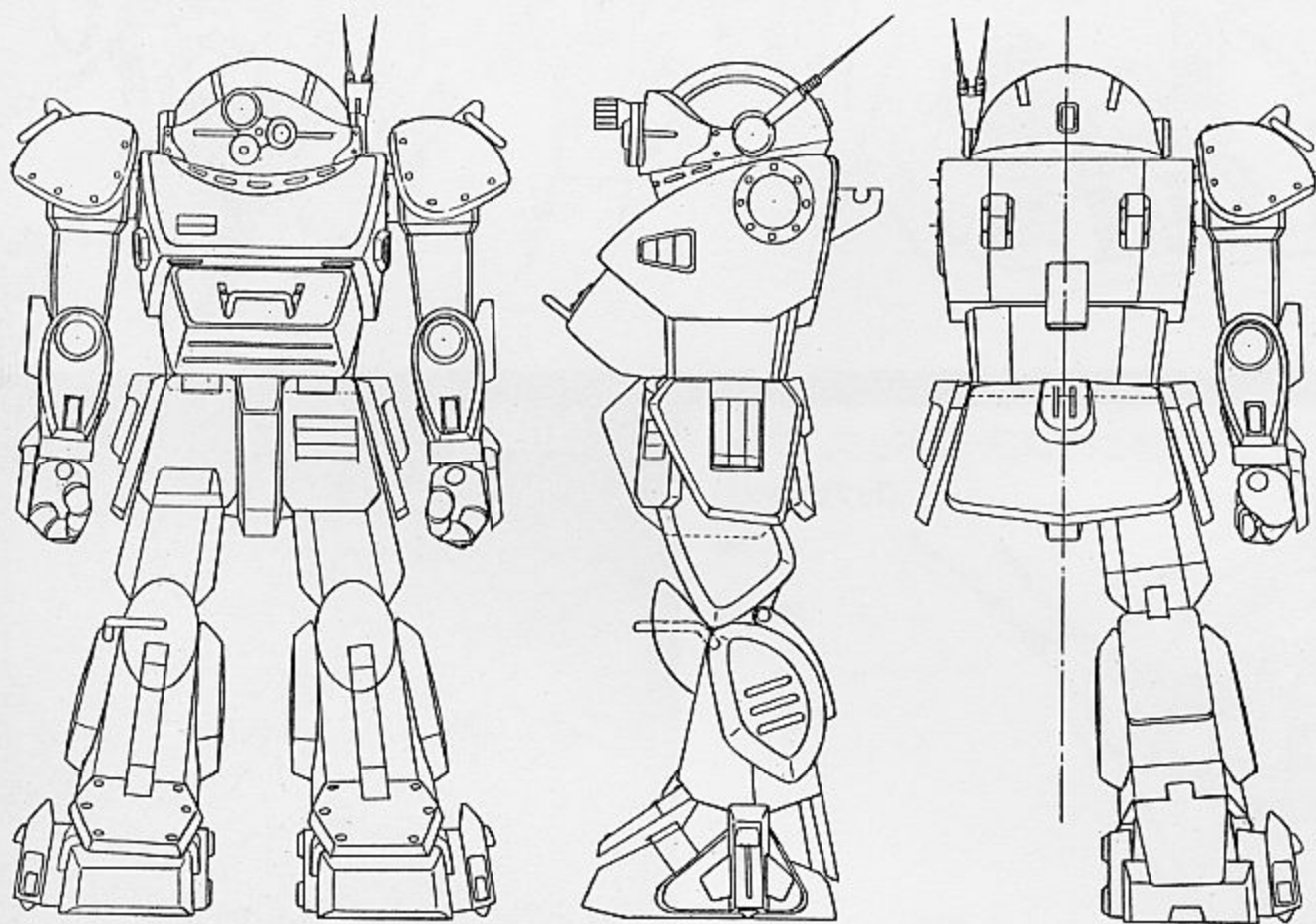


降着機構はショックアブソーバーとしても使われ着地時の安全を大きく高めている。(13)



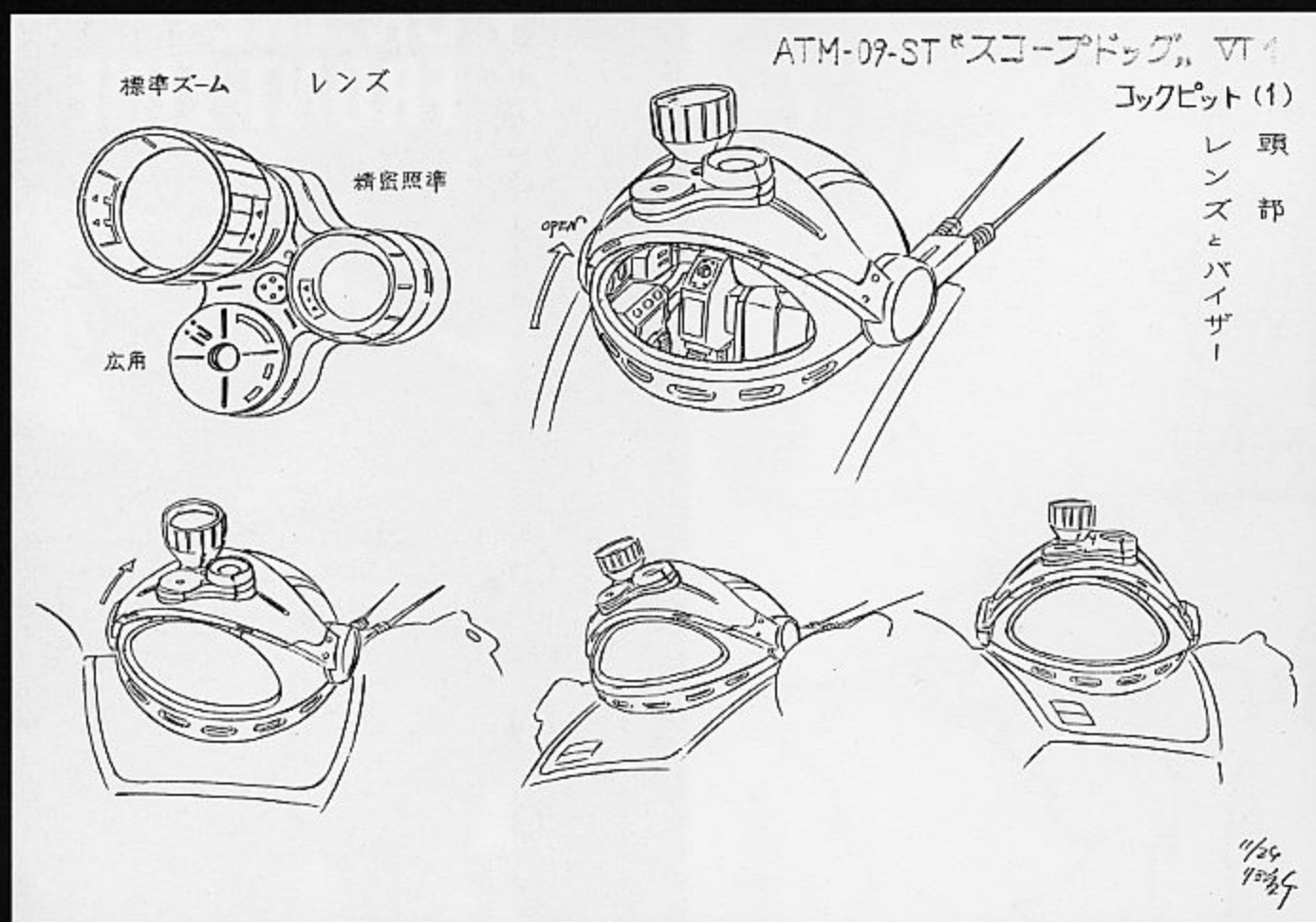
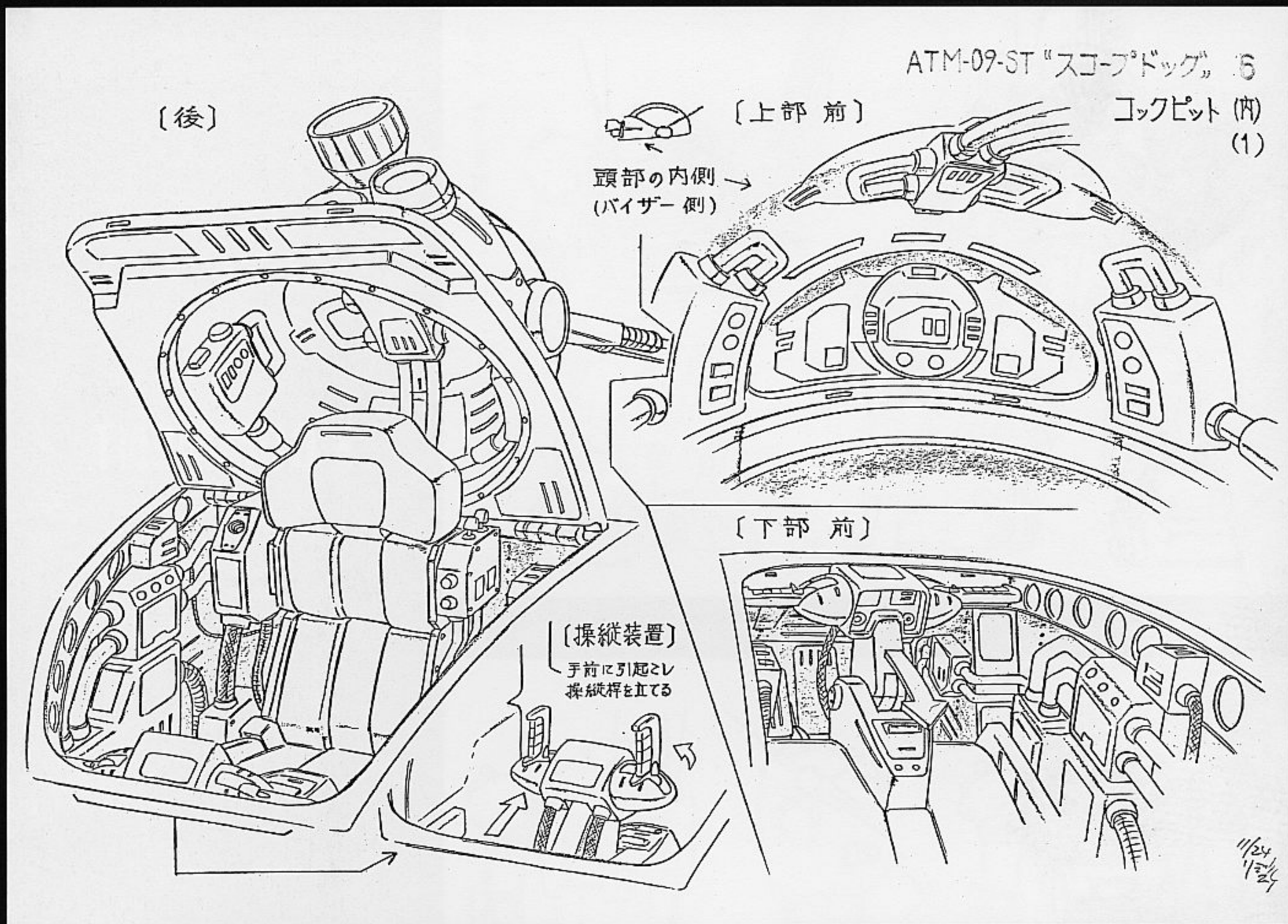
ターンピックは急ブレーキとしても固定用としても使われる。舗装路でも使用可能。(3)

四面図



ATM-09-ST "スコープドッグ" 四面図 VII

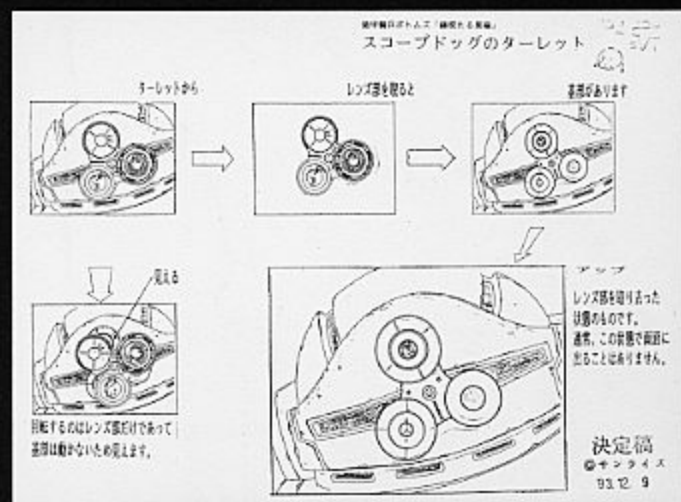
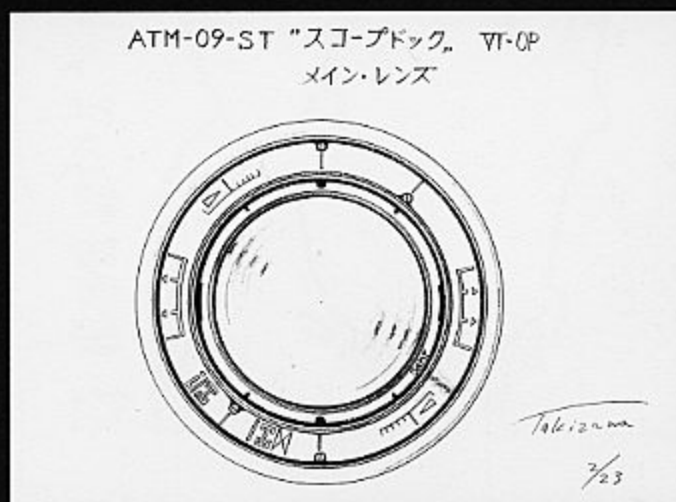
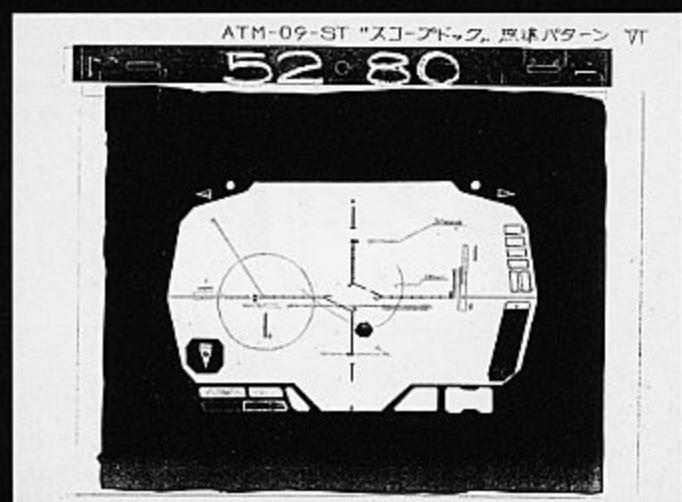
⊕ コックピット



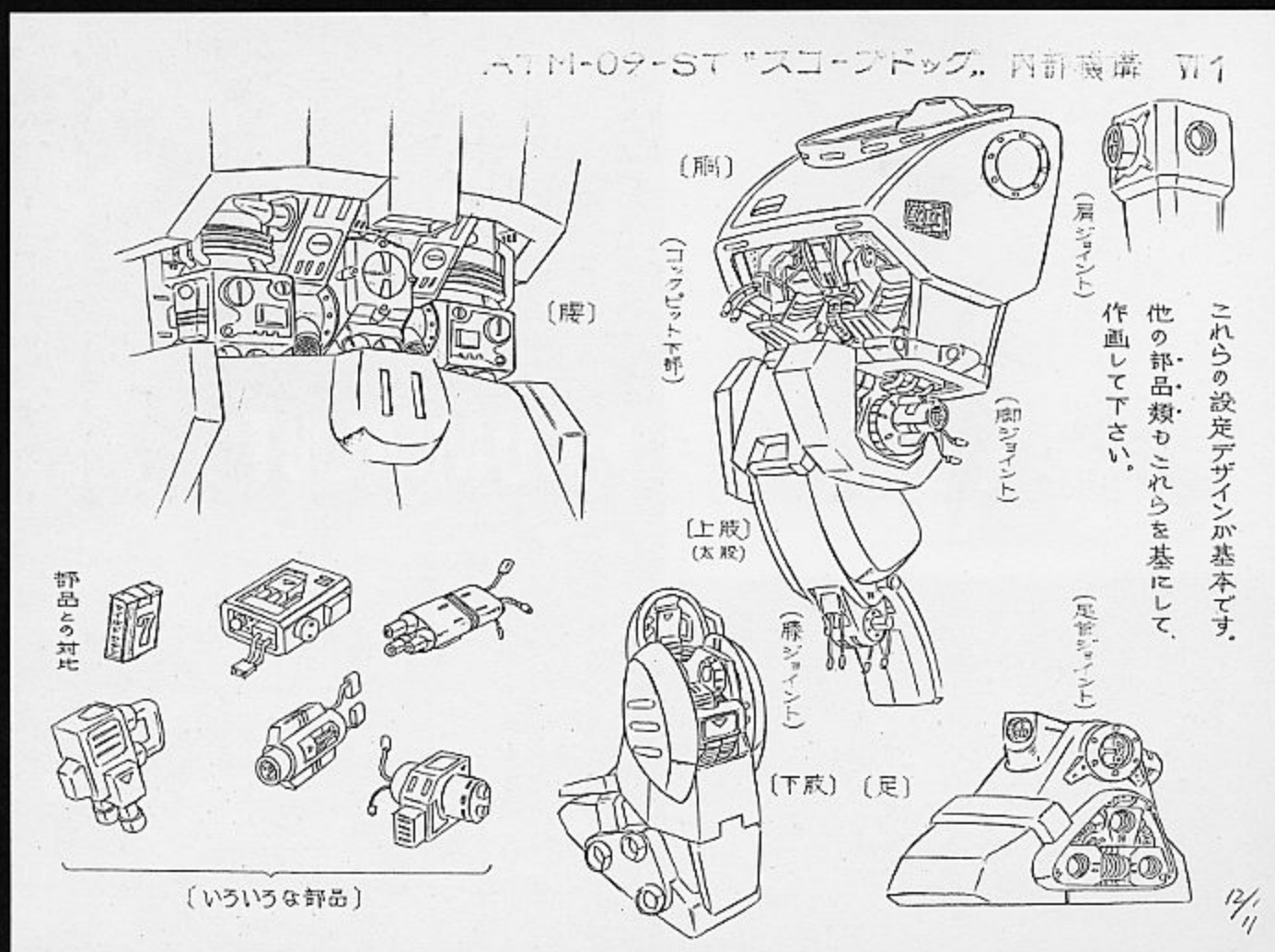
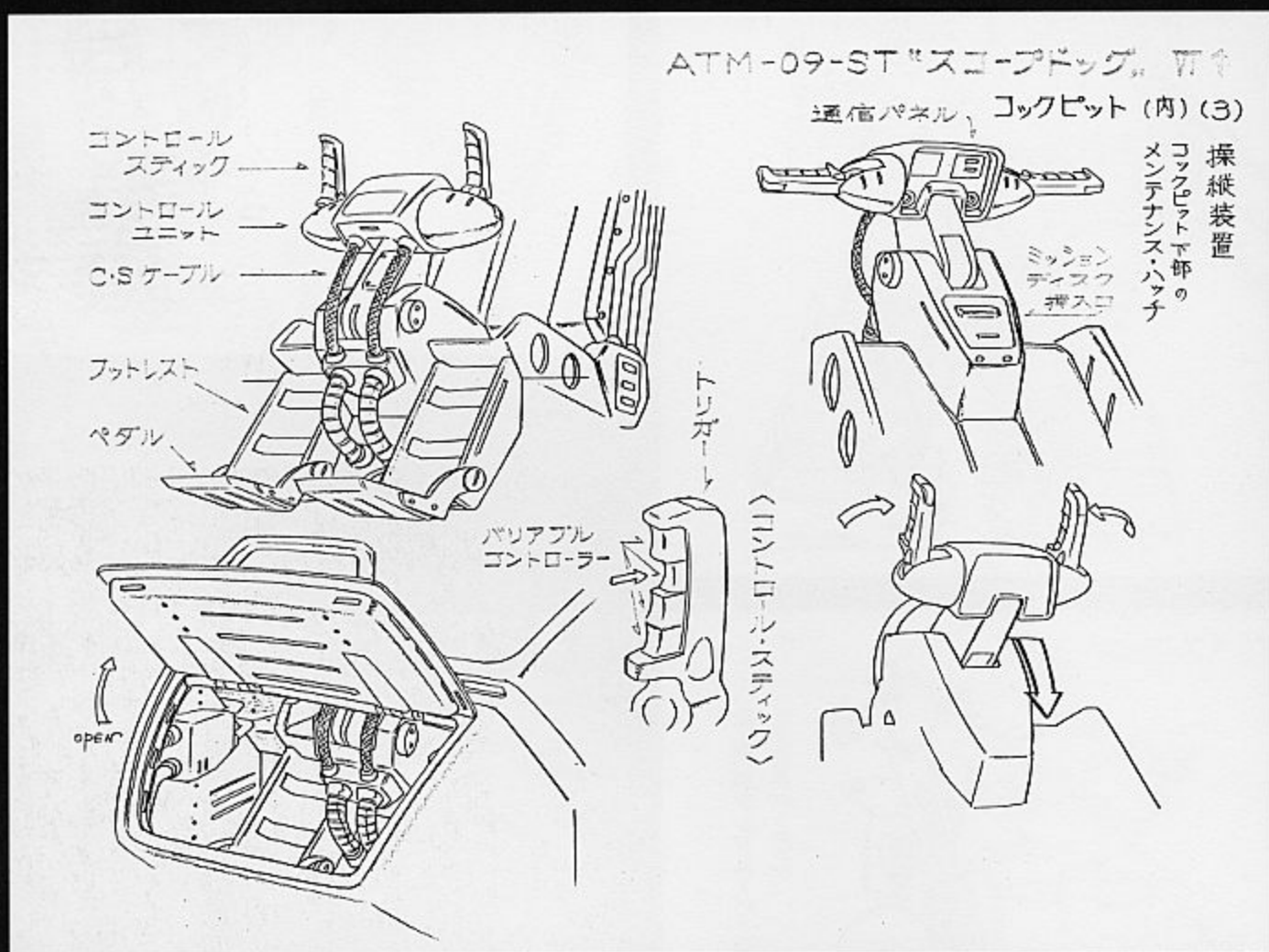
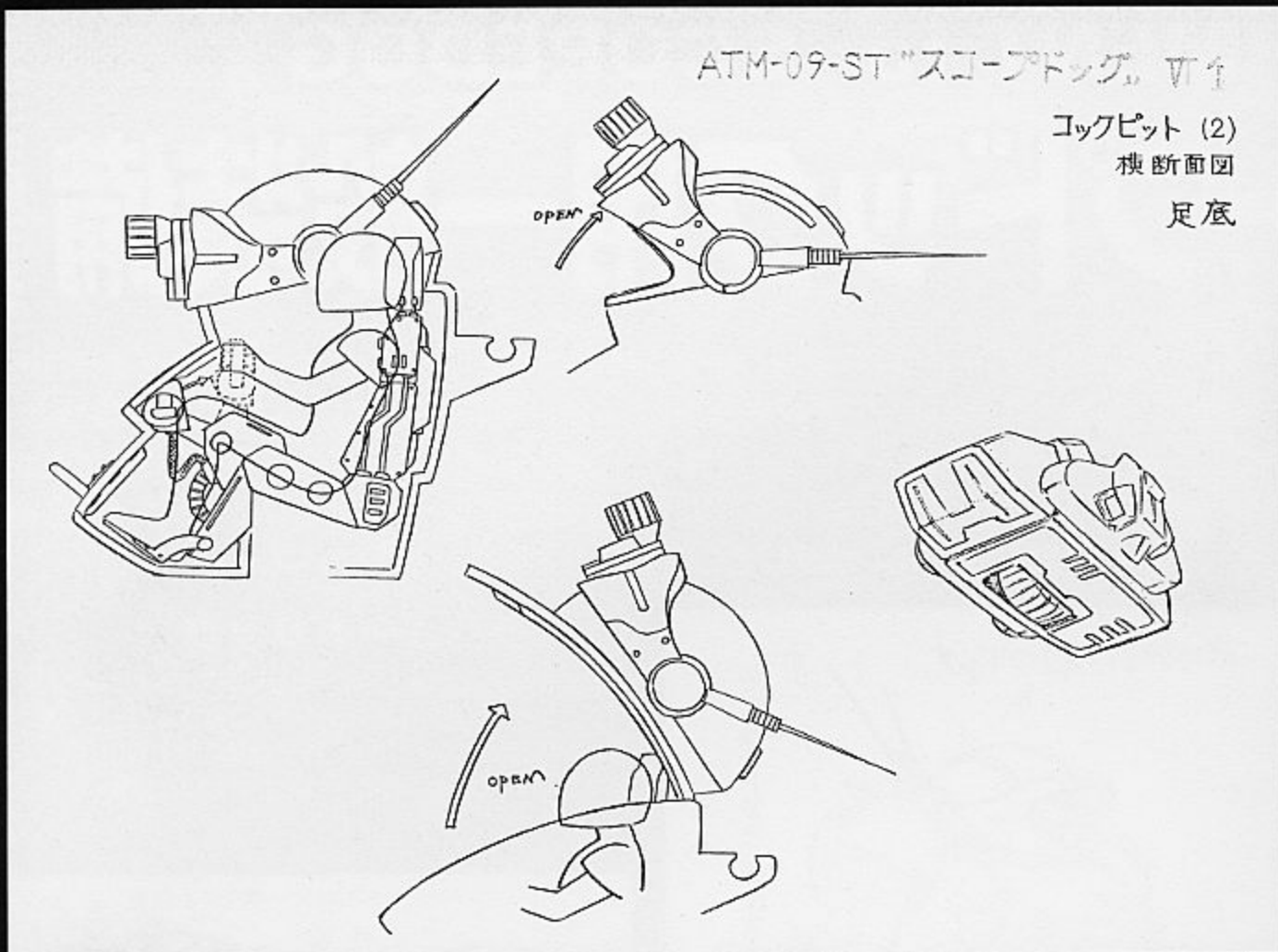
⊕ 頭部

スコープドッグの場合、半球形の頭部の中に人間の頭部が納まる形になる。生命維持装置や情報の表示を戦闘服に頼った結果、ここまでの小型化が可能となった。ただしそれは、バックアップを用意しないという前提で達成された小型化であり、装置の一つ一つが兵士の生命に直結している。

⊕ 光学系



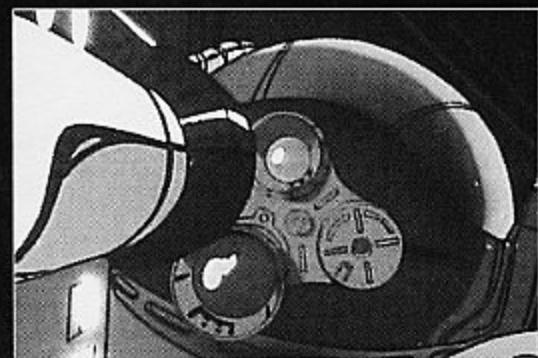
⊕ コックピットと部品類



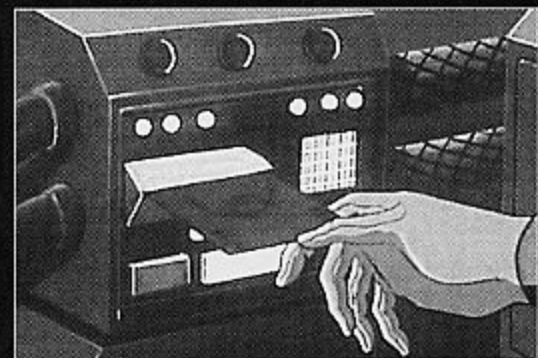
▶ COMMENT

大河原：スコープドッグは元々主役としてデザインしてまして、始めにまずスコープドッグありきなんです。そして僕がやりたかったものは「量産型の主役メカ」というもので、これは最初にフルスクラッチしていた物にかなり近いんですよ。それから他のATのデザインも、スコープドッグにキャラクター性を入れてまとめた段階で、ATとはこういうものだ幅を決めて、その中から次々に出していったんです。それを必要に応じてリメイクしていったという感じですね。

▶ ON THE FRONT LINE



レンズを標準から精密に変え、照準を行っている例。銃側もそれを前提としている。(1)



AT戦術のソフト面を支えるミッションディスク。水中でも真空中でも稼動する。(39)



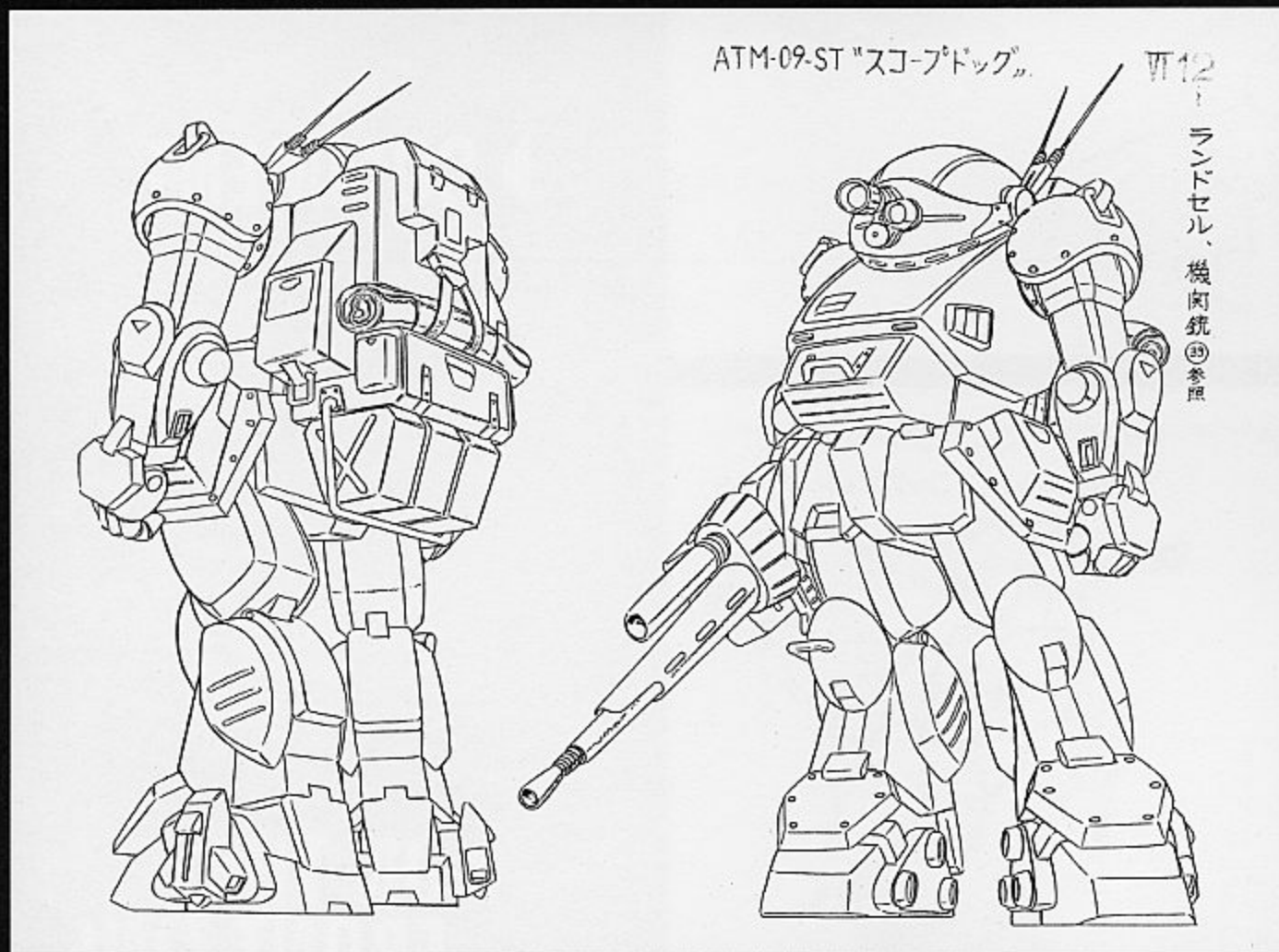
肩部アーマーの内側が見えるカット。腕の付け根の部分が本体側に残されている。(10)

# COMON EQUIPMENT for SCOPEDOG

## FILE 02 スコープドッグ用一般装備

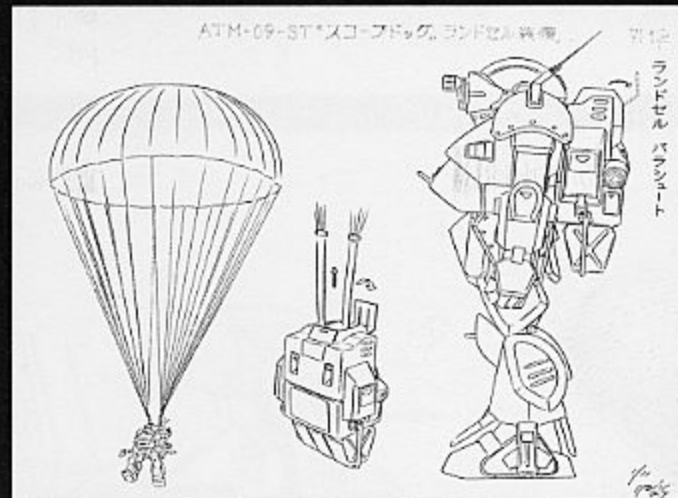
### COMON EQUIPMENT FOR SCOPEDOG FILE 02

09系の汎用性のハードウェア面は、機体本体だけでなくバックパックを中心とする付帯装備と、各種の武装によって実現されている。ここでは一般的なバックパック2種類と、広く普及している銃火器、そして汎用性の一つの究極の例としてウドで使用された重武装仕様を取り上げる。09系はここに紹介した装備だけで、宇宙空間から地表までの全領域において、程度の差はあれ水準以上の戦闘能力を発揮することが可能となっている。

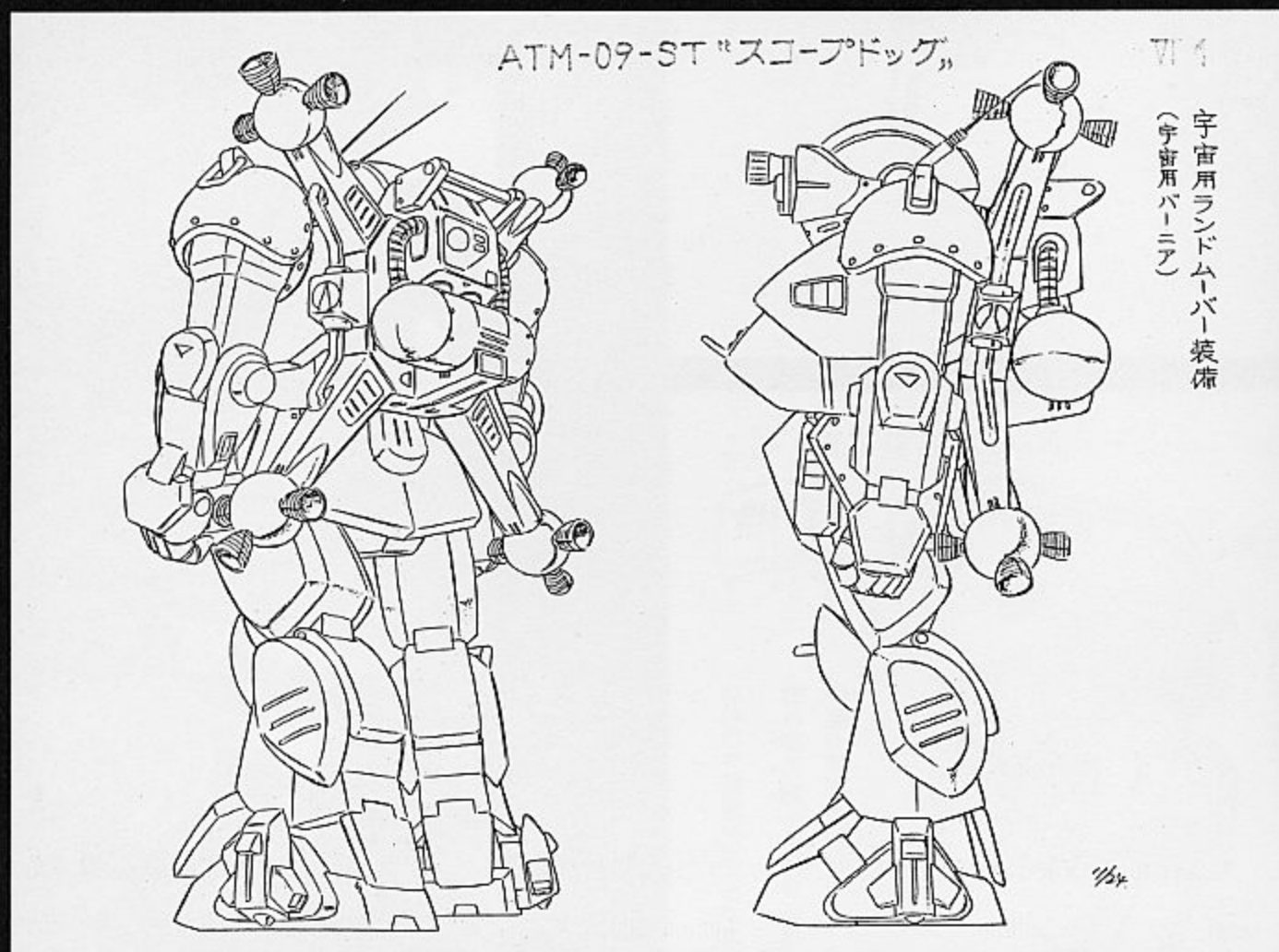


#### ⊕ パラシュートザック

本来は空挺部隊の降下に使われるバックパック。開傘時のパラシュートの直径は10.5メートルに達する。使用高度は低～中高度に限定されるが、降着機構を応用したショックアブソーバーのため、着地時の安全性はかなり高い。



形式番号	ATP-BP1-ST
種別	大気圏内降下作戦用バック
全長(mm)	2051
重量(kg)	775



#### ⊕ ランドムバーザック

09系を宇宙空間で活動させるための機動ユニット。推力方向が重心からずれているため、装着したATは前傾姿勢で移動することになる。また、プロペラントの膨張にはMC系の作動熱などを使用している。

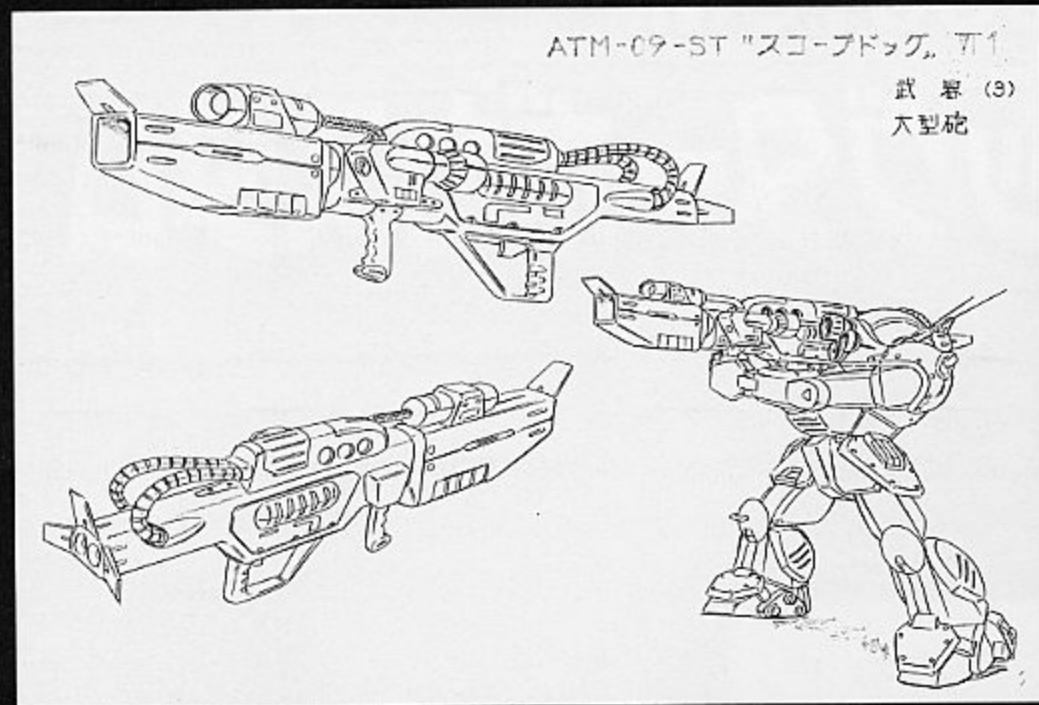
形式番号	ATC-BR1-S
種別	宇宙行動用バック
全長(mm)	2750
重量(kg)	-
エンジン	スーリック方式680型×1
バーニア数	12基
燃料	ロアテップ (CS-BN64)
燃料タンク容量	2831
最高速度	1200km/h
最大加速度	2.6G

### COMMENT

高橋：装備品にはね、布をちょっとくっつけてもいいんだ。絵よりも立体の時に良い。それから銃にバルカンセレクターってあるけど、いい加減な名前つけたんだなあ。オレ(笑)。

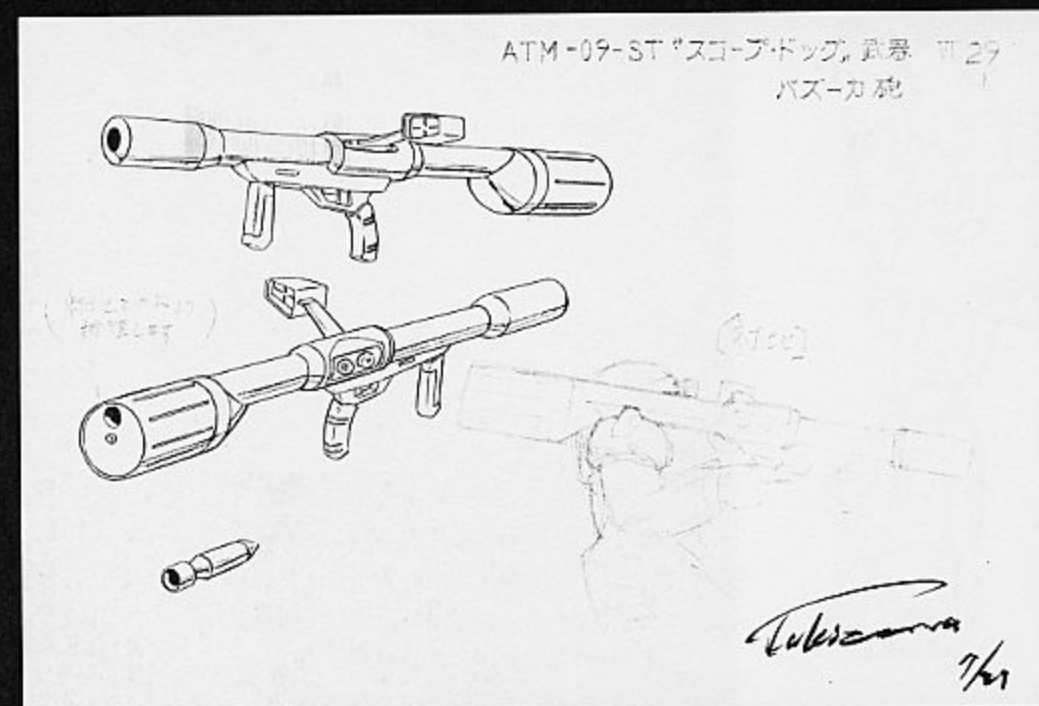
井上：テントを装備させたのは良輔さんのこだわりですね。AFVの模型とかにティッシュで作ってやるとすごく良い。多分昔ながらの山形の天幕みたいな物でしょう、きっと。何にでも使えるような。あと、GAT-22のグレナードは先込めかパイプごと丸ごと交換じゃないのかな？ ATでの装弾は考えていないし。

### ⊕ GAT-35 ロックガン



対宇宙艦用のエネルギー兵器。対AT兵器として使用した場合、数機まとめて破壊出来るほどの威力を持ち、核を除けばAT用兵器中最強と言われる。ただし連射は効かず、大きく重いので基本的に宇宙戦専用である。

### ⊕ SAT-03 ソリッドシューター



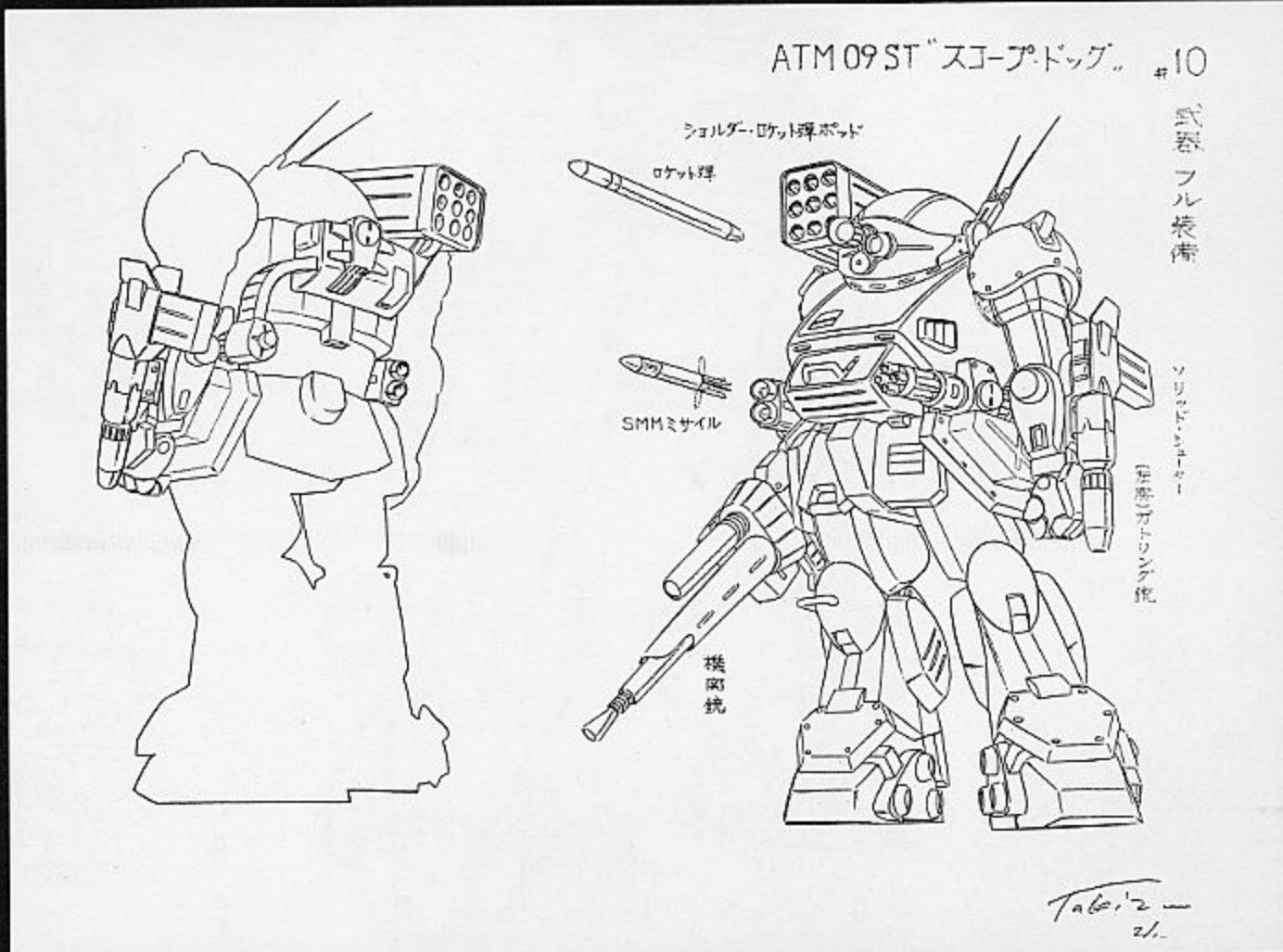
電磁加速で弾体を飛ばす一種のリニアガンだが、弾体にロケット弾の機能を持っているものがあり、後方への噴射で反動を殺す場合もある。対装甲兵器の中では、どちらかと言えば新型に属するらしい。

### ⊕ SMAT-38 ショルダーミサイルガンポッド

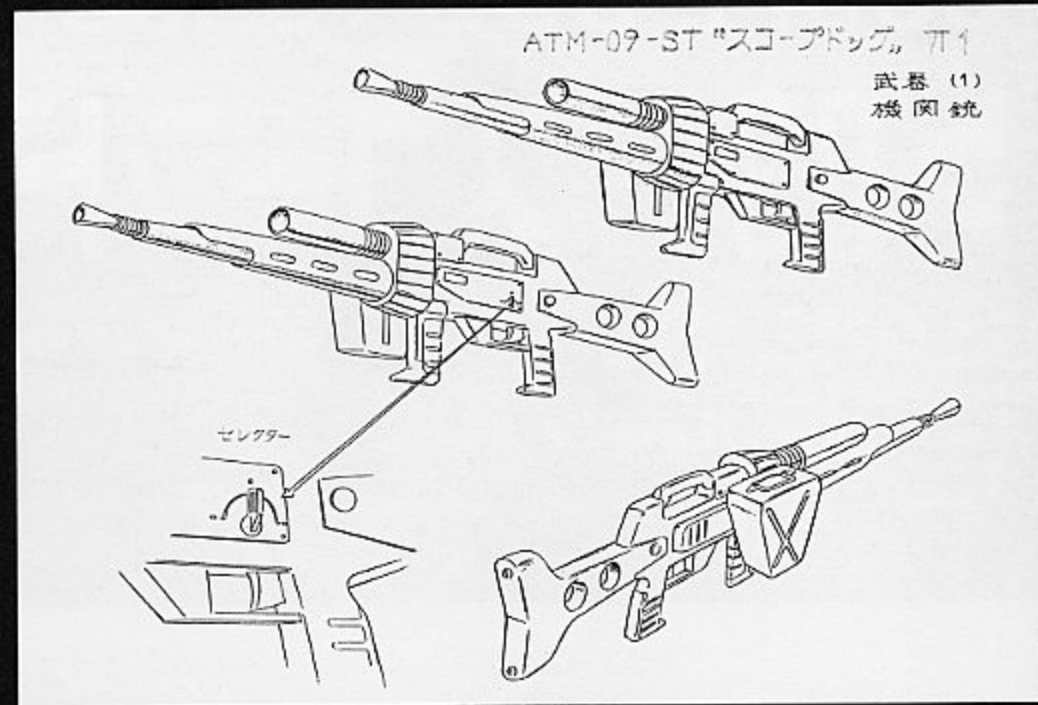
支援用として広く使われているミサイルポッド。通常弾とホーミングの2種の弾体が用意され、目的により使い分けられるため費用対効果も高い。かつては核弾頭 (VM-99F) も使用可能だったが、様々な問題により現在では使用禁止となっている。

### ⊕ レッドショルダーカスタム

09系の武装の極北として引き合いに出される機体。ウドの街で大立ち回りをやった機体で、大量の火器を増設された火器管制コンピューターでコントロールしているらしいのだが、詳細については不明と言わざるを得ない。

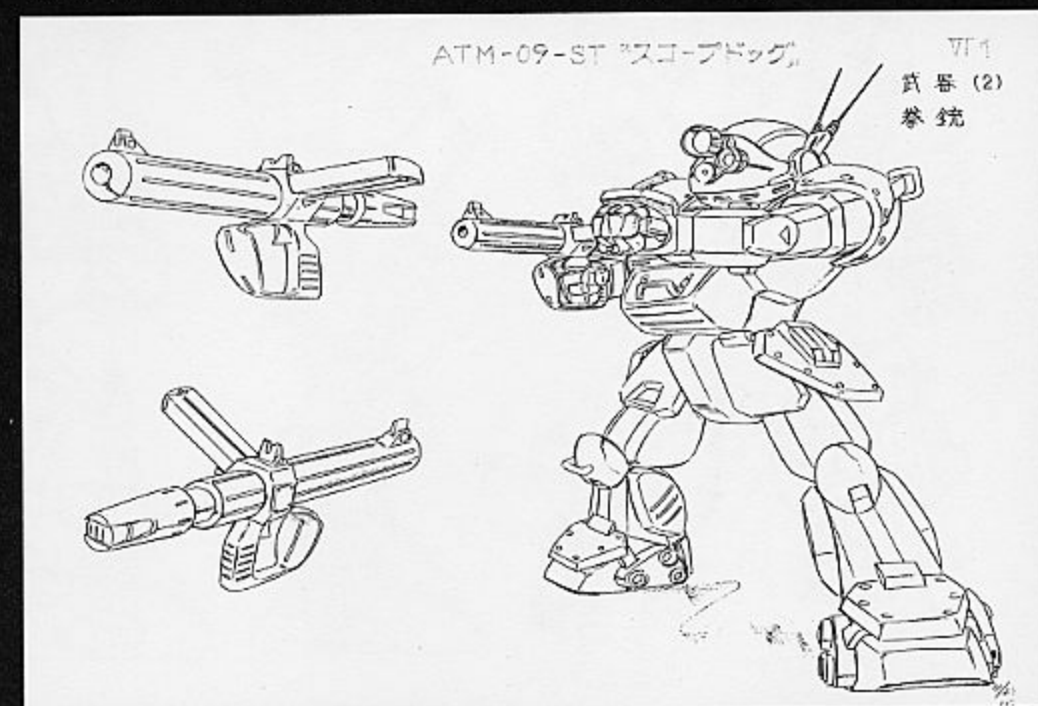


### ⊕ GAT-22 ヘビーマシンガン

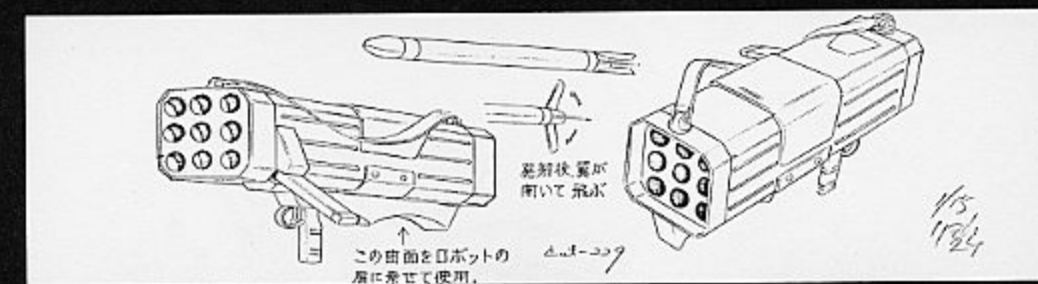


09系ATでは最も標準的なマシンガン。液体炸薬を使用し、AT用火器の一つのスタンダードとなっている傑作銃である。なお上部のグレネードランチャーは単発とされているが、連射可能なモデルも存在するらしい。

### ⊕ GAT-49mm ペンタトルーパー



AT用のハンドガン。本来液体火薬では火器の小型化が難しかったが、それに成功した銃。空挺部隊や憲兵隊など、火器のサイズに制限のある部隊が使用する。装弾数は6発で、弾薬にはかなりの種類が存在する。



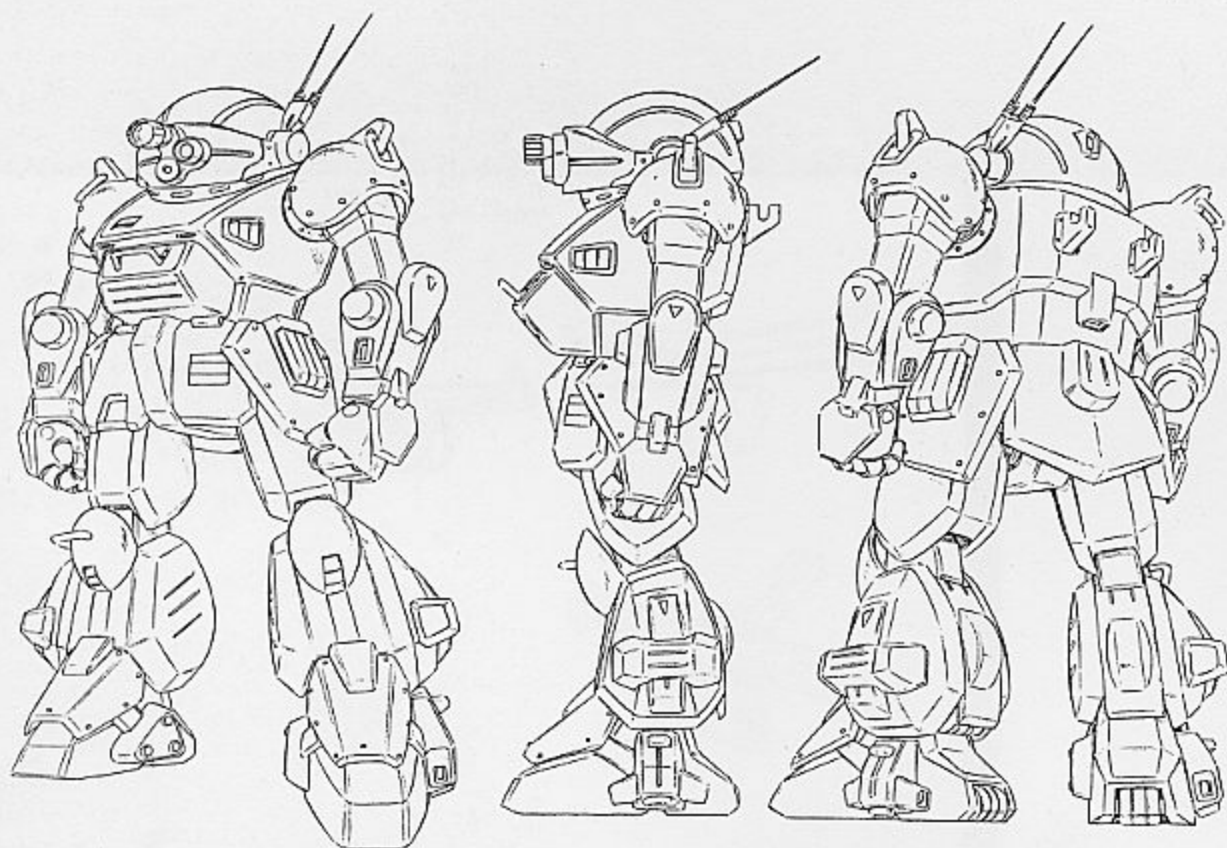
# SCOPE DOG TURBO-CUSTOM

## FILE 03 スコープドッグターボカスタム

SCOPE DOG  
TURBO-CUSTOM  
FTCE>>M

ギルガメス軍制式M級カスタムAT。脚部裏のブースターとMCA-628兵装制御コンピューターが特徴的な、対地上高機動戦機。特にブースターは標準型GHの数倍の加速を叩き出すという代物で、これにより非常に高い機動力を発揮することができる。反面、機体の安定性・操作性は最悪で、相当の熟練兵でなければ乗りこなせない。事実、同機は制式採用はされたものの、事故の続出によってわずか半年間で生産が打ち切られている。

キリコたちのAT ATM-09-STTC "スコープドッグ改,, V-III  
前, 横, 後

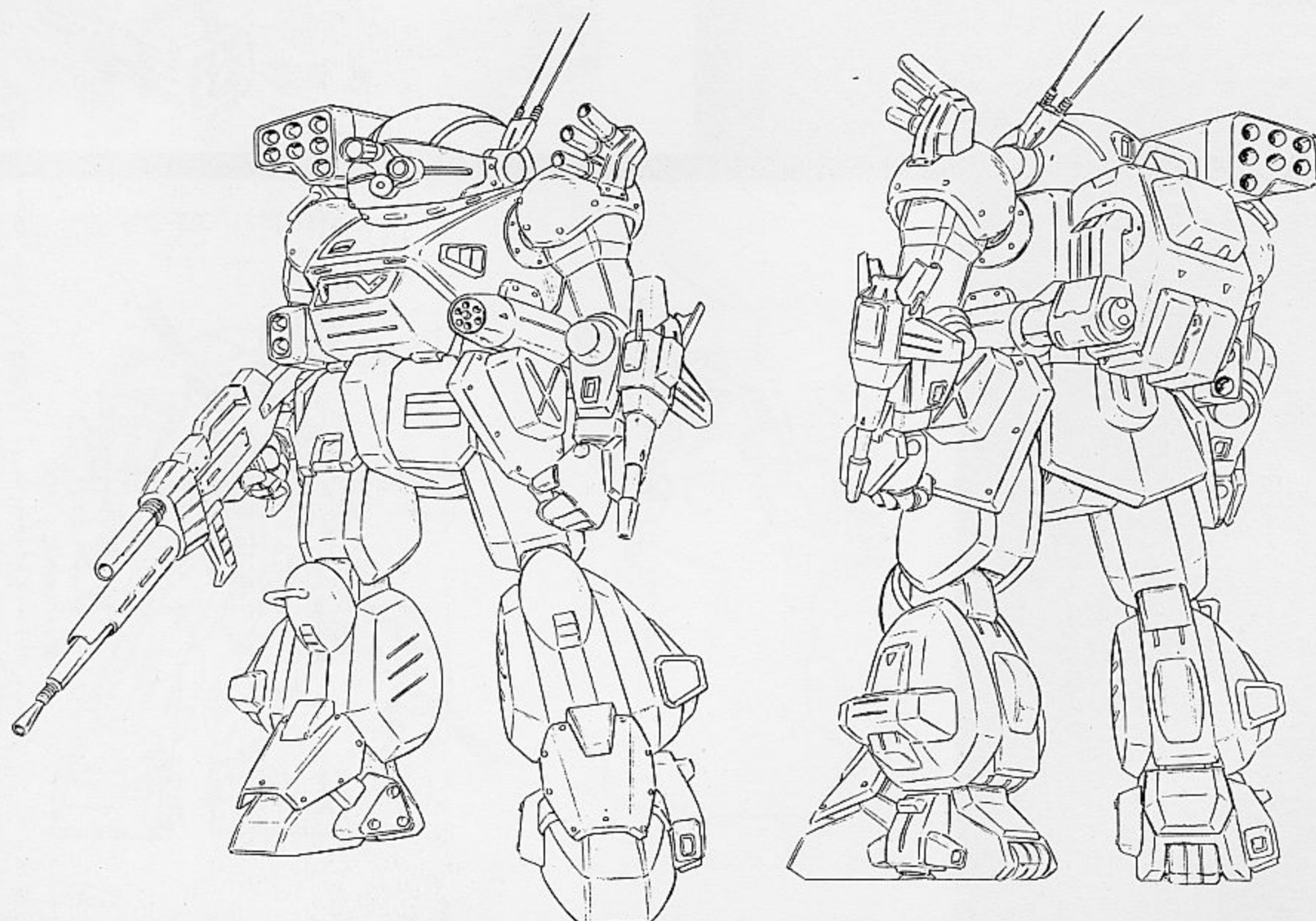


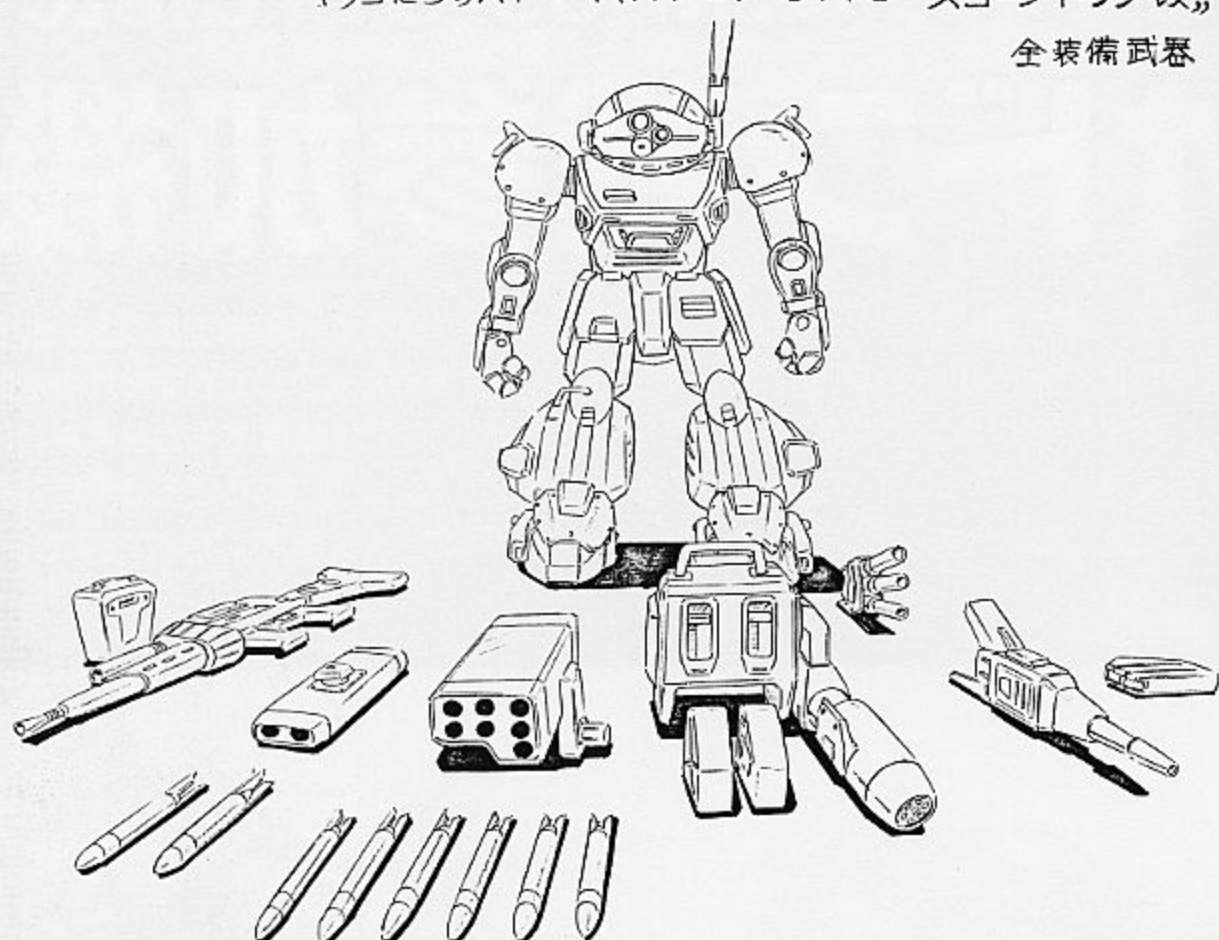
クラス	M級
全高 (mm)	4017
降着時全高 (mm)	2854
全長 (mm)	2263
全幅 (mm)	1982
乾燥重量 (kg)	6799
基本待機重量 (kg)	7269
最大装甲厚 (mm)	14
最小装甲厚 (mm)	8
GH限界走行速度 (km/h)	98.7
GH巡航走行速度 (km/h)	50.2
GH最大出力 (hp)	260 (+210)
GH最大トルク (kg/m)	72 (+105)
MCバック系	スレック方式、1P-MJ-S4
使用PR液 (hp/12)	DT-MO 11.5
PR液総量 (l)	192
予備タンク容量 (l)	45
標準液交換時間 (h)	72
制御コンピューター	MCT-128-C、MCA-628
固定武装・装備アームパンチ、ジェットローラーダッシュ	
開発団体	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)
開発年度 (製作年度、登場年度)	7212

\*カッコ内はターボユニット使用時の数値

### ⊕ 完全武装

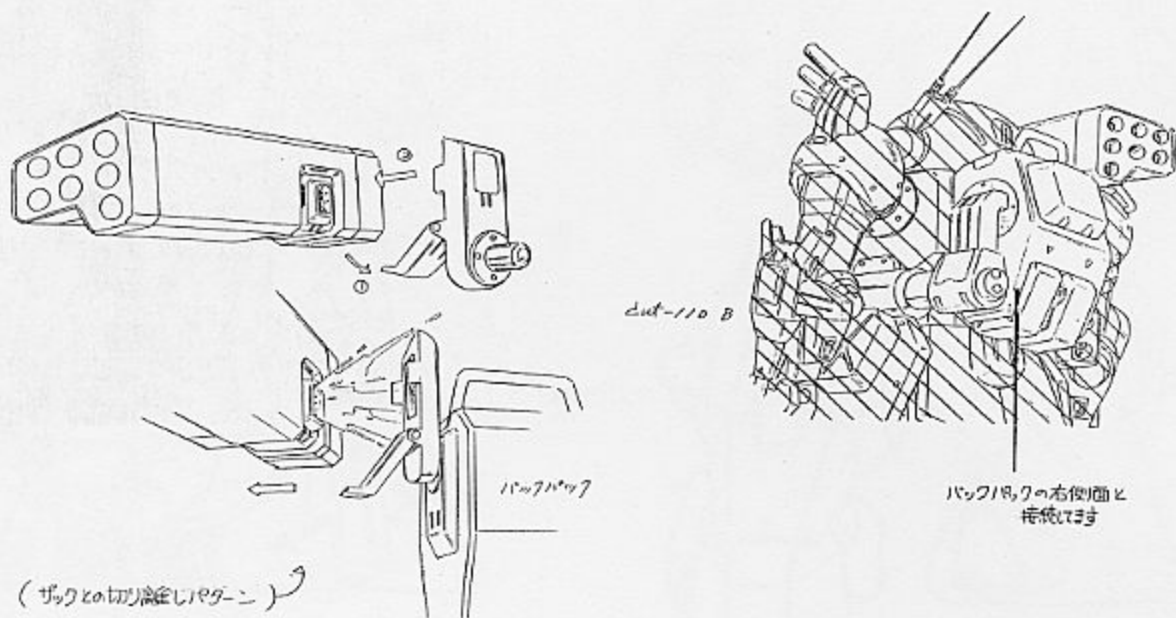
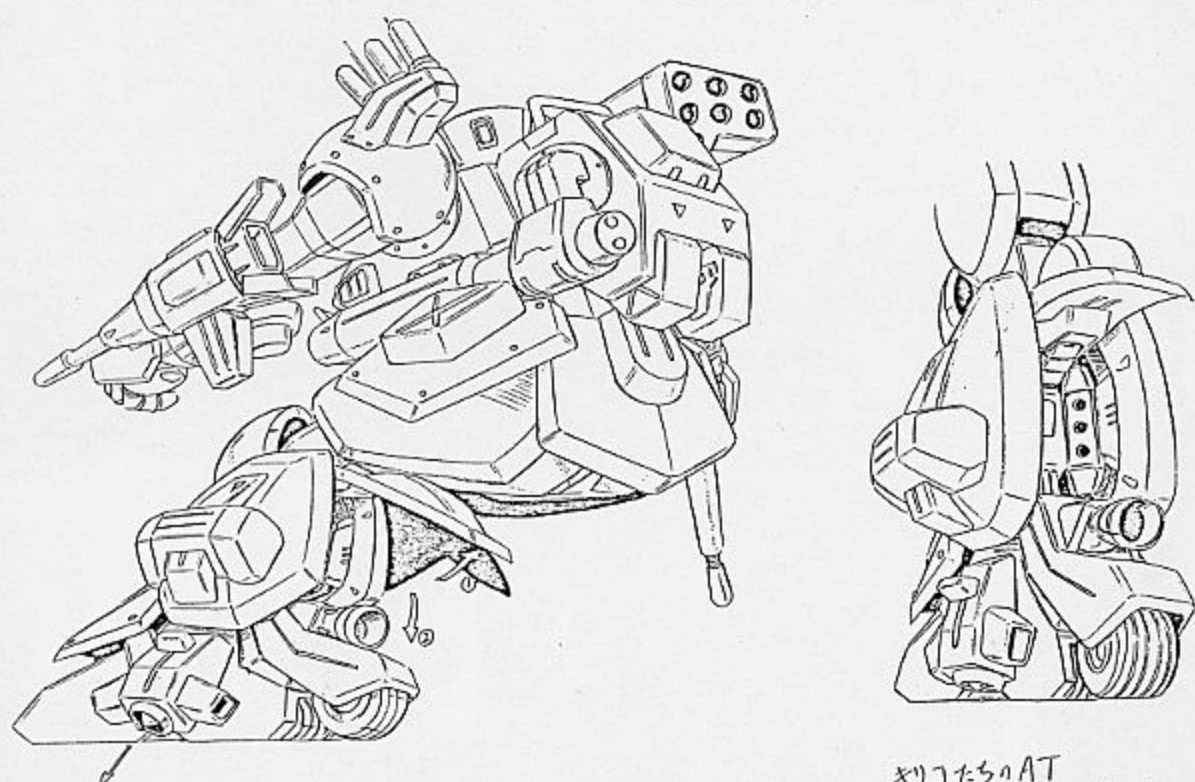
キリコたちのAT ATM-09-STTC "スコープドッグ改,, V-III  
完全武装



キリコたちのAT ATM-09-STTC "スコープドッグ改,, V-III  
全装備武器キリコたちのAT ATM-09-STTC "スコープドッグ改,, 武器 V-III  
ミサイル弾ポッド 装着システム

VOL. 3

〈ミサイル弾ポッド 装着システム〉

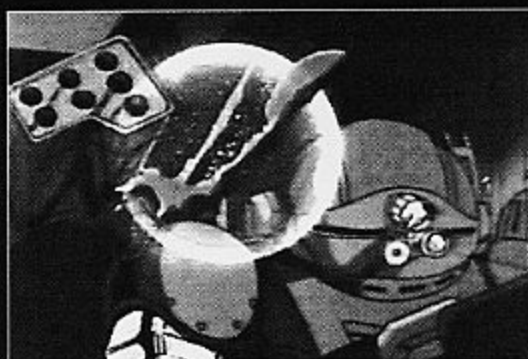
キリコたちのAT ATM-09-STTC "スコープドッグ改,, V-III  
ローラーダッシュ用 ブースター・ノズルキリコたちのAT  
脚カバー展開時  
(ローラーダッシュ時)+ 全装備武器と  
ローラーダッシュ機構

## ▶ COMMENT

高橋：ターボの意味は語呂がいいから(嬉しそうに)。

井上：ボクはこれに関しては相談されたことは相談されたけど、どう答えたものか。もうここまで来るとローラーダッシュの推進距離が直進300メートルなんてどこにもないですね。高速走行で、後輪はサスペンションの効果までありそうですものね。ノズルは少しずつポリマーリング液使って燃やしているんですかね？

大河原：時代を反映して少しスマートになってきてるんですよ(笑)。あとふくらはぎの噴射はですね、噴射するということ自体はオーダー通りなんですが、ギミックについてはこちらで勝手に考えるんです。描きやすいように、あと理屈としても物理的にも収まるように考えてデザインしてあるんです。

▶ ON THE  
FRONT LINE

ミサイルポッドの除装は火薬の力で行う。その際、ラックはバックパック側に残る。(L)



全開直前のジェットローラーダッシュユニット。不整地のため足は大きく開いている。(L)

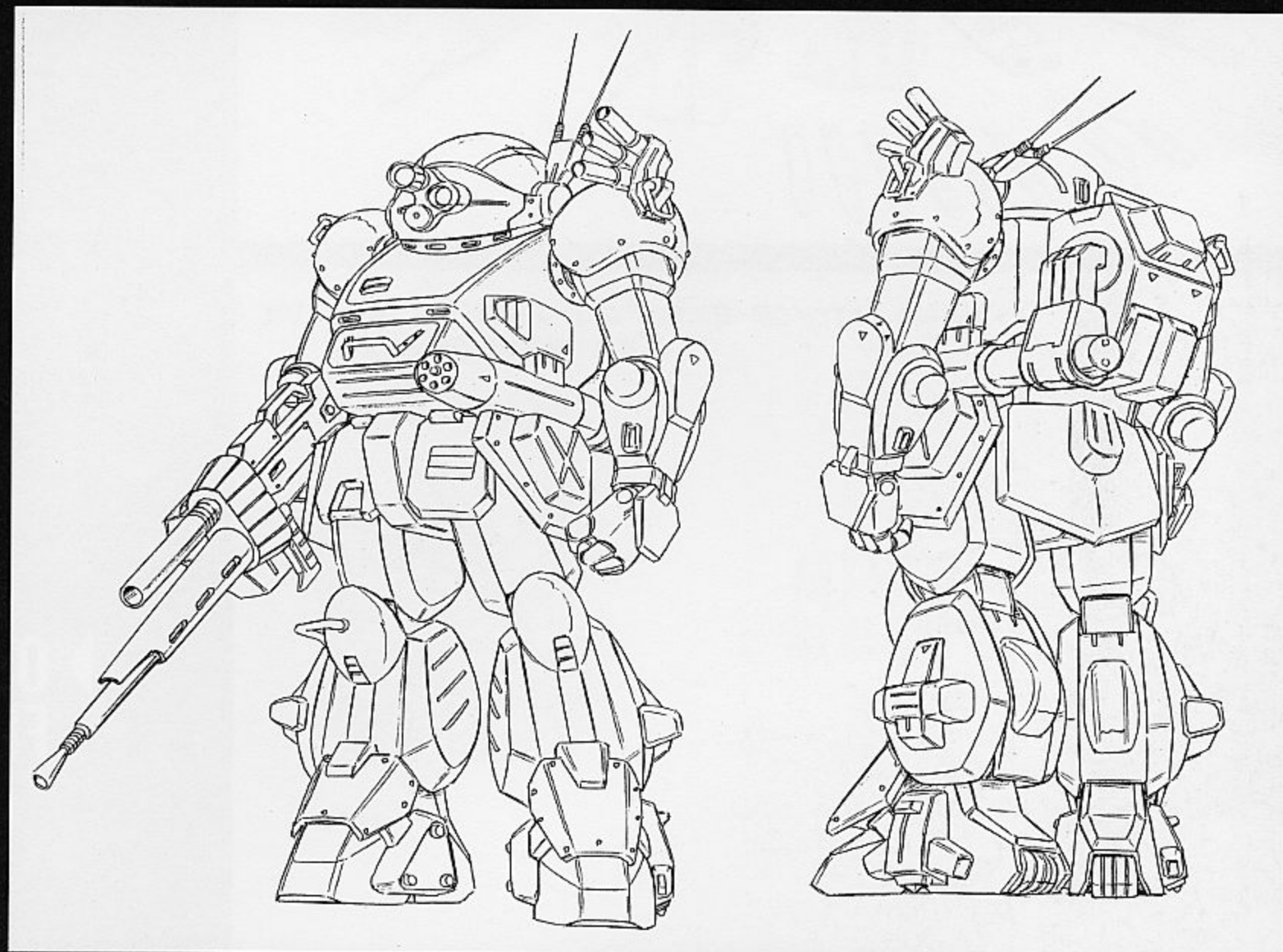


舗装路を高速移動中のカット。直線時には足を揃え、安定させる運用が多かった。(L)

百年戦争中、軍内部において最も09系のカスタマイズに長けていた部隊は、惑星占領軍戦略機甲兵団特殊任務班X-1、通称レッドショルダーであると断定しても異論は少ないと思われる。彼らの使用した09系は、大抵は防御を犠牲にして機動性と火力を重視し、個人の技量に頼ったバランスの悪い機体だ。だが的確に扱えば強力であることは否定できない。この特殊な機体群を、戦場ごとに分類して取り上げていく。まずはオドンである。

### ⊕ ATM-09-STTC キュービィ曹長機

オドン戦でキリコ・キュービィ曹長が搭乗した機体。オドン戦は基本的に部隊内での内乱であり、既に整備されていた機体を使用しただけなのだが、その選択には個人の志向が明確に現れている。



### ▶ COMMENT

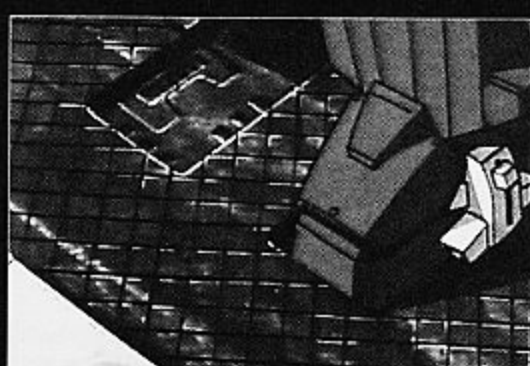
高橋：あの当時はやはり、最終的に一番頼れる自分の機体をそれぞれが仕上げているという考えですね。自分の個性と戦い方、そういうことじゃないのかな。あとは性格で、ムーザとかキリコは突っ込み屋で近接戦用の腰回りの武器。グレゴリーは後ろからバーンと支援するタイプというか、遅れてくるタイプだからミサイルを装備させたのではないかなあ。そういう意味では役割はある。でも要は似合うか似合わないかですよ。

クラス	M級
全高 (mm)	3811
全長 (mm)	2263
全幅 (mm)	1982
乾燥重量 (kg)	7120
最大装甲厚 (mm)	14
GH限界走行速度 (km/h)	83
固定武装・装備	アームパンチ、ジェットローラダッシュ

### ▶ ON THE FRONT LINE



機体を強奪するRS隊員。オドン戦は暴動であり、手近にあった機体が使用されている。(Y)

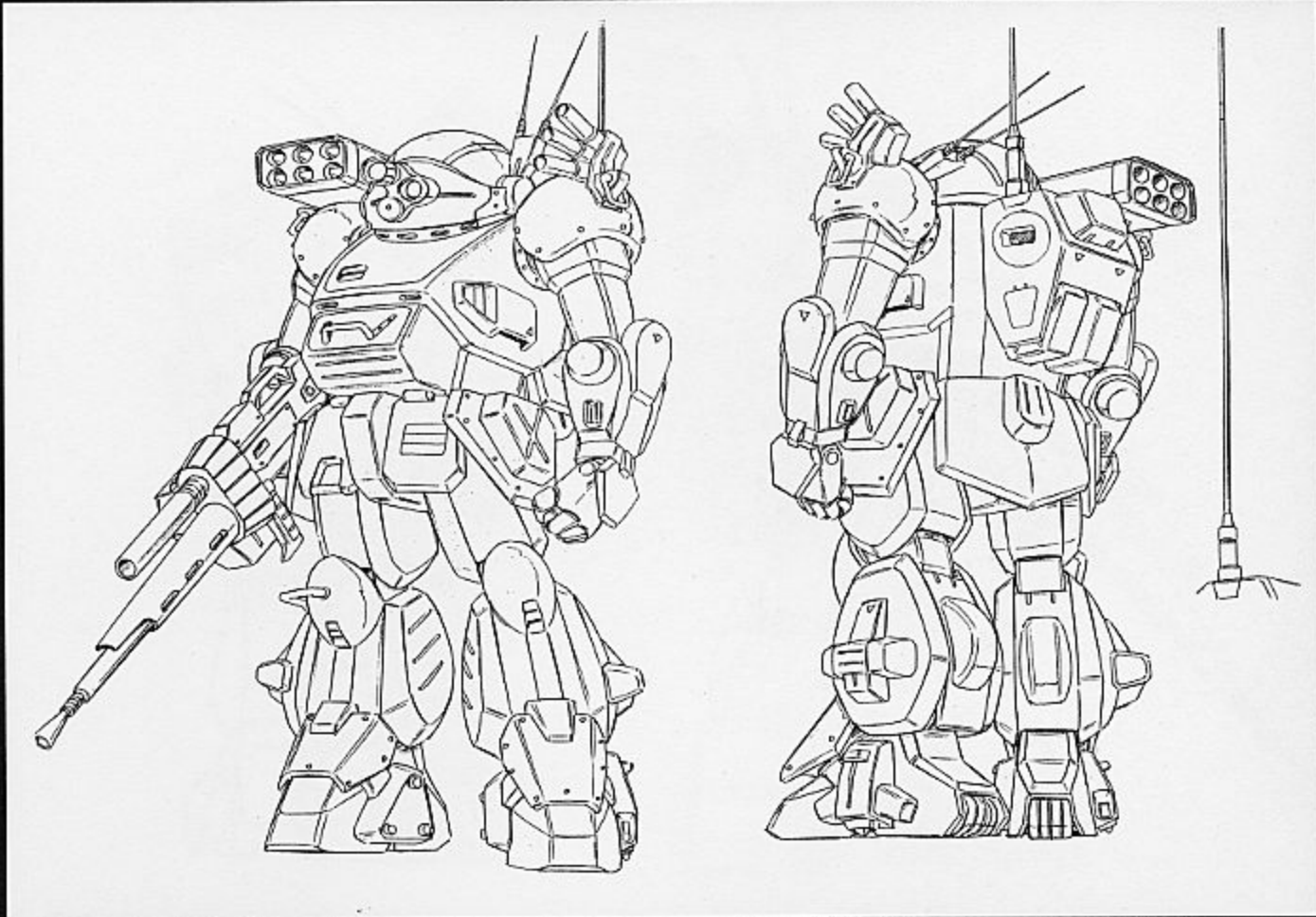
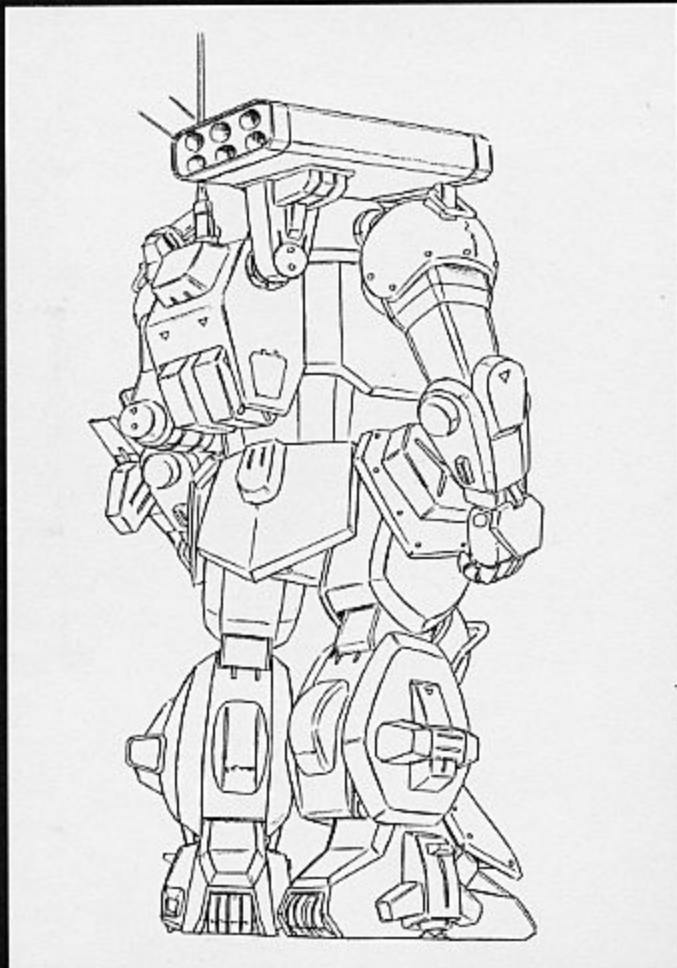


基地の大型エレベーターには、09系の足に合わせた固定機構が装備されていた。(Y)



暴動中の1カット。ミサイルや固定砲台も使用されたこの暴動は「激戦」だった。(Y)

⊕ ATM-09-STTC ガロッシュ上級曹長機

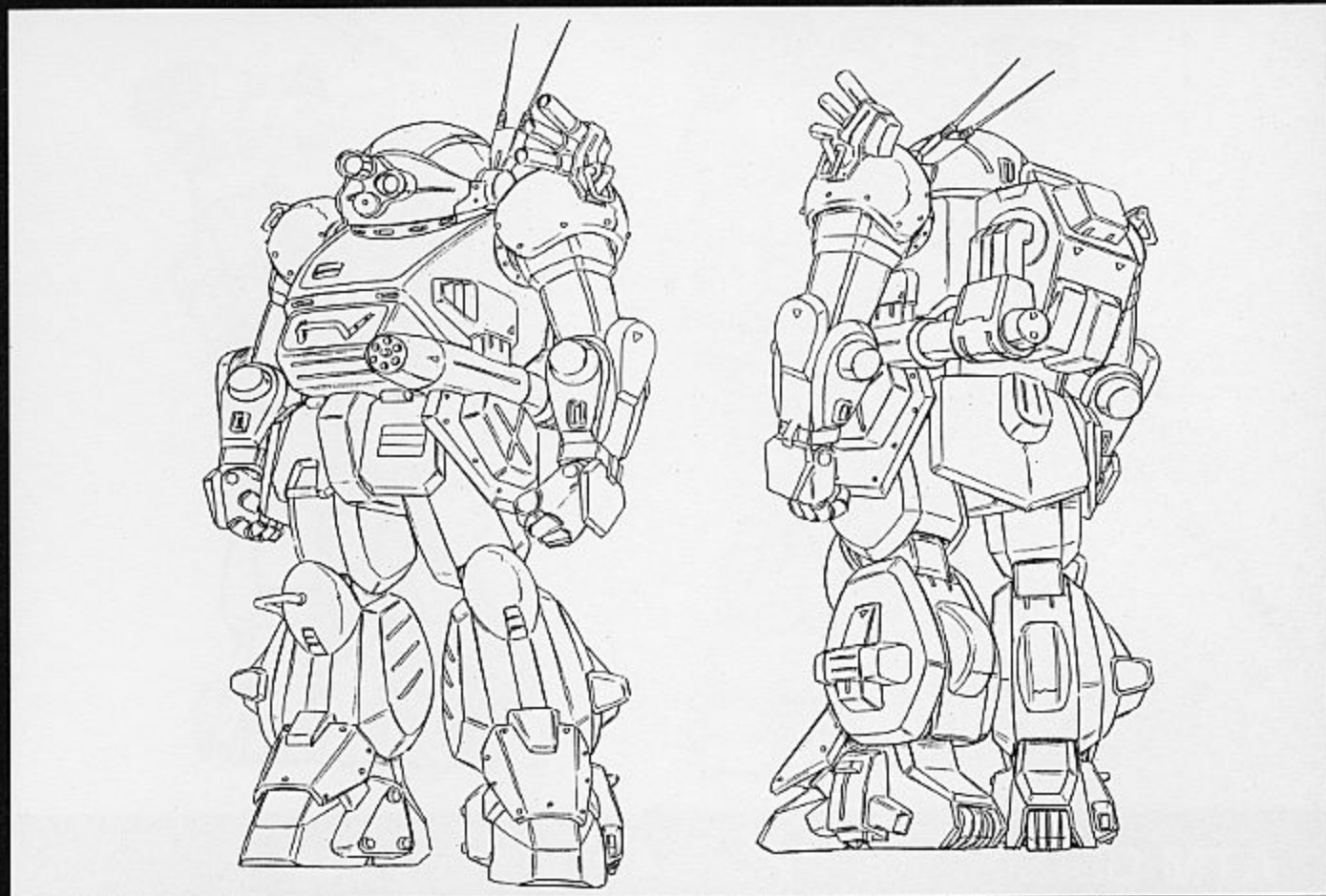


オドン暴動戦でグレゴリー・ガロッシュ上級曹長が搭乗した機体。一応は小隊の指揮官であるためか、通信系と支援火力が強化されたターボカスタムを使用している。なお、ターボカスタムの考案者は彼である。

クラス	M級
全高 (mm)	4017
全長 (mm)	2263
全幅 (mm)	2033
乾燥重量 (kg)	7462
最大装甲厚 (mm)	14
GH限界走行速度 (km/h)	83
固定武装・装備	アームパンチ、ジェットローラーダッシュ

⊕ ATM-09-STTC メリメ伍長機

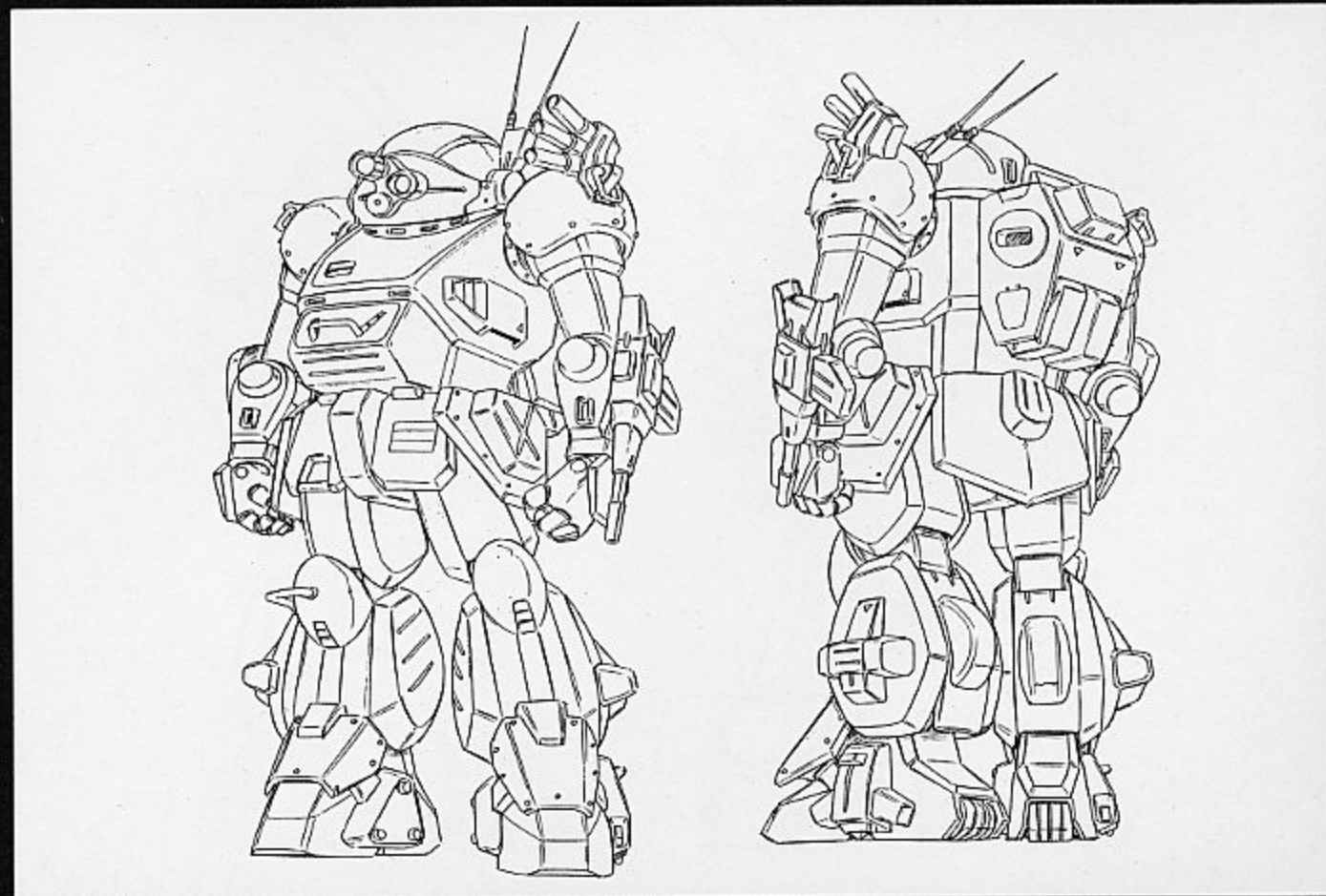
オドン暴動戦でムーザ・メリメ伍長が搭乗した機体。キュービー曹長と同じく、きわめてスタンダードなターボカスタムを使用している。近距離の戦闘には最も向いた、汎用性や即応性の高い仕様である。



クラス	M級
全高 (mm)	3811
全長 (mm)	2263
全幅 (mm)	1982
乾燥重量 (kg)	7181
最大装甲厚 (mm)	14
GH限界走行速度 (km/h)	83
固定武装・装備	アームパンチ、ジェットローラーダッシュ

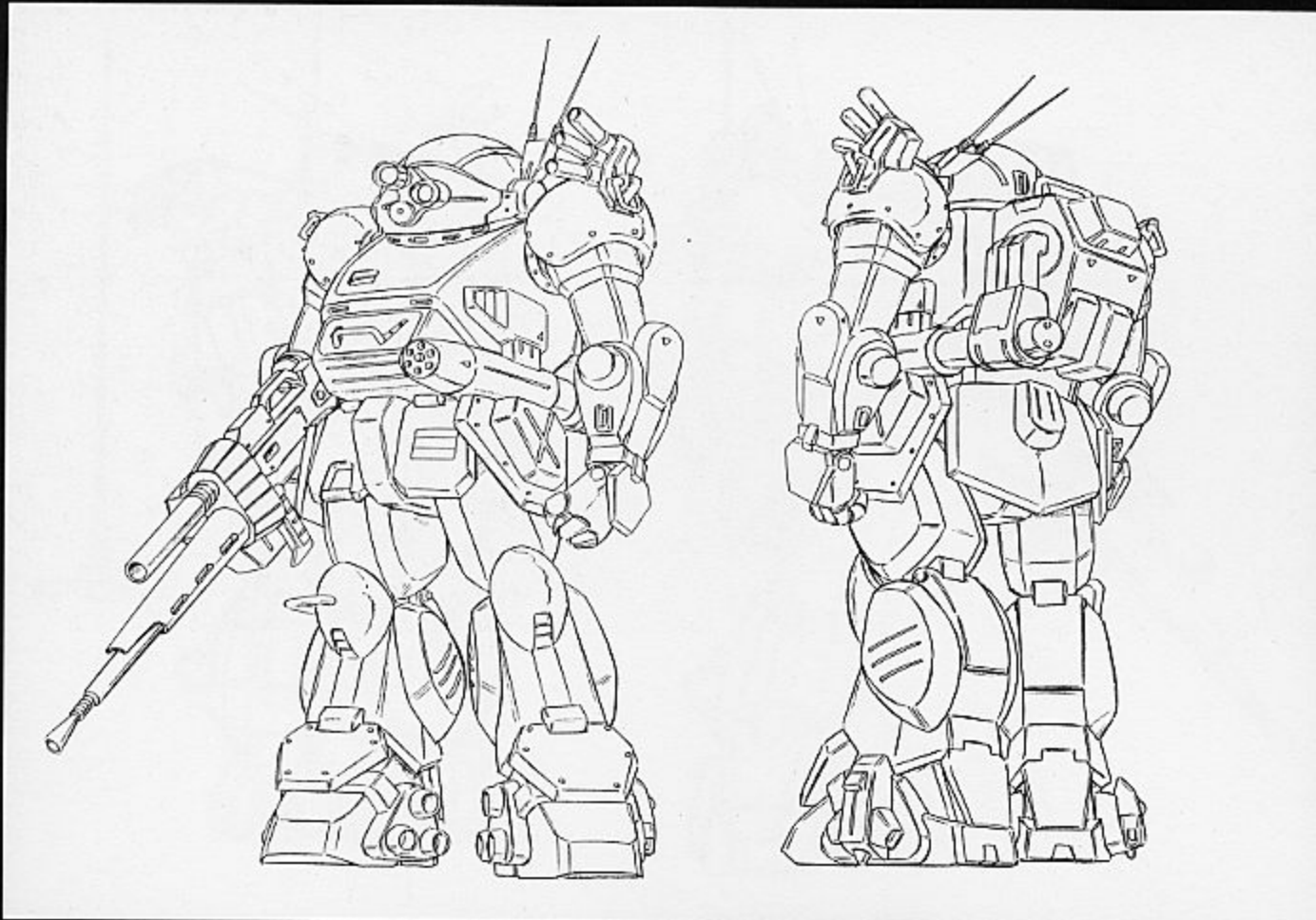
⊕ ATM-09-STTC バイマン伍長機

オドン暴動戦でバイマン・ハガード伍長が搭乗した機体。左腕に補助的な火力としてソリッドシューターを装備したターボカスタムを使用しており、これはサンサ戦まで引き継いでおり、お気に入りの装備のようだ。



クラス	M級
全高 (mm)	3811
全長 (mm)	2263
全幅 (mm)	1982
乾燥重量 (kg)	7181
最大装甲厚 (mm)	14
GH限界走行速度 (km/h)	83
固定武装・装備	アームパンチ、ジェットローラーダッシュ

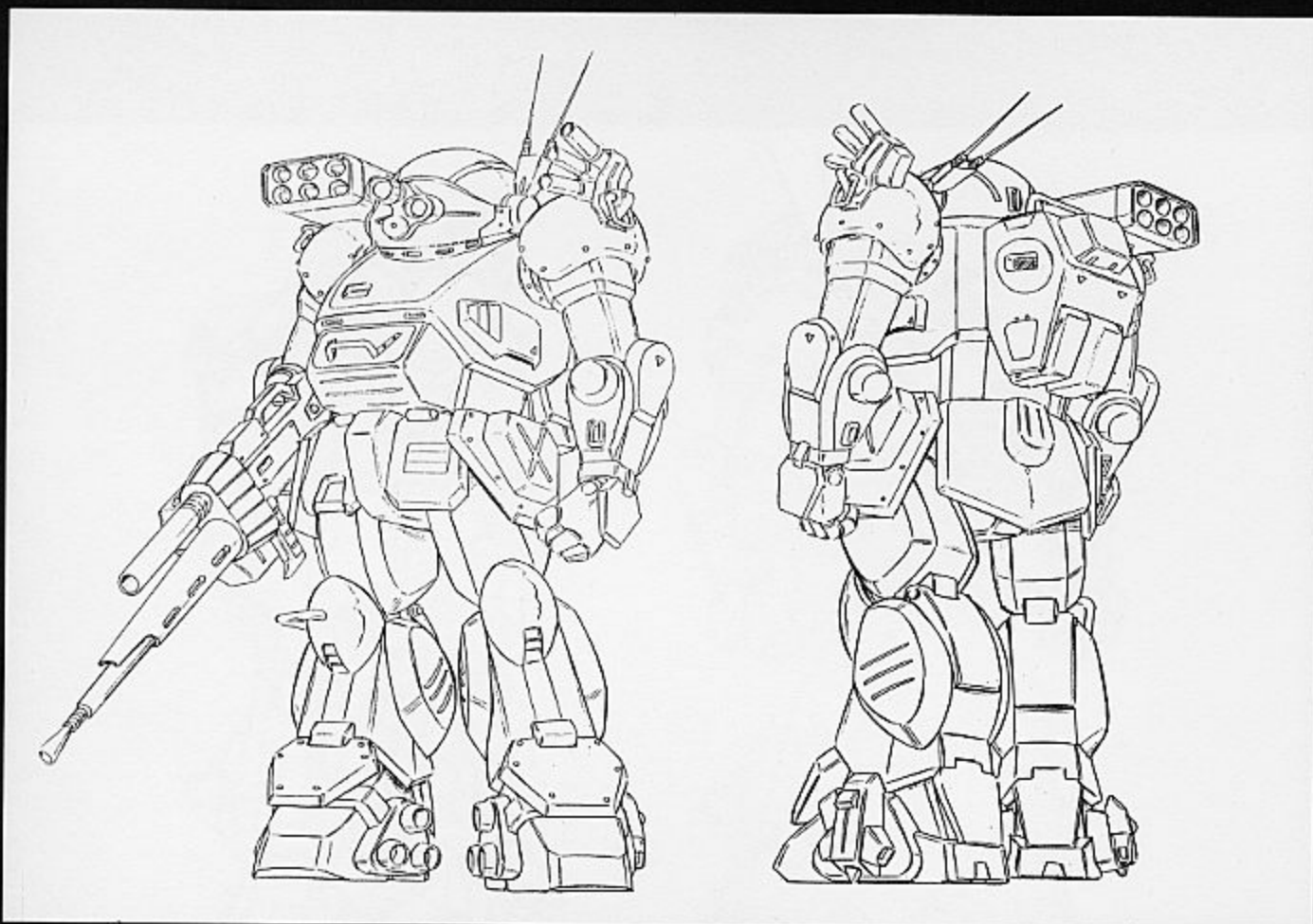
⊕ ATM-09-ST レッドショルダー隊員機 TYPE I



オドン暴動戦で一般のレッドショルダー隊員が使用した機体。かなりのチューンがなされているが、いわゆるターボカスタムではない。同一の仕様の機体が多数、第三次サンサ攻略戦にも投入されている。

クラス	M級
全高 (mm)	3804
全長 (mm)	1763
全幅 (mm)	1936
乾燥重量 (kg)	7156
最大装甲厚 (mm)	14
GH限界走行速度 (km/h)	82.3
固定武装・装備	アームパンチ

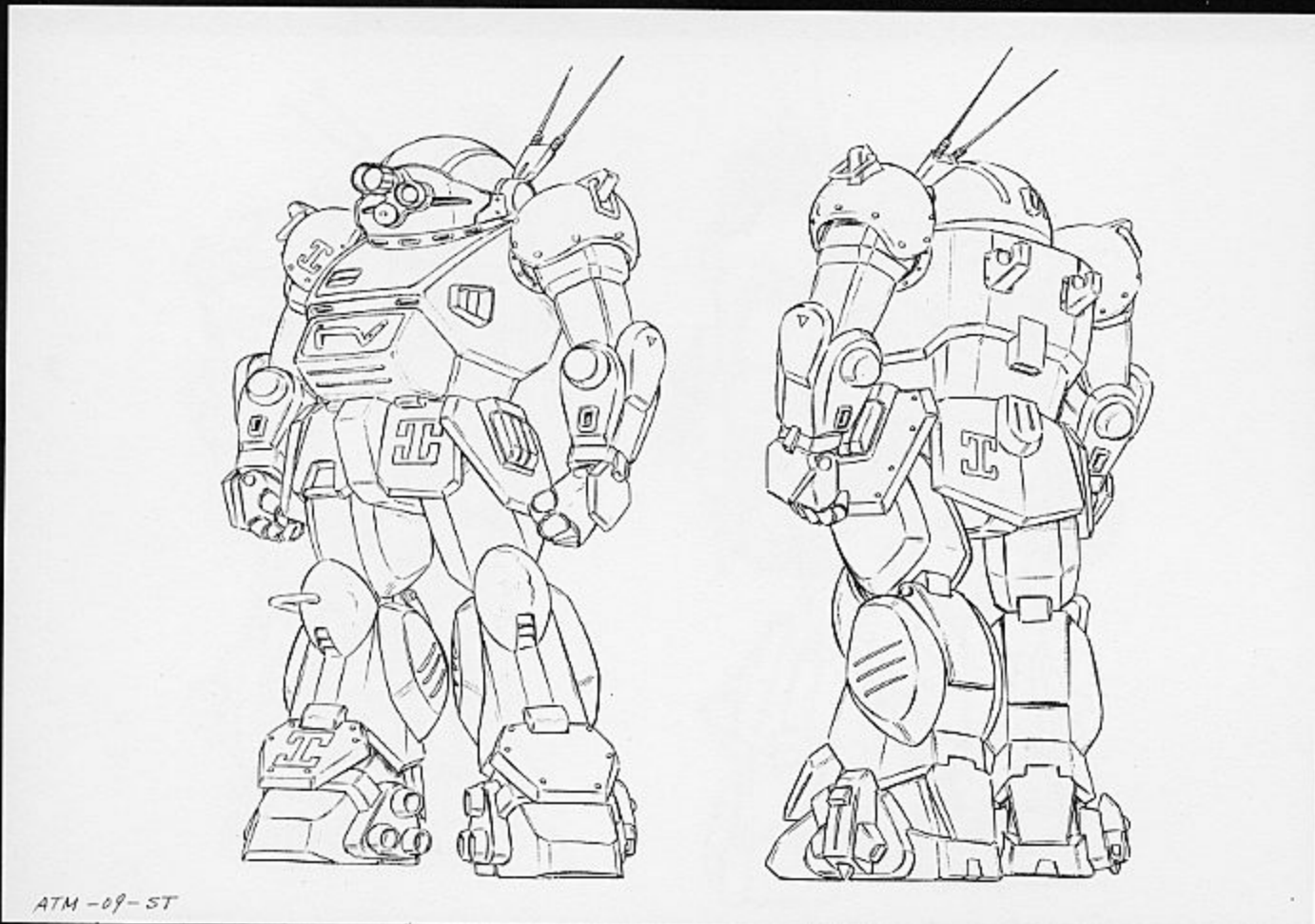
⊕ TYPE II



同じくオドン暴動戦で一般のレッドショルダー隊員が使用した機体。武装が火力重視になっているが、類似の機体であるようだ。こちらも同一仕様の機体が第三次サンサ攻略戦に投入されたことが確認できる。

クラス	M級
全高 (mm)	4010
全長 (mm)	1763
全幅 (mm)	1936
乾燥重量 (kg)	7390
最大装甲厚 (mm)	14
GH限界走行速度 (km/h)	82.3
固定武装・装備	アームパンチ

⊕ ATM-09-ST キュービィ曹長 模擬戦使用機



オドンでの「共食い」と呼ばれる適性試験に使用された機体。これはキュービィ曹長のもので、モニタリング機器の搭載と脚部がやや不安定なものに交換されている以外は、ごくノーマルな機体らしい。

クラス	M級
全高 (mm)	3804
全長 (mm)	1763
全幅 (mm)	1936
乾燥重量 (kg)	6387
最大装甲厚 (mm)	14
GH限界走行速度 (km/h)	82.3
固定武装・装備	アームパンチ

SCOPE DOG

ATM-09-STTC, etc.

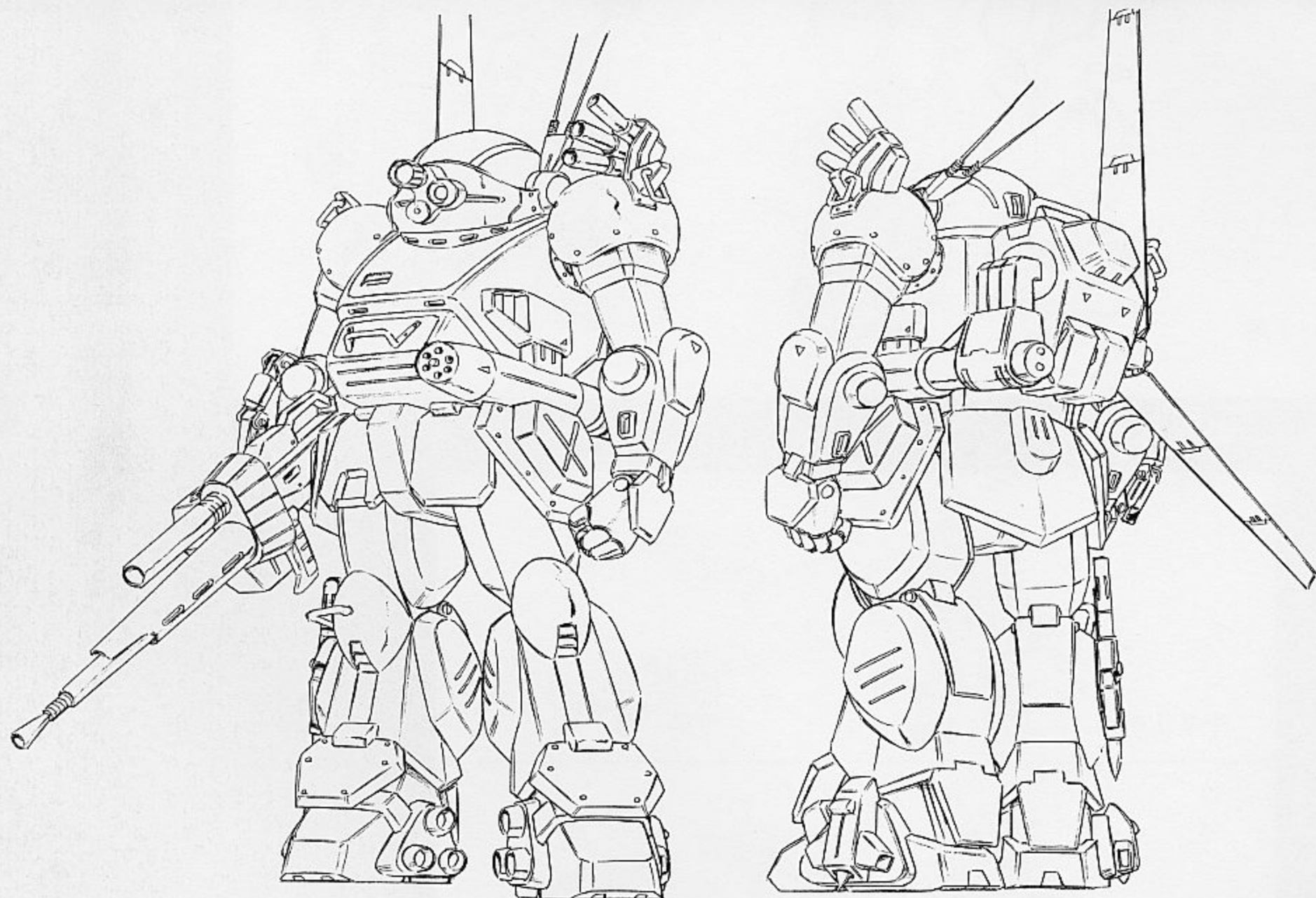
FILE 05

## サンサ戦参加機

SCOPE DOG  
FTCE>>ME

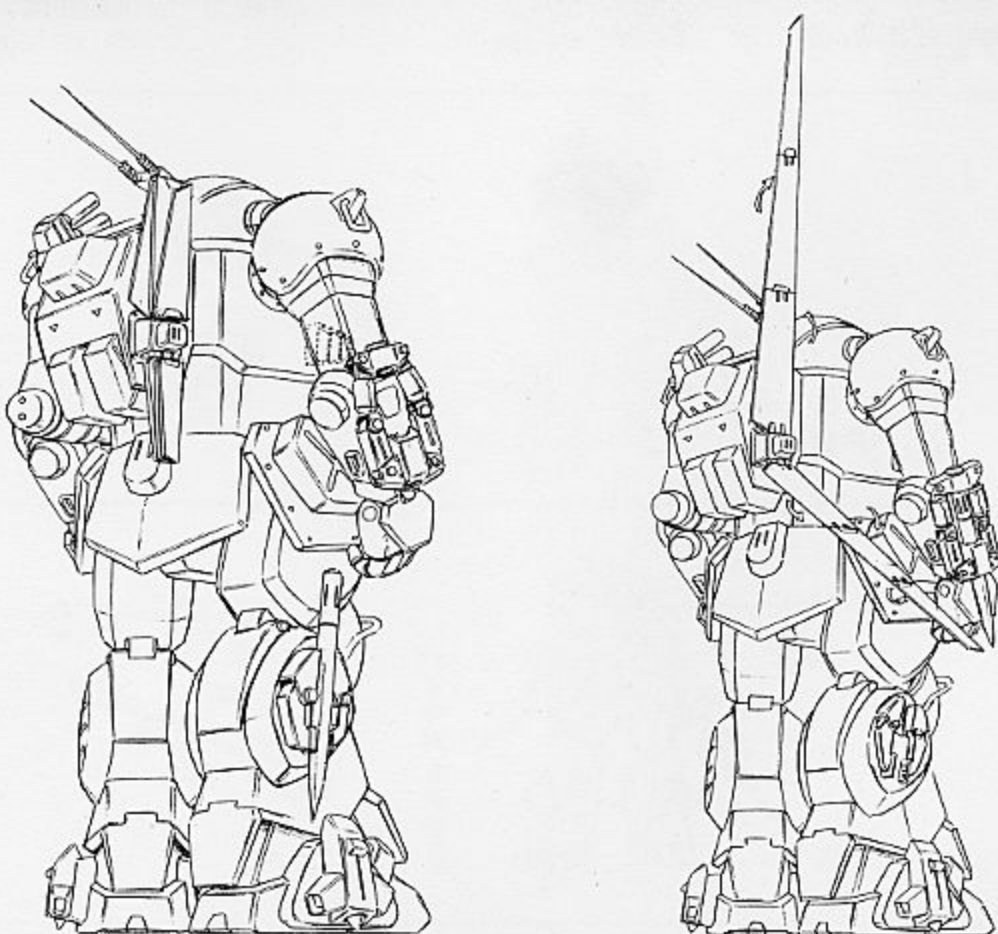
オドンと並んで特徴的な機体が投入された、第三次サンサ攻略戦。本質的に身内の暴動であったオドンに比べ、サンサではより長期に渡る野戦向けの機体を使用され、大きな戦果を上げている。しかし個々の機体を使用する兵器や装備がバラバラであるなど、個人の技量や好みに頼った機体で戦われていたのは共通である。極端な場合、同じ09系でも機体そのものの仕様が異なるバリエーションが混在している事例も存在したようだ。

## + ATM-09-ST サンサ戦リーマン少佐機



ATM-09-ST (ヒューマン機)

フルチューンの09系をベースに、火器と指揮官用の高性能通信システムを装備したもの。外観上の特徴であるアンテナは必要のある機体のみ装備するもので、宇宙艦などとの情報の授受には不可欠な存在である。

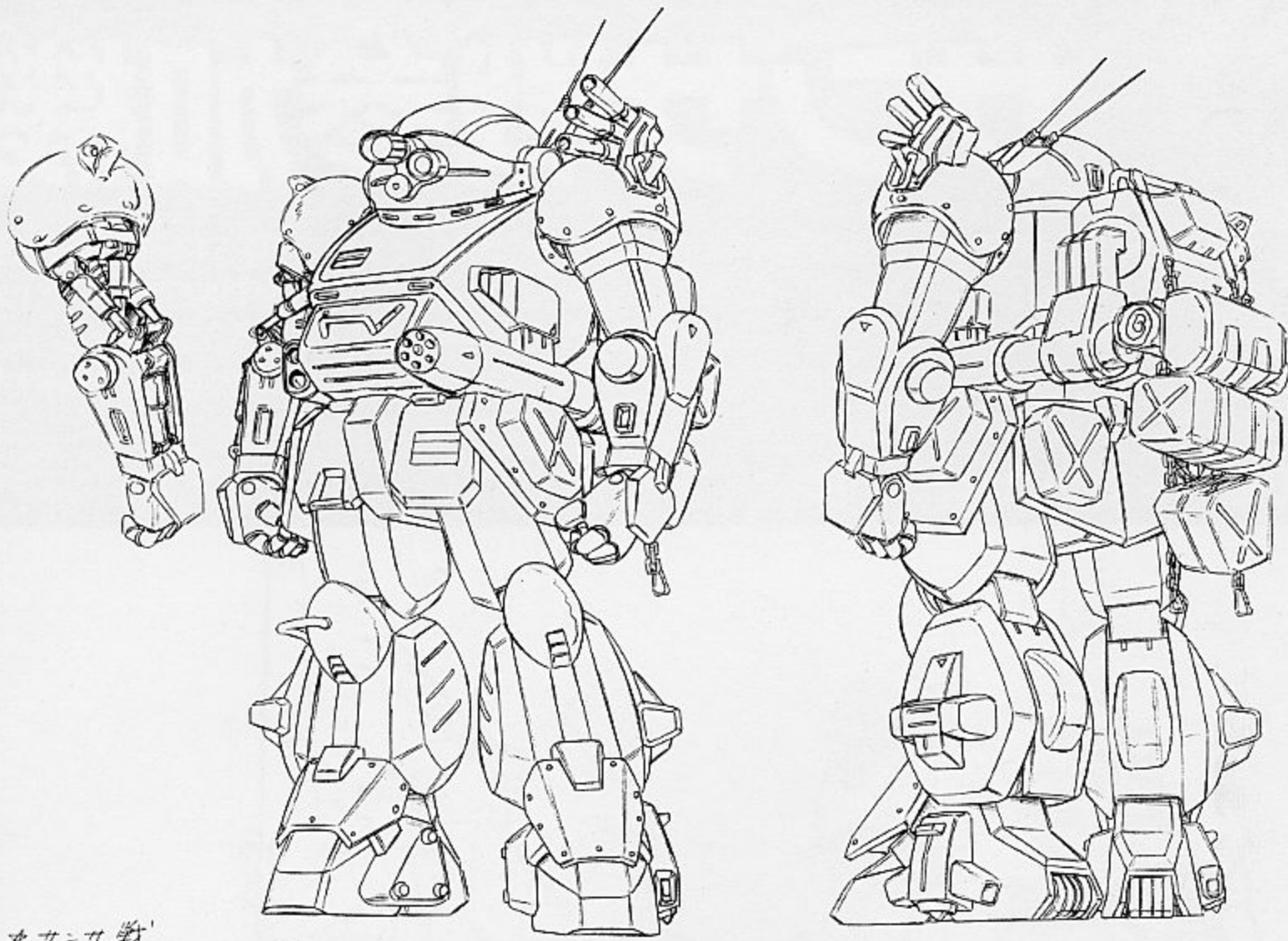


ATM-09-ST (ヒューマン機)

クラス	M級
全高 (mm)	4877
全長 (mm)	-
全幅 (mm)	-
乾燥重量 (kg)	7100
最大装甲厚 (mm)	14
GH限界走行速度 (km/h)	85
固定武装・装備	

アームパンチ、電磁式バイルパンカー

# ⊕ ATM-09-STTCキュービィ曹長機



★サンサ戦' (キリコ機)

第三次サンサ攻略戦でキュービィ曹長が搭乗した機体。基本的にはオドン戦で使用した機体と同一で、長期戦に備えた補給品以外は基本的に同一の機体といえる。なお、補給品はGAT-22の弾薬を重視しているようだ。

## ⊕ 分隊兵装一覧

<p>キリコ用</p>	
<p>グレゴルー用</p>	<p>機内銃的に発砲光処理</p>
<p>ムーザ用</p>	
<p>ミサイル・ポッドなし</p> <p>バイマン用のみアリ</p> <p>バイマン用</p>	<p>ATの武装</p>

皆中のザックは全機装備

VD-III VT

クラス	M級
全高 (mm)	3811
全長 (mm)	-
全幅 (mm)	-
乾燥重量 (kg)	7130
最大装甲厚 (mm)	14
GH限界走行速度 (km/h)	83.2
固定武装・装備	アームパンチ、ジェットローラーダッシュ

## ▶ COMMENT

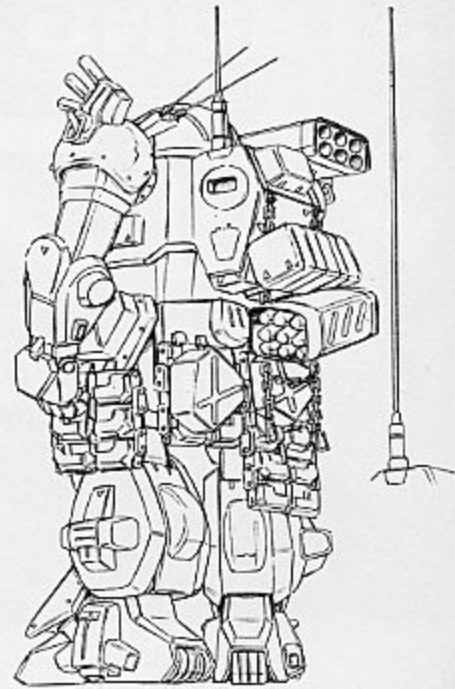
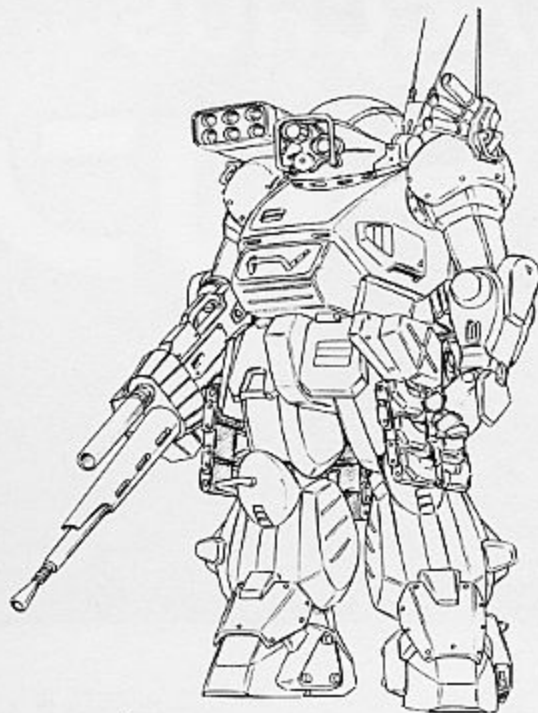
高橋：究極言うと、今西の趣味（笑）。  
井上：趣味の世界（笑）。本当はATって軽くて素早く動けるはずなのに、わざわざチェーンつけてね、鎖つけて、戦車のキャタピラつけて（笑）。  
大河原：今西さんが、もう好きだから（笑）要求に具体性がありましたね。何処に何があってとかは全部決まっていた。誰がどの装備を持っているか、何を後ろに下げているかまで全部。鎖なんかも全部です。TVシリーズでは、こんなことは絶対にしないですよ。

小隊の武器構成。本来は弾薬を共用できる構成が望ましいのだが、彼らは多様性を重視し、いかなる状況にも対応できる構成を選んだのだと推測されている。

### + ATM-09-STTC ガロッシュ上級曹長機

サンサ戦でガロッシュ上級曹長が搭乗した機体。増加装甲代わりの戦車のキャタピラと、大量の予備ミサイルが特徴的である。またレンズガードの装着など、機体そのものもオドン戦とは異なる仕様になっているようだ。

クラス	M級
全高 (mm)	4017
全長 (mm)	-
全幅 (mm)	-
乾燥重量 (kg)	7566
最大装甲厚 (mm)	14
GH限界走行速度 (km/h)	83
固定武装・装備	アームパンチ、ジェットローラーダッシュ

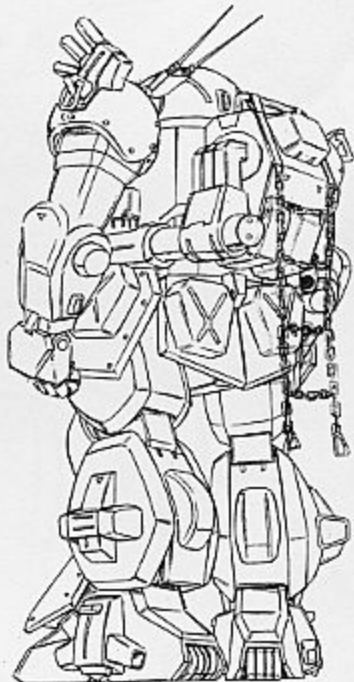
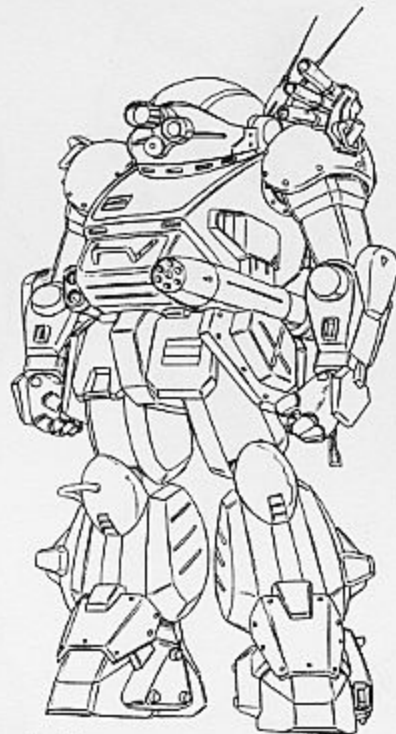


\*サンサ戦 (クニゴロ機)

### + ATM-09-STTC メリメ伍長機

サンサ戦でメリメ伍長が搭乗した機体。補給品の分量を制限して機動性を維持するような構成となっている。砂漠のような長射程が望める状況下でもGAT-22Cを使用するなど、近接戦闘志向が特に強く見受けられる。

クラス	M級
全高 (mm)	3811
全長 (mm)	-
全幅 (mm)	-
乾燥重量 (kg)	7120
最大装甲厚 (mm)	14
GH限界走行速度 (km/h)	83.5
固定武装・装備	アームパンチ、ジェットローラーダッシュ

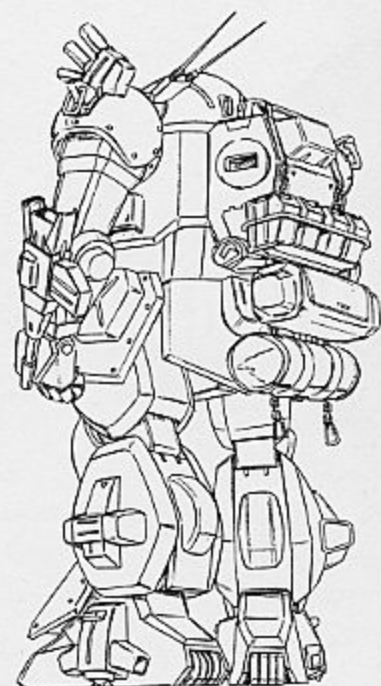
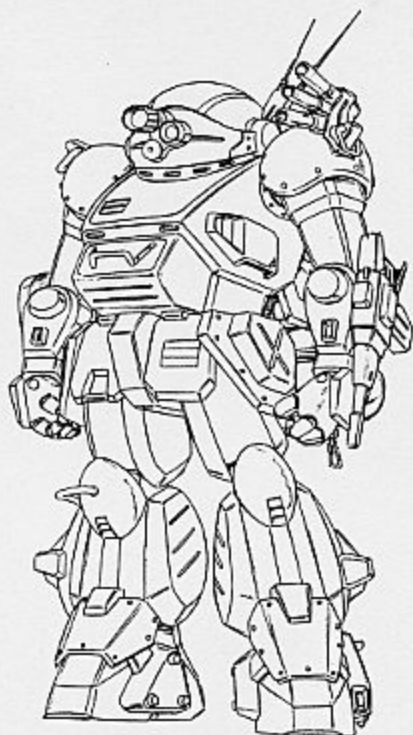


\*サンサ戦 (ムサシ機)

### + ATM-09-STTC ハガード伍長機

サンサ戦でハガード伍長が搭乗した機体。左腕のソリッドシューター以外は、ごく常識的な長期戦装備である。またメインウェポンも考慮に入れるなら、ガロッシュ上級曹長と同じくサポート型の戦闘を考慮していたようだ。

クラス	M級
全高 (mm)	3811
全長 (mm)	-
全幅 (mm)	-
乾燥重量 (kg)	7133
最大装甲厚 (mm)	14
GH限界走行速度 (km/h)	83.2
固定武装・装備	アームパンチ、ジェットローラーダッシュ



\*サンサ戦 (バロン機)

## ▶ ON THE FRONT LINE



この時期のRS所属機の多くは、腰部の弾薬ラックをGAT-22用に換装していた。(Y)



GAT-22の脇から炎が出ているのは、破損により液体火薬の一部が漏れているため。(Y)



RS隊員同士の格闘戦。右側の機体は電磁式のバイルバンカーを装備している。(Y)



サンサ戦後のバレードで公開されたRS隊の機体。全機が同一装備を施していた。(Y)

# STRONG BACCHUS

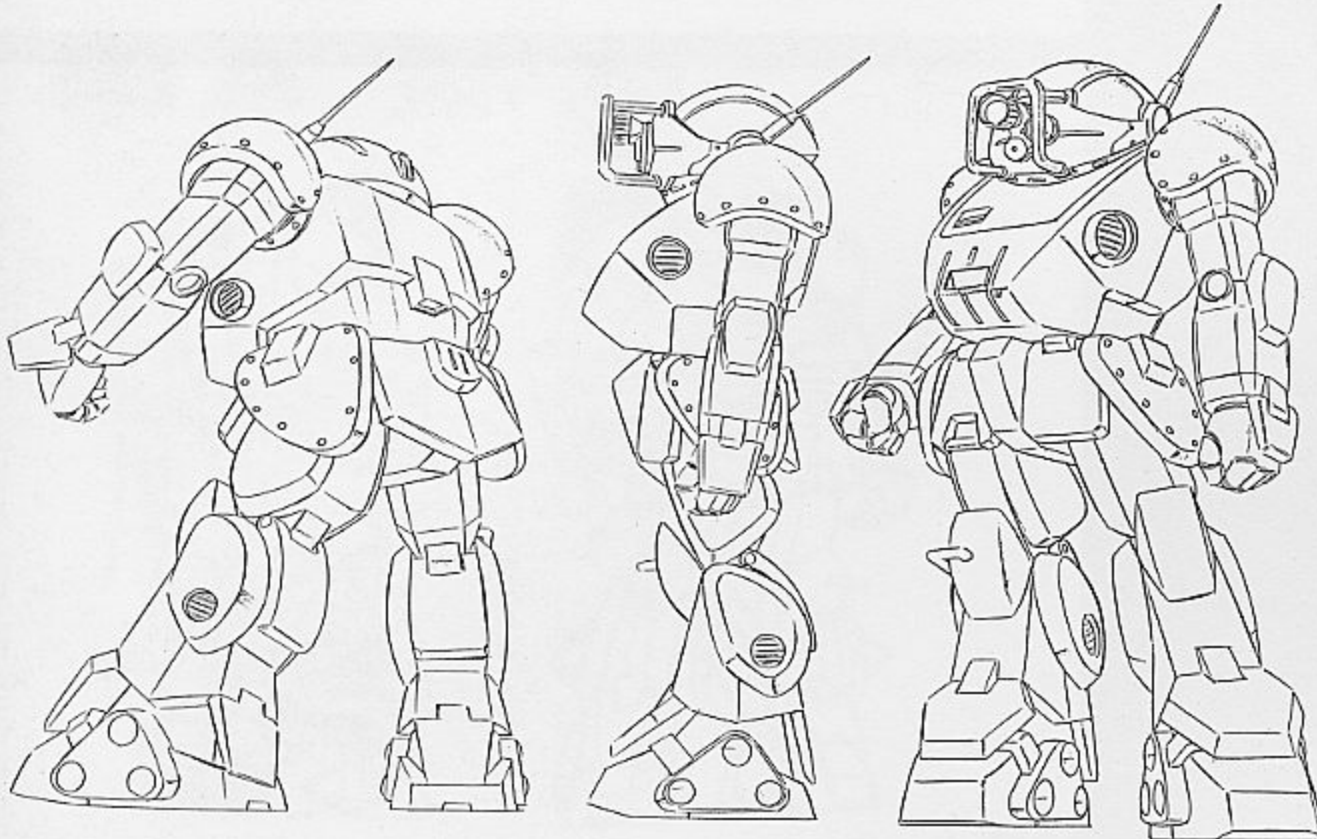
# ATM-09-STC

## FILE 06 ストロングバックス

### STRONG BACCHUS FTEC>>Mi

09系の装甲強化型カスタムAT。その由来についてはバトリング専用カスタム説と軍内部で戦闘用にカスタマイズされた機体だとする2説がある。機体そのものは装甲厚の増大、ガードの追加による生存性の向上、重量増大による活動時間の低下などを特徴とするパワー型の機体で、バトリング用ATとしての人気は高い。また短時間の迎撃戦闘にも威力を発揮し、09系最強の機体と言われるブルーティッシュドッグを撃破した例も存在する。

バトリング系AT ATM-09-STC "ストロング・バックス" 前座



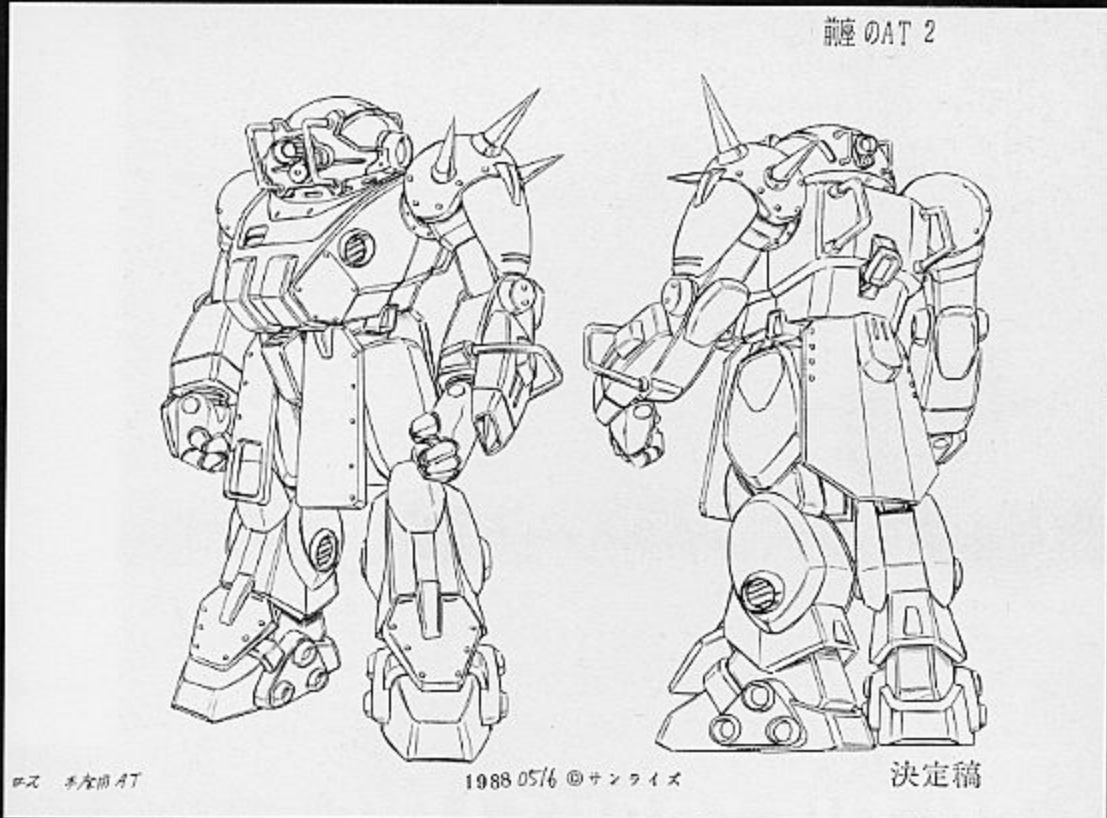
クラス	M級
全高 (mm)	3815
降着時全高 (mm)	2215
全長 (mm)	1775
全幅 (mm)	1992
乾燥重量 (kg)	7015
基本待機重量 (kg)	7200
最大装甲厚 (mm)	25
最小装甲厚 (mm)	10
GH限界走行速度 (km/h)	62
GH巡航走行速度 (km/h)	42
GH最大出力 (hp)	289
GH最大トルク (kg/m)	68
MCバック系	スレック方式、1P-MJ-S2
使用PR液 (hp/12)	DT-M02 10.8
PR液総量 (l)	142
予備タンク容量 (l)	20
標準液交換時間 (h)	20
制御コンピューター	MCT-128-C
固定武装・装備	アームパンチ
開発団体アデルハビッツ社 (カスタムモデル説もあり)	

ストロングバックスをベースに、さらなるカスタマイズを施した例。防御力は非常に高いが、重量増加のため機敏な動作は不可能。さらに後部カメラを搭載したことで隠病者とあだ名されている。ダ・ビングの街のバトリング選手が使用。

### ⊕ デリケートスローター

## COMMENT

井上：これリングネームだと言っていたはずなのに、知らない間に機体の名前になっちゃいましたね。ストロングバックスと名乗っているからこのATは丈夫なんでしょう。リングネームって、ここまで信用できないものはないからなあ。それと作中で100ミリの装甲といってる選手もいますが、これはハッキリですね。体型が変わっちゃいますよねえ。例の実物大スコープドッグは2センチの鉄板で作ってるそうですが、ものすごく重くなっていますから。



09系 全高AT

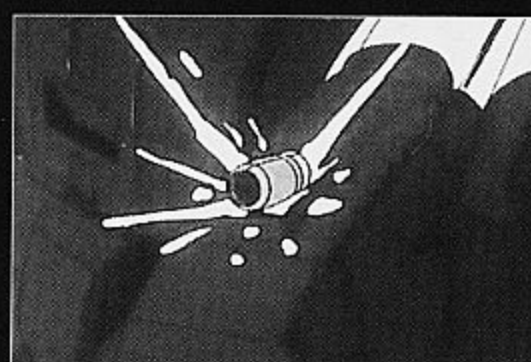
1988 05/16 ©サンライズ

決定稿

## ON THE FRONT LINE



装甲は大幅に強化され、至近距離からガトリング砲の直撃を受けても貫通しない。(11)



アームパンチ機構。弾薬は他の09系と共通だが、機体により装備の有無が異なる。(11)

クラス	M級
全高 (mm)	3936
全長 (mm)	1805
全幅 (mm)	2009
乾燥重量 (kg)	7218
最大装甲厚 (mm)	24
GH限界走行速度 (km/h)	61.9
固定武装・装備	なし

PURPLE BEAR

ATM-09-SSC

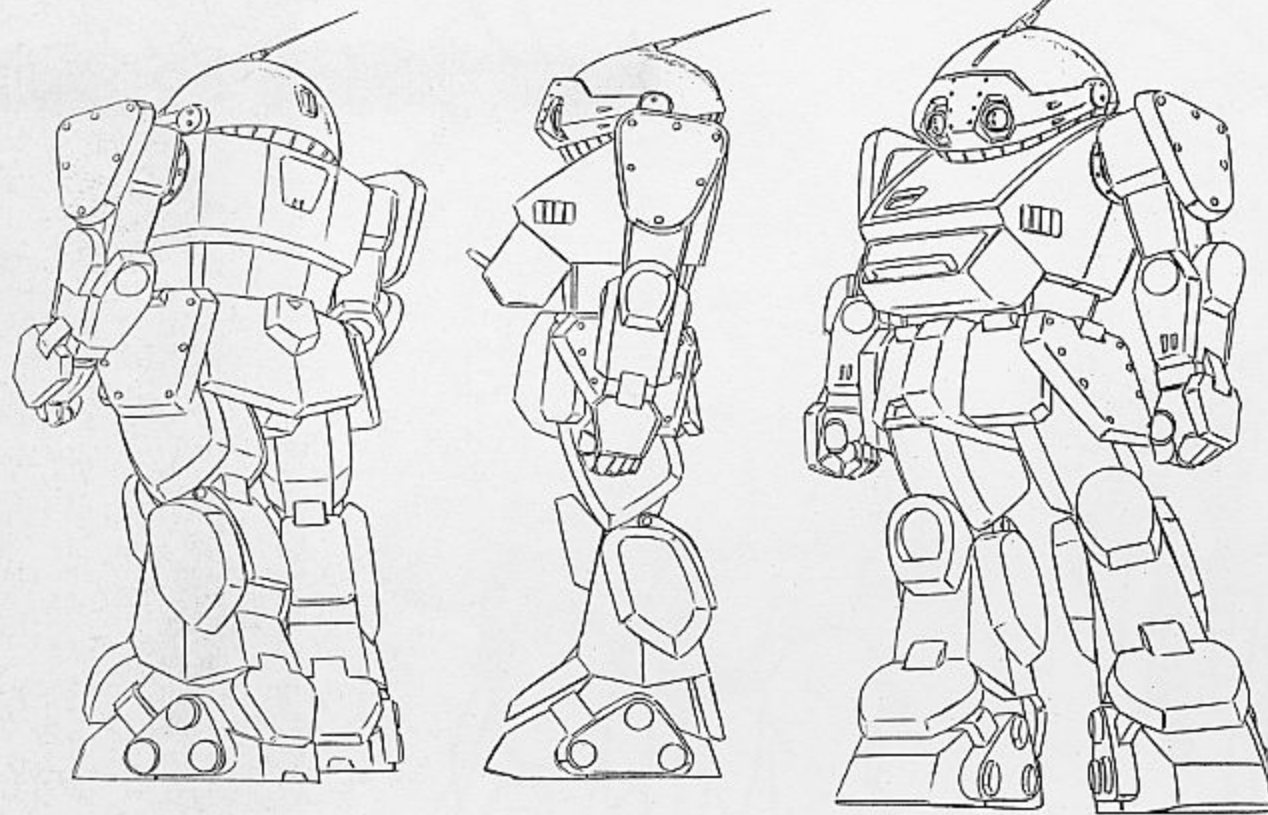
FILE 07

## パープルベア

PURPLE GEAR  
FTCE>>MII

特徴的な複眼を持つ09系のAT。その素性については幾つかの説があり、スコープドッグの純粋なバトリング用カスタムモデル説、砲兵部隊の弾着観測用ATの転用説、民生用AT説の3説が有力。諸説に共通するのは、名前が同機を愛用したバトリング選手に由来する俗称である事や、立体視が可能なステレオ型のスコープがバトリング時、格闘戦に有利である事、同種の機体が存在するが高価なため数は少ない事などが挙げられる。

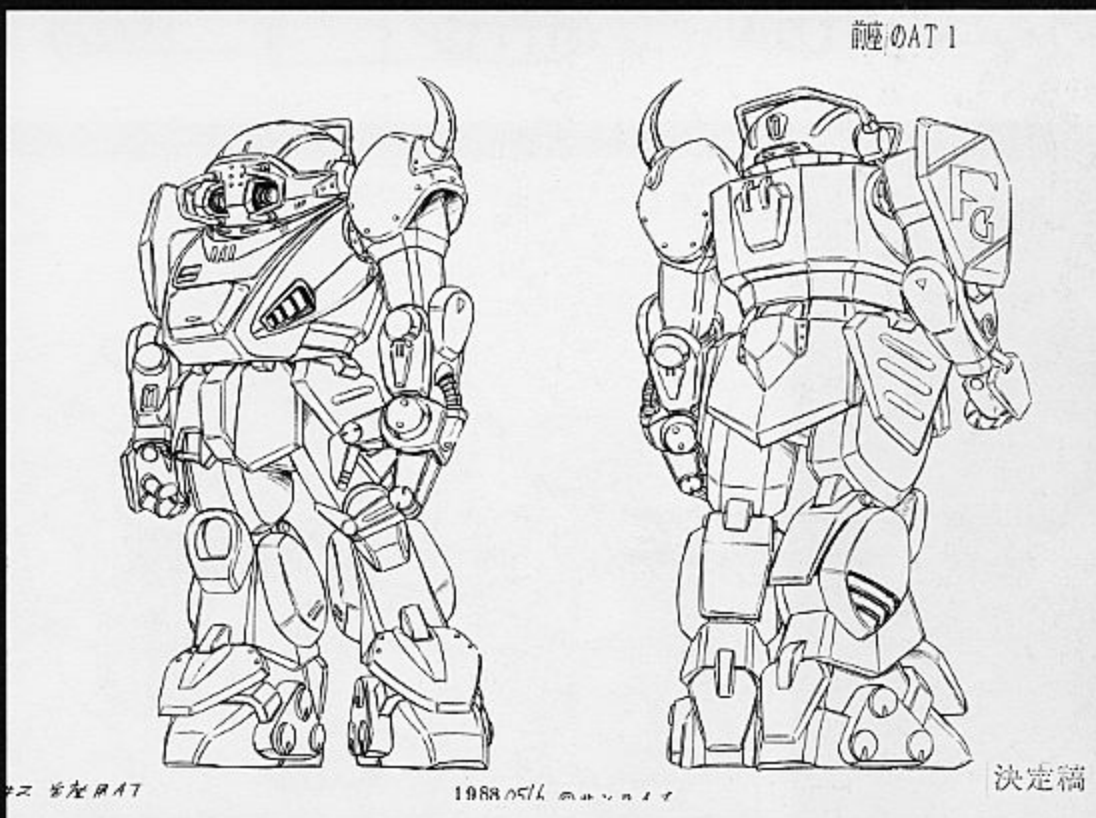
バトリング用AT ATM-09-SSC “パープル・ベア” VI 4



クラス	M級
全高 (mm)	3804
降着時全高 (mm)	2208
全長 (mm)	1760
全幅 (mm)	1870
乾燥重量 (kg)	6001
基本待機重量 (kg)	6180
最大装甲厚 (mm)	8
最小装甲厚 (mm)	4
GH限界走行速度 (km/h)	72
GH巡航走行速度 (km/h)	45
GH最大出力 (hp)	156
GH最大トルク (kg/m)	40
MCバック系	スレック方式、1P-MJ-S2
使用PR液 (hp/12)	DT-MO 10.2
PR液総量 (l)	138
予備タンク容量 (l)	10
標準液交換時間 (h)	148
制御コンピューター	MCT-128-C
固定武装・装備	アームパンチ
開発団体アデルハビッツ社 (カスタムモデル説もあり)	

パープルベアをベースとした、軽量高速型のカスタム機。左腕のギア以外は理に叶ったカスタムで、性能的には高水準の機体のはずなのだが、それが戦績には反映されていない。こちらもダ・ビングの街のバトリング選手が使用している。

## + フェイタルギア



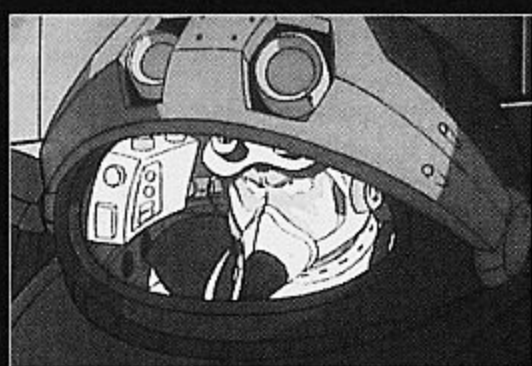
## ▶ COMMENT

高橋：パープルって……紫 (苦笑)。

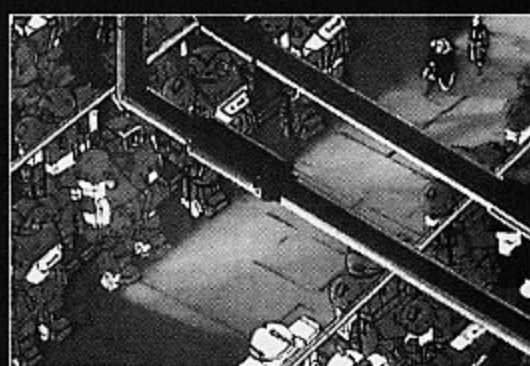
井上：これもリングネームがいつの間にか機体名に。パープルベアは元からパープルなのか、という話もあるわけですが。あと型番のSSCはステレオ・スコープ・カスタムで、元の型番というイメージでつけてます。

大河原：スコープドッグの最初のカスタムの一つですね。ストロングボックスもそうですけどバトリングだと個性が必要ですからそちらを重視したデザインになっています。

## ▶ ON THE FRONT LINE



複眼のアップ。レンズ回りは装甲そのものではなく、基部に取り付けられている。(11)



ビジター用のAT倉庫。パープルベア型の比率は低く、少数しか用意されていない。(4)

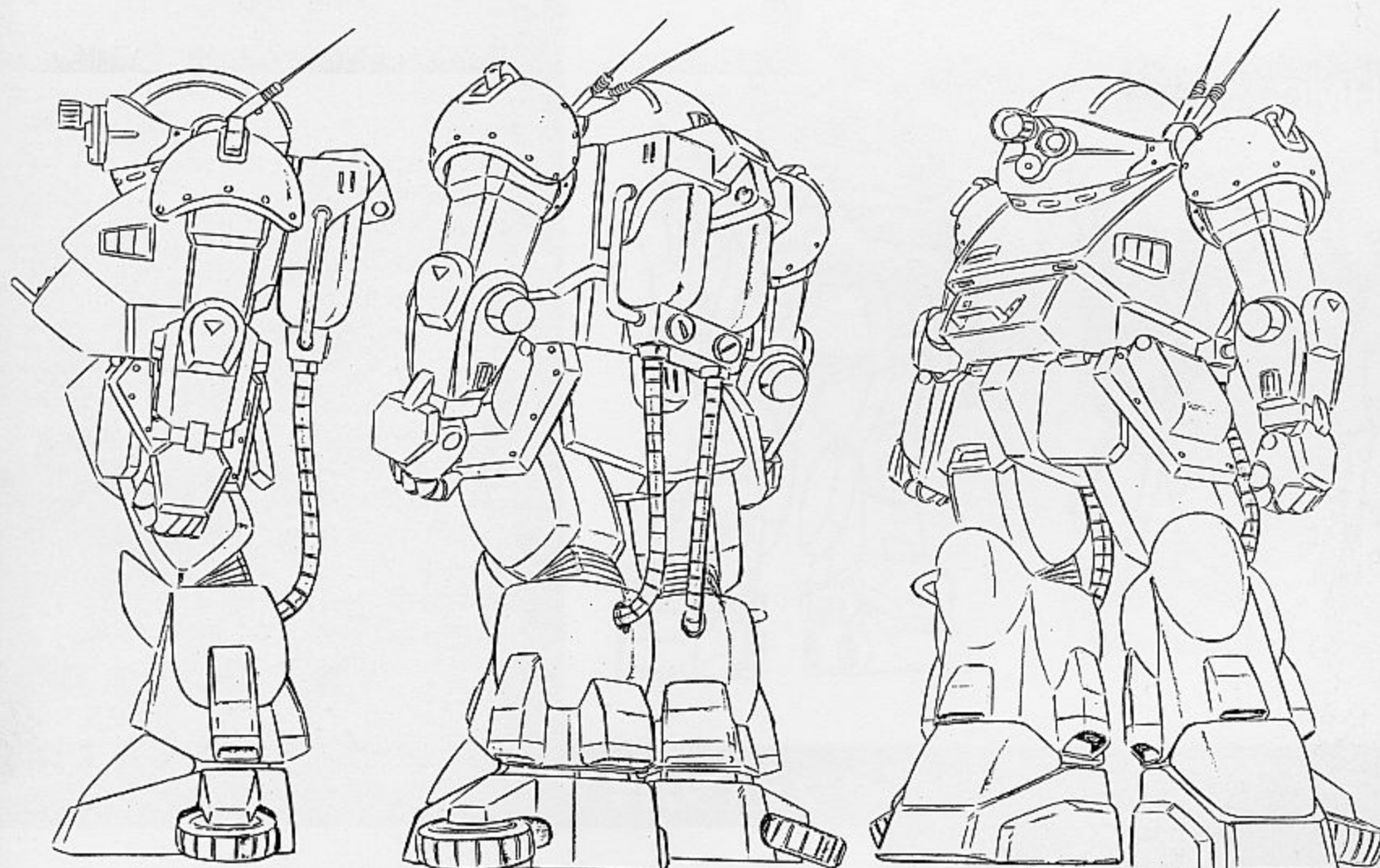
クラス	M級
全高 (mm)	3914
全長 (mm)	1795
全幅 (mm)	1881
乾燥重量 (kg)	6030
最大装甲厚 (mm)	11
GH限界走行速度 (km/h)	76.8
固定武装・装備	アームパンチ、大型クロウ

# マーシードッグ

MARTHYDOG  
FTCE>>M

09系のバリエーションモデル。本来は渡河用装備を装備したスコブドッグであり特にカスタムモデルではないとする説と、湿地戦用にカスタマイズされた機体であるという2説がある。通常のスコブドッグとの差異はエアバージ機構と hidroジェット追加、GHの装備位置の変更などで、これにより水上戦闘が可能となっている。ただし上半身は通常の機体と同じで気密性がなく、容易に浸水するという致命的な欠陥も抱えている。

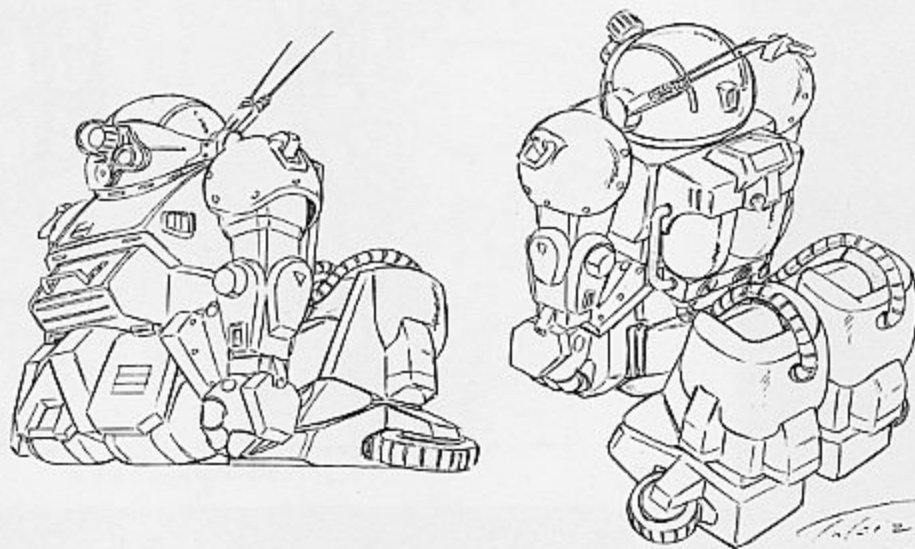
主人公 キリコ用 密林湿地戦系AT ATM-09-WR "マーシードッグ" 014



## 降着ポーズ

マーシードッグの降着状態。専用のバックパックと交換されたパーツ類のため、ノーマルタイプとは趣が異なる。また、通常ならば追加装備を積載している部分が湿地戦用の装備で占められているため、使用できる装備には制限が大きい。

主人公 キリコ用 密林湿地戦系AT ATM-09-WR "マーシードッグ" 014  
降着ポーズ



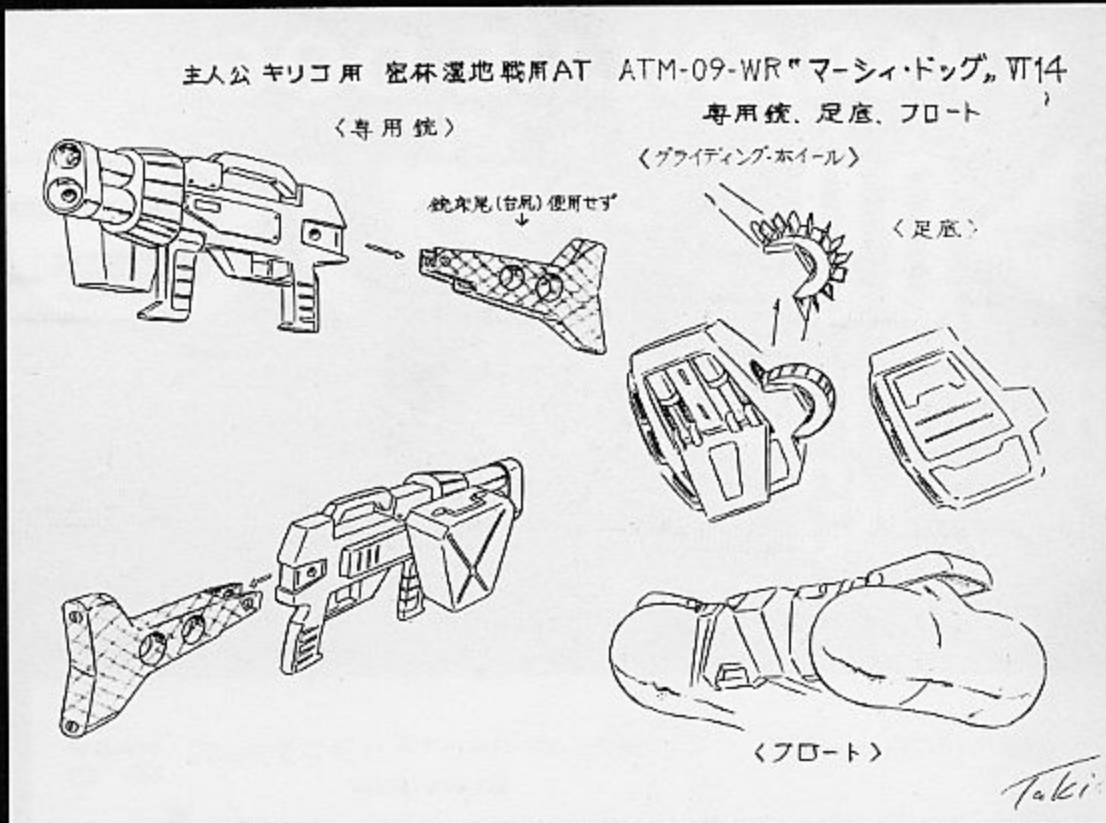
## COMMENT

井上：降着する時に延びているな、脚が(笑)。スコブドッグの降着ポーズはこちらでやった物なんです、その時はバックパックの事を考えてなくて、何か背負ってると降着出来なくなっちゃう。それがきちんと処理されてますね。それとこのフロートでは「絶対に！」浮きません。きっと何か秘密があるんでしょう。大河原：GHとかに無理がありますね。接地面が少しは大きくなるだろうけど、これでは跳ねが上がるだけで走らない。ただ、理屈ではこれでは駄目なんです、ボクは視覚に訴えるデザインをしていますから、それらしい物がついていれば皆さん納得していただけるんじゃないだろうかと。スタジオぬえさんとかだと、理屈にこだわるんだらうけど。

クラス	M級
全高 (mm)	3731
降着時全高 (mm)	2168
全長 (mm)	2053
全幅 (mm)	1982
乾燥重量 (kg)	6555
基本待機重量 (kg)	6795
最大装甲厚 (mm)	14
最小装甲厚 (mm)	4
GH限界走行速度 (km/h)	62
GH巡航走行速度 (km/h)	42
GH最大出力 (hp)	160
GH最大トルク (kg/m)	58
MCバック系	スレック方式、1P-MJ-S4
使用PR液 (hp/l2)	DT-MS 11.5
PR液総量 (l)	160
予備タンク容量 (l)	35
標準液交換時間 (h)	192
制御コンピューター	MCT-128-C
固定武装・装備	アームパンチ、エアバージ、hidroジェット
開発団体	アデルハビッツ社
開発年度 (製作年度、登場年度)	-

## ⊕ GAT-22-C ヘビーマシンガン改

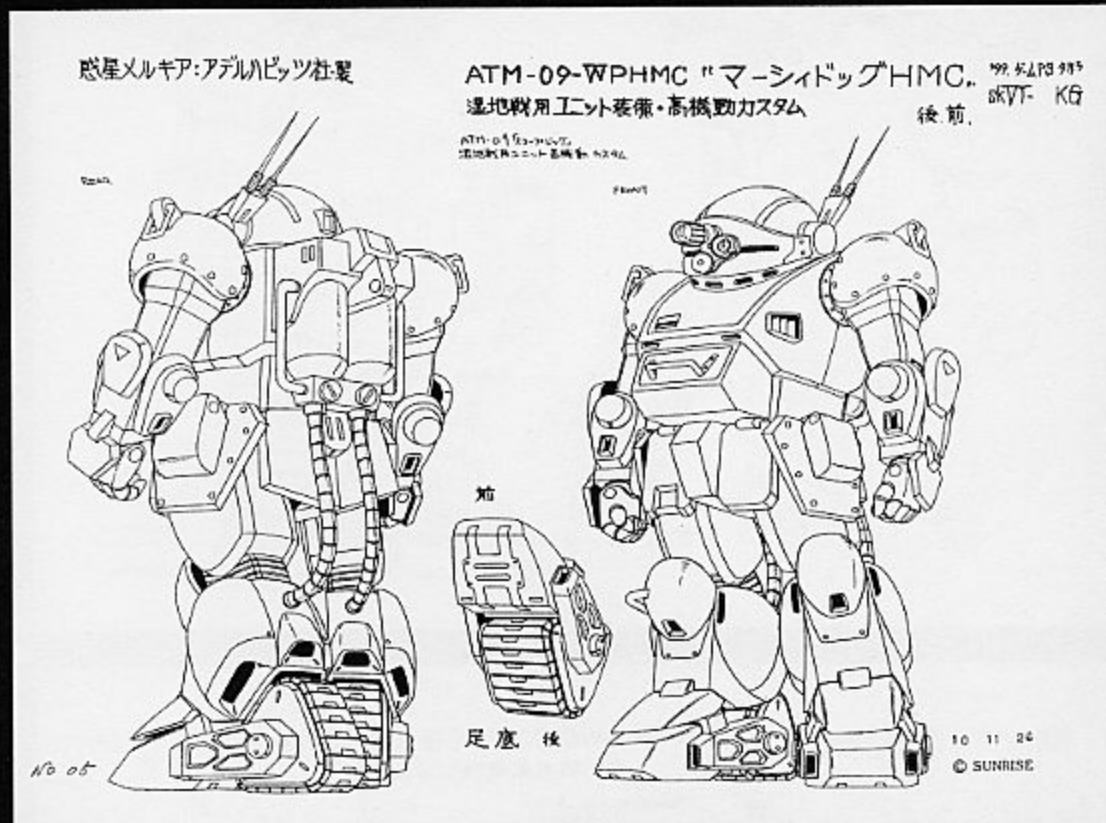
マーシィドッグの装備類。特に推奨されているわけではないが、経験からGAT-22Cを標準装備とするケースが多い。なお、この状態でも上部グレートランチャーは使用可能。



## ⊕ ATM-09-WPHMC マーシィドッグHMC

マーシィドッグの高機動型バリエーション。脚部の大幅改修により限界走行速度を20km向上させることに成功した機体。その利点を生かせる戦場も兵士も限定されているが、一定数の生産は行われている。

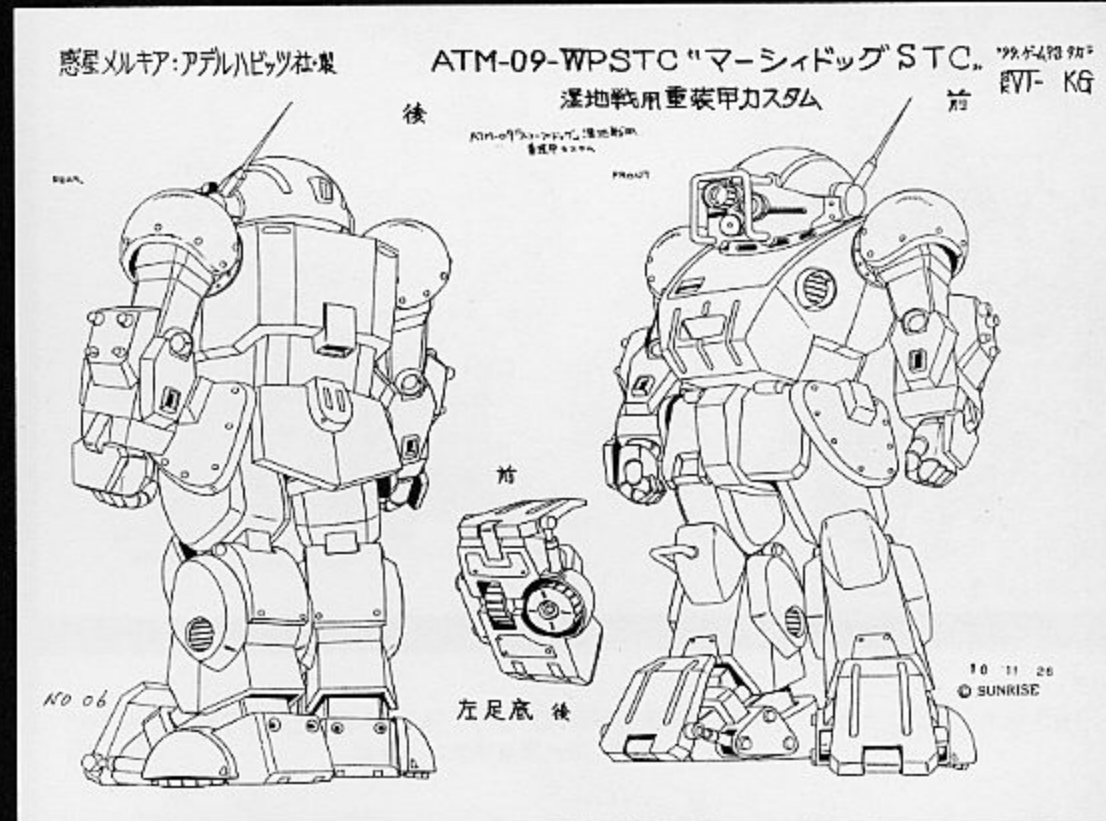
クラス	M級
全高 (mm)	3753
全長 (mm)	2642
全幅 (mm)	1994
乾燥重量 (kg)	6987
最大装甲厚 (mm)	14
限界走行速度 (km/h)	63.0
固定武装・装備	アームパンチ



## ⊕ ATM-09-WPSTC マーシィドッグSTC

ストロングボックス系という事もできる、マーシィドッグの重装甲型バリエーション。H級の水陸両用機程ではないが兵士の生存率が向上し、特に新兵には人気がある。機動性は大きく低下している。

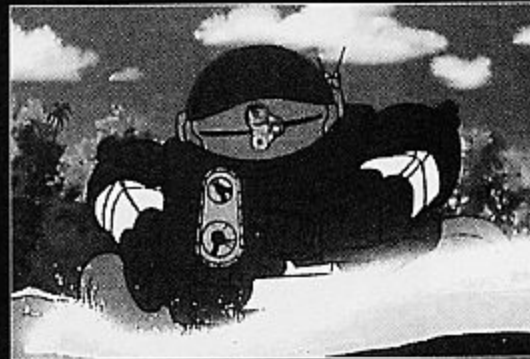
クラス	M級
全高 (mm)	3827
全長 (mm)	2694
全幅 (mm)	2008
乾燥重量 (kg)	7183
最大装甲厚 (mm)	25
限界走行速度 (km/h)	60.0
固定武装・装備	アームパンチ



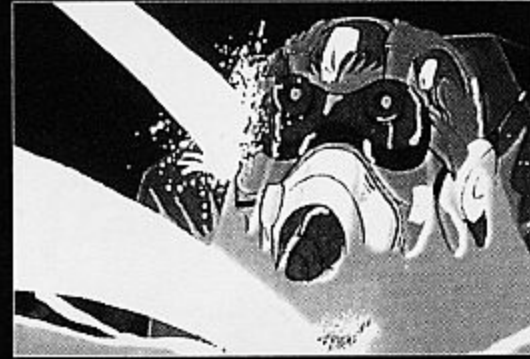
## ▶ ON THE FRONT LINE



一般的な使い方ではないが、広角レンズ部の発光機能によって通信を送る事もできる。(16)



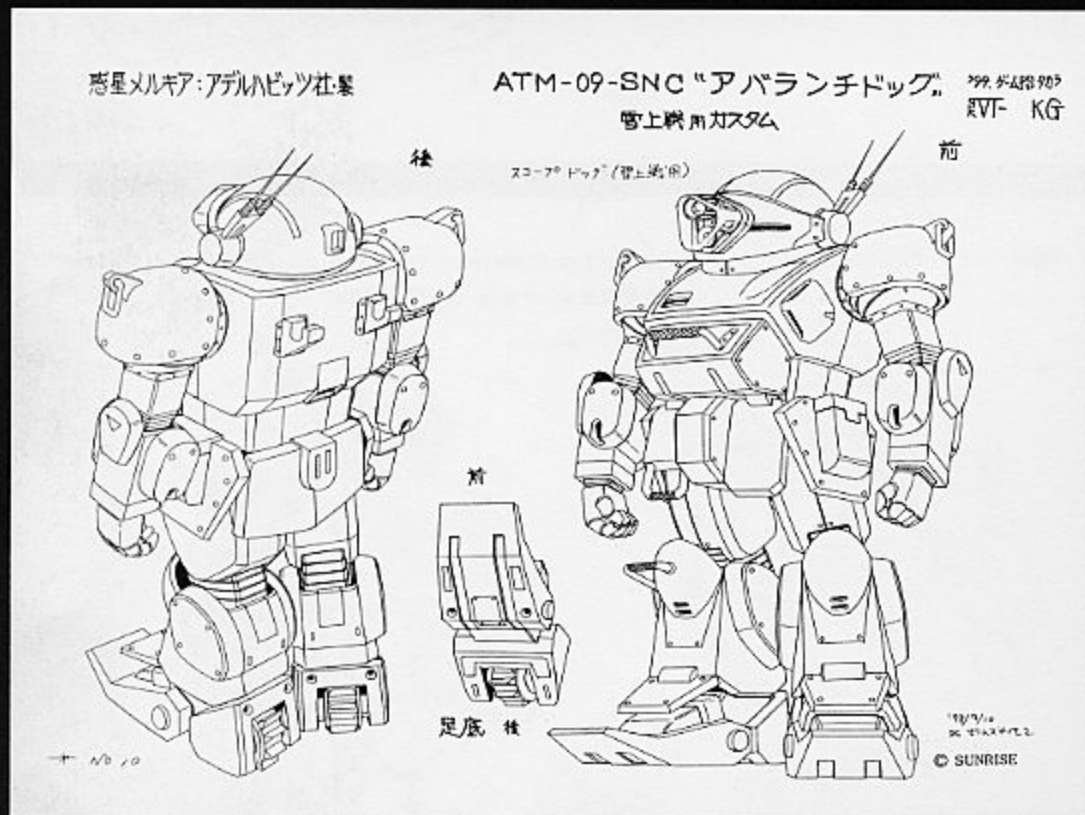
フロートを使っでの水上戦闘。潜水が可能な新型ATIに対抗することは困難である。(21)



浸水するコックピット。この状態でも一応動作はするが、現実的な戦闘は不可能だ。(21)



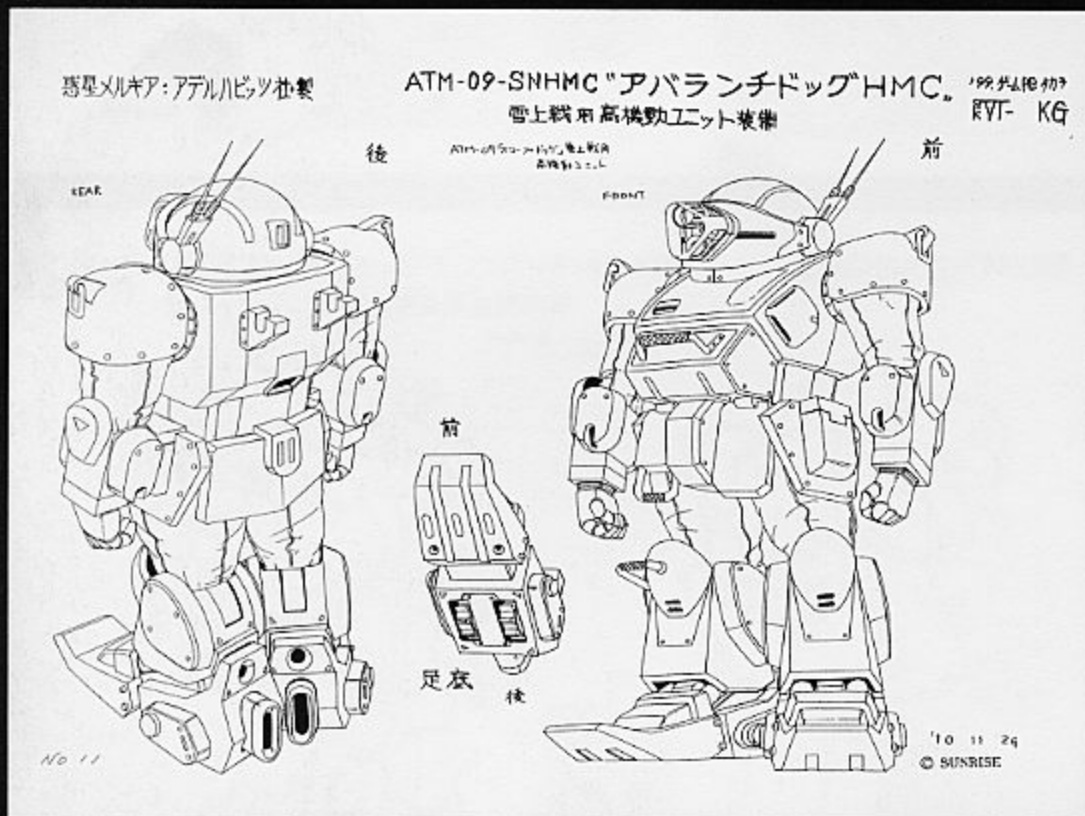
09系の雪上戦用バリエーションモデル。寒冷地の過酷な環境下でATを稼働させるためにヒーターを追加し、着氷から光学系を守るカバーと雪上に特化したターボダッシュ機構を装備している。低温ではポリマーリング液が凍結する場合も多く、これらの装備のない通常型の機体では長時間の活動は事実上不可能となる。なお、アバランチとは雪崩の意で、雪上を高速で進撃してくる姿が雪崩の様であったことから名付けられたらしい。



### ⊕ アバランチドッグ

最も一般的なノーマルタイプ。なおヒーターはATを稼働させることが重視されており、気密の不完全さとあいまって、コックピット内の暖房には効果が薄かった。外にいるよりはマシな程度とも言われている。

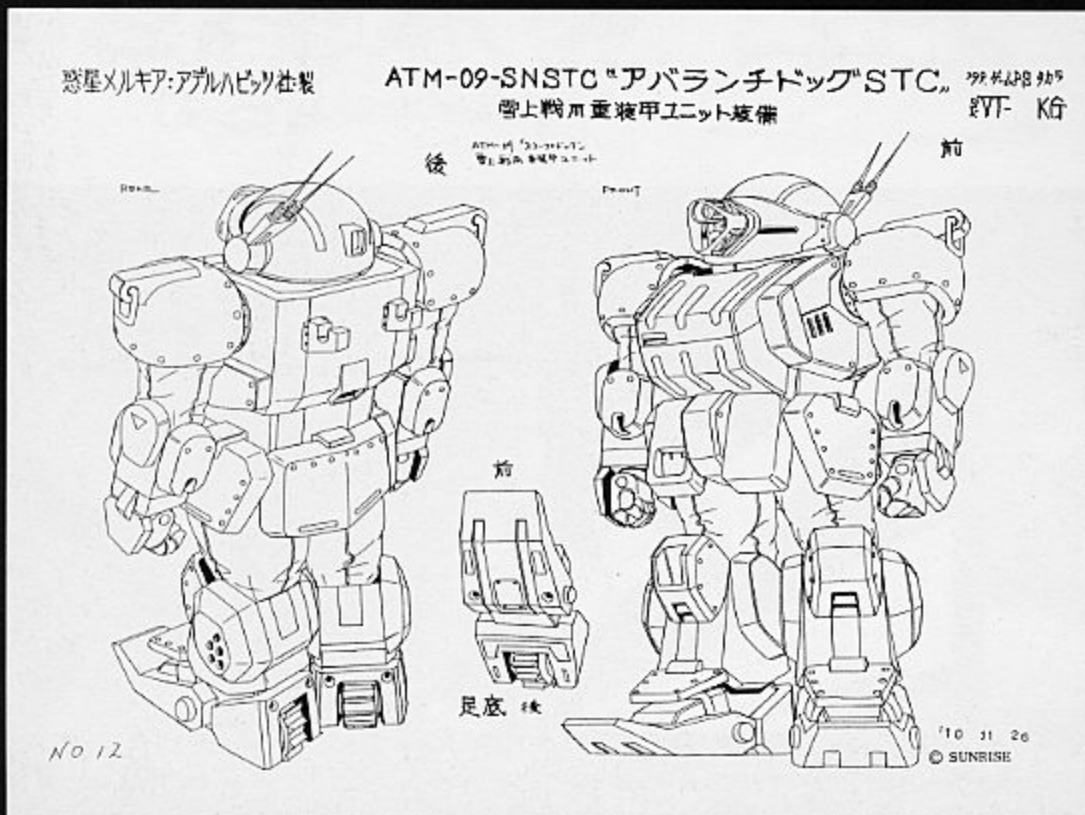
クラス	M級
全高 (mm)	3912
全長 (mm)	1788
全幅 (mm)	1983
乾燥重量 (kg)	7215
最大装甲厚 (mm)	16
限界走行速度 (km/h)	75.3
固定武装・装備	アームパンチ



### ⊕ アバランチドッグHMC

高機動型バリエーション。脚部にジェット推進ユニットを装備し、雪上走行能力を特に高められている。またローラータッシュ機構も装備してはいるが、これは補助的なものに留まっている。

クラス	M級
全高 (mm)	3934
全長 (mm)	1807
全幅 (mm)	1992
乾燥重量 (kg)	7630
最大装甲厚 (mm)	16
限界走行速度 (km/h)	76.5
固定武装・装備	アームパンチ



### ⊕ アバランチドッグSTC

重装甲型バリエーション。これもストロングバックのカスタムと分類することも出来る。また、寒冷地での重量増加は走破性にも影響を及ぼし、特に氷上などでは致命的な問題に発展する場合もあった。

クラス	M級
全高 (mm)	4057
全長 (mm)	1819
全幅 (mm)	1999
乾燥重量 (kg)	7877
最大装甲厚 (mm)	24
限界走行速度 (km/h)	72.1
固定武装・装備	アームパンチ

RIOT DOG

ATM-09-STR

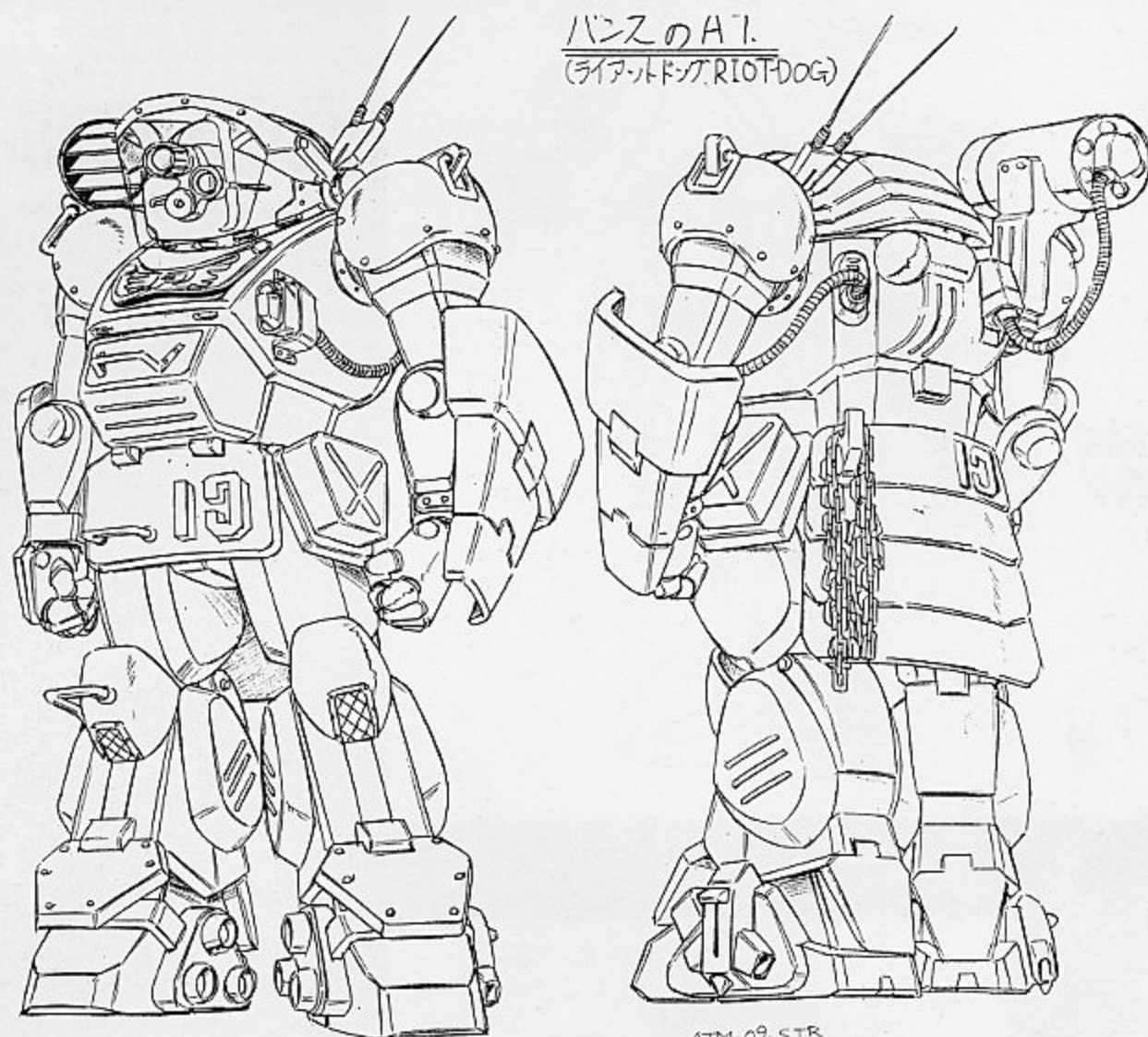
FILE

10

## ライアットドッグ

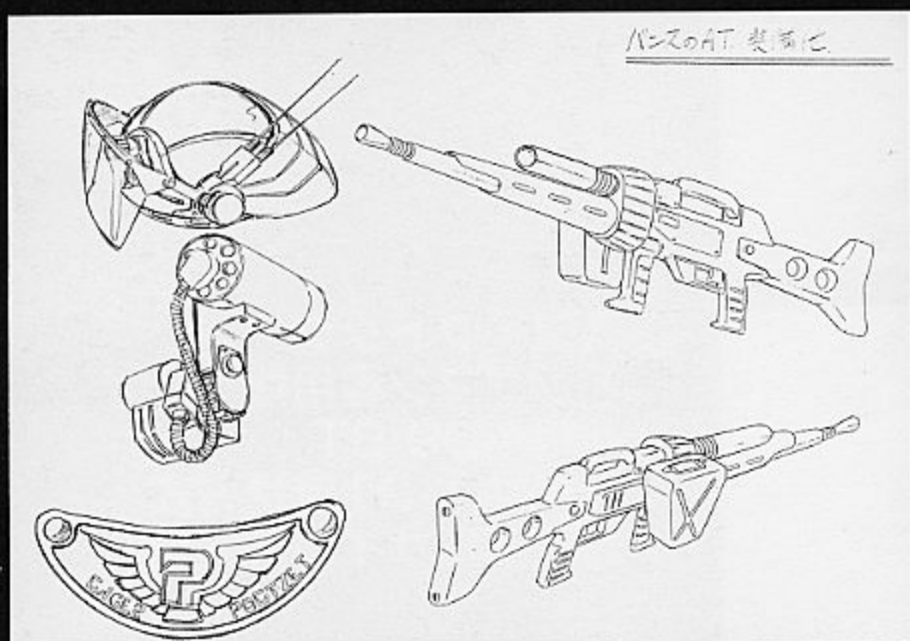
RIOT DOG  
FTCE>>IM

ギルガメス軍制式カスタムAT。憲兵隊や刑務所に装備されている機体であり、ライトや拡声器、投石からレンズを守る特徴的なガードなど、その名の通り暴動鎮圧用の装備が追加されている。しかし武装は犯罪者がATを持ち出した場合に備えてか、通常のATと同じ武装を施されているため、警察任務用としては必要以上に高威力である。特に対人戦闘に近い暴動鎮圧任務では、必要以上の死傷者を出した事例も数多く存在している。



パンズのAT.  
(ライアットドッグ, RIOT DOG)

© 1988 SUNRISE INC. 0809 決定稿

ATM-09-STR  
ライアットドッグ  
パンズ設計+ ライアットドッグ用  
各種装備

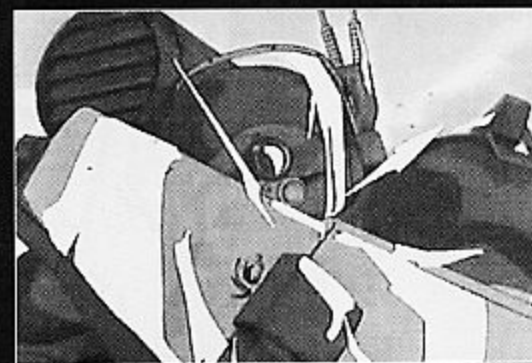
## ▶ COMMENT

大河原：これは「メロウリンク」の敵役ですか。確か神田さんの監督作品でしたね。でもカッコいいなこれ、サーチライトに機動隊みたいなフェイスガード。これは立体にするときれいだろうなあ。それと胸の警察のエンブレムもボクがデザインしたんです。勇者シリーズあたりでもエンブレムは結構ボクがやってるんですよ。だけどこのエンブレム、今見ると楽天イーグルスみたいですね（笑）。

## ▶ ON THE FRONT LINE



特徴的なレンズガード。必要に応じてレンズガード部分のみを開けることもできる。(M6)



左腕のシールドはかなりの重装甲で、対ATライフル程度では近距離でも貫通不能だ。(M6)

クラス	M級
全高 (mm)	3815
全長 (mm)	-
全幅 (mm)	-
乾燥重量 (kg)	7022
最大装甲厚 (mm)	-
GH限界走行速度 (km/h)	42.3
固定武装・装備	アームパンチ

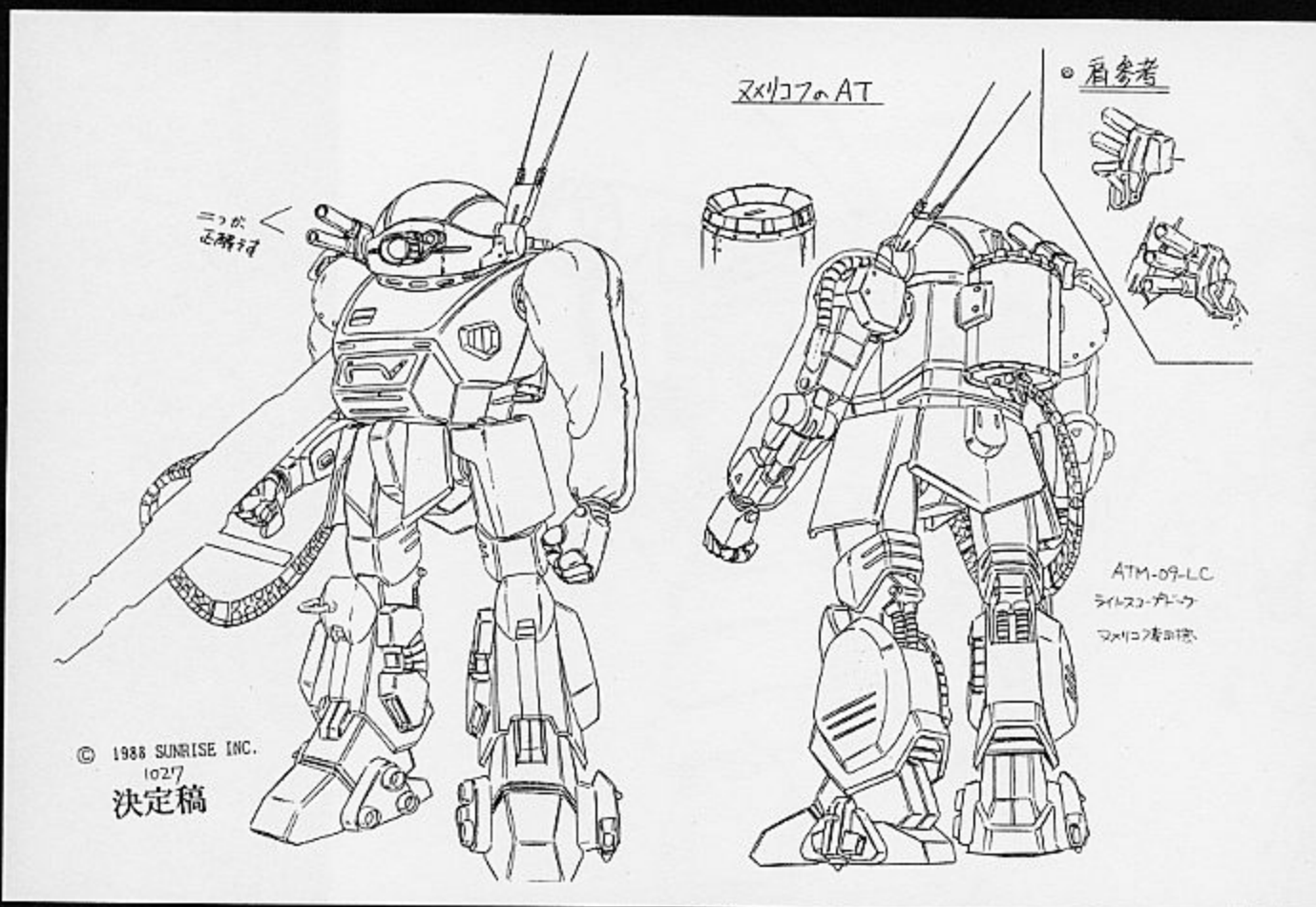
# Variation

## FILE 11

# その他武装バリエーション

メロウリンク  
FTCE>>II

09系の一部には、特定の装備をより有効に使用するためのカスタムモデルも存在する。たとえば、GAT-42分隊支援火器。あるいはHMAT-31無誘導式対戦車ミサイル・イーグル。後に触れるバグラー・ドッグも、その本質はドロップ・フォールディングガンを使うための武装バリエーションだと強弁することもできる。これらの武装バリエーションのうち、興味深い2例を取り上げて紹介する。



### ⊕ ライトスコープドッグ メロウリンク専用機 ATM-09-LC (GAT-42分隊 支援火器装備型)

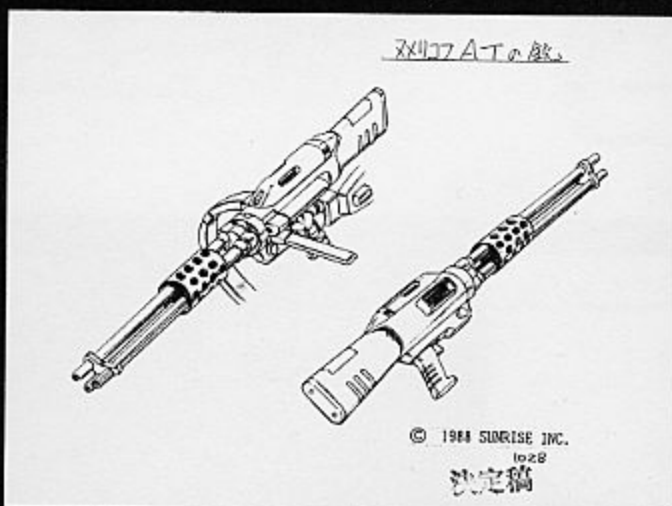
重量のあるGAT-42の使用と高い機動力を両立させようとした例。これはメロウリンク少尉が使用した機体だが、類似のカスタムは一部で使用されている。同銃に必要としない全装備を剥ぎ取ることでノーマルの09STと互角の機動力を維持しているが、同時に極端に打たれ弱い機体になっている。

## COMMENT

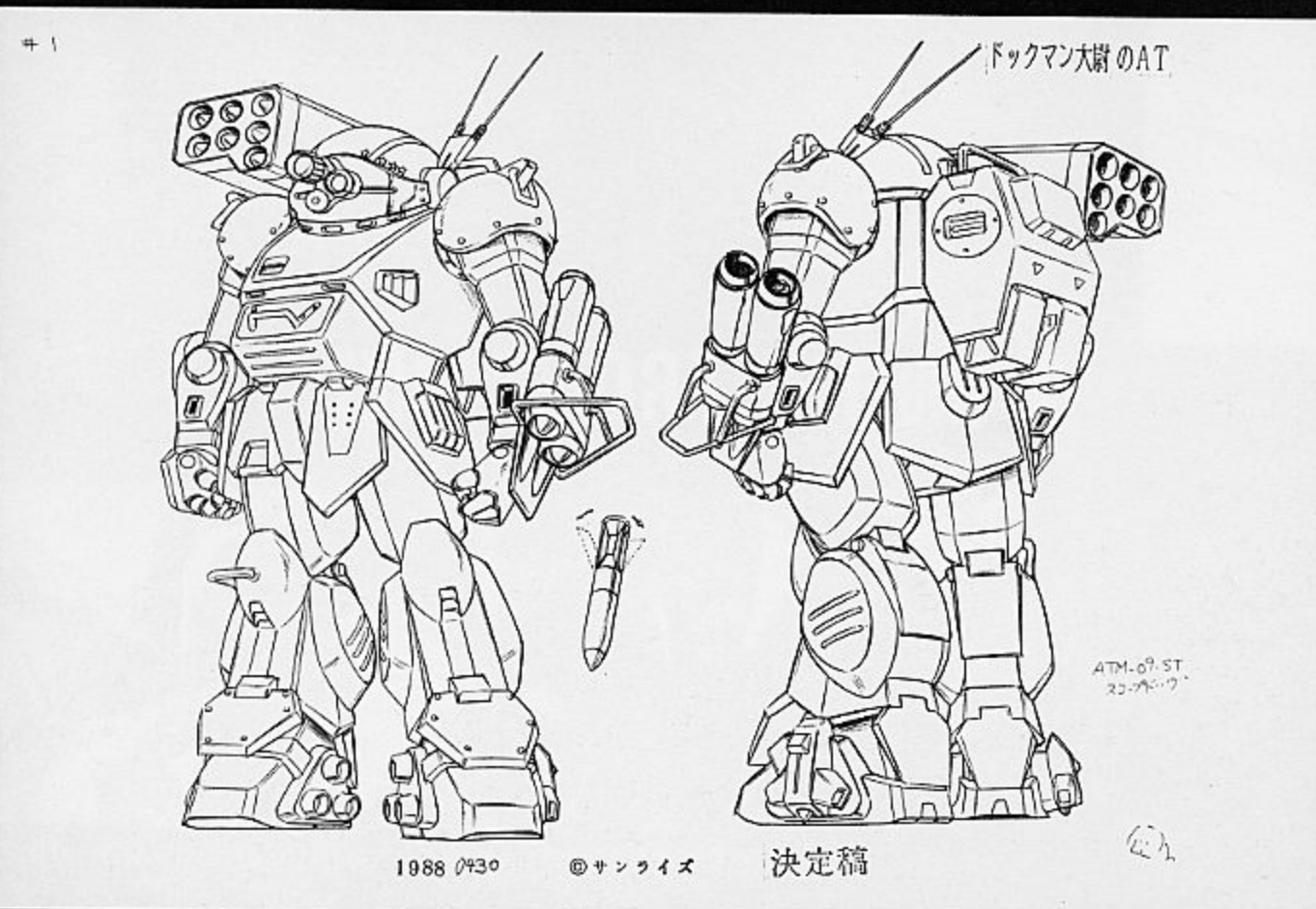
高橋：「メロウリンク」の機体ですね。ボクは原作書いていますが、それほど制作に関わってはいないんですよ。ボトムズ・オデッセイに掲載されたイラストの一枚から「メロウリンク」は生まれた訳ですけど。

井上：私もタッチしてなくて、銃関係のアイデアを出していただけです。だからこれらの機体の詳細な設定は謎です。謎を解きたい人は、「メロウリンク」のDVD化を要求するんだ、オレは欲しい(笑)!

### ⊕ GAT-42 ガトリングガン



AT用の分隊支援火器。巨大なマガジンである専用バックのバックとワンセットにして使用し、AT用火器の中でも最大級の制圧力を発揮する。しかし重量がありすぎ、バックパックはマガジン以外の機能を持たないため、装備した機体は機動性が大きく低下してしまう。



### ⊕ スコープドッグ ドックマン専用機 ATM-09-ST (HMAT-31無誘導式 対戦車ミサイル装備型)

配備数の少ないHMAT-31イーグルを装備した例。これはザキ基地のドックマン指令官が使用したもので、多数の大型車両を仮想敵とした装備と推測され、単機での運用はあまり考えていないようだ。なお、火器管制コンピューターの装備と若干の装甲変更も行われている。

# BURGLARY DOG

# ATM-09-DD

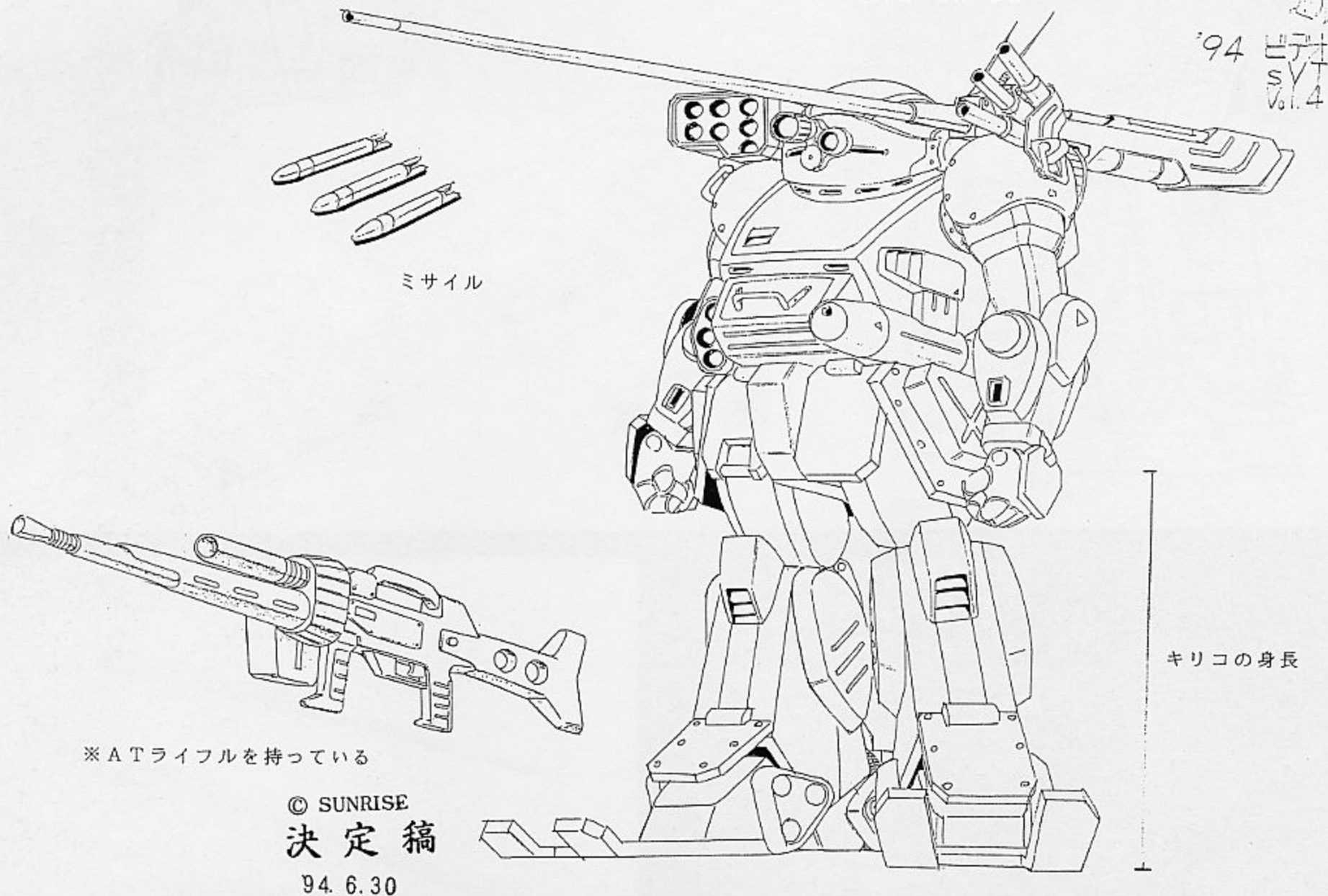
# FILE ▶ 12 バーグラリードッグ

## BURGLARY DOG FILE ▶▶ 10

スコープドッグの荒地戦用重武装型バリエーション。脚部のトランブルリガーにより不整地でも高速走行が可能、背部のドロップスフォールディングガンをはじめとする重武装により、拠点突破や強襲作戦には特に優れた威力を発揮する。例えばアレギウム襲撃事件では本機が使用され、防衛隊を全滅に近い状態に叩き込んでいる。しかし対応できる任務の幅も狭く、ATとしては無茶な仕様も多いため、制式採用はされていない。

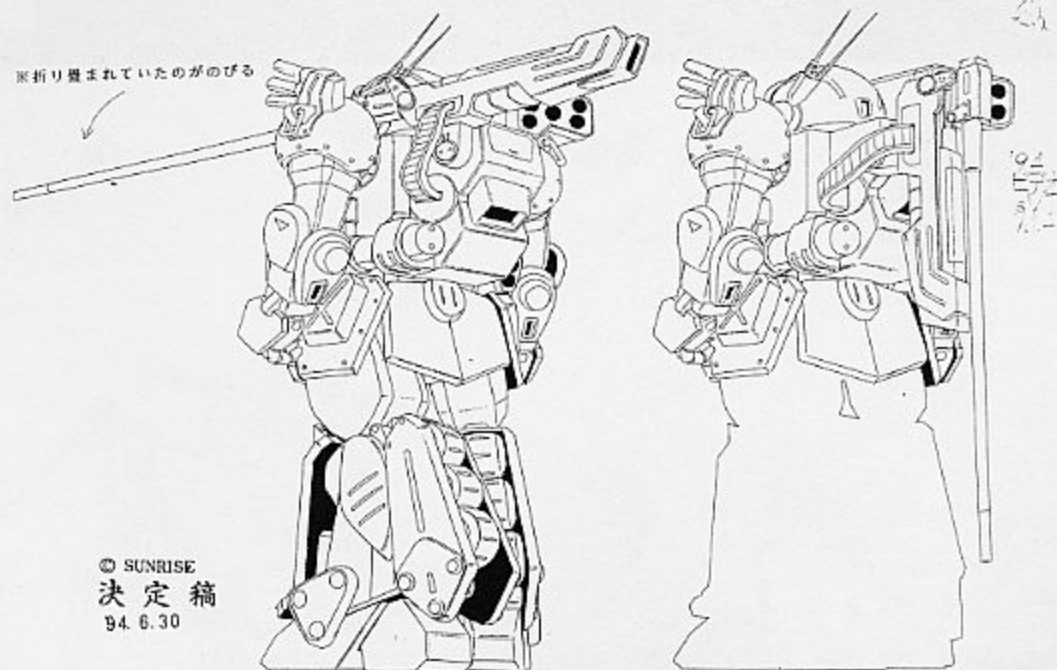
装甲騎兵ボトムズ「蘇える異端」

バーグラリードッグ・1  
ATM-09-DD



© SUNRISE  
決定稿  
94.6.30

装甲騎兵ボトムズ「蘇える異端」  
バーグラリードッグ・3  
ATM-09-DD



© SUNRISE  
決定稿  
94.6.30

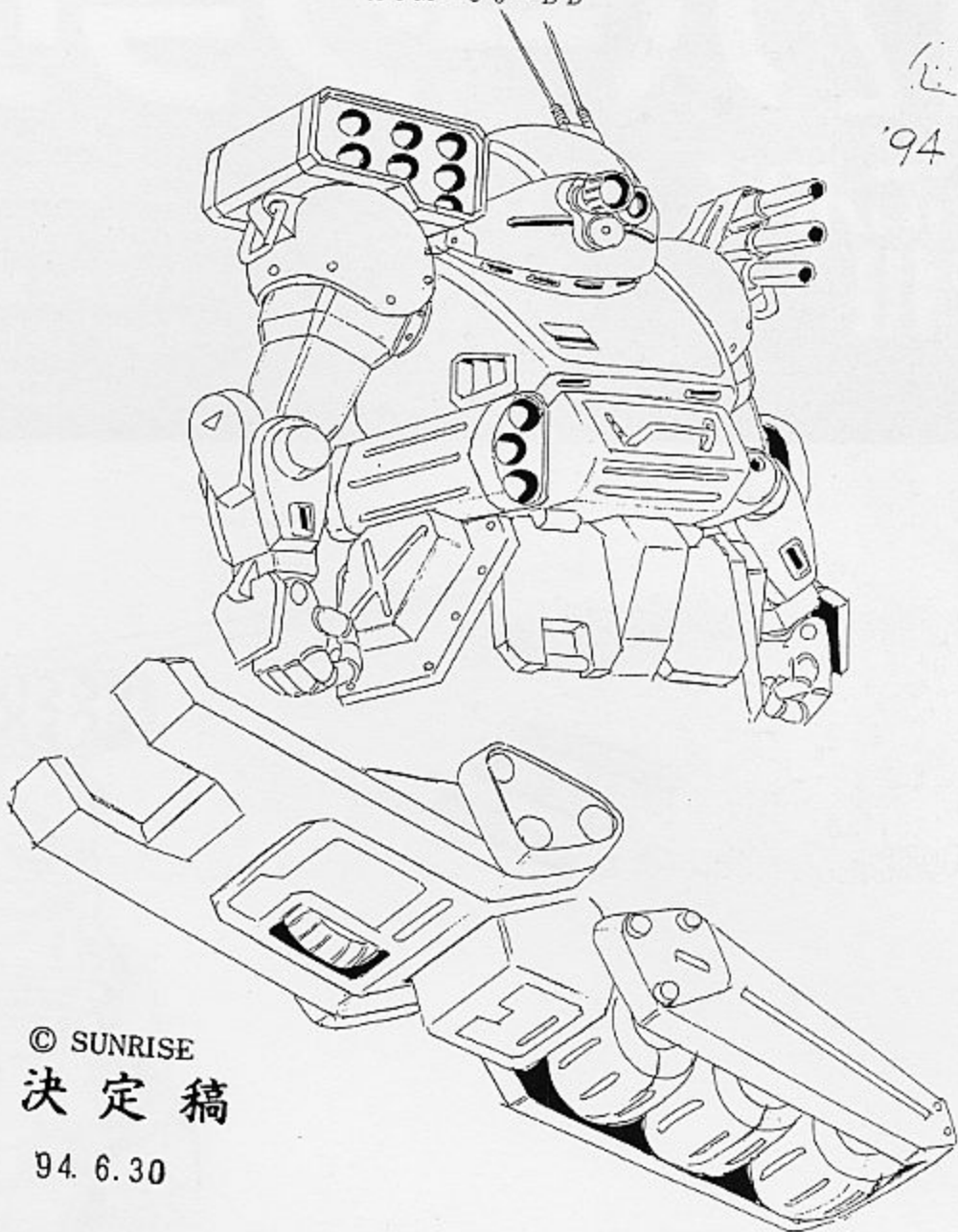
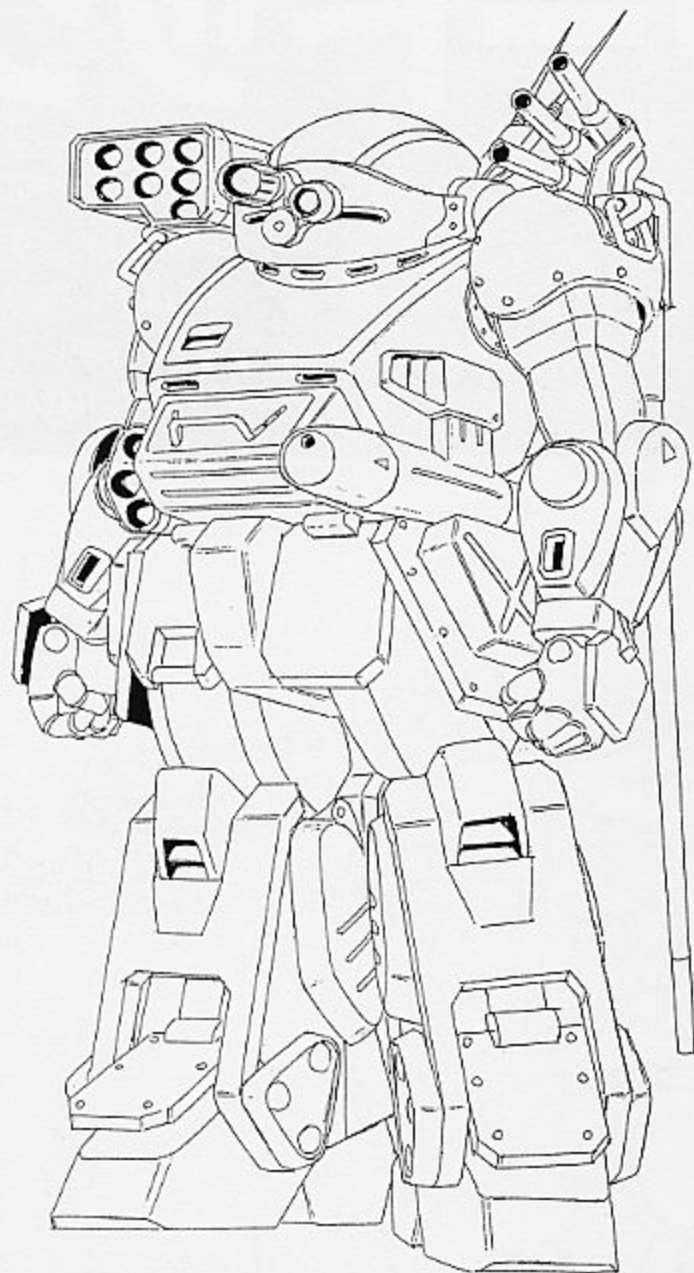
クラス	M級
全高 (mm)	3852
降着時全高 (mm)	2298
全長 (mm)	2191 (3105)
全幅 (mm)	1995
乾燥重量 (kg)	6597
基本待機重量 (kg)	7423
最大装甲厚 (mm)	14
最小装甲厚 (mm)	6
GH限界走行速度 (km/h)	83 (65.5)
GH巡航走行速度 (km/h)	49
GH最大出力 (hp)	370
GH最大トルク (kg/m)	121
MCバック系	スレック方式、1P-MJ-S4
使用PR液 (hp/12)	DT-MS-P 11.5
PR液総量 (l)	195
予備タンク容量 (l)	40
標準液交換時間 (h)	120
制御コンピューター	MCT-128-C4
固定武装・装備	アームパンチ、トランブルリガー
開発団体	アデルハビッツ社
*カッコ内はトランブルリガー展開時の数値	

## COMMENT

高橋：これ、昔の山岳要塞を攻略する時のイメージなんだよね。敵基地が山の上にあって、下から打ち上げるので射程が長い砲がほしいということですね。あとはスキーみたいなのを履かせて。井上：ボクはこの時日本にいなかったんですが、なかなかすごい装備ですよ。スキー履かせて、二つ折りの大型砲背負わせて……。

⊕ ドロップスフォールディングガン収納時

装甲騎兵ボトムズ「蘇突たる異端」  
 バーグラリードッグ・2  
 ATM-09-DD



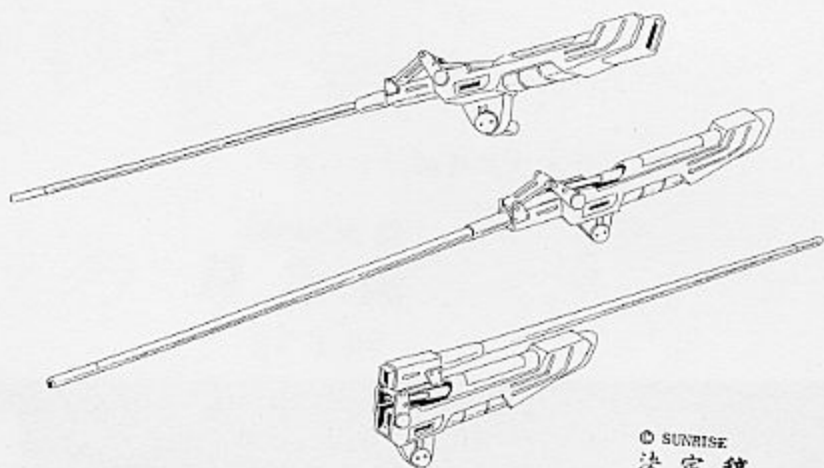
94 07  
 SVT  
 1/14

© SUNRISE  
 決定稿  
 94.6.30

⊕ ドロップス  
 フォールディングガン

AT用の兵器としては最大級のサイズとなるこの砲は、通常は折りたたんだ状態で携行し、使用時に展開する。高初速で貫通力に優れ、射程距離も長い優れた砲だが、ATが使用するには無理があると言わざるを得ない。

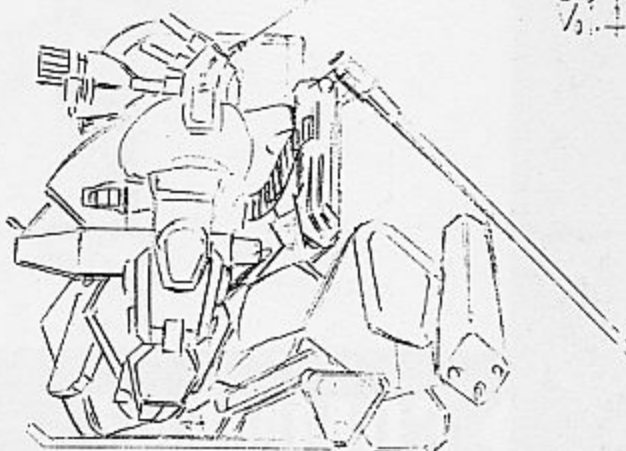
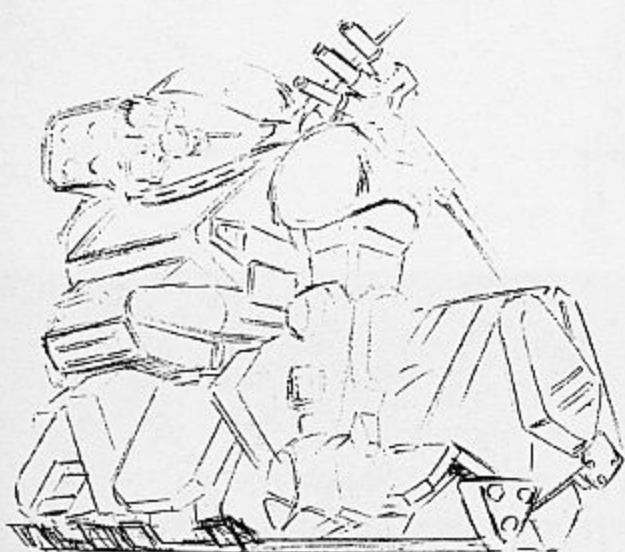
装甲騎兵ボトムズ「蘇突たる異端」  
 バーグラリードッグ・5  
 ATM-09-DD



© SUNRISE  
 決定稿

今回の降着ポーズ  
 二足間にやっつけ  
 1/14

はい、はい？  
 おお、いいです  
 94 07  
 SVT  
 1/14



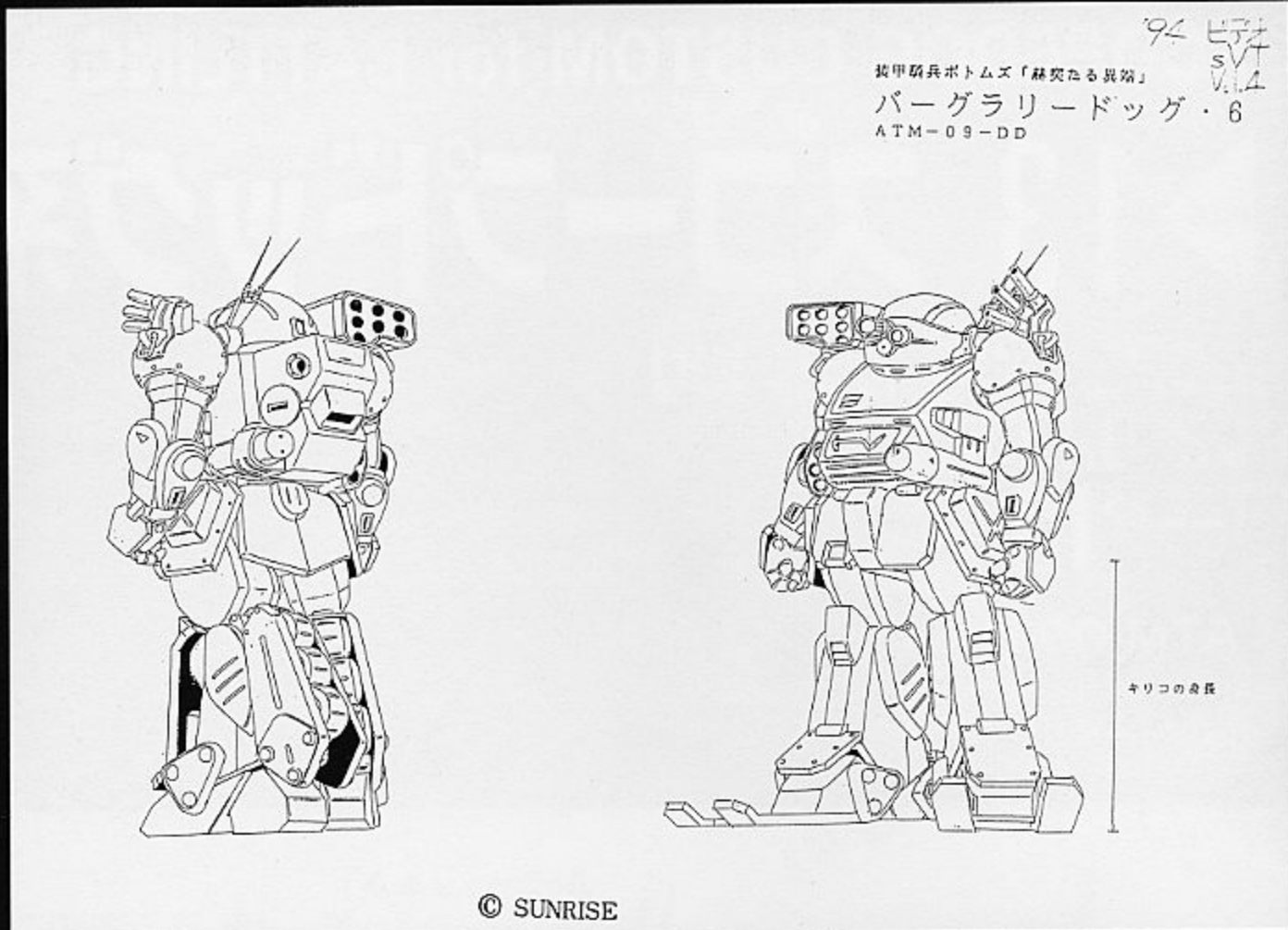
© SUNRISE

⊕ 降着ポーズ

バーグラリードッグの降着状態。複数の大型装備のため、変則的なシルエットを持つ。この状態でも、一応はドロップスフォールディングガンの展開・発砲は可能で、それなりの移動力も発揮できる。

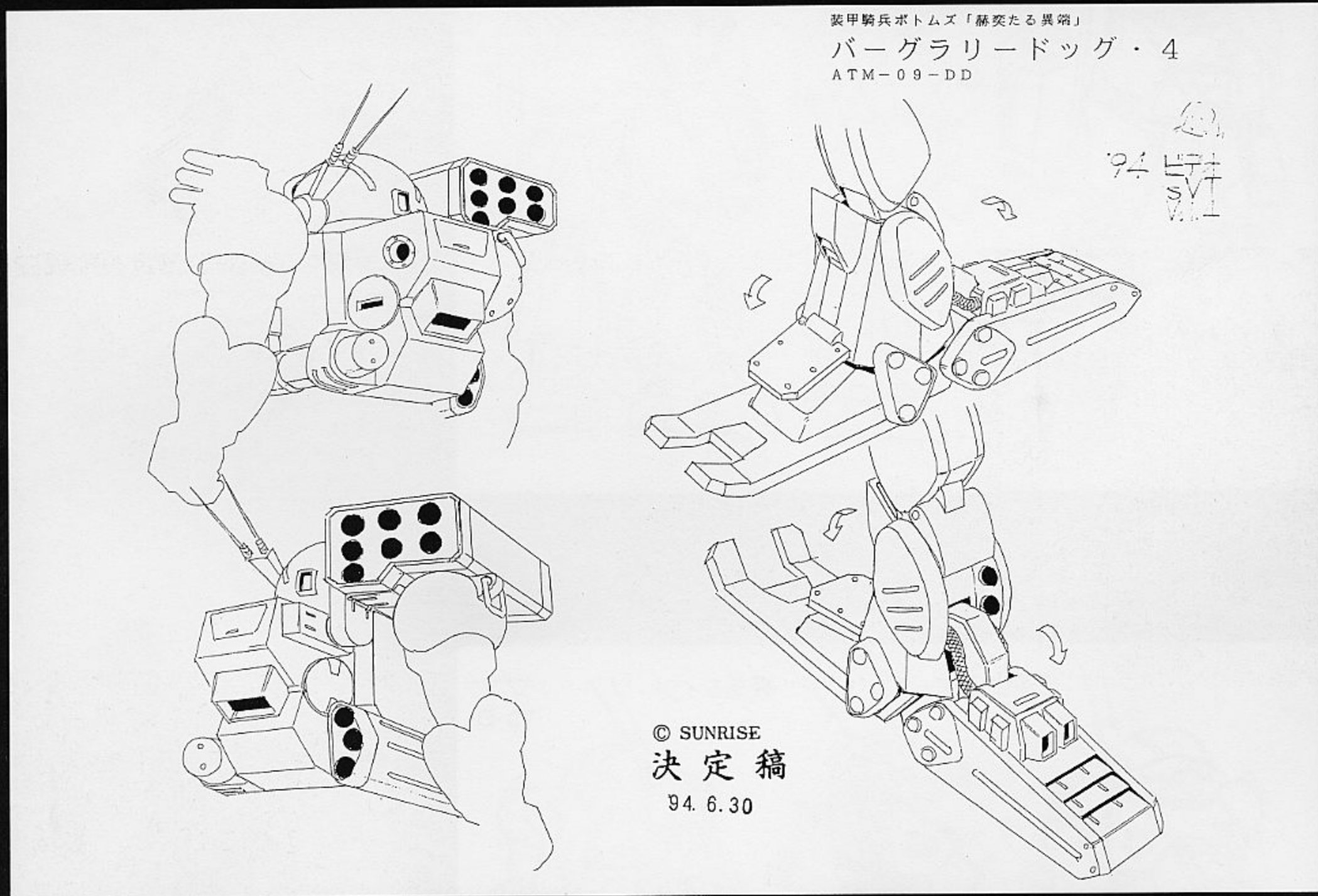
### ⊕ トランブルリガー展開時

ドロップスフォールディングガンを外した状態。この砲の運用には専用のバックパックが必要となっているが、このバックには他の兵器を装備することも十分に可能となっている。



### ⊕ トランブルリガー展開方法

ミサイルポッドは一般的な7連装のもの。不整地用のトランブルリガーは荒地でも高速走行を可能とするが、同時に通常路面での速度は低下してしまうため、扱い難い装備である。



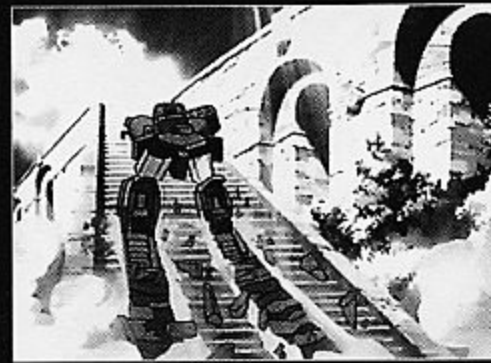
## ▶ ON THE FRONT LINE



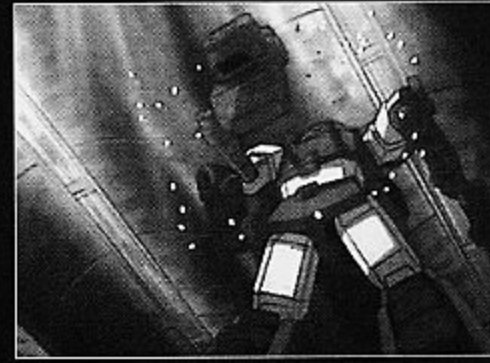
降着状態でヘリに輸送されるカット。装備が多く、降着状態そのものも独特だ。(K4)



同じく輸送中の機体下面。バックパックや折りたたまれた脚部の状態が判る。(K4)



トランブルリガーで階段を破壊しながら登るカット。階段は石造りである。(K4)



バックパックの除装。爆発によって排除しており、本体に部品が残ることはない。(K5)

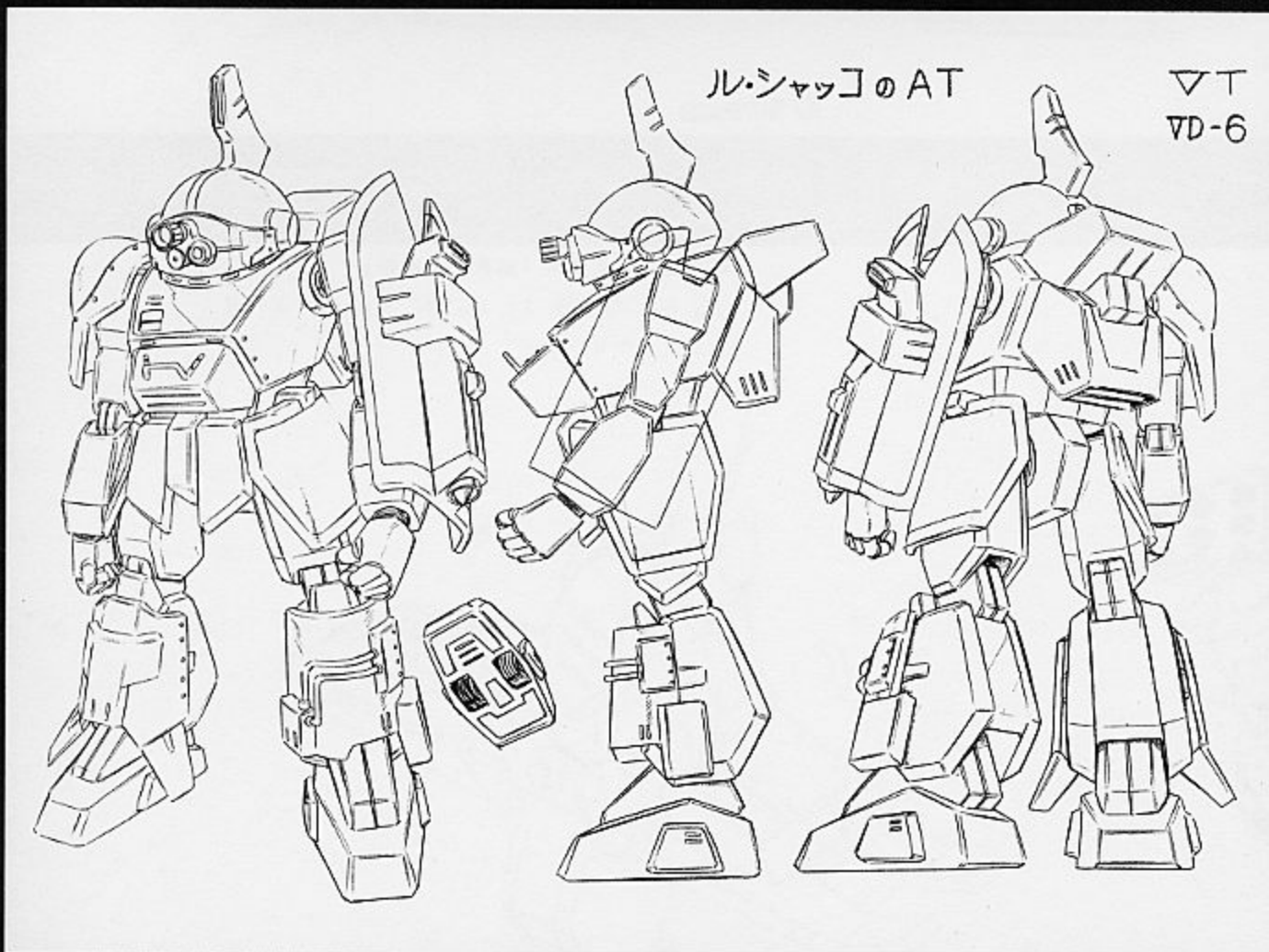
FILE ▶ 13 スコープドッグ系カスタム1

SCOPE DOG CUSTOM  
FOR BATTLING  
FILE >> 13

ショーであり見世物でもあるものの、ATを用いた戦闘という本質は変わっていないバトリング。この異形の戦場では、早い段階から独自の改造を施したATが出現している。最初はとにかくATを動かすためだったろうが、ある者は軍とは違う戦場で生き残るため最適化の道を選び、ある者は客寄せのために特徴的な姿を選んだ。ここではバトリング用に異形の進化を遂げた特徴的な09系を取り上げ、AT進化の1つの形を検証してみたい。

⊕ ATM-09-HC

H級ATの部品を多用し、重装甲化した機体。改造者のこだわりのためか、その外見はベルゼルガシリーズを模した物になっている。ア・コバのバトリングに登場。



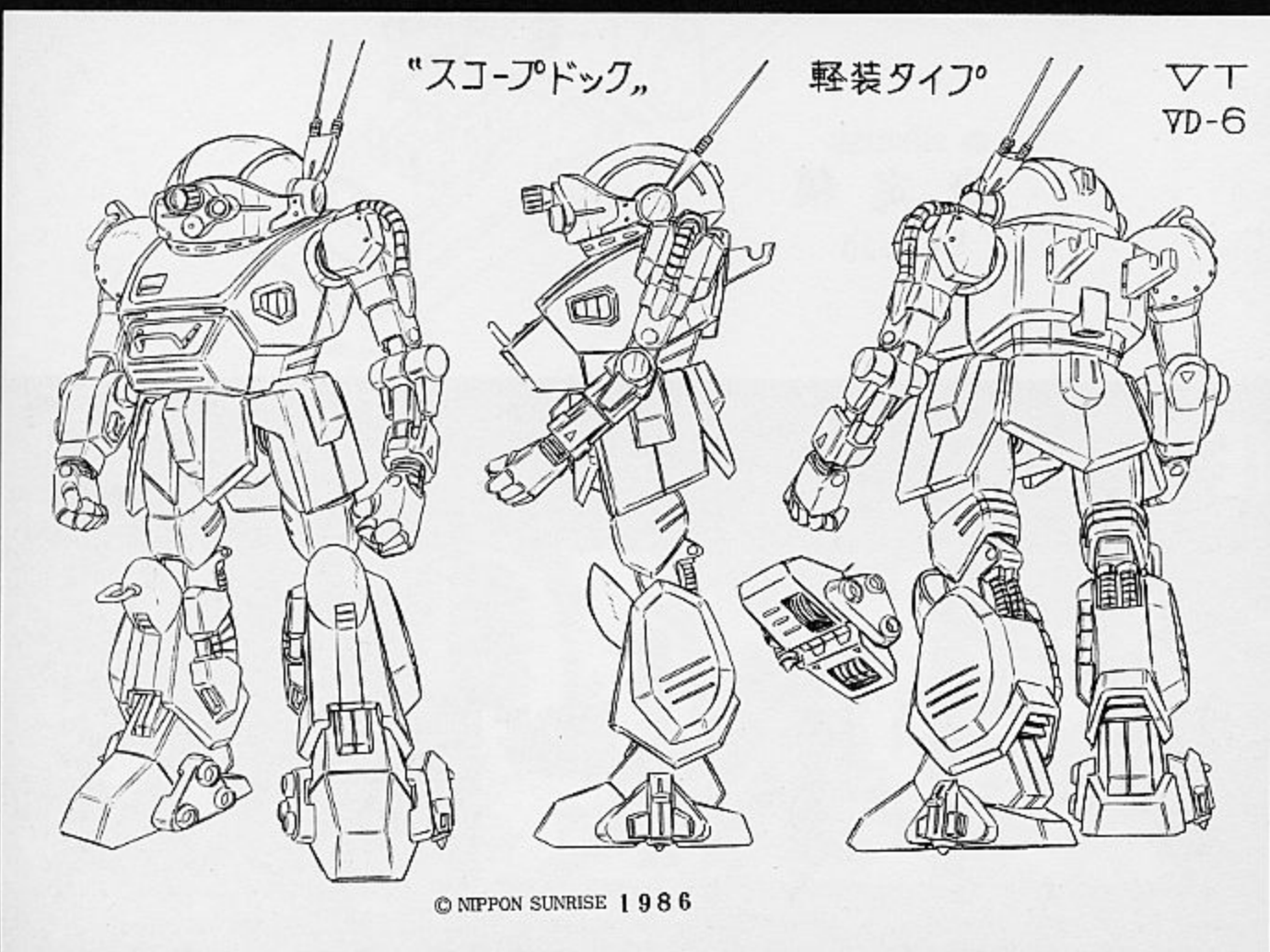
ル・シャッコのAT

▽T  
VD-6

クラス	M級
全高 (mm)	4223
降着時全高 (mm)	2627
全長 (mm)	2025
全幅 (mm)	2568
乾燥重量 (kg)	7947
基本待機重量 (kg)	8812
最大装甲厚 (mm)	16
最小装甲厚 (mm)	6
GH限界走行速度 (km/h)	82.1
GH巡航走行速度 (km/h)	43
GH最大出力 (hp)	300
GH最大トルク (kg/m)	75
MCバック系	スレック方式、1P-MJ-S2
使用PR液 (hp/l2)	DT-MO 10.2
PR液総量 (l)	185
予備タンク容量 (l)	35
標準液交換時間 (h)	231
制御コンピューター	MCT-128-C
固定武装・装備	パイルバンカー
開発団体	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)
開発年度 (製作年度、登場年度)	7198

⊕ ATM-09-LC

機動性を向上させるため極限まで装甲を取り払い、かつ両足に1器づつGHを増設した高機動型カスタム機。こちらもア・コバのバトリングに登場した機体である。



“スコープドッグ”

軽装タイプ

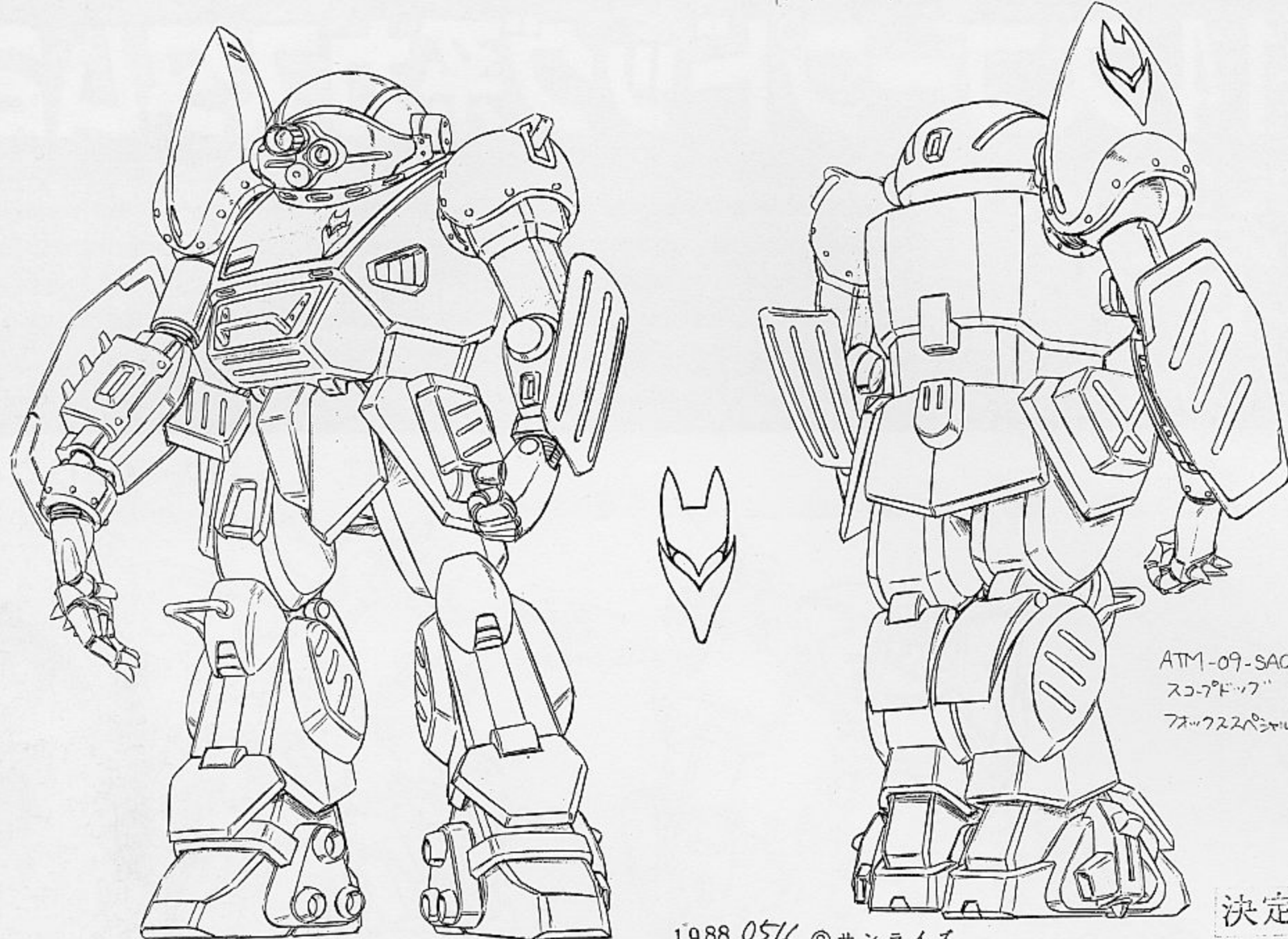
▽T  
VD-6

クラス	M級
全高 (mm)	3804
降着時全高 (mm)	2208
全長 (mm)	1763
全幅 (mm)	1920
乾燥重量 (kg)	4758
基本待機重量 (kg)	5333
最大装甲厚 (mm)	14
最小装甲厚 (mm)	6
GH限界走行速度 (km/h)	112.5
GH巡航走行速度 (km/h)	52.3
GH最大出力 (hp)	230
GH最大トルク (kg/m)	70
MCバック系	スレック方式、1P-MJ-S2
使用PR液 (hp/l2)	DT-MO 10.2
PR液総量 (l)	184
予備タンク容量 (l)	13
標準液交換時間 (h)	89
制御コンピューター	MCT-128-C
固定武装・装備	アームバンチ
開発団体	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)
開発年度 (製作年度、登場年度)	7198

# ATM-09-SAC

ダ・ビングの人気選手、フォックスの機体。磨きぬかれた銀色の装甲とアームシールド、極端に大型化した右腕が特徴的で、性能より外見が重視されている。右腕は対戦相手を握りつぶすパフォーマンスにも使われた。

フォックス中尉のAT



ATM-09-SAC  
スコopドッグ  
アックススペシャル

決定稿

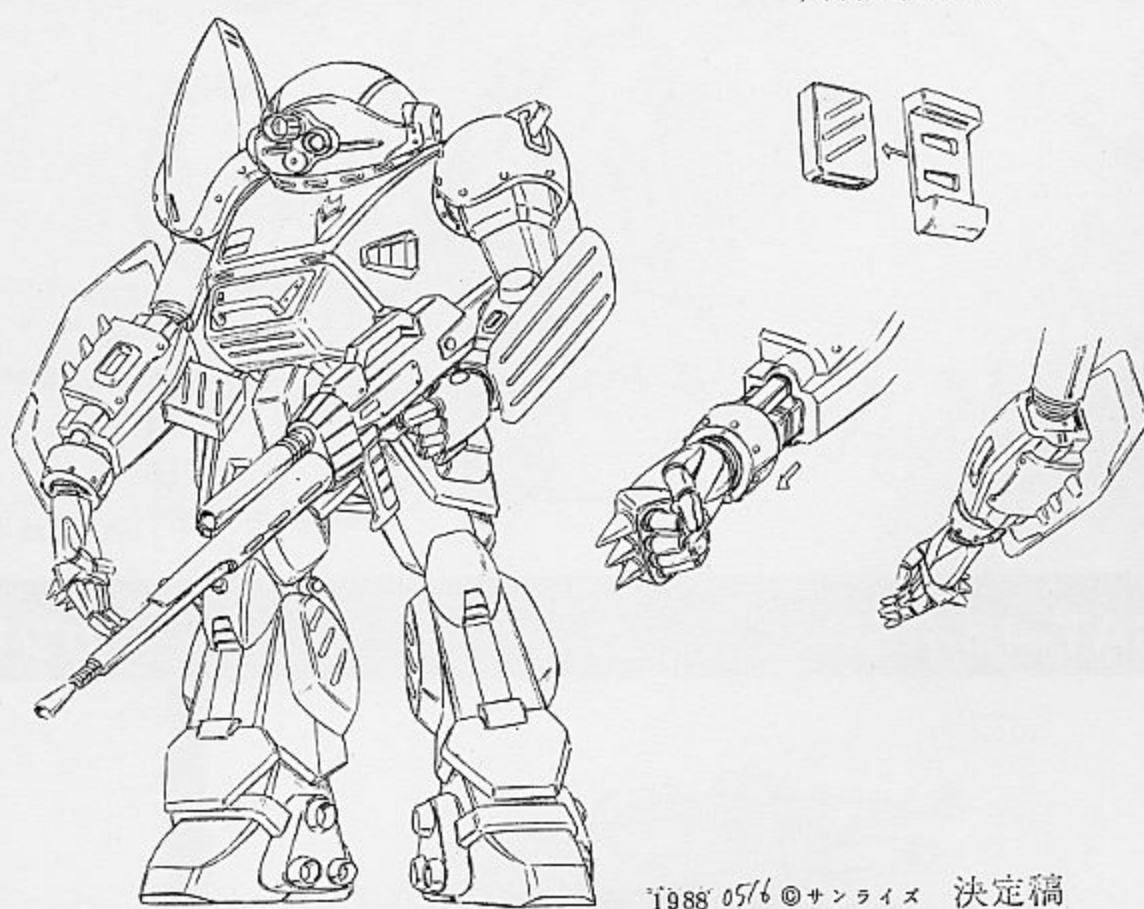
1988 05/6 ©サンライズ

クラス	M級
全高 (mm)	4667
全長 (mm)	1785
全幅 (mm)	1987
乾燥重量 (kg)	6968
最大装甲厚 (mm)	14
GH限界走行速度 (km/h)	88.1
固定武装・装備	アームパンチ

## COMMENT

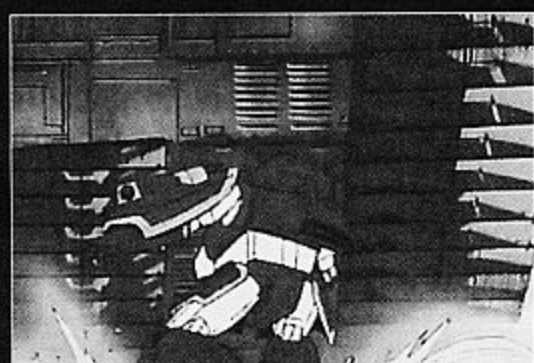
高橋：これははままさのりさんの世界だね。  
井上：何故そうしたのかはボくらには言えませんね。ライトスコopドッグは「ダグラム」に出てきたのと同じ発想ですが、でもこれ腕の部分はワンメイクものだよなえ、アームパンチの機構が入ってないし。  
大河原：この部分は人が乗るから無理だけどこっちは外せる、という感じで極限まで軽量化しました。

フォックス中尉のAT

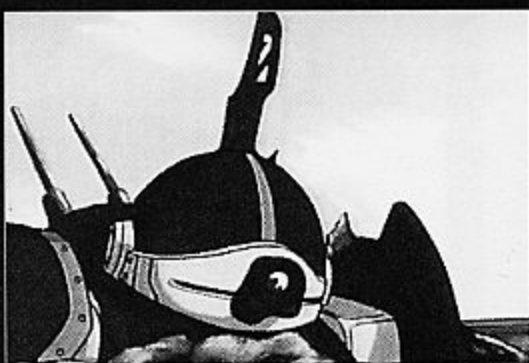


1988 05/6 ©サンライズ 決定稿

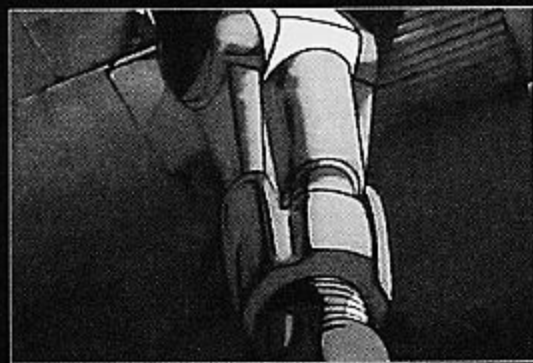
## ON THE FRONT LINE



突撃しつつ相対速度を合わせ、地上戦艦の下面へと潜り込むベルゼリガイミテイト。(B)



イミテイトの頭部。トサカ状のパーツにもセンサーが搭載されているように見える。(B)



ライトスコopドッグの右腕は、アームパンチ機構の省かれた一品物であるらしい。(B)

FILE ▶ 14 スコープドッグ系カスタム2

SCOPE DOG CUSTOM  
FOR CLIME  
FILE >> 14

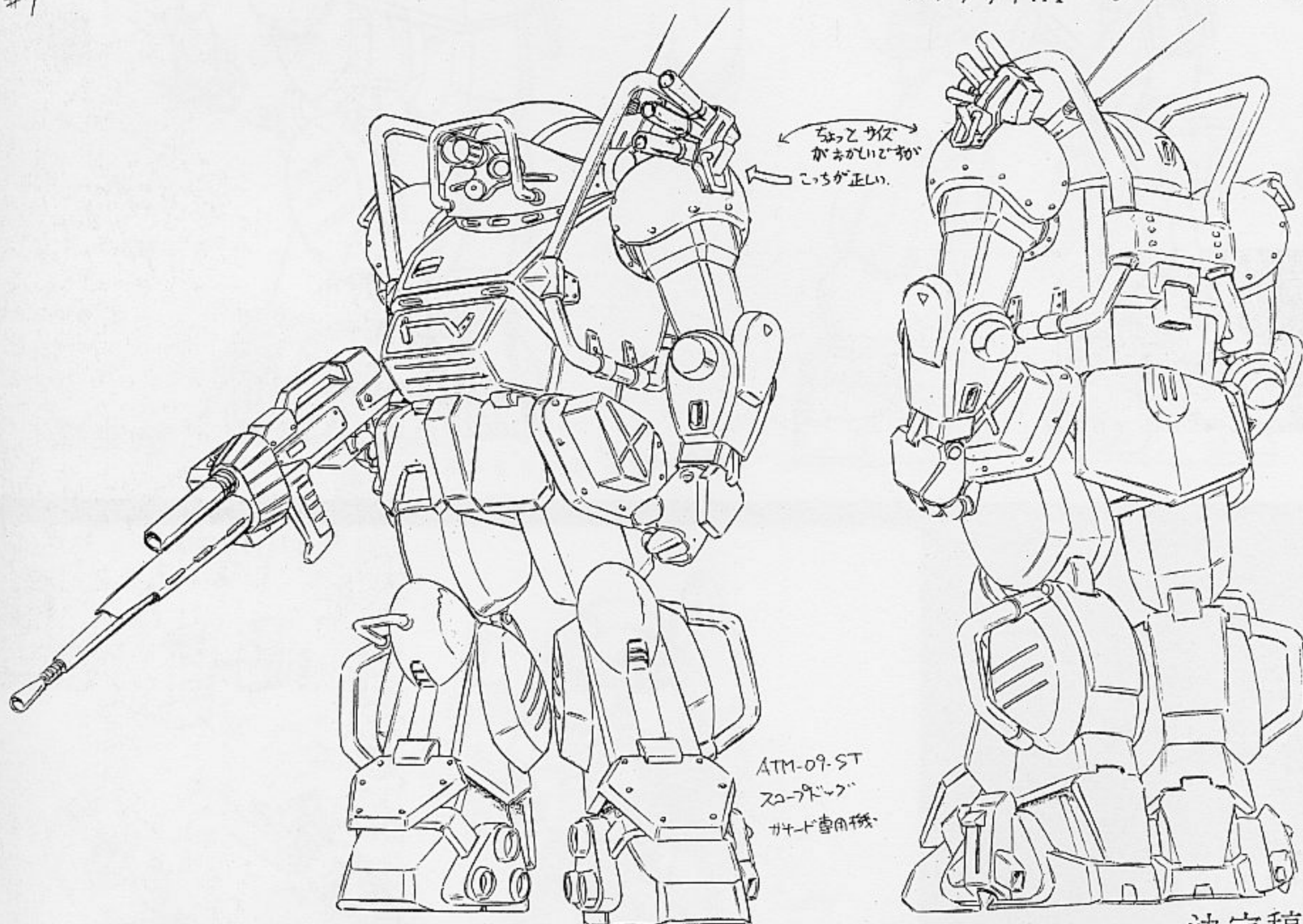
09系に特徴的な改造を施すのは、何もバトリング選手だけではない。軍よりも兵器類の改造が自由な非合法の武装集団ではATの改造は日常茶飯事で、それら改造機の多くは平凡なスクラップの寄せ集めに過ぎないが、一部には優秀な機体や想像を絶するような機体も存在する。ここでは、極端かつ優秀な改造機で有名なパラシュート山脈の山賊のガンナー味の機体の中から、09系に分類可能なものを取り上げる。

⊕ ガナー専用機

バンデットのリーダーが使用していた機体。ローラーによる補強が施されている他、予備マガジンをアームパンチ用のGAT-22用に変更するなど、山賊稼業に向けた改造が行われている。

#7

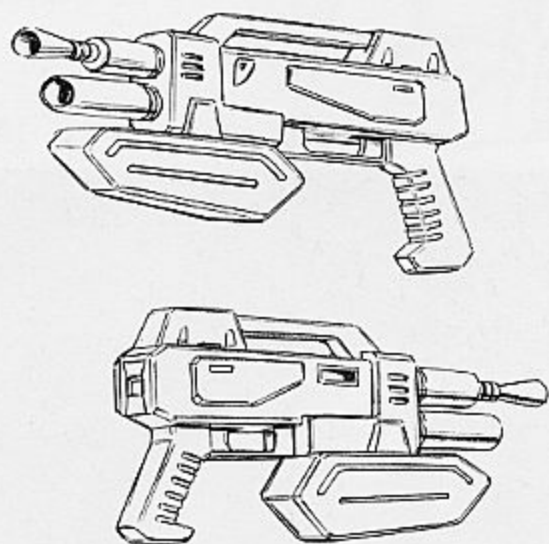
バンデットAT C (ガンナーのAT)



© 1988 SUNRISE INC. 0720

決定稿

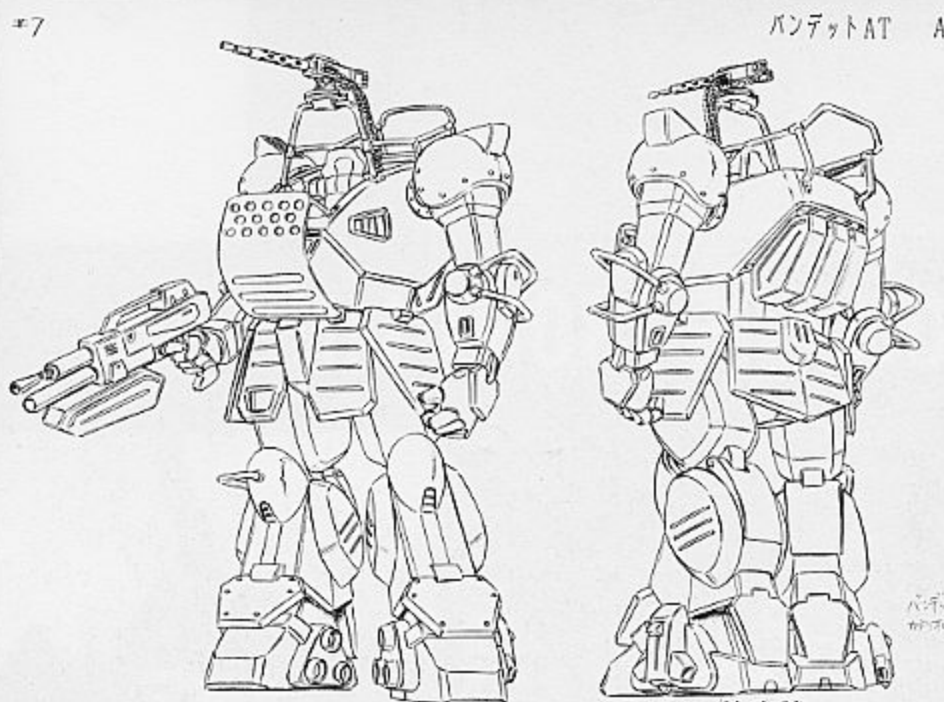
⊕ GAT-45-RSC-C



© 1988 SUNRISE INC. 0721 決定稿

ブラッドサッカー用に開発されていたGAT-45のショートバレルカスタム。実は正規品ではなく図面を入手した企業によるコピー品で、一部民間市場にそれなりに出まわっているようだ。

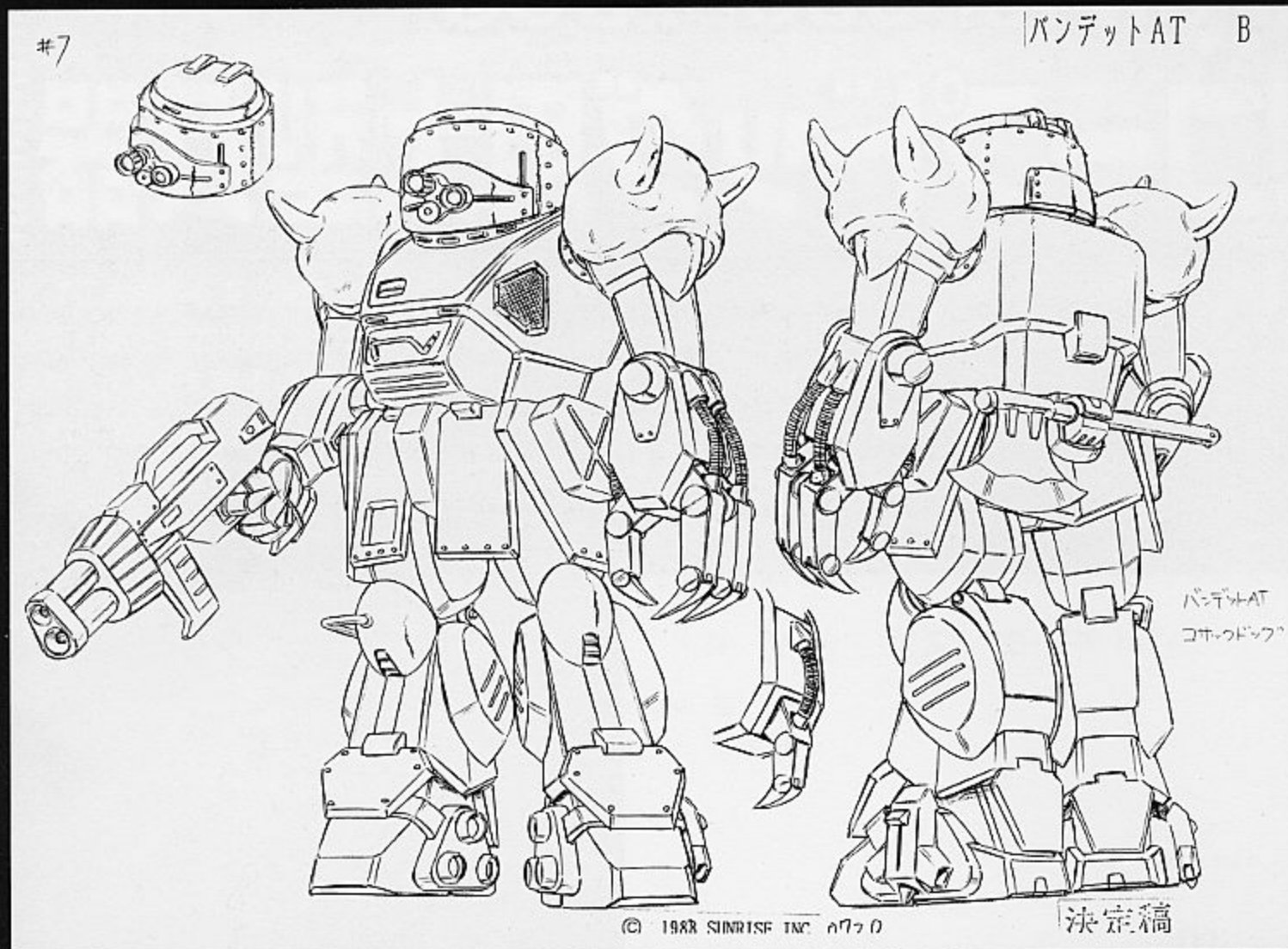
⊕ カブリオレドッグ



© 1988 SUNRISE INC. 0720 決定稿

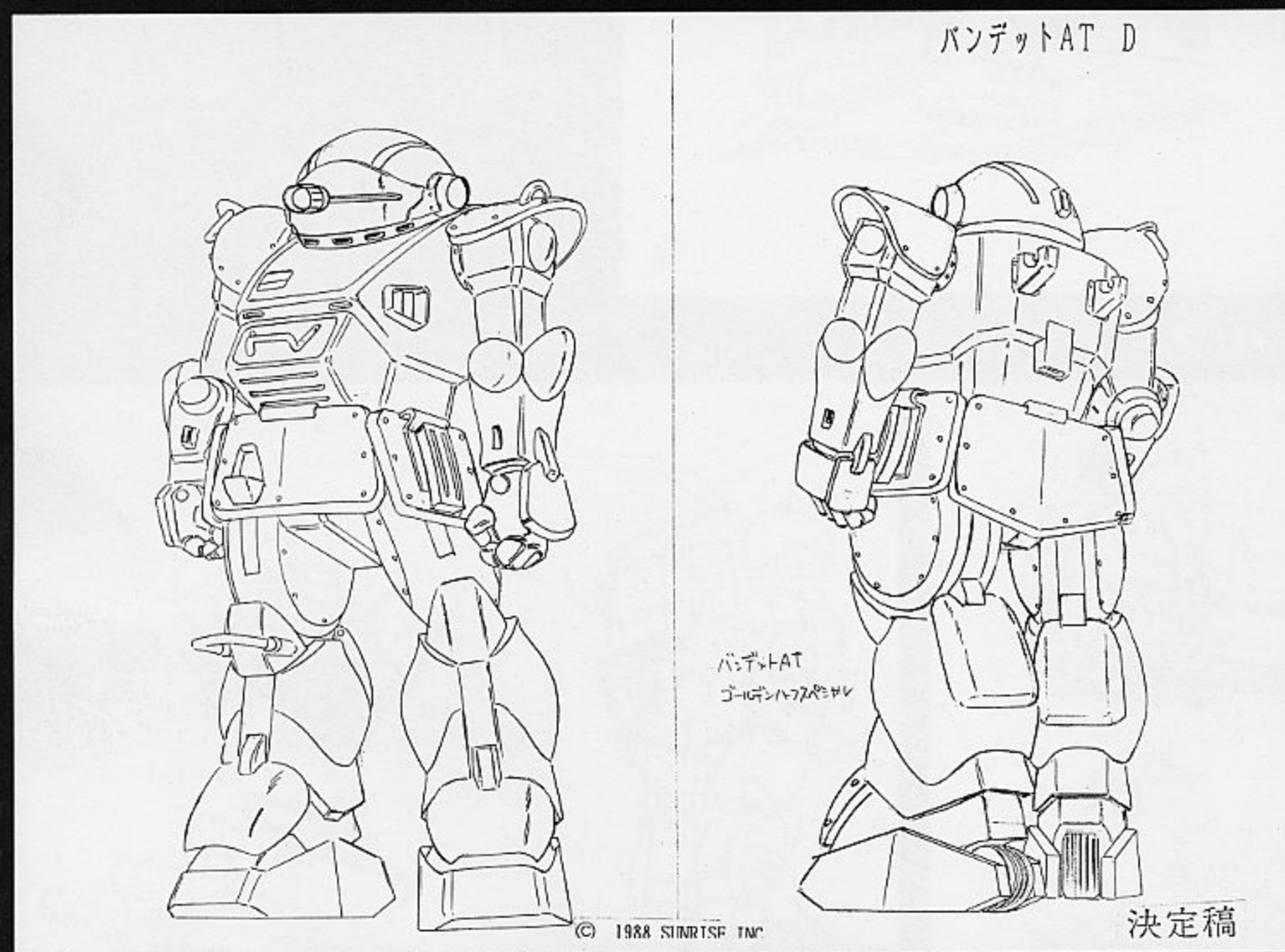
09系の頭部を外してオープンにした、独特の機体。上部の重機には専門のガンナーが付くため、対人戦闘には有効。なお、カブリオレドッグの名称は新聞紙上で使われた愛称である。

⊕ コサックドッグ



特徴的な頭部とクローを持つ機体。対AT戦闘は重視していないようだが、偵察や示威行動には有効だと思われる。また腰部にはATサイズの斧が装備され、車両の破壊に使っていたようだ。

⊕ ゴールデンハーフスペシャル

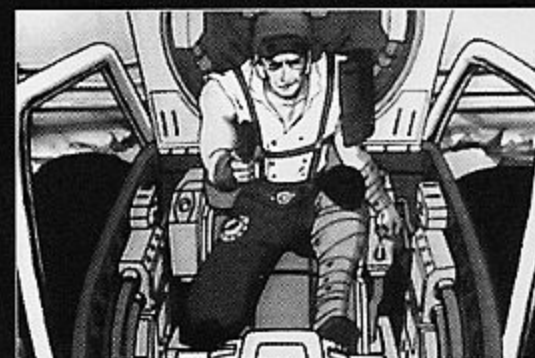


09系と14系の部品を繋ぎ合わせた、無茶な合成AT。一応はM級とされているが、その推定ですら疑問符がつく。バンデットには並外れた技術を持つ人材がいたと思われる原因ともなった。

▶ COMMENT

大河原：「メロウリンク」に出てきた山賊のATですね。これは個々の機体ごとに指定がありました。山賊の首領のATのガードですが、ガードは放射線に出ずとかっこいいんですよ。ロボットっていうのは、一点から放射線に広がっていくデザインだとかっこよく見えるんです。他の山賊のATはスクラップの組み合わせですが、ボトムズはスクラップからロボットが作ってしまう世界ですからね。キリコだって最初の頃はやっていましたし。

▶ ON THE FRONT LINE



リーダーの機体のロールバーは、機体動作に一切干渉しない様に工夫されている。(M7)



カブリオレドッグの人員配置。コックピットの位置自体が前方にずらされている。(M7)



バンデットはATを単体では使用せず、ダンクなどとの混成部隊として襲撃を行う。(M7)

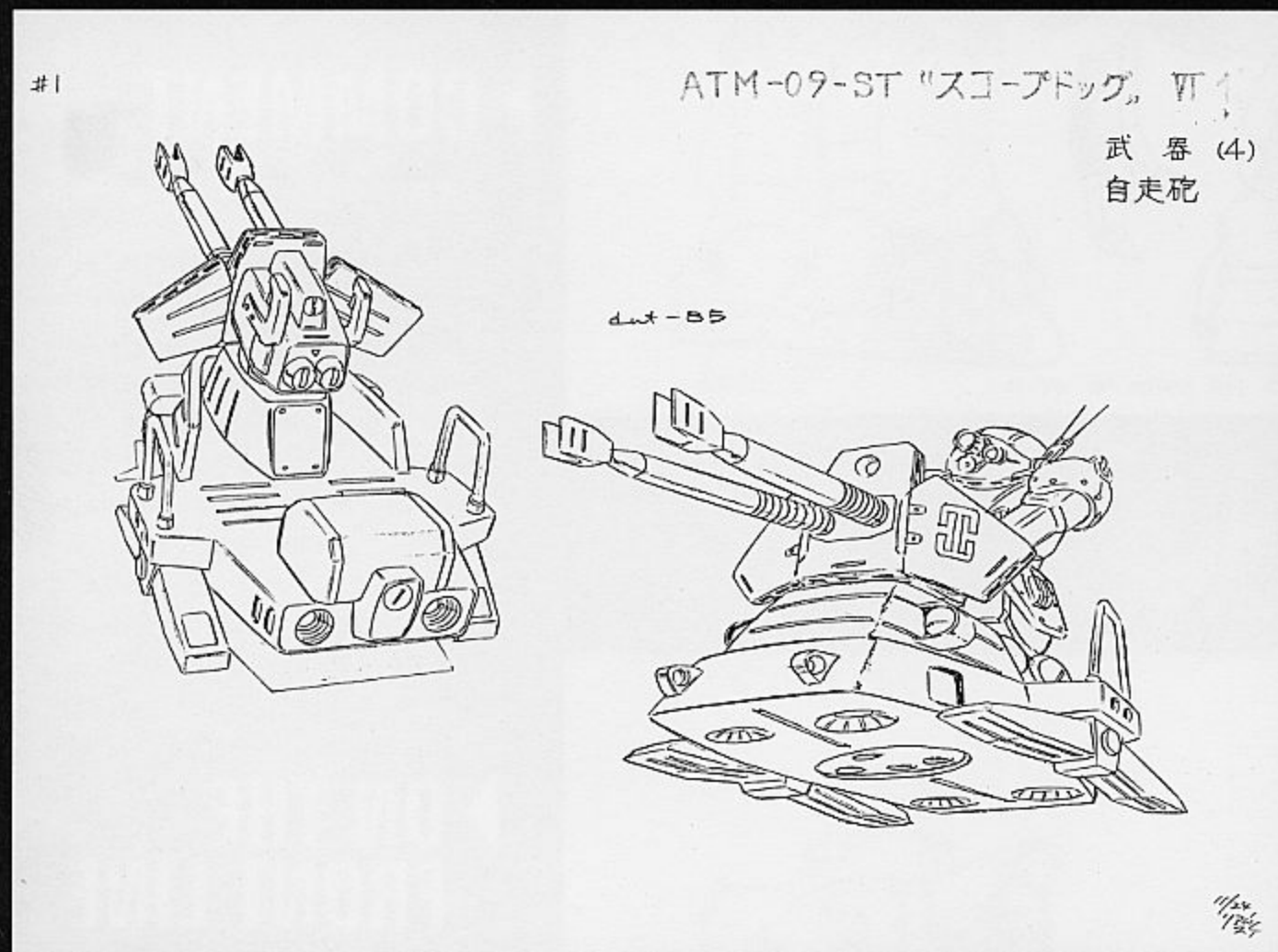
# LARGE WEAPON for SCOPEDOG

## FILE 15 スコープドッグ用大型兵器

### LARGE WEAPON FOR SCOPEDOG FILE 15

軍内部に広く浸透している09系ATの装備の中には、ATによって操作する車両とでも言うべき大型兵器が存在している。その代表例は、戦闘半径を大きく拡大させる強行突撃ブースターシステム・ドッグキャリアーであり、拠点防衛用のAT用自走砲スタイガーである。これらの兵器は09系の持つ汎用性を劇的に拡大させるシステムであり、09系を語る上で切っても切れない存在であると言える。この2つの兵器を取り上げてみよう。

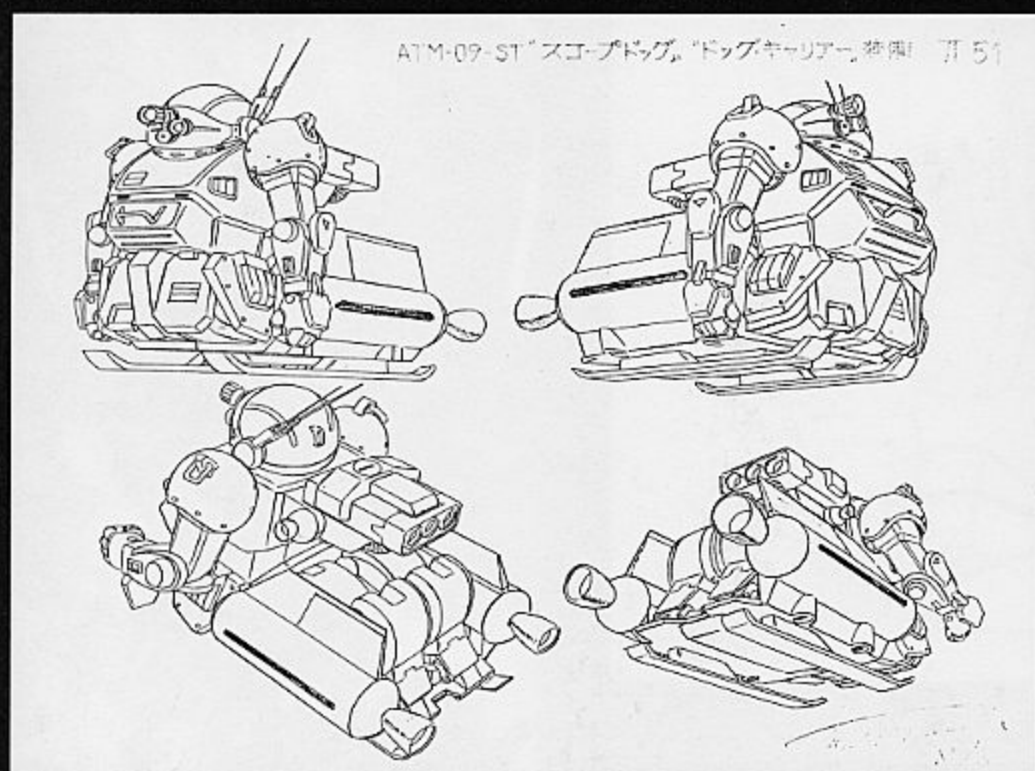
#### ⊕ ATC-AFV02 スタイガー



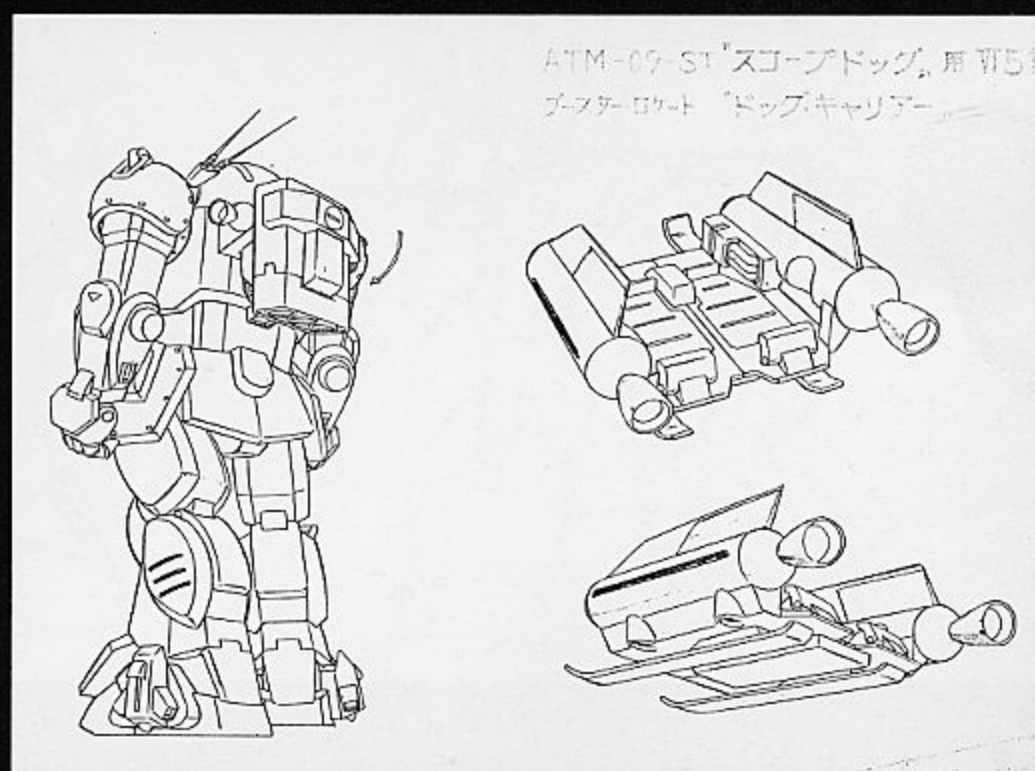
ATM-09-ST "スコープドッグ、AT用自走砲 (4)

ATサイズの自走砲。宇宙空間でのAT支援兵器として開発されたものだが、地上での対地・対空装備としても使用できる。装甲は貧弱だが強力な連装キャノン砲とホバーによる移動力を併せ持つため、拠点防衛や局地戦などにその真価を発揮する。宇宙基地の防衛などには特に有効と評価され、かなりの数が配備されている。

#### ⊕ ATC-BR3-S ドッグキャリアー



ATM-09-ST "スコープドッグ、ドッグキャリアー (4)



ATM-09-ST "スコープドッグ、用AT用ブースターロケット "ドッグキャリアー"

降着状態のスコープドッグに装備する、宇宙空間用の強行突撃ブースターシステム。基本的には推進剤を積んだAT用のソリに過ぎないが、その能力には定評があり、高速性能の高さから砂漠用高速移動システムに転用されている。なお、使用には専用バックパックを装着する必要があり、こちらも補助的ながかなりの推進力を持つ。

### ▶ COMMENT

高橋：自走砲は砲台の延長。要塞の中を自由に移動できる砲台みたいなもの。  
井上：何でもやっつけてしまえの時代ですね (笑)。拠点内での移動しか考えていない機体ですから、これでいいと思います。それからドッグキャリアーは降下してそのまま砂漠で使えるものをというオーダーに従って作ったやつ。ある程度飛行できて、地上に降りたら「ソリいっ」とか言いながら「砂漠だしいいか」と使っていました。だから両用です。

BRUTISHDOG

ATM-09-GC

# FILE▶ 16 ブルーティッシュドッグ

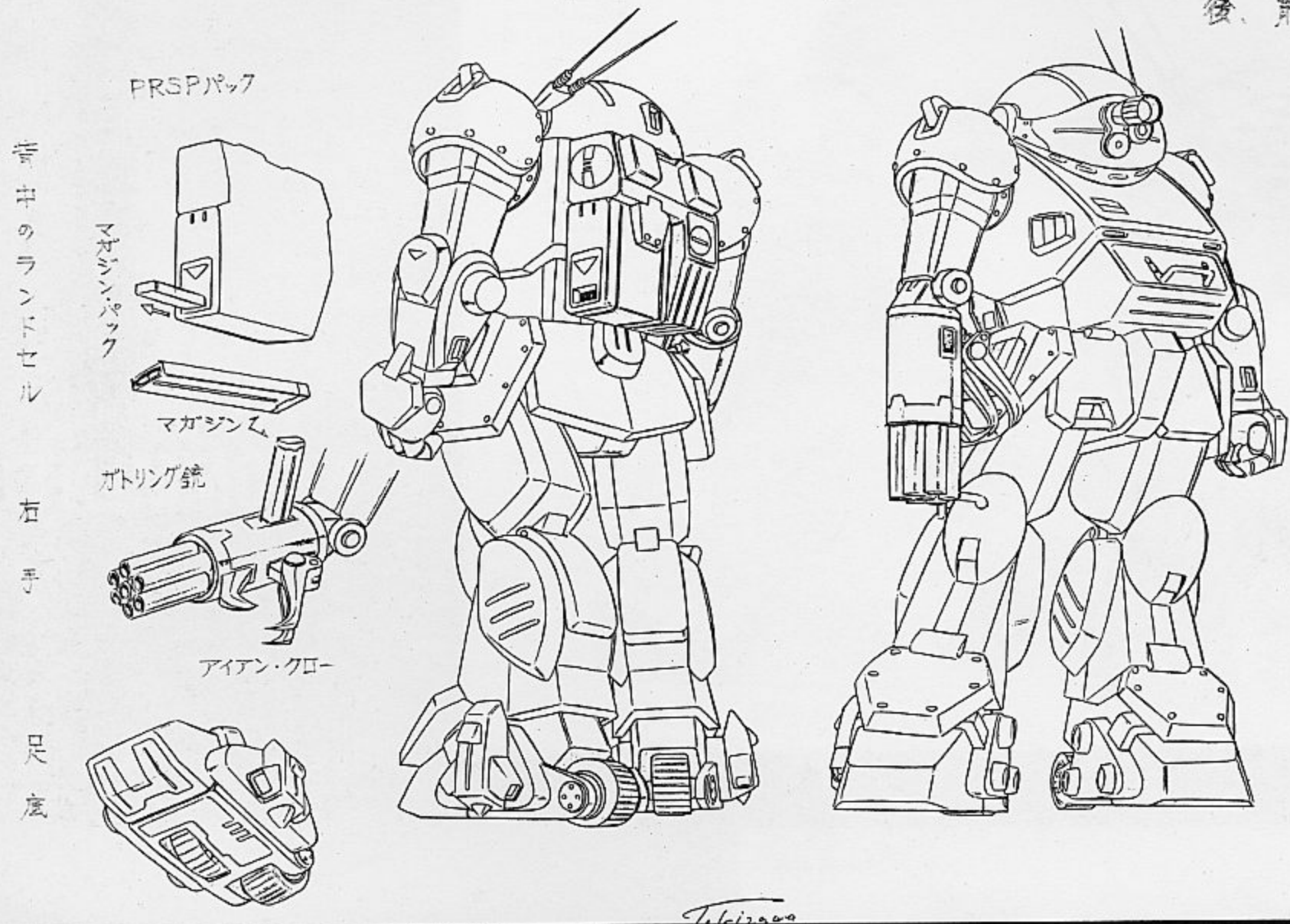
BRUTISHDOG  
FTCE>>ii

PSのデータ収集を目的として制作されたカスタムAT。M級初の固定重火器である7連装ガトリングガンと格闘用アイアングローを右腕に追加し、制御系、MCパック系もチューンナップされている。特にMCパック系はPRSPパックの装備によって他の09系の追従を許さない運動性を獲得し、総合戦闘能力はH級に匹敵する。しかしPSを基準にセッティングされているため、通常のパイロットには扱えない機体になってしまっている。

ATM-09-GC “ブルーティッシュドッグ” 7/8

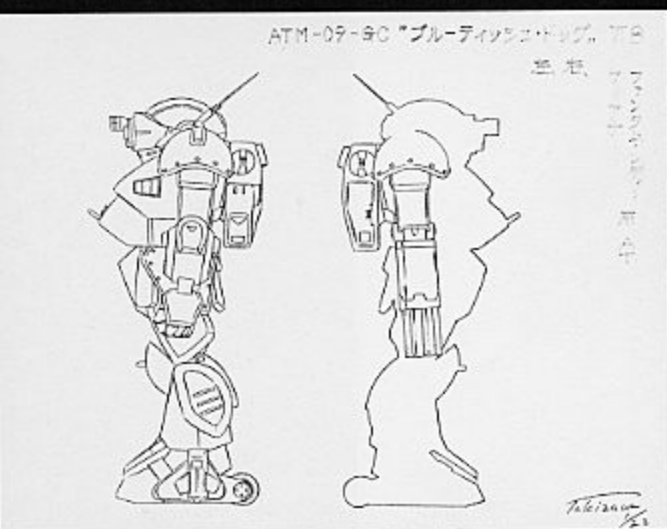
後、前

フランク・ムンク  
フイ・アナ  
系△

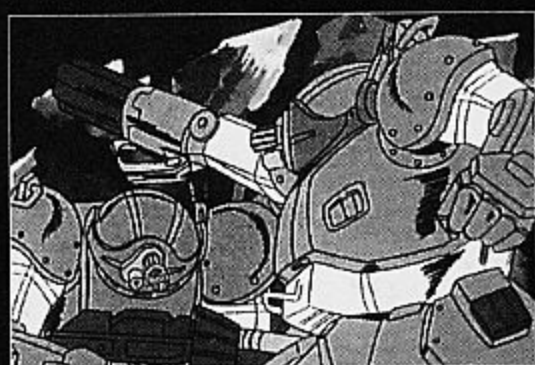


## COMMENT

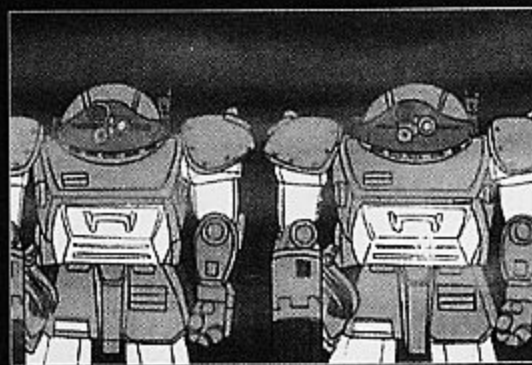
高橋：爪の部分はフランスのソムリエナイフをイメージしたんだよね。名前忘れたけど、有名なメーカーの奴。  
井上：爪の形はリメイクされていますものね。もっと優美に、とか。デザインそのものはプラモ開発側の問題がありまして、ライバル機を出すならこれだけの改修で、というオーダーが先に指定されました。具体的には6オンスの金型に収まるような改造という事です。



## ON THE FRONT LINE



ガトリング砲の下のグローは射撃中さほど目立たず、意図しない隠し武器となった。(8)



クメンで確認された2機の同機。PSの試験や訓練などに用いられていたと思われる。(25)

クラス	M級
全高 (mm)	3804
降着時全高 (mm)	2208
全長 (mm)	2201
全幅 (mm)	2349
乾燥重量 (kg)	6729
基本待機重量 (kg)	6983
最大装甲厚 (mm)	14
最小装甲厚 (mm)	6
GH限界走行速度 (km/h)	85.2
GH巡航走行速度 (km/h)	52
GH最大出力 (hp)	250
GH最大トルク (kg/m)	72
MCパック系	スレック方式、1P-MJ-S4
使用PR液 (hp/12)	DT-MS 11.5
PR液総量 (l)	169
予備タンク容量 (l)	20 (PRSP使用時)
標準液交換時間 (h)	147
制御コンピューター	MCT-128-CII
固定武装・装備	アームパンチ (左腕のみ)、 ガトリング砲、アイアングロー、PRSPパック
開発団体	アデルハビッツ社 (原形のみ、秘密結社によるカスタムモデル)
開発年度 (製作年度、登場年度)	7214

FILE

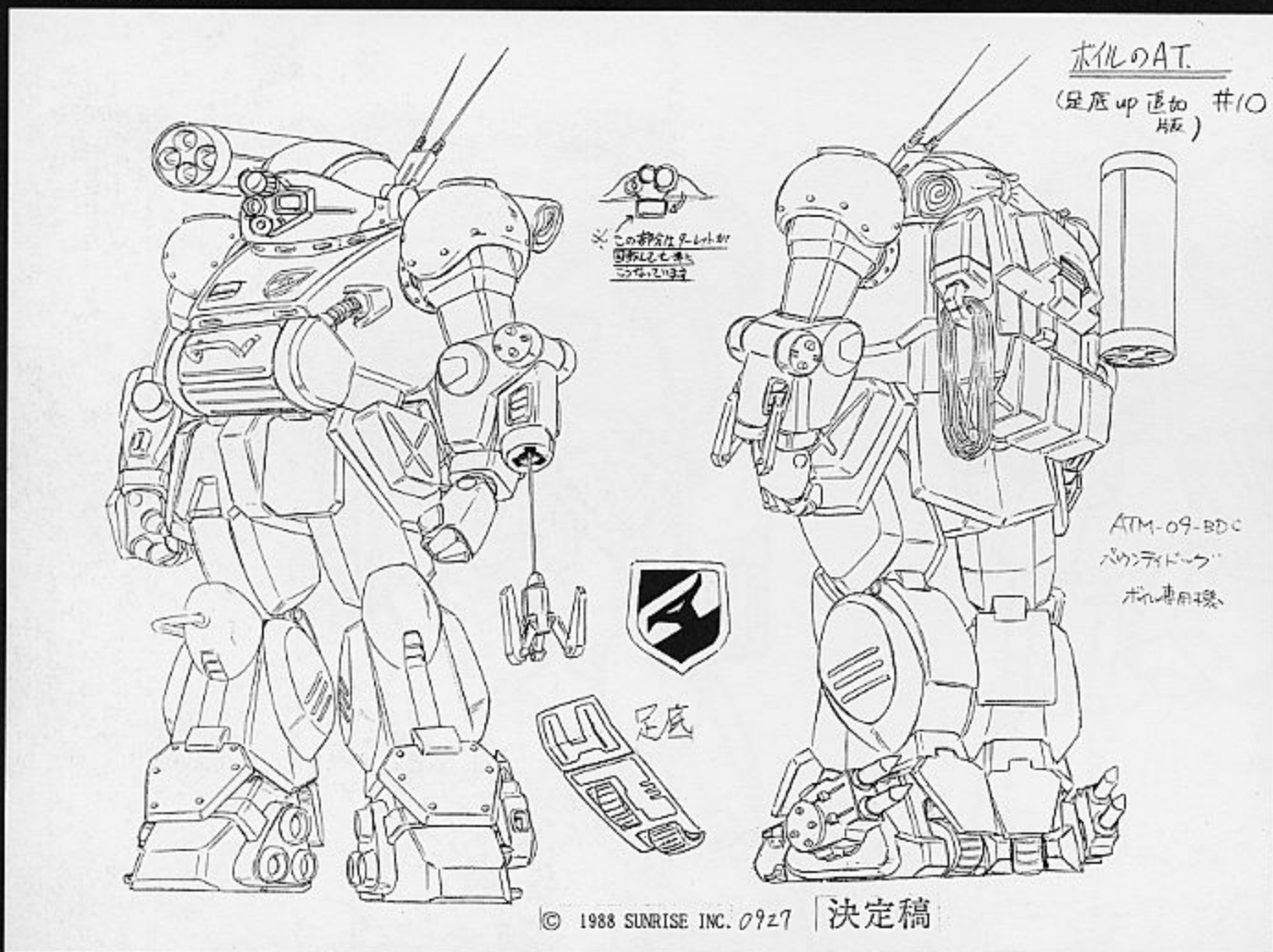
17

## バウンティドッグ

BOUNTY DOG  
FILE >> 17

ギルガメス軍制式M級AT。09系の強力なカスタムモデルで、一説には後継機種として開発されたとも言われている。その改修は機体全体に及び、グライディングホイールの大出力化、脚部のダブルターンピック、ワイヤーウィンチなどの装備によって急斜面の登坂や不整地走行能力が向上している。また隠密性にも配慮され、腹部には電子機器冷却用の水冷式大型ラジエーターを持つ。基本的に特殊部隊のみに配備されている。

## + 指揮官用



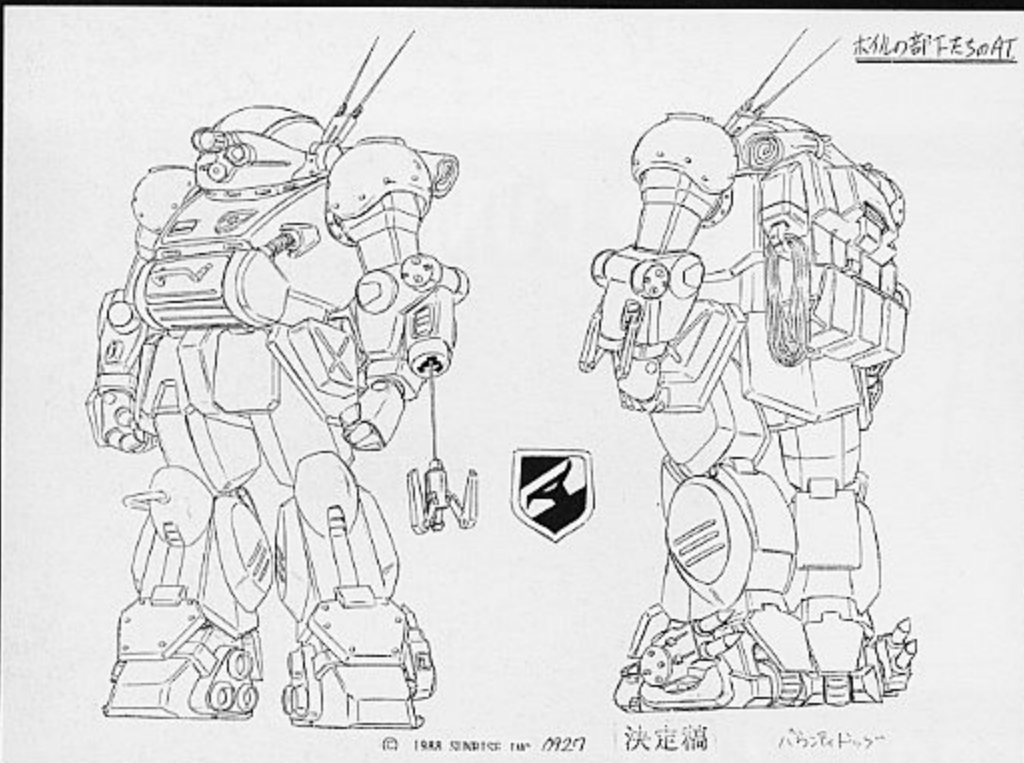
© 1988 SUNRISE INC. 0927 決定稿

クラス	M級
全高 (mm)	3894
全長 (mm)	1778
全幅 (mm)	1944
乾燥重量 (kg)	6995
最大装甲厚 (mm)	14
最小装甲厚 (mm)	8
GH限界走行速度 (km/h)	99.2
MCバック系	スレック方式、1P-MJ-S2
使用PR液 (hp/l2)	DT-MO2
PR液総量 (l)	184
標準液交換時間 (h)	158
制御コンピューター	MCT-128-C
固定武装・装備	アームパンチ、ワイヤーウィンチ

## ▶ COMMENT

大河原：ピックを打ちながら登っていくATですね。登山用の機体で、『メロウリンク』ですから神田さんですか。これに限らないんですが、神田さんって細かいところが判ってて指示が適切で、構造までは細かく指定されないんだけどこういう物が欲しいという指示はあって、その構造をこっちで考えるという感じでやっていたんです。多摩美出身ですからご本人は絵も上手いんですが、オーダーでは大抵の場合「要素はこんな感じ」という絵まででしたね。

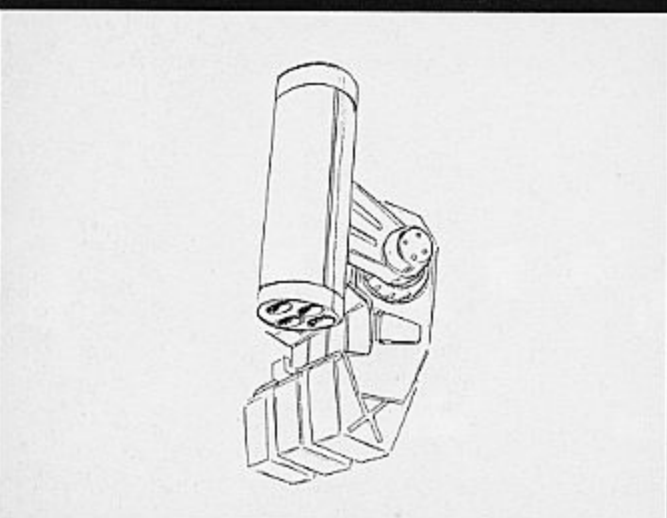
## + 一般兵士用



© 1988 SUNRISE INC. 0927

決定稿

こちらは一般兵士用。指揮官機との差はコマンドーズヘッドとSMAT-37ショルダーロケット弾ポッド程度である。

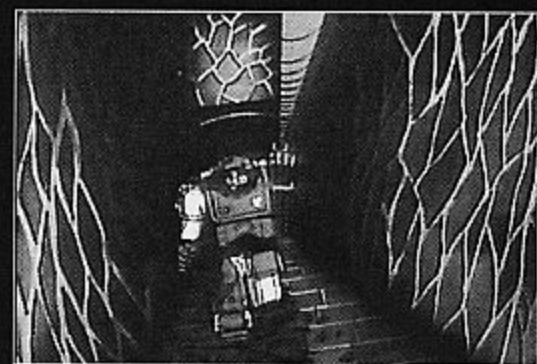
+ SMAT-36  
ショルダーロケット弾ポッド

パラシュートザックをベースに改良されたバックパック（指揮官用）。中央部にはGAT-22Cの派生型を固定できるように工夫され、移動に配慮されている。

## ▶ ON THE FRONT LINE



降着ポーズ。立った状態でヘリから無人で切り離され、着地時にこの状態になった。(M10)



ワイヤーを使った登攀。この装備は、後のエルドスピーネなどにも使用されている。(M10)

# BLOOD SUCKER

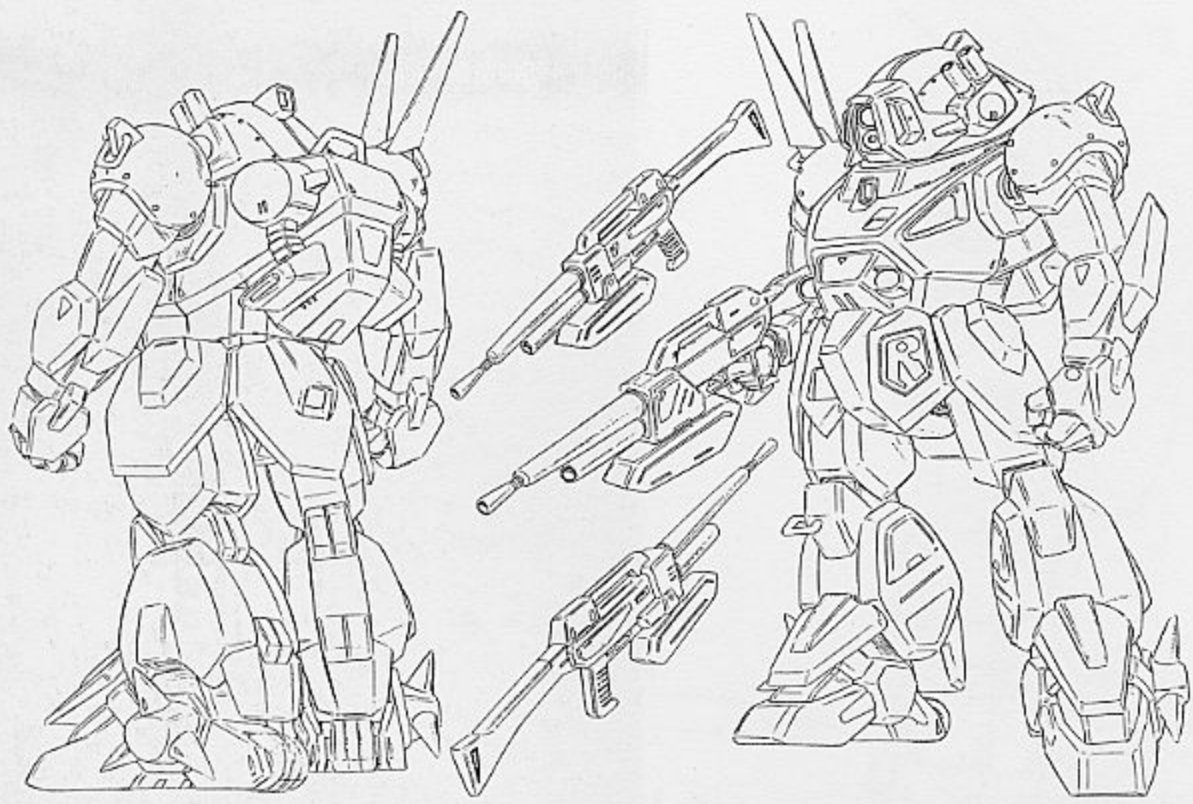
# X-ATH-P-RSC

## FILE 18 ブラッドサッカー

### BLOOD SUCKER FILE 18

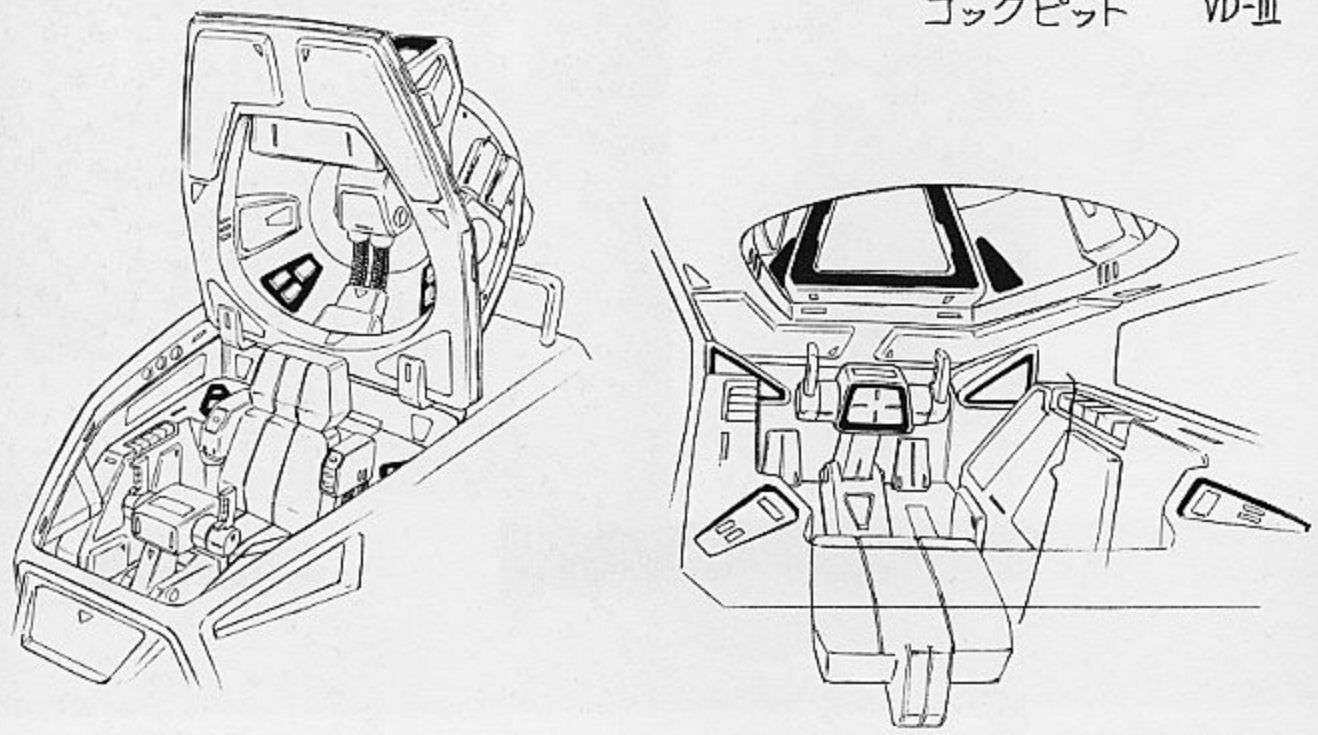
試作H級AT。O9系の設計思想をH級に拡大し、後に続くH級ドッグシリーズの嚆矢となった機体。悪天候や生存不可能環境への適応に優れ、汎用性に加えてH級の大出力まで備えるという理想的な性能を誇る。また火器管制とショートレンジセンサーの強化も行われている。これらはローレック方式のMCパック系を始め、多数投入された新技術によって実現されたものだが、コスト面の問題などを抱え込む結果にもなっている。

レッド・ショルダーのAT XATH-P-RSC "ブラッドサッカー", V-III  
BLOODSUCKER



クラス	H級
全高 (mm)	4380
降着時全高 (mm)	2920
全長 (mm)	2524
全幅 (mm)	2888
乾燥重量 (kg)	7639
基本待機重量 (kg)	7932
最大装甲厚 (mm)	15
最小装甲厚 (mm)	5
GH限界走行速度 (km/h)	82
GH巡航走行速度 (km/h)	53
GH最大出力 (hp)	395
GH最大トルク (kg/m)	130
MCパック系	スレック方式改、1P-ML-S4
使用PR液 (hp/12)	DT-MS-P 11.5
PR液総量 (l)	195
予備タンク容量 (l)	30
標準液交換時間 (h)	80
制御コンピューター	MCM-1MX
固定武装・装備	アームパンチ、 スモークディスチャージャーx2
開発団体	アデルハビッツ社、秘密結社
開発年度 (製作年度、登場年度)	7214

RED.3 レッドショルダーのAT XATH-P-RSC "ブラッドサッカー", (内) V-T  
コックピット VD-III



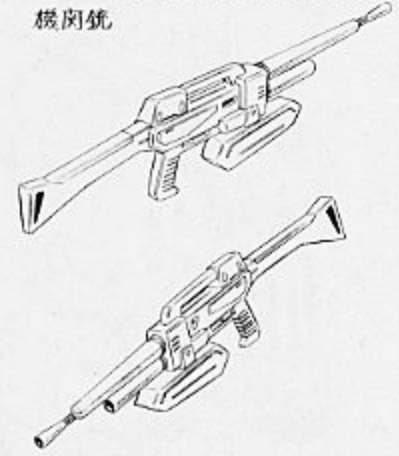
### + コックピット

被弾面積を減らすため、独特の絞り込んだ形状を持つコックピット。そのためM級並の居住性しかなく不評だった。

### ▶ COMMENT

大河原：これはスコープドッグをどこまで変えられるか、良輔さんがダメというギリギリの線を見極めようとしてつっつデザインしました。放映から何年か経ってしまして、'スコタゴ'とかばかり言われているのもちょっと痛なんで、ATでも格好いいのはできるんだよ、ということをやりたいかったですね。それで丸い頭のシルエットが微妙に隠れていたり、ヒーロー性として二枚の羽根をつけたりしているんです。

レッドショルダーのAT XATH-P-RSC "ブラッドサッカー",  
機関銃

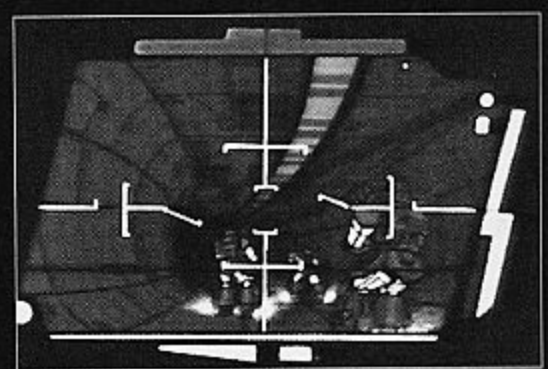


### + GAT-45RSC ブラッディライフル

### ▶ ON THE FRONT LINE



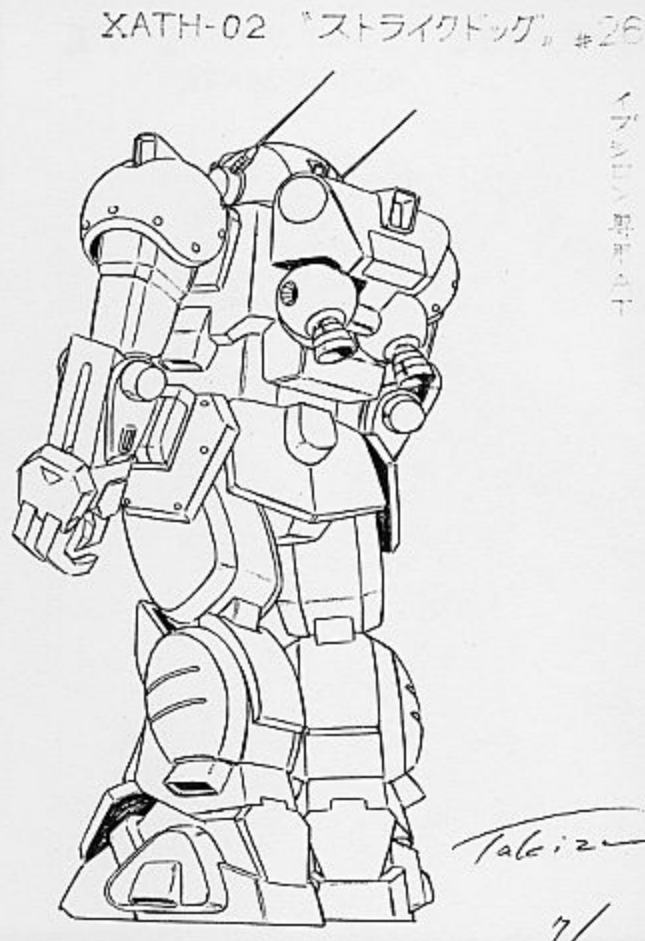
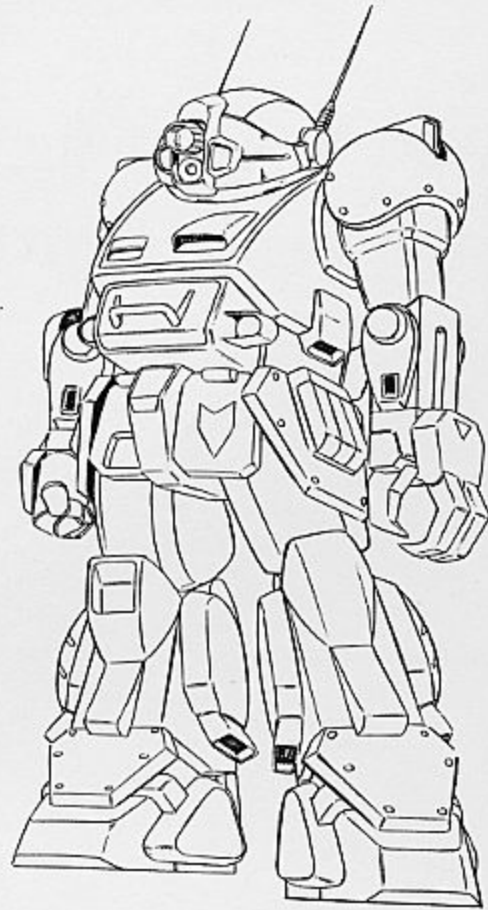
ATのモニター越しに捉えられた同機。血の色に塗られた肩が極端に目立っている。(L)



これはブラッドサッカーのモニター画面。まだO9系のシステムに近いのが判る。(L)

STRIKE DOG  
FILE >> 19

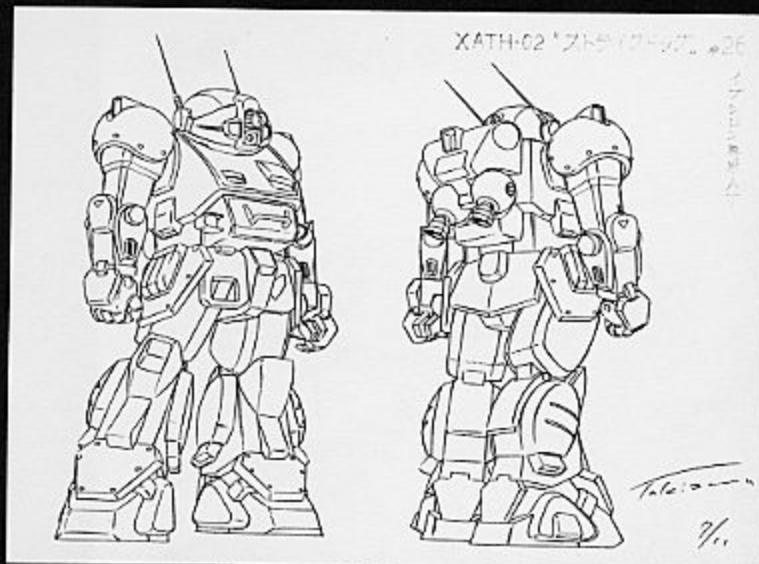
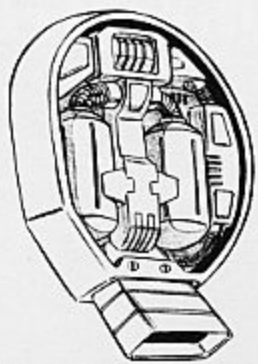
PS用H級ATで、純粋にPS用として設計された初の機体。バックパックと脚部に装備されたスラスターにより、宇宙空間では比類無い機動性を発揮し、大気圏内では短時間ながら飛行を可能としている。また左腕はアームパンチ機構と11mm機関銃を内蔵したアイアンクローとなっている。一方、最高性能のPRSPを装備しているにも関わらず大出力MCによるPR液劣化に追いつかず、稼働時間や整備性に大きな問題点を抱えている。



クラス	H級
全高 (mm)	4250
降着時全高 (mm)	2625
全長 (mm)	2500
全幅 (mm)	2128
乾燥重量 (kg)	7322
基本待機重量 (kg)	7750
最大装甲厚 (mm)	14
最小装甲厚 (mm)	6
GH限界走行速度 (km/h)	98
GH巡航走行速度 (km/h)	60
GH最大出力 (hp)	410
GH最大トルク (kg/m)	160
MCバック系	
スレック方式改 (ローレック方式)	3P-LL-S4
使用PR液 (hp/l2)	DT-MS-P 11.5
PR液総量 (l)	200
予備タンク容量 (l)	58 (PRSP使用時)
標準液交換時間 (h)	22
制御コンピューター	MCM-2MX
固定武装・装備	
11ミリ機関銃x1、アイアンクロー、アームパンチ	
開発団体	秘密結社
開発年度 (製作年度、登場年度)	7214

⊕ ロケットエンジン  
ブースター

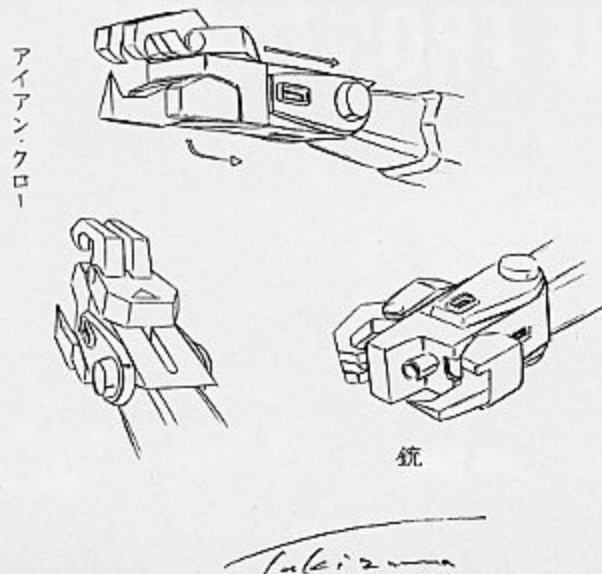
XATH-02 "ストライクドッグ"  
イアンクロー 宇宙用AT  
ロケットエンジン・ブースター



左側からのカット。左右非対称の構造のため、印象には大きな差がある。強化されたスラスターも目立つ。

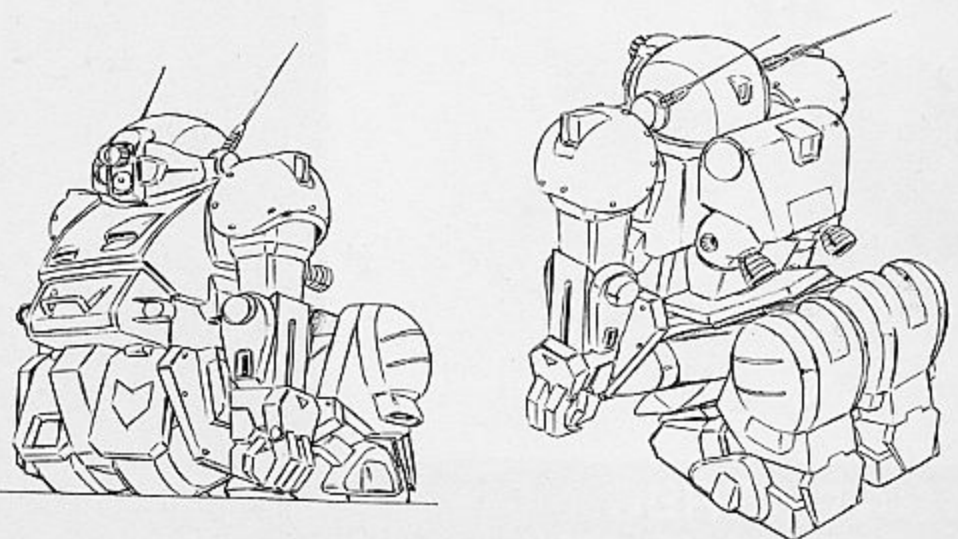
⊕ アームパンチ機構

XATH-02 "ストライクドッグ" 武器 #26  
アームパンチ機構 アイアンクロー、アームパンチ機構、銃



⊕ 降着ポーズ

XATH-02 "ストライクドッグ" #27  
イアンクロー等AT 降着ポーズ



▶ COMMENT

高橋：クメンの最後、お城にみんなが攻め込むところで初登場したんだよね。  
井上：意外と局地防衛戦用かな？ 今風に言えば。あと目のレンズは二つだけで左右の四角くて赤いのはセンサーです。  
大河原：設定的にはともかく、デザイン的にはスコープドッグのバリエーションとして考えました。より高度な機器が使われていると一見してわかるのはどんなデザインなのかと、ヒーロー性を入れ込んだらどうなるかという切り口ですね。

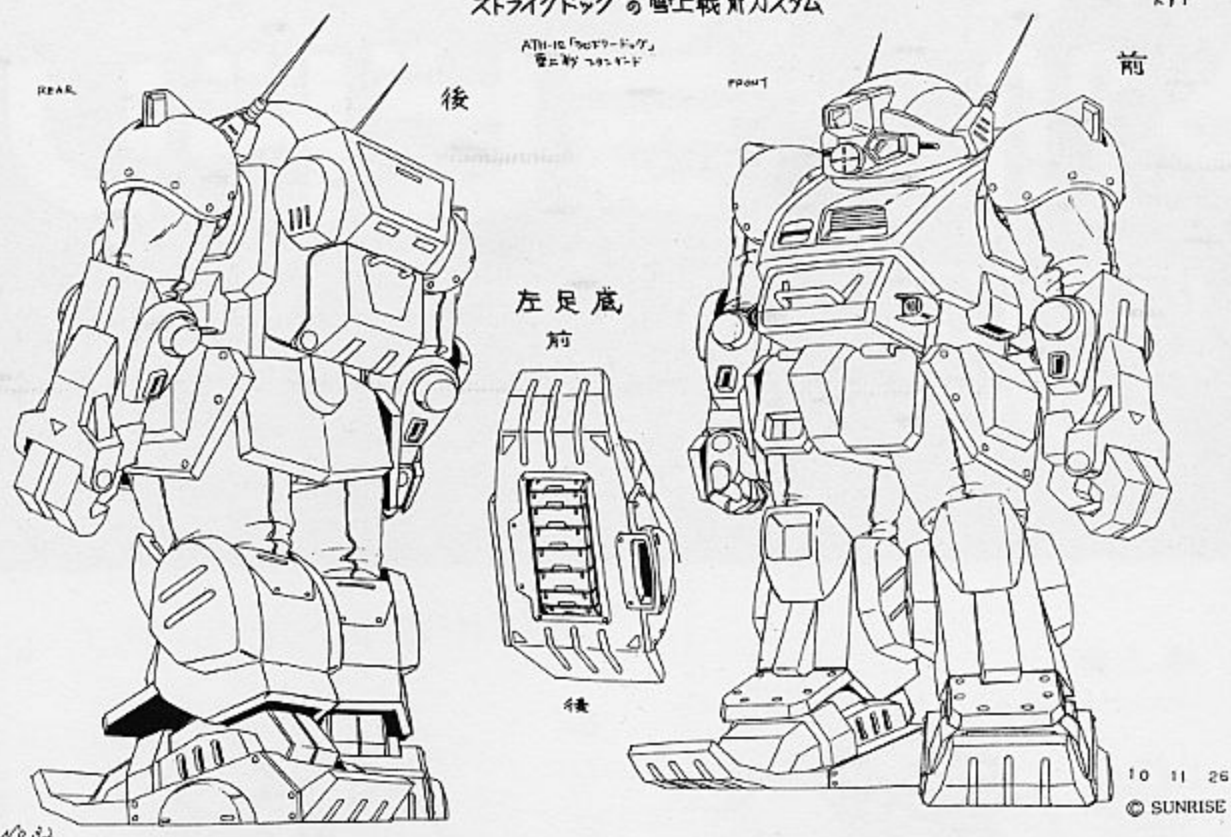
## ATH-12-SNC フィアズリードッグ

ストライクドッグ系の数少ないバリエーションモデル。ヒーターと断熱服、雪上用の脚部を装備した寒冷地仕様で、H級には珍しく近～中距離戦闘を得意としている。生産数は少数に留まっている。

クラス	H級
全高 (mm)	4285
全長 (mm)	2615
全幅 (mm)	2929
乾燥重量 (kg)	7555
最大装甲厚 (mm)	15
限界走行速度 (km/h)	120.0
固定武装・装備	11ミリ機関銃x1、 アイアークロー、アームパンチ

惑星ジオン

ATH-12-SNC "フィアズリードッグ" 99年4月18日  
ストライクドッグの雪上戦闘カスタム EYT-KG



## ATH-11-SA ガステイドッグ

ギルガメス軍の試作H級AT。形状は異なるが、ストライクドッグの影響を非常に強く受けた機体と言える。オプションなしでも宇宙戦闘が可能な機動性と、強力な近接戦闘能力を兼ね備えている。

クラス	H級
全高 (mm)	4299
降着時全高 (mm)	-
全長 (mm)	-
全幅 (mm)	-
乾燥重量 (kg)	7925
基本待機重量 (kg)	8263
最大装甲厚 (mm)	15
最小装甲厚 (mm)	5
GH限界走行速度 (km/h)	82.9
GH巡航走行速度 (km/h)	45
GH最大出力 (hp)	320

ガステイドッグ

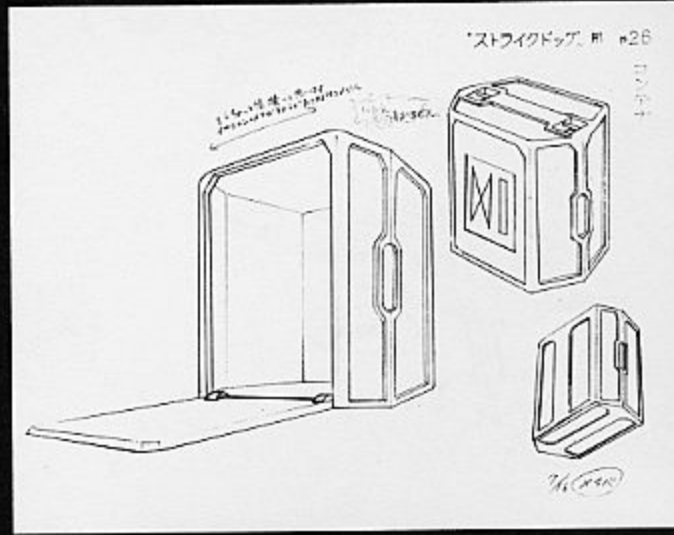
ATH-11-SA "ガステイドッグ"



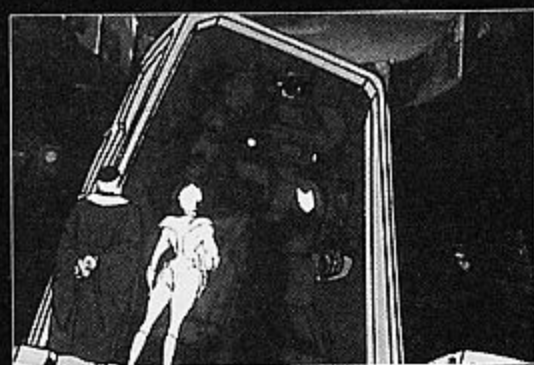
### ⊕ (左)AT降下用ポッド

### ⊕ (右)ストライクドッグ用 輸送コンテナ

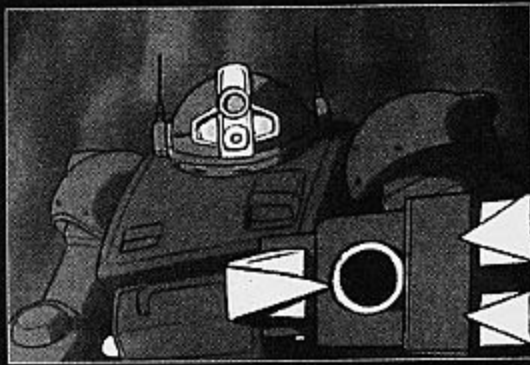
AT用の汎用降下ユニット。機種を選ばず使用出来るが、低高度の降下のみに対応している。



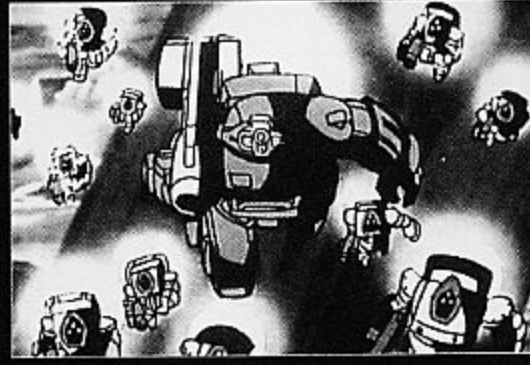
## ▶ ON THE FRONT LINE



専用コンテナで移送されてきた状態。サイズの関係で09用のもは使用できない。(26)

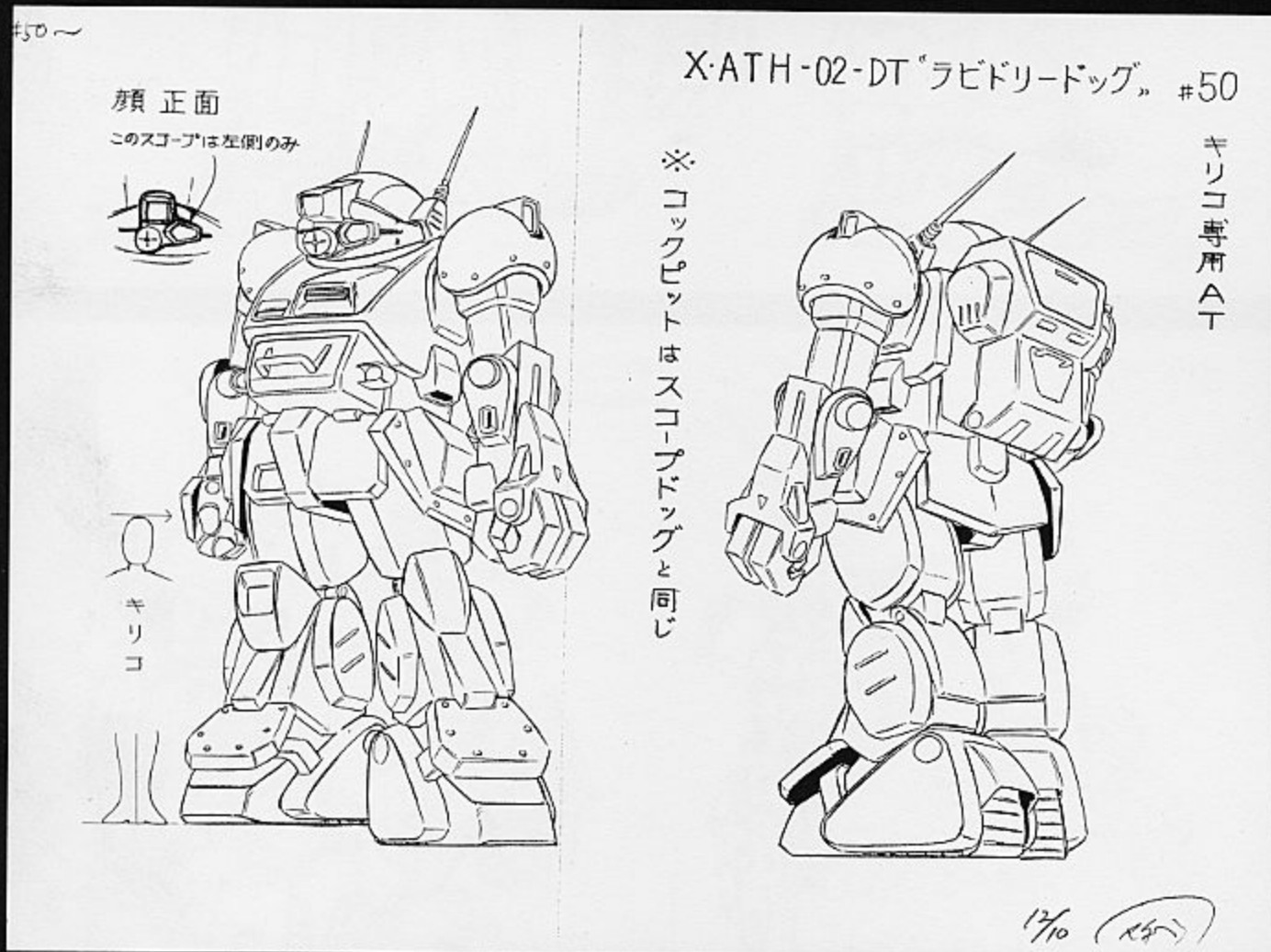


クローと機銃を組み合わせた左腕はブルーティッシュの右腕の発展型だと言える。(27)



大気圏内での飛行は驚異的な能力だが、あくまで短距離、短時間のことに過ぎない。(32)

秘密結社の試作H級ATで、後にギルガメス軍制式H級ATにもなる傑作機。ストライクドッグの量産設計機にサンドトリッパーを装備し、地上専用仕様としたもので、大型アイアンクローと爆雷内臓バックパックにより驚異的な攻撃力を持つ。またコックピット周りは09系と基本的に共通であるため、兵員の転換訓練も非常に容易である。ある意味ではH級ドッグシリーズの最終形態でもあるが、その生産数は決して多くはない。

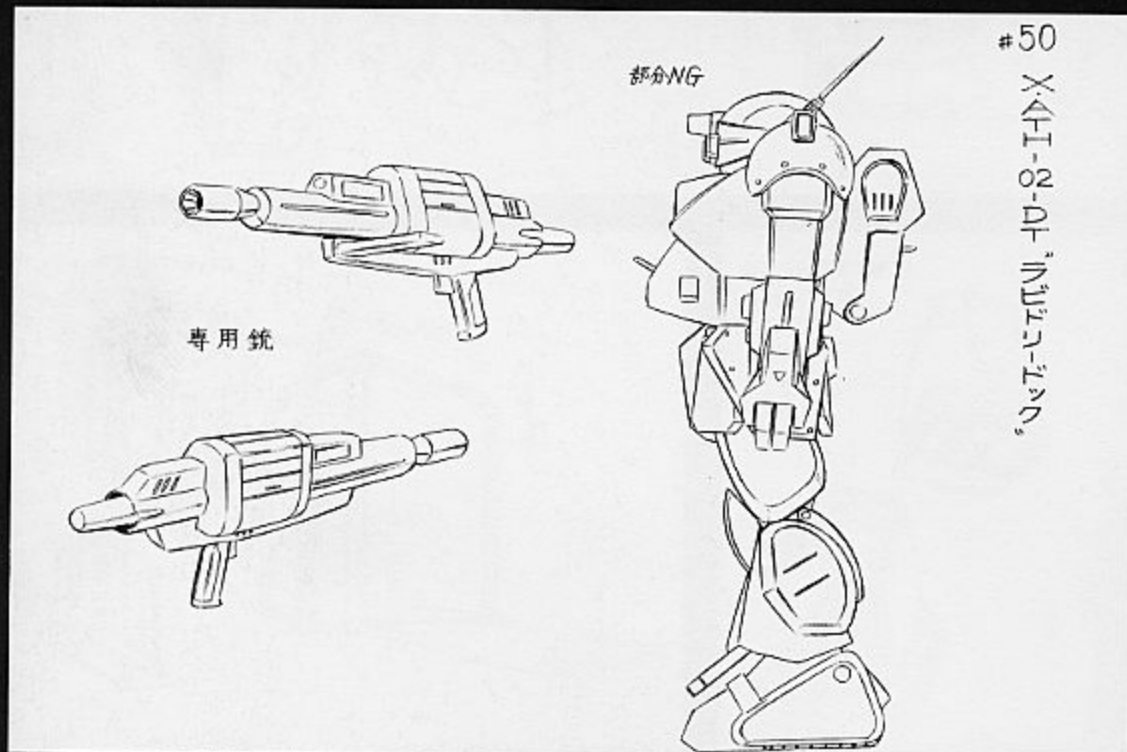


クラス	H級
全高 (mm)	4137
降着時全高 (mm)	2434
全長 (mm)	2380
全幅 (mm)	2758
乾燥重量 (kg)	7193
基本待機重量 (kg)	7737
最大装甲厚 (mm)	14
最小装甲厚 (mm)	6
GH限界走行速度 (km/h)	108
GH巡航走行速度 (km/h)	62
GH最大出力 (hp)	418
GH最大トルク (kg/m)	180
MCバック系	
スレック方式改 (ローレック方式)、2P-LL-S4	
使用PR液 (hp/l2)	DT-MS 11.5
PR液総量 (l)	200
予備タンク容量 (l)	120 (PRSP使用時)
標準液交換時間 (h)	162
制御コンピューター	MCM-2M
固定武装・装備	

11ミリ機関銃x1、アイアンクロー  
アームパンチ、サンドトリッパー

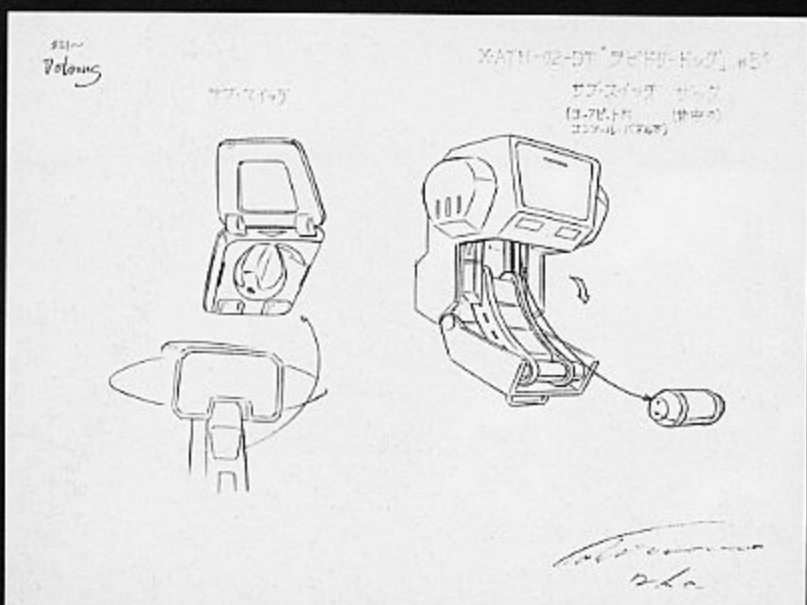
開発団体 秘密結社  
開発年度 (製作年度、登場年度) 7214

⊕ X-SAT-06 ハンディソリッドシューター

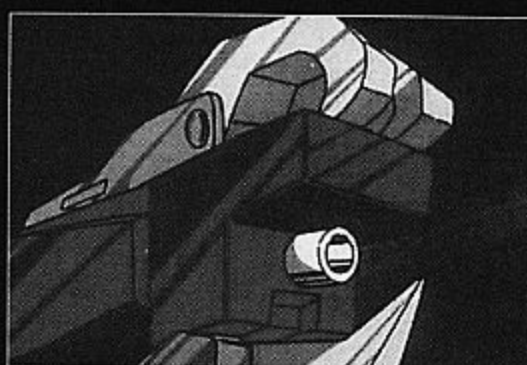


▶ COMMENT

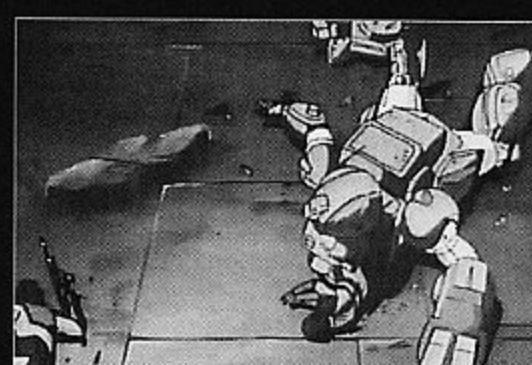
井上：ストライクの延長ですね。レンズの回転については勘違いされそうだったので、正面図をつけて配ったんですよ。  
大河原：レンズの形状ですが、はみ出しているのに回転させるという条件だったので、ある程度心配はありました。でも見た目はかっこいい感じになってますから。全体的な形を変えずにキャラクター性を出すっていうのは、そのあたりしかないんですよ。あと手を爪にするとか。爪にしたのは演出上の理由なんです。



▶ ON THE FRONT LINE



右腕に装備された11mm機関銃は、銃身移動を必要とするメカニズムを採用している。(51)



こちらはメルキア軍に装備された機体の残骸。エクルビスの襲撃事件で破壊された。(13)

# SLASH DOG

# ATM-09-GSC

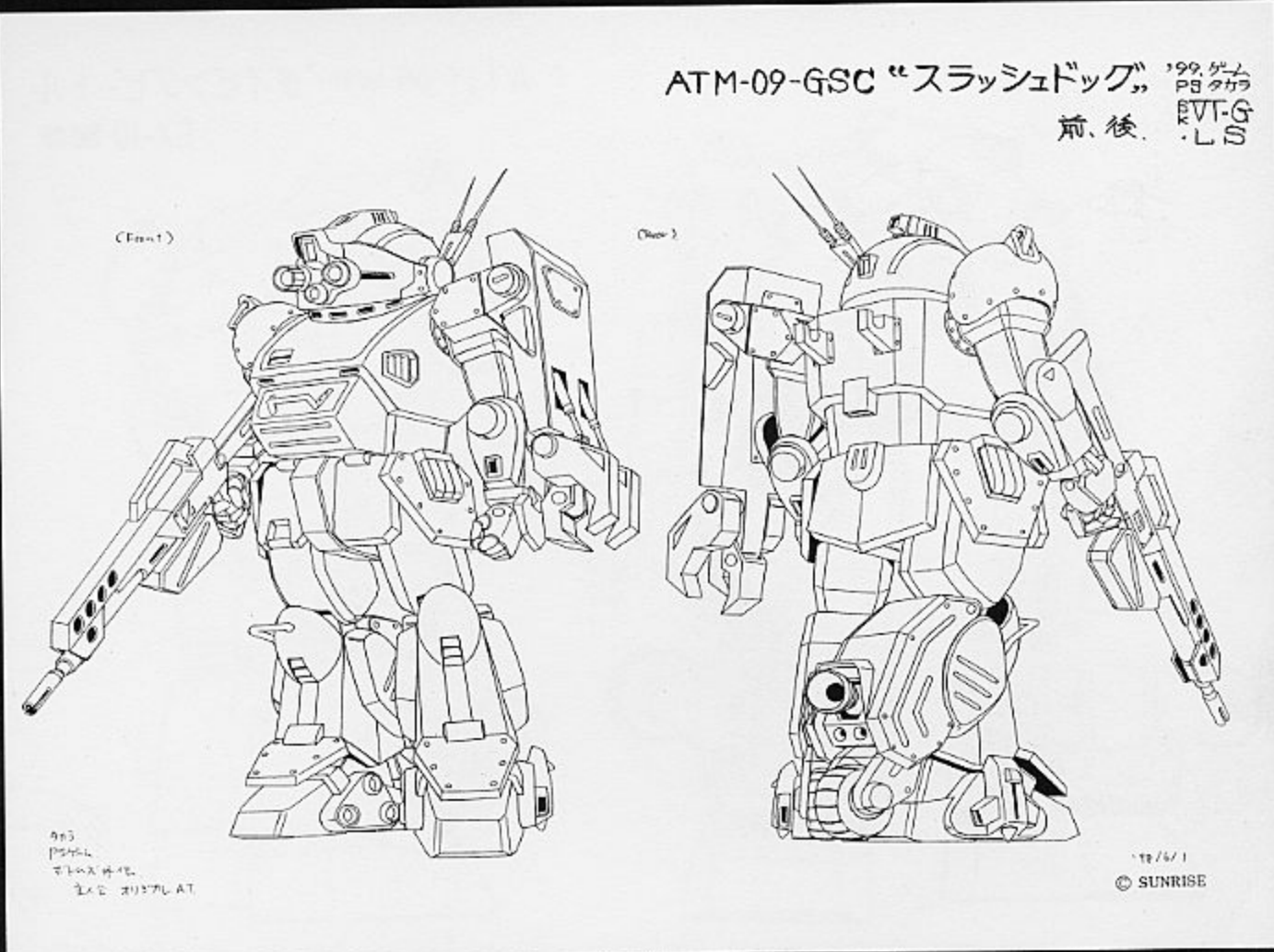
## FILE 21

# スラッシュドッグ

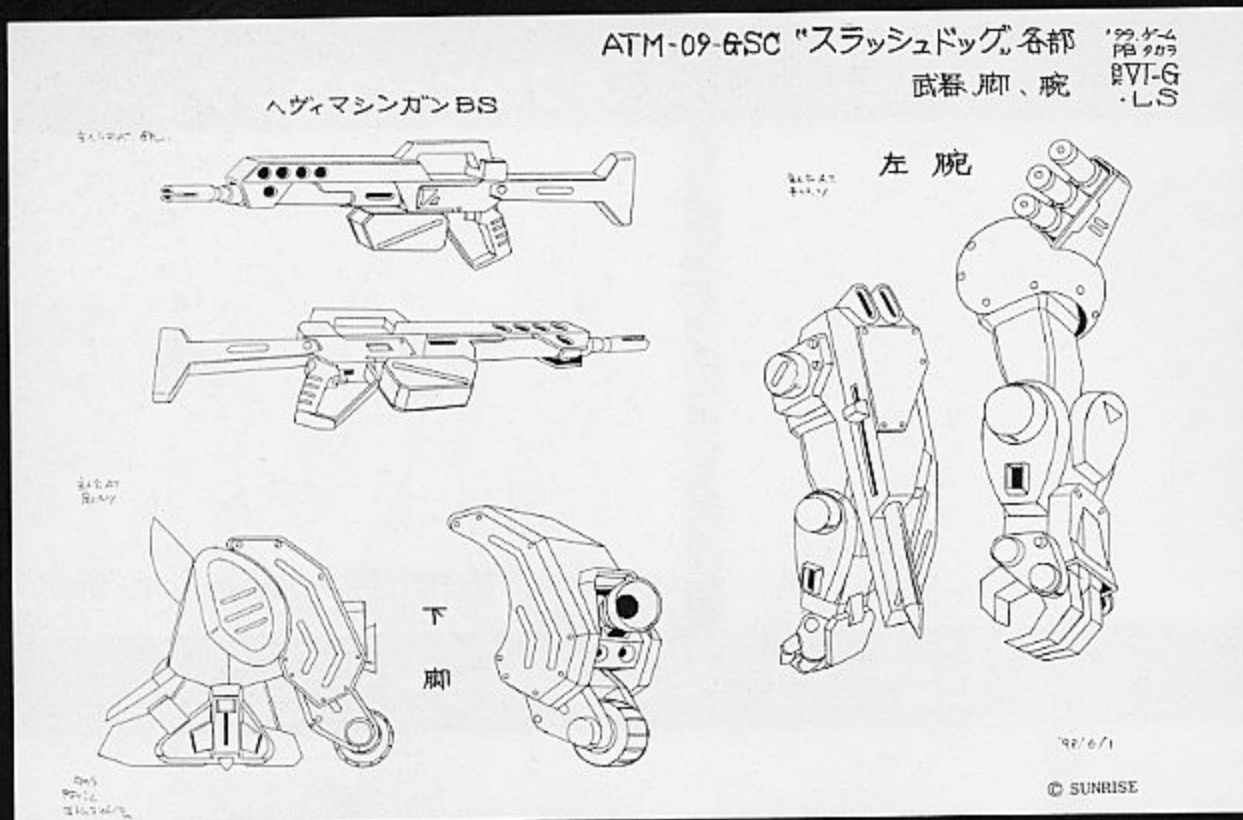
## SLASH DOG FTCE>>01

本来は09系のカスタムモデルなのだが、ストライクドッグ等のH級ドッグシリーズの影響を非常に強く受けた特筆すべき機体なので、ここで取り上げる。全体的に高性能なカスタムパーツが使用されているが、特徴的なのは左肩部のクローと脚部の追加型ジェットローラーダッシュ機構、次世代型のターレットレンズあたりだろう。これら追加装備により、09系でありながらH級ドッグシリーズに迫る能力を持つ機体となっている。

クラス	M級
全高 (mm)	3900
降着時全高 (mm)	2304
全長 (mm)	2542
全幅 (mm)	2106
乾燥重量 (kg)	6917
基本待機重量 (kg)	7203
最大装甲厚 (mm)	18
最小装甲厚 (mm)	7
GH限界走行速度 (km/h)	91.3
GH巡航走行速度 (km/h)	45.7
GH最大出力 (hp)	296
GH最大トルク (kg/m)	78
MCバック系	スレック方式、1P-MJ-S2
使用PR液 (hp/12)	DT-MO 10.2
PR液総量 (l)	184
予備タンク容量 (l)	20
標準液交換時間 (h)	46
制御コンピューター	MCT-128-C
固定武装・装備	ジャイアントスラッシュクロー、アームパンチ、追加型ジェットローラーダッシュ機構



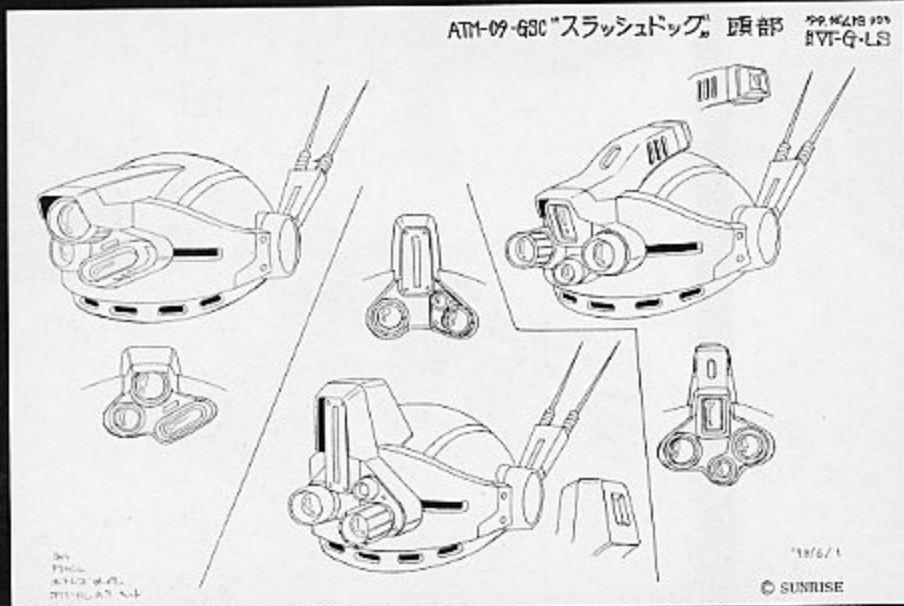
全体図。特徴的な装備である左腕の格闘戦用クローはジャイアントスラッシュクローと呼ばれ、そのまま機体名の由来となった。



### + GAT-47 ヘビーマシンガンBS

使用されている高性能パーツ。多くは民生用。なお、GAT-47はGAT-45の改良型だが、コピー品のためか加熱しやすいという問題がある。

### + 頭部



スラッシュドッグの頭部ユニット。コマンドーズヘッドと呼ばれる次世代型のモジュールで、性能的にはクエント製のものに匹敵。

### ▶ COMMENT

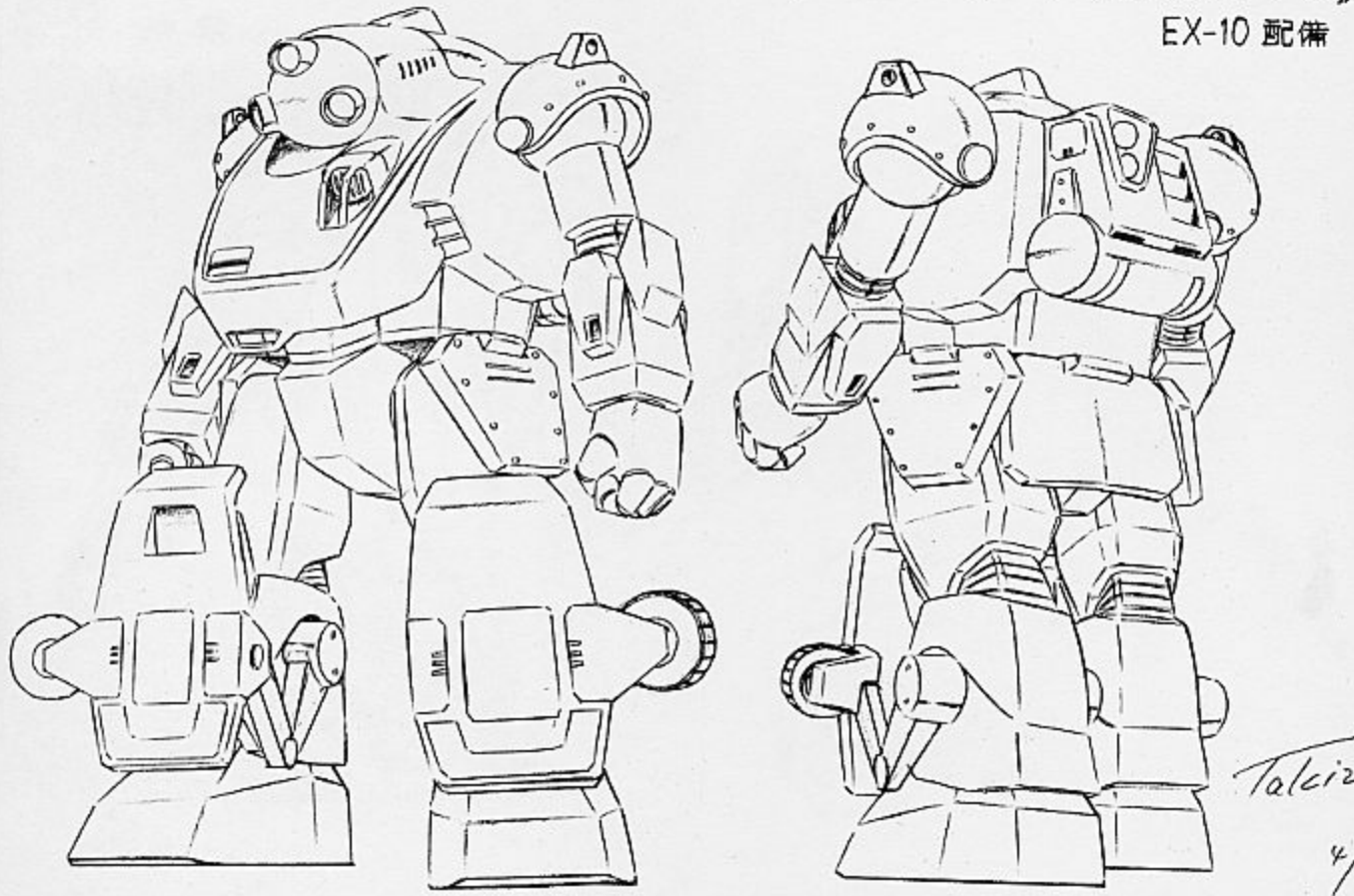
大河原：ゲームのATについては、タカラさんの方からかなり細かい指示が来ていましたね。ポリゴンやアクションを考えると、ゲームで再現出来る範囲というのが当時は今ほど広くなかったため、その前提条件を織り込んだ上でのデザインになっています。ただゲーム用のデザインは、クлинаップしたものじゃなくてモデリングしたものが最終形態なんです。だから僕の後にモデリングする人がいるわけで、ある意味では無責任になれてのびのびと仕事ことができましたね。

FILE 22 **ダイビングビートル**

DT77NG 9EE7CE  
FTCE>>00

大戦終了間際に制式となった、ギルガメス軍制式H級AT。水中で2時間の潜行が可能な独立した酸素供給システム、空気与圧式強制排出機構を装備した関節部、水中レーダーとしても機能する簡易パッシブソナー等々、非常に充実した水中戦装備を持つ。中でも水上の敵を水中から補足できる頭部レンズは特筆されるべき装備で、広範囲を同時に監視でき密林戦でも有利となる。反面、機体が高価であるという欠点も持ち合わせている。

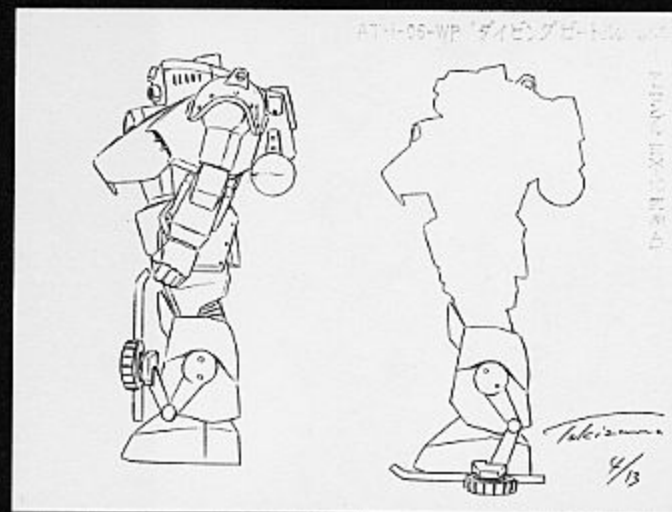
ATH-06-WP "ダイビングビートル"  
EX-10 配備



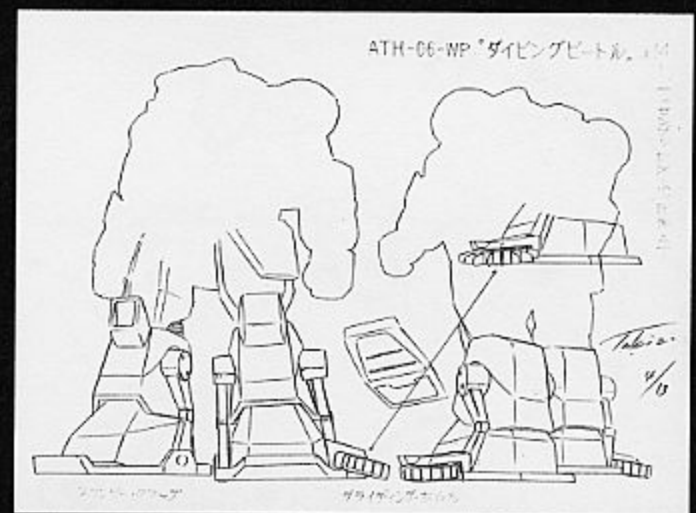
クラス	H級
全高 (mm)	4148
降着時全高 (mm)	2753
全長 (mm)	2108
全幅 (mm)	2598
乾燥重量 (kg)	8130
基本待機重量 (kg)	8415
最大装甲厚 (mm)	15
最小装甲厚 (mm)	6
GH限界走行速度 (km/h)	56(35)
GH巡航走行速度 (km/h)	47(34.6)
GH最大出力 (hp)	360(320)
GH最大トルク (kg/m)	68(42)
MCバック系	スレック方式、2P-LJ-S4
使用PR液 (hp/l2)	DT-MS 11.5
PR液総量 (l)	190
予備タンク容量 (l)	32
標準液交換時間 (h)	166
制御コンピューター	MCT-228-CF
固定武装・装備	アームパンチ、スワンピーグラッグ
開発団体	メレンブルク社
開発年度 (製作年度、登場年度)	7214
*カッコ内はスワンピーグラッグ使用時の数値	

湿地戦用装備であるスワンピーグラッグ。接地圧を低下させるためのもので、軟弱地盤の多い湿地戦には欠くべからざる装備である。

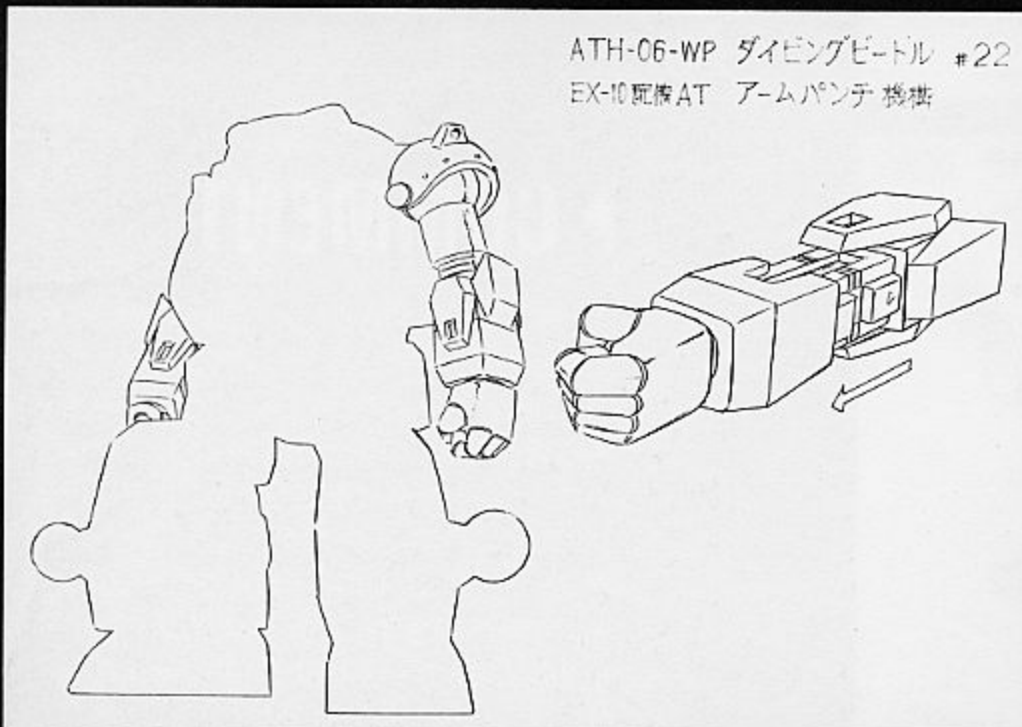
⊕ 側面図



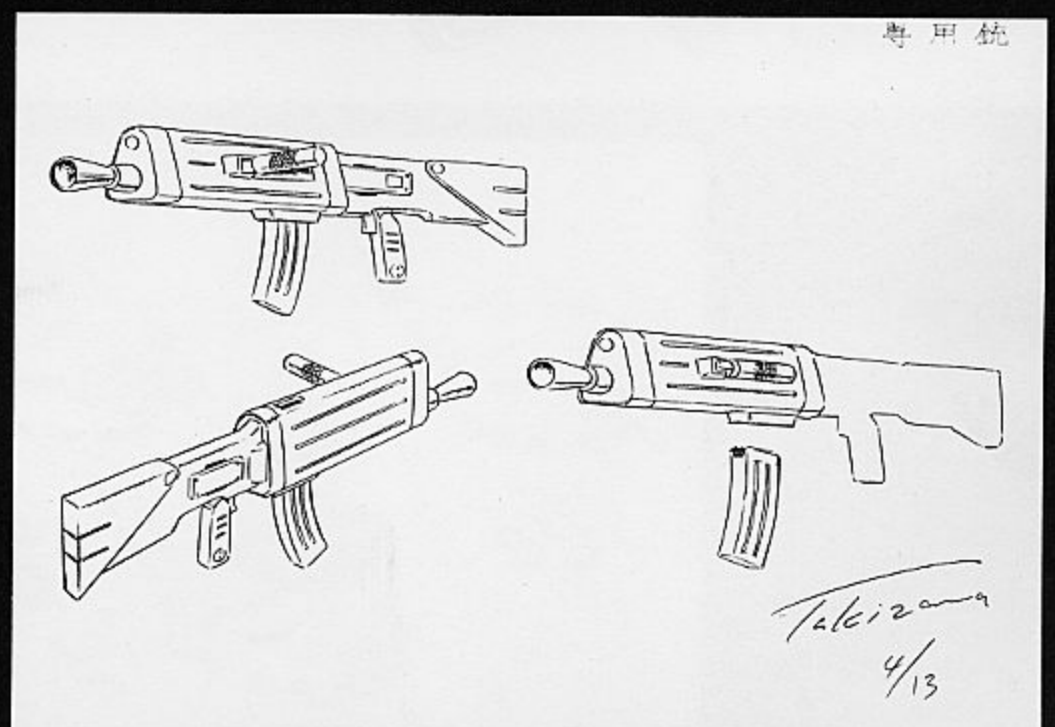
⊕ スワンピーグラッグ



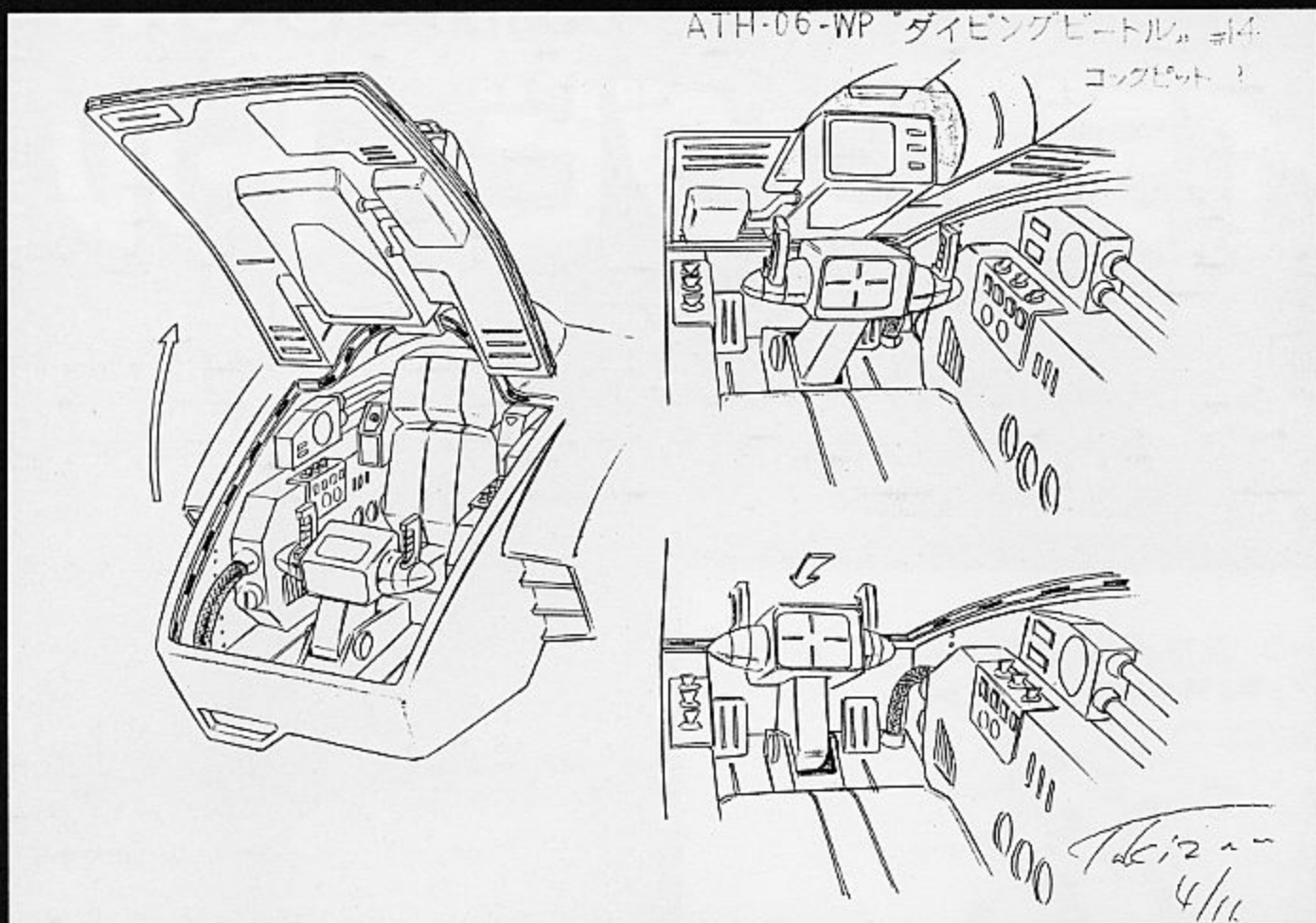
⊕ アームパンチ機構



⊕ GAT-19 ミッドマシンガン



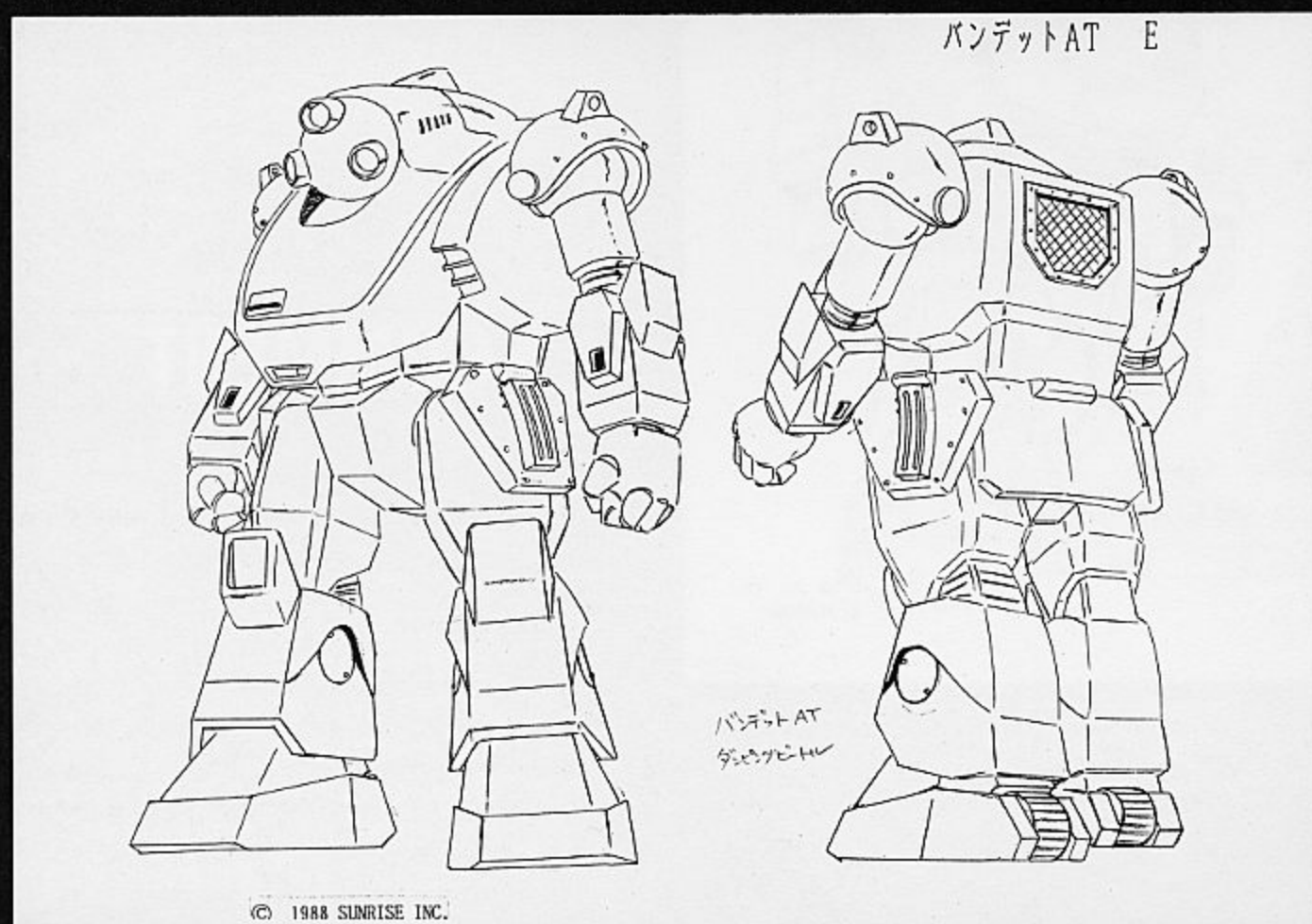
⊕ コックピット



⊕ 降着ポーズ



⊕ ダンピングビートル



© 1988 SUNRISE INC.

▶ COMMENT

高橋：これが一番顕微鏡っぽいね。八方  
睨みっぽくて、湿地だけじゃなくてジャ  
ングルなんかでいろいろなところが見ら  
れるようになってるみたいで。

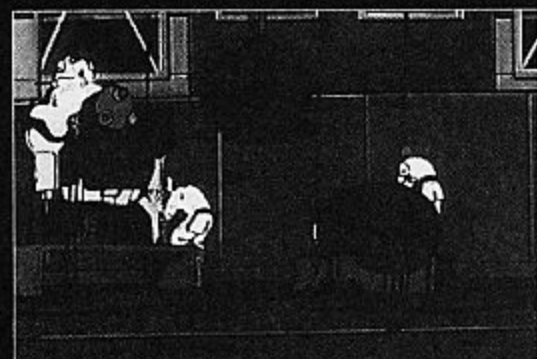
井上：名前は英語のゲンゴロウなんです  
が、スタンディングビートルは元ネタの  
ない不思議な名前なんです。まあスコ  
ップドッグもスゴイ名前なんですけど  
(笑)。八方睨みのカメラだから、カメ  
オンって名前にすればよかったかな？

大河原：スコップドッグとはテクノロ  
ジーを変えたい、生産工場が違うと考  
えました。あとこれは湿地戦用なんで  
沈まないように田下駄をつままして。  
ガタスキーのようなものがあればい  
けるんじゃないかと。これでも物理  
的には無理があるんですけど。

▶ ON THE  
FRONT LINE



水陸両用機であるため、水上戦闘への対応は  
完璧。潜水も2時間まで対応できる。(15)



最低限の設備で整備されるビートル。それで  
も性能を充分発揮できているようだ。(19)



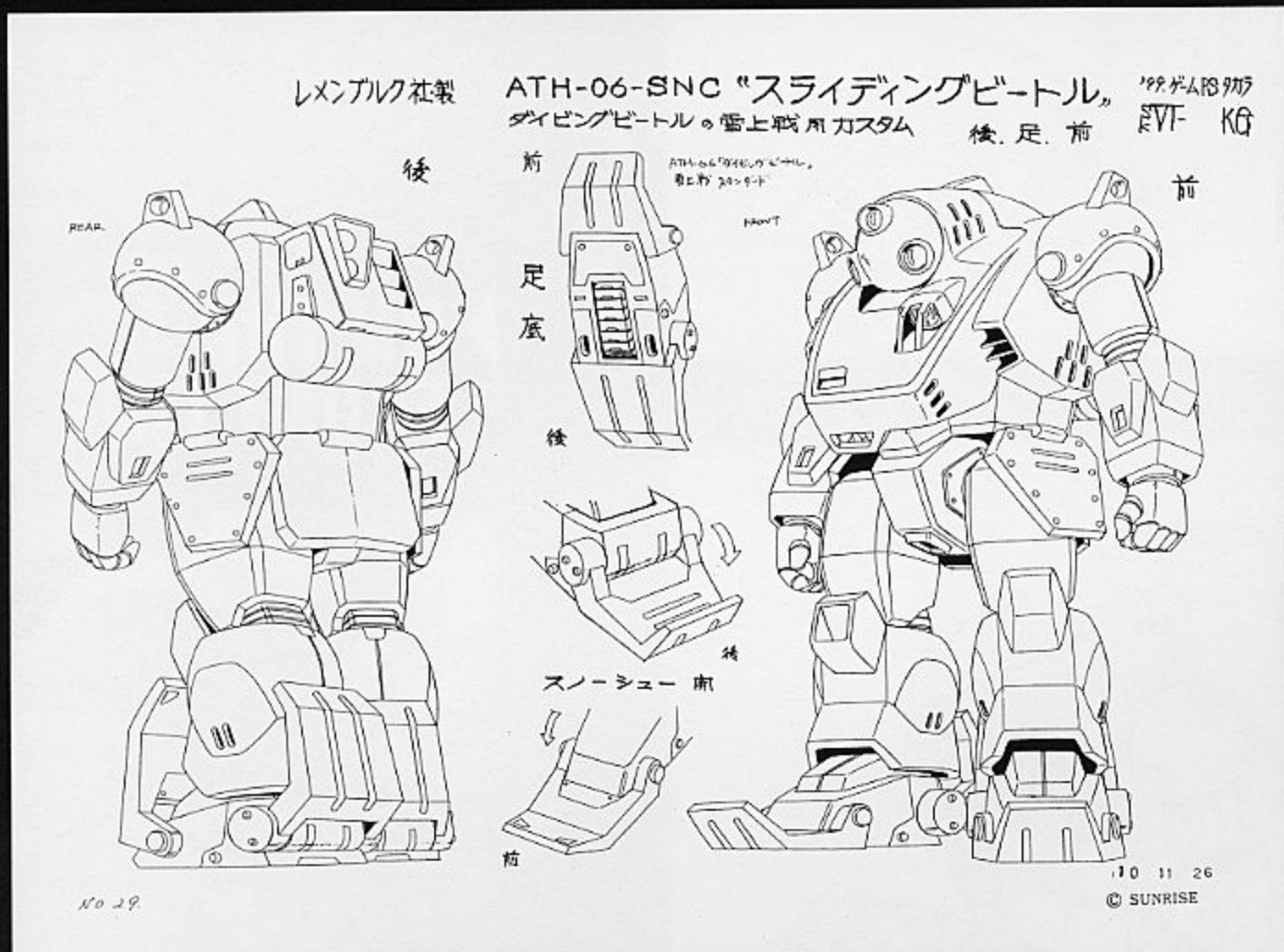
汎用降下システムのバケツを使用するカット。  
09系ほどの汎用性はない。(27)

バンデットが使用していたAT。スタ  
ンディングビートルに近いが、一部  
のパーツからダイビングビートルが  
ベースだと考えられている。

FILE 23 スライディングビートル

SETTING SELECTION  
PAGE >> 09

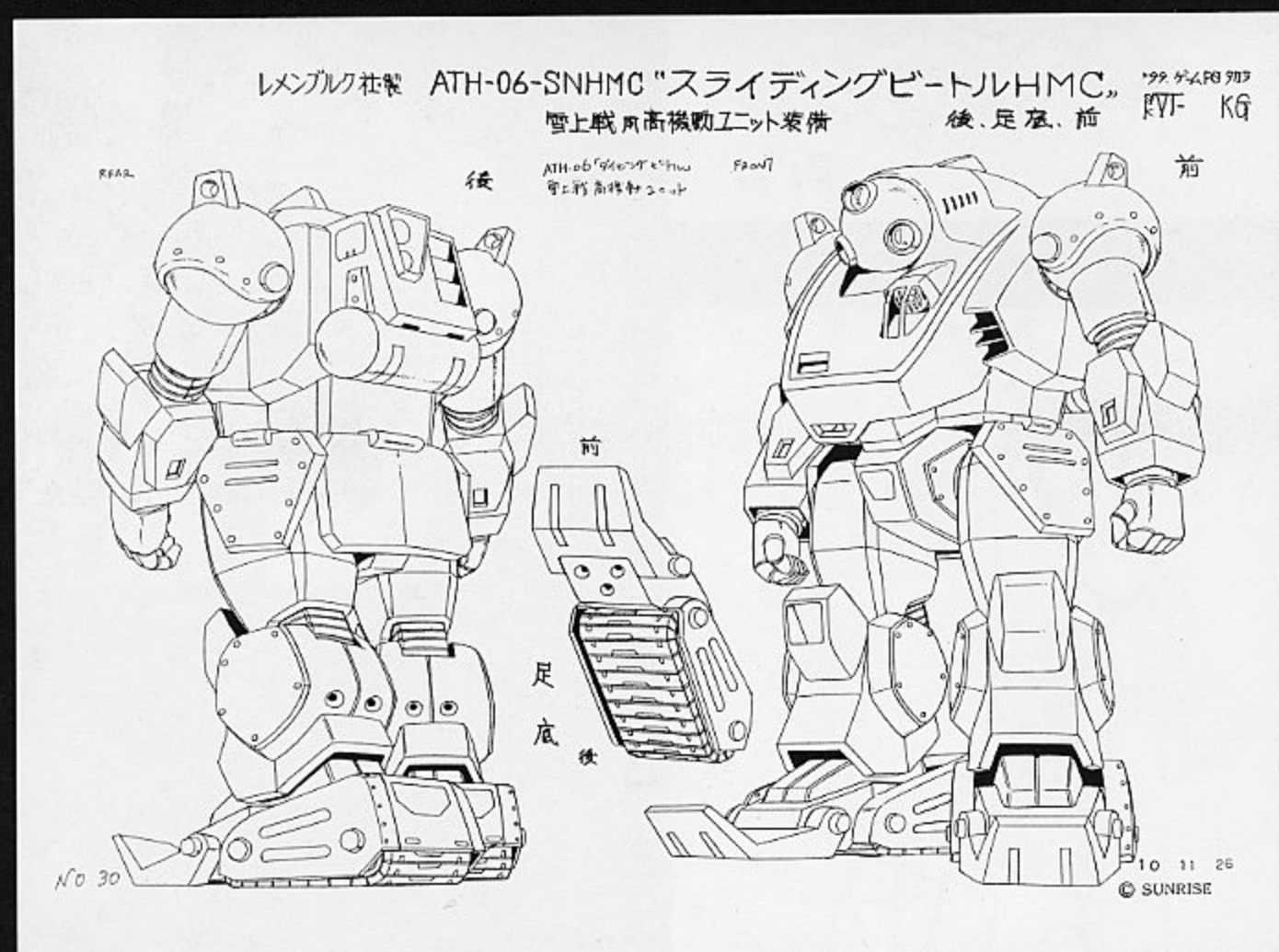
ビートル系の数少ないバリエーションモデル。雪上戦用の機体で、元々機密性の高さには定評があった機体のため、凍結防止用のヒーターを追加したのみで寒冷地仕様として完成してしまった。他のATの寒冷地仕様のように防寒スーツを必要としないのは特筆されるべきで、機動性は原型機と比べてもそれほど落ちていない。ビートル系の素性の良さをあらためて認識させられる傑作機であると言えるだろう。



クラス	H級
全高 (mm)	4289
全長 (mm)	2294
全幅 (mm)	2600
乾燥重量 (kg)	8423
最大装甲厚 (mm)	15
限界走行速度 (km/h)	70.2
固定武装・装備	アームバンチ

通常型。ダイビングビートルから湿地戦用装備を外し、ヒーターとスノーシューを搭載した。

⊕ スライディングビートルHMC



クラス	H級
全高 (mm)	4311
全長 (mm)	2304
全幅 (mm)	2609
乾燥重量 (kg)	8561
最大装甲厚 (mm)	15
限界走行速度 (km/h)	71.6
固定武装・装備	アームバンチ

高機動型。09系のカスタムほどではないが、必要十分な機動性と安定性を確保している。

▶ COMMENT

大河原：これもゲームで、全て指示が来ていました。マイナーチェンジならどの機体をどう変えてくれというのについても、細かく。トライアルゴリラのレーザー砲については、オーダーがないと武器とか付けられませんから、タカラさんの意向です。目がずいぶん増えてるのは…覚えてません(笑)。やっぱり、目的が違うんでしょね。あとスカラップス。これ、立体にしたら面白そうなデザインだと思うんですよ。聖職者みたいな感じですね。

# TRIAL GORILLA

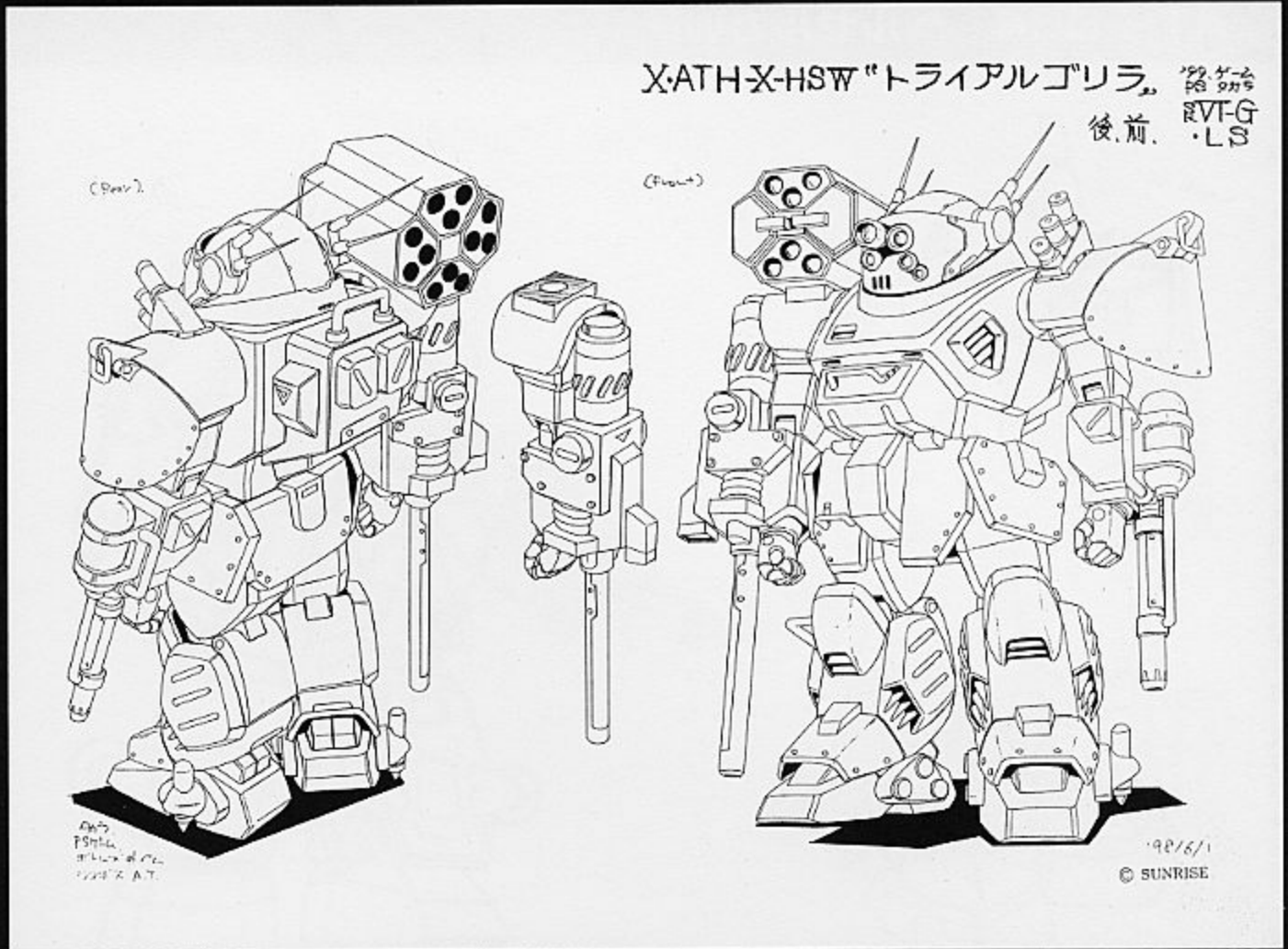
# X-ATH-X-HSW

## FILE 24 トライアルゴリラ

TRIAL GORILLA  
FTCE>>00

試作H級AT。分類は一応H級となっているが、その巨体は超H級と言われるに相応しいものとなっている。ATとしては唯一のレーザー砲を筆頭に強大な攻撃力を持つが、強化されたMCとGHによりM級と互角の機動性を確保している。しかし生産性や汎用性は劣悪で、総合的にはストライクドッグに劣ると判断、ごく少数の機体が生産されたに留まっている。なお、開発拠点が惑星ごと消滅したため、本機の詳細なデータは失われている。

レーザー砲の搭載は機体に相当の負担をかけていたようで、照射後しばらくは機体の動きが大幅に鈍るといふ問題点を抱えていた。



クラス	H級
全高 (mm)	5063
全長 (mm)	-
全幅 (mm)	-
基本待機重量 (kg)	10402
最大装甲厚 (mm)	-
GH最大出力 (hp)	508
GH最大トルク (kg/m)	216

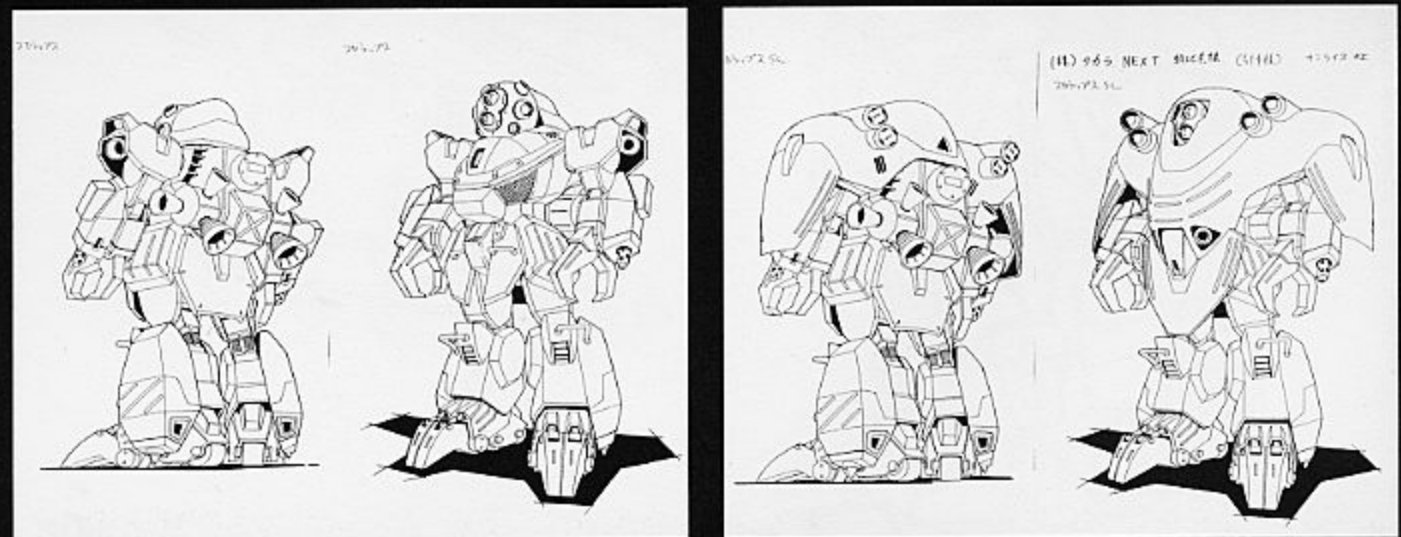
# SCALLOPS SL

# X-ATH-07-DA

## FILE 25 スカラップスSL

SCALLOPS SL  
FTCE>>00

試作H級AT。開発はギルガメス軍だが詳細は不明で、おそらくは攻撃力を極限まで向上させた試作機と推測される。ミサイルを装備した着脱可能なアーマーで上半身全体を覆い、本体には両腕とも近接戦闘用のクローを装備するなど、他のATには類例の無いコンセプトを持っている。なお、アーマーを装着した状態をスカラップスSL、外した状態を単にスカラップスと呼んで区別する。



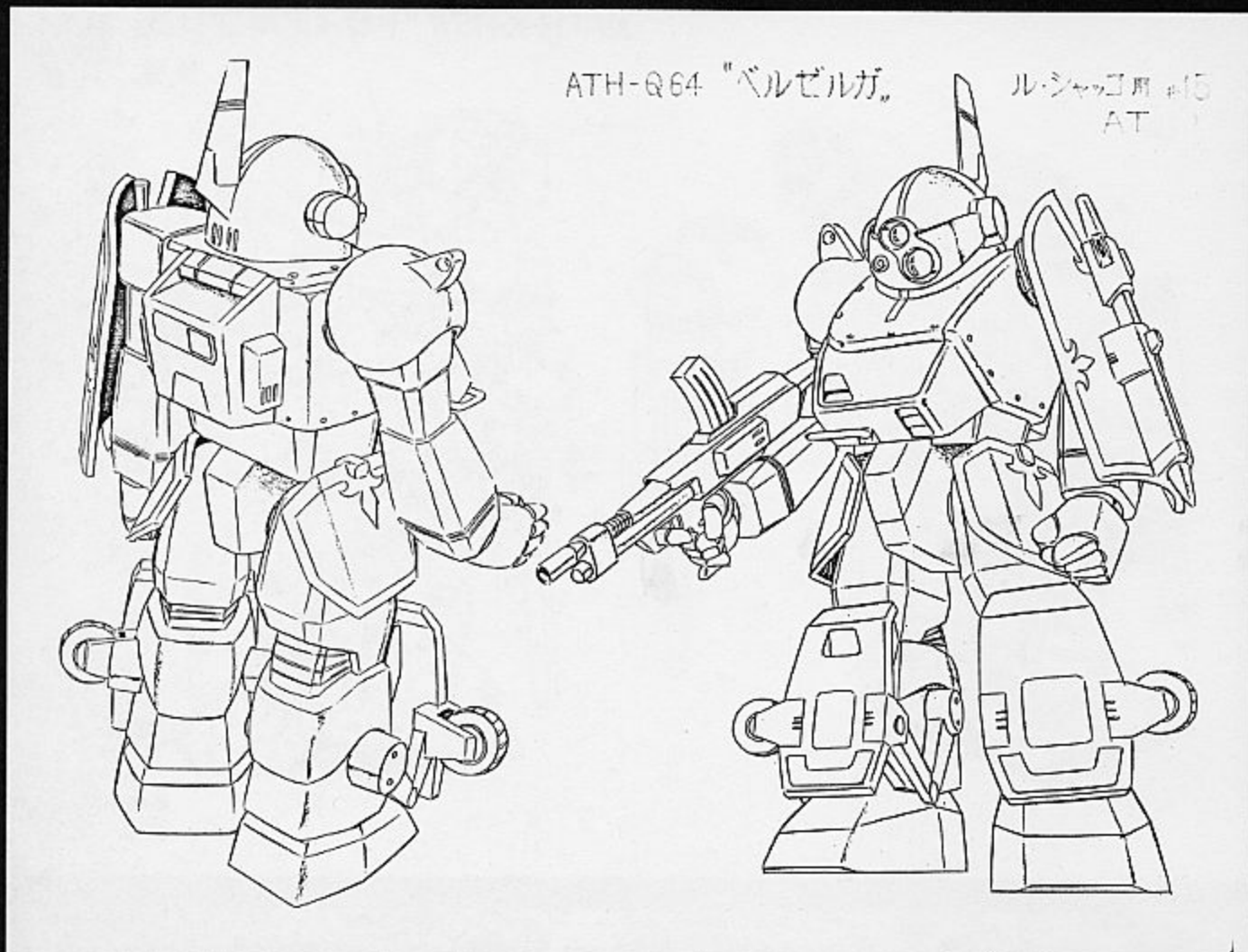
クラス	H級
全高 (mm)	4588/4677 (アーマー装着時)
全長 (mm)	-
全幅 (mm)	-
乾燥重量 (kg)	8144/8973 (アーマー装着時)
基本待機重量 (kg)	8592/9577 (アーマー装着時)
最大装甲厚 (mm)	15/21 (アーマー装着時)
最小装甲厚 (mm)	5/8 (アーマー装着時)
GH限界走行速度 (km/h)	100.5/75.9 (アーマー装着時)
GH巡航走行速度 (km/h)	52.0/43.0 (アーマー装着時)
GH最大出力 (hp)	399
固定武装・装備	50mm機関砲x2 アイアークローx2 ミサイルx4 (アーマー側に装備)

両腕も含めた外付けの兵装マウントがなく、これだけで独立したウェポンシステムとして稼働すると考えられている。確かに強力ではあるが、あまりにも汎用性に欠けた仕様であり、試作で終わったのは当然と言える。

BERSERGA  
FTCE>>ii

クエント星のゴモルで生産されるハンドメイドAT。職人芸的な作り込みがなされており、全般的に高いポテンシャルを持つ高価な機体となっている。中でもクエント素子を利用した金属探知センサーは特筆すべき装備で、これにより索敵能力は他のATの追隨を許さないレベルに到達している。なお、このシリーズは基本的に機体ごとに仕様が異なるが、全機がベルゼルガと呼ばれ、装備によって各タイプに分類されるのが通例になっている。

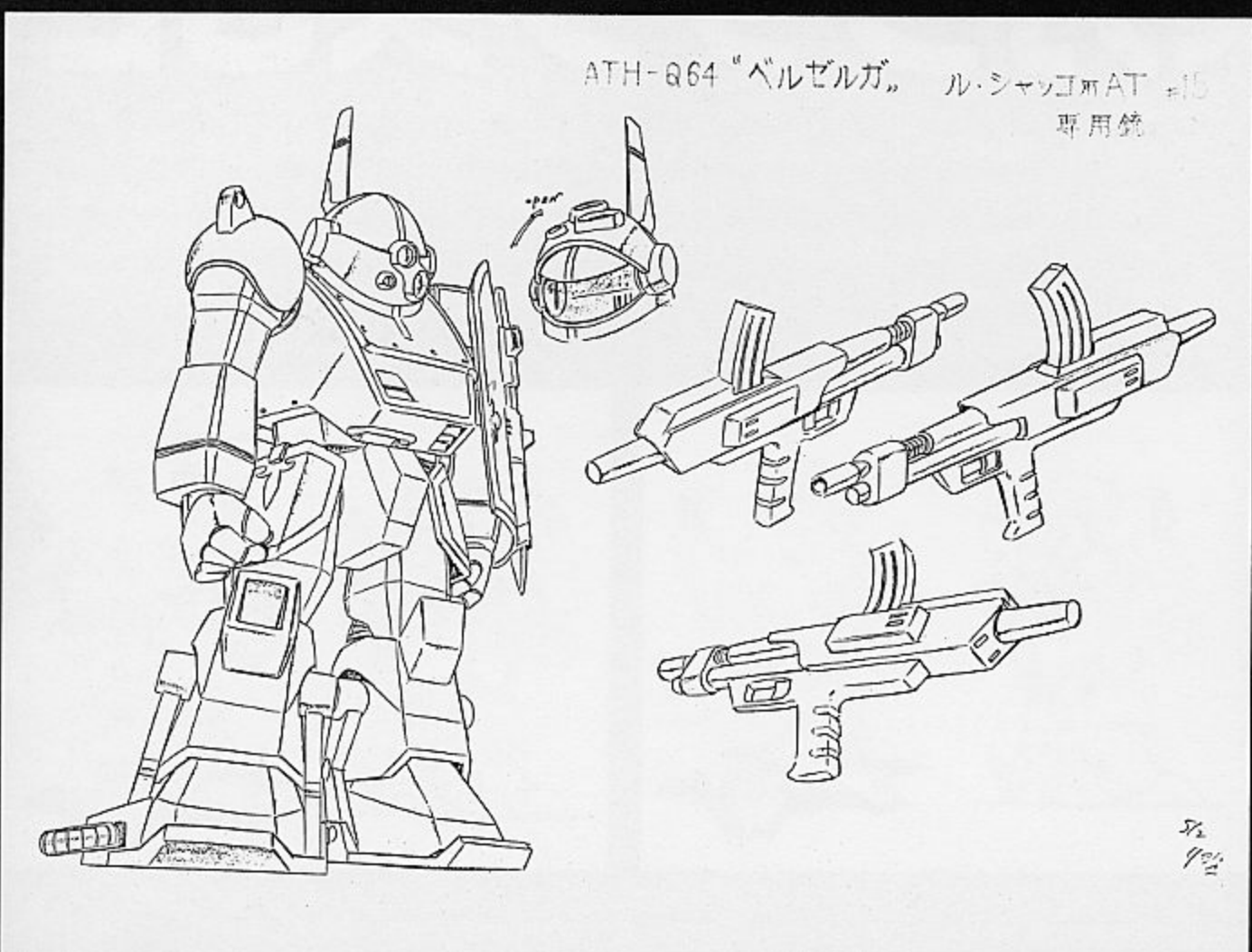
## ATH-Q64 ベルゼルガWP



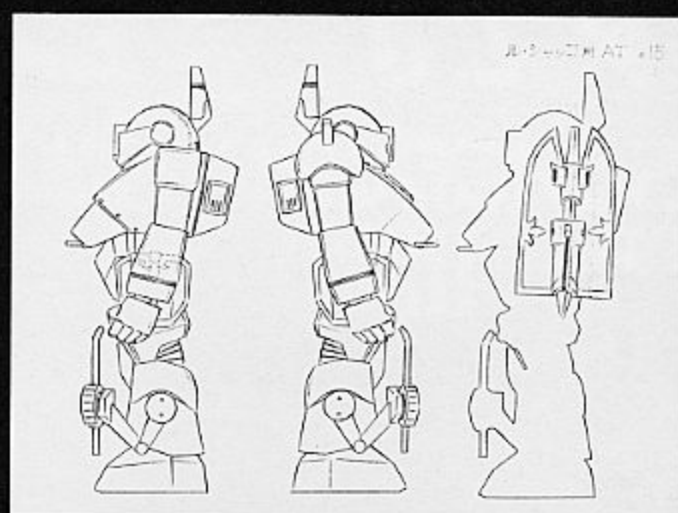
クメンの内戦に参加した機体。政府軍側の傭兵としての参戦で、湿地戦用の装備が施されている。かなりの戦果を挙げたと記録されている。

クラス	H級
全高 (mm)	4274
降着時全高 (mm)	2865
全長 (mm)	2143
全幅 (mm)	2671
乾燥重量 (kg)	8103
基本待機重量 (kg)	8333
最大装甲厚 (mm)	14
最小装甲厚 (mm)	8
GH限界走行速度 (km/h)	48(69)
GH巡航走行速度 (km/h)	42(35)
GH最大出力 (hp)	360(320)
GH最大トルク (kg/m)	70(65)
MCバック系	スレック方式、1P-NJ-S4
使用PR液 (hp/12)	DT-M 9.6,DT-MO 10.2
PR液総量 (l)	180
予備タンク容量 (l)	60 (PRSP使用時)
標準液交換時間 (h)	162
制御コンピューター	QT-M-11J
固定武装・装備	パイルバンカー、スワンビーグラッグ
開発団体	ゴモル市傭兵センター
*カッコ内はスワンビーグラッグ使用時の数値	

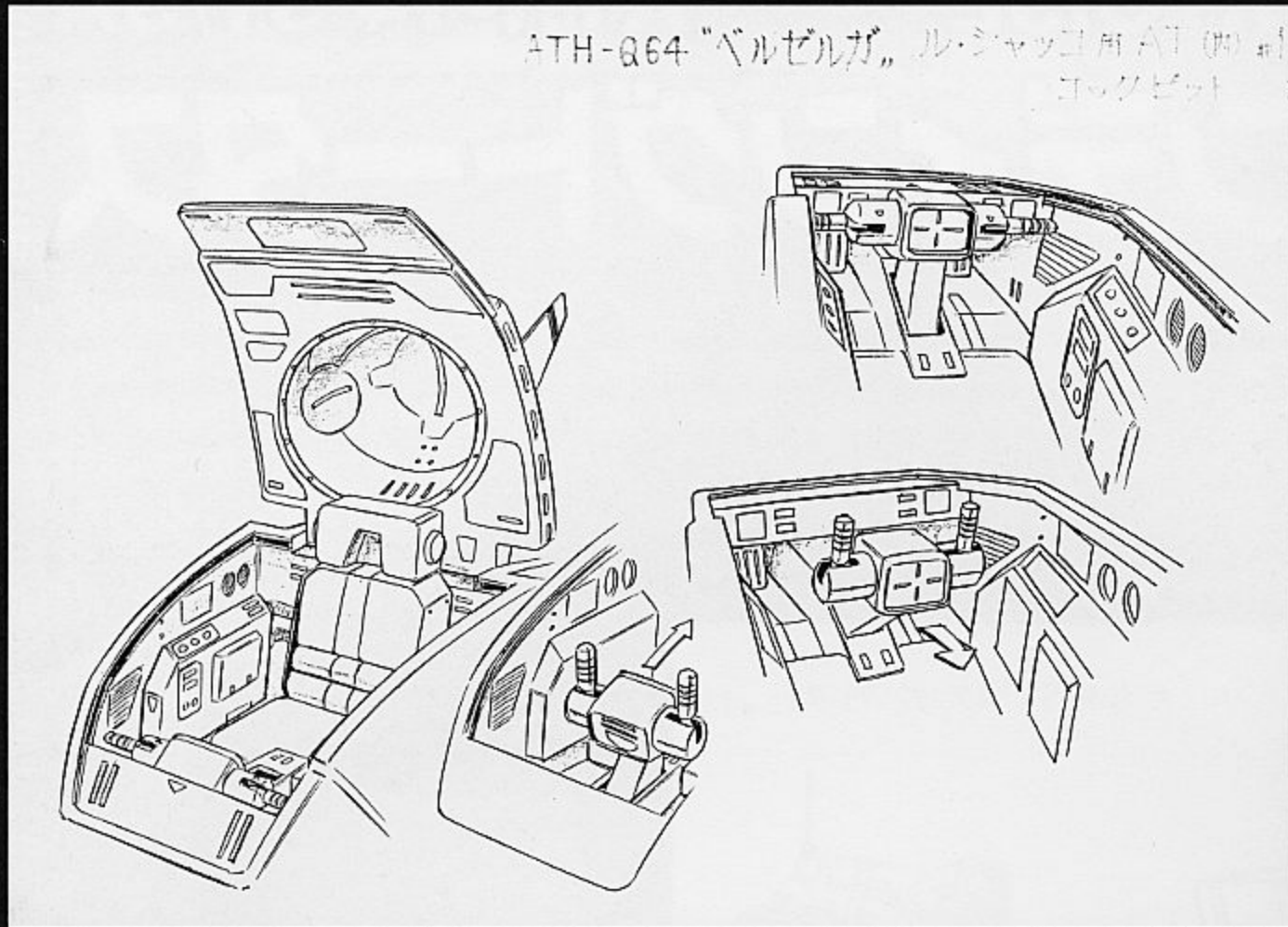
## GAT-40-C アサルトライフル



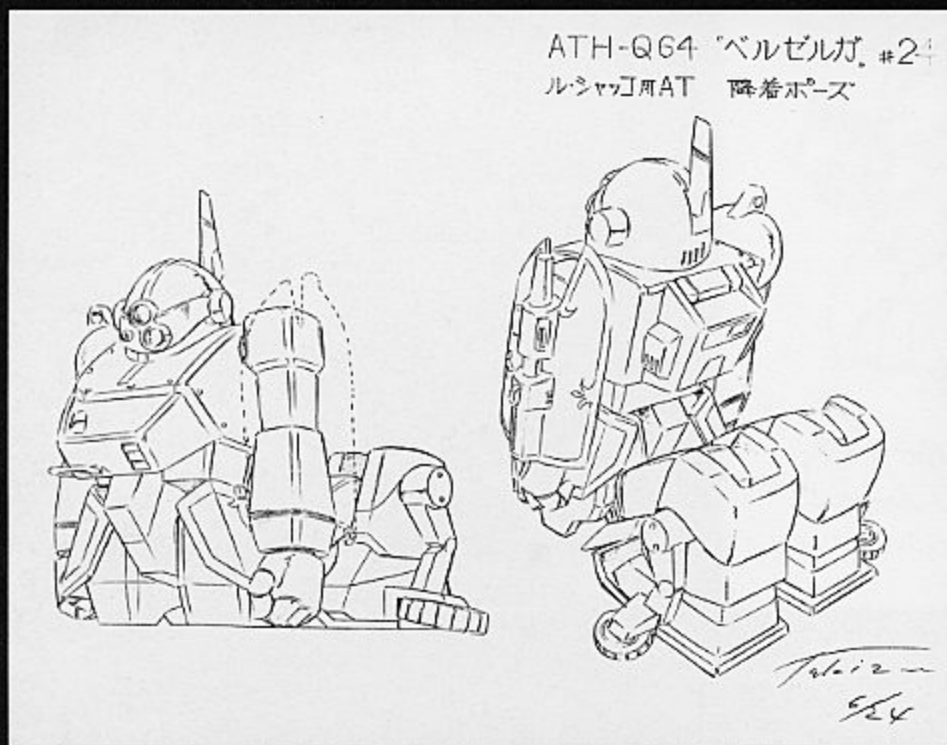
GAT-40-Cもクエント製で非常に高価。また本体にはビートル系の部品が多用されていると言われていたが、異論も存在している。



⊕ コックピット

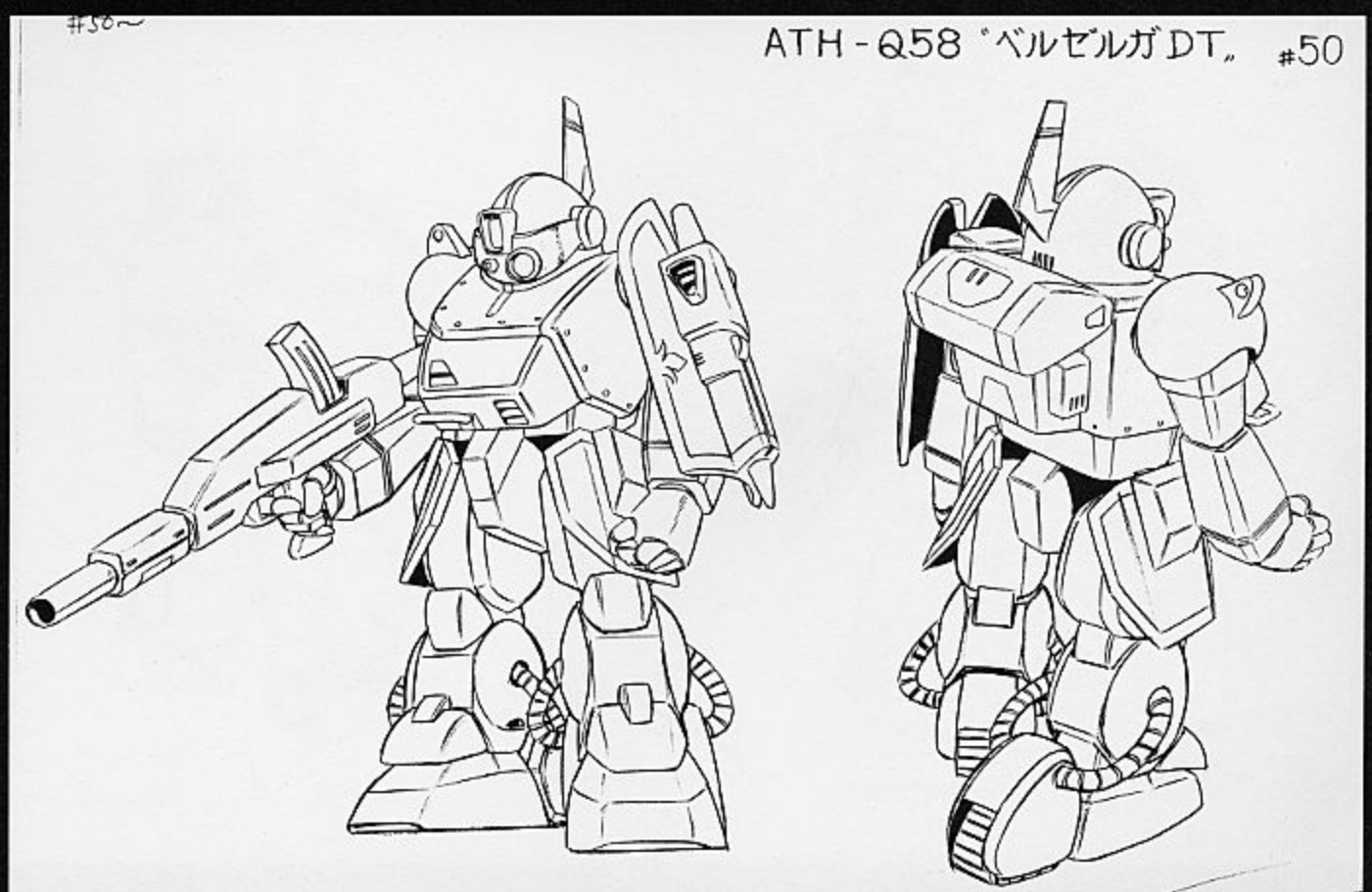


⊕ 降着ポーズ



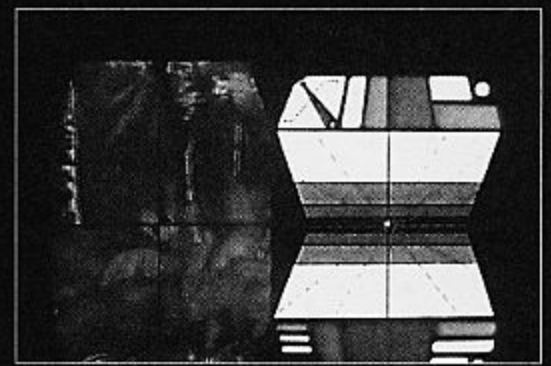
⊕ ATH-Q58 ベルゼルガDT

クラス	H級
全高 (mm)	4274
降着時全高 (mm)	2865
全長 (mm)	2155
全幅 (mm)	2668
乾燥重量 (kg)	8356
基本待機重量 (kg)	8590
最大装甲厚 (mm)	14
最小装甲厚 (mm)	9
GH限界走行速度 (km/h)	59
GH巡航走行速度 (km/h)	38
GH最大出力 (hp)	300
GH最大トルク (kg/m)	50
MCバック系	スレック方式、1P-NJ-S5
使用PR液 (hp/12)	DT-K 8.8, DT-M 9.6, DT-MO 10.2
PR液総量 (l)	180
予備タンク容量 (l)	53
標準液交換時間 (h)	120
制御コンピューター	QT-M-10J
固定武装・装備	パイルバンカー
開発団体	ゴモル市傭兵センター

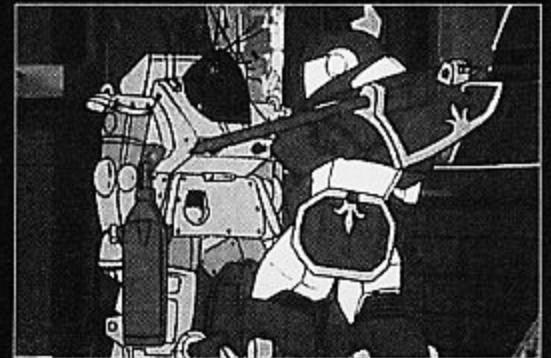


こちらは砂漠戦用の装備を施された機体。旧式機を改装したもののだが、MC系は最新のものに換装されており、素性の良さといまって、現用機と互角以上の性能を持っている。

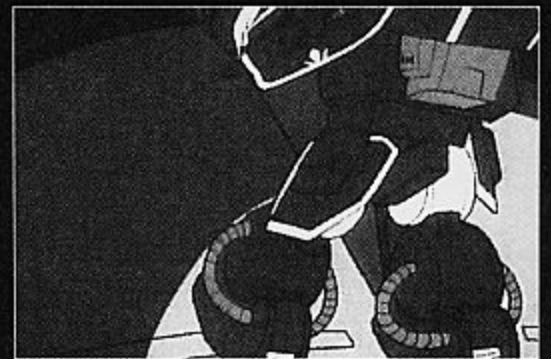
▶ ON THE FRONT LINE



金属探知センサー使用時の画面。索敵能力の高さはこのセンサーの性能によるもの。(21)



使用したパイルバンカーを引き抜いたカット。近接戦闘には非常に有効な装備だ。(15)



DTのサンドトリップユニット。後付けで装備されたものと一目で見て取れる。(51)

▶ COMMENT

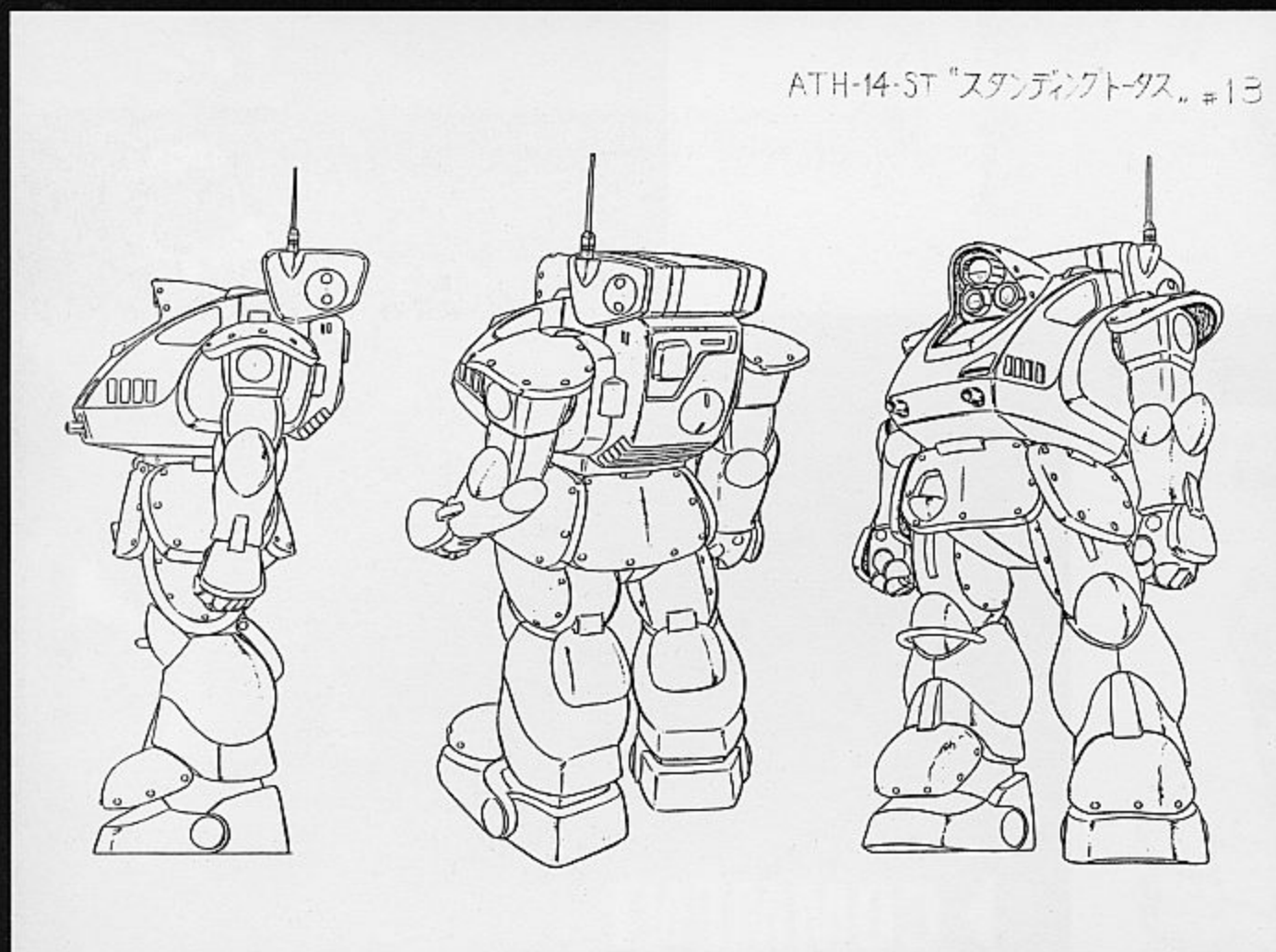
高橋：クエントで作って持ってきたという話をしたね。傭兵に出る人に渡す鑑みたいいな感じで、鍛冶屋が作っているんだって。  
井上：使っている材料がなぜか世間で手に入らない良質なもので、性能がいいと。あとビートルの部品を使っているっていう話は何処からかなあ？ デザインは似てるけど、部品のサイズが合わないんだよね。  
大河原：見た通り、騎士を主眼にデザインしました。デコレーションがあるからライバルに乗ると考えてたかもしれない。パイルバンカーは良輔さんのアイデアですね。

# FILE 27 スタンディングトータス

STANDING  
TORTOISE  
FILE >> 011

ギルガメス軍制式H級AT。H級の最もスタンダードな機種であり、戦争後期に開発された機体だが、その総生産機数は大戦末期で450万とも700万とも言われている。汎用性こそ09系に一步劣るものの、余裕のある機体設計により局地戦用への改造が容易で、成功したバリエーションモデルも多数存在する。また重火力を必要とする任務にも向いており、惑星占領軍の地上攻撃などにも多数が投入され、優秀な戦績を残している。

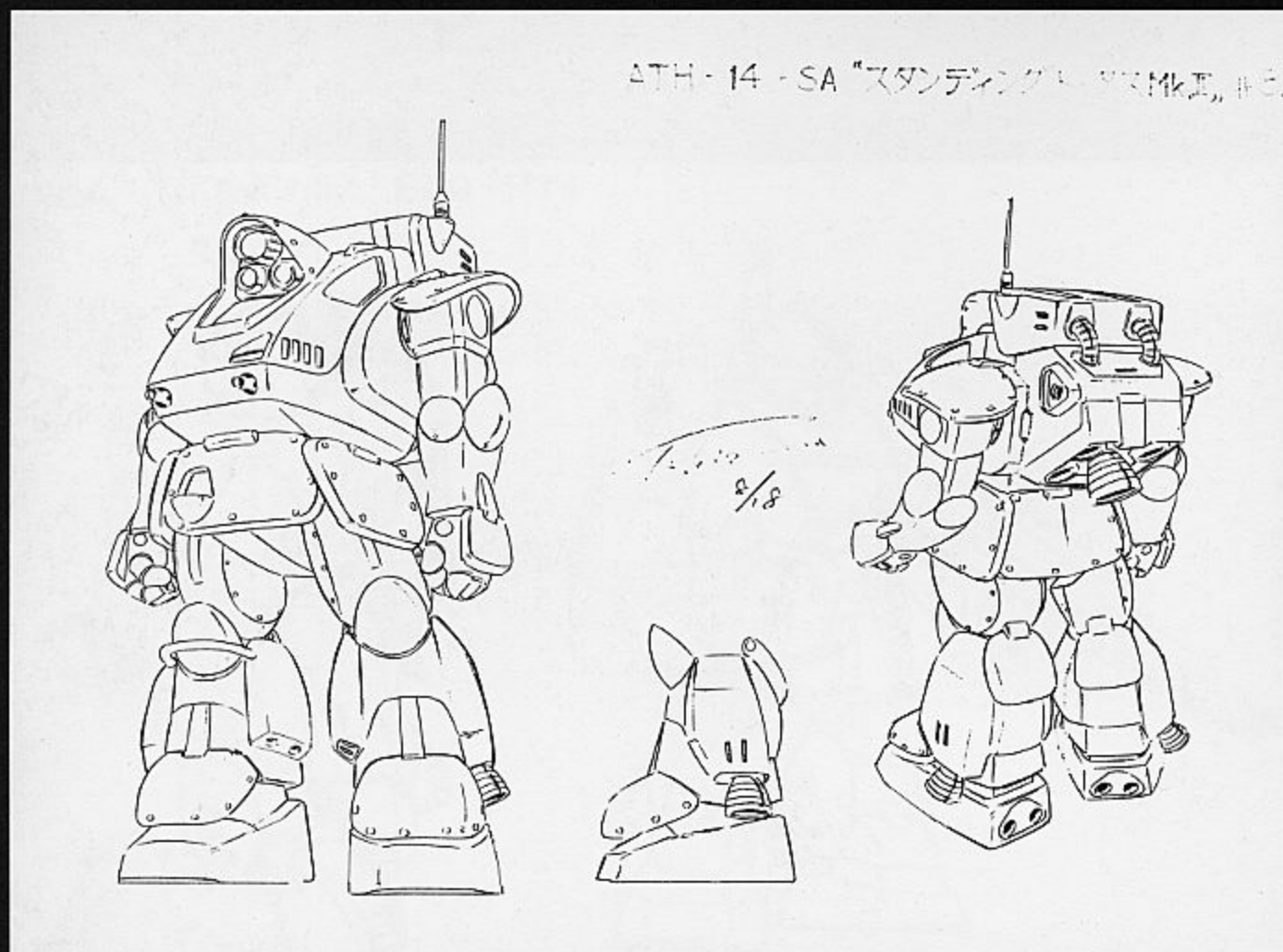
## ATH-14-ST スタンディングトータス



クラス	H級
全高 (mm)	4022
降着時全高 (mm)	2312
全長 (mm)	2122
全幅 (mm)	2117
乾燥重量 (kg)	8033
基本待機重量 (kg)	8302
最大装甲厚 (mm)	15
最小装甲厚 (mm)	6
GH限界走行速度 (km/h)	71.3
GH巡航走行速度 (km/h)	43
GH最大出力 (hp)	300
GH最大トルク (kg/m)	62
MCバック系	スレック方式、1P-LK-S2
使用PR液 (hp/l2)	DT-MO 10.2
PR液総量 (l)	207
予備タンク容量 (l)	40 (PRSP使用時)
標準液交換時間 (h)	142
制御コンピューター	MCT-128-D
固定武装・装備	11ミリ機関銃x2
開発団体	ウットヘルト社
開発年度 (製作年度、登場年度)	7207

通常型のスタンディングトータス。14系は規格内での改良が時折行われており、通常型の枠内の機体でも若干のバリエーションモデルが存在する。

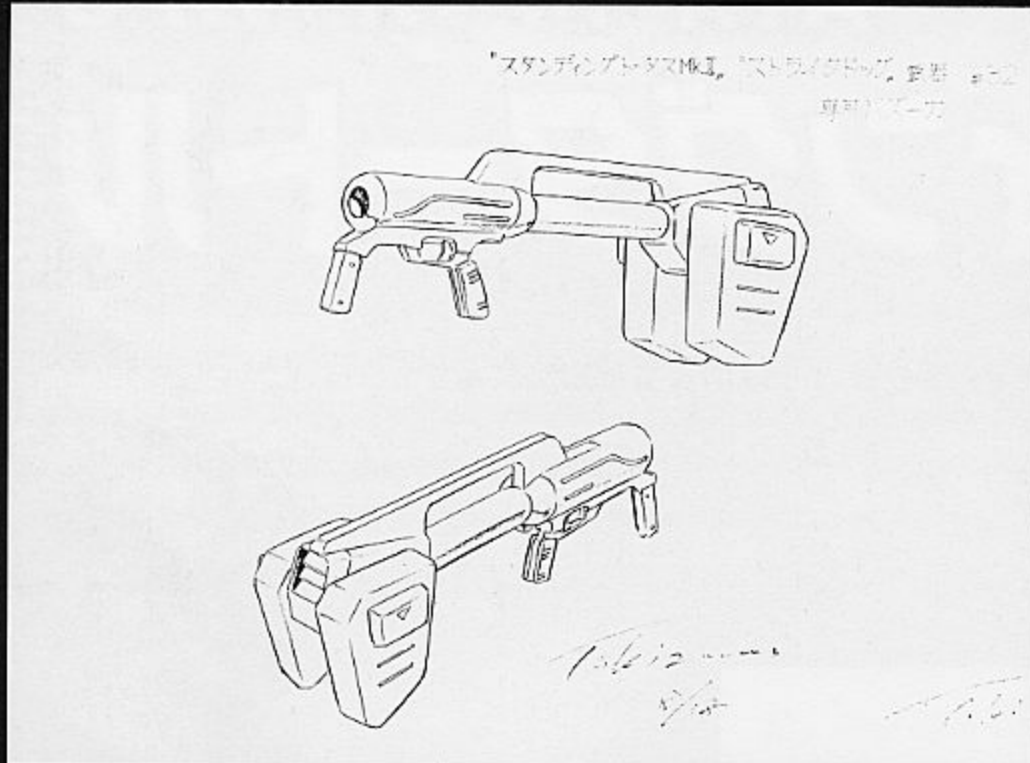
## ATH-14-SA スタンディングトータスMk. II



クラス	H級
全高 (mm)	4022
降着時全高 (mm)	2312
全長 (mm)	2123
全幅 (mm)	2117
乾燥重量 (kg)	8305
基本待機重量 (kg)	8610
最大装甲厚 (mm)	15
最小装甲厚 (mm)	6
GH限界走行速度 (km/h)	68.2
GH巡航走行速度 (km/h)	44
GH最大出力 (hp)	300
GH最大トルク (kg/m)	65
MCバック系	スレック方式、1P-LJ-S4
使用PR液 (hp/l2)	DT-MS 11.5
PR液総量 (l)	110
予備タンク容量 (l)	20 (PRSP使用時)
標準液交換時間 (h)	80
制御コンピューター	MCT-221-CFII
固定武装・装備	11ミリ機関銃x2、アームパンチ
開発団体	ウットヘルト社
開発年度 (製作年度、登場年度)	-

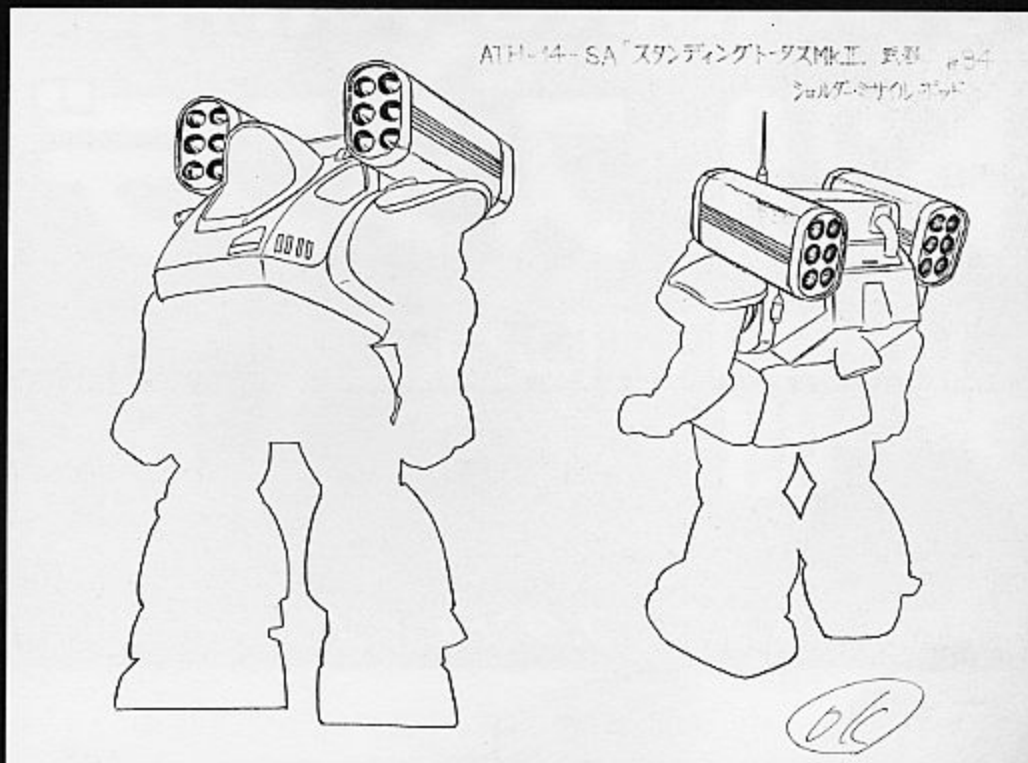
スタンディングトータスを宇宙用に改修した機体で、多岐に渡る改修が行われている。宇宙艦載機並の機動力と超高空からの降下能力を併せ持つ。

### ⊕ X・SAT-01 ソリッドシューター



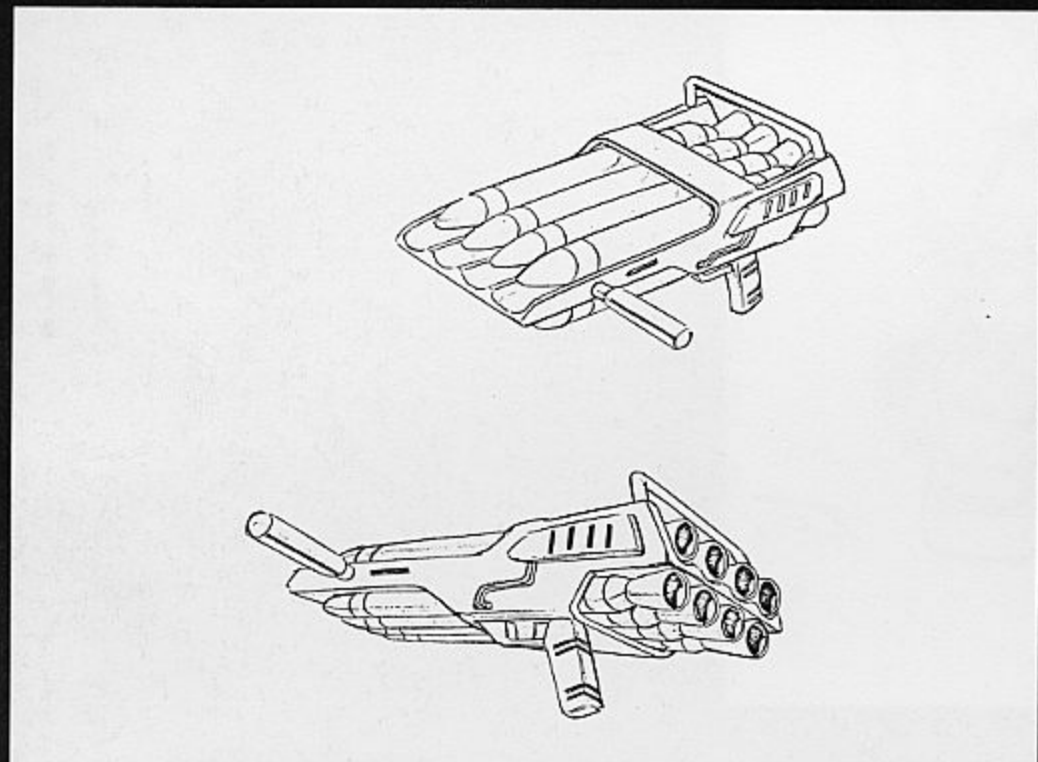
対物感応センサーを装備したソリッドシューター。このクラスの火砲としては装弾数も多く(36発)、作戦展開の幅が大きく広がった火器でもある。長時間の戦闘や、継続的に火力を必要とする作戦に向いている。

### ⊕ SMAT-32ショルダーミサイルポッド



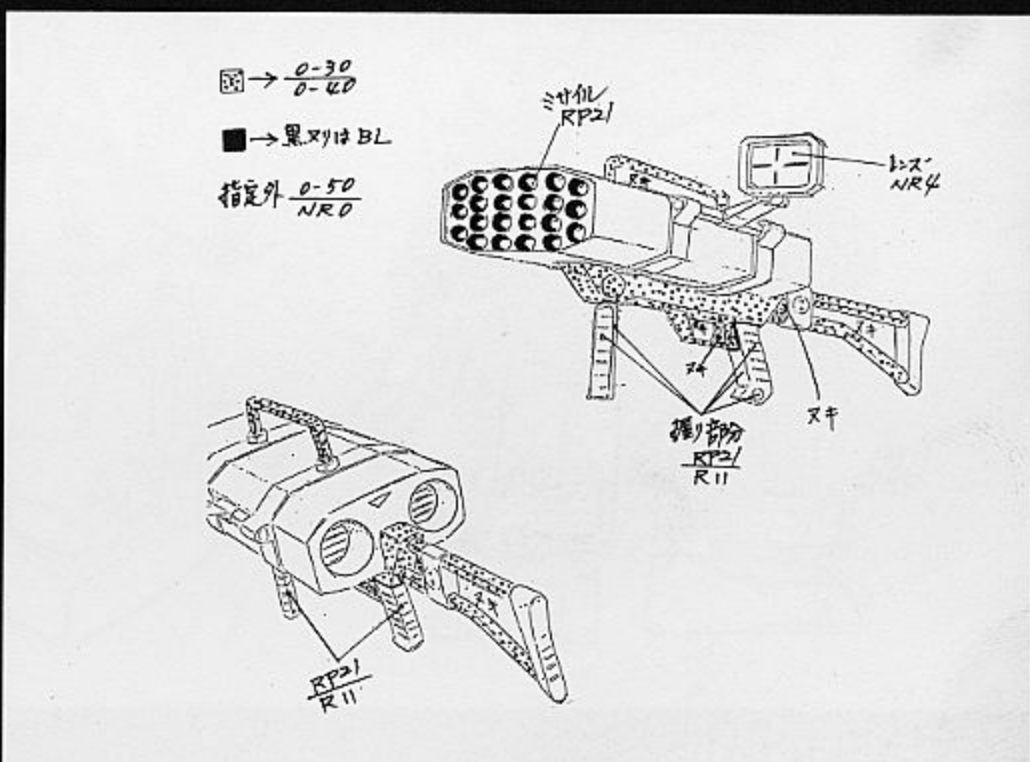
M級の后方支援や対空戦闘に使われるミサイルポッド。一応は14系全てに使用可能だが、トータスMk IIに使用される例が多いようだ。なお、このポッドを装備した機体はグランドファイアと呼ばれる。

### ⊕ HMAT-38 ハンディミサイルランチャー



中距離程度の支援に使用されるミサイル発射機。ホーミングミサイルを使用しており命中精度も高いが、高価なためにそれほど使用されていない。なおミサイルには核弾頭のオプション(VM-99D)も存在している。

### ⊕ HRAT-30 ハンディロケットガン



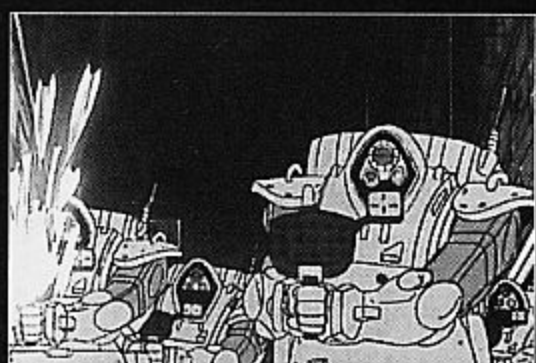
大量のロケット弾を一気にバラ撒くタイプのロケット弾ポッド。弾体には威力の異なる数タイプが存在しており、ターゲットに合わせた火力を投入しやすくなっている。しかし使い難いのか、少数派に近い存在ではある。

## ▶ COMMENT

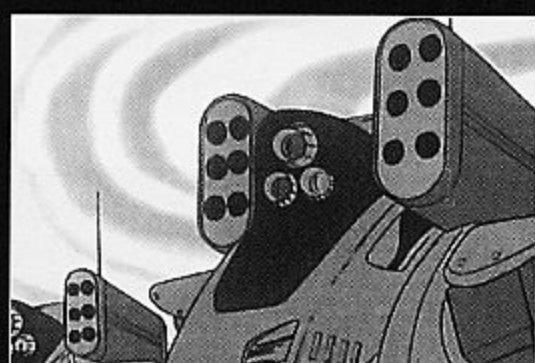
高橋：悪者っほいよね(笑)。メカが悪者じゃないし、悪者が乗ってるだけけど。

大河原：人を座らせた形で一番小さく入れるボクの答はスコープドッグな訳ですが、これはもう少し大きい場合のアプローチなんですね。少し大きくして背中の方までコックピットに使うとATの頭の中に人の頭を入れなくて良くなって、ATの頭を小さくできるんじゃないかと。中に入る人の体軀次第ではこういう形もありかいうことで。

## ▶ ON THE FRONT LINE



HRAT-30を使用するトータス。ウド壊滅時の戦闘に参加していた機体である。(13)



ビッグファイア状態の場合、発射時には側面の小窓を閉めている必要がある。(34)



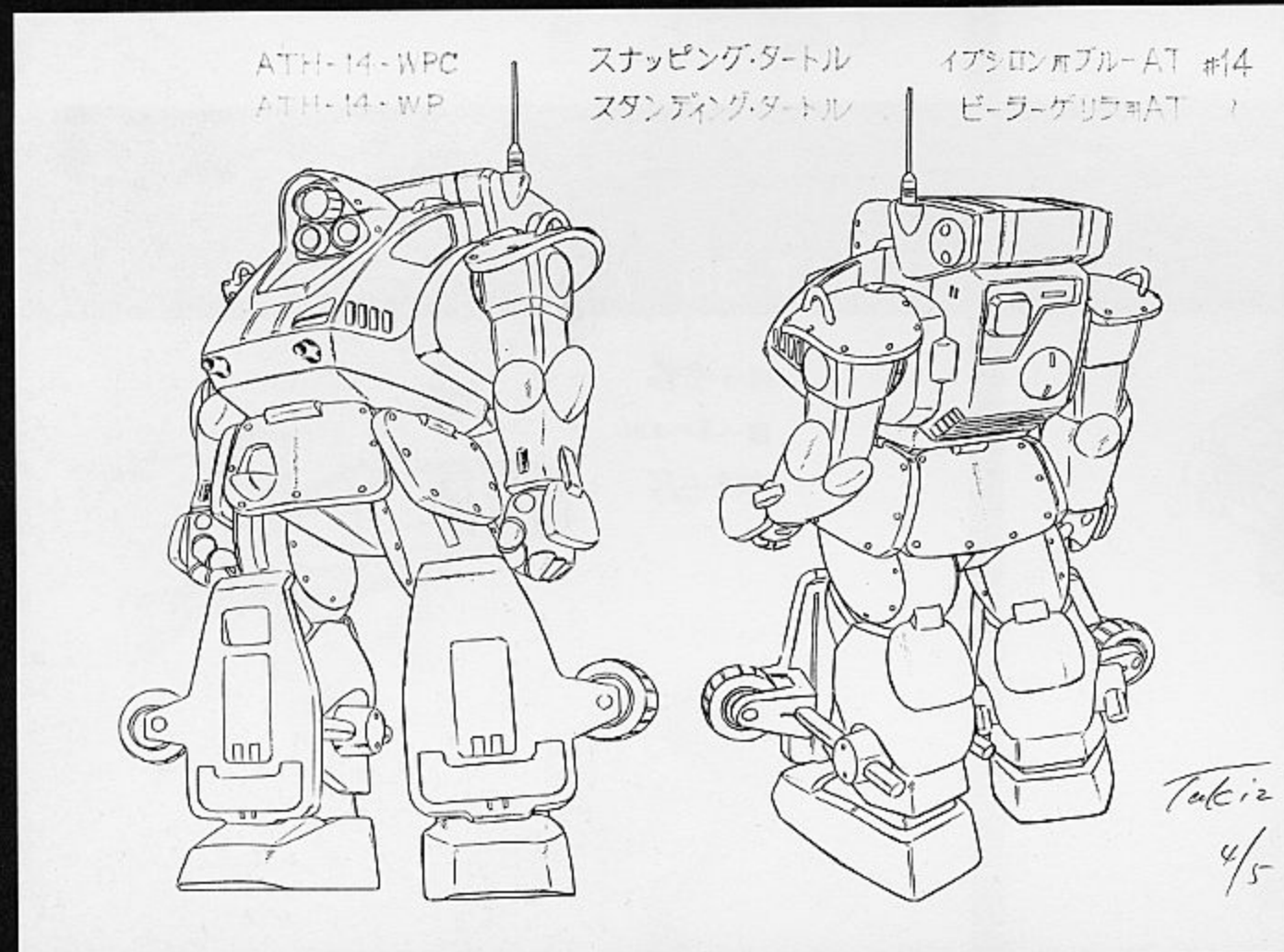
短距離飛行を行うMk II。2台がかりならばM級ATを持って飛行することも可能だ。(32)

# FILE 28 スタンディングタートル

## STANDING TURTLE FILE >> 03

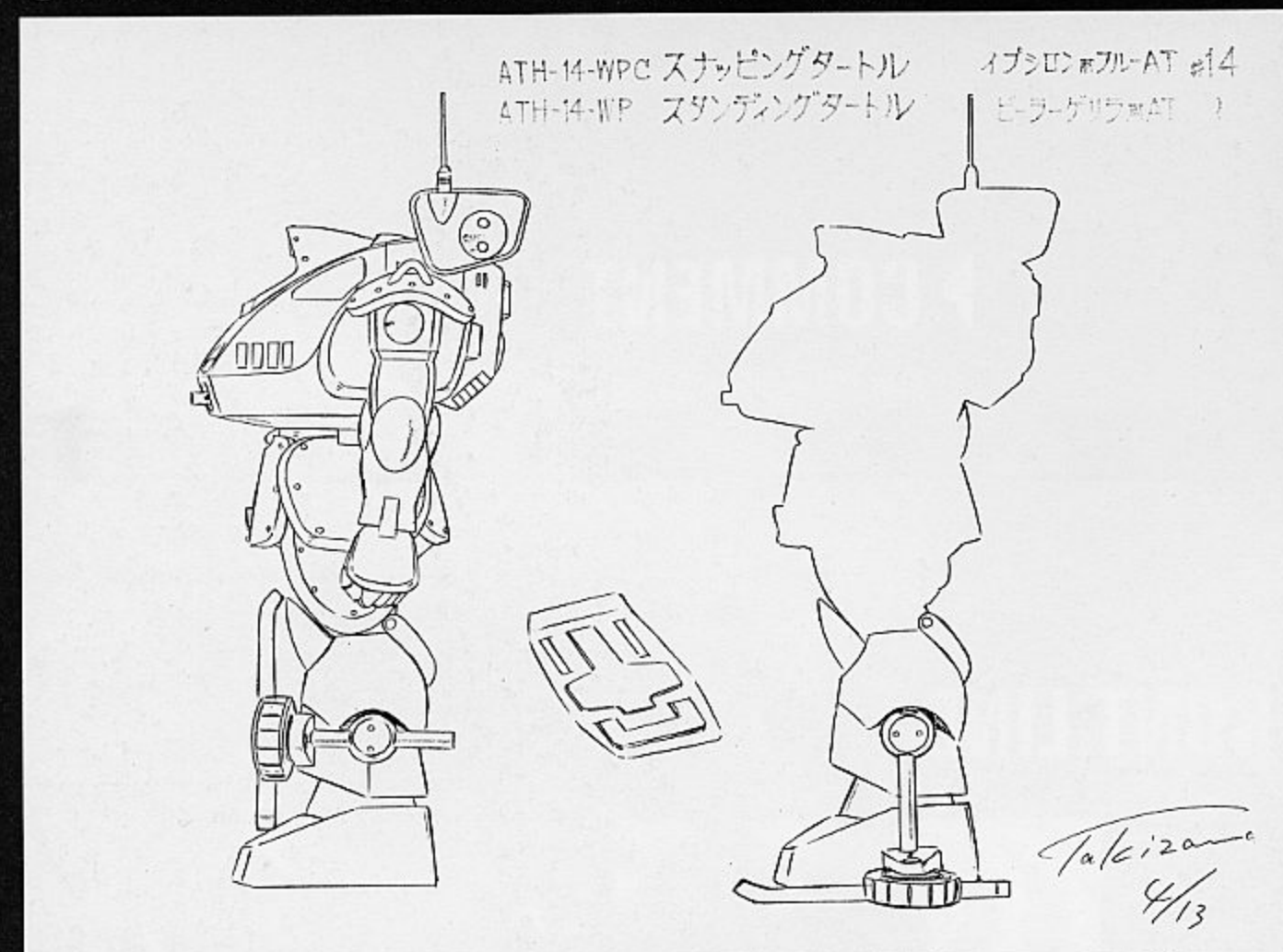
14系の湿地戦用バリエーションモデル。原型機であるトータスからの改造点には大きく2説あり、ビートル用のスワンピーグラグを流用した程度で水中戦用の内部追加機構はないというものと、水中行動用 hidro エンジンを装備しているというもの。両者に共通しているのは、コンピューターは新型に改められ、潜行可能時間は40分であるという点。攻撃力自体は高く、ブラックマーケット経由で主に内乱地帯で威力を発揮している。

### ATH-14-WP スタンディングタートル



クラス	H級
全高 (mm)	4022
降着時全高 (mm)	2312
全長 (mm)	2123
全幅 (mm)	2117
乾燥重量 (kg)	8264
基本待機重量 (kg)	8551
最大装甲厚 (mm)	15
最小装甲厚 (mm)	5
GH限界走行速度 (km/h)	51 (42)
GH巡航走行速度 (km/h)	40 (38)
GH最大出力 (hp)	320 (300)
GH最大トルク (kg/m)	70 (65)
MCバック系	スレック方式、1P-LK-S4
使用PR液 (hp/l2)	DT-MO 10.2
PR液総量 (l)	190
予備タンク容量 (l)	45 (PRSP使用時)
標準液交換時間 (h)	82
制御コンピューター	MCT-221-C
固定武装・装備	11ミリ機関銃x2、アームパンチ、スワンピーグラグ
開発団体	ウットヘルト社
*カッコ内はスワンピーグラグ使用時の数値	

### ATH-14-WPC スナッピングタートル

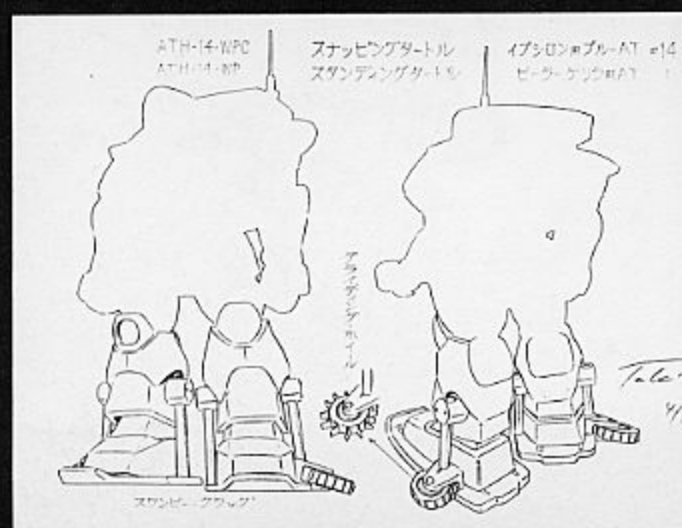
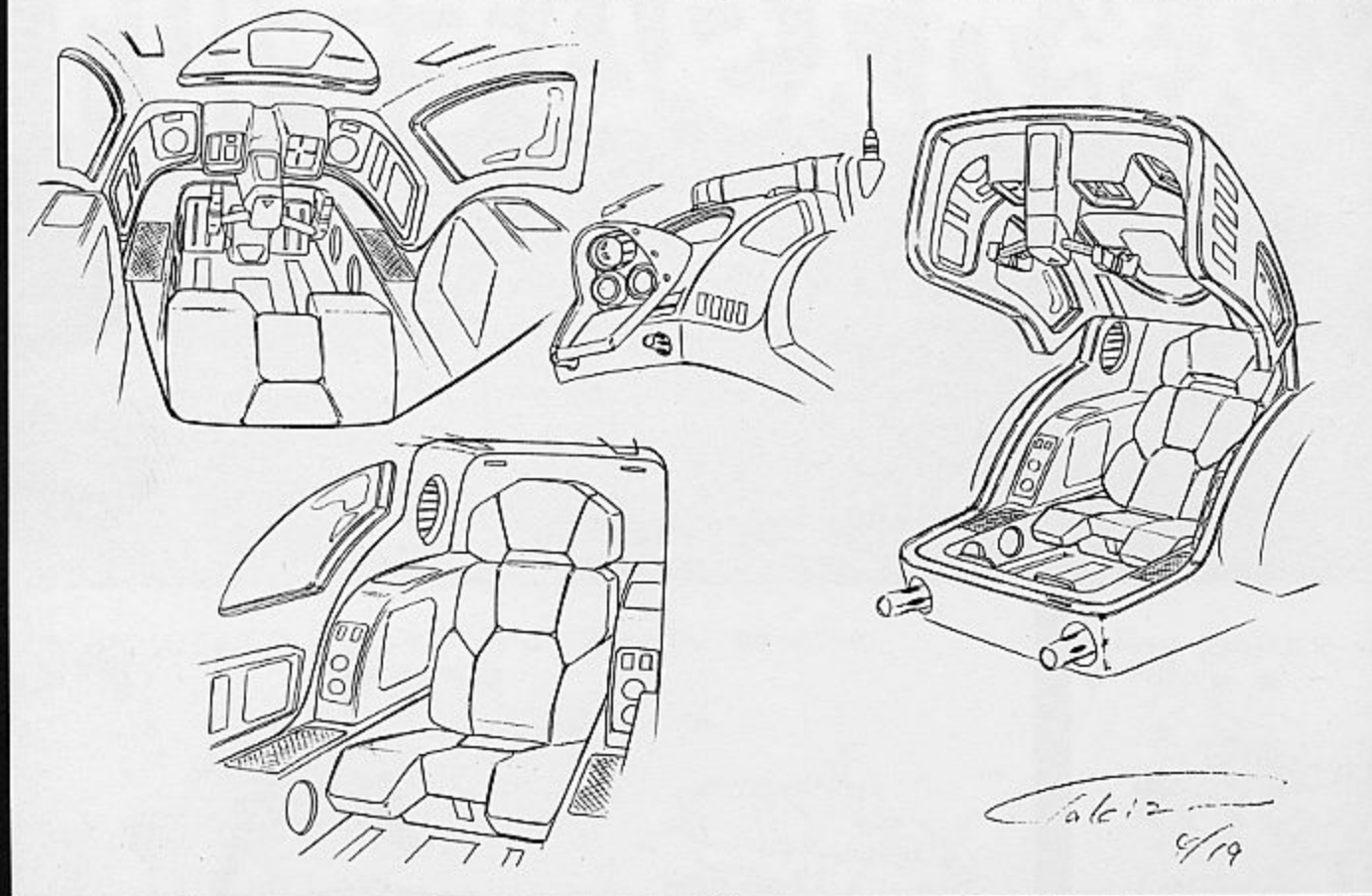


クラス	H級
全高 (mm)	4022
降着時全高 (mm)	2312
全長 (mm)	2123
全幅 (mm)	2117
乾燥重量 (kg)	8196
基本待機重量 (kg)	8481
最大装甲厚 (mm)	15
最小装甲厚 (mm)	5
GH限界走行速度 (km/h)	59 (48)
GH巡航走行速度 (km/h)	50 (42)
GH最大出力 (hp)	380 (360)
GH最大トルク (kg/m)	82 (78)
MCバック系	スレック方式、1P-LJ-S4
使用PR液 (hp/l2)	DT-MH 12.8
PR液総量 (l)	190
予備タンク容量 (l)	45 (PRSP使用時)
標準液交換時間 (h)	74
制御コンピューター	MCM-1MX II
固定武装・装備	11ミリ機関銃x2、アームパンチ、スワンピーグラグ
開発団体	ウットヘルト社
(原形のみ。秘密結社によるカスタムモデル)	
*カッコ内はスワンピーグラグ使用時の数値	

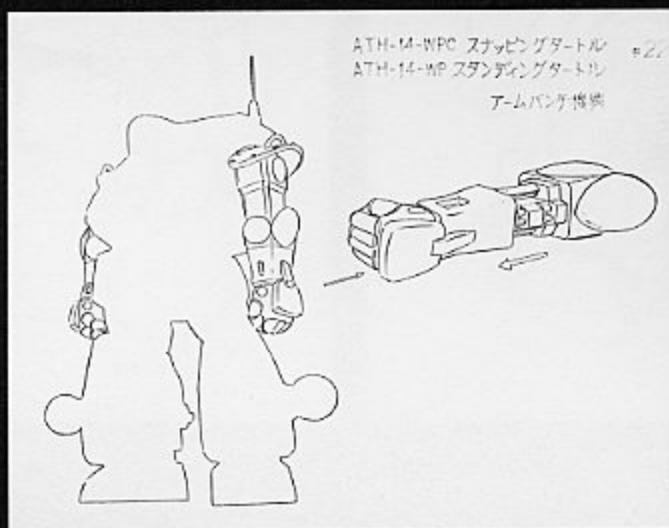
こちらはブルーATことスナッピングタートル。もっとも外見上は塗装以外は完全に同一であり、それほど目を引く存在ではないのは事実であろう。

## ⊕ コックピット

ATH-14-WPC スナッピングタートル イブシロンブルーAT (内) #14  
ATH-14-WP スタンディングタートル ビーラーゲリラAT (内) コックピット



使用時のスワンビーグラグ機構。足の裏の面積を拡大させることで接地圧を下げ、泥濘の中でも歩行できるようにしたもの。要はAT用の田下駄だが、この単純な装備が湿地戦闘の様相を変えたといっても過言ではない。



アームパンチ機構。14系には当初はアームパンチの装備がなく、配備は遅れていた。アームパンチ開発以降に生産された機体が多いタートルはかなりの機体が装備しているが、それでも装備していない機体も散見される。

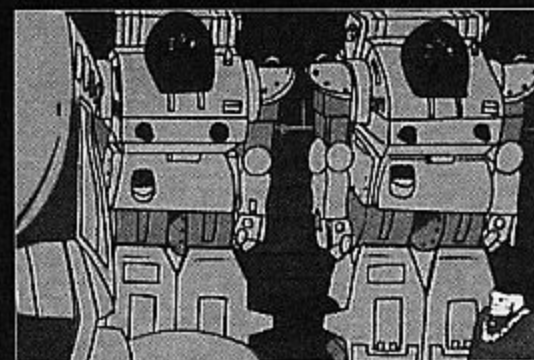
## ▶ ON THE FRONT LINE



水中から現れるタートル。ビートル系程ではないが、十分な水中行動能力を持つ。(21)



トータスでは開閉可能な側面の窓は、強化ガラスがはめられ密閉されている。(23)



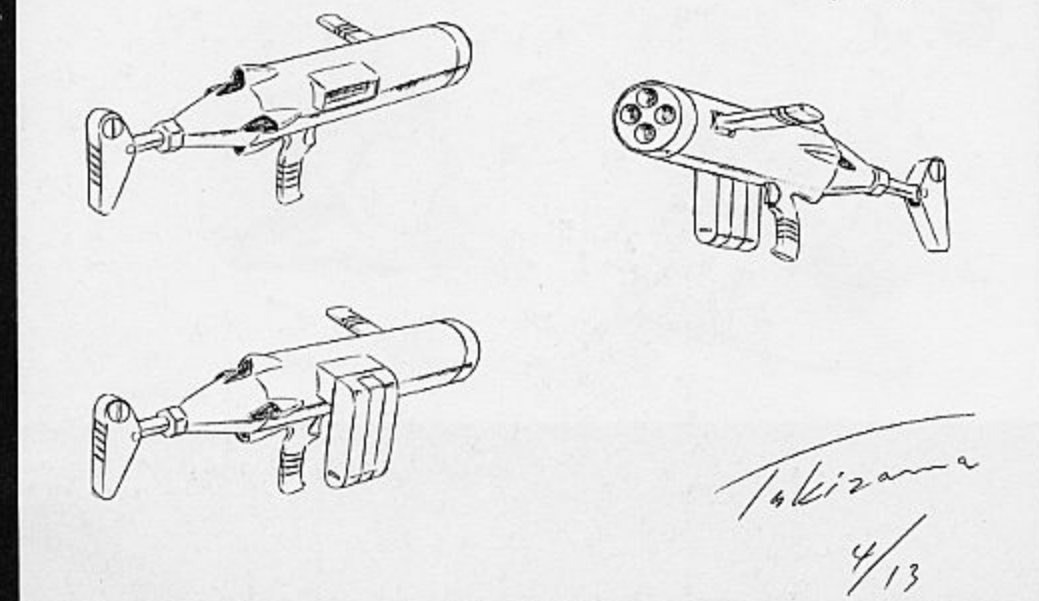
同じ部隊でも、アームパンチ装備機と未装備機が混在している例が存在している。(21)

## ▶ COMMENT

高橋：これ、最初のイメージは横並びで進撃してくる。昔の戦車みたいな感じで。  
井上：だから側面は互いに連絡できるような窓がある。トータスは戦車の窓みたい  
に開け閉めできるけど、防水のタートルの方にはガラスがはまって密閉されてる。  
後方は見づらいしセンサーもないっぽいけど、集団でわーっと押し寄せてくるから  
必要ない。それにみんな、後方視界が悪くたってカウンタック乗るよね(笑)。

## ⊕ HRAT-23 ハンドロケットランチャー

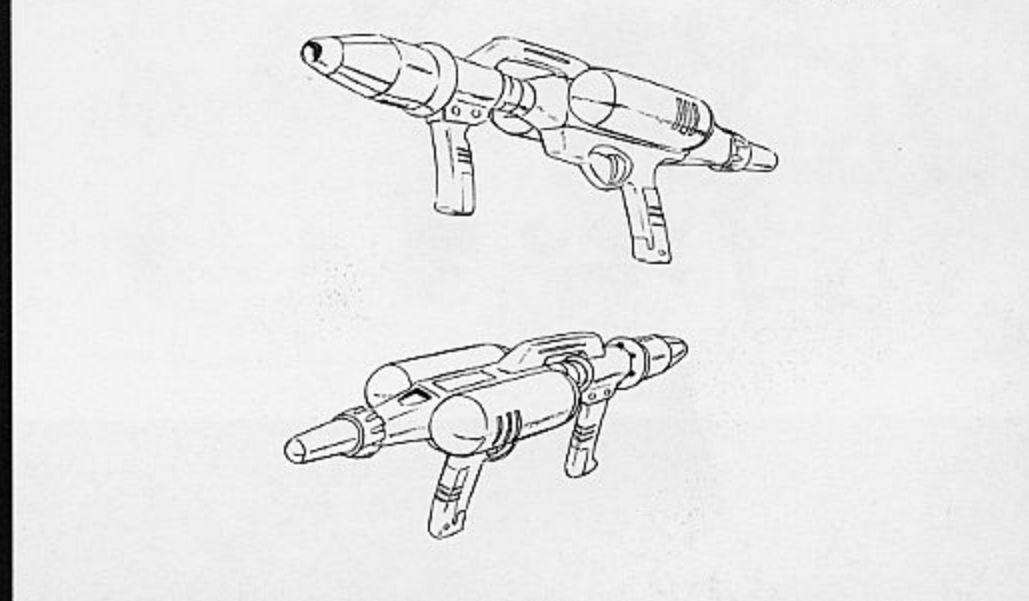
ATH-14-WPC スナッピングタートル イブシロンブルーAT #14  
ATH-14-WP スタンディングタートル ビーラーゲリラAT (専用銃)



14系ATが多用するハンドロケットランチャー。装弾数の問題に眼をつぶればアサルトライフル的な使用も可能で、1弾当たりの破壊力も高く、まぎれもない傑作銃であると言える。

## ⊕ FTAT-16 フレイムスロウワー

スタンディングタートル系、スナッピングタートル系 #14  
(ビーラーゲリラAT) (イブシロンAT)  
火炎放射銃



AT用の火炎放射器。対人戦闘や施設の破壊には有効な兵器で、建築物に可燃性の素材を多用する地域では特に効果が高い。ビーラーゲリラによるニイタン襲撃作戦が、特に成功した作戦として知られている。

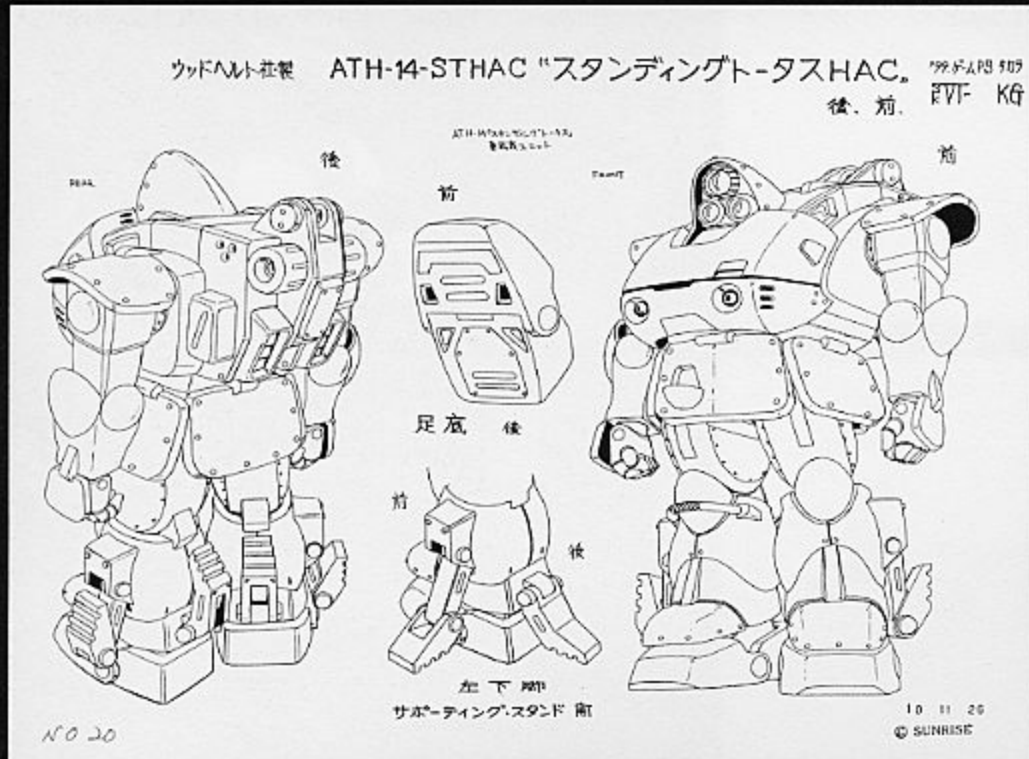
# STANDING TORTOISE CUSTOM 1 ATH-14 Series

## FILE 29 トータス系カスタムモデル1

### STANDING TORTOISE CUSTOM 1 FILE >> 03

元々局地戦に向いていた14系は、タートル系として知られる水陸両用機を筆頭に、多数のバリエーションモデルが存在する。それは14系の持つ設計上の余裕によるものだが、基本的なものだけでもその数は尋常なものではない。ここではまずトータス系、タートル系の区別を付けることなく、14系としての基本的なバリエーションモデルを提示する。なお、これらは基本的にギルガメス軍の制式採用機である。

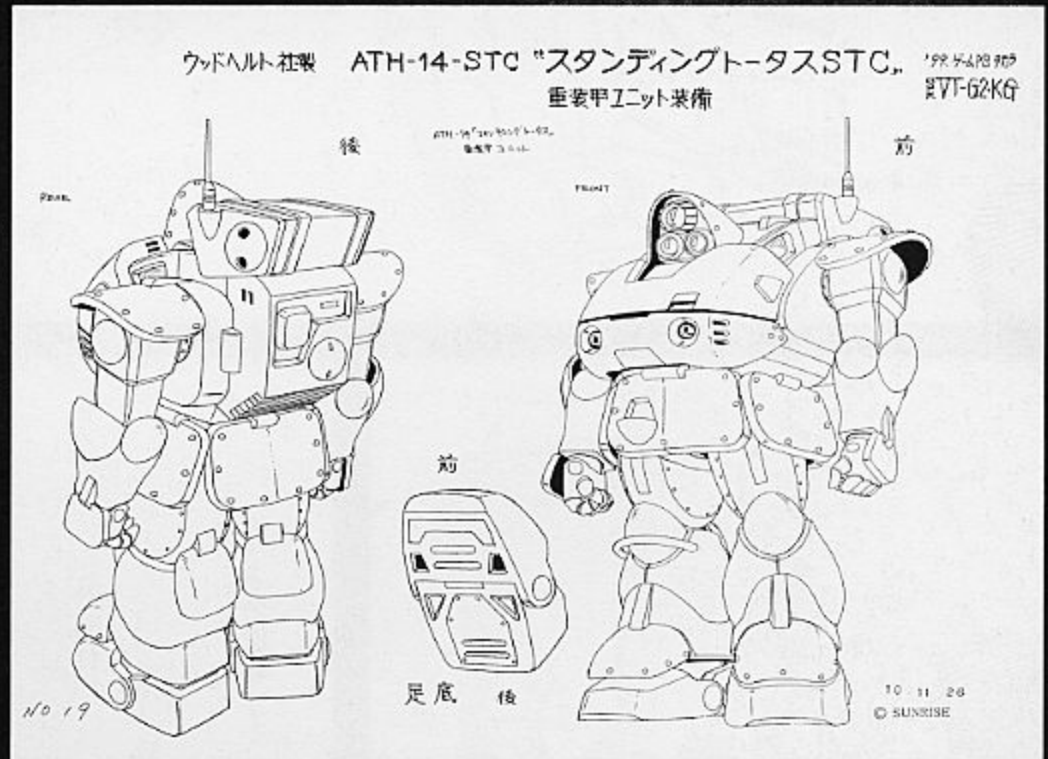
#### ATH-14-STHAC スタンディングトータスHAC



クラス	H級
全高 (mm)	4172
全長 (mm)	2652
全幅 (mm)	2246
乾燥重量 (kg)	8191
最大装甲厚 (mm)	25
限界走行速度 (km/h)	68.2
固定武装・装備	11ミリ機関銃x2

重装甲型をベースに火力を増強させ、後方支援にのみ特化させた機体。火力支援には非常に有効だった。

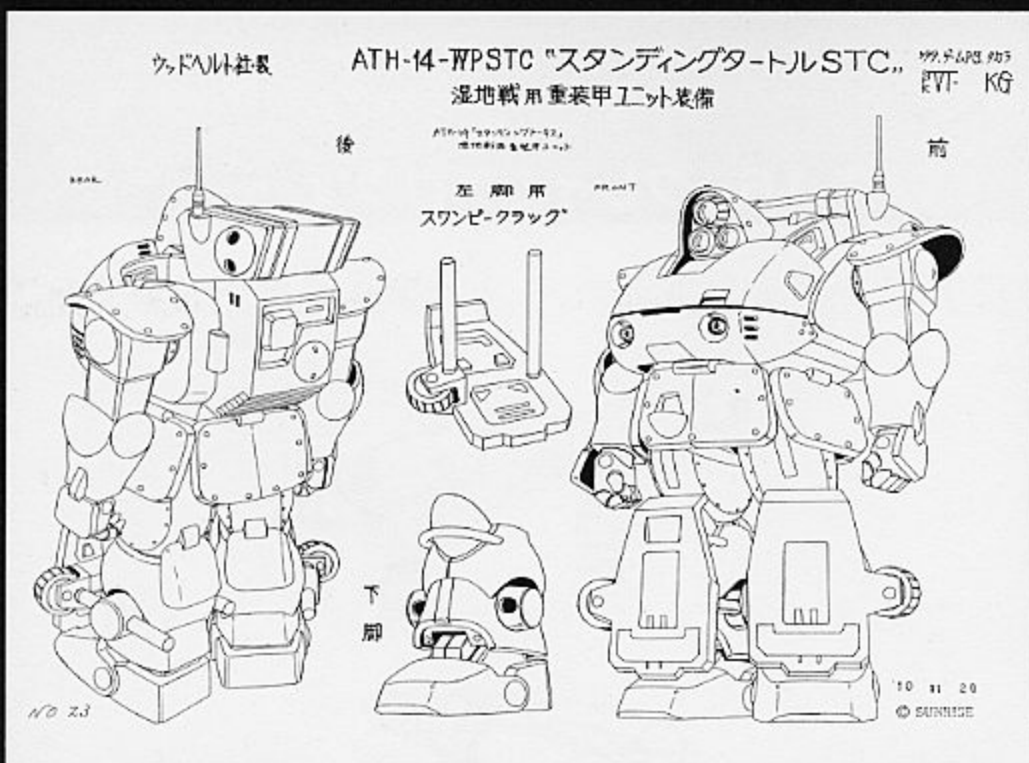
#### ATH-14-STC スタンディングトータスSTC



クラス	H級
全高 (mm)	4133
全長 (mm)	2835
全幅 (mm)	2354
乾燥重量 (kg)	7771
最大装甲厚 (mm)	26
限界走行速度 (km/h)	65.0
固定武装・装備	11ミリ機関銃x2

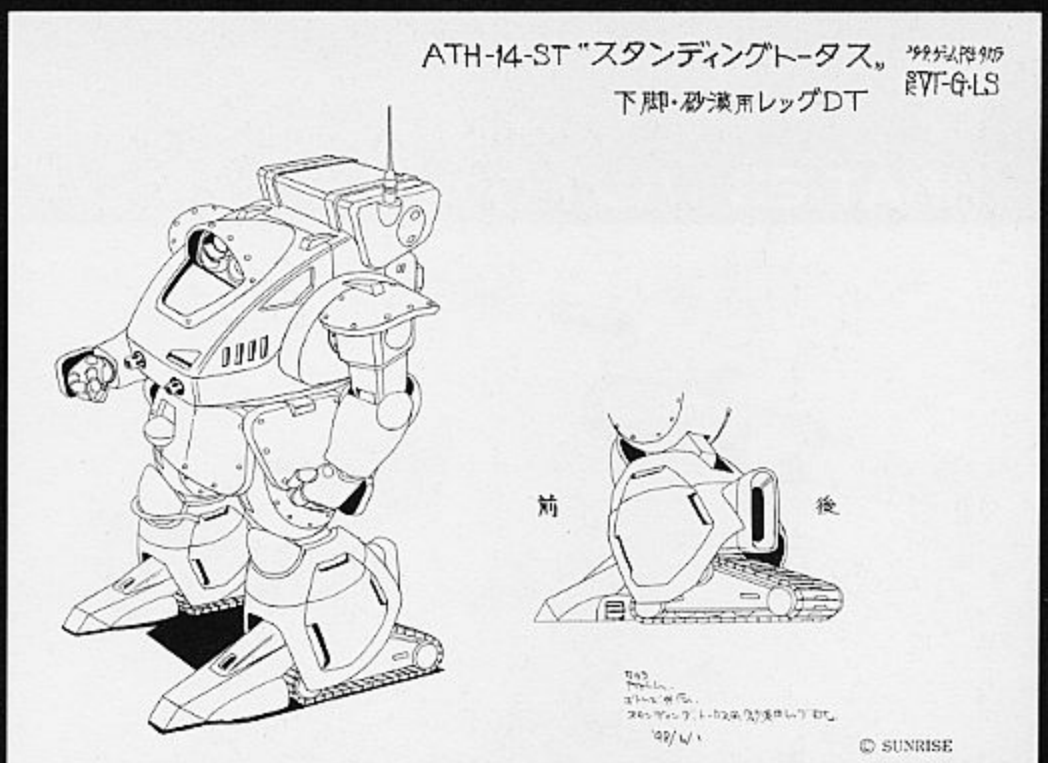
トータスの重装甲型。機動性は劣悪だが撃たれ強いため、最終防衛ラインの死守などに使用される傾向がある。

#### ATH-14-WPSTC スタンディングタートルSTC 湿地戦用重装甲ユニット装備



タートルの重装甲型。特に胸部装甲が強化されているが、湿地戦では足を引っ張る状況が発生しがちだった。

#### ATH-14-ST スタンディングトータス 下脚・砂漠用レッグDT

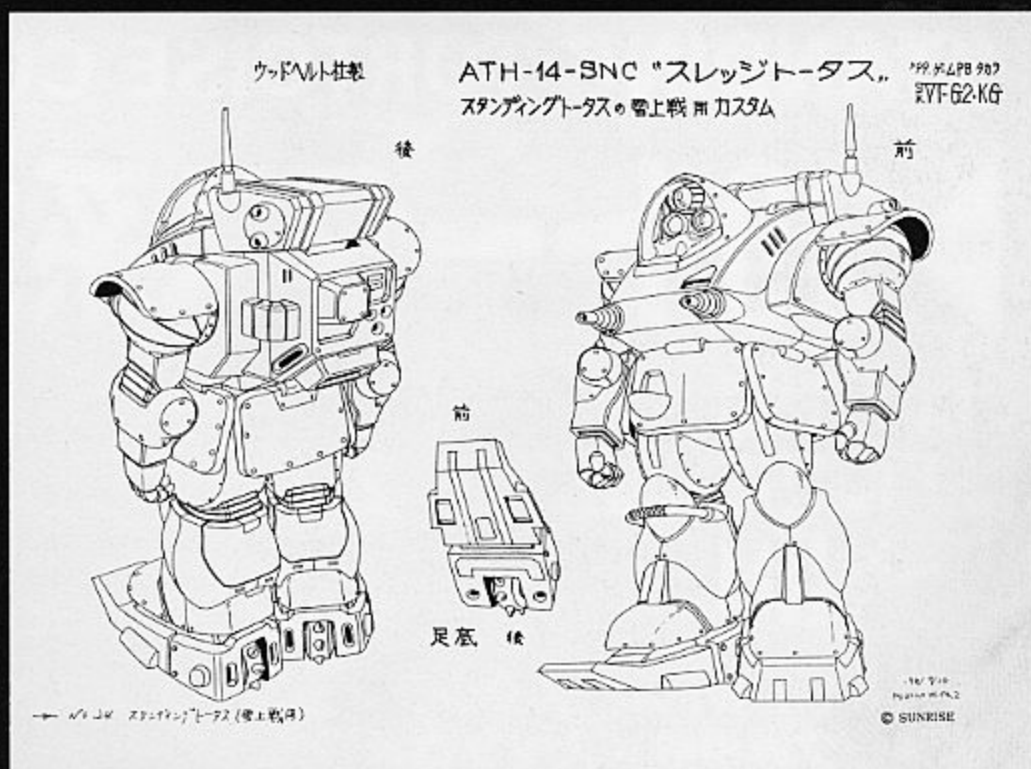


これはトータスの砂漠戦用モデル。09系カスタムほどではないが、かなりの機動性を確保した機体である。

## + ATH-14-SNC スレッジトータス 雪上用カスタム

トータスの雪上用カスタム。重量は増加しているが、強化された脚部のためオリジナル以上の踏破力を持つ。

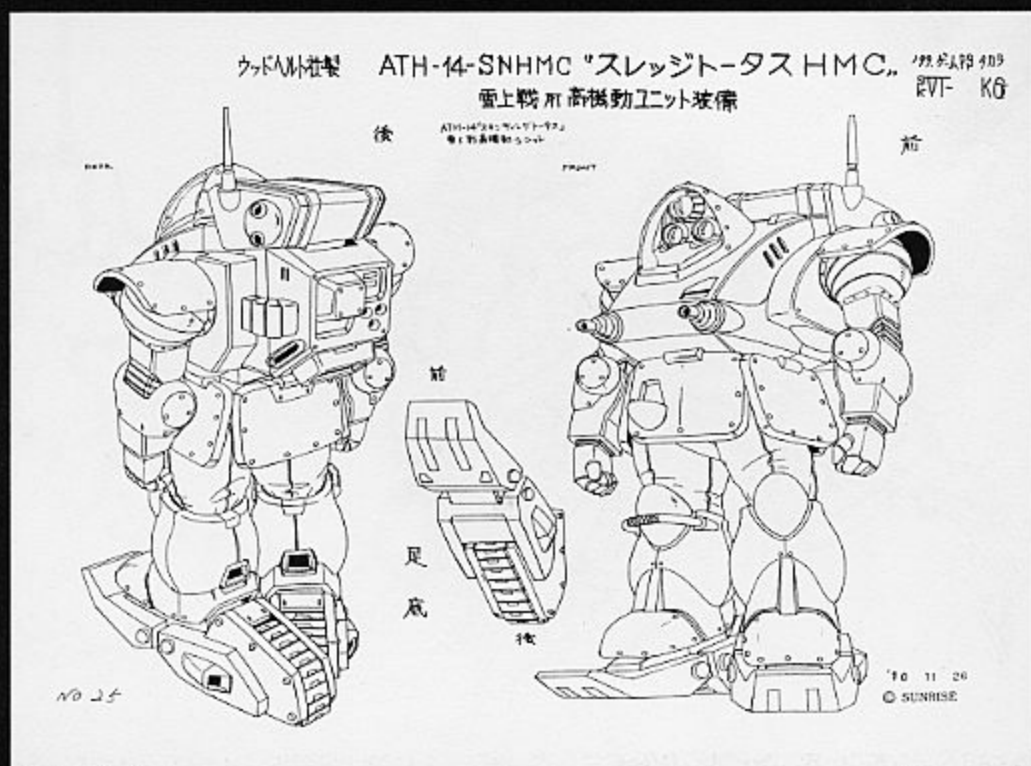
クラス	H級
全高 (mm)	4177
全長 (mm)	2653
全幅 (mm)	2246
乾燥重量 (kg)	8159
最大装甲厚 (mm)	16
GH限界走行速度 (km/h)	74.8
固定武装・装備	11ミリ機関銃x2、雪上用スレッジ



## + ATH-14-SNHMC スレッジトータスTMC 雪上用高機動ユニット装備

スレッジトータスの高機動モデル。雪上では相当の機動力と安定性を発揮する機体となっている。

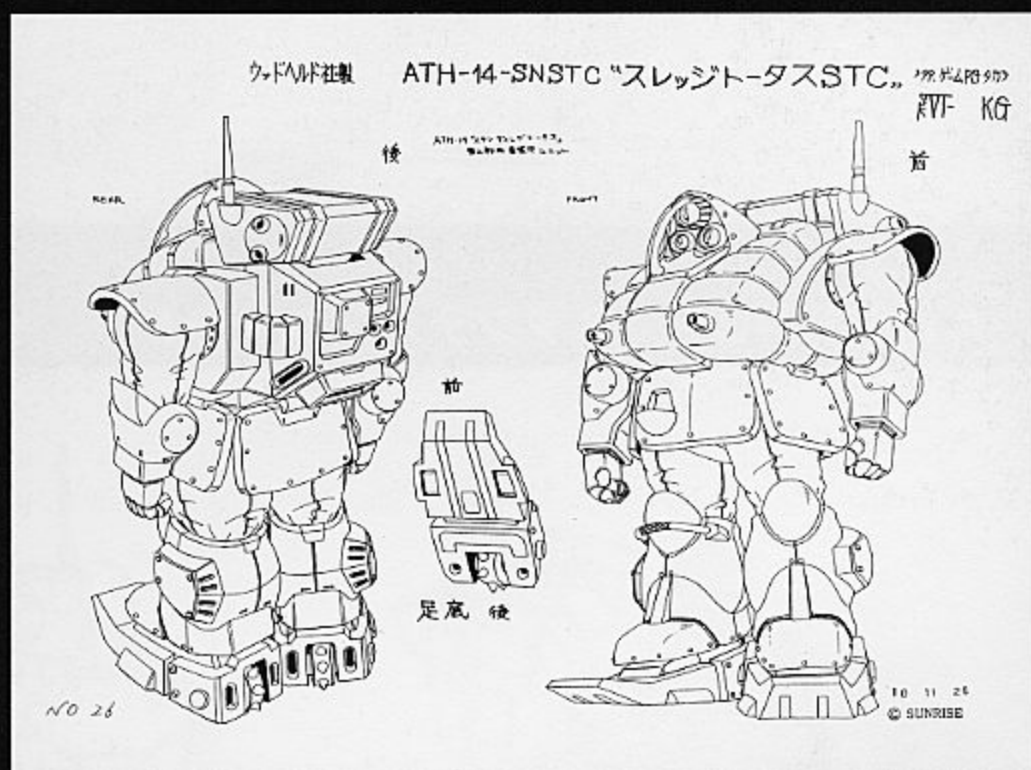
クラス	H級
全高 (mm)	4182
全長 (mm)	2678
全幅 (mm)	2246
乾燥重量 (kg)	8587
最大装甲厚 (mm)	17
GH限界走行速度 (km/h)	75.7
固定武装・装備	11ミリ機関銃x2 高機動型雪上用スレッジ



## + ATH-14-SNSTC スレッジトータスSTC

スレッジトータスの重装甲モデル。長時間の待機任務が多いために、ヒーターの装備がかなり充実している。

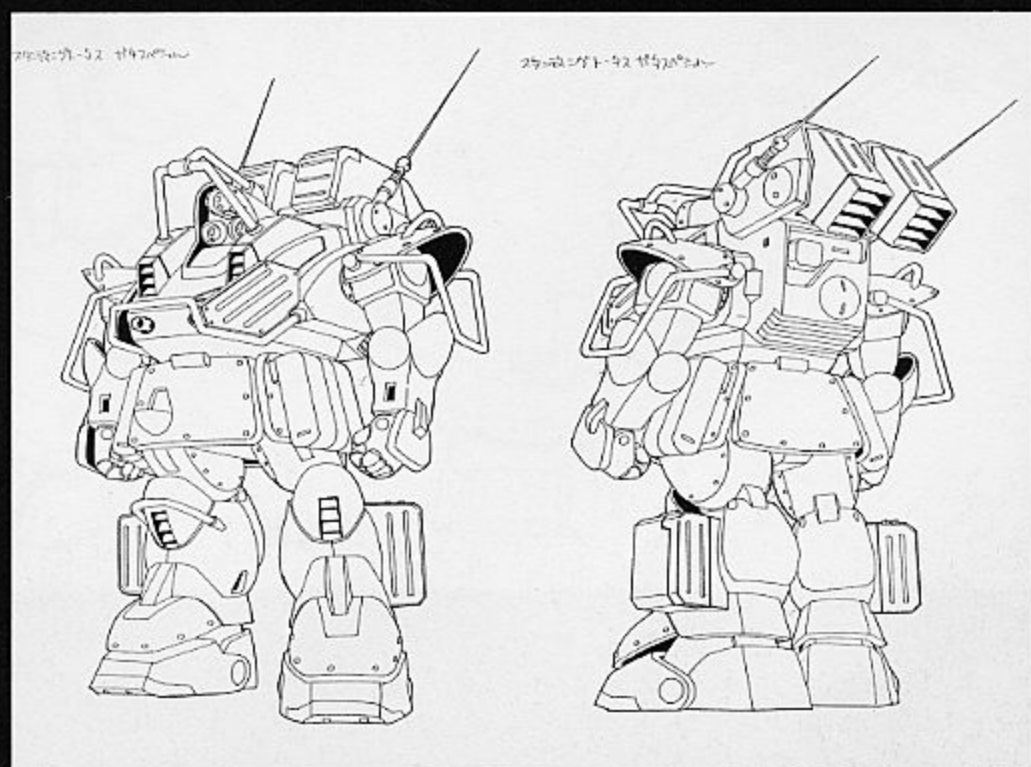
クラス	H級
全高 (mm)	4183
全長 (mm)	2819
全幅 (mm)	2371
乾燥重量 (kg)	8733
最大装甲厚 (mm)	25
GH限界走行速度 (km/h)	69.5
固定武装・装備	11ミリ機関銃x2、雪上用スレッジ



## + ATH-14-STC スタンディングトータス ガタ・スペシャル

これはバトリング用の機体だが、攻撃力と防御力を併せ持った稀有な事例なので、参考として取り上げる。

クラス	H級
全高 (mm)	4053
全長 (mm)	-
全幅 (mm)	-
乾燥重量 (kg)	8125
最大装甲厚 (mm)	18
GH限界走行速度 (km/h)	65.5
固定武装・装備	11ミリ機関銃x2、アームパンチ



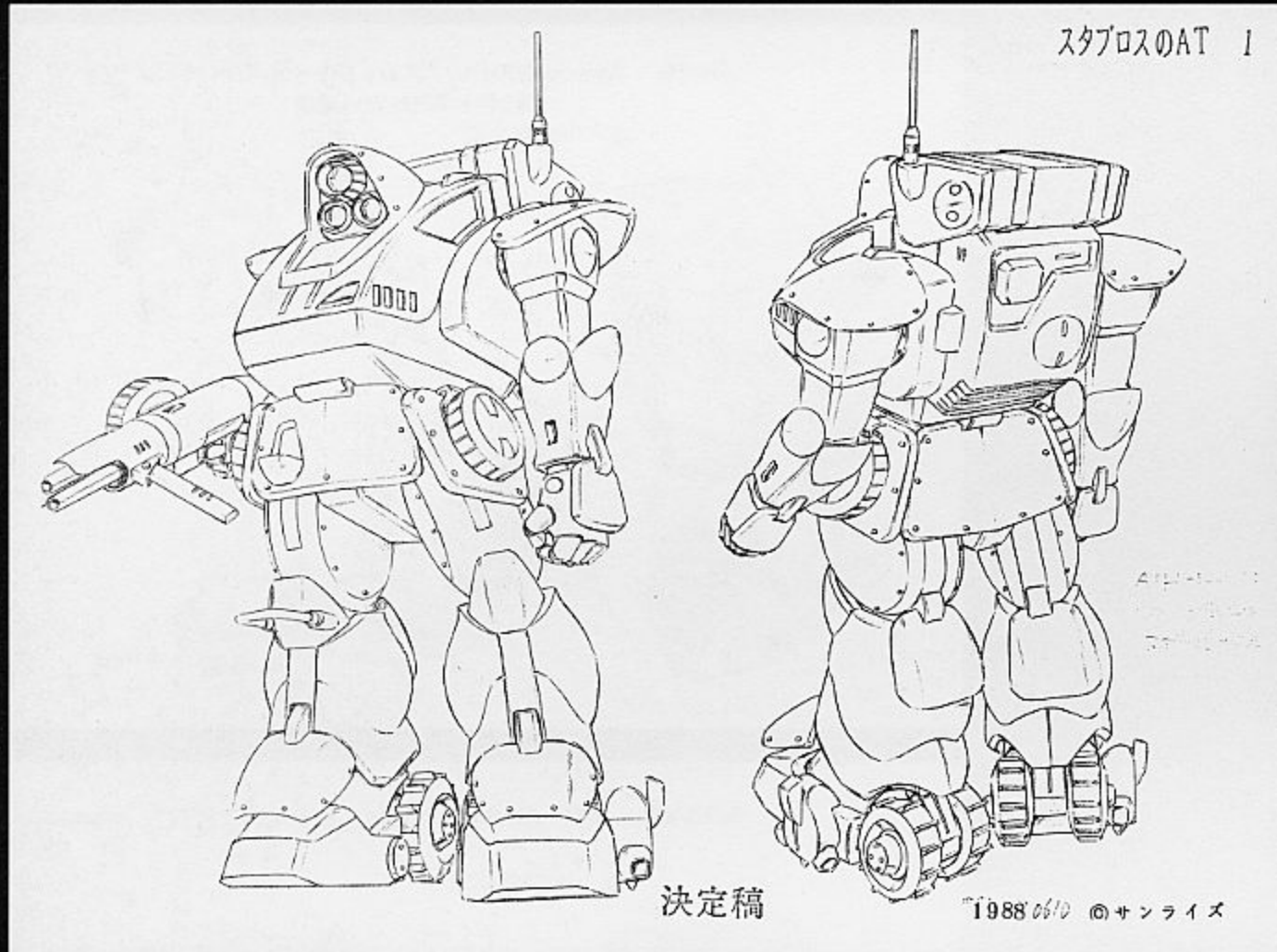
# STANDING TORTOISE CUSTOM 2 ATH-14 Series

## FILE ▶ 30 トータス系カスタムモデル2

### STANDING TORTOISE CUSTOM 2 FILE >>>

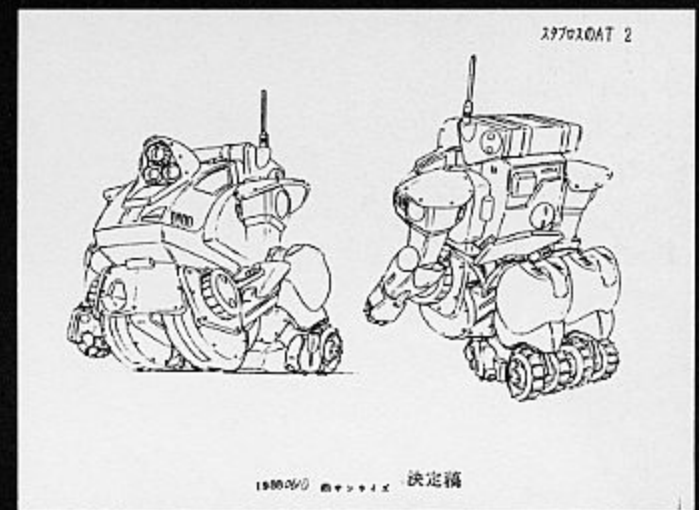
軍で使用されている制式採用のバリエーションやバトリング用カスタム以外にも、14系には特殊なカスタムモデルが存在する。ここで取り上げるのはクメン王国において、自らの戦力でビーラーゲリラから荘園を守る自警団の機体である。作戦目的が絞られているこれらの機体は、オーナーの財力とあいまって特徴的なカスタマイズが施されている。類似の作戦を同じ土地で繰り返す例はさほど多くなく、ATの装備最適化の例として興味深い。

#### ⊕ ATH-14-WPA スタンディングトータス改 スヌーク専用機 (スタブロス)

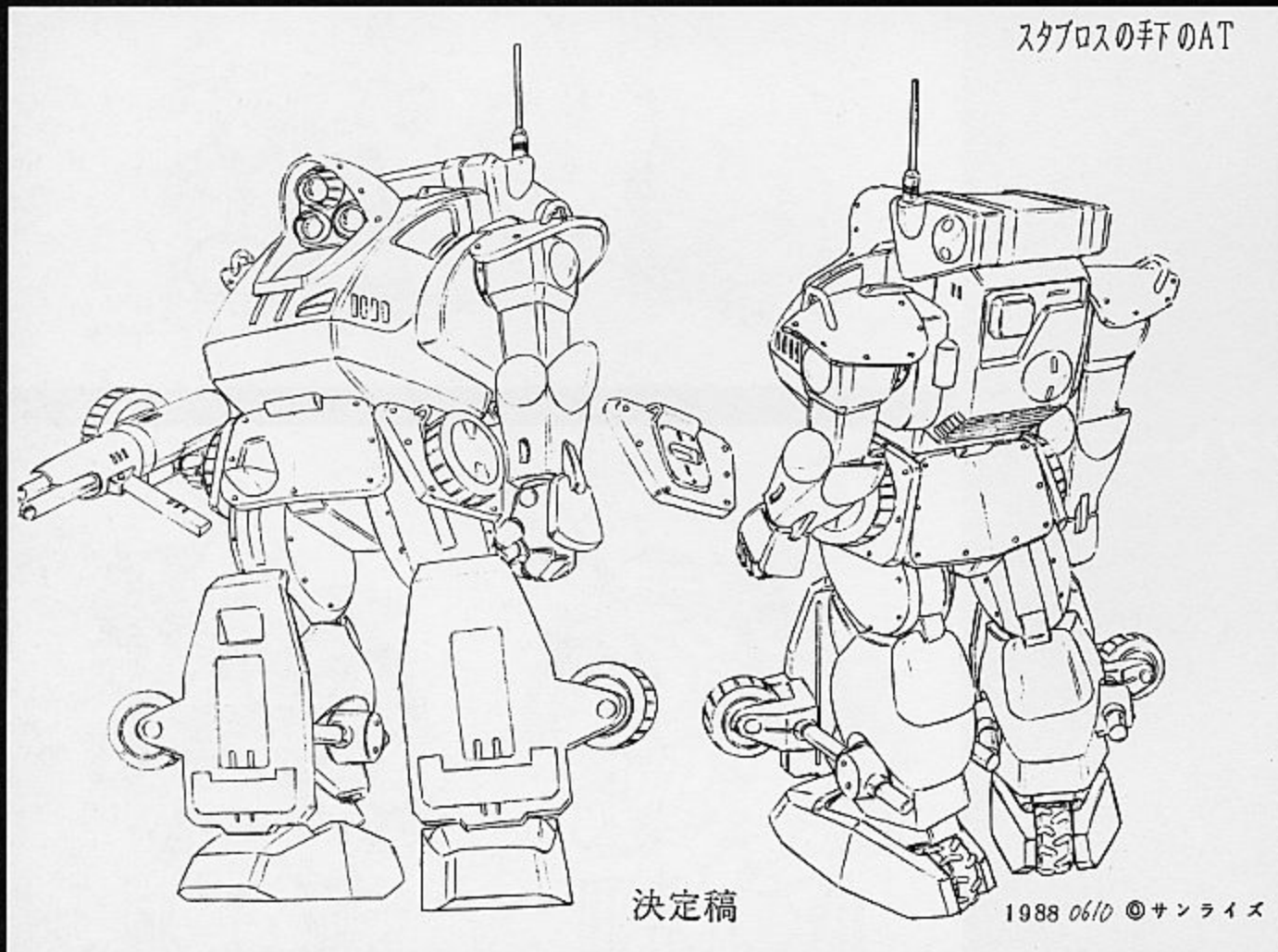


スタブロス氏の機体。高機動型のカスタムモデルである。

クラス	H級
全高 (mm)	4024
全長 (mm)	4010
全幅 (mm)	3488
乾燥重量 (kg)	8388
最大装甲厚 (mm)	18
GH限界走行速度 (km/h)	56.1
固定武装・装備	アームパンチ

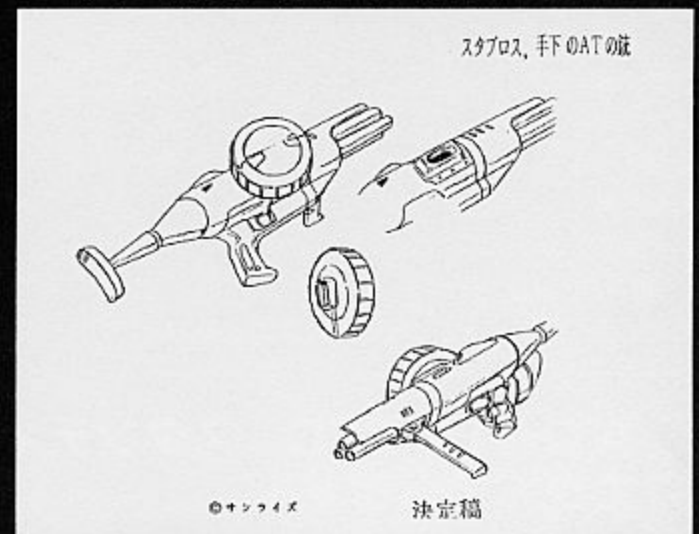


#### ⊕ ATH-14-WP スタンディングタートル イネット機



自警団団員の機体。機動性を重視した、軽いカスタムが施されている。

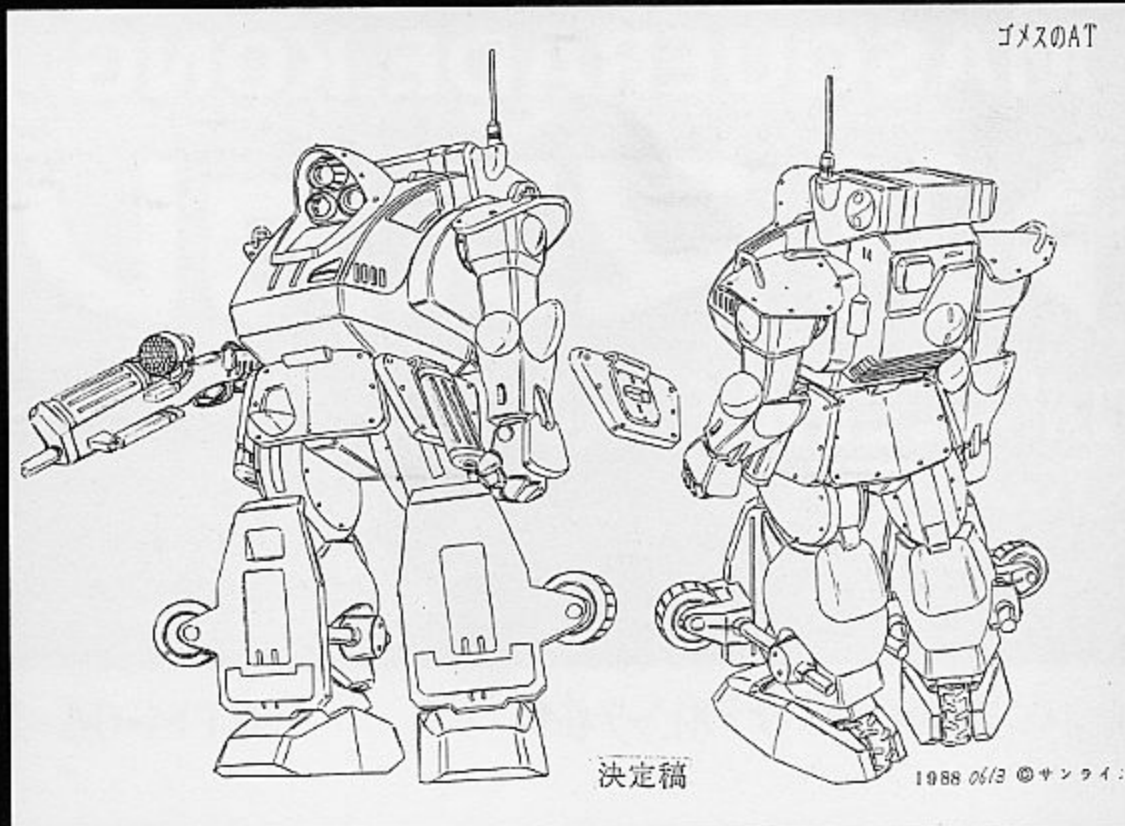
#### ⊕ GAT-42 大型ガトリングガン



## ATH-14-WP スタンディングタートル ゴメス専用機

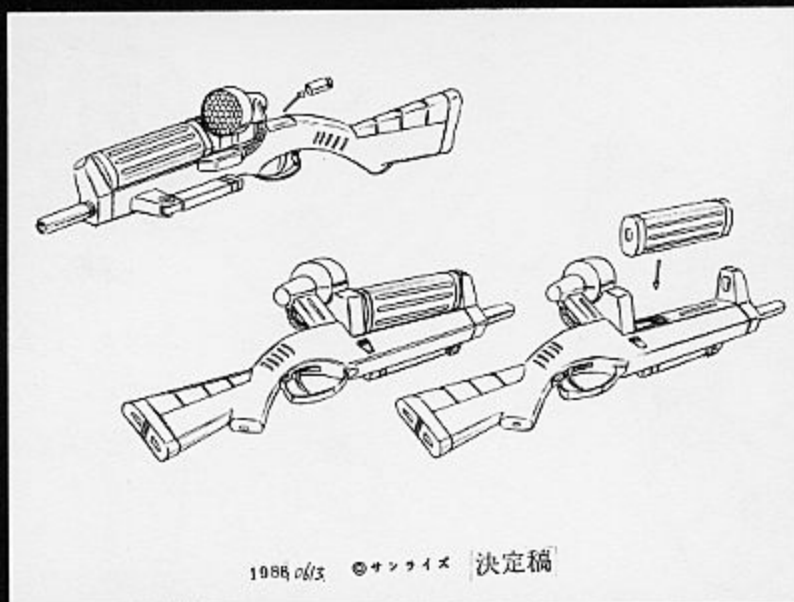
自警団隊長の機体。基本的には隊員の機体と同じだが、対人戦闘に特化した、ATサイズのショットガンを装備しているのが興味深い。

クラス	H級
全高 (mm)	4022
全長 (mm)	2123
全幅 (mm)	2117
乾燥重量 (kg)	8264
最大装甲厚 (mm)	15
GH限界走行速度 (km/h)	51.3
固定武装・装備	アームパンチ



## ショットガン

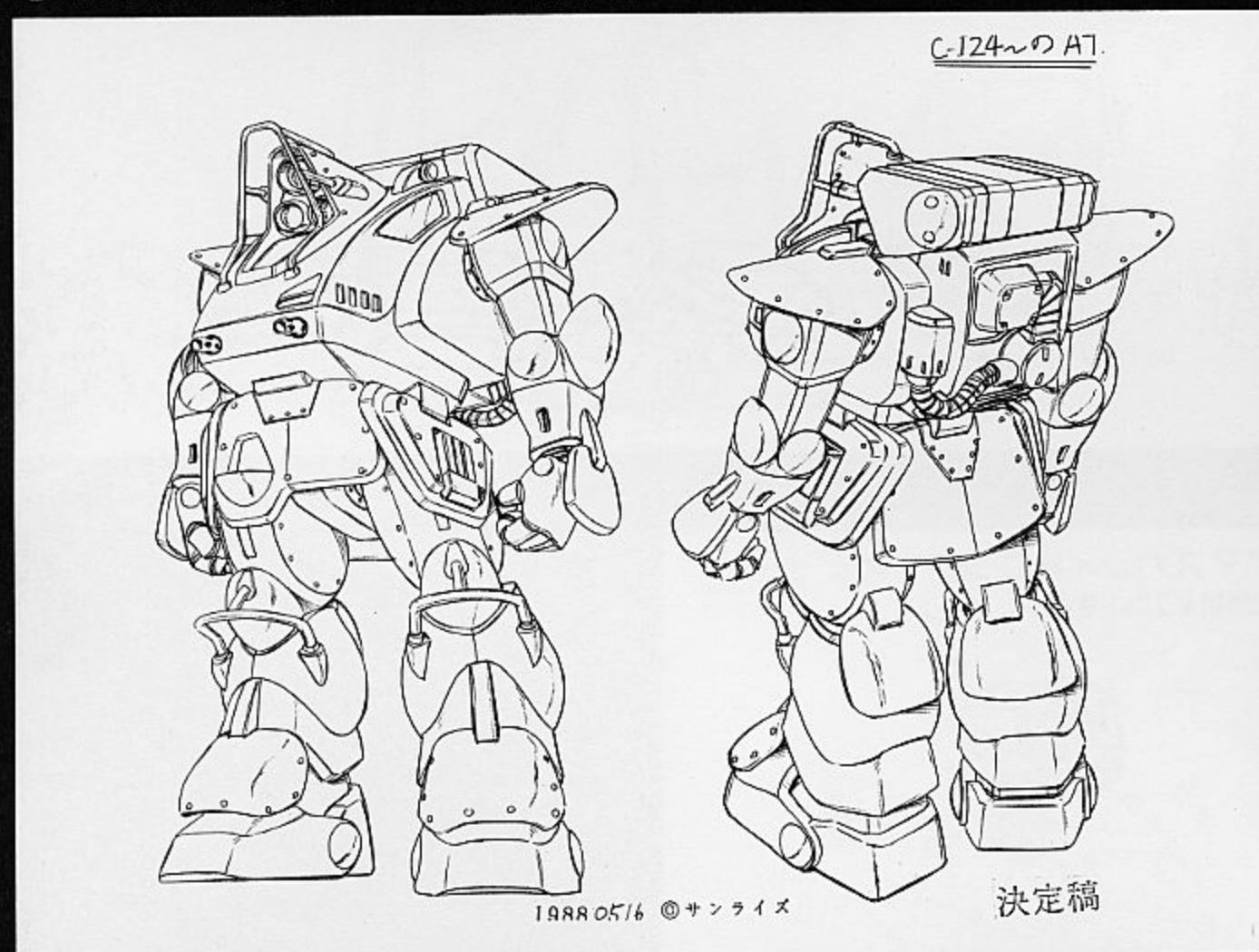
対人用のショットガン。対人戦闘以外には使い道の無い装備で、敵がはっきりしているからこそ選択できる装備と言える。



## COMMENT

井上：あ、ひょっとしたら『メロウリンク』で初めて出たのかな？ トータス系の降着ポーズの設定。TVシリーズでもやることはやってるけど、そんなに目立つ使い方はしてなかったはずだし。  
大河原：実は『メロウリンク』の年って、唯一TVシリーズの仕事のない年だったんです。だからのんびりした仕事ではありました。寂しくはありませんけど(笑)。

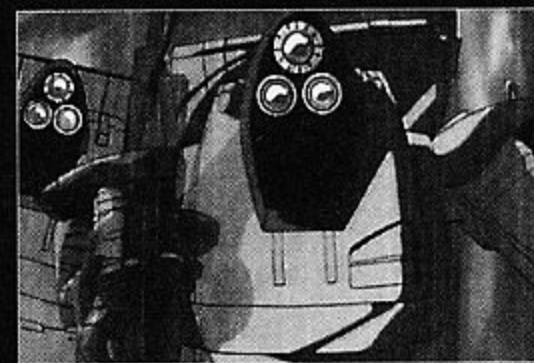
## スタンディングトータス後期型



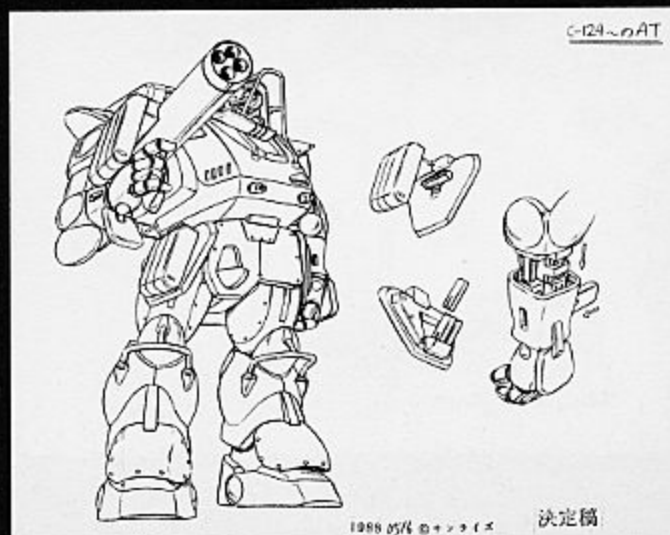
## ON THE FRONT LINE



大型GHの構造が確認できるカット。パララントの影響が大きい(そのものか?) (M3)



ガンスピンを行う自警団隊長機。実用的な意味は薄いですが、対象の威圧には有効? (M3)



参考として、後期に生産されたスタンディングトータスの一モデルを紹介する。アームパンチ機構の装備が行われた後の機体である。

クラス	H級
全高 (mm)	4022
全長 (mm)	2122
全幅 (mm)	2117
乾燥重量 (kg)	8033
最大装甲厚 (mm)	15
GH限界走行速度 (km/h)	71.3
固定武装・装備	11ミリ機関銃x2、アームパンチ

# MASQUERADE KONG

# ATM-06-ST

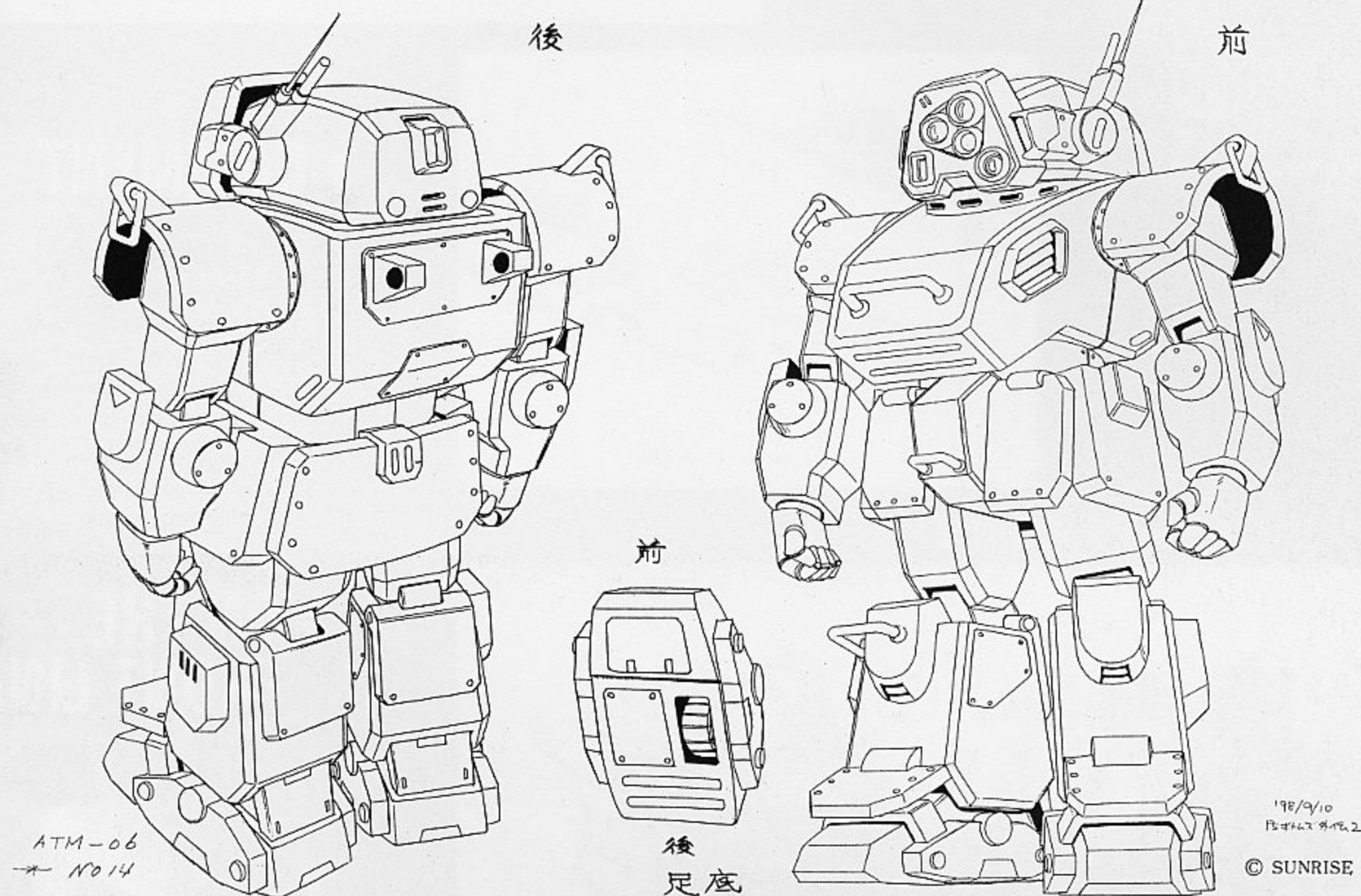
# FILE 31 マスカレイドコング

## MASQUERADE KONG PTCE>>01

ミッションディスクを採用した初のAT。必要なデータをディスクの形で供給するというシステムにより、開発当初の目的である汎用性の確保を可能としている。ただ、この時点ではまだミッションディスクの運用やデータ自体が手探りだったということもあり、後の09系よりも行き届いたシステムが搭載されていた。そのためパイロットの負担も少なく、09系の配備後も一部の古参兵や新兵などに好んで使用されていたようだ。

惑星メルキア:アデルビッツ社製

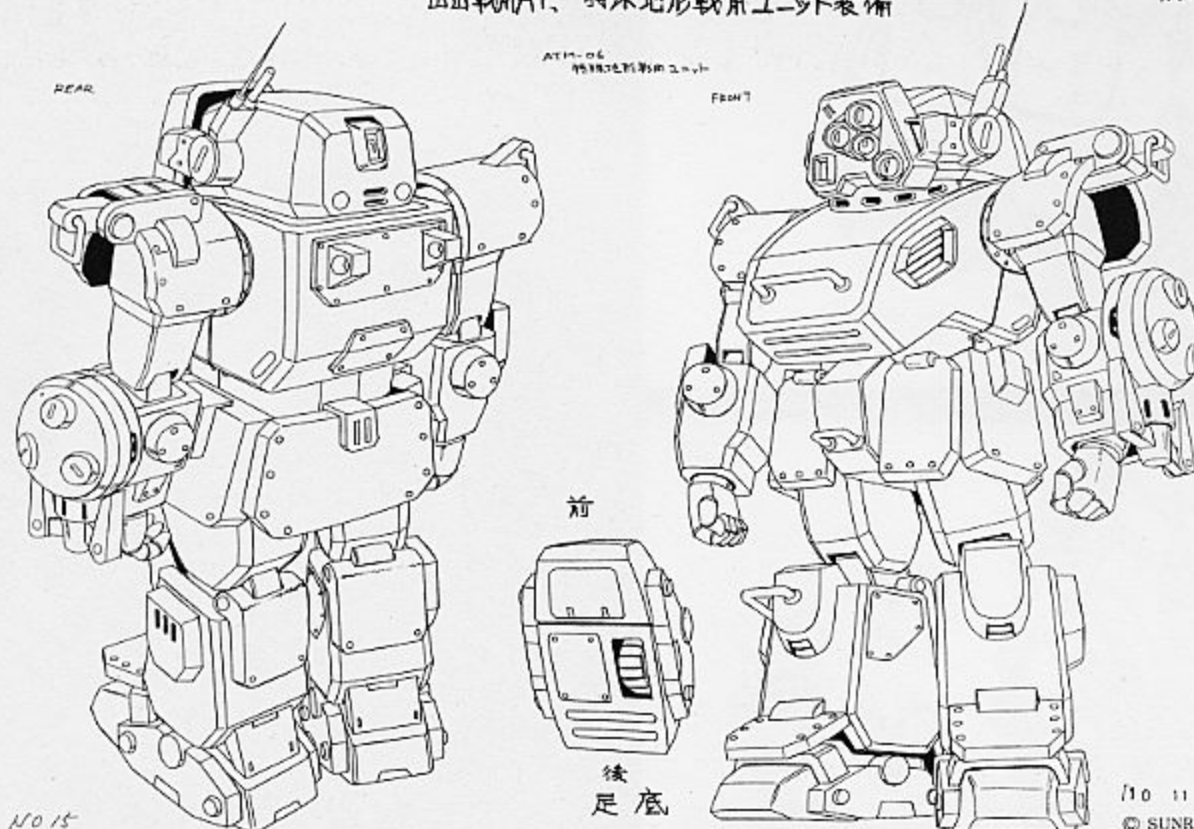
ATM-06-ST “マスカレイドコング” 199年4月18日 9077  
EVT- KG



## ⊕ マスカレイドコングMC

惑星メルキア:アデルビッツ社製

ATM-06-MC “マスカレイドコング”MC 199年4月18日 9077  
山岳戦用AT、特殊地形戦用ユニット装備 EVT- KG



システムとしてのATが完成したのはこの機体であると言え、後のATに見られる機能は、例外はあるがおおむねこの機体までに搭載されている。

クラス	M級
全高 (mm)	4005
全長 (mm)	2215
全幅 (mm)	2093
乾燥重量 (kg)	7403
最大装甲厚 (mm)	19
限界走行速度 (km/h)	65.3
固定武装・装備	-

クラス	M級
全高 (mm)	4025
全長 (mm)	2217
全幅 (mm)	2261
乾燥重量 (kg)	7403
最大装甲厚 (mm)	19
限界走行速度 (km/h)	64.0
固定武装・装備	ザイルスバイト

マスカレイドコングの山岳戦用カスタムモデル。様々な地形に対するデータ収集にも使われ、ソフト面でのATシステム開発に非常に大きく貢献した。

EXERT CATTLE

ATM-04-ST

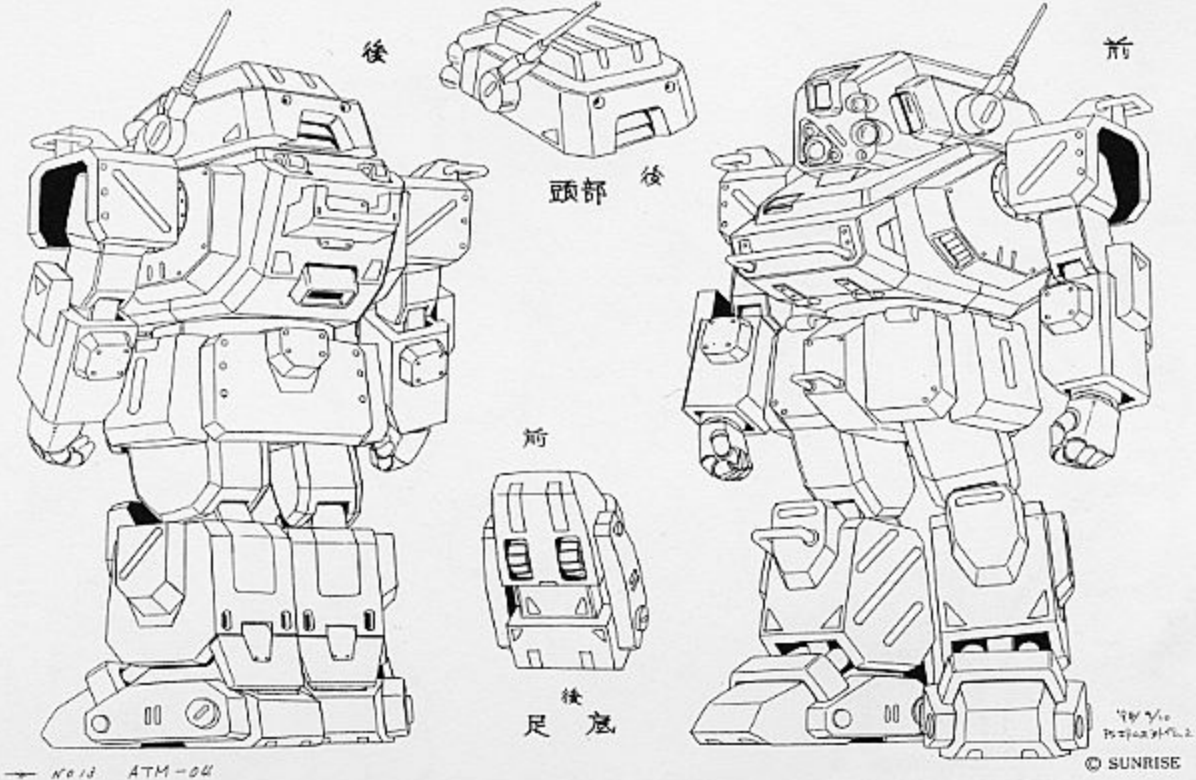
FILE 32 イグザートキャトル

EXERT CATTLE  
FILE >> 00

アデルハビッツ社製汎用ATの第一号にして、実戦に耐え得る事実上最初のATとなった記念碑的な機体。本格的な量産が開始されたのもこの機体からで、ATという兵器が一応の完成を見たという点でも特筆すべき存在と言える。それ以前のATとの決定的な差異はチリウムを使用した高速コンピューターの導入とシンプルで操作性の高い操作系の実現で、パイロットの意思を容易に伝えられるようになったことが何よりも大きい。

兵器としてのATはこの機体で一応の完成を見たが、それでも改良の余地は多数残されていた。

惑星メルキア：アデルハビッツ社製：汎用型 ATM-04-ST "イグザートキャトル" 199年4月30日  
REV-KM



クラス	M級
全高 (mm)	4011
全長 (mm)	2441
全幅 (mm)	2159
乾燥重量 (kg)	8411
最大装甲厚 (mm)	20
限界走行速度 (km/h)	67.2
固定武装・装備	-

SPENDING WOLF

ATM-08-MC

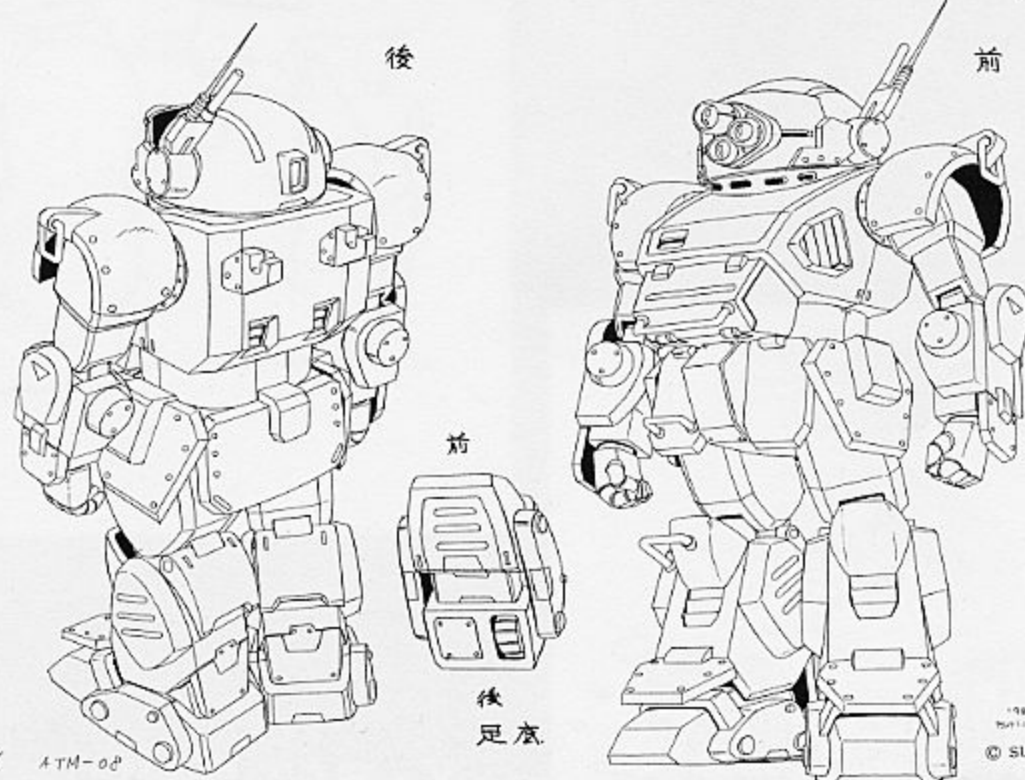
FILE 33 スペンディングウルフ

SPENDING WOLF  
FILE >> 00

09系の直接の原型となるAT。09系に使用されている要素技術の大半がこの機体で完成しており、性能的には充分なものとなっている。また本機は兵士の生存性を徹底的に重視した仕様となっており、多数の意欲的な機構が盛り込まれていた。だがそれらの機構はコストの増大を招いたため、量産はごく少数で終了。そして本機の簡易量産型というべき09系では、徹底して人命軽視の設計思想が貫かれているのは皮肉な話ではある。

09系がドッグと呼ばれるのは、全ての面でウルフに劣るという皮肉だという真偽不明の説もある。

惑星メルキア：アデルハビッツ社製 ATM-08-ST "スペンディングウルフ" 199年4月30日  
REV-KG

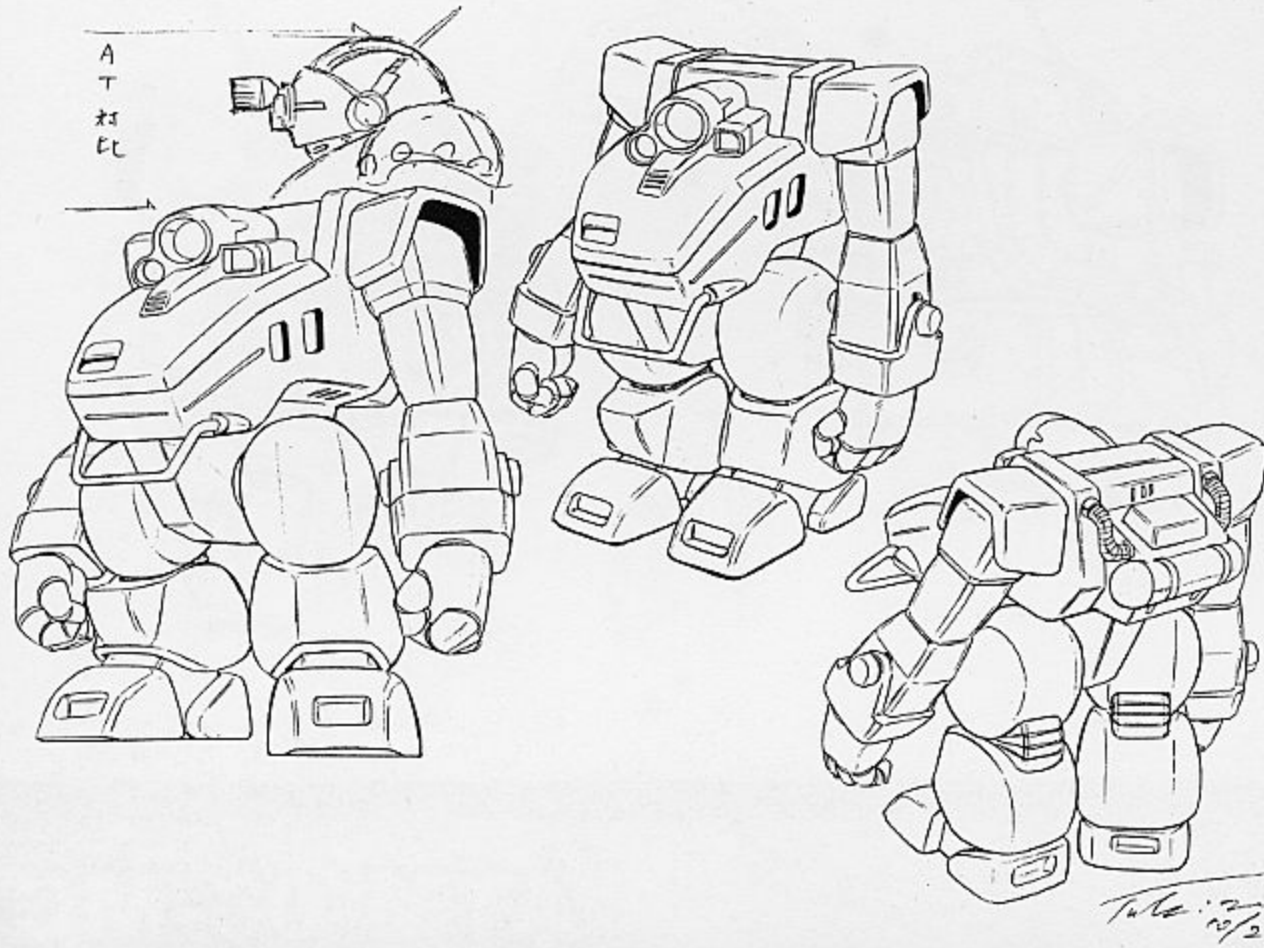


クラス	M級
全高 (mm)	3911
全長 (mm)	1820
全幅 (mm)	1936
乾燥重量 (kg)	6582
最大装甲厚 (mm)	17
限界走行速度 (km/h)	65.0
固定武装・装備	-



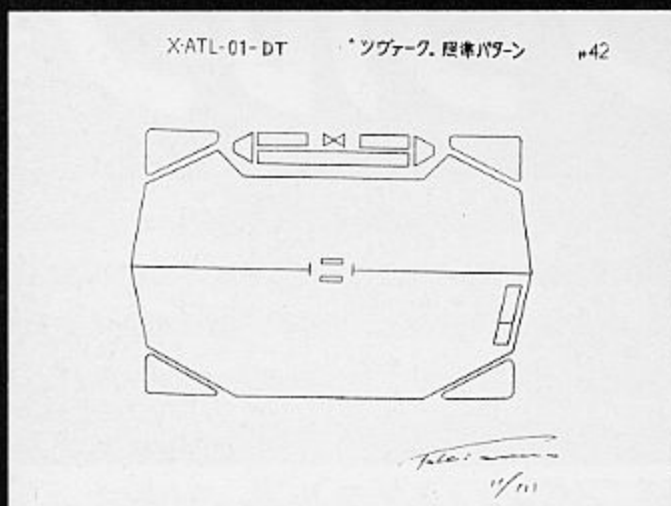
秘密結社が開発した初の実用L級AT。PS用ATからフィードバックされた技術も使用されている。最低限の装甲と装備で構成され、かつボディに特殊プラスチックにレーザー兵器用の積層コーティングを施したものを使用したため、非常に高い機動力を持つ機体となった。また専用のサンドローダーにより、砂漠戦では従来のM級ATを遥かに超える機動力を発揮する。ただし操縦が難しいため、熟練パイロットでなければ使用できない。

X・ATL-01-DT "ツヴァーク" (1) #42

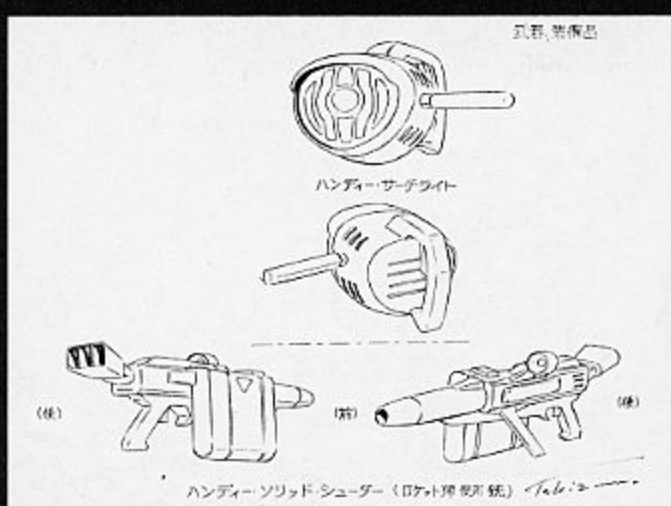
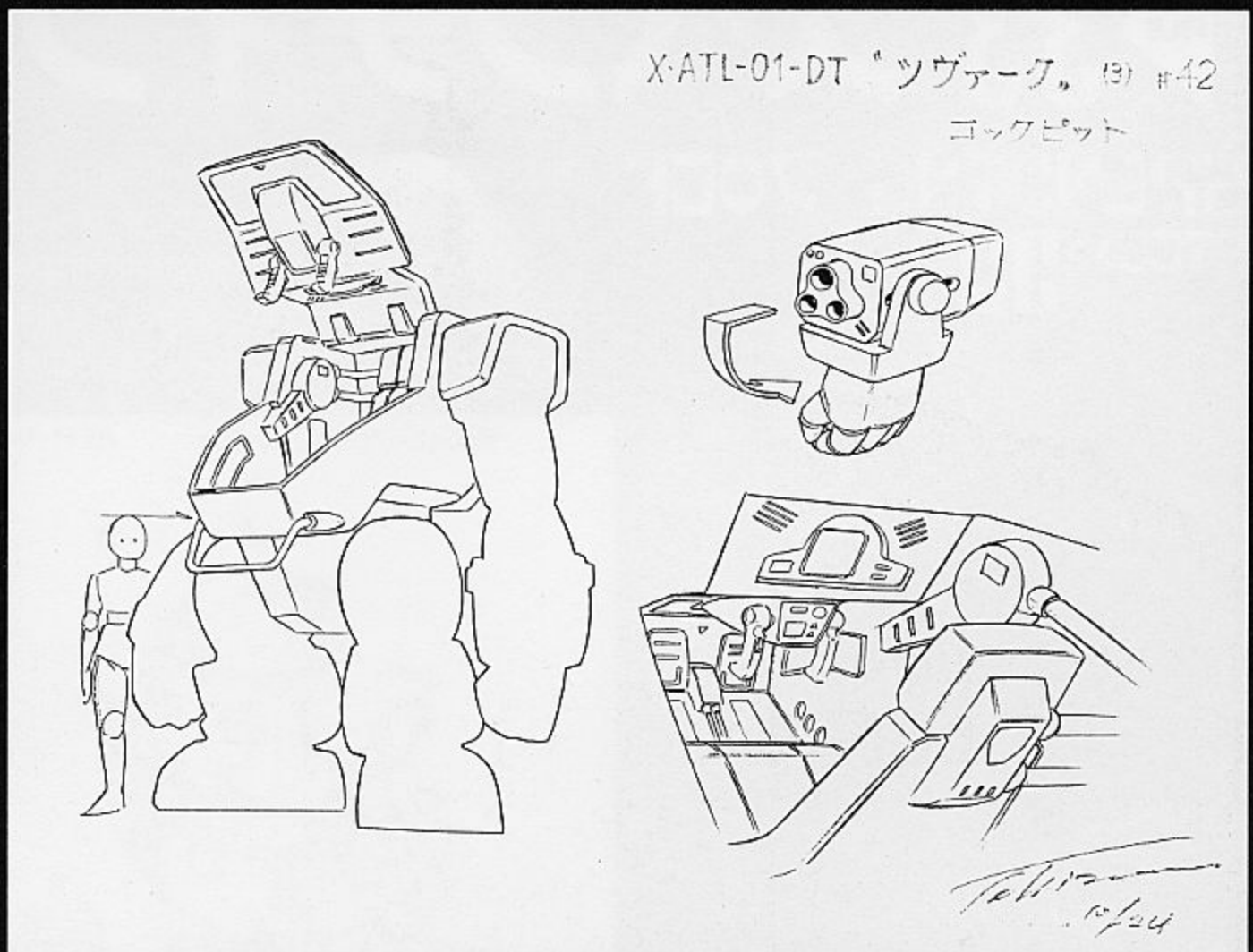


クラス	L級
全高 (mm)	2912
降着時全高 (mm)	-
全長 (mm)	2426
全幅 (mm)	1720
乾燥重量 (kg)	3322
基本待機重量 (kg)	3436
最大装甲厚 (mm)	7
最小装甲厚 (mm)	5
GH限界走行速度 (km/h)	72
GH巡航走行速度 (km/h)	51
GH最大出力 (hp)	180
GH最大トルク (kg/m)	52
MCバック系	スレックソル方式、1P-NI-S2
使用PR液 (hp/l2)	DT-M 9.6
PR液総量 (l)	95
予備タンク容量 (l)	10
標準液交換時間 (h)	182
制御コンピューター	MCM-1M
固定武装・装備	11ミリ3連装機関銃x2
開発団体	秘密結社

⊕ 照準パターン



⊕ コックピット

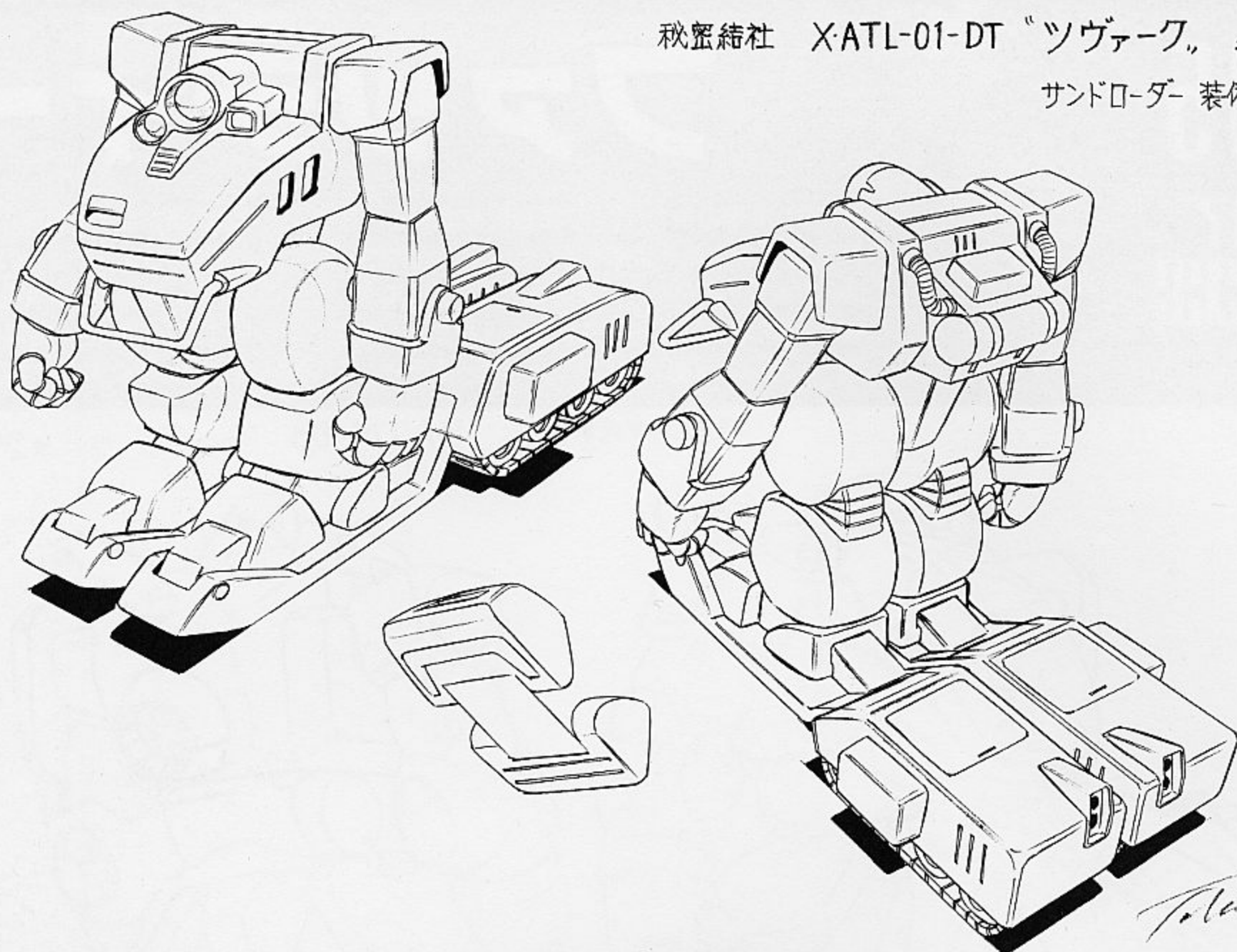


⊕ X・SAT-05ハンディソリッドシューター

⊕ サンドローター装備

秘密結社 X-ATL-01-DT “ツヴァーク” #42

サンドローター 装備

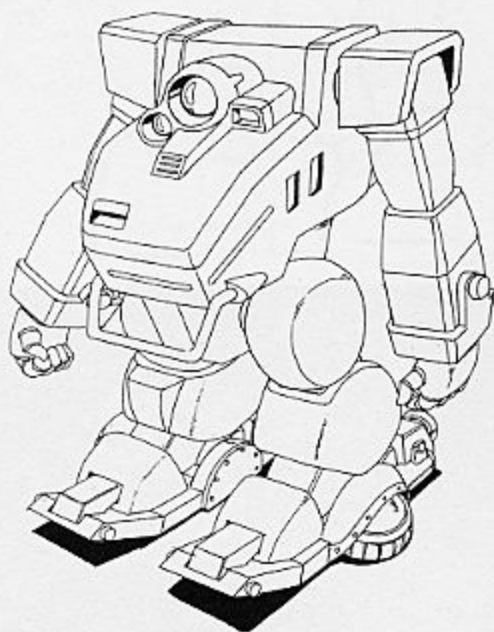


サンドローターユニット。ツヴァークに装着し砂漠での機動力を強化するシステムで、左右それぞれに内燃機関が搭載されている。

⊕ 湿地用レッグ

X-ATL-01-DT “ツヴァーク”  
足・湿地用レッグWR

機体番号 PS 507  
EVI-G・LS



機体番号 PS 507  
EVI-G・LS  
機体名 ツヴァーク 湿地用レッグWR  
199/07/1

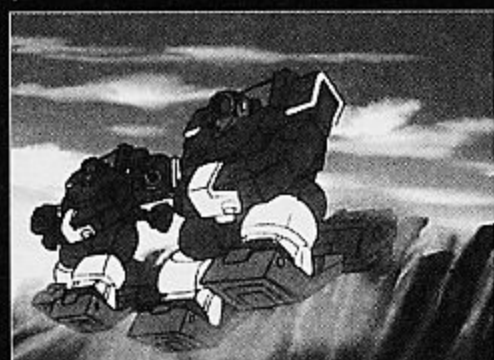
© SUNRISE

こちらは湿地戦用。本体にはローラーダッシュを搭載していないために、必要に応じて装備を交換する必要がある。

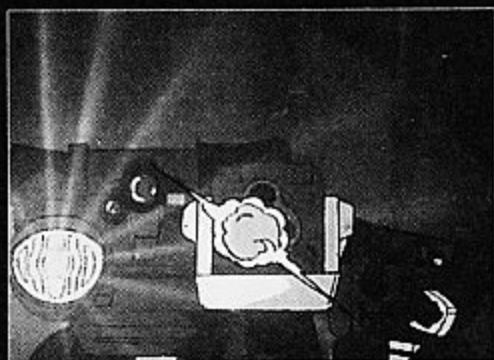
▶ COMMENT

大河原：TVシリーズのATでは、実はスコープドッグとツヴァークだけが異質なんです。他のATは最初に使っていたラフを基本に発展させたものなんですけど、ツヴァークは滝沢敏文さんが書いてきたラフが元になっています。乗り方も元は寝そべっていたし、スコープドッグよりも小さくなってからすんぐりむっくりなんです。あとサンドローターもこだわっていたみたいで、砂漠でキャタピラで、スノーモービルみたいな走りをさせたいとおっしゃってました。

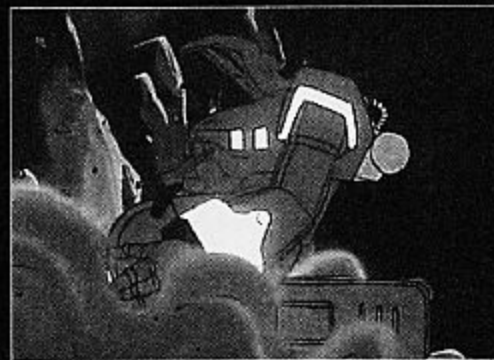
▶ ON THE FRONT LINE



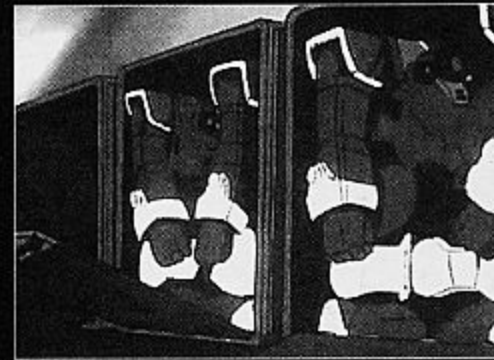
軽量高速型の機体なのでサンドローターとの相性も良いが、熟練が必要でもある。(42)



腕部の機銃は固定武装としては強力だが手持ち武器とは当然排他使用となる。(42)



装甲が樹脂製であるため、ひしゃげたり割れたり独特の壊れ方をします。(42)

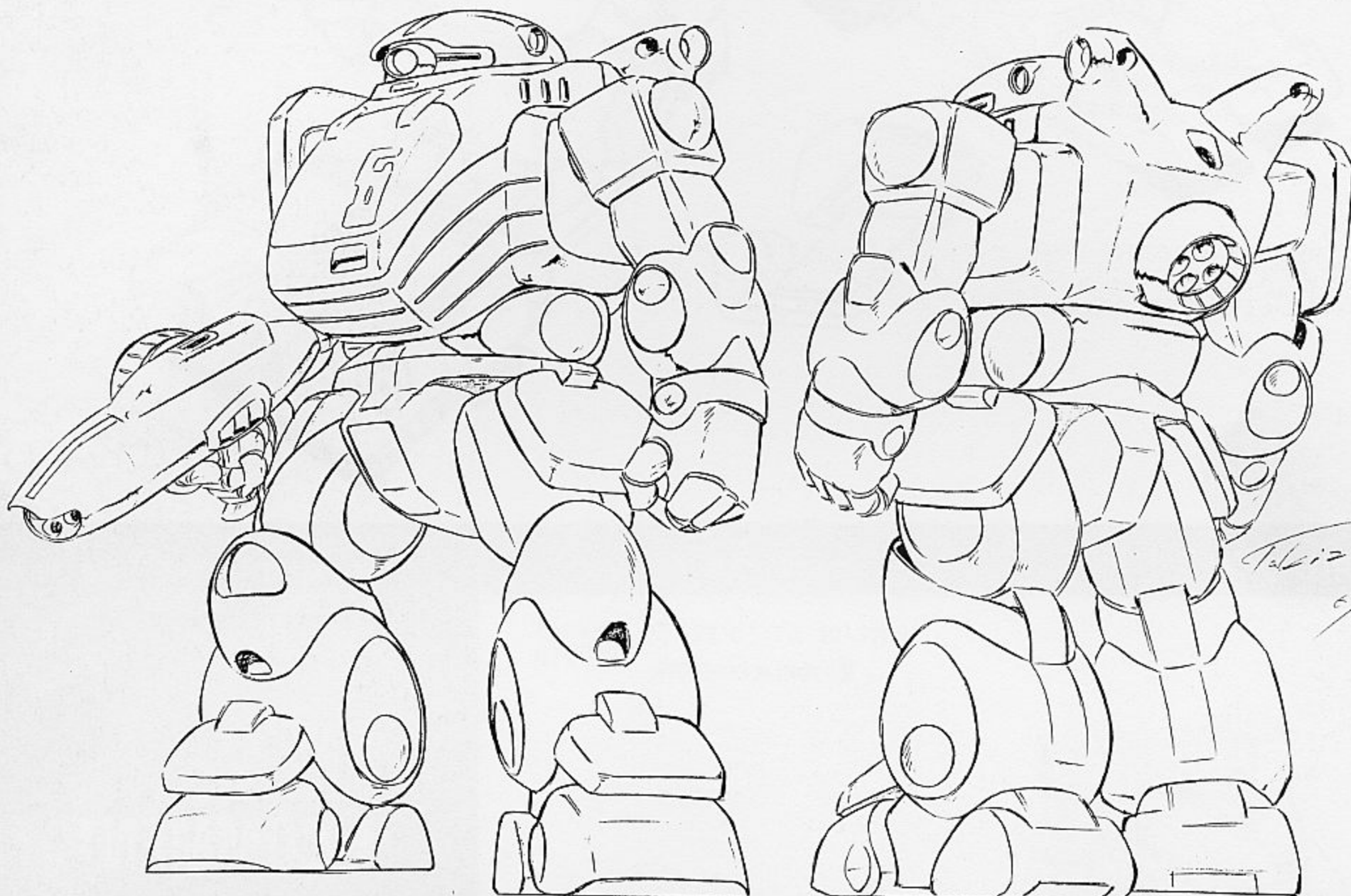


L級のサイズを生かし大量輸送も容易である。1コンテナに2機が納まっている。(44)

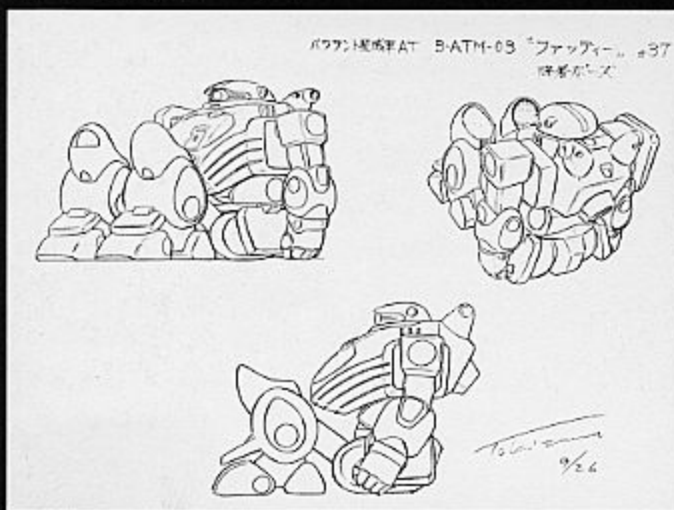


バラント軍の主力AT。宇宙戦闘を重視した機体であり、事実、宇宙ではギルガメス製ATと互角の性能を発揮する。その反面汎用性には劣り、各種バリエーションの開発までは、宇宙用の機体をそのまま地上戦に投入していた。このため、地上戦ではギルガメス製ATの質に対し数で対抗するケースが多かったようだ。もっとも機動性・整備性・生産性・低故障率は徹底されているため、集団としての戦闘能力を高めやすい機体ではある。

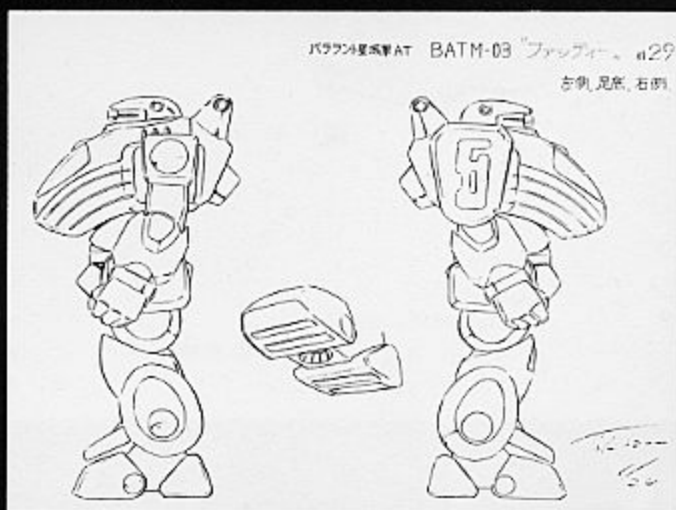
バラント軍域軍 AT. BATM-03 「ファッティ」 #29



⊕ 降着ポーズ

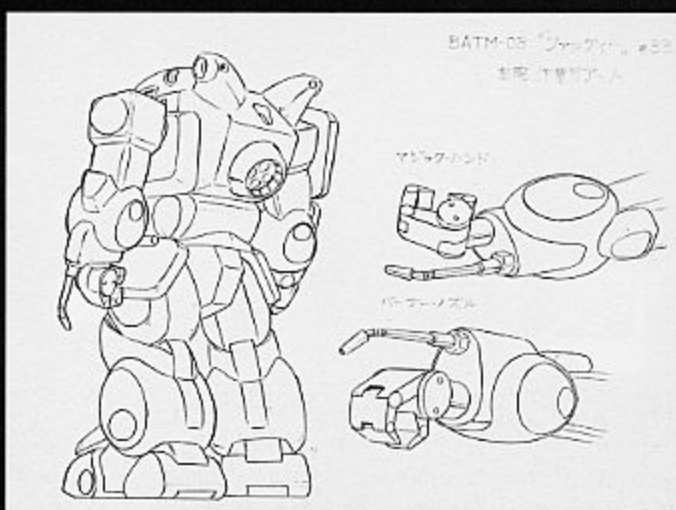


⊕ 側面図



⊕ 作業用アーム装着状態

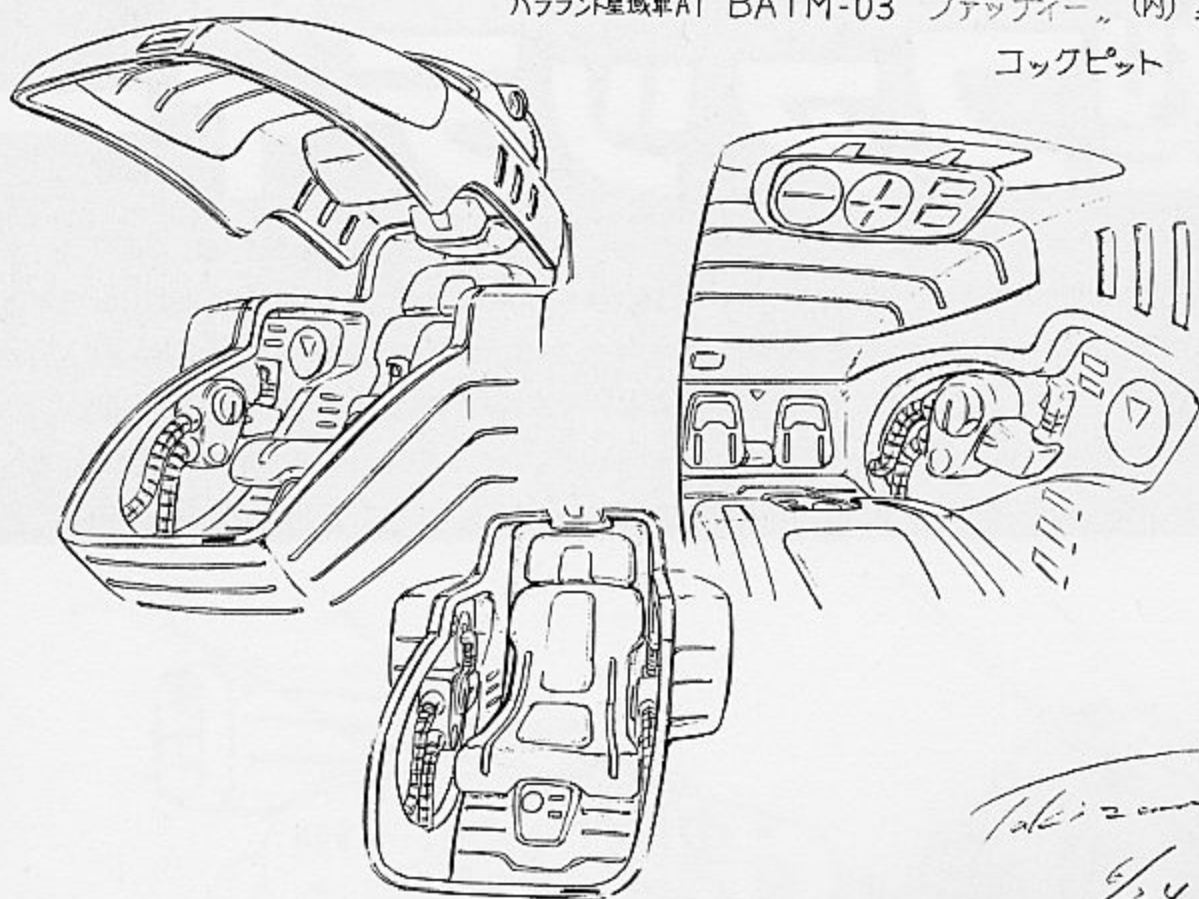
ファッティの作業用アーム。アタッチメントになっていて、作業ごとに交換することが可能となっている。



クラス	M級 (相当)
全高 (mm)	4020
降着時全高 (mm)	2312
全長 (mm)	1827
全幅 (mm)	2057
乾燥重量 (kg)	8089
基本待機重量 (kg)	8812
最大装甲厚 (mm)	16
最小装甲厚 (mm)	6
GH限界走行速度 (km/h)	60
GH巡航走行速度 (km/h)	32
GH最大出力 (hp)	-
GH最大トルク (kg/m)	-
MCバック系	PP-BS、305-II
使用PR液 (hp/12)	BP-CC 11.8
PR液総量 (l)	188
予備タンク容量 (l)	92
標準液交換時間 (h)	98
制御コンピューター	GCT-2C
固定武装・装備	宇宙空間用突撃ブースター
開発団体	バラント宇宙総軍生化工学兵器設計局

⊕ コックピット

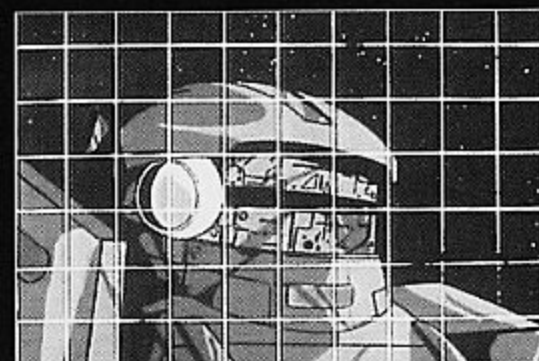
バララント星域軍AT BATM-03 “ファッティ” (内) #29  
コックピット



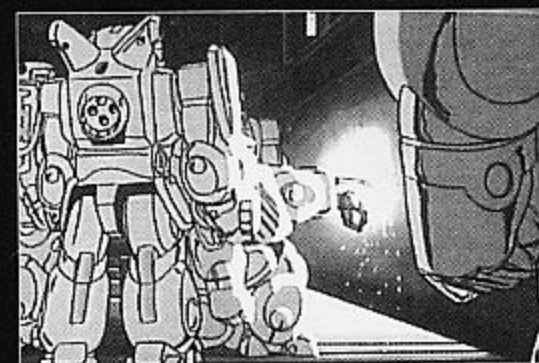
▶ COMMENT

大河原：ファッティは、作るのが結構早かったですね。ATのひとつのコンセプトとして、敵だったらこんな感じかな、と。レンズが一つなのは、色々モノアイをやってますんで（笑）。その名残という感じですか。あとファッティの降着ポーズは私の方でやったんですが、スコブドッグと前後逆なのは、この方が立ちやすいんじゃないかと思っていて。今の二足歩行ロボットでも、出来るんじゃないかと思います。

▶ ON THE FRONT LINE



モニターに映るファッティのレンズ部。配線なのか細かいパターンが見て取れる。

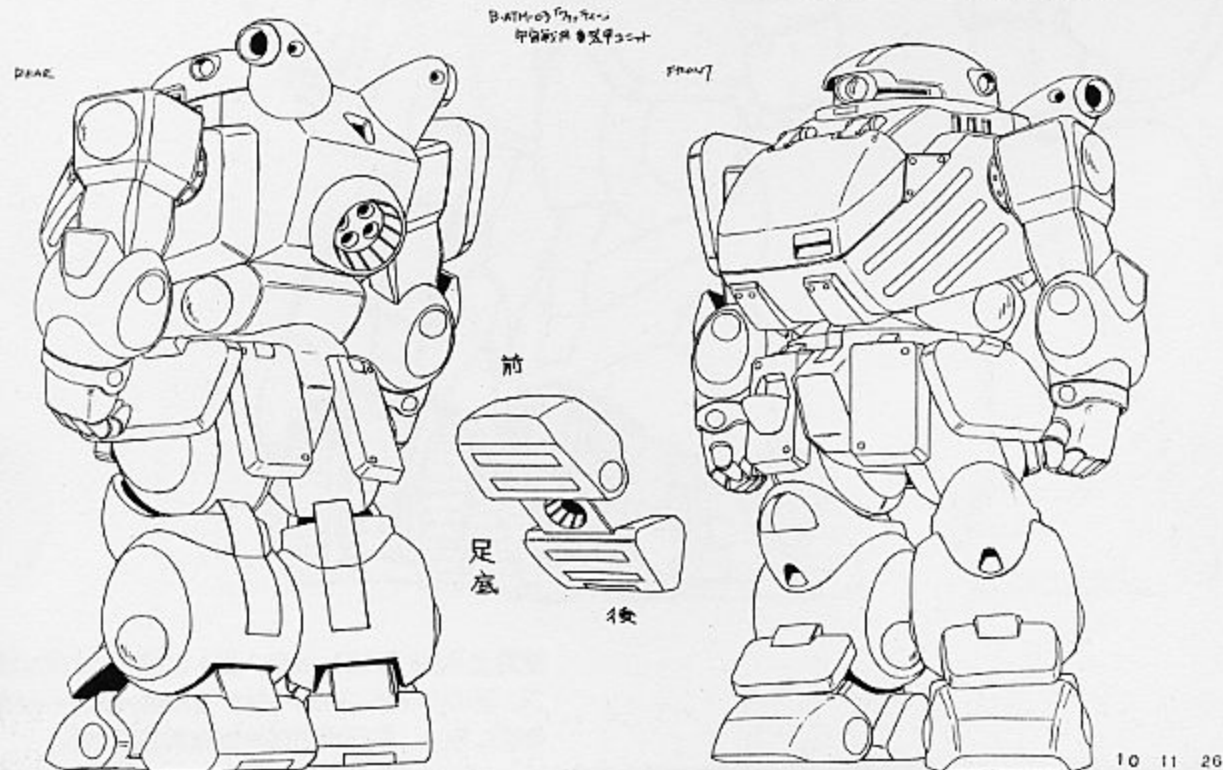


溶断用のバーナーを装備した作業アームの使用風景。手首は耐熱仕様になっている。

⊕ B・ATM-03-STC ファッティ-STC

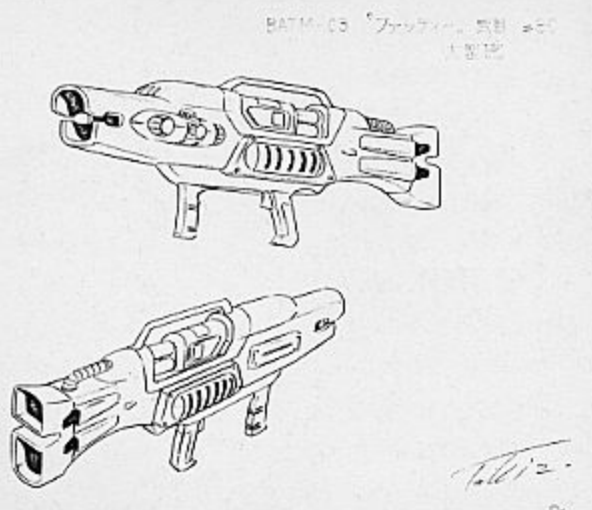
バララント連合軍

B・ATM-03-STC “ファッティ-STC” 宇宙戦用重装束ユニット装備 後、足底、前

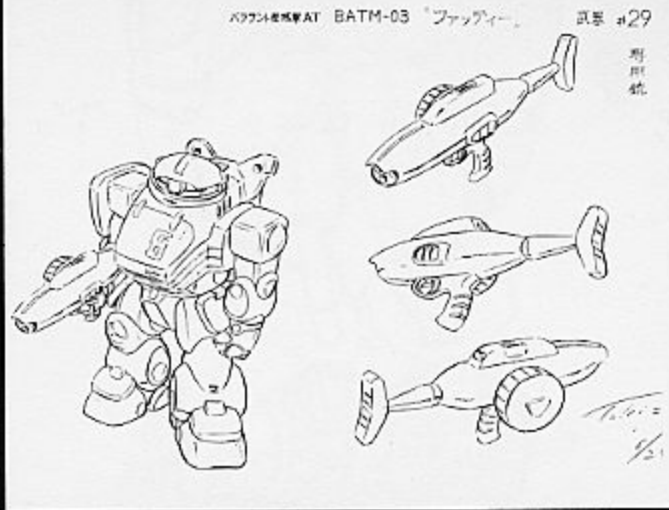


こちらは重装束ユニットの装備型。局地戦用ではないオプションはバララントでは珍しい。その重量のために、地上ではホバー移動が不可能となる。

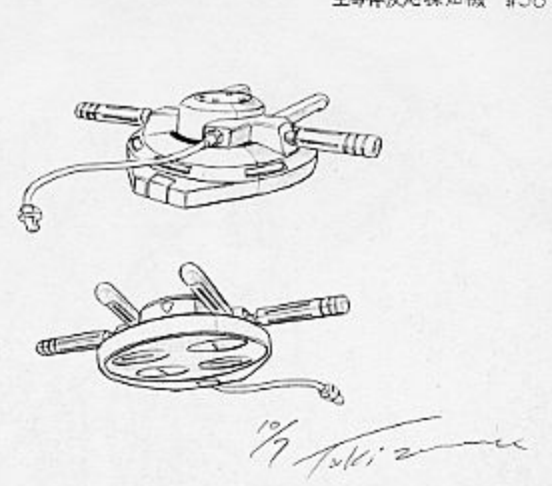
⊕ BATM-02 ハードブレッドガン



⊕ G・BATM-04 カタパルトランチャー



⊕ 生命反応探知機



生き埋めになった人間を捜索するために使用されたもの。この種の作業用の装備はバララント側に多く、軍全体の効率を上げるのに役立っているらしい。

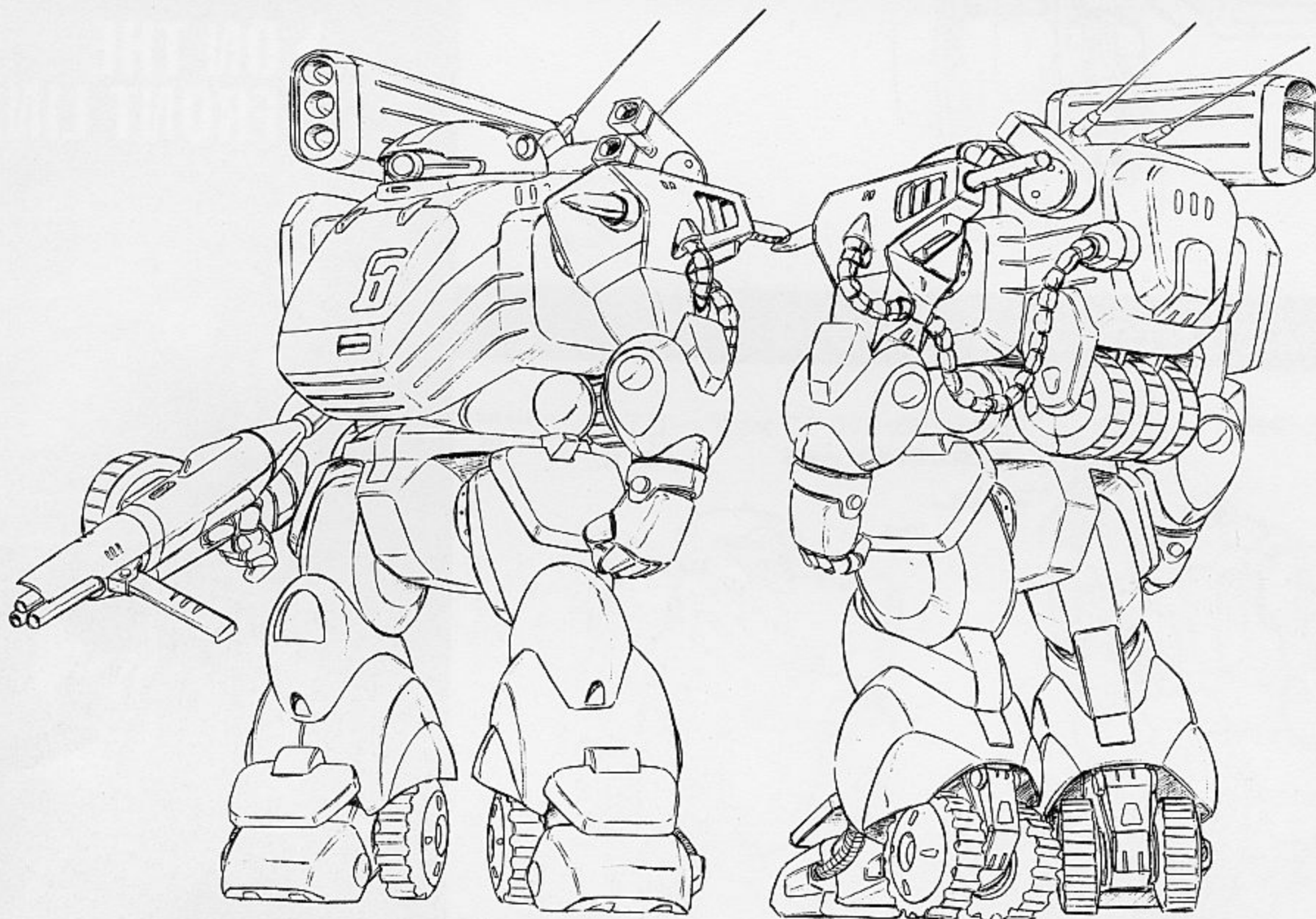
FATTY GROUND CUSTOM

B・ATM-03 GA/GB

# FILE 36 陸戦型ファッティ

FATTY  
GROUND CUSTOM  
FILE >> 36

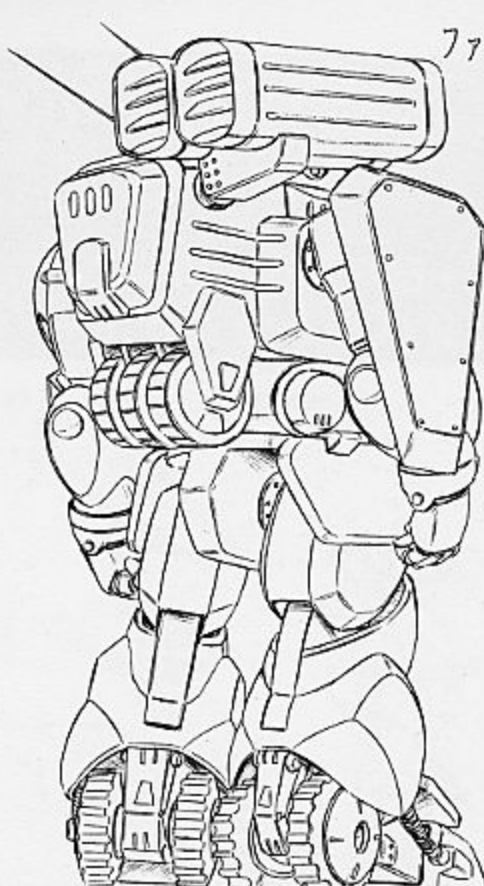
百年戦争最末期に登場したファッティの地上戦仕様。クラスは一応M級に相当するが、集団での突撃戦法のみを徹底的に重視した重突撃型ATというギルガメス軍にない発想の機体であるため、一概に比較する事は難しい。また、個々の機体の性能は09系に劣ると評価されているが、常に集団戦法を取る本機にそのような比較が適切かどうかも疑問だと言える。なお、武装を中心としたバリエーションが現状で2種が確認されている。



ガンガン バリオン軍  
地上用 ファッティA

便宜上A型（あるいはGA型）と呼称されているタイプ。肩のバイルバンカーはショルダーチャージをかける際に用い、集団戦では有効な兵器である。

B型またはGB型と呼ばれるタイプ。遠距離支援攻撃用に、突撃型のA型を支援するための仕様と思われる。



ファッティB

クラス	M級（相当）
全高（mm）	4020
降着時全高（mm）	2312
全長（mm）	1827
全幅（mm）	2057
乾燥重量（kg）	8089
基本待機重量（kg）	8812
最大装甲厚（mm）	16
最小装甲厚（mm）	6
GH限界走行速度（km/h）	60
GH巡航走行速度（km/h）	32
GH最大出力（hp）	-
GH最大トルク（kg/m）	-
MCバック系	PP-BS、305-II
使用PR液（hp/12）	BP-CC 11.8
PR液総量（l）	188
予備タンク容量（l）	92
標準液交換時間（h）	98
制御コンピューター	GCT-2C
固定武装・装備	バイルバンカー、サンドローター、ショルダーミサイルポッド
開発団体	バララント宇宙総軍生化学兵器設計局
開発年度（製作年度、登場年度）	-

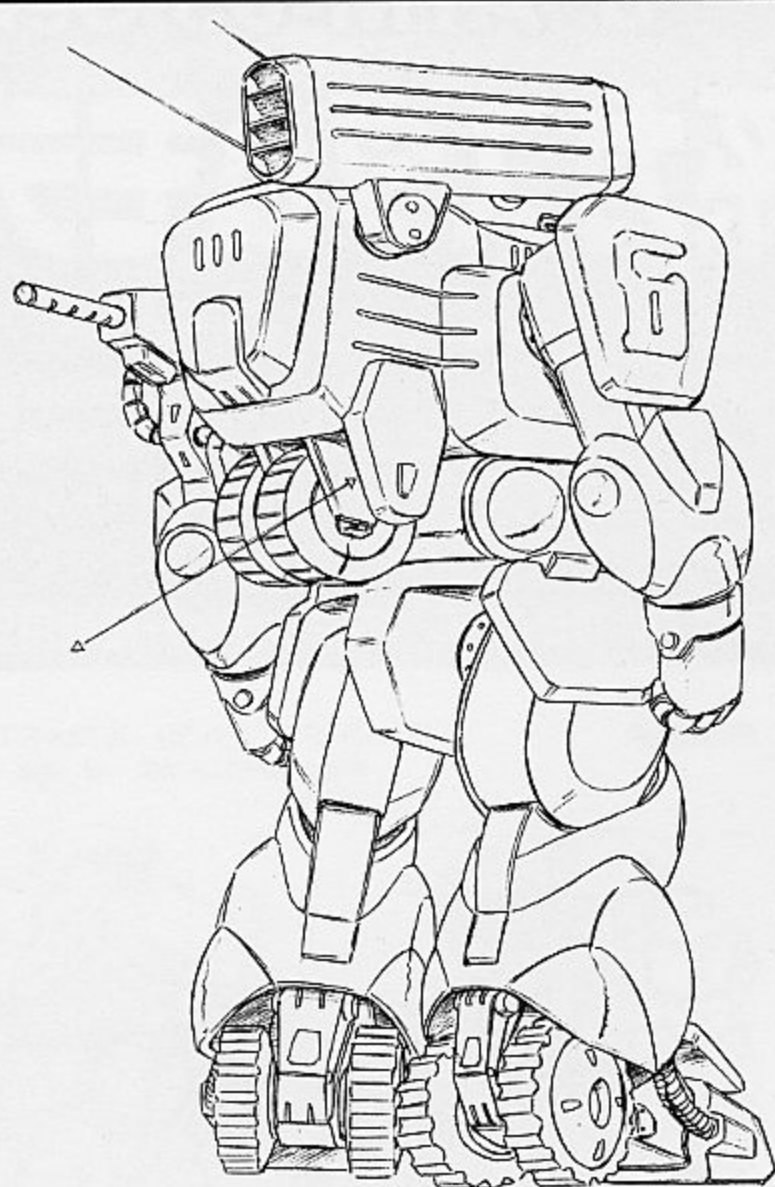
#5 cut-50

1988 p/27 ©サンライズ 決定稿

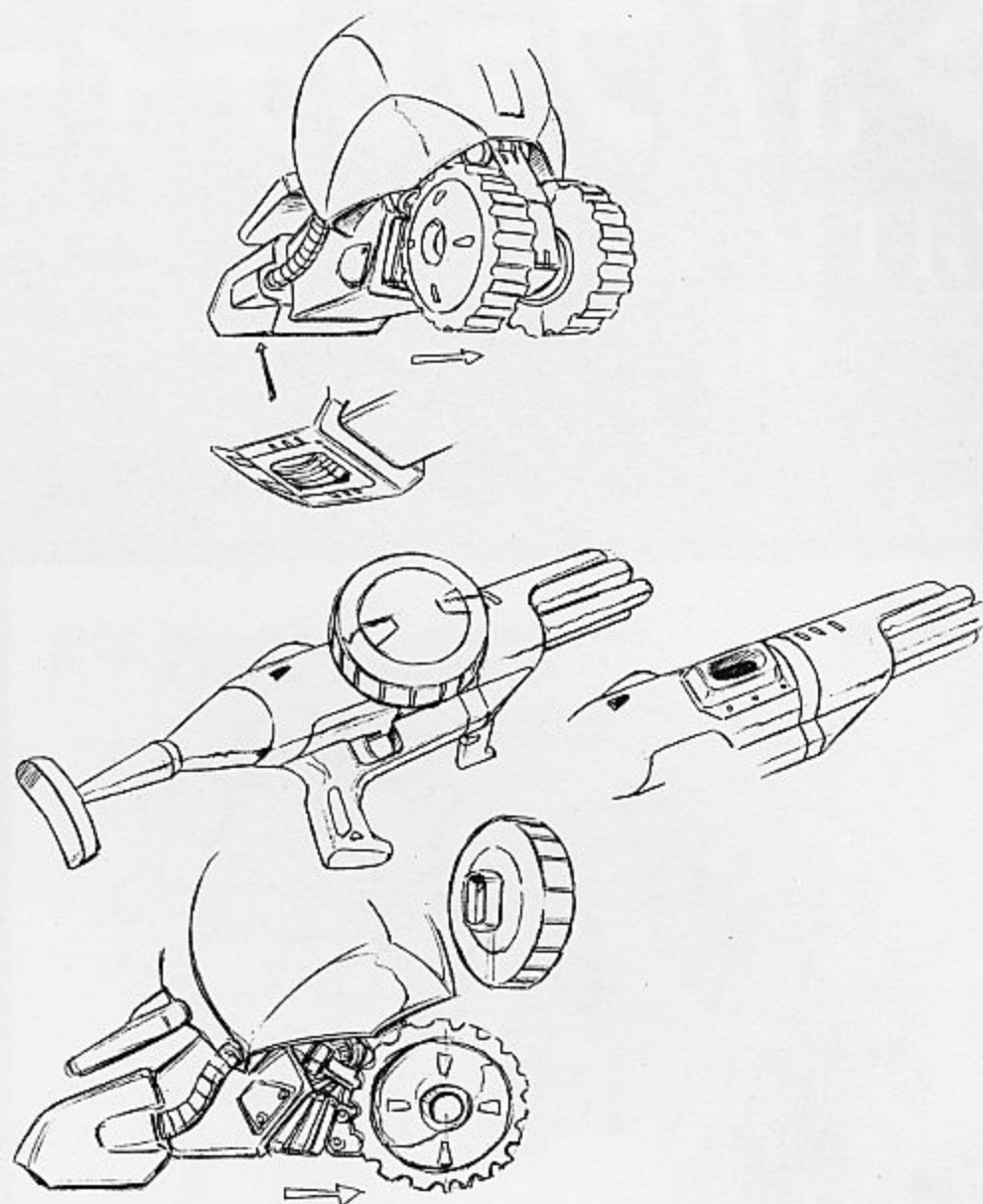
B・ATM-03  
地上用仕様

+ GA型背面

+ G・BATM-05 ガトリングガン

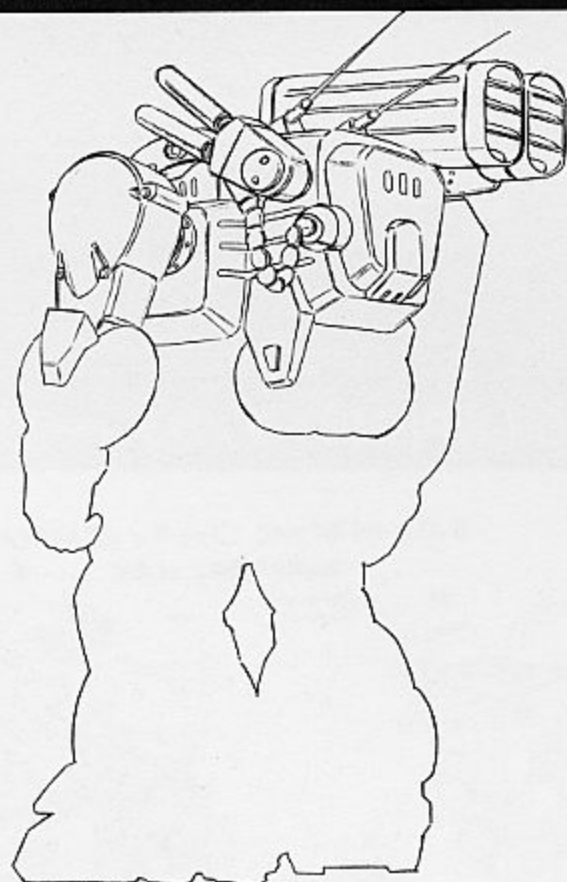


B・ATM-03 ガトリングガン  
ガンサウザン バラント系 地上用ファッティ



地上用ファッティの標準装備。重力のある地上で弾幕を張り、敵を制圧するために通常型の火砲となっている。優秀な銃らしく、鹵獲品の使用例もある。塗装はサンドカラーとグレーの2種が確認されている。

+ GB型背面



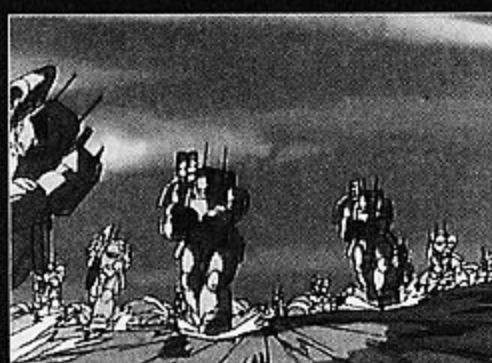
#5 cut-50

1988/6/27 ©サンライズ 決定稿

▶ COMMENT

高橋：ごめんこれ覚えてない。ちょこっとしか出してないんじゃないかな？  
井上：これよく知らないんです。「メロウリンク」が初出だった？「赫奕」には出していたと思うけど。  
大河原：これもマイナーチェンジですね。こういうバリエーションものは、何々をこう変更してくれ、変えるのはこの部分とこの部分というそういうオーダーなんです。このファッティも細かい指定に従ってデザインしたはずですよ。

▶ ON THE FRONT LINE



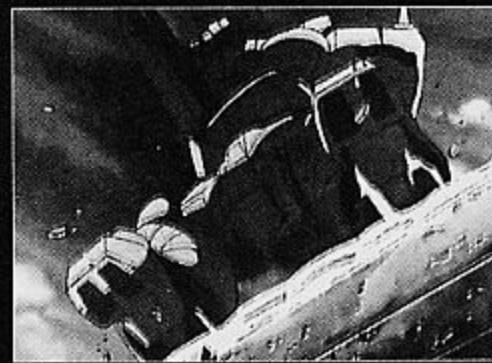
集団での突撃戦法を取るファッティ。ここではGA型、GB型の両タイプが混在。(M5)



同戦術を上空から見たカット。地上用はこの戦術を実現するために開発された。(M5)



火力支援を行うGB型。とはいえ、近距離なので直接戦闘とさして変わらない。(M5)



塹壕を飛び越えるGA型。パイルバンカーの先端が向いている方向に注意。(M5)

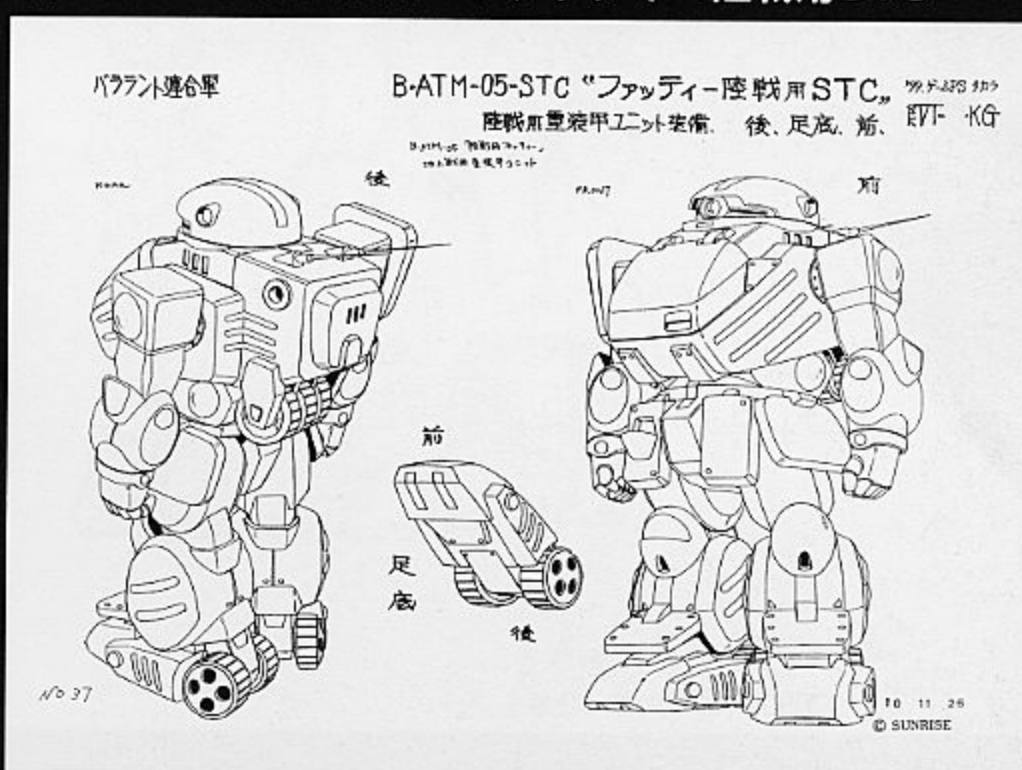
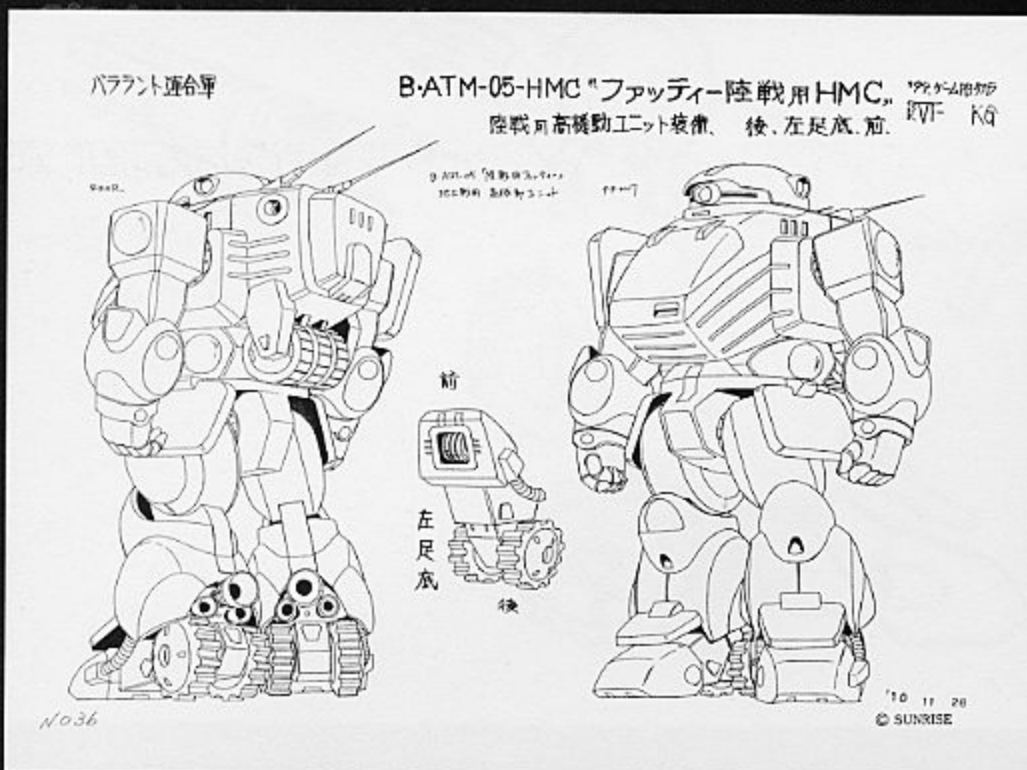
FILE ▶ 37 ファッティー系カスタムモデル

FATTY CUSTOM  
FTCE>> 37

生産性や稼働率を徹底的に重視し、個々の機体の性能を軽視するバラントは、バリエーションの開発には終始消極的だった。しかしそれでも、数々の戦訓から最低限の局地戦用機が必要だとは判断したようで、湿地戦用や雪上戦用など、数種類の機体が前線に出てきている。ここではバラントが投入したファッティー系のバリエーションを整理し、体系化された局地専用の機体群を確認していきたい。

⊕ B・ATM-05-HMC ファッティー陸戦用HMC

⊕ B・ATM-05-STC ファッティー陸戦用STC



クラス	M級
全高 (mm)	4133
全長 (mm)	1857
全幅 (mm)	2060
乾燥重量 (kg)	9422
最大装甲厚 (mm)	14
限界走行速度 (km/h)	120.6
固定武装・装備	-

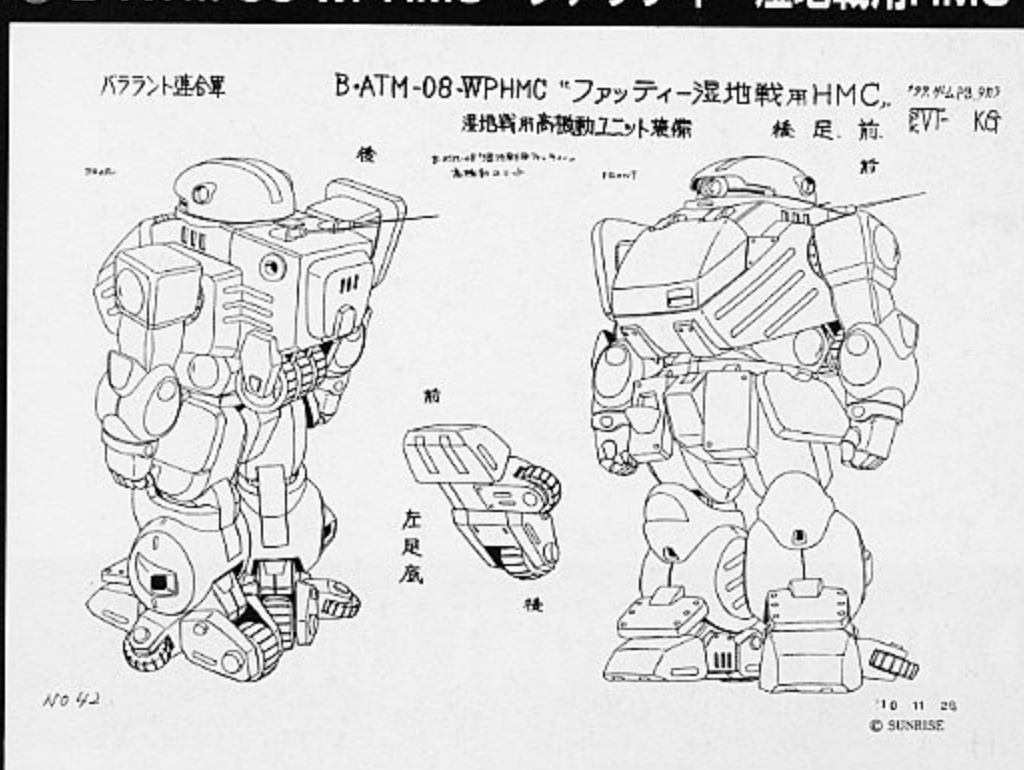
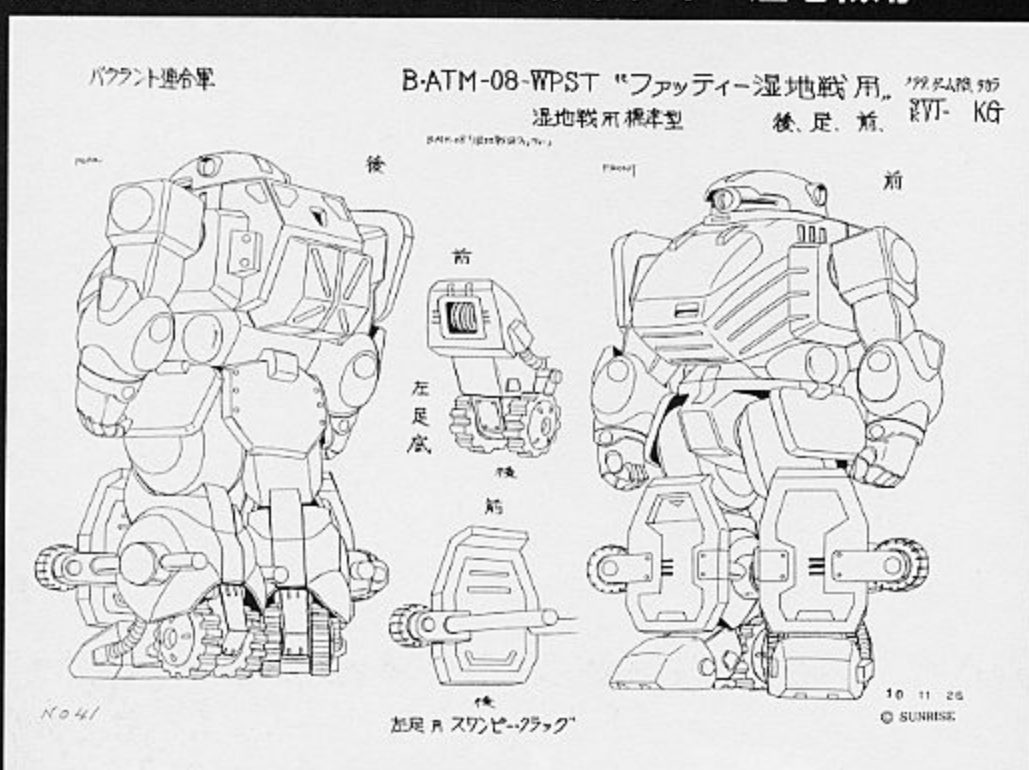
陸戦用ファッティーの高機動型。残骸を回収した09系ターボカスタムを参考に製作されたものと思われる。

陸戦用ファッティーの重装甲型。生存性は向上したが機動性は大きく低下し、戦力としては使いにくくなった。

クラス	M級
全高 (mm)	4099
全長 (mm)	1922
全幅 (mm)	2040
乾燥重量 (kg)	9188
最大装甲厚 (mm)	28
限界走行速度 (km/h)	60.4
固定武装・装備	-

⊕ B・ATM-08-WPST ファッティー湿地戦用

⊕ B・ATM-08-WPHMC ファッティー湿地戦用HMC



クラス	M級
全高 (mm)	4108
全長 (mm)	1855
全幅 (mm)	2116
乾燥重量 (kg)	8367
最大装甲厚 (mm)	16
限界走行速度 (km/h)	78.7
固定武装・装備	-

湿地戦用のバリエーションモデル。ギルガメス側のH級湿地戦用機を参考に開発したと推測されている。

湿地戦用機の高機動型。集団戦法が行いにくい熱帯雨林などで使用され、ギルガメス側同様の近接戦闘を行った。

クラス	M級
全高 (mm)	4116
全長 (mm)	1964
全幅 (mm)	2120
乾燥重量 (kg)	8409
最大装甲厚 (mm)	16
限界走行速度 (km/h)	98.0
固定武装・装備	-

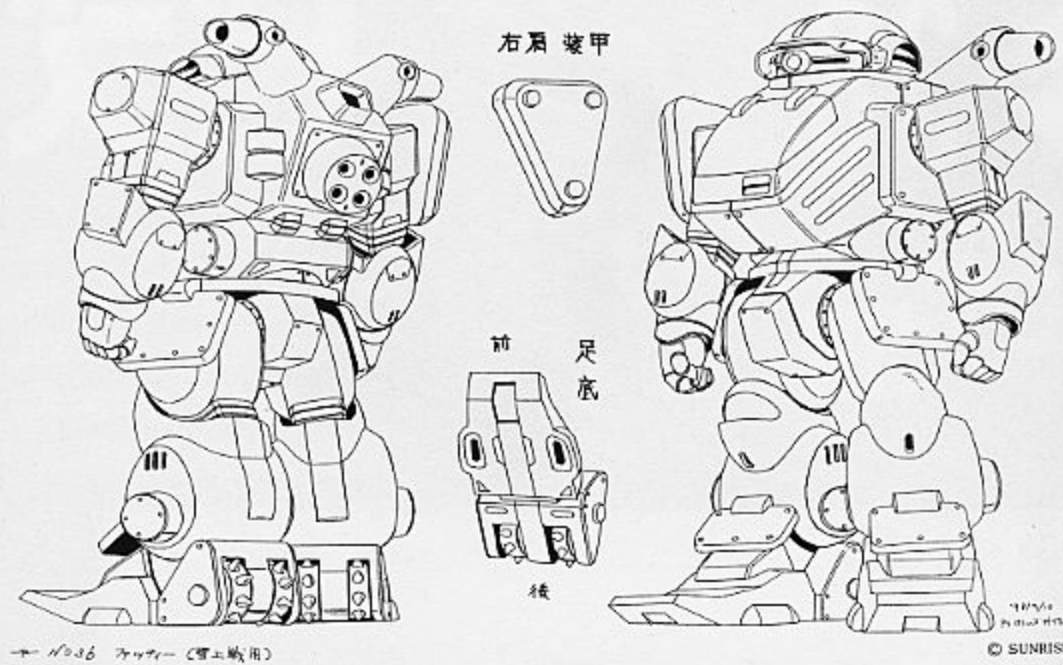
### ⊕ B・ATM-06-SNST ファッティー雪上戦用

ファッティーの雪上戦用バリエーション。地上用ではなく宇宙用の機体をベースに開発され、装備や内部構造が別物と言っていいほど変更されている。

クラス	M級
全高 (mm)	4095
全長 (mm)	2008
全幅 (mm)	2333
乾燥重量 (kg)	9163
最大装甲厚 (mm)	18
限界走行速度 (km/h)	77.3
固定武装・装備	-

バラント連合軍

B・ATM-06-SNST “ファッティー雪上戦用” 1994年12月 977  
EVT- KG



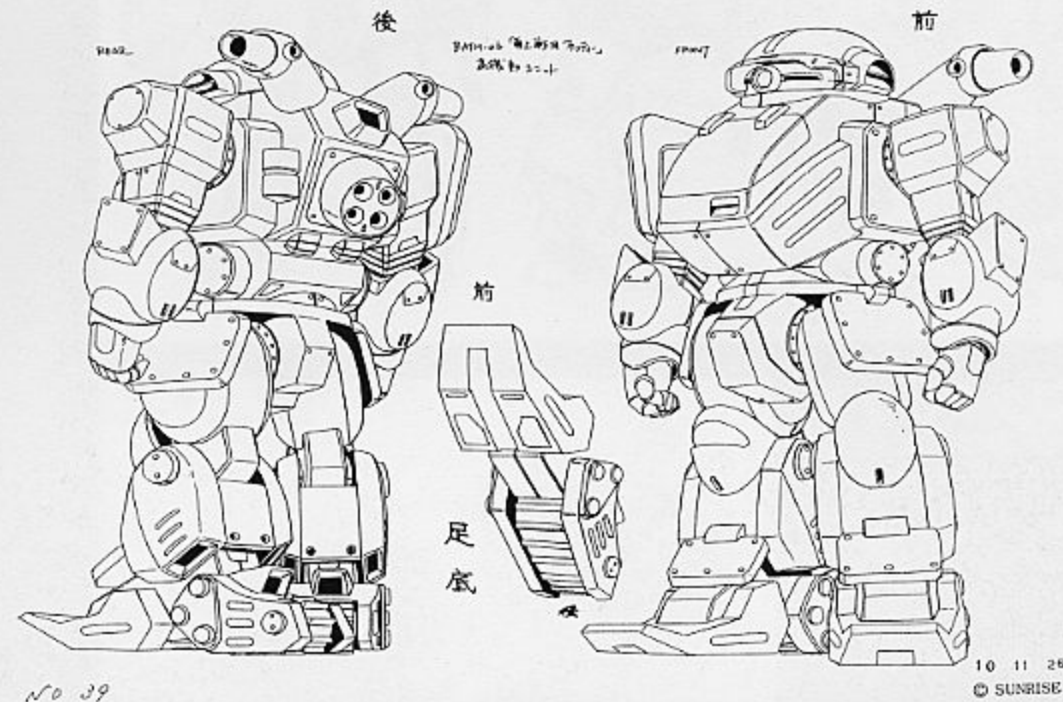
### ⊕ B・ATM-06-SNHMC ファッティー雪上戦用HMC

雪上戦用ファッティーの高機動型。これも残骸を回収したギルガメス側の機体を参考に製作したが、具体的な改修点は脚部だけに留まっている。

クラス	M級
全高 (mm)	4111
全長 (mm)	2117
全幅 (mm)	2568
乾燥重量 (kg)	9210
最大装甲厚 (mm)	18
限界走行速度 (km/h)	130.8
固定武装・装備	-

バラント連合軍

B・ATM-06-SNHMC “ファッティー雪上戦用HMC” 1994年12月 977  
雪上戦用高機動ユニット装備 後、足底、前、EVT- KG



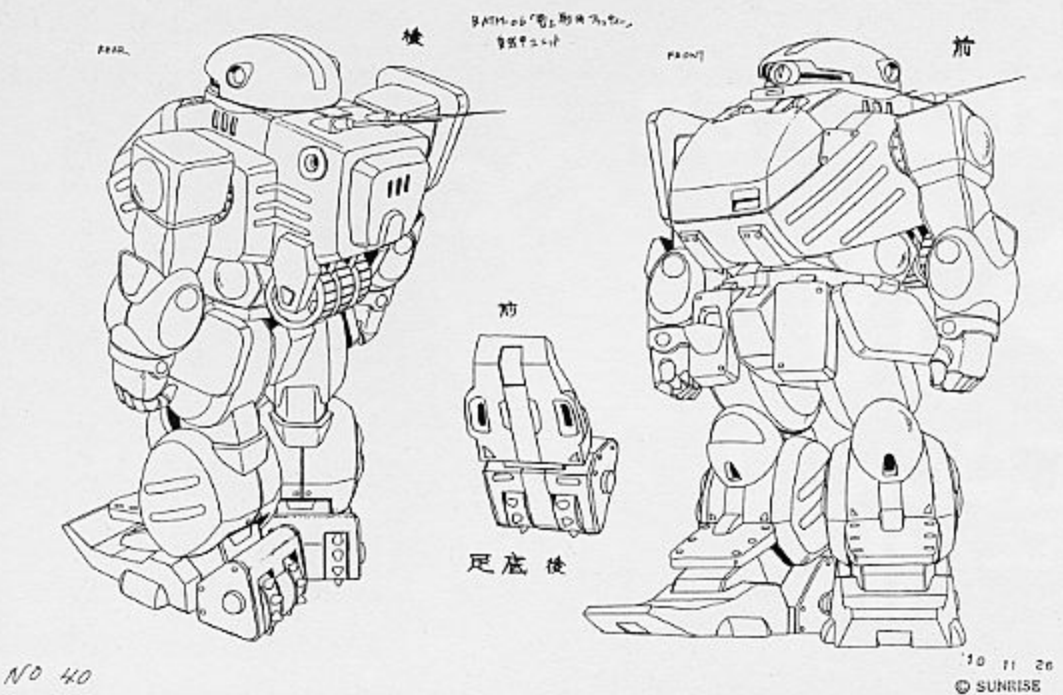
### ⊕ B・ATM-06-SNSTC ファッティー雪上戦用STC

雪上戦用ファッティーの重装甲型。陸戦用程ではないがこれも機動性が低下し、後方支援用とされるケースが少なくなかった。生存性そのものは高い。

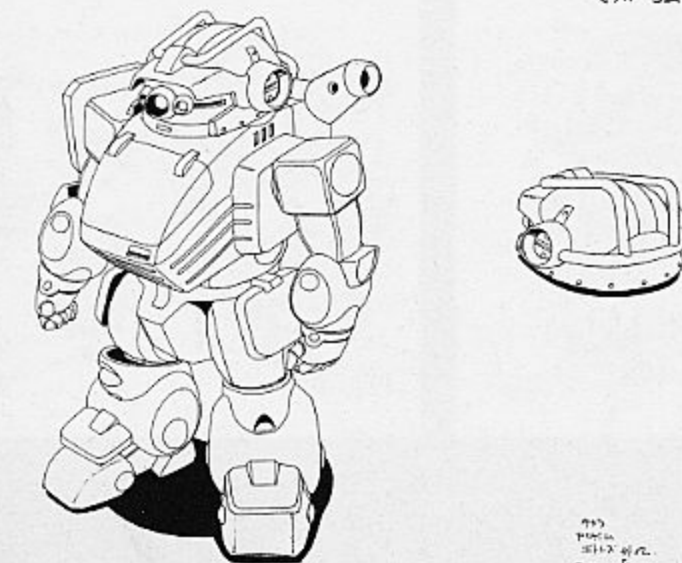
クラス	M級
全高 (mm)	4158
全長 (mm)	2120
全幅 (mm)	2570
乾燥重量 (kg)	9649
最大装甲厚 (mm)	28
限界走行速度 (km/h)	62.5
固定武装・装備	-

バラント連合軍

B・ATM-06-SNSTC “ファッティー雪上戦用STC” 1994年12月 977  
雪上戦用重装甲ユニット装備 後、足底、前、EVT- KG



B・ATH-03 “ファッティー専用強化ヘッド” 1994年12月 977  
EVT-GLS



### ⊕ 専用強化ヘッド

純粋なバリエーションという訳ではないが、強化された頭部を持つモデル。基本的に宇宙用の装備らしいが、詳細は確認できていない。

# BUSY CRAB

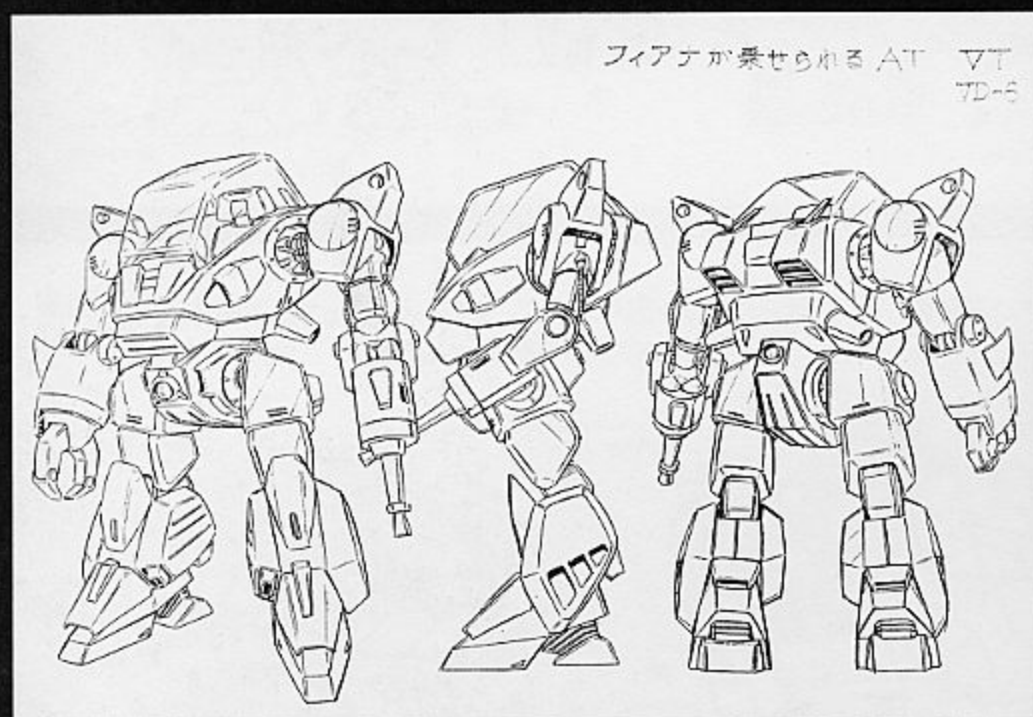
# B・ATM-001-PT

FILE ▶ 38

# ビズィークラブ

9057 2/19  
FTCE>> 03

コックピットまわりのガラス張りが特徴的な、バラント軍の旧式AT。M級に相当し、バラントが最も早く開発したATでもある。最初期のギルガメス製ATの廉価版コピーに過ぎないため軍では制式採用にはならなかったが、練習用や惑星開発、土木作業用として百年戦争終結まで使用され続けた。旧式とはいえグライディングホイールを装備するなど実用性は高く、各種のAT用新規システムのテストベッドとしても使われている。

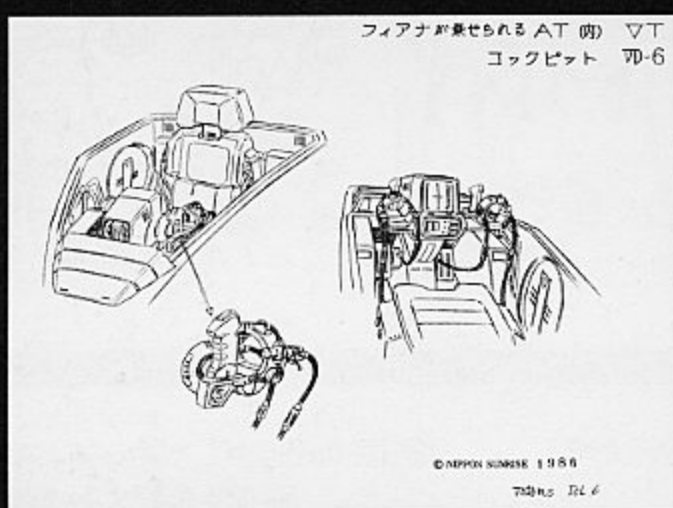


フィアナが乗せられる AT (前) VT 7D-6

ビズィークラブのコックピットだが、これは脳波誘導システムの試験機であるオネストクラブのもの。通常型とは異なっているようだが詳細は不明だ。

クラス	M級 (相当)
全高 (mm)	3754
降着時全高 (mm)	1977
全長 (mm)	1875
全幅 (mm)	3654
乾燥重量 (kg)	7089
基本待機重量 (kg)	7810
最大装甲厚 (mm)	14
最小装甲厚 (mm)	5
GH限界走行速度 (km/h)	60
GH巡航走行速度 (km/h)	45
GH最大出力 (hp)	280
GH最大トルク (kg/m)	75
MCバック系	PP-BS、305-II
使用PR液 (hp/l 2)	BP-CC 12.9
PR液総量 (l)	215
予備タンク容量 (l)	105
標準液交換時間 (h)	75
制御コンピューター	GCT-2CPT
固定武装・装備	50ミリ機関砲x1、クローアーム
開発団体	宇宙総軍兵器設計局

## ⊕ コックピット



フィアナが乗せられる AT (内) VT コックピット 7D-6

## ▶ COMMENT

高橋：タコより昔の奴って、あんまり出してないよね。この2体だけかな？  
大河原：設定は旧式ですけど、スコープドッグより進んでるなあ。ウエストしまってるし、時代に迎合してるっていうか。最初に作った原型に似てますが、僕が作った模型には人の足が剥き出しになってた物もあるんですよ。

# BLOCKER

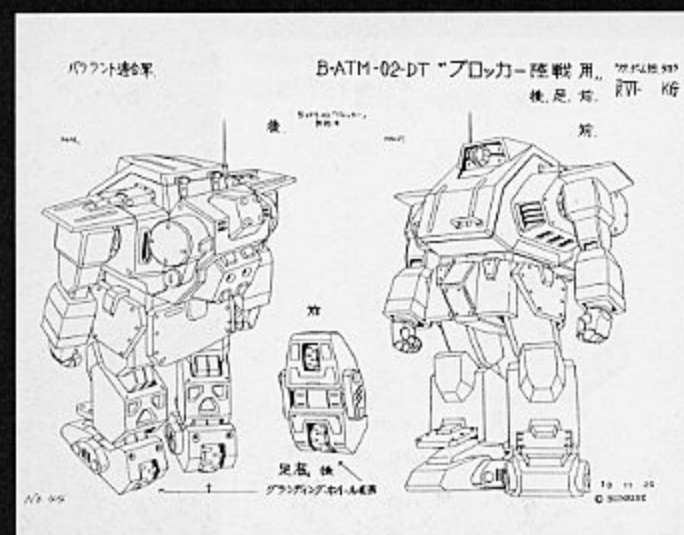
# B・ATM-02-ST

FILE ▶ 39

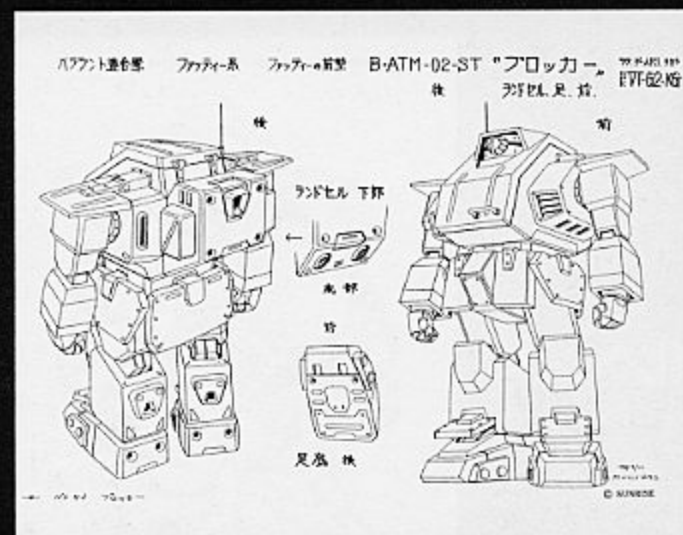
# ブロツッカー

90062 2  
FTCE>> 03

ファッティーの前身となる、バラント軍の制式AT。バラント宇宙総軍の意向により開発当初から宇宙空間での戦闘を重視しているため、空間機動ブースターを標準装備している。一方GHを装備しないなど汎用性は犠牲にされており、ファッティーに続くバラント側の戦略思想が垣間見える機体でもある。生産コストは安く、当時のギルガメス製ATに比べ極端に低い性能を数で補っていた。なおバラント側での名称はEP-02。



フロント連合軍 B-ATM-02-DT "ブロツッカー" 陸戦用、宇宙機動ブースター、後足、前足、腕、脚



フロント連合軍 ファッティー系 ファッティー前型 B-ATM-02-ST "ブロツッカー" 宇宙機動ブースター、後足、前足、腕、脚

クラス	M級
全高 (mm)	4238
全長 (mm)	2006
全幅 (mm)	2251
乾燥重量 (kg)	7173
最大装甲厚 (mm)	15
限界走行速度 (km/h)	50.0
固定武装・装備	-

ECREVISSE

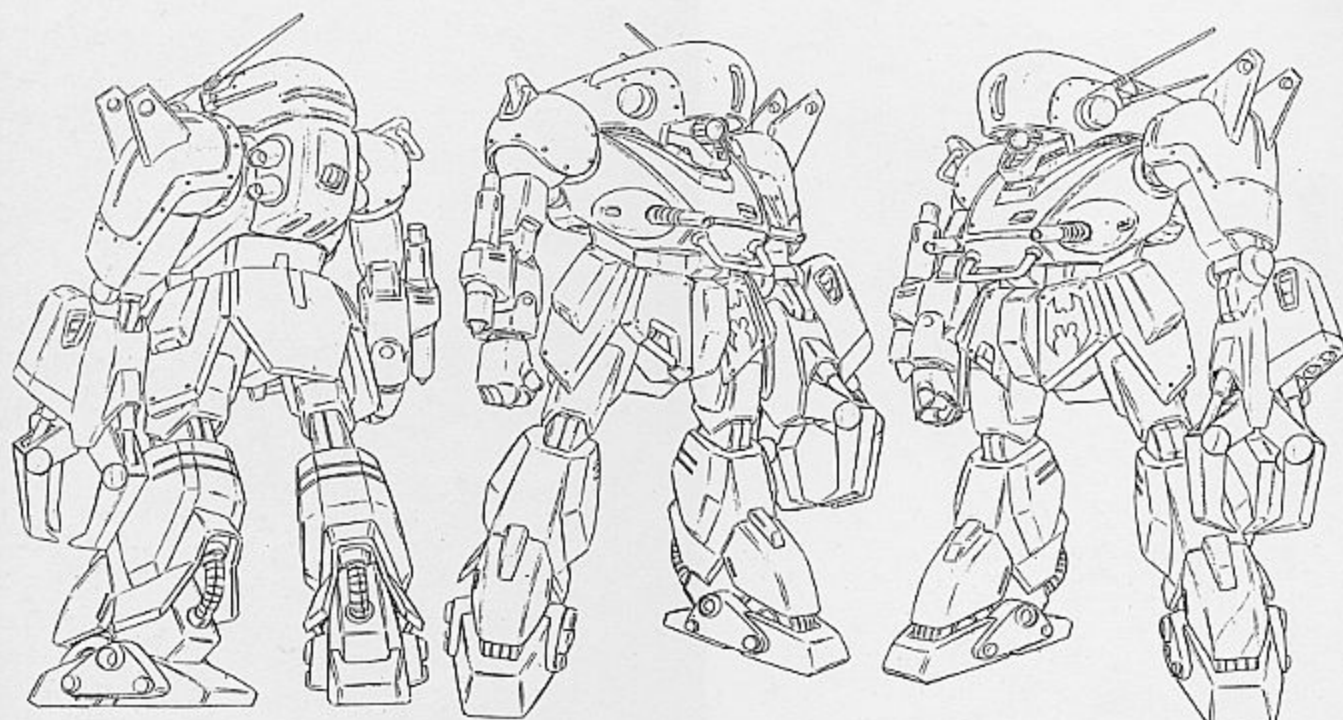
B・ATH-XX

FILE 40

## エクレビス

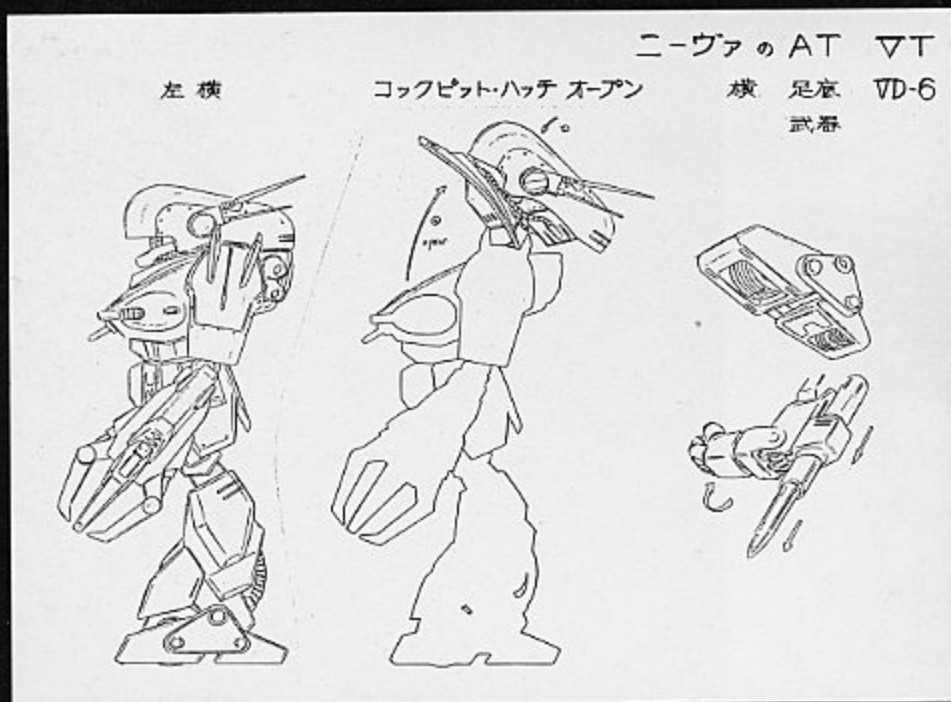
ECREVISSE  
FTCE>>M

バララント軍が次期主力機として開発を進めているH級AT。基本設計は秘密結社のX・ATH02ストライクドッグをベースにしたもので、7215年時点でのギルガメス・バララント両軍のAT開発技術を結集したものと言える。特にア・コバの街でパトリングの場を借りて実戦データを収集していた試作機は、バララント型PSに対応する操縦系までもが組み込まれており、技術的には特に興味深い存在となっている。

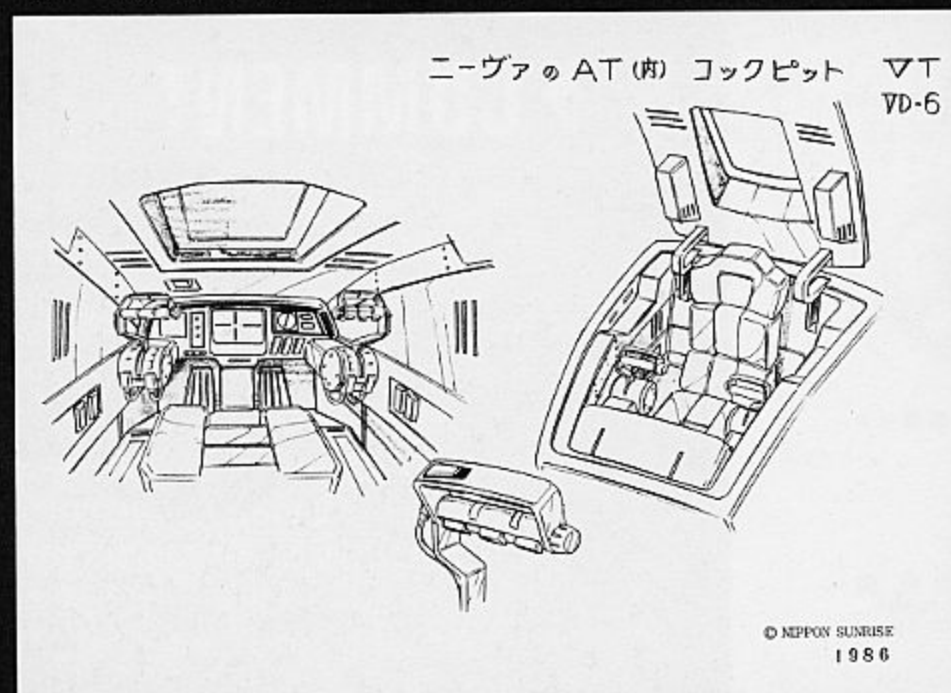
ニーヴァのAT VT  
後、前 VD-6

クラス	H級 (相当)
全高 (mm)	4380
降着時全高 (mm)	2205
全長 (mm)	1752
全幅 (mm)	2200
乾燥重量 (kg)	7895
基本待機重量 (kg)	8922
最大装甲厚 (mm)	18
最小装甲厚 (mm)	7
GH限界走行速度 (km/h)	85.6
GH巡航走行速度 (km/h)	51
GH最大出力 (hp)	400
GH最大トルク (kg/m)	170
MCバック系	PP-BJ-XX
使用PR液 (hp/12)	BP-CZ 11.2
PR液総量 (l)	187
予備タンク容量 (l)	13
標準液交換時間 (h)	138
制御コンピューター	NGCT-2CP
固定武装・装備	50ミリ機関砲x2、パイルバンカー ミサイルランチャーx2、クラブクロー
開発団体	宇宙総軍兵器設計局
開発年度 (製作年度、登場年度)	7215

## + 側面図



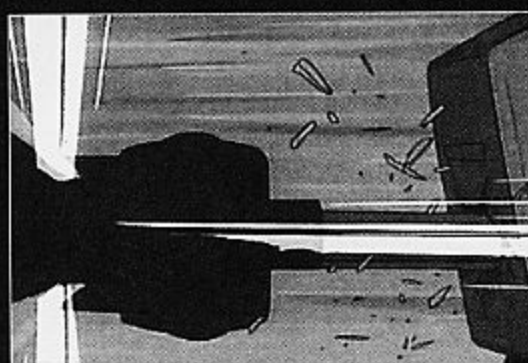
## + コックピット



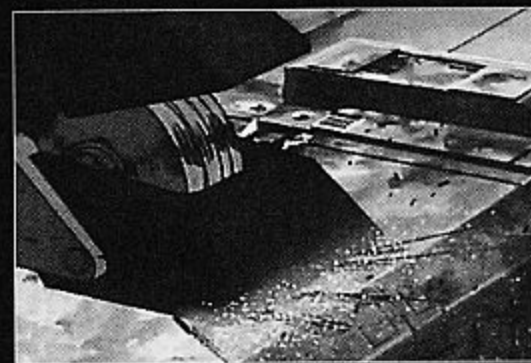
## ▶ COMMENT

大河原：OVAでは一つ一つステップを踏んでいきたかったんですね。少ずつ格好良くしていくとか。「ビッグバトル」というOVA作品ではここまでは許してくれるかな、というキューアをやっていったんです。エクレビスはこのOVAの敵の顔になるATということもあって楽しんでデザインしました。あと当然ですが、OVAやゲームの新型機は最初のコンセプト出しのスケッチには関係なくこの時期に一から作ってます。

## ▶ ON THE FRONT LINE



独特の形状のパイルバンカーは、機体重量全てを使って衝撃を受けとめる事ができる。(B)

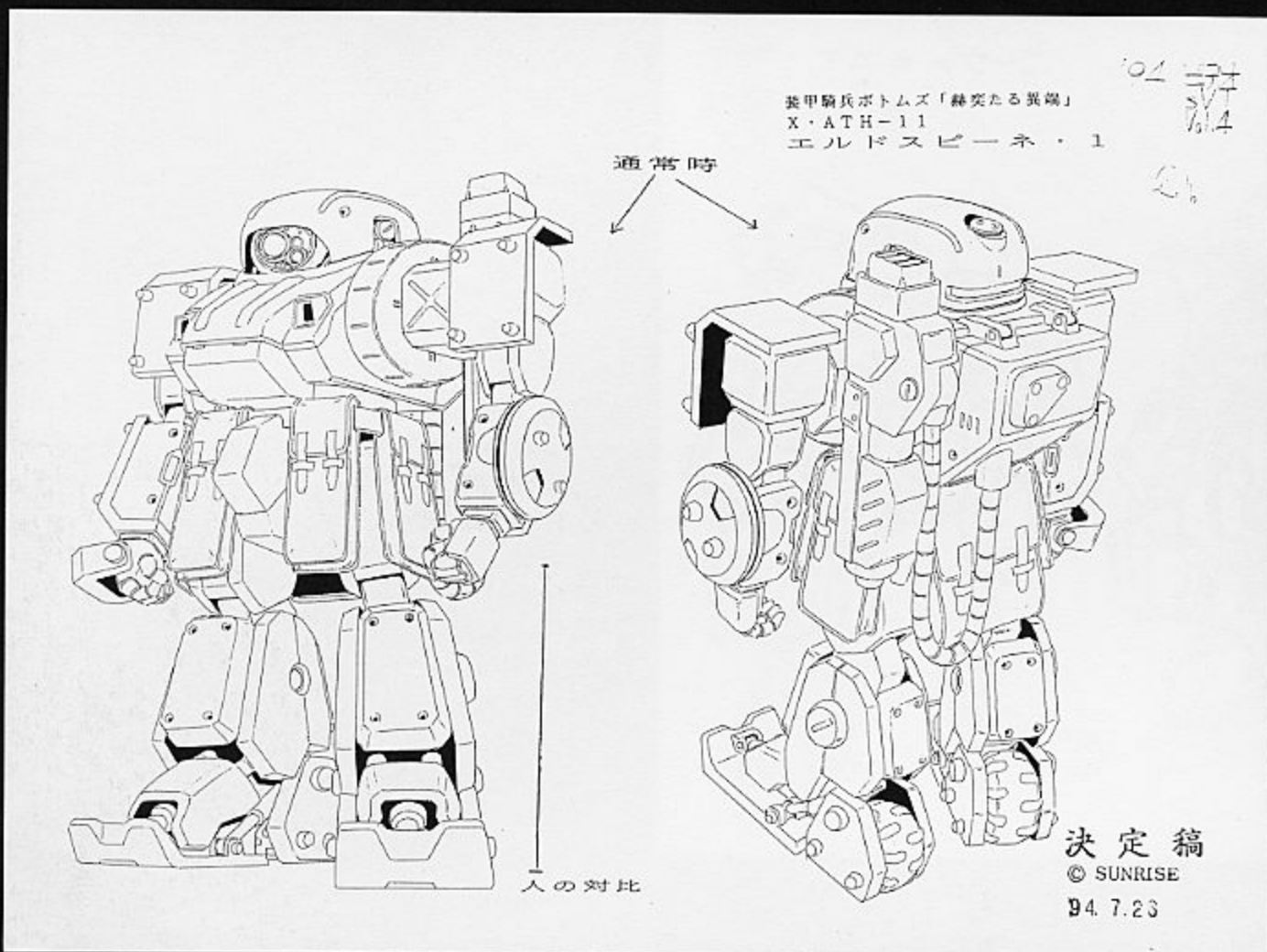


カバー付のローラーダッシュ機構は、足の前側という特異な位置に装備されている。(B)

# エルドスピーネ

ERDSPINNE  
FILE >> 41

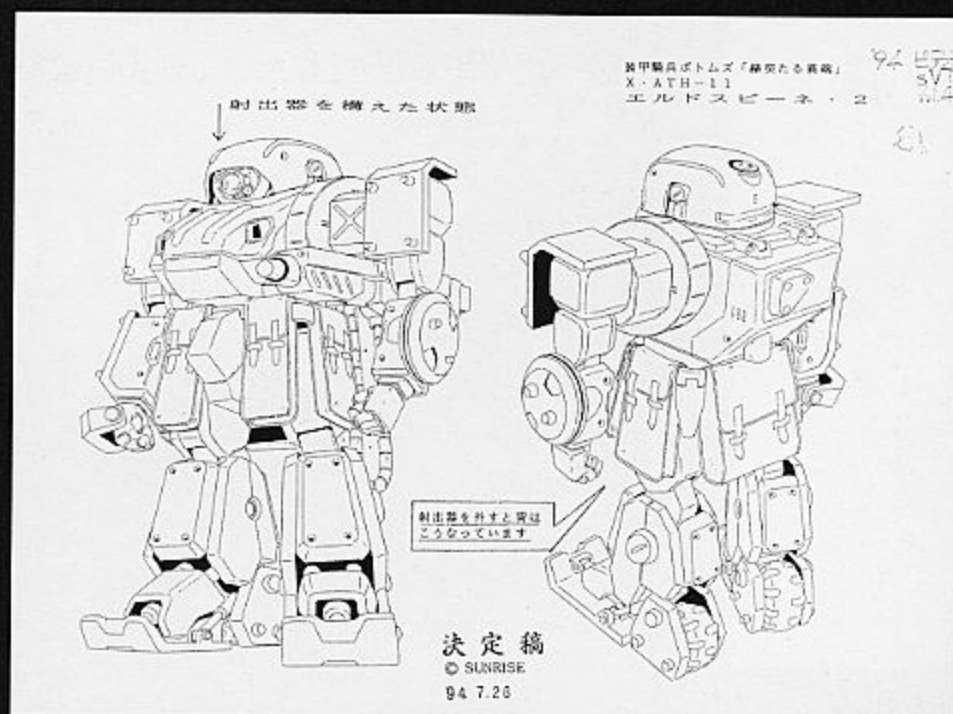
宗教結社マーティアルが使用するH級AT。聖地アレギウム防衛にのみ開発された機体で、聖地周辺の森林や入り組んだ石造建築内での戦闘を考慮した設計。元々の配備目的が防衛のみで侵略を一切考えていなかったため、クラスは防衛に有利なH級となり、その上で大型のグライディングホイールによってアレギウム周辺の地形で安定した走行を可能とした程度に最適化された。なお、改修時にはザイルスパイドとスピンラッドが追加装備された。



クラス	H級
全高 (mm)	4928
降着時全高 (mm)	-
全長 (mm)	2609(3005)
全幅 (mm)	3213
乾燥重量 (kg)	8511
基本待機重量 (kg)	8764
最大装甲厚 (mm)	18
最小装甲厚 (mm)	7
GH限界走行速度 (km/h)	72.3
GH巡航走行速度 (km/h)	45
GH最大出力 (hp)	320
GH最大トルク (kg/m)	65
MCバック系	スレック方式、2P-MM-S4
使用PR液 (hp/12)	DT-MS 12.8
PR液総量 (l)	184
予備タンク容量 (l)	40
標準液交換時間 (h)	150
制御コンピューター	MCT-328-C
固定武装・装備	アームパンチ ザイルスパイド、スピンラッド
開発団体	マーティアル、ウッドヘルト社
開発年度 (製作年度、登場年度)	7201 (原形機のX・ATH-01) 7221 (改修型のX・ATH-11)

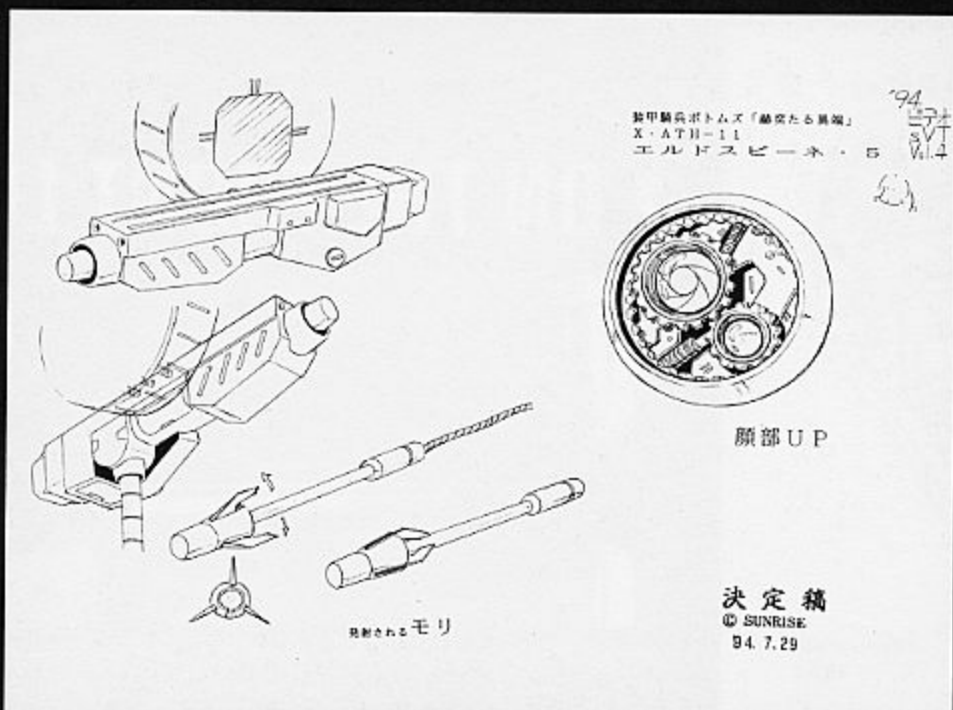
## ザイルスパイド 射出時

ザイルスパイドを構えた状態。これでハブーネと呼ばれるモリを発射し、スピンラッドで巻き上げることで多彩な戦闘を行える。



## ザイルスパイド 頭部アップ

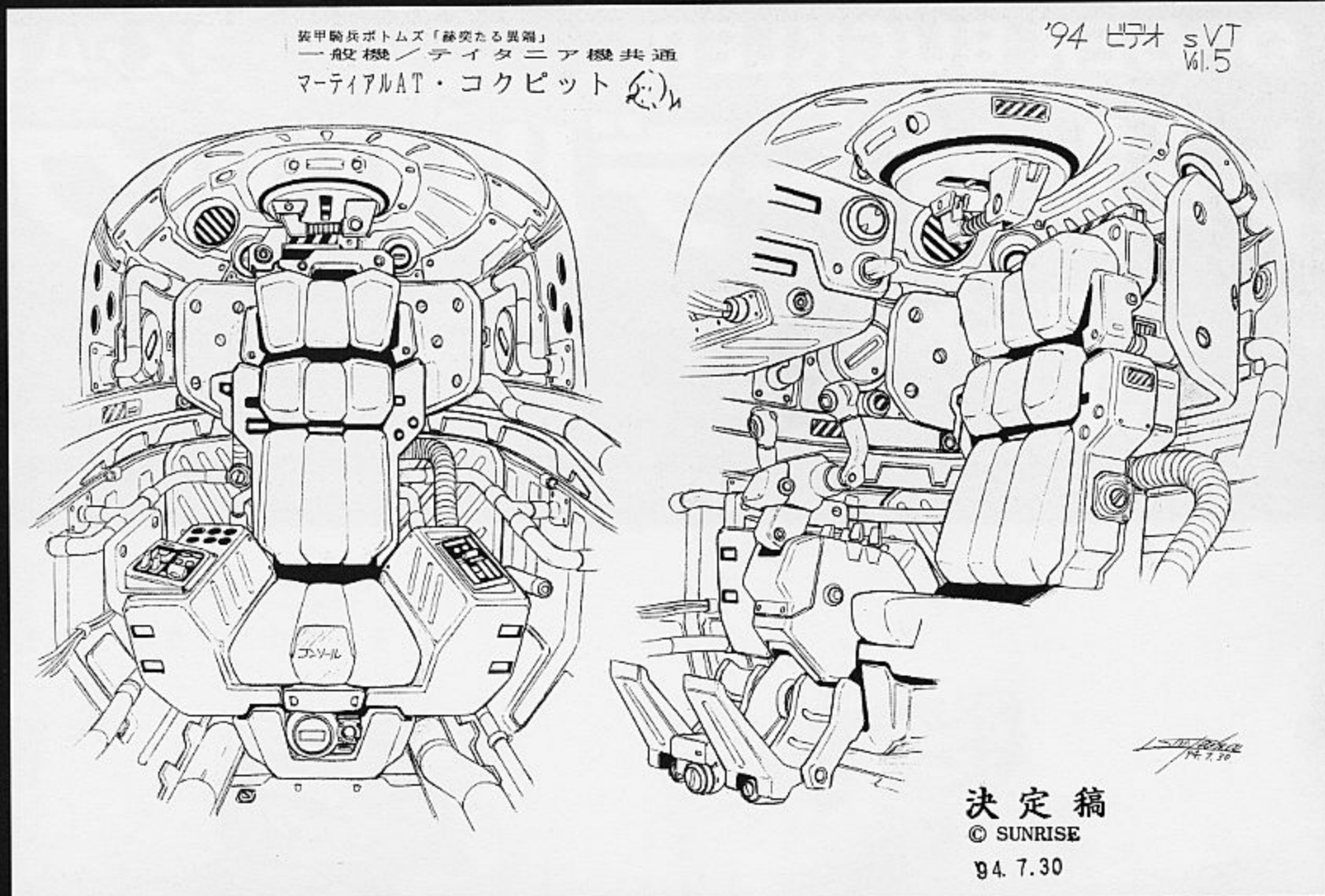
山岳用装備から発展したザイルスパイドとハブーネは自機を吊り上げる能力を持つため、上下方向の戦闘展開が可能となった。



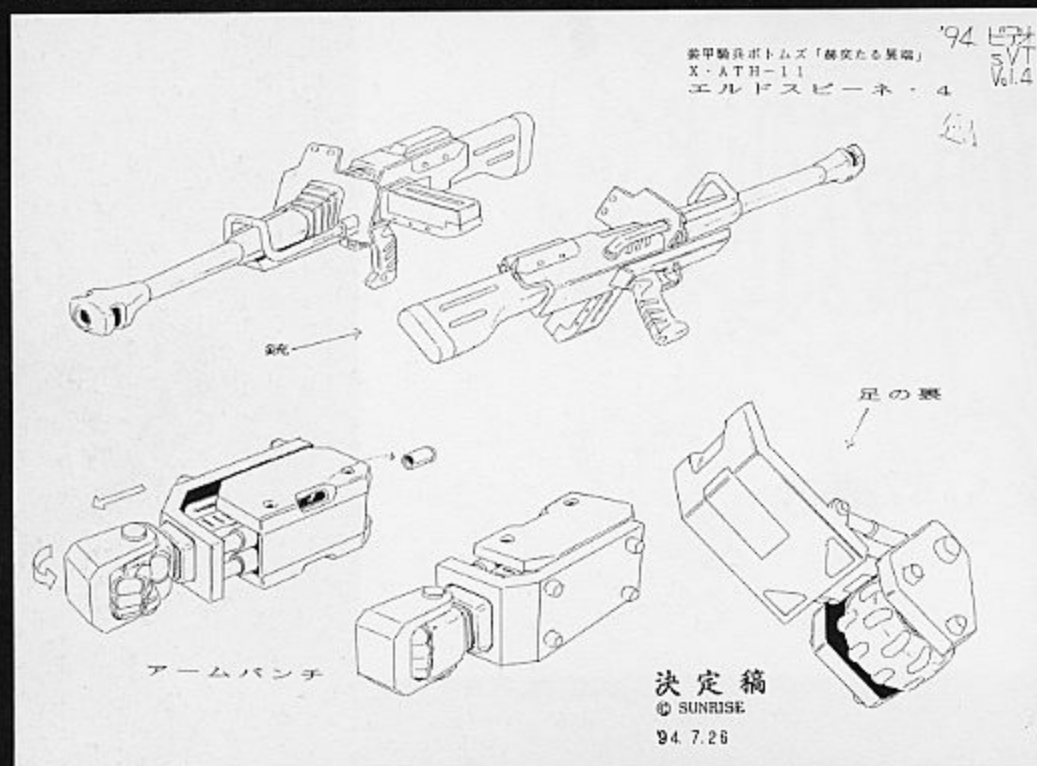
## COMMENT

高橋：これも今西が監督やった奴だね。デザインは大河原さんの他に山崎さんも噛んでたと思うんだけど。  
大河原：これは山崎さんのラフを元に僕がクリーンナップするという手順でデザインしました。その時にボトムズの世界にうまくはまれるかな、という部分をいじって。といってもほとんど直していませんけどね。しかし、腰の革の物入れはいいですね。こういう布っぽいと言うか柔らかい素材の部分ががあると、感じがいいんですよ (笑)。

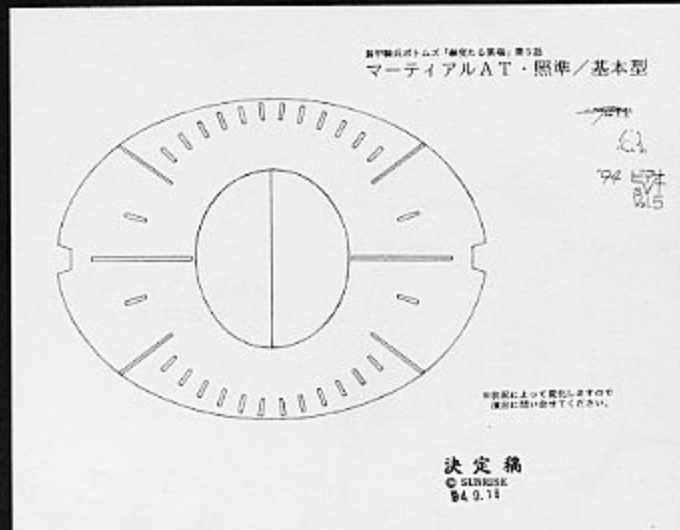
⊕ コックピット



⊕ StG-3b シュトゥルムゲベール

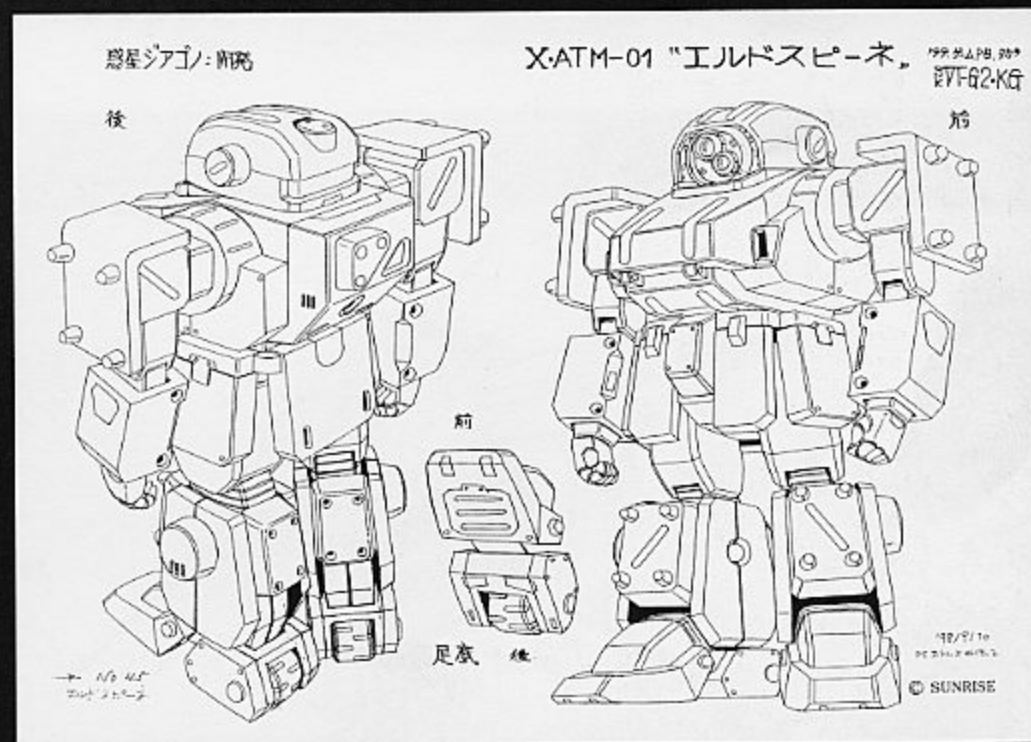


⊕ 照準システム



⊕ X-ATM-01 エルドスピーネ (改修前)

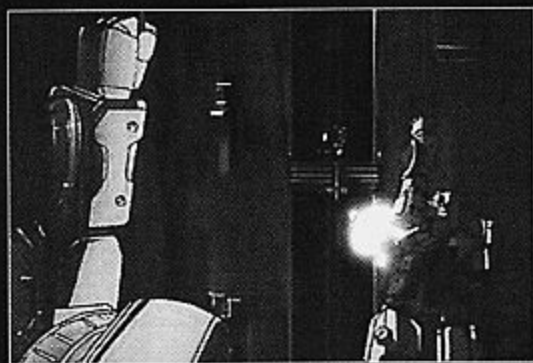
クラス	M級
全高 (mm)	4311
全長 (mm)	2068
全幅 (mm)	2200
乾燥重量 (kg)	7365
最大装甲厚 (mm)	19
限界走行速度 (km/h)	90.0
固定武装・装備	-



▶ ON THE FRONT LINE



ワイヤートラップの展開のため、屋外でハーブネを射出するエルドスピーネ。(K4)



独特の石造建築内での攻撃方法。この種の縦軸攻撃は、山岳用ATが原型と思われる。(K5)

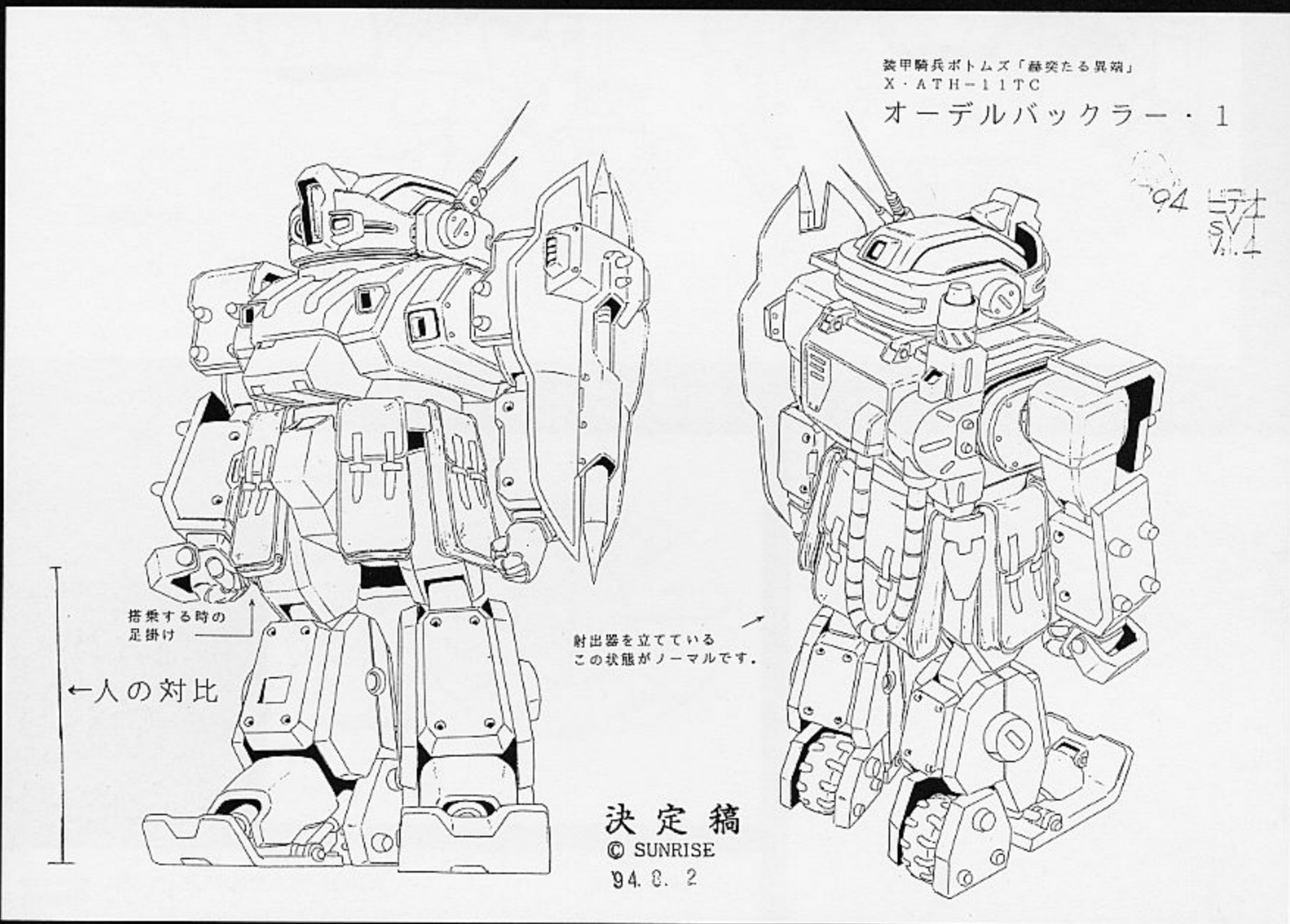


振り子状に移動しつつ砲撃を行う機体も存在したが、命中精度はあまり高くない。(K5)

FILE 42 オーデルバックラー

ORDER BUCKLER  
FTCE >> 00

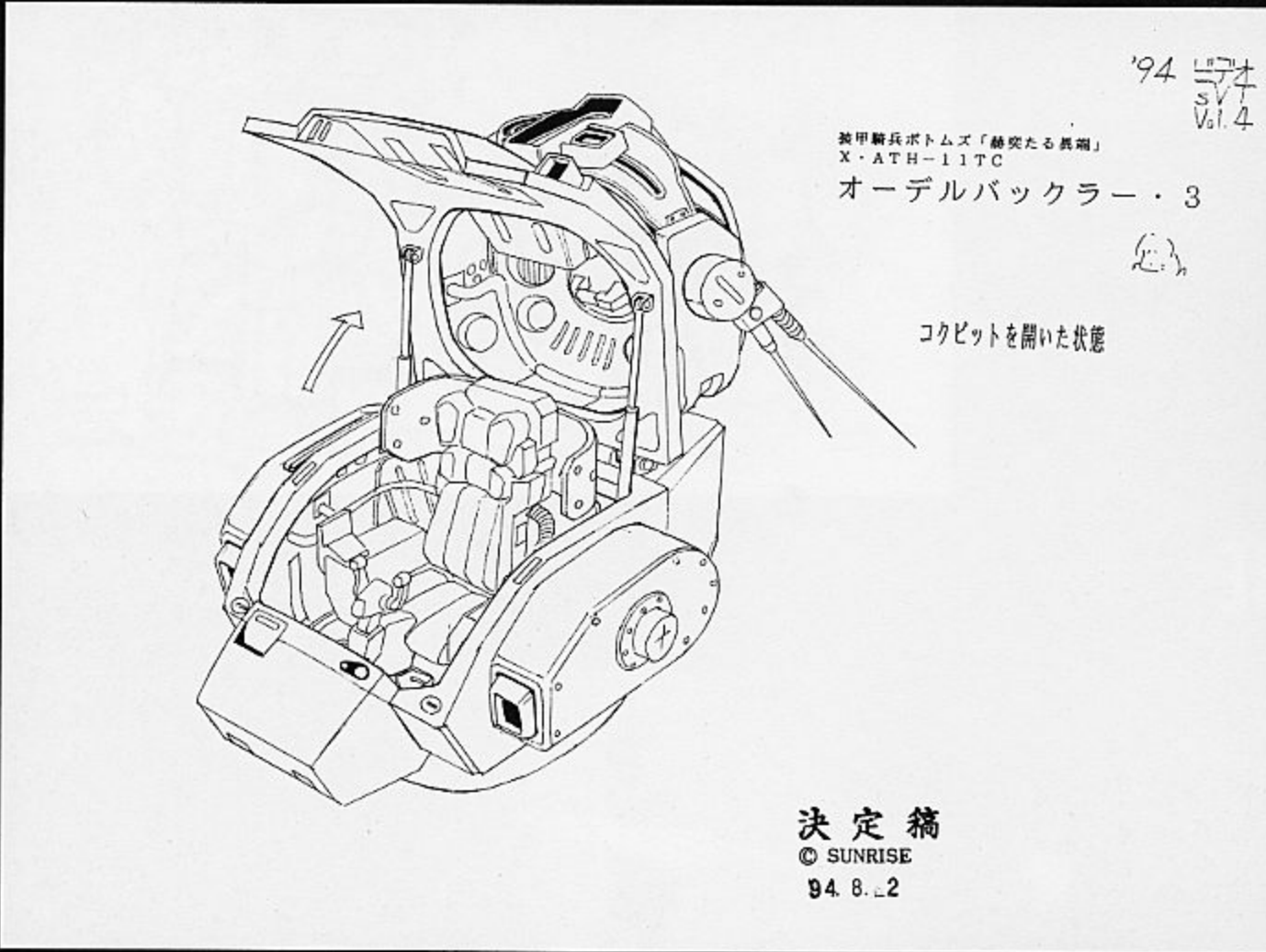
宗教結社マーティアルが使用するH級カスタムATで、アレギウム防衛司令官たる第13階位「秩序の盾」専用。基本的にエルドスピーネのターボカスタムだが、各所にコストを度外視した高性能パーツが使われ、そのポテンシャルは極めて高い。聖地周辺の森林や入り組んだ石造建築内での戦闘を考慮した設計となっているのは原型機と共通だが、シールド一体型の電磁式パイルバンカーを装備しているなど、より接近戦指向の機体と思われる。



装甲騎兵ボトムズ「蘇突たる異端」  
X-ATH-11TC  
オーデルバックラー・1

カスタムとはいえ、原型機との差異は想像以上に大きい。パイルバンカーの装備の為にザイルスバイドの位置を変えるなど、機体の構成から大きく変更されている。これはカスタムというよりも、作り直しに近いと言えるだろう。

⊕ コックピット



装甲騎兵ボトムズ「蘇突たる異端」  
X-ATH-11TC  
オーデルバックラー・3

クラス:	H級
全高 (mm)	4319
降着時全高 (mm)	-
全長 (mm)	2760(2893)
全幅 (mm)	2909
乾燥重量 (kg)	8154
基本待機重量 (kg)	8420
最大装甲厚 (mm)	18
最小装甲厚 (mm)	7
GH限界走行速度 (km/h)	80.5
GH巡航走行速度 (km/h)	46
GH最大出力 (hp)	320
GH最大トルク (kg/m)	65
MCバック系	スレック方式、2P-MM-S4
使用PR液 (hp/12)	DT-MS 11.8
PR液総量 (l)	194
予備タンク容量 (l)	40
標準液交換時間 (h)	138
制御コンピューター	MCT-328-C3
固定武装・装備	アームパンチ、ザイルスバイド、スピンラッド、パイルバンカー
開発団体	マーティアル、ウッドヘルト社

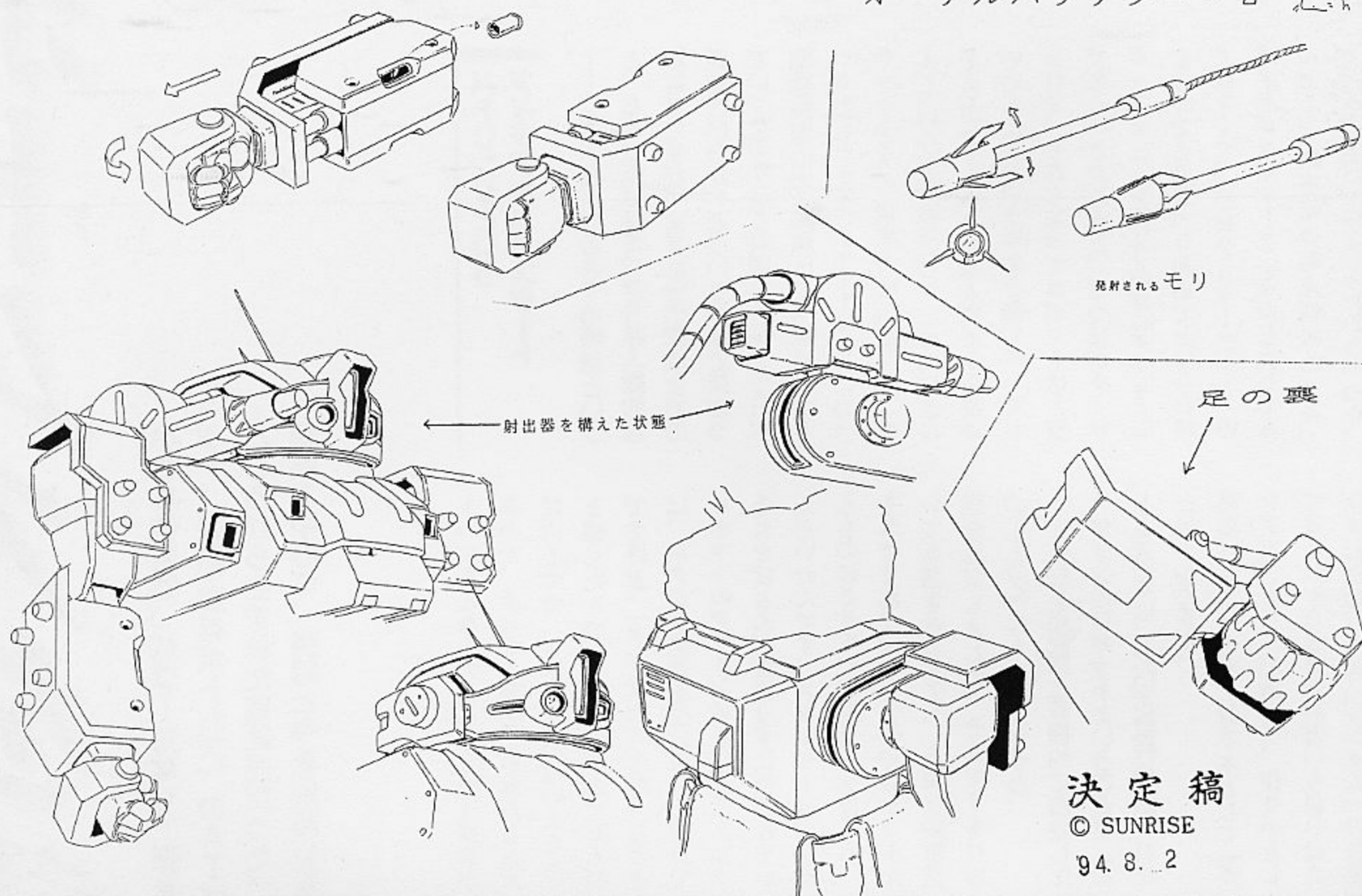
⊕ アームパンチ 他

アームパンチ

装甲騎兵ボトムズ「蘇突たる異端」94 二テオsVT-Vol.4

X・ATH-11TC

オーダーバックラー・2 (2)



決定稿

© SUNRISE

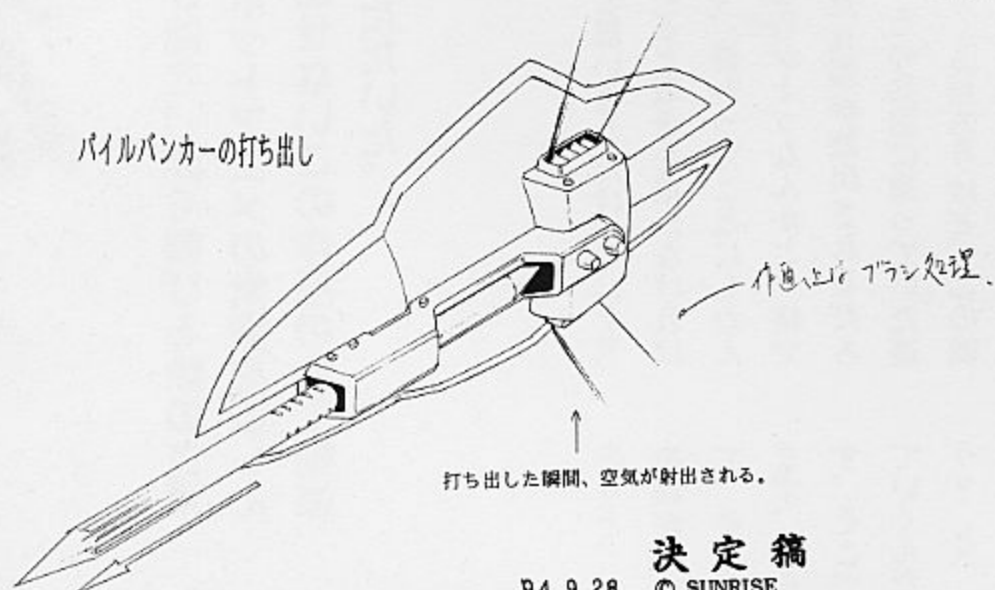
94.8.2

⊕ パイルバンカー

装甲騎兵ボトムズ「蘇突たる異端」第5話  
オーダーバックラー・5

sVT  
Vol.4

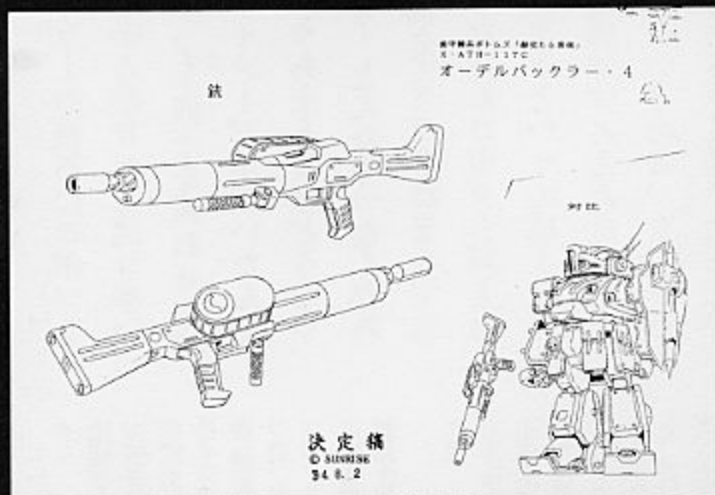
パイルバンカーの打ち出し



決定稿

94.9.28 © SUNRISE

⊕ StG-5A  
シュトゥルムゲベール改



▶ COMMENT

大河原：こちらもエルドスピーネと同じ手順でデザインしました。ただボクが直していると言っても、この2体はこれまでのボトムズの流れからするとちょっと違うなとは思いますが。今西さんが出淵さんを起用した意図も、そのへんにあるのかもしれないし。ただ出淵さんは、彼にしてはかなり苦しんだんじゃないかと思えます。自分にはないラインを一生懸命。彼はボトムズのようなセンスを持っているタイプのデザイナーではありませんし、飛ぶような流線型のデザインが得意な人ですから。

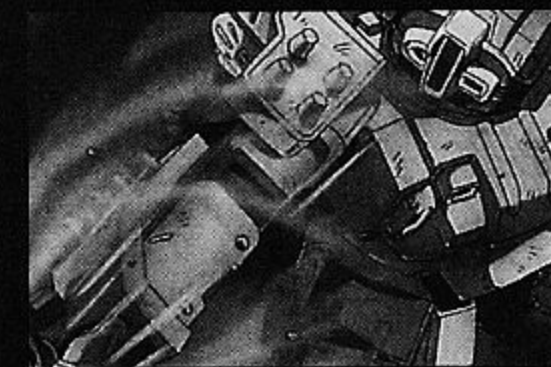
▶ ON THE FRONT LINE



降着機構が装備されておらず、専用デッキ以外での搭乗はよじ登る必要がある。(K4)



原型機同様、ワイヤーを使った石造建築内での移動能力は特筆すべきものがある。(K5)



アームパンチ機構。手首を保護するナックルがあり、威力自体も上がっている。(K5)

# ボトムズを語る

高橋良輔 (総監督)

070

小さな体躯で、パワーもなく、弾を食らえば穴が開き、赤く錆びる鉄のロボット。『装甲騎兵ボトムズ』のATは、当時のロボットアニメの常識を覆したところから生まれた異端児だった。今もって色あせないこの作品のAT創造秘話を中心に、当時と今を俯瞰して語り合っていた。

井上幸一 (設定制作)

## バトリングというアイデアからのスタート

「ボトムズ」のATの特徴という  
と、さまざまなギミックや非人間的な顔などですが、まずはその完成までの経緯というか、どういう順序で決まっていたのかなどお聞きかせください。

高橋良輔(以下高橋)：順番は……どつちともいえないんですけどね。ただ、サンライズの創業者に山浦さん(※1)という方がおられて、その山浦さんが「ロボットというのは人型だから格好いいんだ」という考えを強く持っておられて、それもあるってロボットは人型であるべきだろうと。じつはボク、ロボットアニメというのは「ダグラム」(※2)でまるきり初めてというわけではなくて、「ゼロテスター」(※3)の時にゼロロボットというのを出しているんです。四本足の起重機みたいな、カメラの雲台(※4)みたいなやつを。ボクはその当時、現実的にはロボット

トってあんなものだろうという観念があった。それが人型と言われたとたんに内心では「オモチャっぽいよなあ」と感じたんです。「ダグラム」も人型ですけど、「ダグラム」をやったときは、ボクが企画書を受け取った時点でロボットのデザインはもうできていて、それをほとんど変更せずに使わせていただいたんです。ストーリーは全然違うものにさせていただきましたけど。

それでまあ、「ダグラム」でロボットがいても話を作れると、人型への抵抗感を払拭しまして。それで2本目の「ボトムズ」に入ったんですね。

——それで世界観と有機的に合致したデザインのロボットということで「ボトムズ」では、だいぶ試行錯誤されたと思うんですが。

高橋：ええ。まず、お手本として「ガンダム」(※5)があって、作り手としてはそれから離れたという思いはありましたね。まあ「ガンダム」の戦争の中で生まれた兵器と言う位置づけは

ボクもいいと思いましたが。でも、戦争をしていると戦争を描かなければいけないので、終わったことにしたんです。それならジブなんかと一緒に過剰になった兵器が放出されるだろう。すると、その兵器に乗っていた連中も除隊してくるだろうけど、この戦争が相当に長いとするとその連中というのは兵隊以外の能力がないだろう。そこで最初考えたのは、放出兵器によるバトルを見せる、そういうプロレス興行のようなものだったんです。それで、ボクはステイプ・マックイーン

(※6)が好きだったんですが、彼の主演で『ジュニア・ボナー華麗なる挑戦』(※7)というロデオ(※8)の映画があるんです。今でもアメリカではロデオの大会があると思うんですけど、その大会を求めてトレーラーに自分の馬や生活用品を乗せてロデオ大会からロデオ大会へとさすらっていく人たちがいて、という映画なんですけど、それをロボットに置き換えたらどうだ

ろうと。トレーラーの後ろにロボットを寝かせて祭りから祭りへと渡り歩いて、そこでロボット同士を戦わせる。まず、そういうイメージが湧いたんです。そこで、じゃあ主人公はどうなっていくんだらう？ どんなやつなんだらう？ と、そこでキリコが決まってきた。ところが、たぶんロボット同士の戦いをショーにするというのは「エピソード」としては成立するんだけど、それを絶えずやるというのは、もつと子供っぽいドラマになると思うんですよ。——たとえば地方大会を勝ち抜いたら全国大会があつて」というような？

高橋：そうそう。だから、きつとボクが作りたい方向にはならないな。だから、そういうものが存在する世界にしよう。確か、当初4話目くらいでバトリングって出てくるんですけど、あれのシナリオはボクが書いたんです。みんなに説明してもなかなかわかってもらえなかったもので。「サムライセブン」(※9)を手掛けた滝沢敏文君(※

※1 山浦さん

山浦さん。元サンライズ社長で、現在は株式会社エムイーエス専務取締役。サンライズの創業メンバーの一人で、東映動画(現在の東映アニメーション)を経て虫プロ。サンライズの元となった創英社サンライズスタジオで番組企画を担当。後に社長兼務。代表作は「ゼロテスター」機動戦士ガンダム など多数。

※2 「ダグラム」

太陽の牙ダグラム(1981～1983)。「アマト」ガンダム などから始まったアニメブーム初期に制作された「ボトムズ」の前番組。兵器としてのロボット、コンバット・アーマーが活躍するロボットアニメ。地球の植民惑星テロリアの独立運動を描いた政治ドラマは庄巻。

※3 「ゼロテスター」

正確には「ゼロテスター」(1973～1974)および「ゼロテスター地球を守れ」(1974)。ガンターバードを彷彿させるメカアクションアニメ。地球侵略をたくらむアーマイトに対抗し、テストター1～4号と各種メカを操るゼロテスターの活躍を描く。

※4 カメラの雲台

カメラをつけたまま三脚からはずすことができる上の部分。カメラと三脚の間に取り付けられ、カメラの向きを自由に交換したり、固定することができる器具。

10)と一緒に。ただ、当時はパトリン  
グというものを面白がる人も少なく、  
同時にボクも危機感を感じていまし  
て、滝沢君も「何が面白いんですか？  
こんなパトリングなんて」て言いなが  
ら、絵コンテを描いてくれて。

まあ、そこからはままさのり(※11)  
さんの『青の騎士 ベルゼルガ物語』  
(※12)が出てきたように、パトリン  
だけでも面白い話はあると思うんで  
す。ただ、五十何本を全部その話で引  
つ張るのは自分の作風ではありません  
でしたね。

井上幸一(以下井上) …いや、今の話、  
ひさしぶりに時系列通りに話がちゃん  
と進んでましたね笑。だからそれをか  
いつまんで言っちゃうなら、「ちっちゃ  
いので行きましょう」というのと、大  
河原さんの方から「朽ち果てたダグラ  
ム(※13)できないよね」という話が出  
てきて。デュアルモデル(※14)のア  
ーマー全部はずすとあのポーズができ  
るんだけど、アーマーつけちゃうと動  
かないよねって。そこでね…と大河  
原さんが「こうすればできるんだ」と  
今のポトムズの関節機構をスケッチで  
描いてきたところから始まってるとい  
う。だから、最初にメカができちゃっ  
ているわけですよ。物理的には。

高橋…構構的にね。  
井上…ええ。ですから、物語全体の流  
れは一番最後なんです。前のがデロ  
イア7(※15)で7人組の話だったので  
が、今回は一人の話になったのでパー  
ソナルなロボットに、とか。いちいち、

整備士じゃまだよねとか言う話も出た  
りして。だから、整備士いなくてもい  
じれるロボット。こういう話を大河原  
さんとしているとロボット物としては  
否定要素ばかり出てくるんですよ。  
パワーもなく、小さく、弾食らったら  
穴が開くロボット。「そんなもの売れな  
いよ」という話も他方からは言われた  
りもしましたが、そのおかげで今で  
も古くならないものになっていると思  
うんです。

昔は弾が来れば必ず跳しくし、空は  
飛ぶし、というのがロボットでは当た  
り前だったんだけど、ダグラムは移動  
でもドタ足で走るか、トレーラーの上  
に寝ているという形でしたから。そう  
いった、それまでのアニメ的でないリ  
アルな不便さを突き詰めたのが『ポト  
ムズ』とも言えますよ。

### ジープのイメージと 小ささへのこだわり

高橋…ボクは知らないですけど、たと  
えば本物の戦車を動かすのは相当大変  
らしいですよ。ちゃんと動くように  
しておくための整備も維持も大変で、  
そんなに長時間動かせるものではない  
し。また後で整備しなければいけない  
し。きつと、ポトムズとかもそうなん  
だろうな、という感じ。

井上…そこへ行くと、ジープって言う  
のはすごくキーワードとしてわかりや  
すくて。戦車までは行かなくて、その  
気になればジャンクの中から自力で一

台組み上げて何とか動かせるという。  
そんなロボットが出てくるアニメなん  
て、今までなかったですからね。

高橋…ジープと言えば「ラットパトロ  
ール(※16)のスピード感というのも  
頭に残っていてね。ドイツ軍を翻弄  
する砂漠のネズミというヤツ。『ポト  
ムズ』はそんなスピード感のある物語  
にしたいという思いもあったね。  
—すると、ATのイメージの出発点  
はジープだった？

高橋…と言うよりもボクの原体験の  
中にジープがあった。ボクが自動車  
とかそういうのに興味を持った頃の  
日本の自動車ってあんまりよくなか  
ったんだよね。そんなとき進駐軍が乗  
り回っていたのがジープで、町中だか  
ら戦車があるとか言うことはないです  
から、米兵とジープというのが一番結  
びつきやすい乗り物だったんですよ。  
それで日本の安かろう悪かろうに対抗  
するアメリカの物質文化の象徴でジ  
ープが走っていて、なんとくジープに  
するあこがれがあったんですよ。そ  
れからしばらくして、中学高校ぐらい  
になると、ジープは日本では建築現場  
でよく使われていました。町中ではな  
く、大きいタムの建築の現場とかでは  
四輪駆動車ということもあって、ジ  
ープが活躍していました。占領軍の払い  
下げか、直接アメリカから輸入された  
ものかわからないですけど、建築現場  
の整地されないうところをよく走る車と  
いう印象でした。

そのうちに、今度は自動車の専門雑誌

や何かでオフロードカーとしてのジ  
ープが泥んこで活躍するレースなんか  
が伝えられたり。太いタイヤをはいて  
たり、男の子から見たら格好いいわけ  
ですよ。そういうようなボクの十代、  
今アニメーションをみている人たちと  
同じくらいの世代の時にジープという  
ものに特殊な格好よさみたいものを  
感じていましたね。軍用車両という意  
識さえなく、なんとなくやわじゃなく  
格好いい乗り物だなあ、と。それでず  
っと忘れていて、監督としてロボット  
もの作る今のようになりましたけれ  
ど、当然そのときには現実のロボット  
というのはないわけです。それをふつ  
うの乗り物になぞらえると、ボクの  
「ダグラム」の時は戦車をイメージして  
いたんですけど、ロボットものとし  
ては二番目となった「ポトムズ」のロボ  
ットはどういう位置づけにしようか  
な？と思ったときにジープが浮かん  
だんですよ。ジープのサイズというこ  
ともあるんですけど、用いられ方。  
特殊な兵器と言うより、ジープのよう  
に頑強な道具として存在している感じ  
がほしかったんですよ。

井上…人間に身近なとか。  
高橋…そうですね。でも、やはりロボ  
ットものを作るためにデザインしてい  
く上で「ジープかなあ？ 装甲車なの  
かなあ？」というブレはあって、装甲  
車とジープの間くらいの位置づけと  
なって機能を考え始めたんだよね。  
井上…最初のスケッチはジープと言  
うところから初めて、タコヘルメット

※5  
ワンダム

機動戦士ガンダム(1979~1980)  
O。富野喜幸(現・由緒季監督)による  
ロボットアニメ。リアルロボットもの  
と言われる量産兵器としてのロボットが活  
躍するジャンルを打ち立て、今現在に至  
るまでシリーズ展開が続けられている。

※6  
スティーフ・マックイーン

1930年インディアナ州インディアナ  
ポリス生まれ。「荒野の七人」大脱走  
などの映画、TV「拳銃無宿」などで知  
られるアメリカのアクション映画俳優。  
1980年に肺ガンにより死亡。

※7  
ジュニア・ボナー 華麗なる挑戦

1972年に公開されたスティーフ・マ  
ックイーン主演の映画。ロボ大会を渡  
り歩くチャンピオン、ジュニア・ボナー  
の物語。

※8  
ロボオ

カウボーイが暴れ馬や暴れ牛にまたがり、  
どっけ長く乗っていられるかを競うも  
の。アメリカでの伝統競技であり、今も  
ショーとして各地で行われている。

※9  
「サムライセブン」

黒澤明監督の不朽の名作「七人の侍」を  
ベースに2004年にNHK衛星ハイビ  
ジョンにて放映されたアニメシリーズ。  
その監督を滝沢敏文が勤めている。

※10  
滝沢敏文

OVA版「クラッシュジョウ」の監督  
や「装甲騎兵ポトムズ」をはじめとする  
多くのロボットアニメの演出で知られる  
アニメクリエイター。最新作は「サムラ  
イセブン」

※11  
はままさのり

『青の騎士 ベルゼルガ物語』シリーズの  
作者。ほかに「マジナル・マスターズ」  
シリーズなどで知られる。残念ながら番  
作はいずれも絶版。

※12

『青の騎士 ベルゼルガ物語』パトリン  
グで日々の糧を稼ぎながら、親友を殺し  
た相手への復讐に生きる男、ケイン・マ  
クドガルの物語。「ポトムズ」と同じ世界  
を背景に持ちながら、共通するキャラク

がないオープンなものでしたよね。

——つまり、ジープがバトルを繰り広げるのが面白いというのが発想の原点だったわけですか。

高橋…そうではないですね。まず『ダグラム』の後番組と言うことでダグラムより大きくするのが小さくするのかわかるとか考えたんですよね。『ダグラム』のコンバットアーマーが8〜10メートルぐらいのロボットで、ガンダムが18メートルぐらい。でも18メートルも10メートルも絵にしてしまうと演出はそんなに変わらないんですよ。極端な話、50メートルのロボットも同じ演出方法になるんです。作品を作る機会が与えられたらなるべく新しいものを作りたいと思いますので、小さくする手しかないだろう、と。

——それでジープというコンセプトになったわけですね。

井上…これ、デザインがあがるまでってほんの二ヶ月ぐらいの作業ですね。早かったですよね。

高橋…うん。あのころは早かったね。

## 『ボトムズ』の自由さ

——ところで、2005年の今から振り返ってみて、『ボトムズ』のATデザインやコンセプトについてどう思われますか？

高橋…どうでしょうねえ。人間ってというのは、そうそういつも新しいことって考えつかないもので、ボクがその

後に作った『ガサラキ』(※17)に出てきたタクティカル・アーマーもだいたいATと同じくらいな大きさになっているんですよ。ただし、ATと違って全面戦争に使われる兵器ではなく、特殊作戦用とでもいうあつかいになっているんですよ。

なぜなら、たとえばイラクとアメリカは全面戦争だったんですけど、あつという間に片が付いてしまった。ところが全面戦争だつて言っているときではなく、その後のテロとの戦いっていうのがある。だから、そういう暴動とかテロ対策用とか、奇襲作戦用にはパワードスーツか、もしくはこれくらいのサイズのロボットが有効なんじゃないですかね。それも相手の能力が劣れば劣るほど有効な兵器になると思うんですよ。片方が戦闘能力が低くて、もう一方が圧倒的であればあるほど。だから、デモとか暴徒の鎮圧とか、特殊作戦とか。そういったものには、ATサイズのロボットが有効なんじゃないかな、と。正規戦だと、やはり4メートルのロボットはいいのなんじゃないかなあ、と、そういう気がするけどなあ。

——井上さんの方はいかがですか？

井上…いやあ。よくこんなに見事にアンバランスなものができたなあ、と思っっていますよ。だって二足歩行でしょ。ハイテクですよ。それがレンズですよ。葉莖ですよ。

いや、ボクはそこがアニメーションのおもしろさだと思ってるんです。

『ガンダム』や『ダグラム』は地球の

延長線上ですが、『ボトムズ』はアストラグウスっていうよくわからない異世界だった。だからこそできたおもしろさですよ。あと、いつも言うんですけど、よくまあここまでお目々もないようなロボットを2回もやらせてくれたなど。当時、いろんな人から「よくあんな好きなものやらせてもらえたねえ」と言われて「そうなのか」と思う瞬間もあつて……。

——今はそういうふうに自由にやらせてくれるようなことはあまりない感じですか？

井上…いや、多分状況に応じてあるんじゃないですか？ 当時だって滅多にないんですよ。だから、ほかのスタジオオからいいと言われていたわけで。

高橋…あと、放映先が今のテレビ東京ですが、『ダグラム』のときはちゃんと試写をやっていたんです。ところが『ダグラム』が終わって『ボトムズ』やり始めて、テレビ局に試写に行くわけです。すると集まりが悪いんですよ。それで何となく、試しに「間違いない納品しますから、試写を止めましょうか」と言ったら試写がなくなりましたよ。やはり一週間に一回、神谷町まで行くのはスタッフとして結構面倒くさいんで(笑)。

井上…そういう意味では、あのときの時代の勢いでできたことなんですよ。ね。

——スポンサーがタカラだったからというの？

高橋…それはありましたね。とくにボ

クらの当時の庇護者だった沼本清海(※18)さんがイケイケドンドンでね。井上…というか、まだ絶対的なヒットがないから、いろいろ探らせてくれたというところもあるでしょうし、『ダグラム』が一応成功したから、もう一度同じ方向性でというのもあつたでしょう。今までのロボットのファンじゃなくてミリタリーのファンに売ってという、ユーザーフィールドをずらしたわけですよ。そのずらすことをやらせてくれたのが沼本さんでした。それで『ダグラム』がそこそこいって、『ボトムズ』はその後に制作した作品ですから、そういう意味でも非常に運がよかったと思うんですけどね。

では、やり残したことがないかという、ないわけではないです。けれど究極を目指して制作していたわけではなく、時間に追われてテレビシリーズを作っていたわけですから(笑)。

高橋…ボクの中では、これはあつという間に作れましたからね。

井上…そこが不思議ですよ。

高橋…そんなに悩まずにね。

## 人間っぽさと錆びる鉄の装甲が魅力

——なるほど、では最後にATのデザインで特に好きなところはどこですか？

高橋…うーん、全部。

井上…このまとまりですかね？

高橋…ボクはね、立体物よりも絵に

※17 ターが登場しない外伝。放映当時にタカラが出版していたファン向け情報誌「デュアルマガジン」に連載されていたものだが、後に加筆訂正のうえ朝日ソノラマ文庫で出版された。また、独自の続編も書かれているが現在は絶版。

※18 朽ち果てたダグラム  
『太陽の牙ダグラム』の第一話と最終話に登場した朽ち果てて動かなくなったダグラム、膝を抱えて座り込んだようなポーズをしていた。

※14 デュアルモビル  
タカラが制作していた玩具。アルミダイキャスト合金とプラスチック素材を併用し、プロポーションや稼働性が当時としては驚くほど高いレベルで再現されていた伝説的玩具。

※15 テロイアア  
『太陽の牙ダグラム』の主人公、クリンが属するゲリラ部隊の名前。文字通りクリンを名乗る7人のメンバーがいる。

※16 ミラトバトル  
日本で1966年から放映されたアメリカ製ドラマ。第二次世界大戦時の北アフリカの砂漠地帯を舞台に、機銃で武装したジープを使う連合軍の特殊部隊がナチスドイツ軍を翻弄する戦争アクション物。

※17 ガサラキ(1998〜1999)。高橋良輔監督による近未来2014年を舞台としたロボットアニメ。TA(タクティカル・アーマー)と呼ばれるロボットが主役側のメカとして登場。ちなみに主人公側は特務自衛隊に属するという設定だった。

※18 沼本清海  
『ボトムズ』の当時、タカラの男児玩具の責任者だった人物。元々はアニメクリエイターとして日本のテレビアニメ黎明期に活躍をしていたが、後にタカラに就職した。最近も『メタロボット』などタカラの玩具企画も担当、現在も活躍している。

したときが好きなんだよね。なんなんだろうねえ。やっぱり、顔がないの人間っぽいよね。どことなく。こいつが暑がっていたり、もしかしたら喘いでいる感じがあるじゃない。非常に人間っぽいと言うか、不器用な陸軍の兵士という感じがするものね。

45歳すぎただだの酔っぱらい親父で、家の者みんなに嫌われてさ。お父さんお風呂入ってよとか言われていてそんな感じがする。

井上…ATピカピカに磨いたら違いますもんね。やっぱり。

—井上さんはいかがですか？

井上…やっぱり……このツルツルの頭でしょう。でも全身好きですよ。どこかディテール直せと言われたって、直せないと言うくらい気持ちです。ね。

—じゃあ、もし新作を作るとしても

これはほそのままのデザインで？

井上…どうでしょうね。ただ、ブラッドサッカーは「格好いいな」と思いました。多分、スコープドックが近代戦に対応するところなるのかな、と。でも「格好良すぎるな」とも思えちゃったから。

高橋…自動車なんか、いろんな語り方があるんだけど、最後はスベックか味かって言う話になるんですよ。で、「ボトムズ」はきつと味の方の作品なんでしょね。デザインも含めて。

井上…だから車で言えばジープであってディアプロにはなれないんです。今の格好いいCADでできた四駆にするなれないんですよ、絶対に。大河原さんもよく言っているんですけど、装甲は錆びる鉄で、そういうところもジープなわけです。殴られたら装甲が歪んで捲れちゃったり、装甲の端

が塗料の下から錆始めたたり。

それとふと思うことがあるんですけど、キリコの使う小物にしる何にしるこだわって、きちんとやっていけば、より緻密に見えるものになったかもしれないですね。けど、それをやっちゃうとアストラギウスじゃなくて地球の延長上のメカになっちゃう。だから、自分としては納得できないものもあるんですけど、あのくらいのおおらかさがいい。だからこそ、そこにいろんな人が自分の想いを込められる。そんな感じですかね。

—なるほど。それでは本日はどうもありがとうございました。

## ●PROFILE

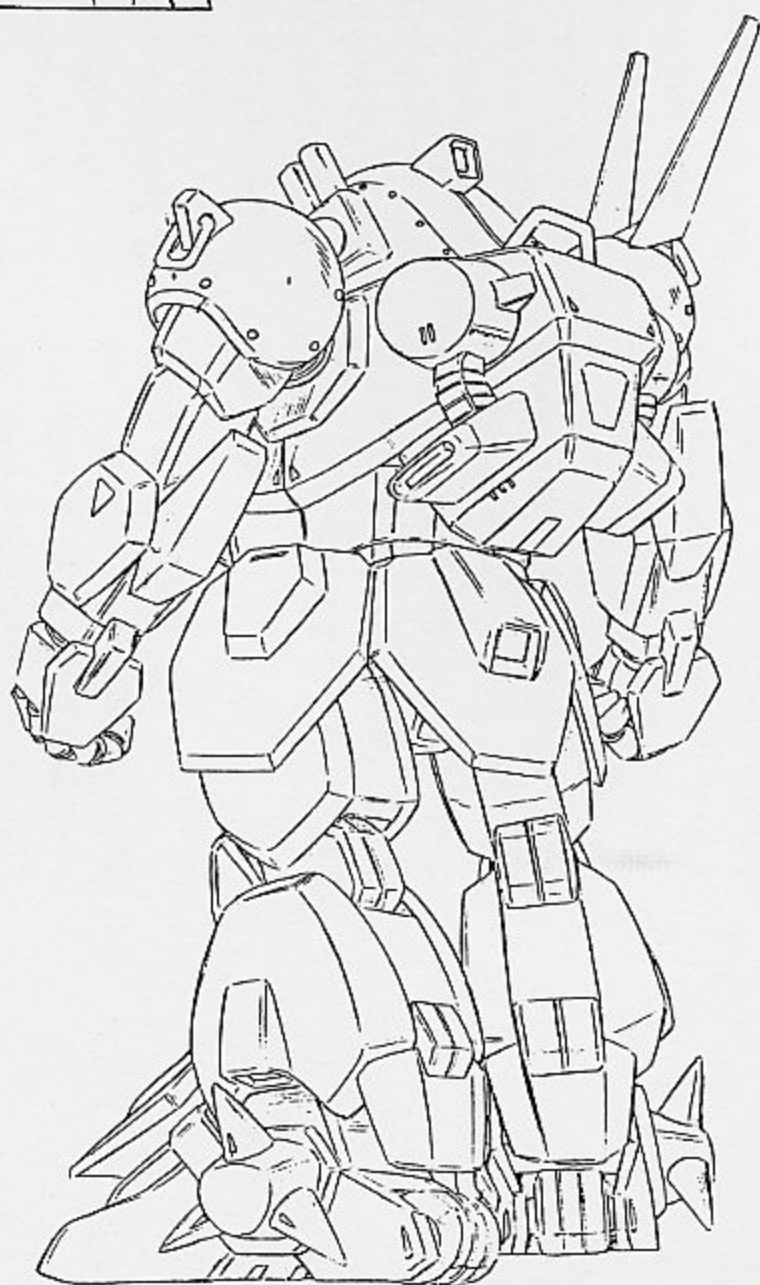
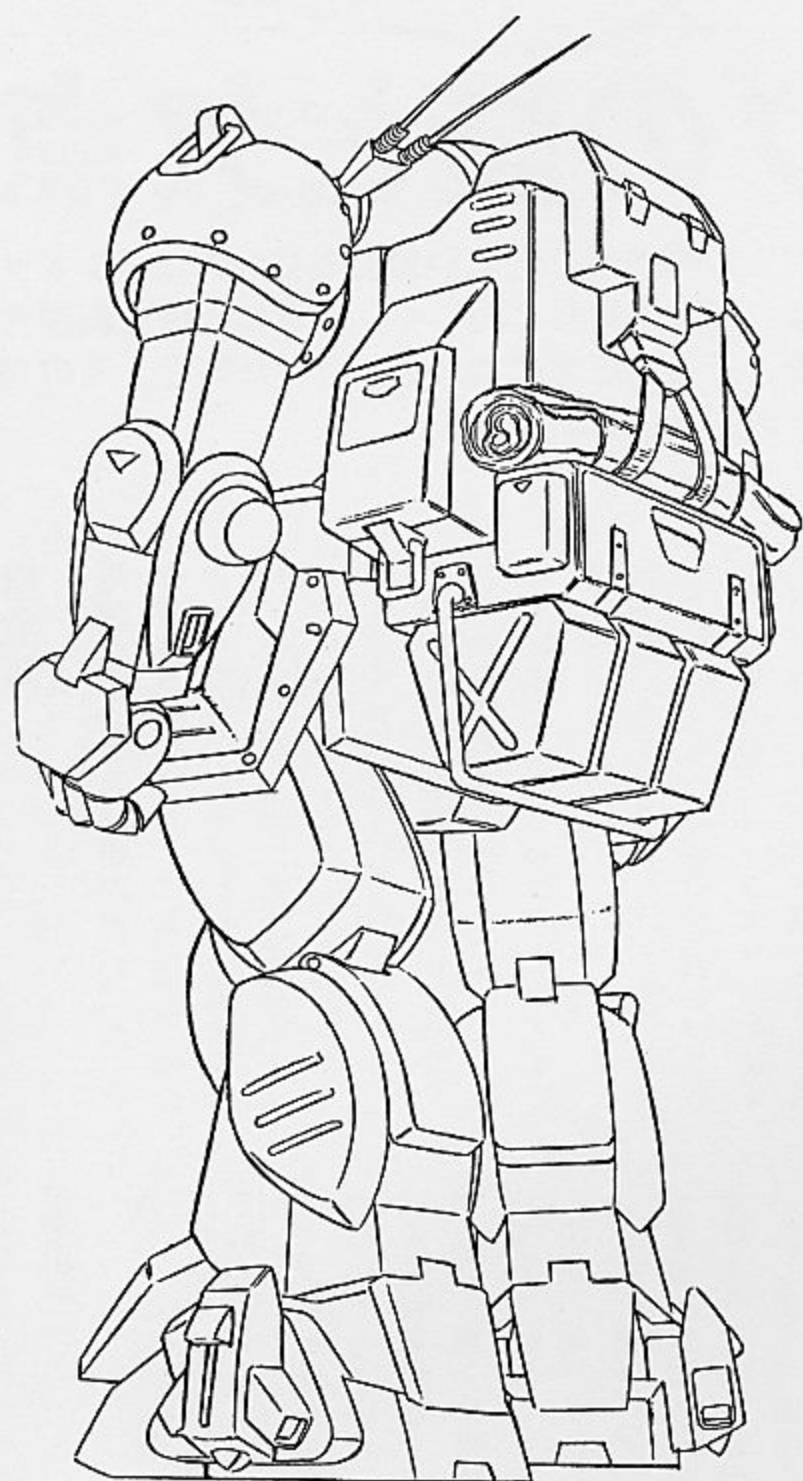
### 高橋良輔

1943年東京都生まれ。日本のテレビアニメ黎明期から活躍するクリエイター。監督作品としては「ゼロテスター」「サイボーグ009」「太陽の牙ダグラム」「機甲界ガリアン」「ガサラキ」など多数。また「勇者王ガオガイガー」のプロデューサーとしても知られる。

## ●PROFILE

### 井上幸一

1960年山形県生まれ。サンライズ企画開発室室長。「装甲騎兵ボトムズ」には「太陽の牙ダグラム」に引き続き設定制作として参加。また企画作品としては「魔神英雄伝ワタル」「鎧伝サムライトルーパー」「勇者エクスカイザー」「絶対無敵ライジンオー」などがある。また「G-S-A-VOUR」のプロデューサーとしても知られる。



# 検証・スコープドッグの謎と欠点

デザインから20年の時を経て、いまだ色あせない魅力を持つスコープドッグ。この機体の魅力の一つは、実在の兵器と同じく、非常に不便な側面を持った機体であるという点だ。そこで三方にコメントをいただき、その欠点や問題点を裏話もまじえつつ検証していこう。

## ■全体

高橋…何よりも装甲が薄い。もっと装甲が欲しいよね。これで戦争には行きたくない。それから気密性が無い。宇宙ではキリコの宇宙服もパンパンに膨らましてたし。格好よくない。後半は使っていないかな？

井上…テレビ版の最初の話ですね。宇宙用の設定も作っていて、締めているところ以外はふくらませてました。

大河原…まず、これだけの装甲じゃあこわい。もっと装甲が欲しい。あと、原寸大のスコープドッグを見て思ったのは、自分の意識としては足や腰、腹の部分の手すりに足をかけて簡単に上れると思っていたんだけど、4メートルっていうサイズは意外と大きくて、出入りしづらい。特に乗るのがかなり大変だなあ、と。キリコぐらいの運動神経があれば簡単に乗り降りできるんだろうけど、鈍っちゃったボクじゃあダメだ。それから、脱出もやりにくい。飛び降りる高さが結構あるし、出る方向も限定されるからね。

## ■頭部

井上…これは最初の何話かだけやってすぐやめちゃったんだけど、当初は広角レンズに移った所の右下に、レンズの影が写ってた。画面がうっとおしくなるから止めたんだけど。ほんの初期だけで、2話までだったかな？ 地上に来てからは何かで補正されているということにしてありますが、補正されなければそもそもできません。頭部についてはまだあつて、上下方向の追尾ができない。上を見上げようとすると口がパカーンとあいてしまう。頭部を回転させると角度がずれていってしまう。後ろ上を見ることになっちゃうんだよね。後頭部にセンサーはあるけど頭だけ回してずーっと追尾して見ていくことができないから、不便といえは不便。ただ、この口の開け方がいいですよ。みんなのター坊みたいで。

## ■脚部

井上…階段を上ろうとして脚を上げて膝が大して高く上がらない。太

ももの長さとのバランスの問題で。本当に上がらない。それから降着ポーズ。これは後付けでやったものですが、背中のパックを付けた時に、降着ポーズが取れない。絵ではウドの最後、設定ではマーシイドッグの時に上手く処理してもらったんだけど、結局ノーマルタイプの降着ポーズの設定って、ザックを付けた状態のものは存在しないはずですよ。

## ■余談

井上…アームパンチのマガジン交換は作中でもやっていますが、入れるところは見せていなかったかもしれない。考えていないが、多分手動。角度まで合うかは検証はされていません。1/12では出来そうですけど。それからOSですが、CP/M86のプログラムの文字の字画面をそのままプリントアウトして使いました。機種の違いについては、本編ではスコープドッグでしか描写していませんから謎です。あと足元のハッチは水虫の薬を塗るためのもの。嘘です。大河原さんが当時、ベタル関係のメンテがしにくいでしょうと言っていました。

WOTWOT

AT完全設定資料集

AT PERFECT ESTABLISHMENT DATA



# Equipment

個人裝備編

# AT SUIT GILGAMESH STANDARD TYPE

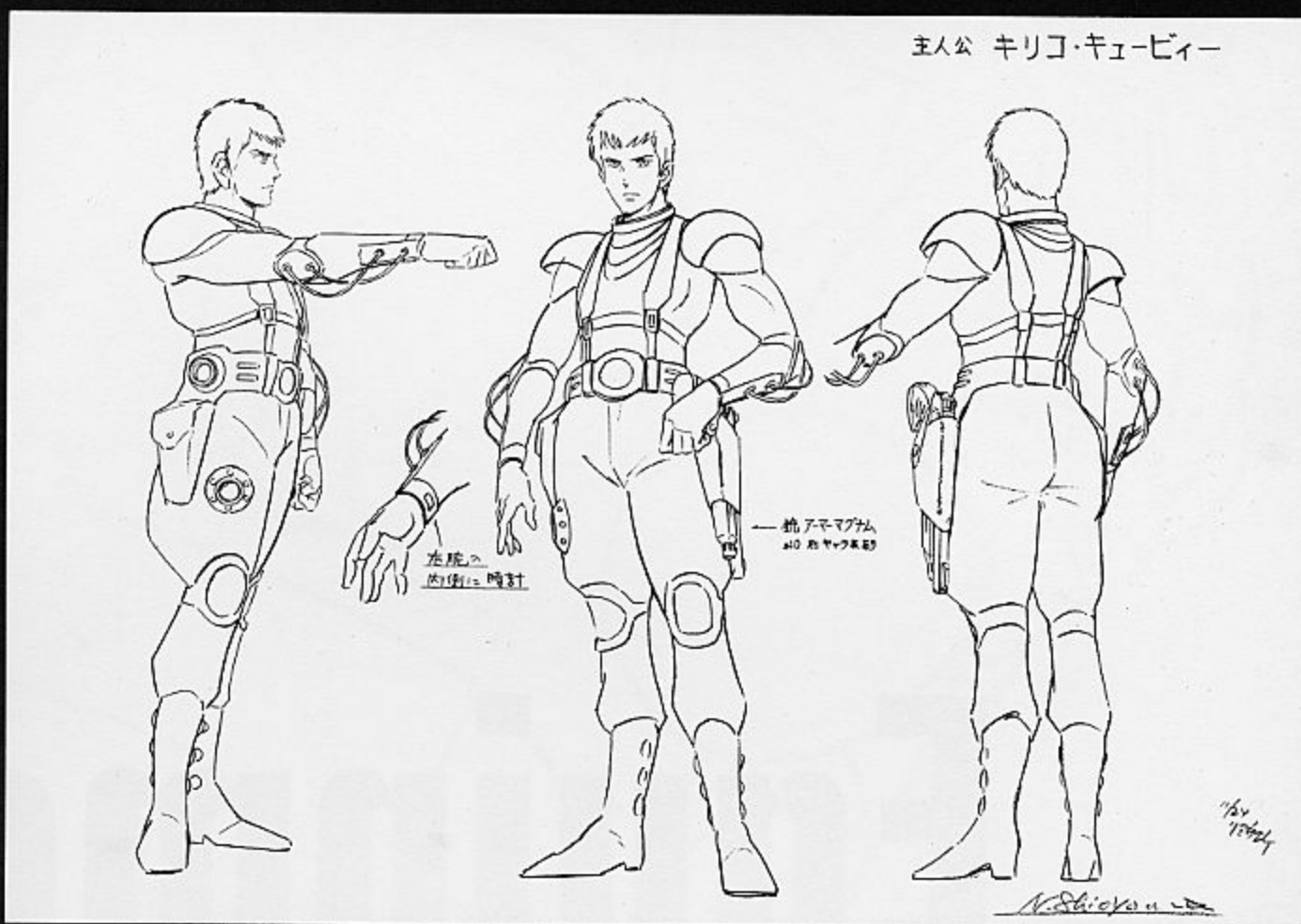
## FILE 43 ギルガメス軍 標準AT用スーツ

### AT SUIT GILGAMESH STANDARD TYPE

ATという兵器の特徴の一つは、ATは本体のみで完結したウェポンシステムではないという事実だ。それは火力や機動性をオプションに頼り、情報系のインターフェイス部分と生命維持装置をAT用スーツに頼っているという構造であり、例外はあるもののATはパイロットがAT用スーツを装着しないだけで戦闘能力が大きく低下してしまう。しかしこの割り切ったシステムを選択したからこそ、ATは主力兵器たり得たのである。

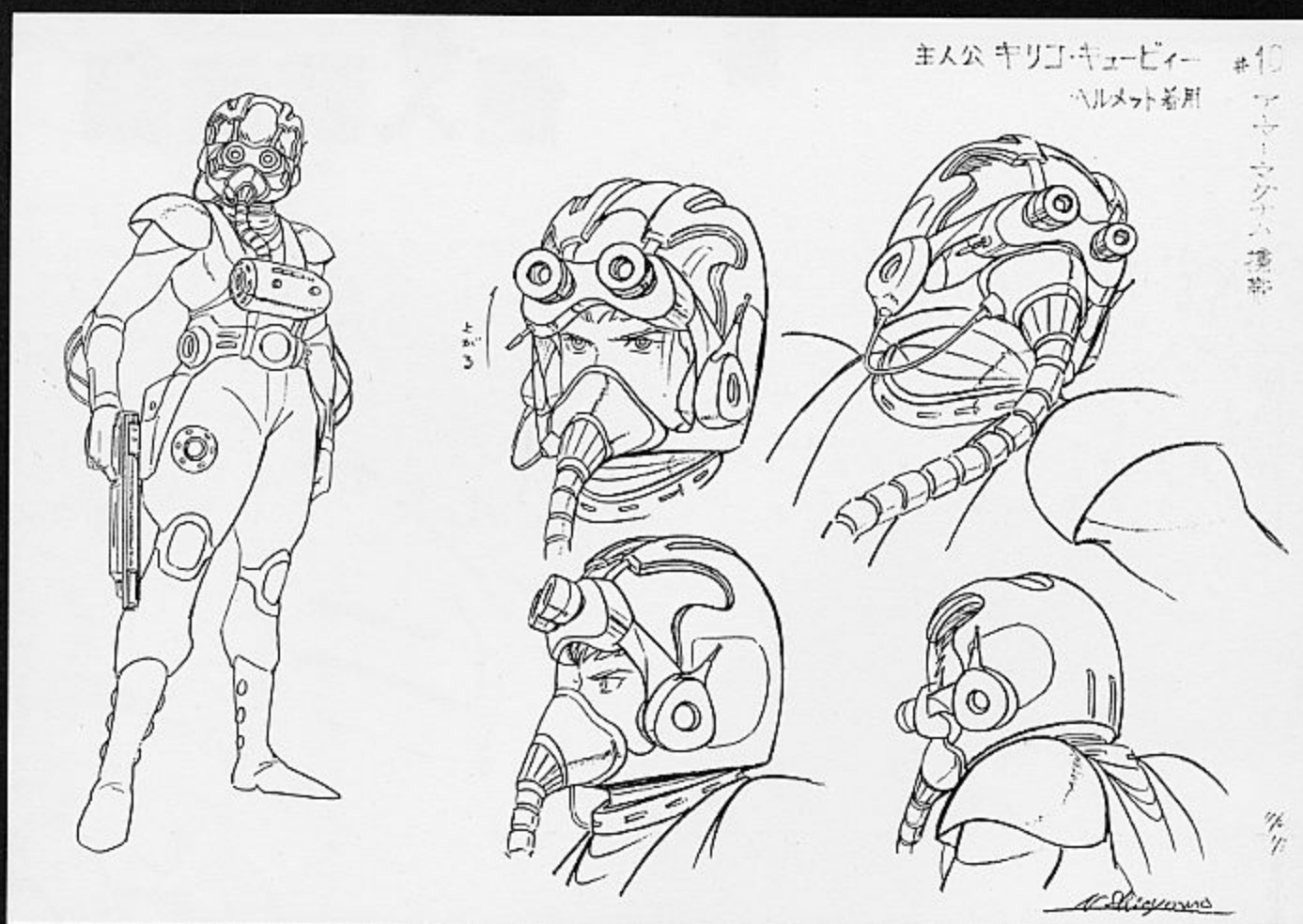
#### ⊕ 標準待機状態

生命維持系統などを外した、ごく標準的な状態。この状態のまま通常の勤務やAT関連以外の訓練を行うことも多い。なおアーマーマグナムは愛用者は多いが標準装備ではなく、他の拳銃を装備する例も少なくなかった。



#### ⊕ 完全装備状態

生命維持装置と情報系をまとめたマスクを装備した状態。この状態で始めてATを操縦できるようになる。AT本体には生命維持装置はなく宇宙戦ではこのスーツが命の綱となるため、信頼性はかなりの高レベルとなっている。



#### ⊕ コックピット内部状態

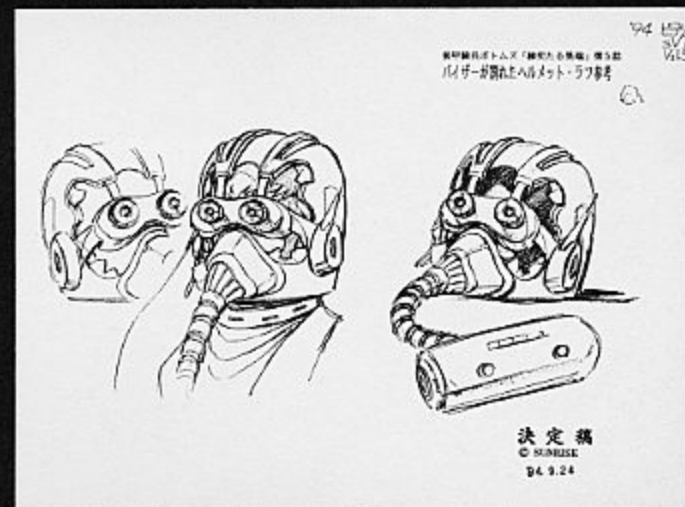
コックピットでは、服がレバーなどに引っかからないよう配慮されている。AT用スーツは元々歩兵用のファティグから発展したもので、必要とされる要素技術はすべて高い水準に到達しており、この種の配慮も可能だった。



## ⊕ AT用標準ヘルメット



情報系のインターフェイス部分としての網膜投影装置と生命維持装置が組み込まれているヘルメット。酸素ボンベは標準規格のものを使用し、コネクターにホース先端を押し込むだけで動作するようになっている。



## ⊕ 地上戦用簡易バイザー



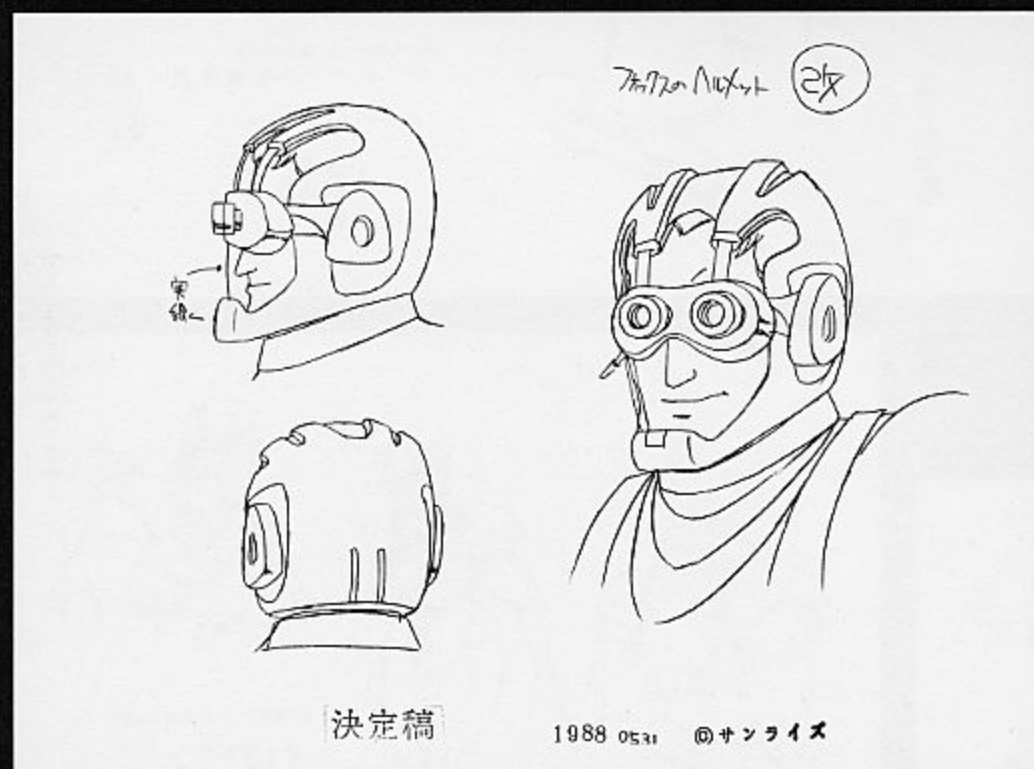
生命維持装置を必要としない地上では、AT用スーツを着用せずにバイザーだけを使用する場合もある。特に熱帯地方ではAT用スーツを着用する方が少数派で、制服や好き勝手な格好にバイザーというのが一般的である。

## ⊕ クエント人専用バイザー



これはクエント人用のバイザー。機能的には通常のバイザーと同じだが、個人に合わせたオーダーメイドであるため装着感や使い勝手に勝る。なおベルゼルガシリーズの本体と同様に、これも職人による手作りである。

## ⊕ ヘルメット カスタムモデル

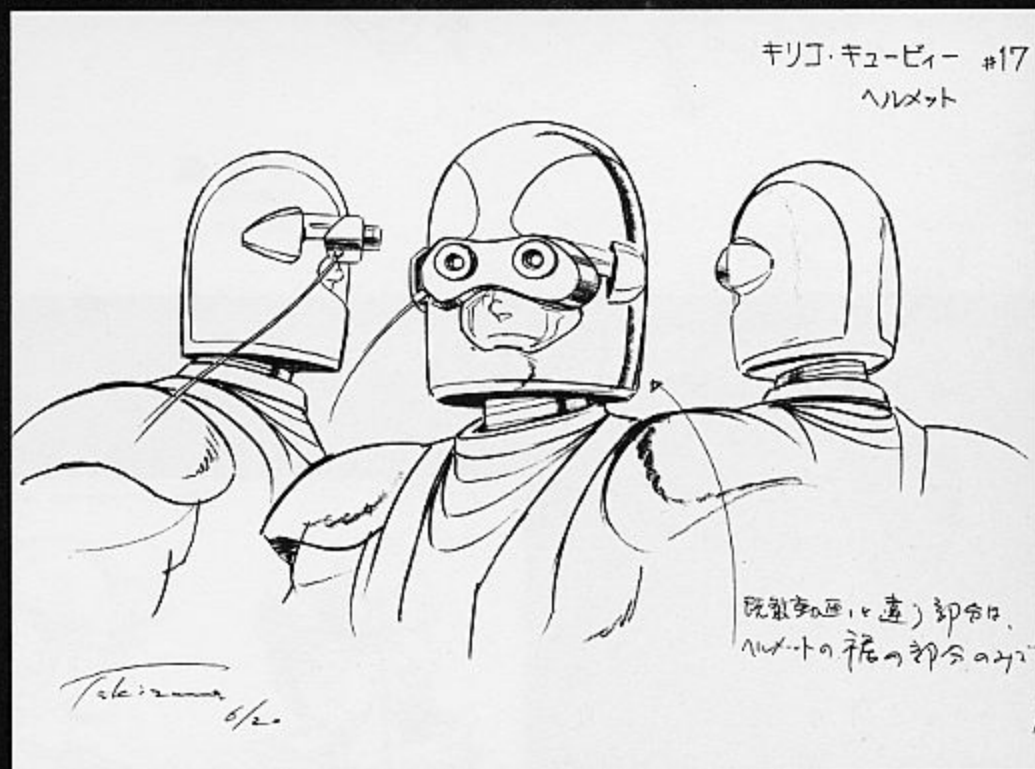


決定稿

1988 0531 ©サンライズ

バッテリー用に改造されたモデル。自己顕示欲が強いスター選手が自分の顔を良く見せられるように製作した。ゴーグルを使用しない状態ならば多少視界が広がるという利点もあるが、それはあくまでもオマケである。

## ⊕ ヘルメット バリエーションモデル



これはビーラーゲリラからタートルを奪った際、同時に入手したもの。同じギルガメス製で互換性はあるのだが、ゴーグルを外した状態では視界が制限されてしまう。なおゴーグルの保持方法も標準型とは異なっている。

# Other AT SUIT

FILE 44

# 各種AT用スーツ

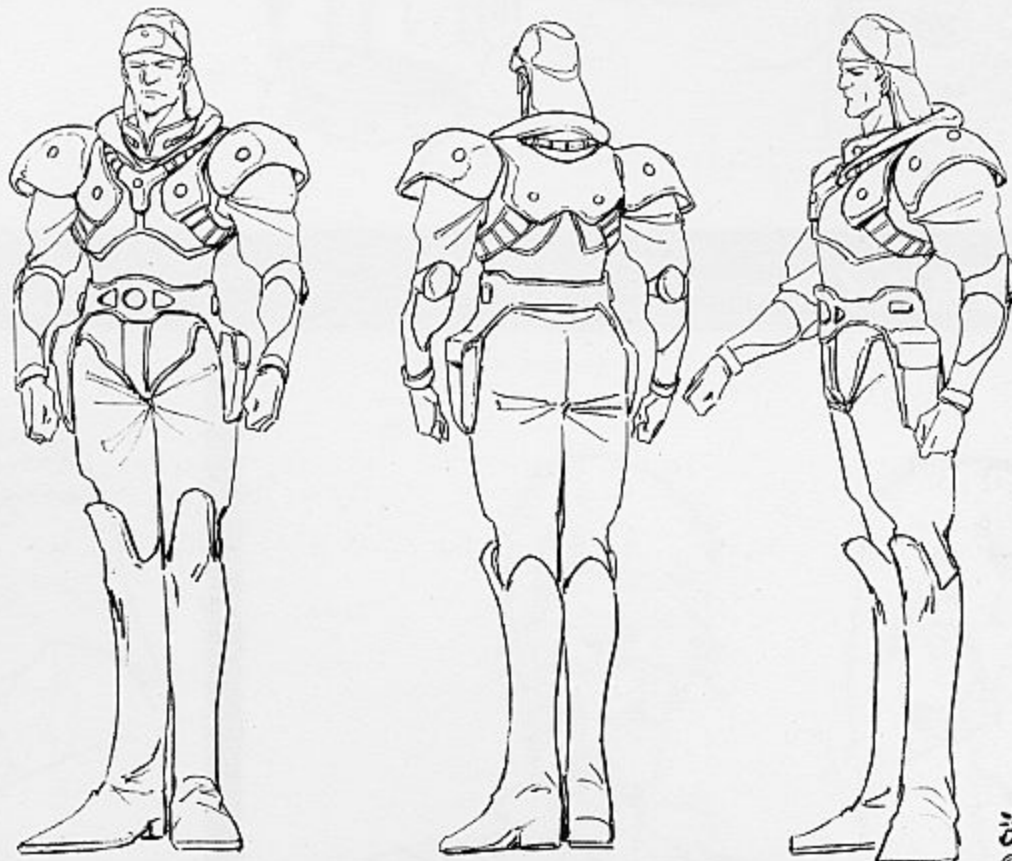
OTHER AT SUIT  
FTOE>>■■■■  
■■■■

ギルガメスの標準型ATスーツ以外にも、幾つものATスーツが存在している。それらは元祖であるギルガメスの標準型ATスーツの影響を受けつつも、自らの技術と思想、目的に合わせてスーツを最適化していった。AT用スーツが規格品であり、一部を除いて単一ATの専用ではないため、バリエーションそのものはATの数ほどには多くない。が、個々のスーツの個性は、ある意味ではそれを作り出した団体の個性を如実に現してもいるのだ。

## ⊕ マーティアル警備隊員用 ATスーツ

※司令部ではこの帽子をかぶっていますが、かぶっていない者もいます。

装甲騎兵ボトムズ「蘇突たる異端」  
マーティアル警備隊員・1



94 ヒロイ SVT Vol.4

決定稿  
© SUNRISE

エルドスピーネのパイロット用装備。聖地での防衛任務しか想定していないため生命維持システムは搭載されていない。またゴーグルのコードがカールしている等、戦闘以外の事も考えられていないようだ。

装甲騎兵ボトムズ「蘇突たる異端」  
マーティアル警備隊員・3

※ATパイロットコスチューム 参考ラフ

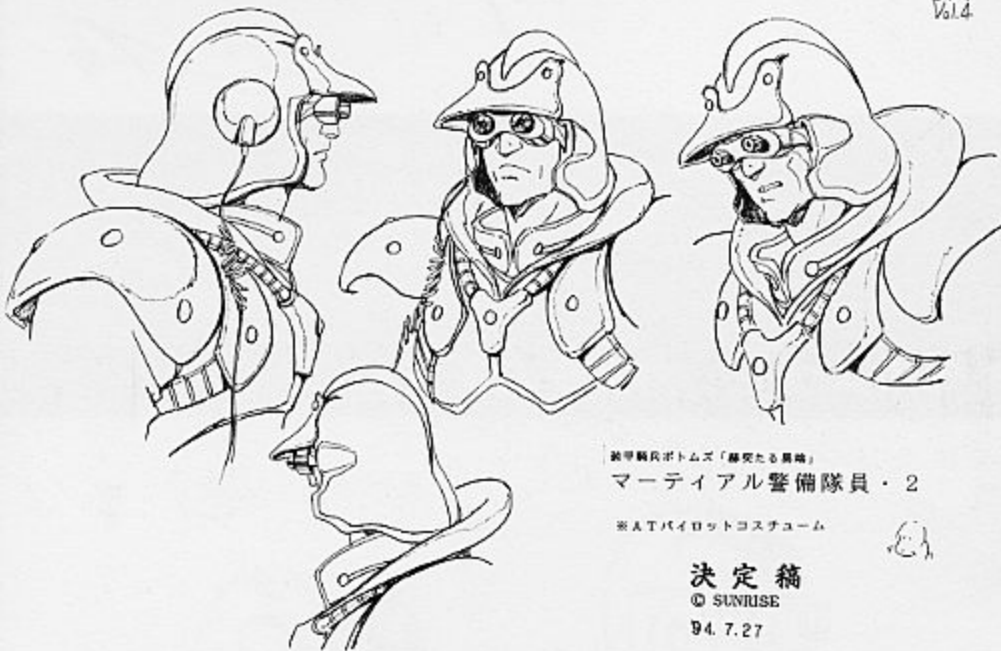


決定稿  
© SUNRISE  
94.7.27

94 ヒロイ SVT Vol.4

装甲騎兵ボトムズ「蘇突たる異端」  
マーティアル警備隊員・2

※ATパイロットコスチューム



決定稿  
© SUNRISE  
94.7.27

## ⊕ マーティアル指揮官用ATスーツ

こちらは指揮官用、あるいはネクスタント用というべきスーツ。もっとも高級な優れたパーツを使用している以外、機能的には一般隊員用と大差なく、AT側にも特殊な機器は装備されていない。

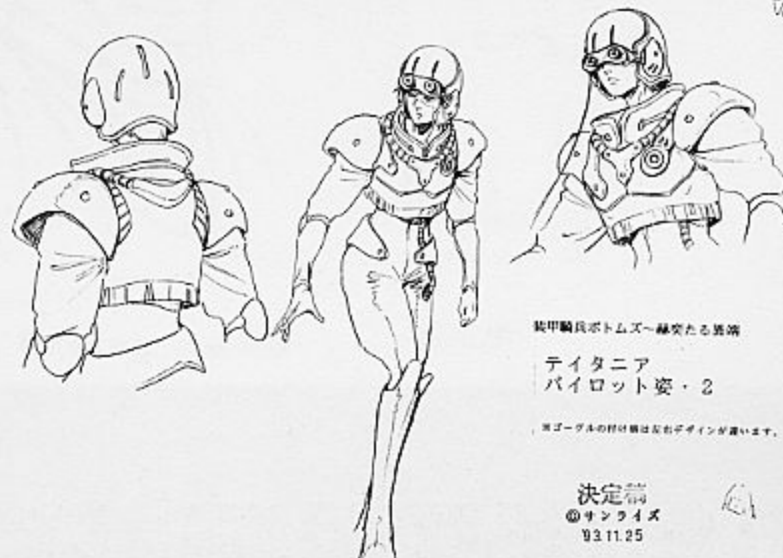
装甲騎兵ボトムズ「蘇突たる異端」  
ティタニア  
パイロット姿・1



決定稿  
© サンライズ  
93.11.25

装甲騎兵ボトムズ「蘇突たる異端」  
ティタニア  
パイロット姿・2

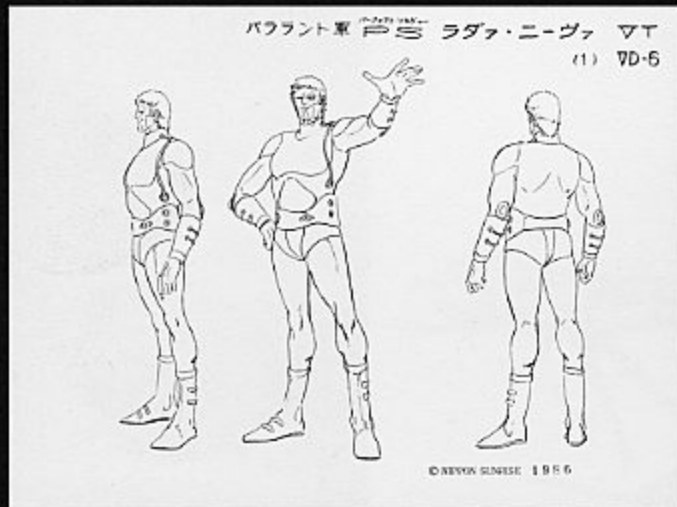
※ゴーグルの付け方は別紙デザインが詳しい。



決定稿  
© サンライズ  
93.11.25

## ⊕ バラント軍PS・AT用装備

こちらはバラント型PSのAT用装備。人体とATとは直結してコントロールするため、パイロット側には特に追加装備は必要ない。しかしAT側に専用のインターフェイスが必要で、試作段階で未知の問題もあると考えられる。

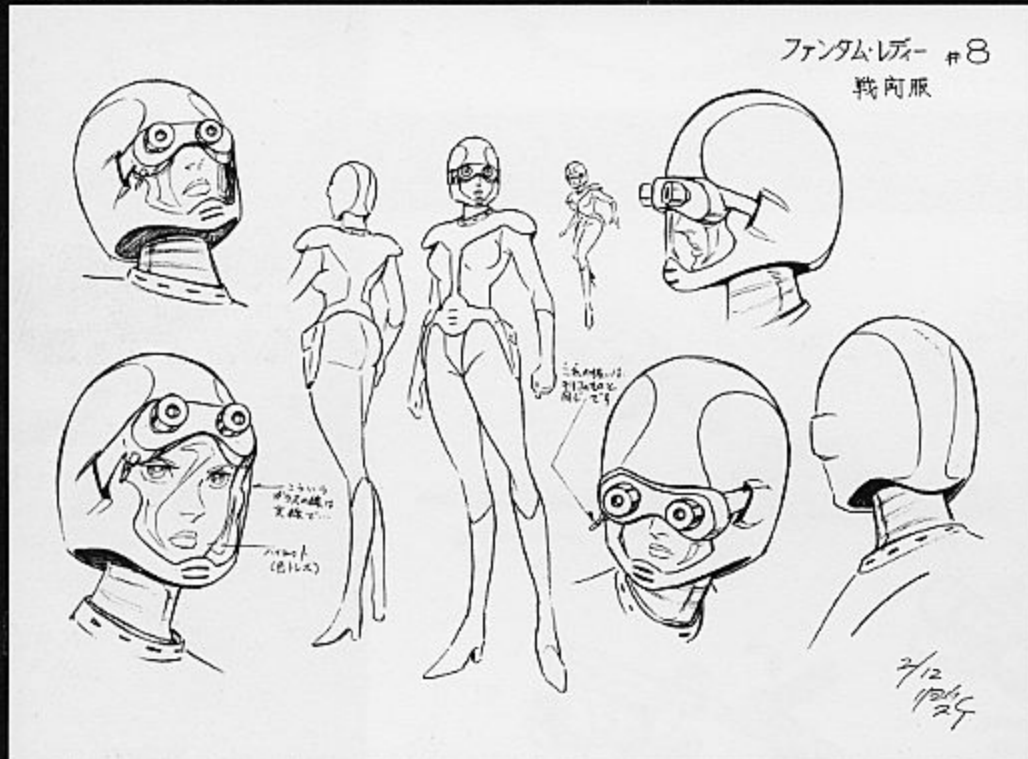


## ⊕ バラント軍標準ATスーツ

バラント軍の標準ATスーツは、機能的にはギルガメスのものと大差ない。ただ生命維持装置がヘルメットに集約されており、コンパクトだが予備のボンベとの交換が困難という問題点も抱えている。

個人装備編

## ⊕ 秘密結社 PS用ATスーツ (2)



女性PS用のATスーツ。こちらの方が初期型でもあるが、機能的には充分である。

## ⊕ 秘密結社 PS用ATスーツ (1)

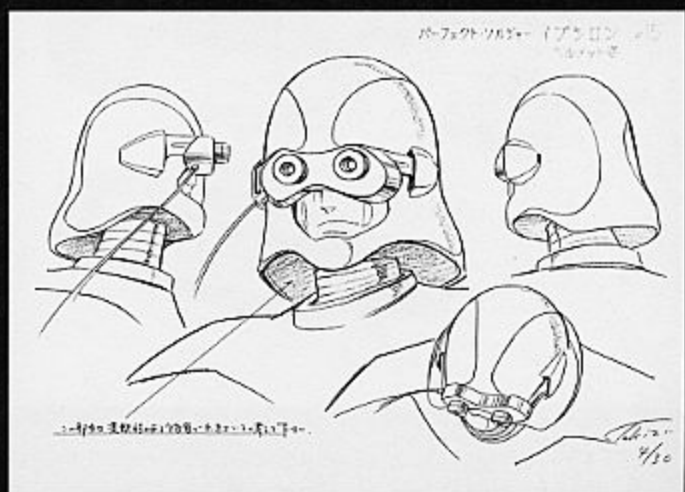
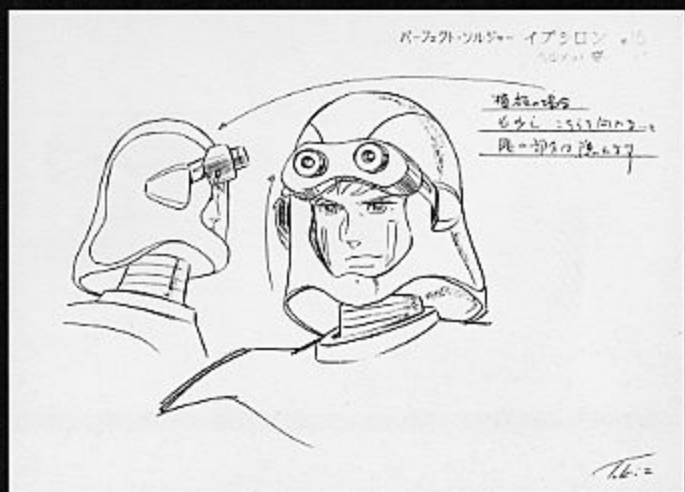


男性PS用のATスーツ。生命維持機能をヘルメットに集約したという点では、バラント側に近い設計思想を持っている。一方で技術的な洗練により、非常にスマートに仕上がっている。

## ⊕ 秘密結社 一般隊員用ATスーツ



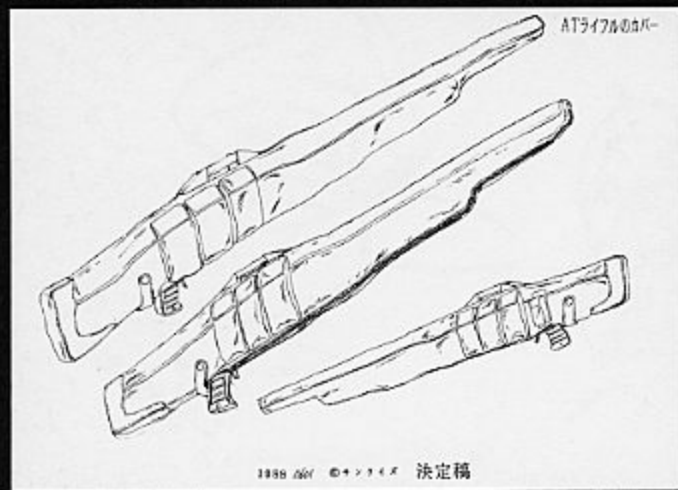
常人が使用するものとしては極端に小型だが、バラント型同様の欠点もある。



## ANTI AT ARMS FTCE >> 雷

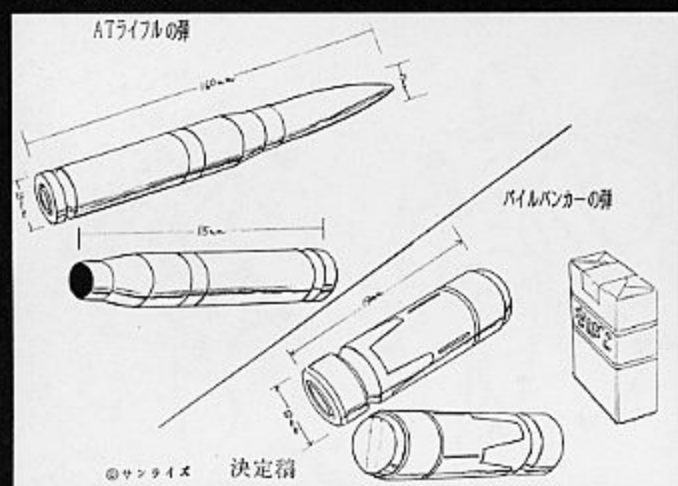
ATは強力な兵器だが、同時に脆弱な兵器でもある。戦闘方法によっては、最低限の装備を持った歩兵に撃破されることも少なくない。しかしそれが非常に危険な行為であることは対AT戦闘を行う「機甲猟兵」という兵科が、懲罰部隊の代名詞となっている事実にも現れている。ここでは機甲猟兵用のものも含め個人で携行可能な対ATの兵器をまとめてみた。正気を疑うような代物も混じっているが、全て実戦で使用されたものである。

### ⊕ ライフルカバー



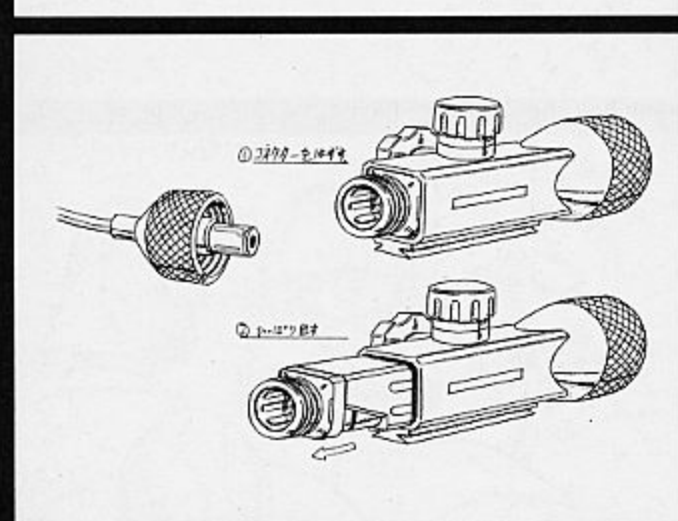
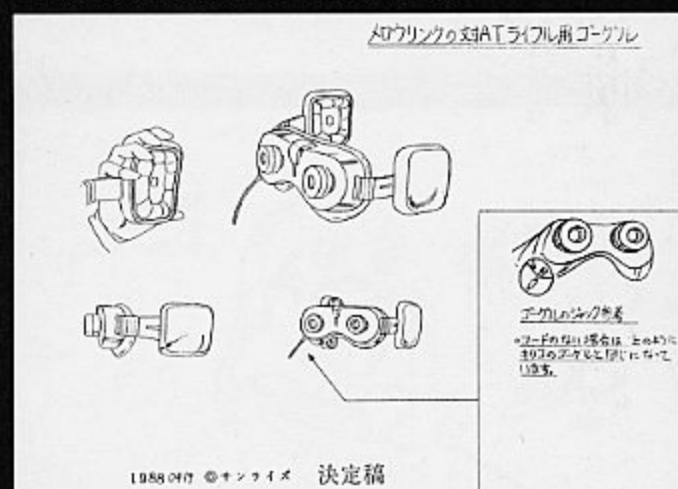
HR-SATは銃身基部から二つに分解して運搬することも可能だが、これは分解せずに運搬するためのもの。布製。

### ⊕ 弾薬



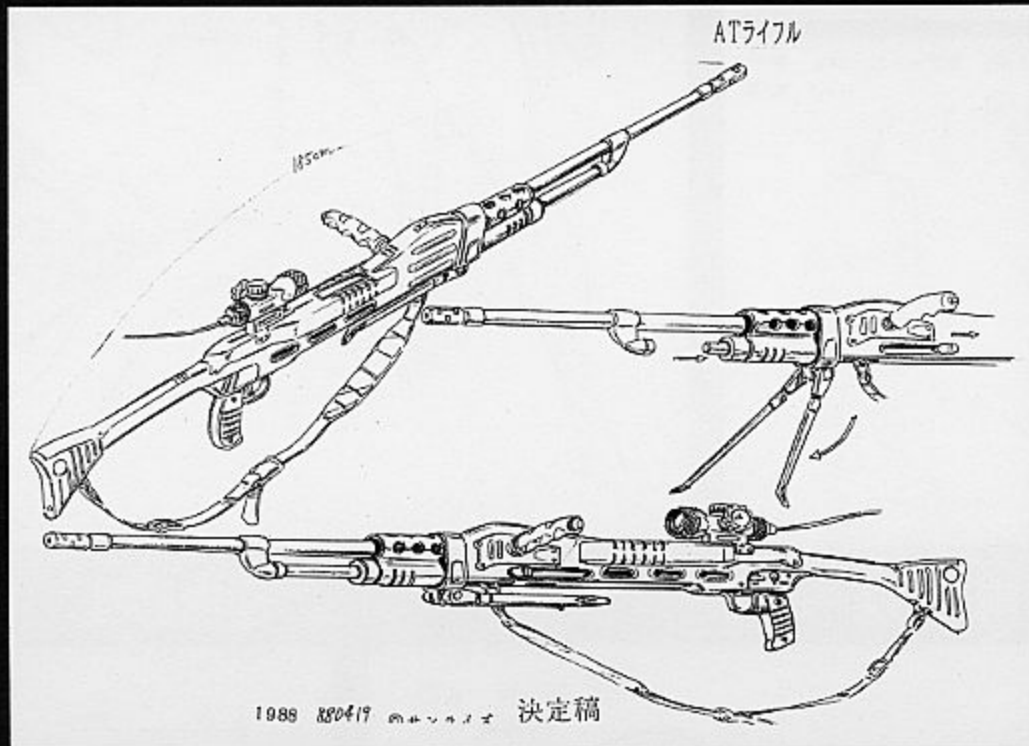
HR-SAT本体は17mm×115弾、パイルバンカーはATのアームバンチ用弾薬と同じ50mmの空砲を使用する。

### ⊕ 汎用照準システム



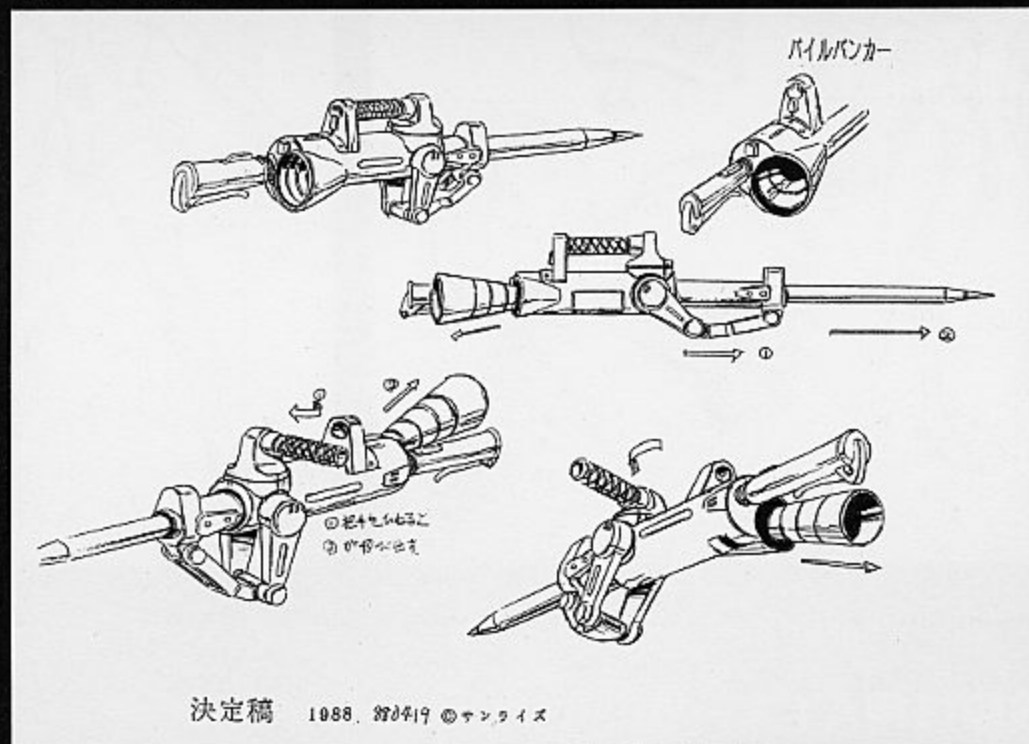
AT用のものと同規格のゴーグルと、電子照準機とを組み合わせたもの。幾つかの大型火器でも使用されている。

### ⊕ HR-SAT対ATライフル



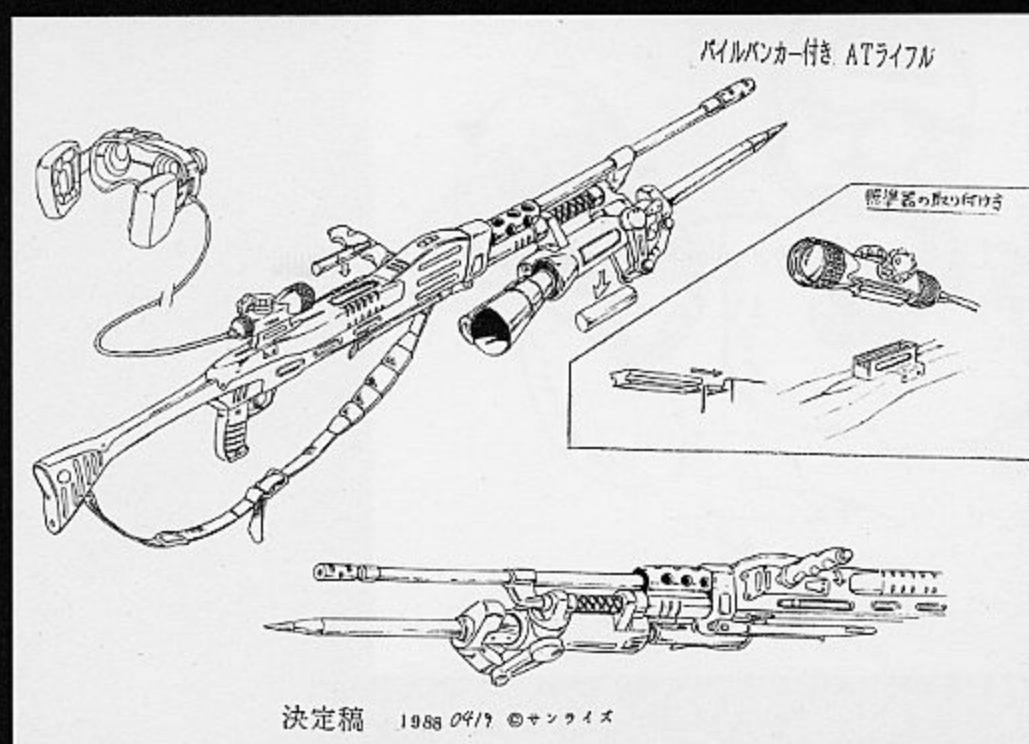
時代遅れの対AT兵器。至近距離ならばATを撃破する威力があるが、それは自殺行為の同義語でもある。また固定マガジンを使用しており、弾薬はバラ弾のまま1発ずつ装填しなければならないという重大な欠陥も存在する。

### ⊕ パイルバンカー



HR-SATに装着して銃剣的に使うものだが、単体でも使用可能。射出の反動は燃焼ガスを吹き出し相殺する。

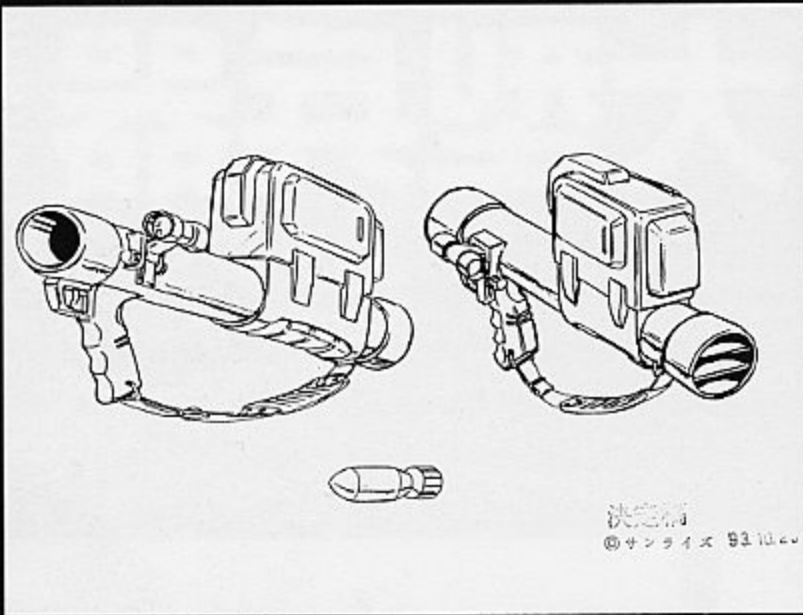
### ⊕ パイルバンカー付HR-SAT対ATライフル



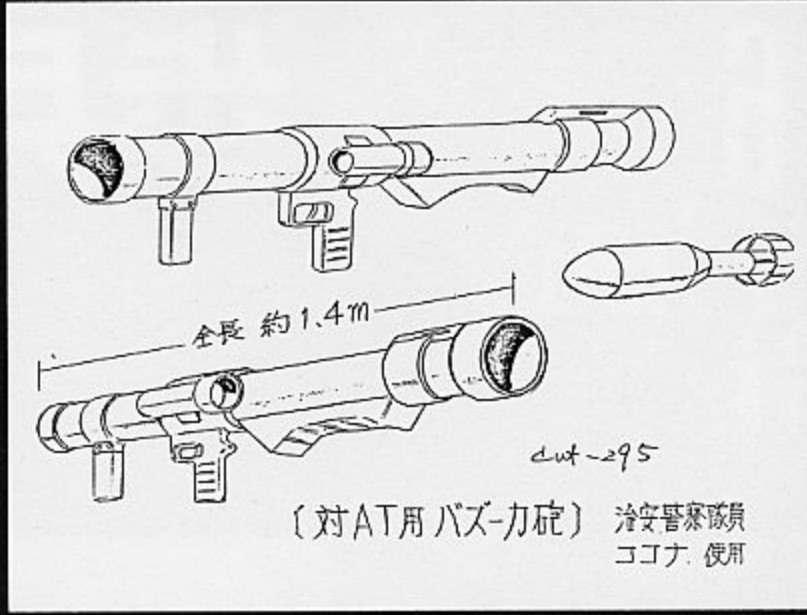
パイルバンカーを着剣した状態。この状態があるため、パイルバンカー・カスタムという俗称も存在する。

⊕ 対AT砲

GCS-79 ギルガメス軍制式ロケットランチャー RCL-84 メルキア軍制式ロケットランチャー

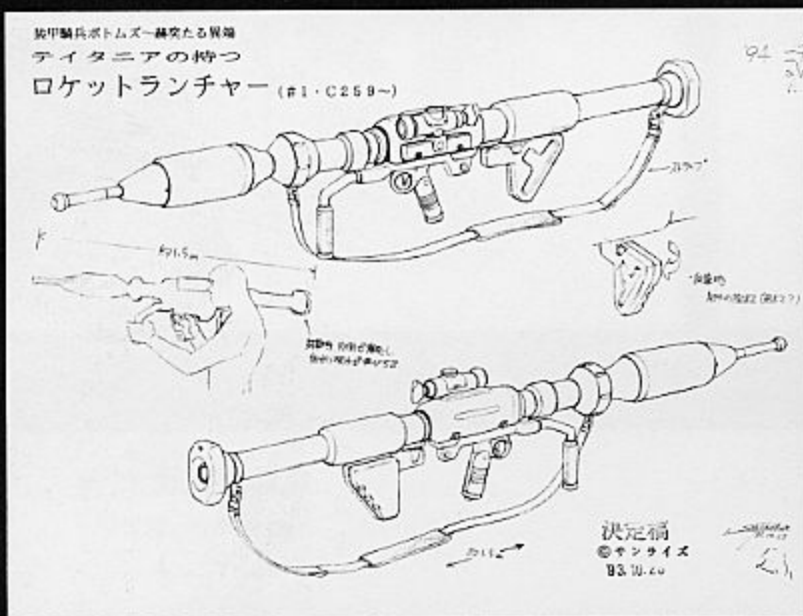


小型にまとめられた対AT兵器。薬室上部に大型マガジンを持ち、連射可能となっている。ただ小型にした分無理が出ているのか結構な反動がある。



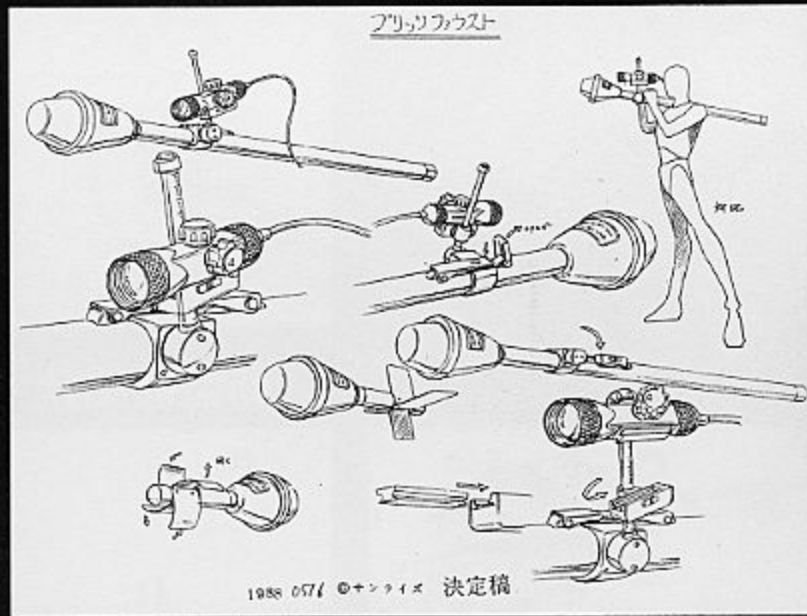
メルキアでは非常にポピュラーな対AT兵器。上手く使えば一撃でATを撃破出来るが、弾速が遅く、機動性の高いATに対抗することはかなり難しい。

ロケットランチャー



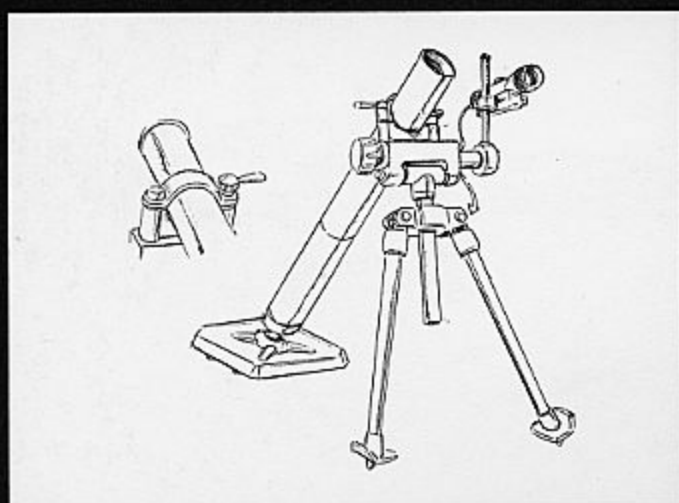
発射時にカウンターマスを飛ばすタイプで、後方への噴流が少ないため、入り組んだ場所での使用するには有利。ただし弾薬が重くなる欠点もある。

HR-61ブリッツファウスト



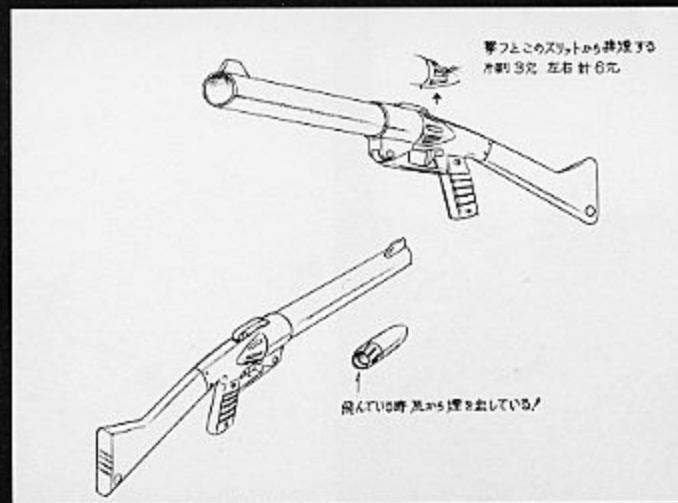
バナグア社製の使い捨てロケットランチャー。非常に安価で使用したら本体は使い捨てだが、照準システムだけは回収して使いまわす。

⊕ 迫撃砲



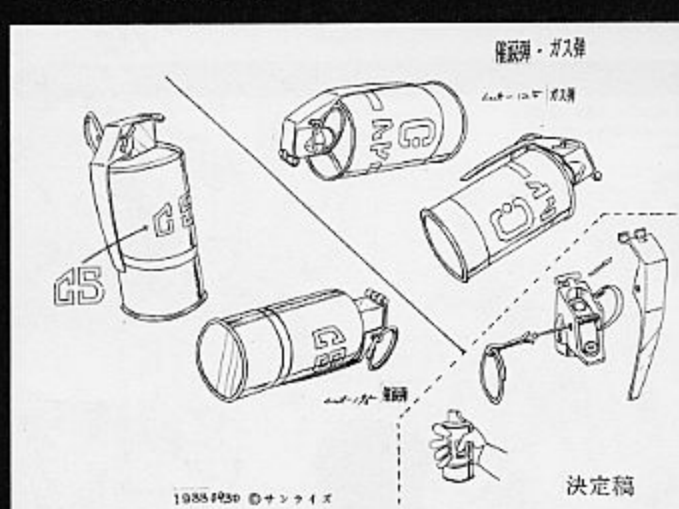
標準型の照準機を使用する以外、古典的な迫撃砲そのものである。ただし台板が角型であるため、大きな照準変更には多少手間取る。

⊕ ロケット銃

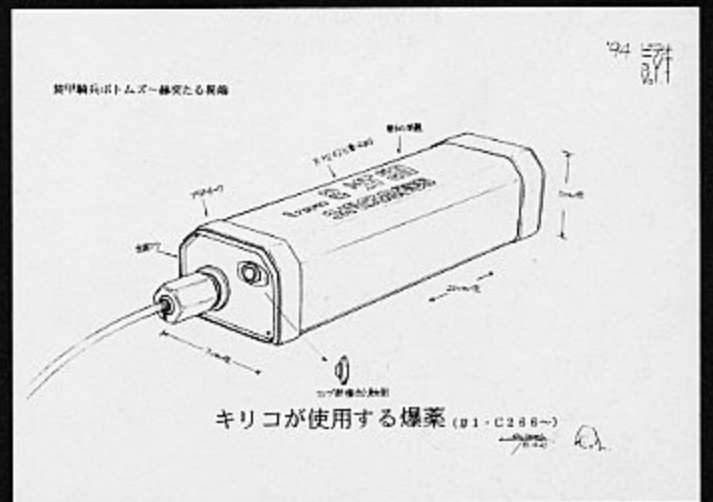
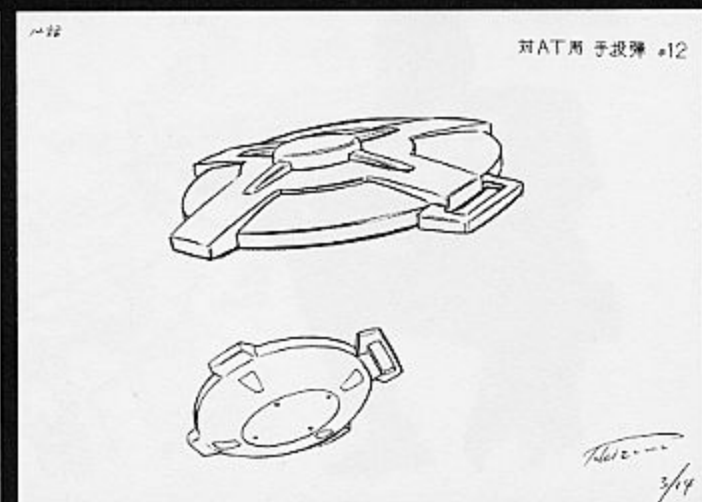
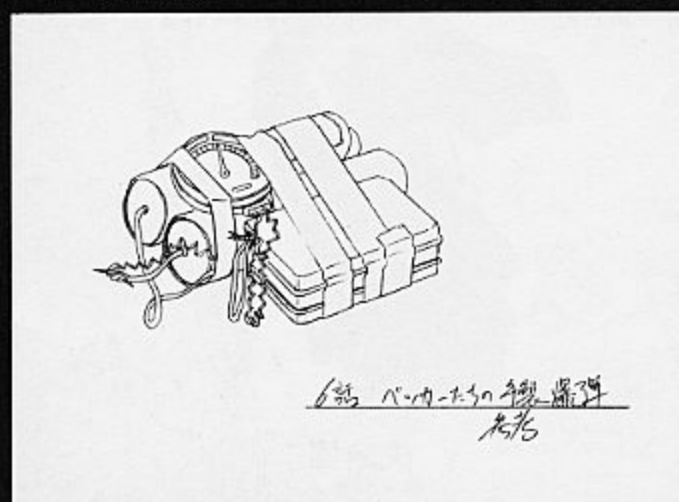


中折れ式のロケット弾発射装置。非常にマイナーな兵器だが、その軽さと手頃な威力から、一部の犯罪者は愛用していると伝えられる。

⊕ 爆弾各種



使いどころが難しいとはいえ、爆弾の類も有効な対AT兵器と言える。信号弾や催涙弾、PR液を使った火炎瓶がAT撃破に利用された例も少数だが存在する。



# SMALL ARMS

FILE 46

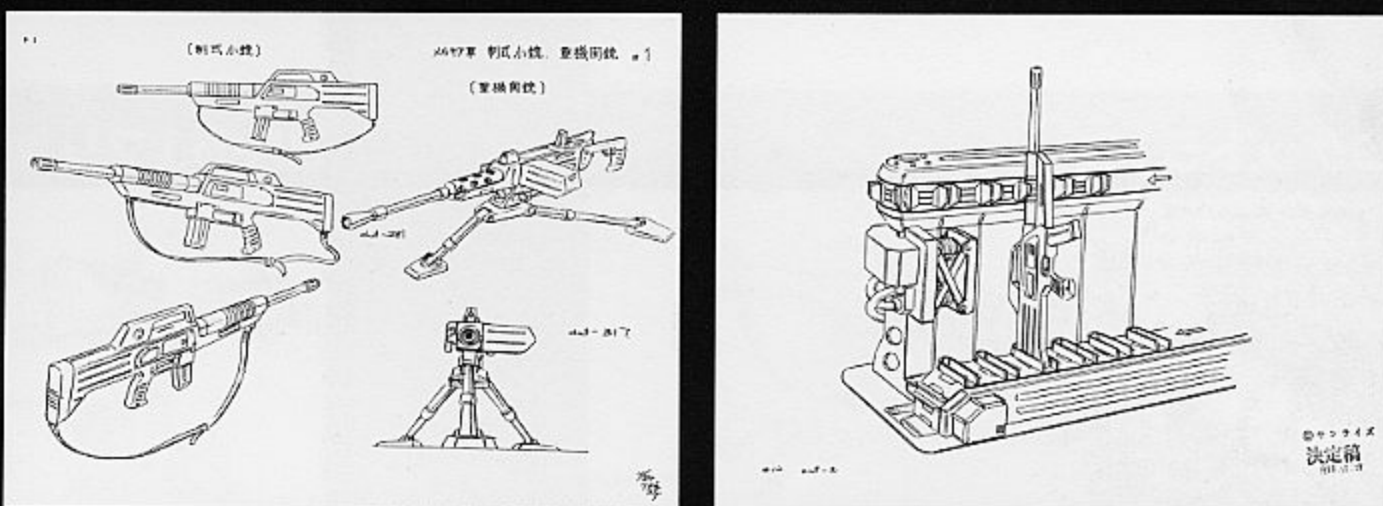
# 歩兵用大型兵器

SMALL ARMS  
FTCE >> i

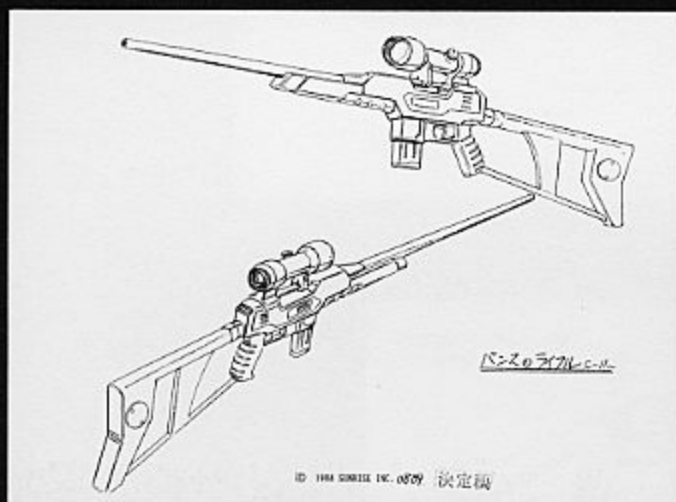
小銃や機関銃などの小火器は、どんなに技術が進んだとしても絶対に必要な兵器である。生身の人対人という状況下においてこれほど汎用性に富んだ兵器はないからだし、占領後の治安維持には大量の歩兵が必須だからだ。ここでは、主に歩兵用の銃火器から対人戦闘用のメインウェポンたりうるものを紹介し、さらに比較用として民間用や工業用の兵器の中からもいくつか特筆しておいた方がよい銃火器を選択して紹介していこう。

## ギルガメス軍制式小銃&重機関銃

大量生産されていてさまざまな個人・団体が使用している銃火器。どちらかといえば旧式だが、普及率は圧倒的である。また制式小銃には基地レベルでのサポートシステムとして、専用の供給システムも存在している。

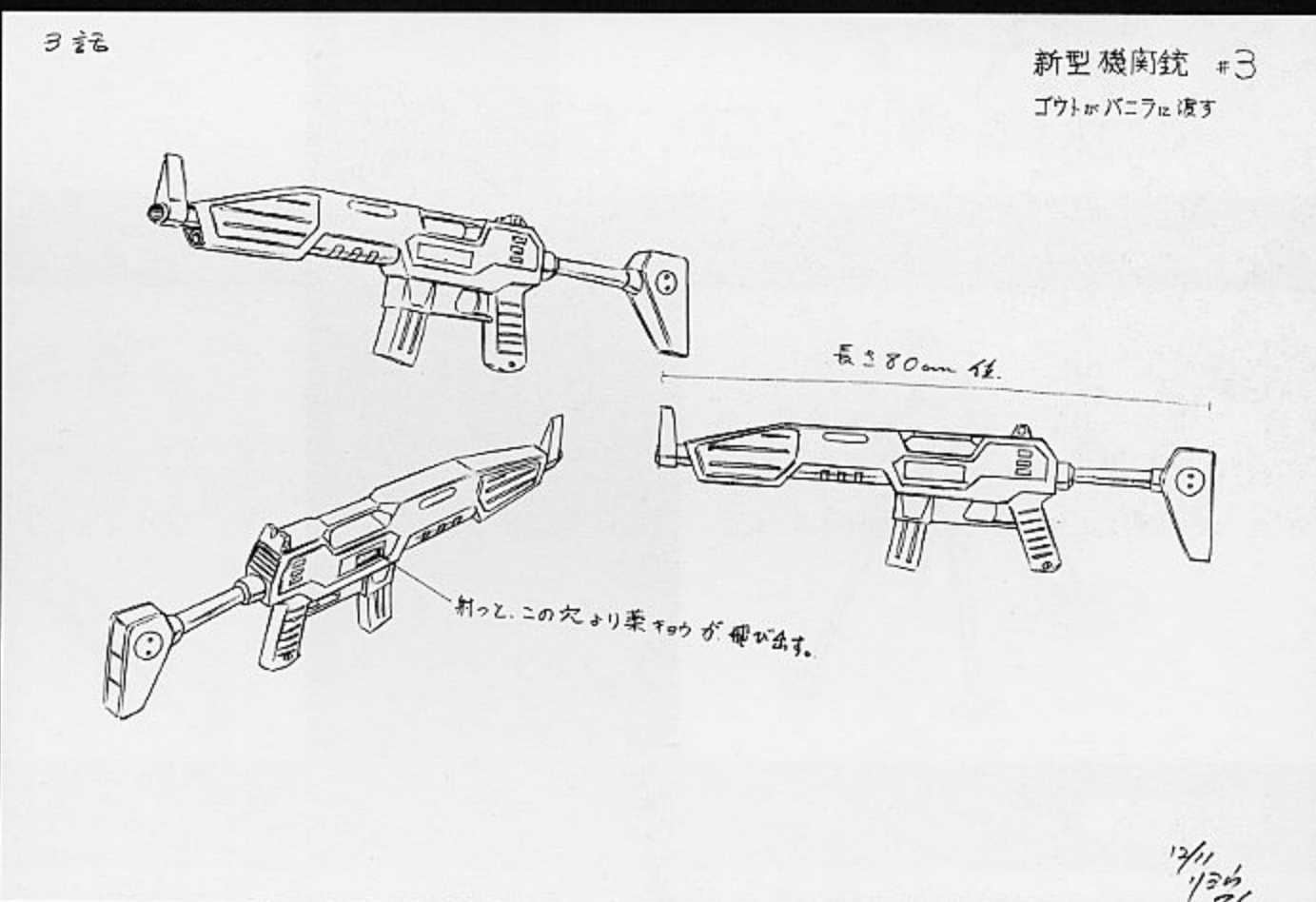


## 狙撃銃



自動式の狙撃銃。他の用途で開発されたライフルを改造したものと思われるが、使用例も少なく詳細は不明。

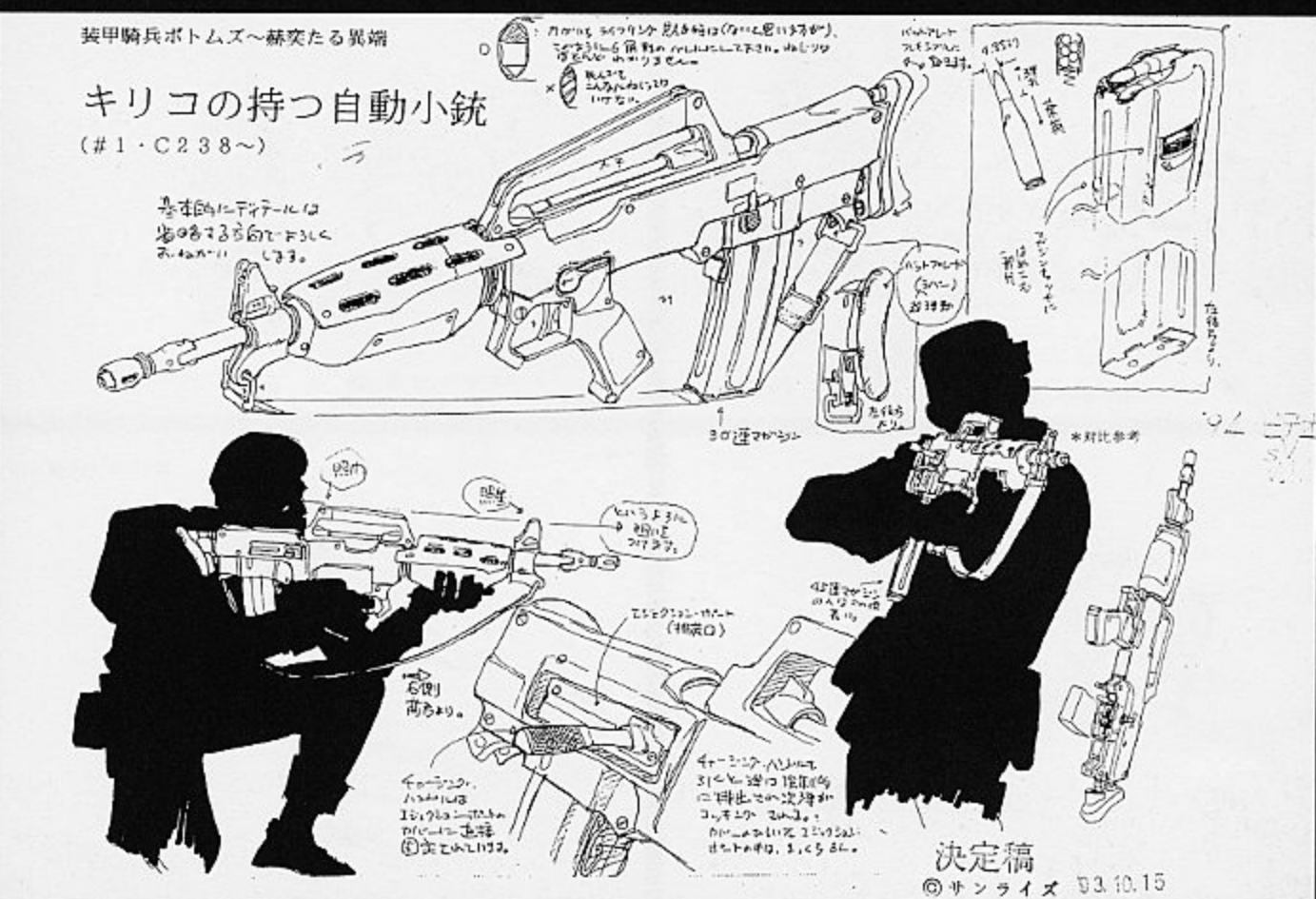
## 新型機関銃



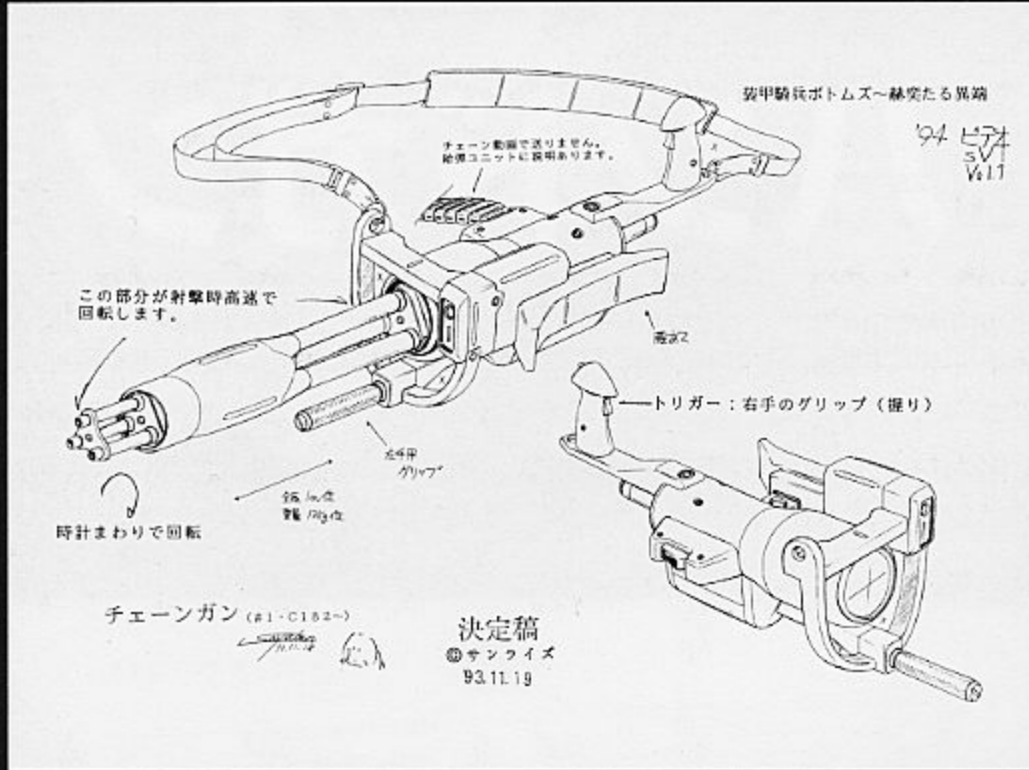
メルキア製の新型機関銃。とは言え実態は自動小銃で、特殊部隊や傭兵などから採用を始めていたようだ。

## 自動小銃

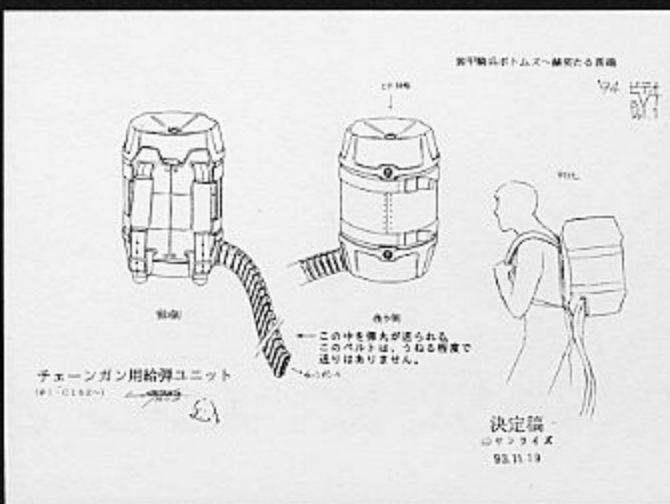
マナウラ軍などが使用している自動小銃。世代的には新型機関銃よりもさらに新しい部類に入り、多少は高価だが性能を重視した設計になっているようだ。また、技術的にも多少進歩している。



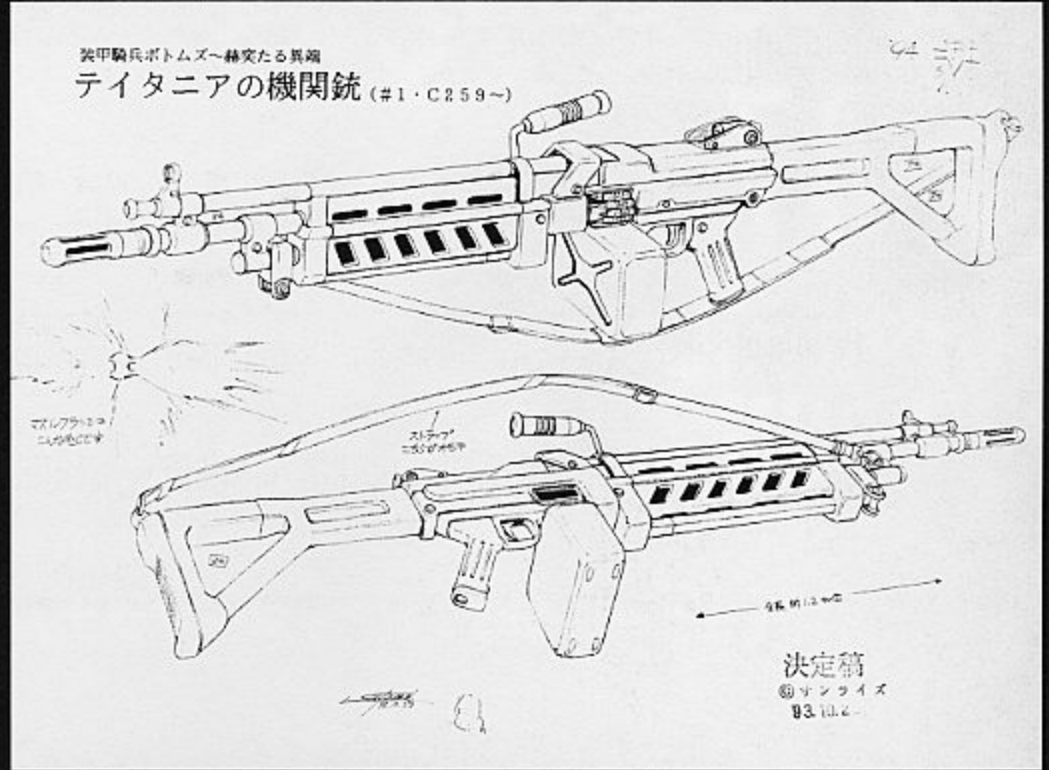
## ⊕ チェーンガン



三銃身型のチェーンガンで、外部動力による作動のため、かなりの連射速度を持つ。弾薬は背中の給弾ユニットから、ベルト内部を通して本体に給弾される方式。

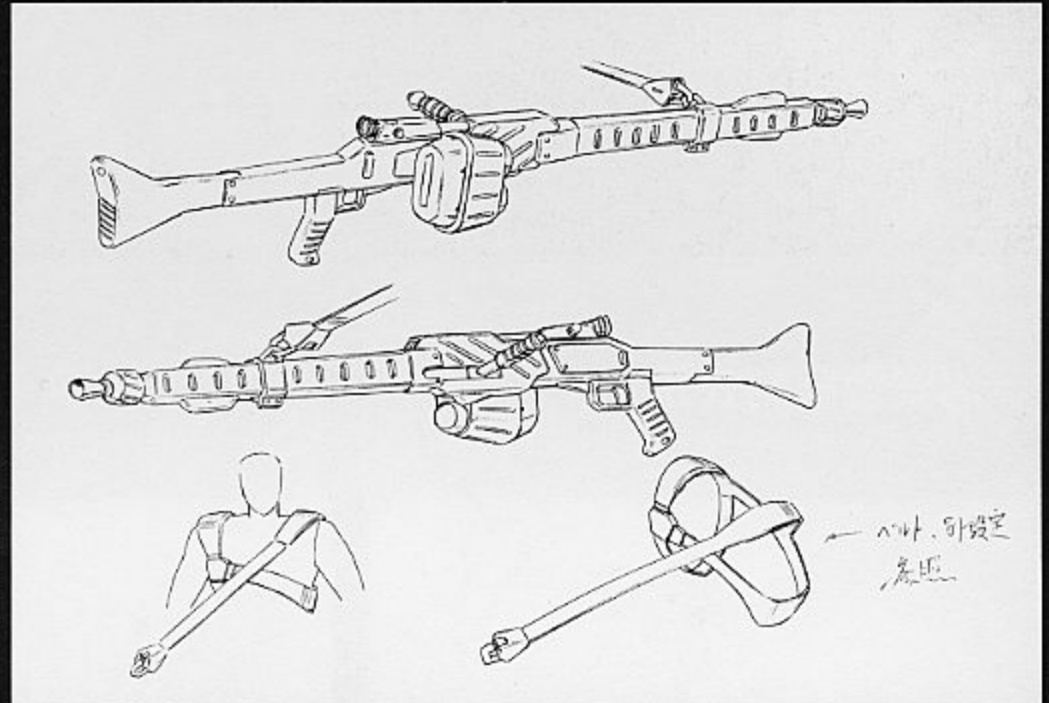


## ⊕ 分隊支援機関銃



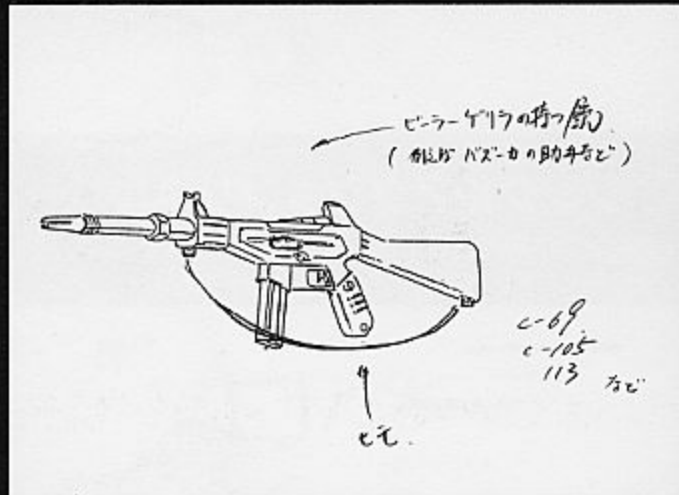
ベルト給弾式で、機関部の下に大型のボックスマガジンを持つ軽機関銃。直銃床で反動も逃がし易く、このクラスの銃器としては軽いが、使用にはかなりの体力が必要である。

## ⊕ 特務隊員用軽機関銃



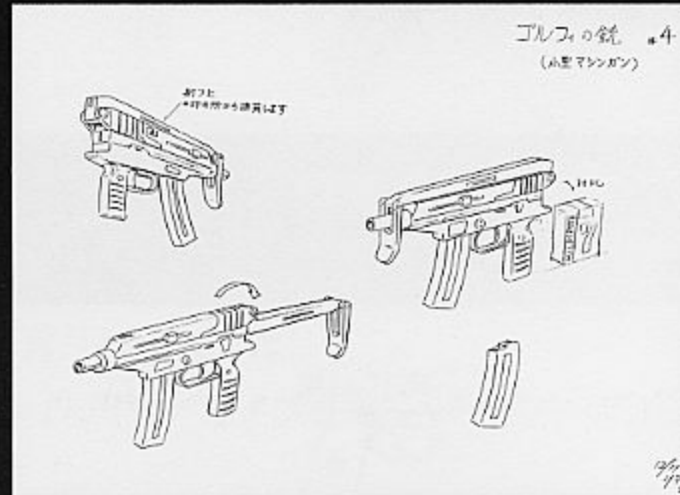
レッドショルダーなど、一部の特殊部隊でのみ使用が確認されている軽機関銃。専用のベルトにより腰だめ撃ちの安定性が高く、移動しながらの戦闘に威力を発揮した。

## ⊕ 旧型9mmサブマシンガン



クメンなど後進地域で使用されている旧式兵器。おそらくメルキア製。威力や射程に劣るが、反動が少なく使い勝手も良いため、使用場所を選べば現役で通用する。

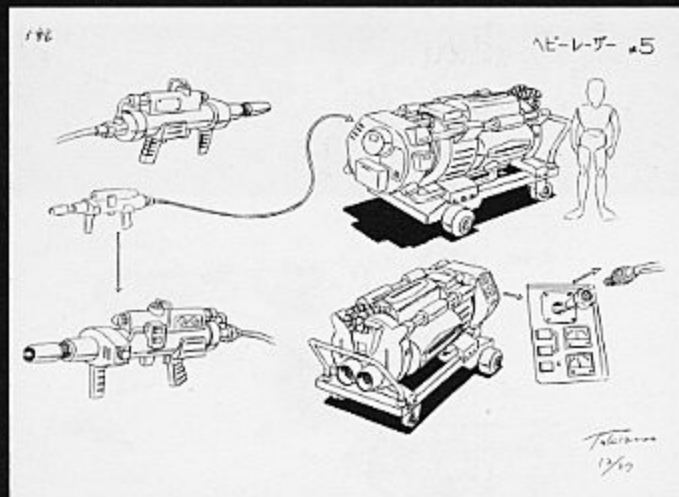
## ⊕ サブマシンガン



折り畳みストックを持つサブマシンガン。その携帯性の高さから、正規の軍隊よりもむしろ犯罪者に愛用された。また類似の機種が存在するのは、コピーが発展型かは不明だが、生産された時代による差なのではないかと考えられる。

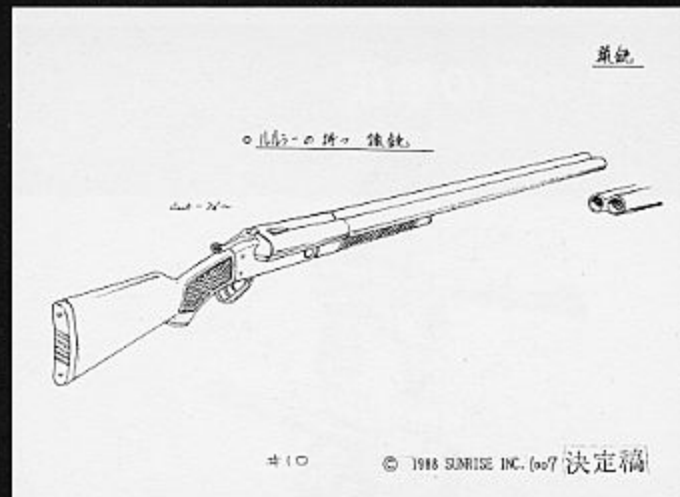


## ⊕ ヘビーレーザー



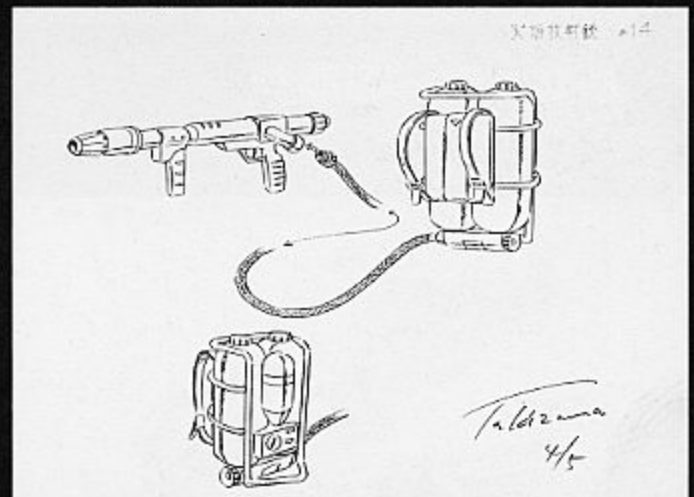
これは民間用の火器。貴族がカモ撃ちに使っていたもので、飾り気はないが高級品らしい。銃身に軽いチョークがかかっているため、スラッグ弾は使用出来ない。

## ⊕ 水平二連散弾銃



小型タンク内の圧力で大型タンク内の燃料を飛ばす形式の火炎放射器。元々使い勝手のいい兵器ではないため、一部で使用されているだけに留まっている。

## ⊕ 火炎放射銃



工業用のもの。文字通り壁を切り裂く威力があるが、一人では運べないサイズの動力ユニットが必要であるため武器として使用することは現実的ではない。

## HAND GUN FILE >> 47

戦時下においては、ハンドガンの類は戦略的な重要度が低いため、実はそれほど重視されていない。特に寄り合い所帯の感のあるギルガメスではその傾向が強く、制式拳銃は存在していても、実際には雑多なハンドガンが混在していた。これはハンドガンは最後の武器という兵士自身の思い入れのためもあっただろうし、アーマーマグナムという戦い方によっては充分敵ATを倒し得るハンドガンの存在も原因の一つではあっただろう。

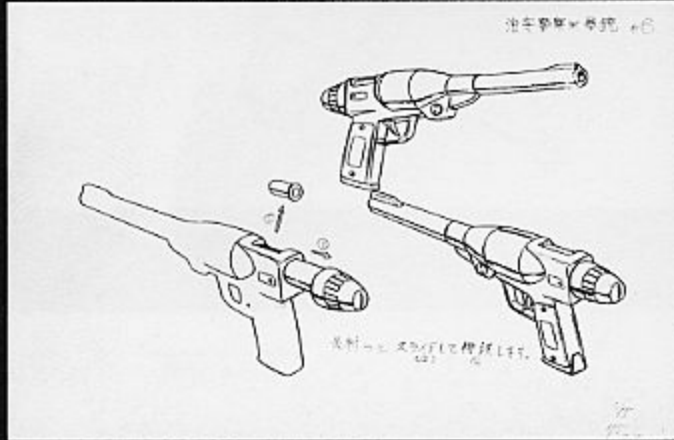
### ⊕ バハウザーM571アーマーマグナム

AT乗りに愛用者が多い対ATハンドガン。ハンドガンとしては確かに威力もあるが、ATの装甲を直接撃ち抜ける程ではなく、主にレンズやセンサーを潰すために使用されている。また真空中や水中でも確実に発砲でき、それも人気の一因となっていたようだ。バカラ・メタル社製。



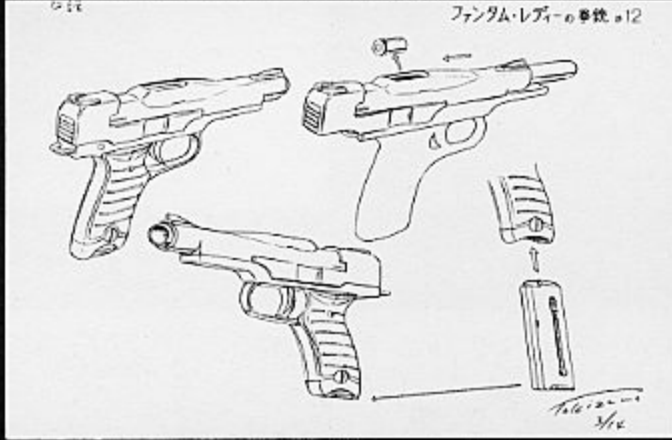
### ⊕ 治安警察制式銃

スライドではなくボルトを使用するタイプの自動拳銃で、一弾あたりの破壊力を重視している。実はかなり大型。



### ⊕ マシンピストル

フルオート機能も持つ拳銃。扱い難いためか使用例は多くないが、使いこなせば強力な対人兵器となりうる。



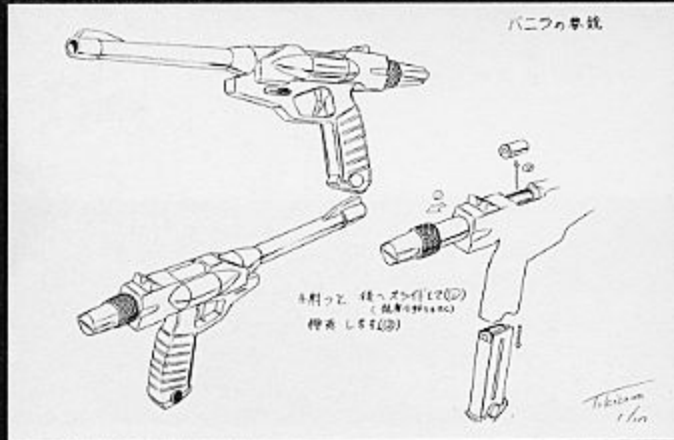
### ⊕ メルキア軍制式拳銃

トリガーバー内蔵型のダブルアクション機構を持つ自動拳銃。制式拳銃だが他の拳銃を使っている人間も多い。



### ⊕ バニラの拳銃

治安警察の拳銃と同系統の、ボルトを使用するタイプの自動拳銃。ただし威力は押さえられ使いやすい。



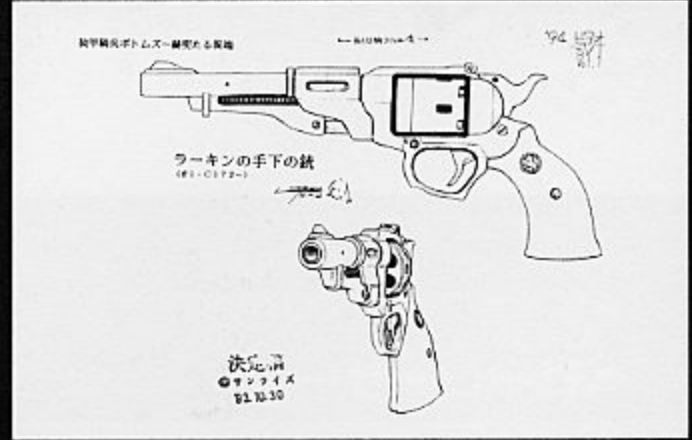
### ⊕ ゴディバの拳銃

直線的なラインを持つ中型拳銃で、それなりの新型。大型のハンマーにより不発を減らす設計となっている。



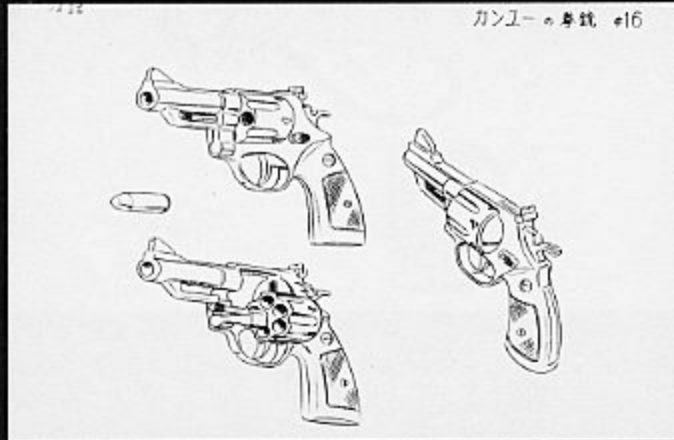
### ⊕ シングルアクションリボルバー

民間用として販売されている拳銃だが、実用性よりもアクセサリーとしての意味合いが強い。威力・精度は並。



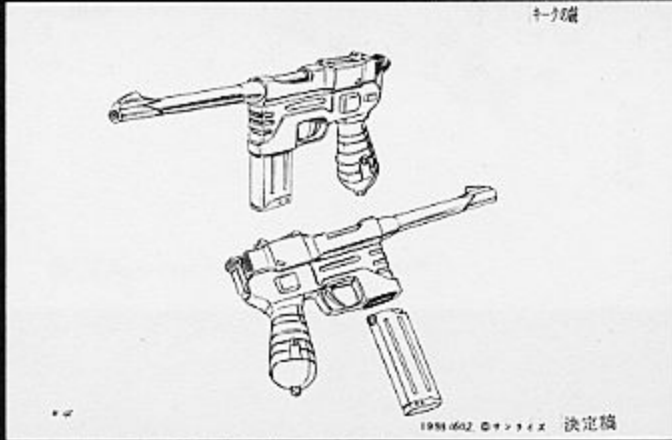
### ⊕ カン・ユーの拳銃

古式ゆかしきリボルバー拳銃で、カンジェルマンの親衛隊などでも使われている。その性能には定評がある。



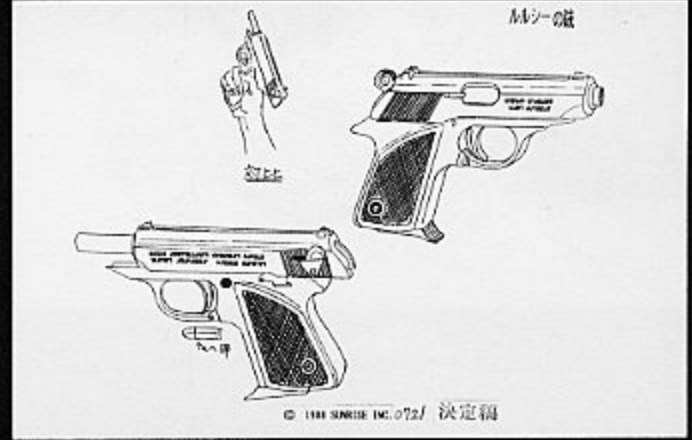
### ⊕ キークの拳銃

トリガー前方に大型マガジンを持ち、かなりの装弾数を誇る拳銃。携帯に不便なため、使用例は多くない。



### ⊕ ルルシーの拳銃

シルバー仕上げの小型拳銃で、女性の護身用としては充分以上の威力と精度を持つ。かなり高価。



# OTHER EQUIPMENT

FILE 48

# その他装備品

## OTHER EQUIPMENT FILE >> 48

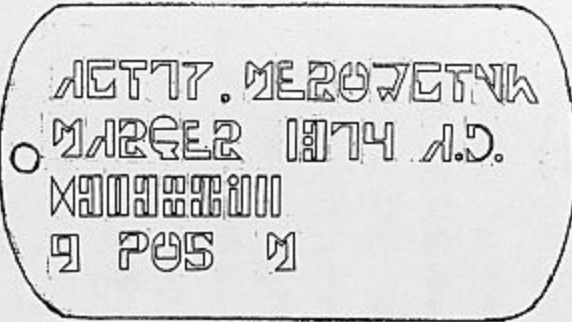
兵士の装備品についても、国家の疲弊が極みに達した百年戦争末期においては、かなりの混乱が見られる。さすがに自動小銃などの兵器と制服は統一されていたが、それ以外の装備品、たとえば水筒や双眼鏡などは数タイプが並列して存在していたようだ。極端な例としては（これは意図的なものかもしれないが）一部エリート部隊に対して認識票であるドッグタグが支給されない事例が存在したことで、その混乱具合が確認できよう。

### ドッグタグ

いわゆる認識票。メルキア軍の場合合同内容のものが2枚一組になっており、死亡した場合には一枚を確認用として死体に付け、もう一枚を持ち帰る規定である。

### ドッグタグ

※所属部隊以外は  
各記号数によって  
異なります。



### 記載内容

- ①氏名(ラストネーム、ファーストネーム、ミドルネーム)  
アリテ、メロウリンク
- ②所属部隊  
メルキア 第18 A.D.(アーマードデビジョン)  
(第18メルキア方面アランバンドール機甲大隊)
- ③認識番号  
④血液型  
⑤Rh因子(+はPOS -はNEG)  
⑥性別(男はM 女はF)

- ①ALITY. MEROWLINK
- ②MARQER 18TH A.D.
- ③032345711
- ④B ⑤POS ⑥M

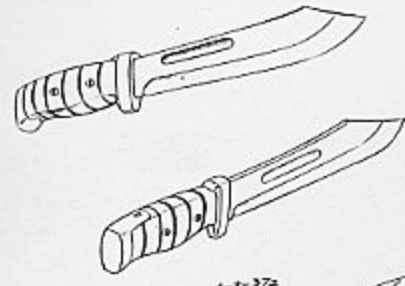
1988 0510

©サンライズ 決定稿

個人装備編

### 軍用ナイフ

キリコのナイフ #11

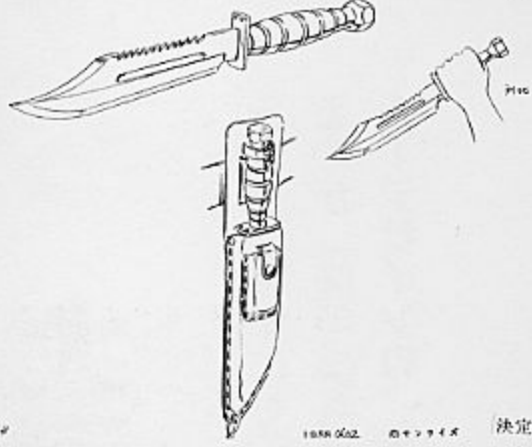


1888 0502

決定稿

3/2

38710ナイフ

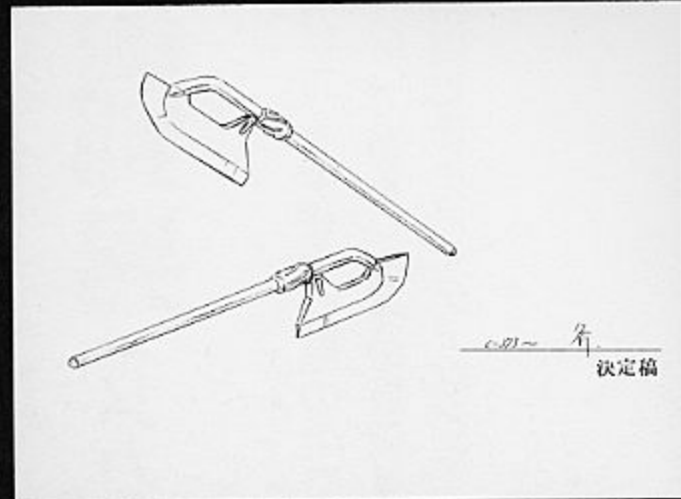


1888 0502

決定稿

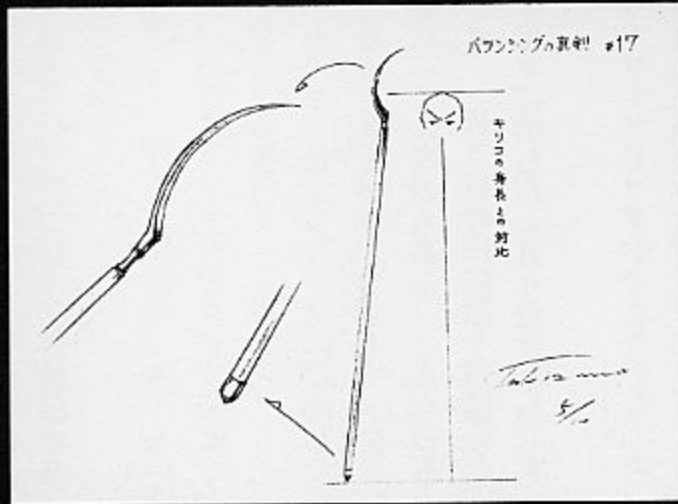
着剣装置のないごく普通のボウイナイフで、切れ味より頑丈さが優先されている。武器としてよりもむしろ日常の道具としての性格が強く、食事などにもよく使われる。

### オノ



決定稿

### バランスング用真剣



バランスング用真剣 #17

キリコ  
身長より短  
剣比

決定稿

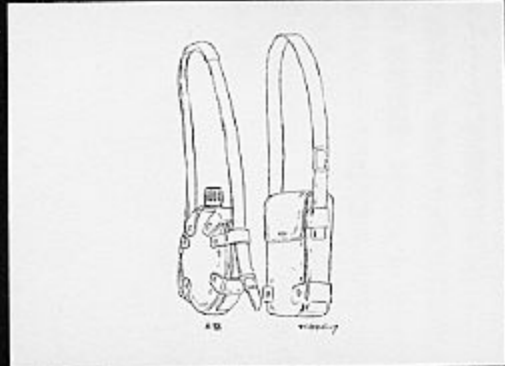
これはクメンの伝統競技であるバランスング用の物。ギルガメス軍では使用されていないが、クメンでは訓練用に一定数が存在した。

### 双眼鏡



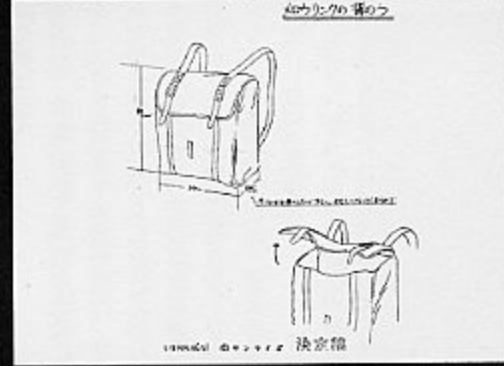
1888 0502 決定稿

### 水筒



決定稿

### 背囊(2)



決定稿

### 背囊(1)



決定稿

# ボトムズを語る 大河原邦男(メカニックデザイン)

氏の三十数年にも渡るメカニックデザイン歴の中でも特別な作品と切り切れるのが『装甲騎兵ボトムズ』である。自身の資質を存分に発揮できたというATデザインの、着想や実現できたアイデアなどをうかがった。

## スコップドッグが世界を描く

「ボトムズ」のデザインをされることになった経緯と云いますか？

大河原…『ボトムズ』の発注というのは少しイレギュラーで、『ダグラム』(※1)の一話の朽ち果てたダグラムのボトムズがプラモでは再現できないという反省があって、これははじめから股を上げるボトムズがとれるようなアーマーをデザインしているんですよ。

アーマーがないとすごくかっこ悪いんですよ。河口湖の倉田さん(※2)が作っている一分のボトムズが、今ちょうどアーマーがなくて、脚がそのままくっついてる状態なんですけど、腰って言うのはやはり腰らしいものが付いていないと。それで当時、五枚に分かれる、まあ腰ミノを考えて、それで足を開くこともできれば、前に上げることも、後ろに蹴ることもできる一番単純な構造ができたわけです。だけど、コレに気が付くまでにずいぶん時間がかかったんですよ。それで、

ちょうどそのころ高橋良輔さんの方でも小さいロボットの登場するアニメを考えていて、同時に同じようなものも考えていたというのもあってATのコンセプトというのはすぐ決まったんです。実際にボクが考えていたのは、アニメではなくジオラマ展開で、パイロットもかなり見えるようなものだったんですが。ただ、むき出しの人間というのにはあり得ないし、アニメでは表現としても難しいからカバーをつけていったという形ですかね？

それで、頭の形までは意外と簡単にいったんだけど、顔になる部分の試行錯誤はあったんですよ。で、いろいろ描いて、やはり一番見慣れている顕微鏡とか、映写機のターレットをそのままま照れないでストレートにつけた方がいいんじゃないかという形で、ああいうものになったんですけれどね。

— そのほか、印象的だったオーダーと云いますか？  
大河原…ローラーダッシュは初め「少しオモチャっぽいかな」とも思ったけど、演出側で「その辺は任せなさい」ということでした。

— そしてコンセプトがデザインとして完成されたわけですが、それをあえて言葉で表現すると？  
大河原…うーん……見ての通りですね。ただ、一番最初にやりたかったこと、ATのコンセプトになっただけのことというのが「腰の分割と」「鉄でできている」「兵器である」「量産である」というところですね。それほどアシストするほかの機器に頼っているところもないし、素材もそうだし。ローテクなメカだと考えていました。

兵器って、アニメでやっているのは便利すぎるんで「ボトムズ」みたいなのが当然だと思うんですけどね。4メートルって言ったら大型車より小さいわけですから、重機で挟まれれば壊れるだろうし。そんなに強いものじゃないですから。パイロットの才能、資質によって相当違うでしょうね。

— そういうハードなものを極めたのが「ボトムズ」のATデザインであつた？  
大河原…どう言うんだらう？「ボトムズ」という世界を描くためにはこのスコ

ップドッグだし、実証しているわけですよ。ファンの方は納得してくれているし。ただオモチャは、それほど完璧な大ヒットにはならなかったけど、二十年たって濃い人はずっと追っかけてくれているし。

— では、スコップドッグ以外のATについてはどういうアプローチで作成されたものですか？  
大河原…うーん……結局ね、ATというものはどういふものかということと「これもATの幅に入るんじゃない？」と描いたのが、後にシリーズに登場したATになつてくるんです。コンセプト出したときに「こんなものもある、こんなものもある」と、一日二日の内に数十点描いたものを次々に出したと言うだけなんです。

だからスコップドッグができたから「次のATはこういうのをお願いします」というオーダーがあつて、そこからデザインしていったわけではなくて、同列にあつたものを「今度のATはコレを使おう、次はコレを」という流れでキャラクタライズしていったわけです。

※1  
ダグラム  
「太陽の牙ダグラム」(1981-1983)。「ヤマト」ガンダムなどから始まったアニメブーム初期に制作された「ボトムズ」の前番組。スタッフも「ボトムズ」と重なり、もちろん大河原邦男もメカデザイナーとして参加している。

※2  
河口湖の倉田さん  
倉田光吾郎。本業の鉄工美術の合間に一分のスケールのATを鉄で制作。その経過をサイトでレポートしたことからは完成予定。2005年のワンダーフェスティバルに部品出品された。本人のサイトのURLは以下の通り。  
[http://ironwork.jp/monkey\\_fam/index.html](http://ironwork.jp/monkey_fam/index.html)



※3  
今西隆志  
1957年生まれ。「機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY」監督。「機動戦士ガンダム MS I G L O O 1 年戦争秘録」監督・プロデューサーなどで知られる。現在は、サンライズのデジタルスタジオであるサンライズ・D・DのCGプロデューサーも務めている。

「ポトムズ」はOVAやゲームにも

なっていますが、そちらの方も基本的に大河原さんが担当されたのですか？

大河原…今西隆志(※3)さんが作られた「赫奕たる異端」(※4)では出淵裕(※5)さんが初期デザインを担当していますが、まともは一応全部こっちはやっています。ゲームでもかなりのATを作っているし、ボク以外で「ポトムズ」に関わったメカデザイナーは出淵さんぐらいじゃないですか？

### ポトムズを通して見えるメカ感の違い

大河原さんのお仕事の中でも「ポトムズ」は満足度の高いものだったとお聞きしているのですが。

大河原…今まで三十数年仕事をやってきているけど、自分からこういう作品をやりたいというのはこの作品以外ないです。ほかは一応仕事と割り切ってオフアアがあつてからデザインをしていくやり方だったけど、コレに関してはこういう仕事をやりたいと考えていたものが高橋良輔さんが目指していた作品とたまたま一致したという。

すると大河原さんにとって「ポトムズ」のATのデザインというものは特別なものだったと言ったことでしょうか？  
大河原…何の苦勞もなく、あるがままのデザインをできた作品ですね。子供の頃から見てきたメカをストレートに出したらあの形、質感になったんで。なんて言うのかな？ いろんな作品に関わってきたんだけど、ふつうはその都度この作品はこういう風なデザイン、もしくはコンセプトで行こうって考えるんですよね。「ガンダム」(※6)です

と、もう少し格好よくしなければい

んだらうとか、いろいろ自分にはい部分を補う必要があるんです。けれど「ポトムズ」に関しては、何も考えずにストレートに描いた方がポトムズらしくなる。だから当時から何も考えずにストレートにやった結果で、今も根本的なものは変わってない。

ただ仕事としてオフアアがあれば、十分に続編とか、スコップドッグの延長線上に作れるけど、一応ボクの中では完結しちゃってる作品なんです。

逆に「ポトムズ」の延長線上にこういうテイストの作品を今作れと言われたらいろんなものを作れますね。

それは第二の「ポトムズ」ではなく、第一の何かになるということですか？

大河原…はい。だけど「ポトムズ」のファンがそっくりそっちの世界に呼び込めるような作品にはできる自信はあるんですけれどね。

では、もし「ポトムズ」の新作があるとして、そこでスコップドッグをCGでモデリングするとかそういうアプローチは？

大河原…楽しみとしてならありえるでしょうけど、仕事としてならボクがやってもダメだと思っんですよ。それって唯一無二のオフィシャルになっちゃうでしょう。そうすると、そのあとで模倣なんかにした場合それ以外にないわけですよ。だから、ボクの場合は絵で、あやふやなもので発信した方がいいんです。そうした方が、解釈次第で遊びが広げられるわけですよ。それ以上違う形を追求できないというのは少しかわいそうですし、ボクにそんな能力もないですから。

「ポトムズ」で大河原さんがやりた

かったものが実現できたと言ったところで、監督の高橋良輔さんと作り手としての資質が近かったということでしょうか？

大河原…そうですね。高橋良輔さんとメカ感が似ているんですよ。富野由悠季(※7)さんはガウディ(※8)とかルイジ・コラーニ(※9)とか、ああいうボクとは正反対の何か三次曲線が複雑に入り交じったメカ感なんです。ボクは本当の工業デザイナーとか、そっちの方。あるいは本当の機械とか、工具とか。そういうメカっぽいものが好きなんです。

一方、高橋良輔さんの場合は、進駐軍のジープが来て、まだ舗装されていない砂利道に水たまりがあつて、ちよつと油が浮いているとか、ジープの鉄板とか何とかの肌触りとか。そういうのがメカだと思っっている人なんです。

でも、ATの方が不思議と人間っぽいですよね。

大河原…ATって顔がなくてレンズだけ回っているんですけど、アレが動くことで表情が出るじゃないですか。

だから、はじめ表情を出すのは難しいと言っただけで、ふつうのヒーローロボットの目玉よりは、かなり直接的な表現ができる。これはまたひとつ魅力かなと思いますけれどね。ザク(※10)はまだモノアイ(※11)で表情が出せるけど、ガンダムは目で演技できないからね。

なるほど。本日は貴重なお話をどうもありがとうございました。

### PROFILE

#### 大河原邦男

1947年東京都生まれ。タツノコプロ入社を経てフリーに。メカデザイナーとして「タイムボカン」シリーズなどのギャグメカから「ポトムズ」のようなリアル指向のもの、「勇者」シリーズのようないろんな巨大ロボットまで幅広く手がける。

※4

「赫奕たる異端」

「装甲騎兵ポトムズ 赫奕たる異端」1994年に全5話で発表されたOVAシリーズ。TV版「装甲騎兵ポトムズ」のその後を描いた作品。

※5

出淵裕

「機動警察パトレイバー」 「ガサラキ」などで知られるメカデザイナー。 「ラーゼフォン」では監督も務めている。

※6

ガンダム

「機動戦士ガンダム」(1979~1980)。富野喜幸(現・由悠季)監督によるロボットアニメ。大河原邦男もメカデザイナーとして参加、登場メカのすべてを手がけている。

※7

富野由悠季

「機動戦士ガンダム」の監督として知られるテレビアニメ黎明期から活躍するアニメクリエーター。

※8

ガウディ

スペインの建築家(1852~1926)。曲線や曲面を駆使し、また多彩な装飾によって幻想的な建築空間を創造した。代表作にカサ・ミラ、サグラダファミリア教会(未完)など。

※9

ルイジ・コラーニ

1970年代に活躍したインダストリアルデザイナー。有機曲線と未来的なデザインが特徴で、その過剰とも言える曲線及び曲面は、自然界の有機曲線をモチーフとし、それに未来感を加えることにより優美で美しく、他に類を見ないデザインとなっている。

※10

ザク

「機動戦士ガンダム」に登場する敵側のモビルスーツと呼ばれる量産型ロボット兵器。そのデザインはモビルスーツの原型といえる高い完成度を持つ。デザインはもろろ大河原邦男が担当している。

※11

モノアイ

ザク系のモビルスーツの特徴で、ヘルメットを思わせる頭部に丸く光るカメラが装備されている。ザクではそれが左右に動いたり、ひときわ離くなどで演技を見せていた。

## 設定なきメカニズム

作品に登場するあれこれについて、きちんと細かく設定する現在からすると少々異質に思えるが、ボトムズシリーズには設定画のないメカニズムが多数存在している。これは当時としては普通のことではあるのだが、幾つかの事例に分類しつつ、代表例を挙げてケースごとに概説しよう。

### ■本編に登場しているケース

本編に登場してはいるが設定が存在しないケースとしては、準備段階で用意されたラフ画を参考にした場合と、チョイ役なのでその場で描かれた場合とがあるようだ。

前者の代表例としては、第一話冒頭に登場しているプロッカー。過去の戦闘シーンに登場していたのだが、このカットはラフ画を参考に描かれたもので、当時は設定が存在していなかったのだ。結局設定が起されたのは98年のゲーム『鋼鉄の軍勢』の時で、登場から設定まで15年もかかった稀有な例といえるだろう。

ちなみに、本編に登場しているロケットガンは設定は起こされておらず、こちらは今もって「設定なきメカニズム」の一つのみである。

他には、大抵の場合残骸として登場するアストラッド戦車などもこの例に入ると言えるだろうか。

後者の場合、実在のものを出した例が多いようだ。特に銃器類についてはかなりの例が存在している。

たとえばサンサ編では設定がある銃器類に混じって空挺型M1カービンが登場し、「メロウリンク」に至ってはモーゼルHscを筆頭に、当時の人気銃が見られる。変則的な例としては、モデルガンを原寸大コピーしたものが参考として回された例もある……らしい。

これは当時のスタッフに重度のガンマニアが混じっていたためと思われる、それが銃器描写の正しさにも繋がっているとのこと。

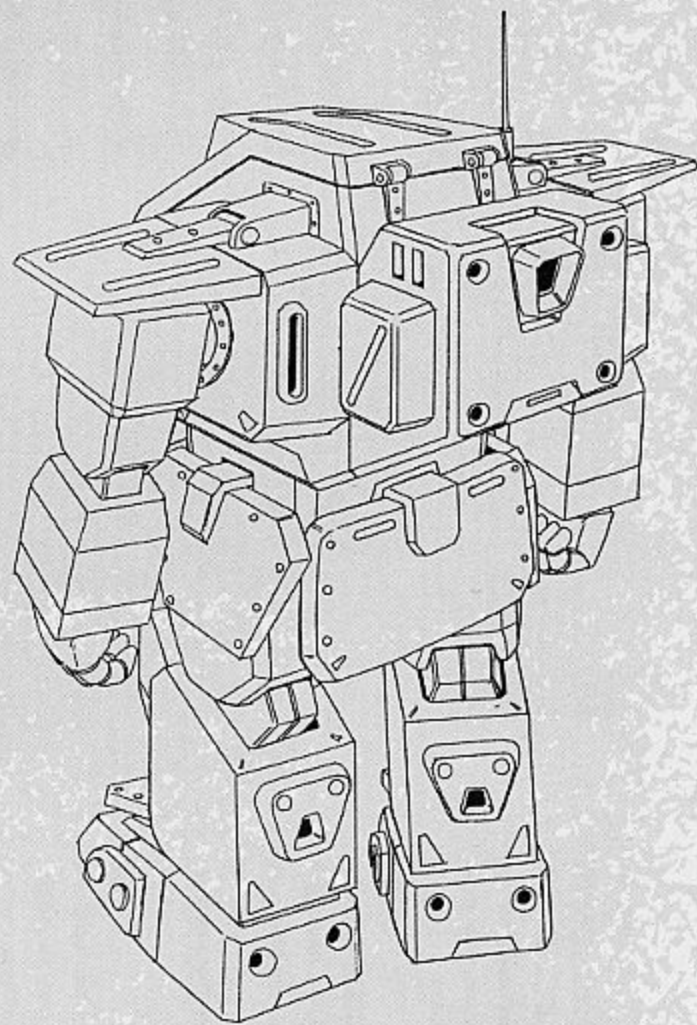
余談だが、「ボトムズ」シリーズ

の中で銃器描写に特にこだわりが見える「メロウリンク」。これは設定面に関して言うなら、モデルガンマニアであった神田監督のこだわりを、大学時代に小口径ライフルの経験があり、実銃にも造詣が深かった大河原氏が形にしたものと言えるだろう。なお、対ATライフルの弾薬の数は神田監督の手によるものという談話もある。

### ■書籍などが出典のもの

サンライズは、「ボトムズ」に関してはフィルムだけが公式で、そこに描かれていない部分については公式な存在を認めてこなかった。その代わり、明確にフィルムと矛盾する場合を除いて、書籍などの記述内容に異を唱えることも基本的にはなかった。

これは、史実と現実の歴史書の関係に良く似ている。もっと言うなら、設定は公文書や設計図、画面のキャプションは記録写真、書籍の記事はそのまま新聞や専門誌の記事で、小説『青の騎士ベルゼルガ物語』やゲームブック『復讐の惑星シド』、お



15年を経て始めて描かれたプロッカーの背面。大河原氏は「クリエイターならこういうことは嫌がるかもしれないが、ボクは仕事としてオファーがあるなら仕事として割り切れているので、特に感慨はありません」とコメントしている。なお、詳しい機体説明についてはp64を参照。

よび幾つかのムックに掲載されたオリジナルストーリーなどは、描かれる内容が史実と矛盾する例があるのも含め、従軍した兵士の手記に例えられようか。

この流れの中では、イラストは描き起こされ一般に認知されても、設定は制作されないため、当然ながら設定は存在しないことになる。

具体例としては、ビートル系の始祖たるスタンディングビートルがこの代表だろうか。また『青の騎士』に登場する各種のバトリンク用カスタムモデルやFX-ATシリーズは、非常に人気のあるAT群ではあるのだが、その全てに設定が存在していない。それどころか登場するメディアによって形状が異なっている場合も多く、各バージョンごとに支持者が存在しているようだ。

なおメカニズムの背景についても、書籍によって諸説分かれているケースがあるのも同じ理由によるものだ。こちらについてはパープルベアの素性についての話題、ベルゼルガに使われているビートル系の部品



『野望のルーツ』のバレードシーン。稼働しているアストラッドが登場する数少ないシーンである。

WOTOGAMES

AT完全設定資料集  
AT PERFECT ESTABLISHMENT DATA

# Combat Vehicle

陸戦車両編



# GROUND BATTLESHIP

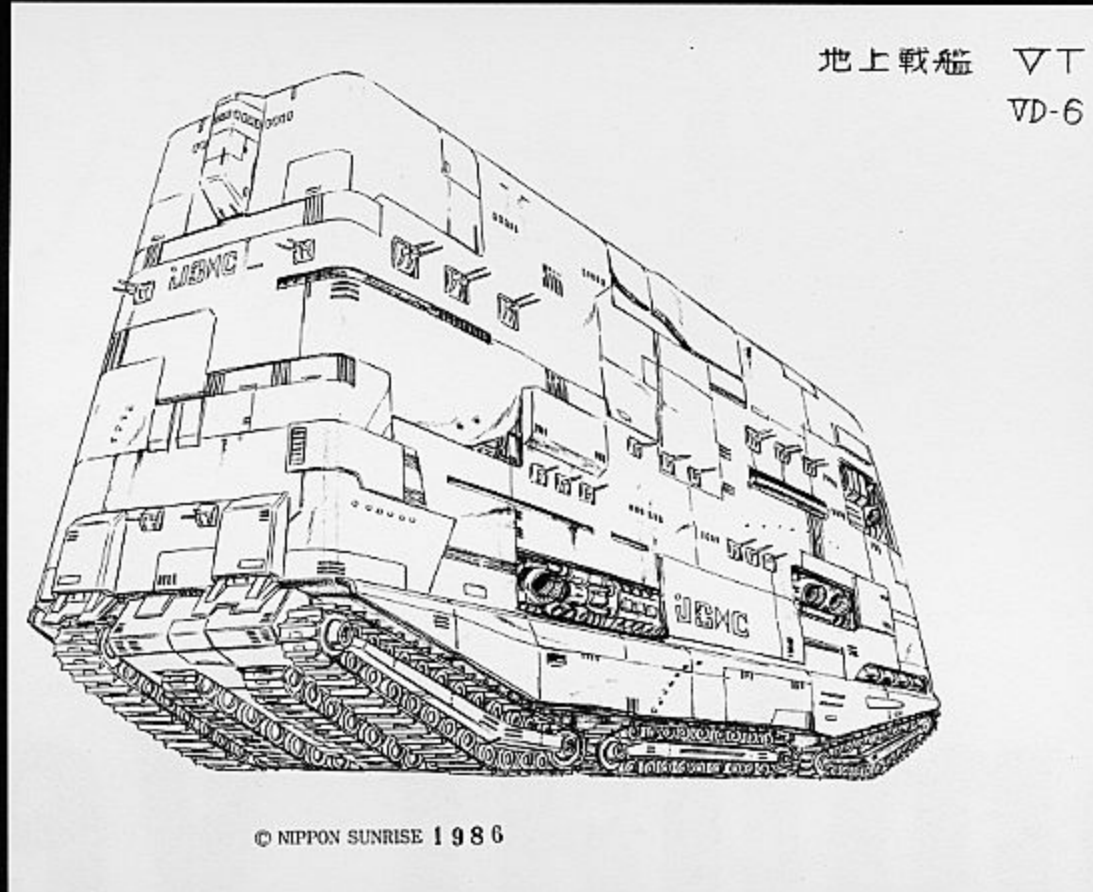
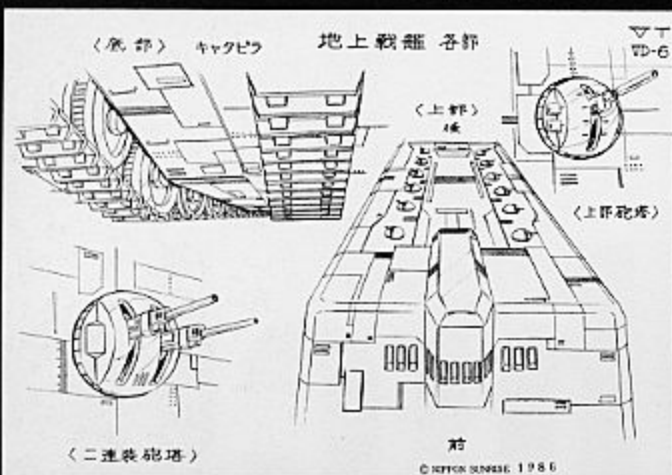
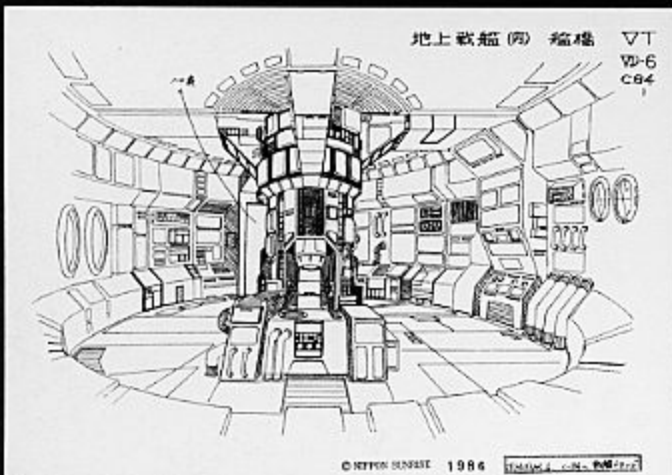
FILE 49

# 地上戦艦

GROUND BATTLESHIP  
FILE >> 09

百年戦争の初期において、地上戦で無敵を誇ったメカニズム・地上戦艦。その栄光は当時としても高額な建艦コストや費用対効果の悪さ、戦略思想の変化、そしてATの台頭により消え去っていったが、残照はいまだに戦場の各所に残っている。少数ながら残っている現用の地上戦艦や、バトリングの結果ア・コバの街を壊滅させたバラントの地上戦艦の話などは、比較的記憶にも新しい。そういう地上戦艦のいくつかをご紹介します。

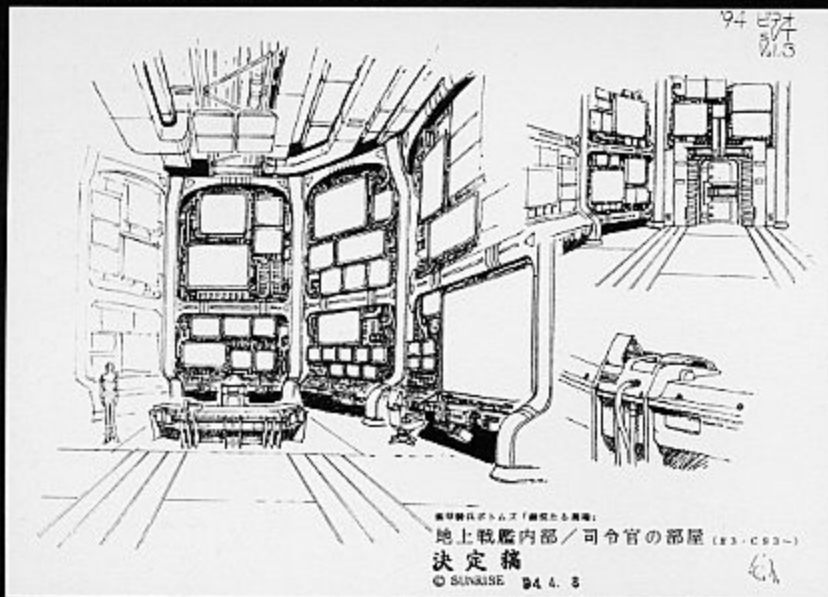
## ⊕ 地上戦艦



バラント製の地上戦艦。砲火力よりも母艦機能が重視され、移動基地としての性格が強い。踏破力も高かった。

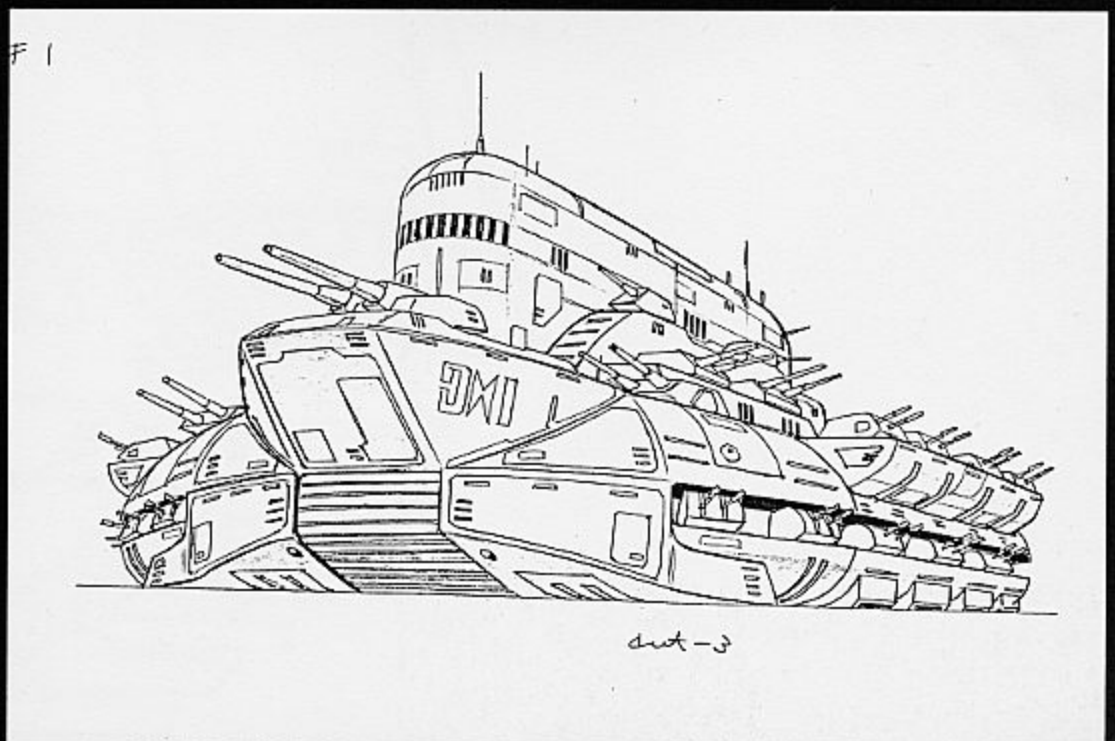
## ⊕ 地上戦艦ブッチーノ

マナウラ政府軍の保有する、数少ない現用の地上戦艦。砲撃力重視の艦だが、移動司令部としての運用が中心。



## ⊕ メルキア軍地上戦艦

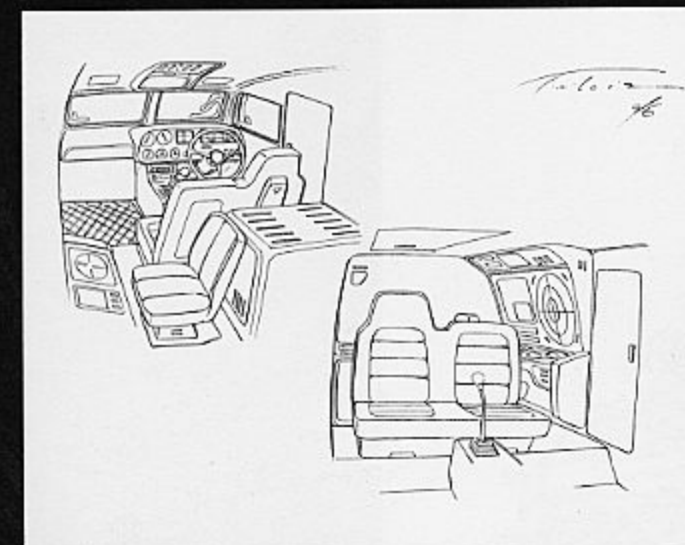
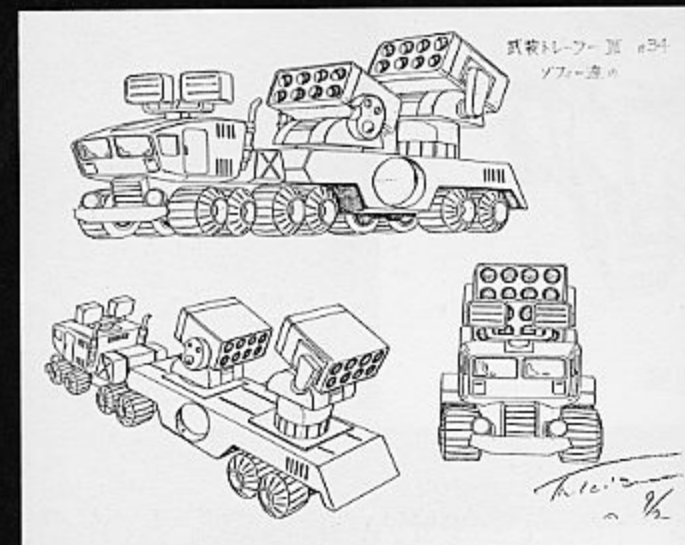
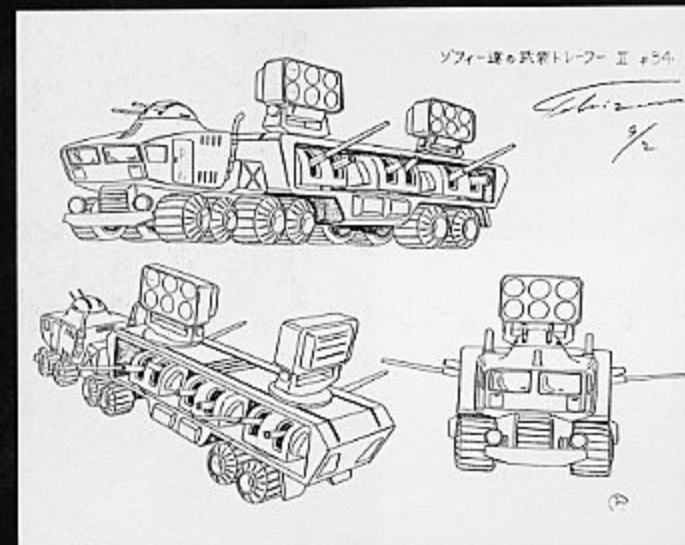
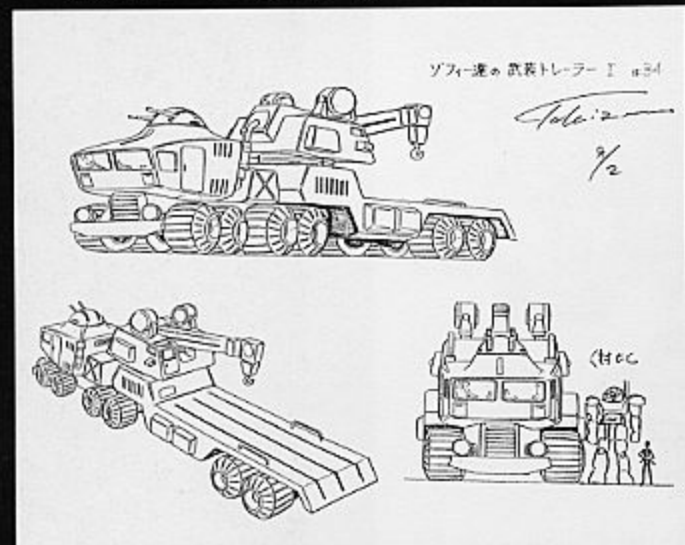
火器管制能力の充実により、強大な火力を効率良く活用できた。ただ建艦費用は地上戦艦としても高額だった。



## 4H2D5KTY ANTI AT 7E4T0CE FTCE>>TM

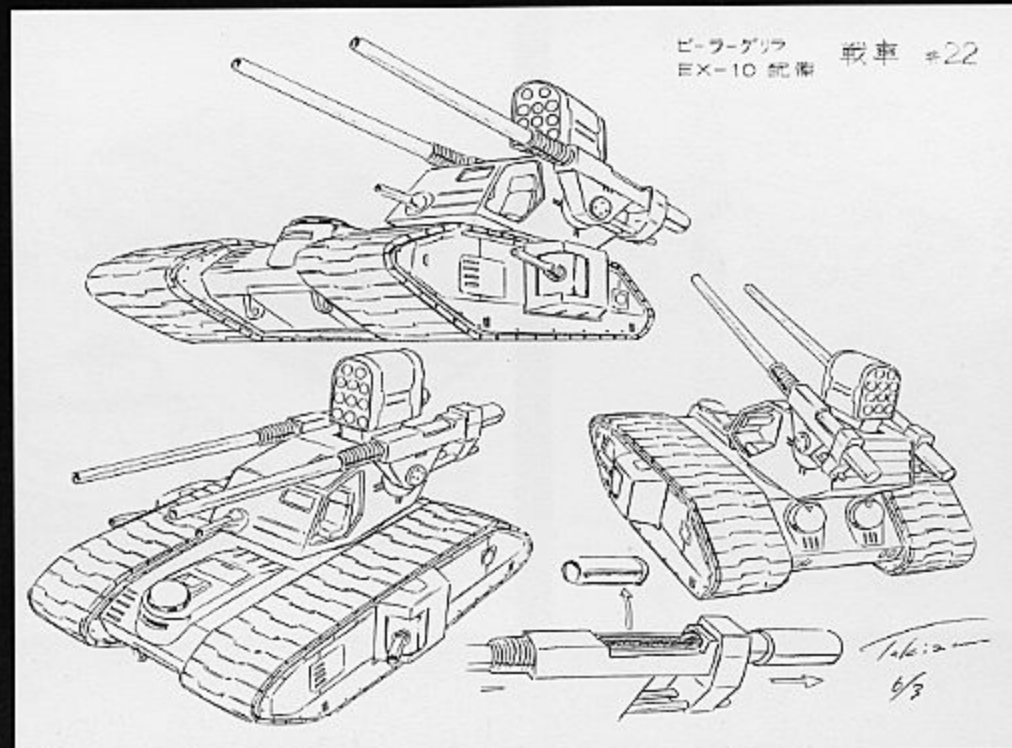
ATの台頭によって変化したのは、地上戦艦だけではない。戦車や自走砲と言った従来型の主力兵器も、ある物はATに対抗するため、ある物はATを支援するために変化していかざるを得なかった。どちらにも共通しているのは、たとえ重量級の地上兵器であっても機動性を重視するようになったことだが、そののみが答えという訳でもない。さらには新型車両の開発が減り、AT以外の兵器の進化すらも昔話になりつつあるのも事実である。

### ⊕ 武装トレーラー スネークガンナー



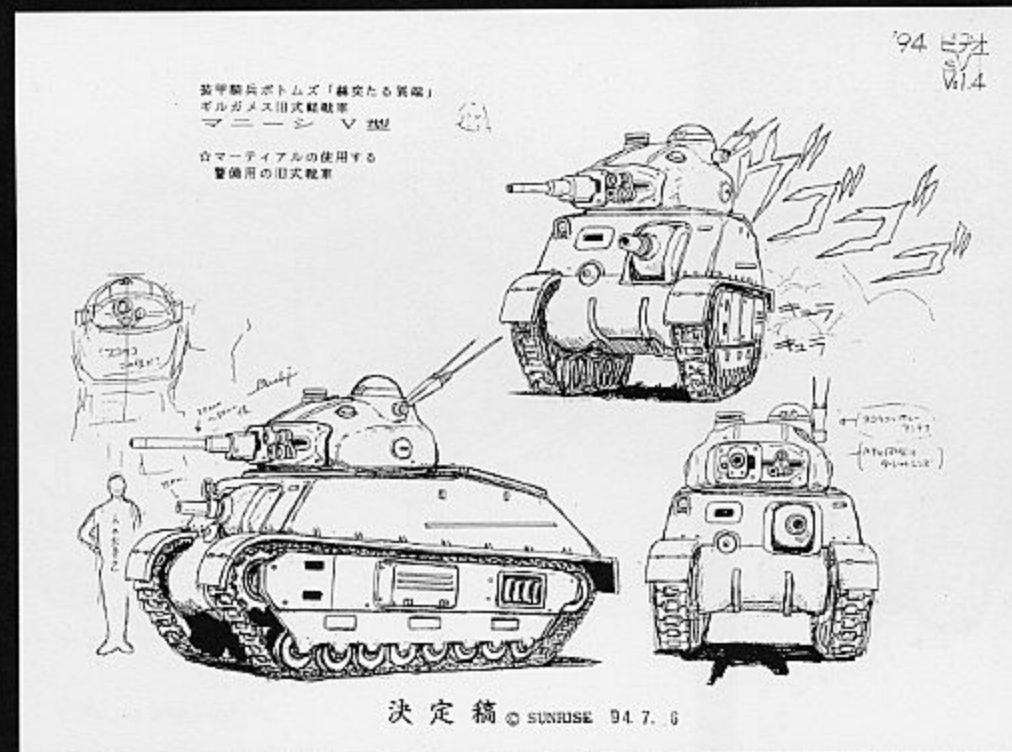
対AT戦車と呼ばれることもある、パララントの旧式兵器。トレーラーに武装を施しただけの代物だがそれだけに信頼性も高く、パララント陸軍を支えた兵器とも評価されている。

### ⊕ ギルガメス軍主力戦車



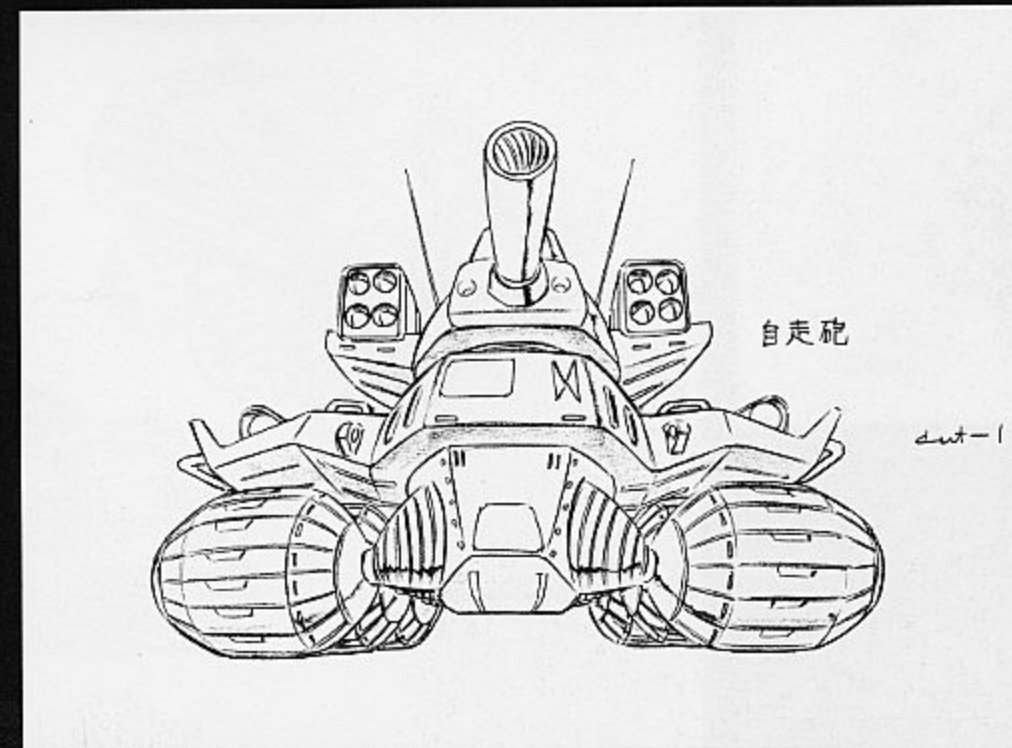
戦車と言われてはいるが、装甲より機動性と攻撃力を重視した旧式戦闘車両。対AT戦闘にはこちらの方が向いていた。

### ⊕ マニーシV型



旧式の軽戦車で、ATに対抗できる戦力ではないが、複数の乗員がいるためパトロールや偵察、警備には向いている。

### ⊕ MAGS-53装甲自走砲



高い機動性を持った装輪自走砲。ライフル砲のため直接射撃の命中率は高いが、攻撃力そのものは今一つだった。

# SOFTSKIN ANTI AT VEHICLE

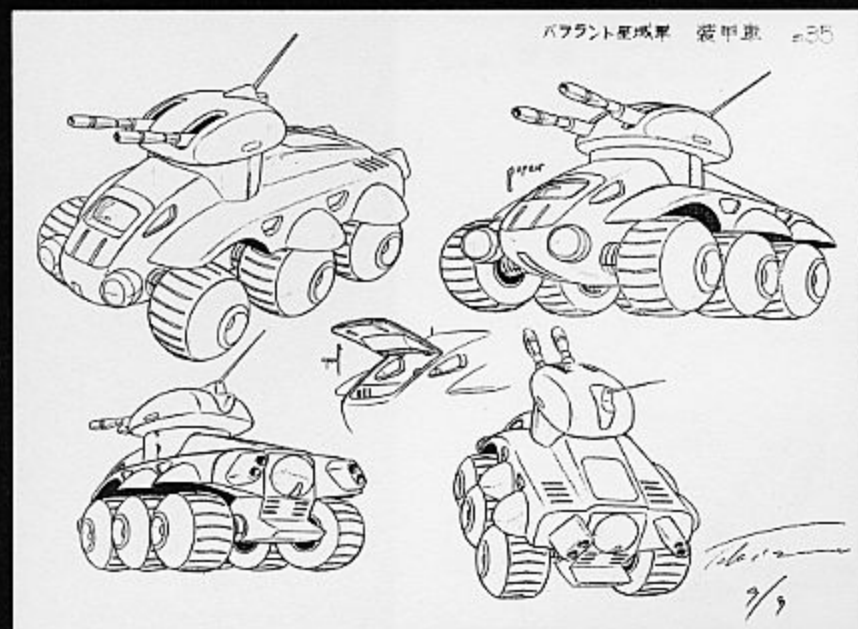
FILE 51

# 軽量級対AT車両

SOFTSKIN ANTI  
AT VEHICLE  
FILE >>>

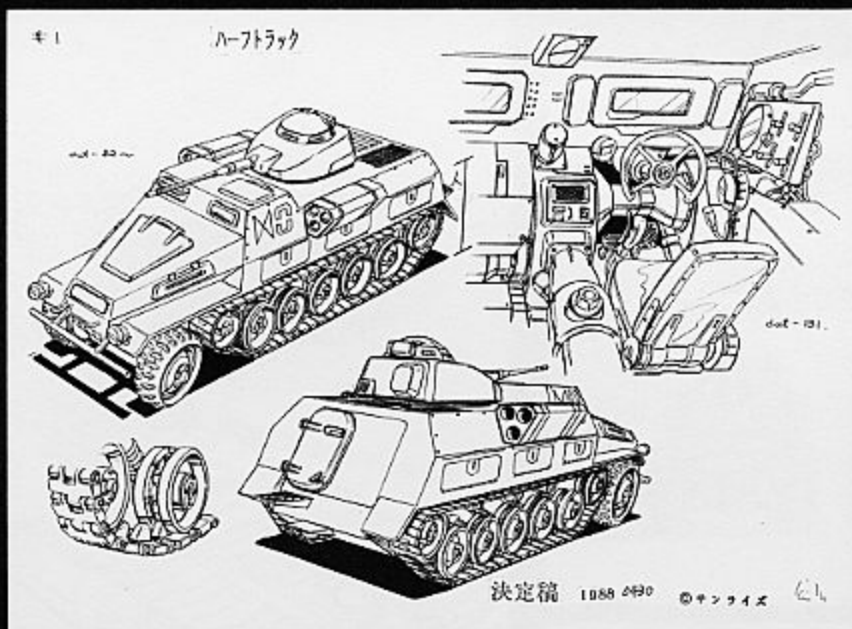
ATの台頭がプラスに影響した兵器群があるとするなら、それはこれらの軽戦闘車両が筆頭と言える。主戦場が宇宙から地上へと移った結果相対的な重要性が増し、進化そのものは遅くとも、大量に生産されてATと共に戦場に投入されることになったからだ。中には対AT用の戦力として開発され、ある程度まで成功したスカラベのような機体まで存在する。これら軽量級の対AT車両は、ある意味最もATに近い存在と言えるのかもしれない。

## ⊕ B・MAV-19スカラベ



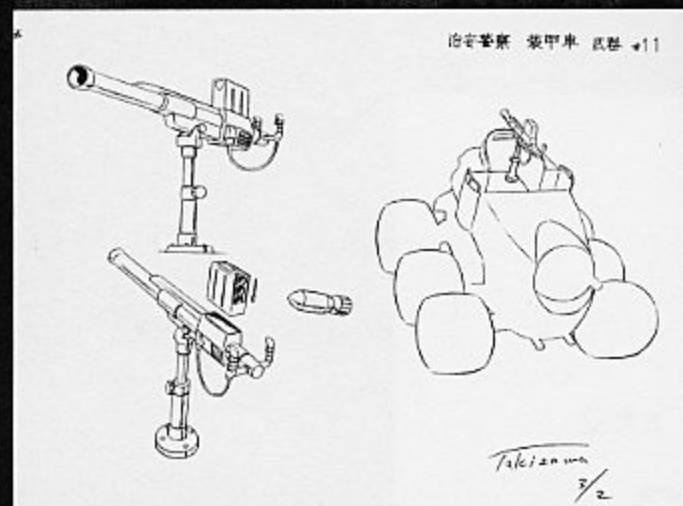
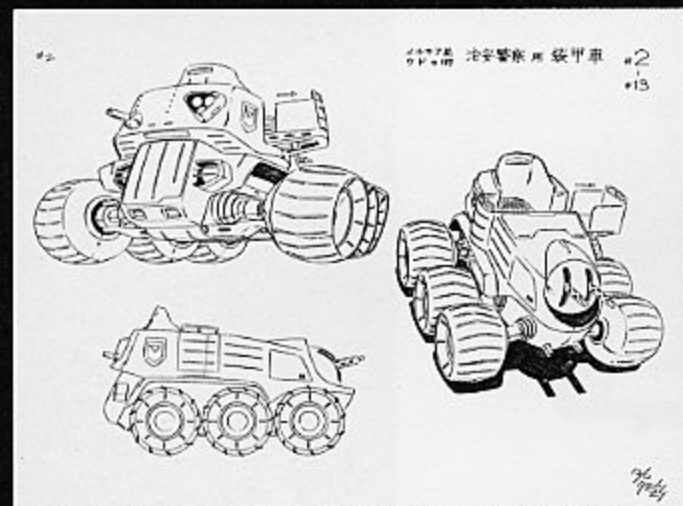
地上用ファッティの登場まで、通常型ファッティと共に陸上戦を支えたパラントの小型装甲車。ATの支援に兵員輸送等、幅広い任務をこなしていた車両である。

## ⊕ GIFV-T88-C 88型歩兵戦闘車グローリー



10名の歩兵を運び、戦闘時には支援することも可能な半装軌式の歩兵戦闘車。側面のミサイルは有線式。

## ⊕ 治安警察装甲車ガーシム

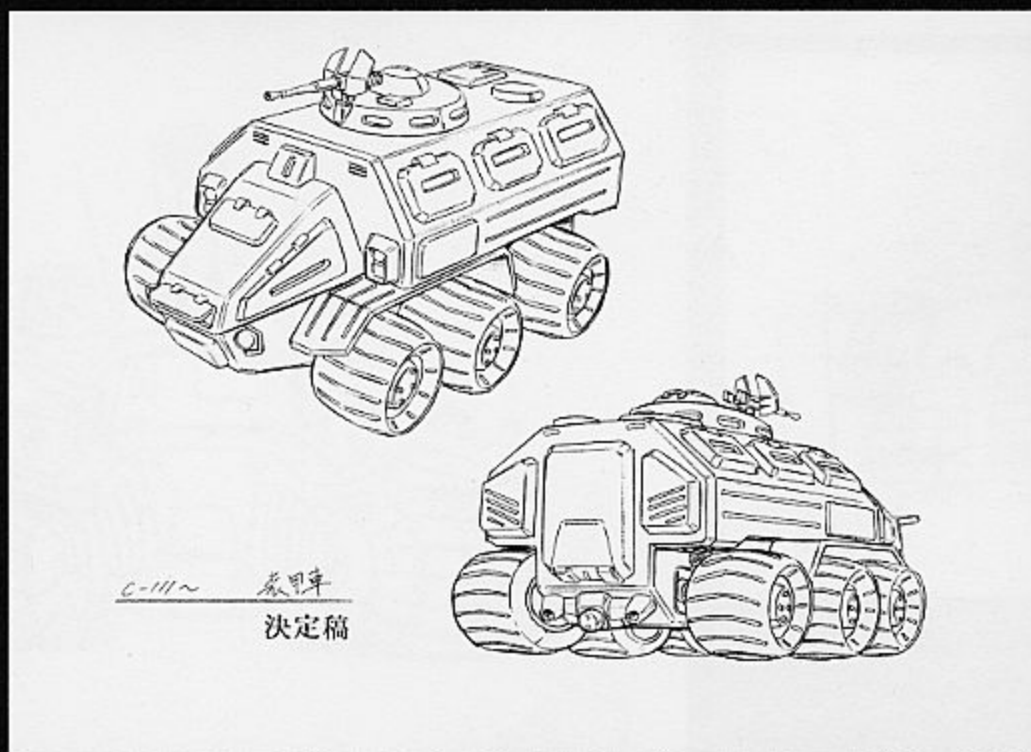


## ⊕ MLAC-70 70式軽装甲偵察車マトラ



高速性が売りの装甲偵察車で、その速度でATを振りきり戦闘を回避する。設計は前主星のビシュティマ。

## ⊕ MAV-48-F歩兵装甲車

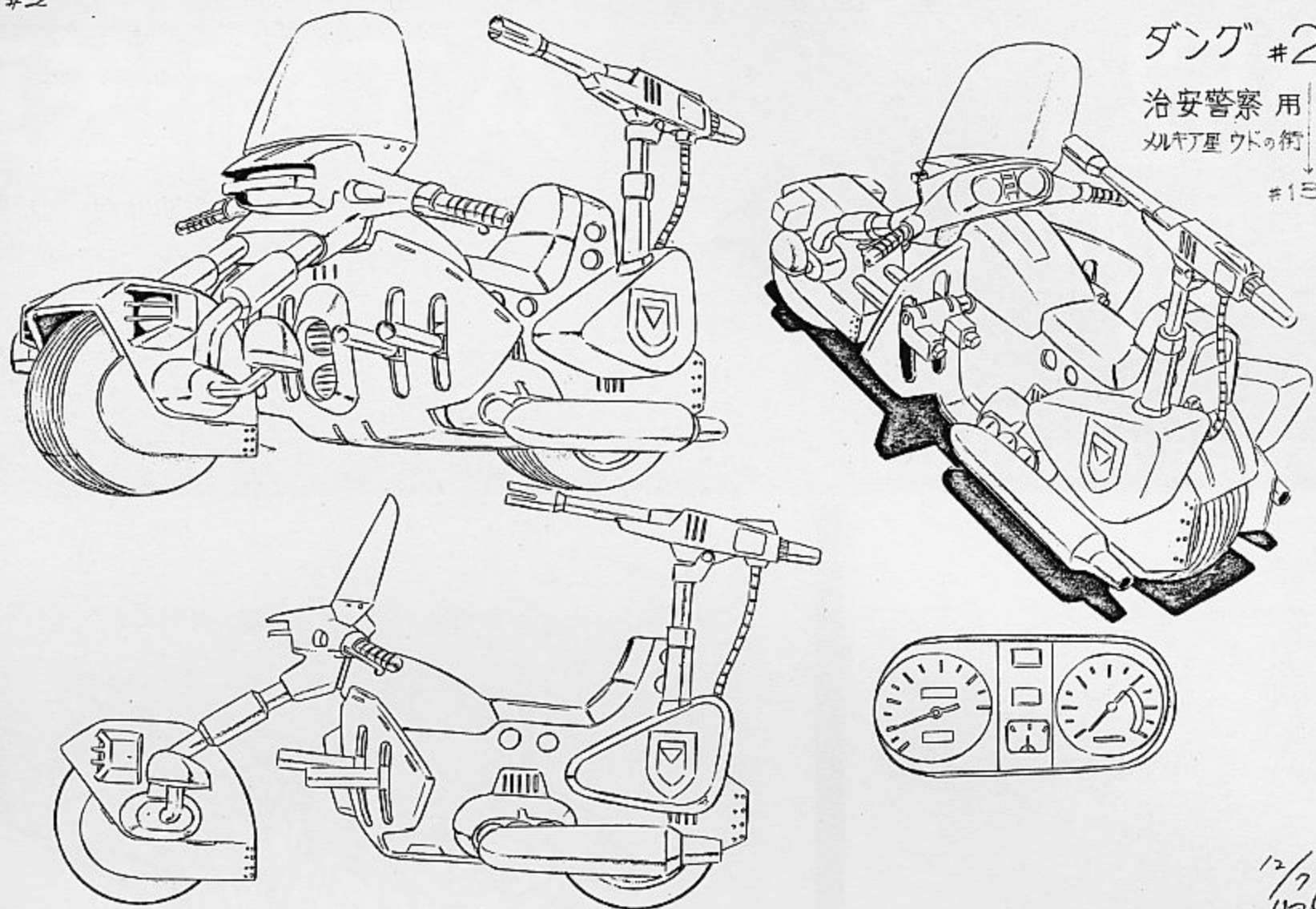


ギルガメス惑星軍機械化部隊の主力歩兵戦闘車。敵陣に直接肉薄し、内部の歩兵を展開する車両である。

## 治安警察用ダング

ダングとは2輪または3輪のバイクの一種で、大型の幅広タイヤによる走破性の高さが特徴。軍での使用は多くないが、この治安警察用を始め、民間や公安組織には広く普及している。

#2



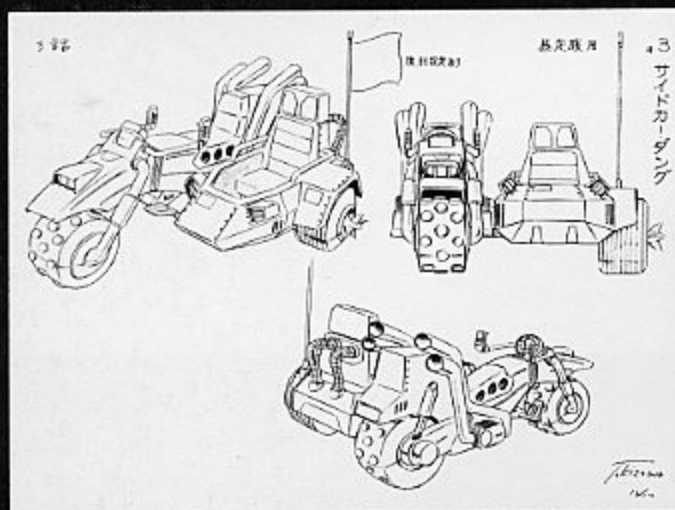
ダング #2

治安警察用  
カキア星ウドの街

#15

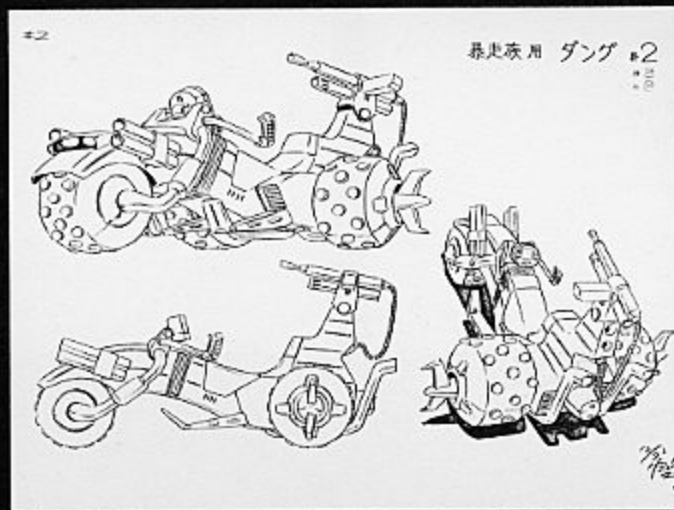
12/7  
1/26/24

## サイドカードング



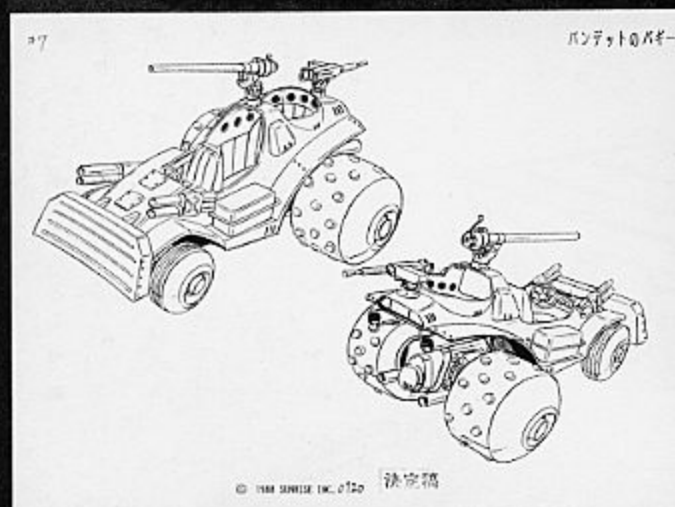
これもウドの暴走族が使用していたもの。リーダーが指揮に集中できるように使われていたらしいが、その効果は疑問ではある。

## 暴走族用ダング



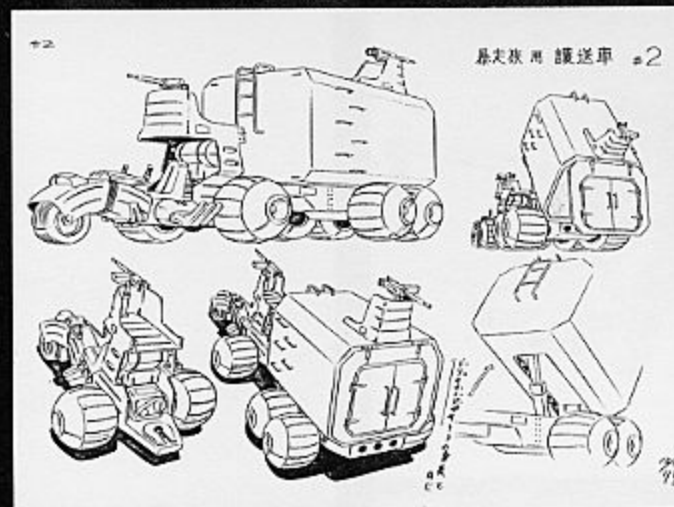
ウドの暴走族が使用していたダングの一例。好き勝手な改造を施されているため同じ仕様のもは基本的に存在しないらしい。

## バンデッドのバギー



これは市街地の暴走族ではなく、荒野を縄張りとする山賊の車両。高い走破性と火力を持ち、あなどれない戦力になっている。

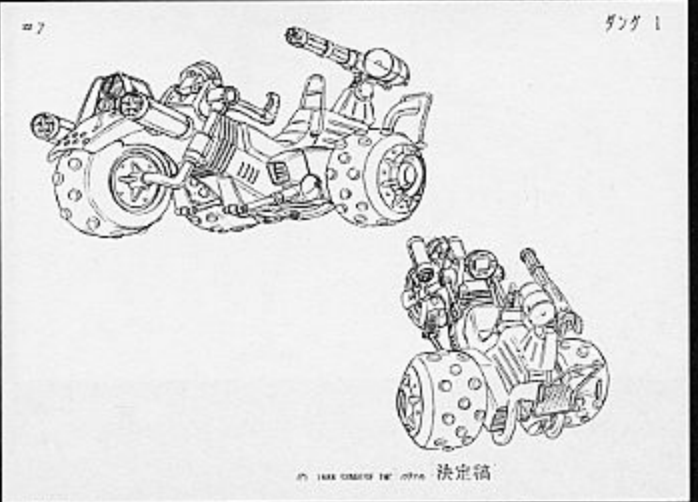
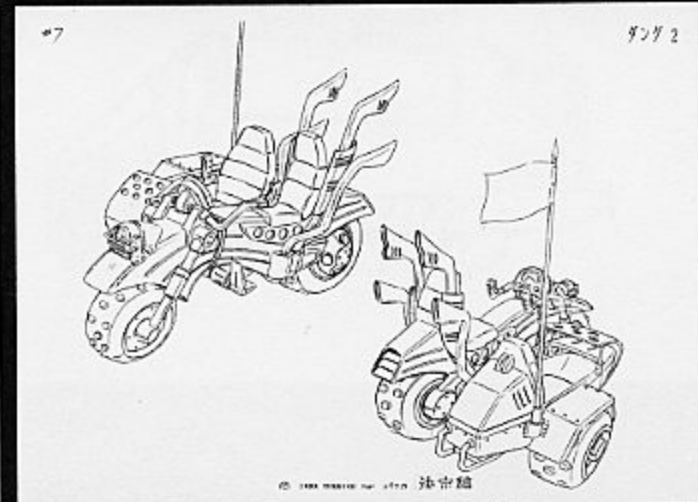
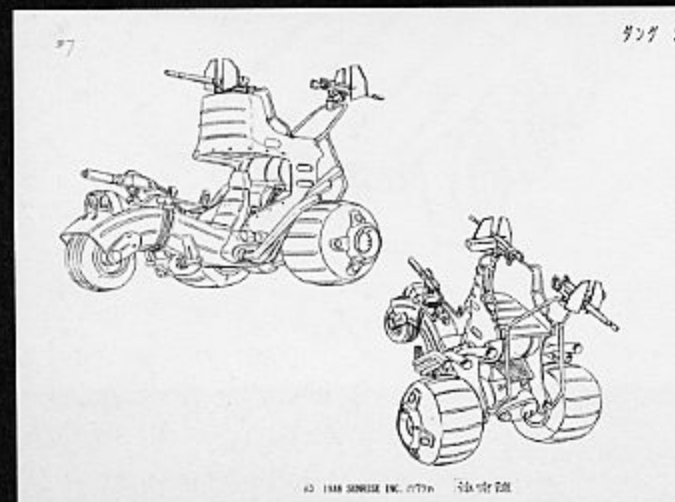
## 暴走族用護送車



ダングにトレーラーを接続し、急造の護送車に仕立てあげたもの。トレーラーは本来人間用ではなく、土砂用か何かであるようだ。

## バンデッド用ダング

これも荒野を縄張りとする山賊の車両。市街地を縄張りとするものよりも足回りが重視され、同時により重武装になっている。専門のガンナーや切り込み隊員を乗せた車両が多数を占めていることも特徴と言えるだろう。



# AT TRANSPORTER

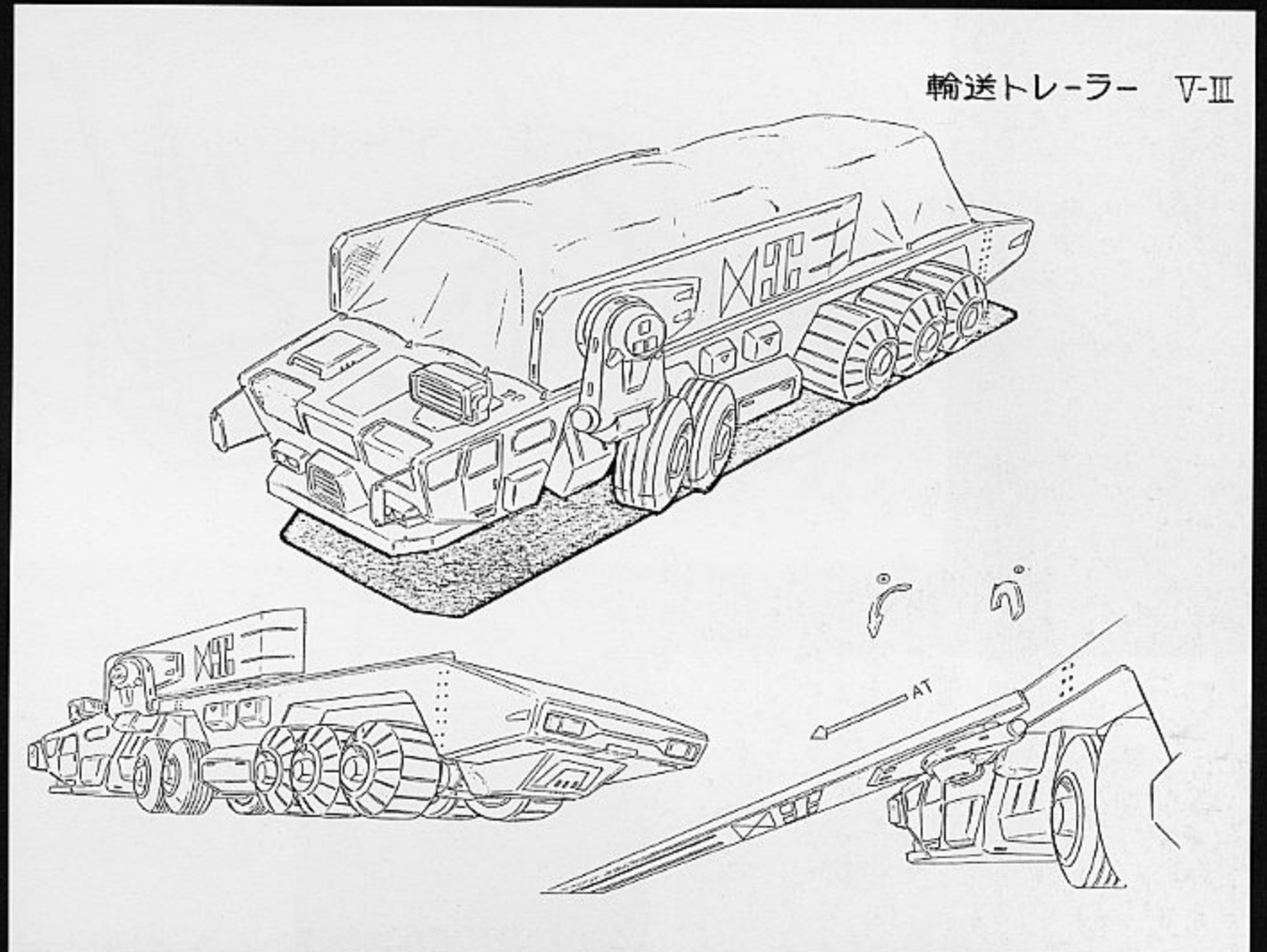
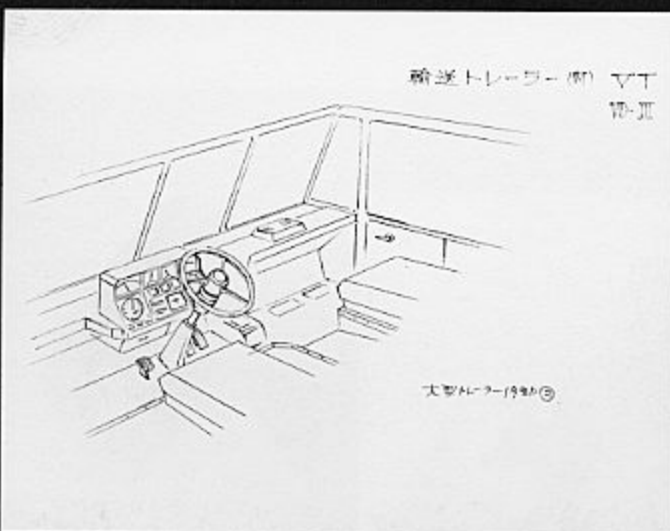
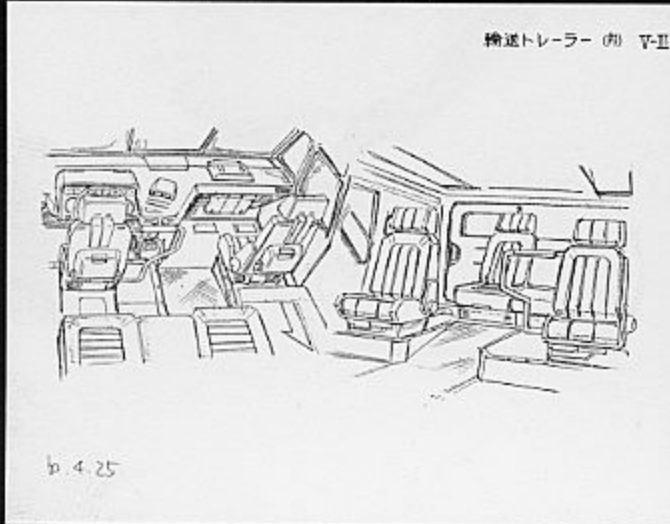
FILE 52

# AT輸送車両

## AT TRANSPORTER FILE >> 52

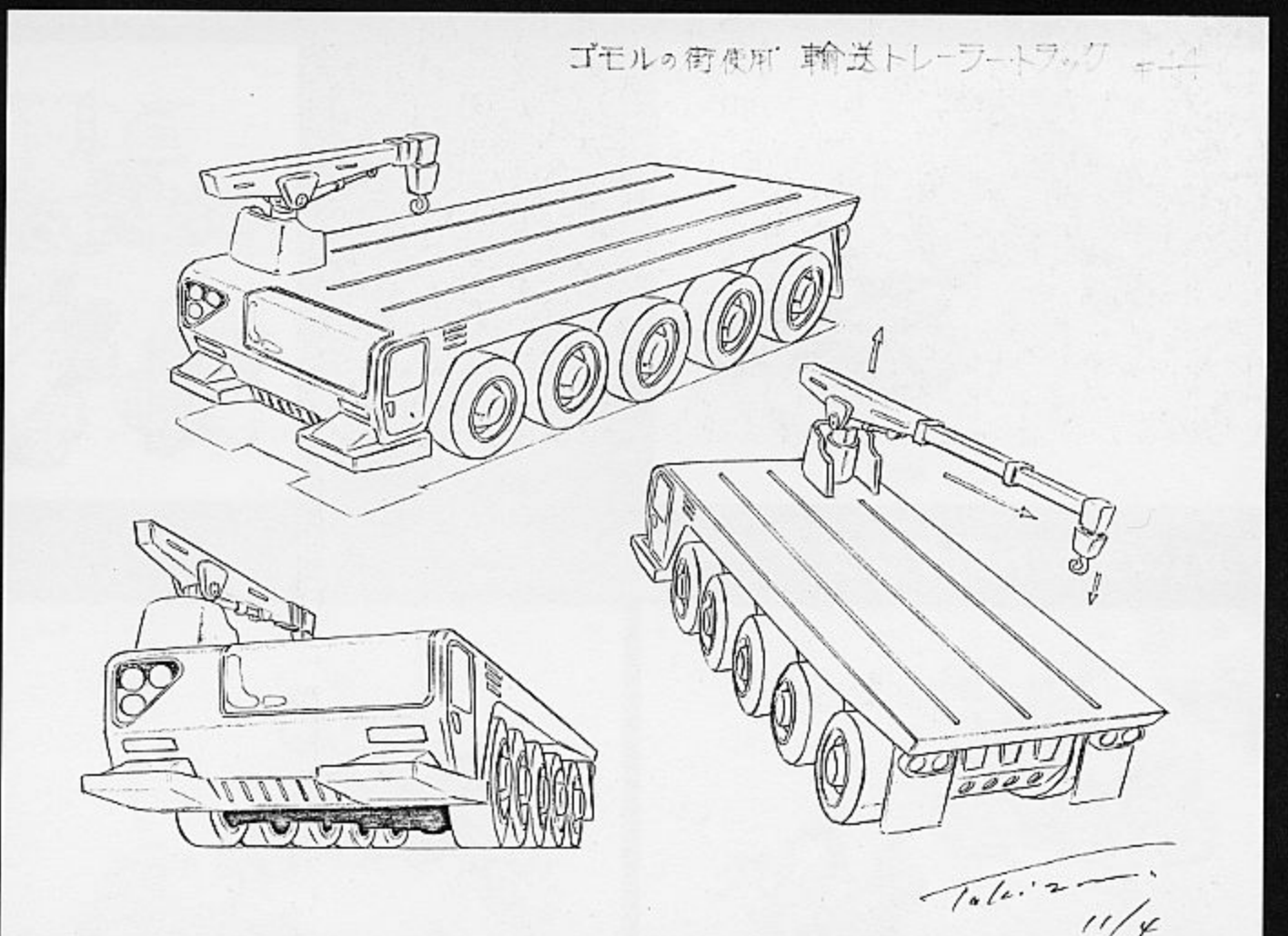
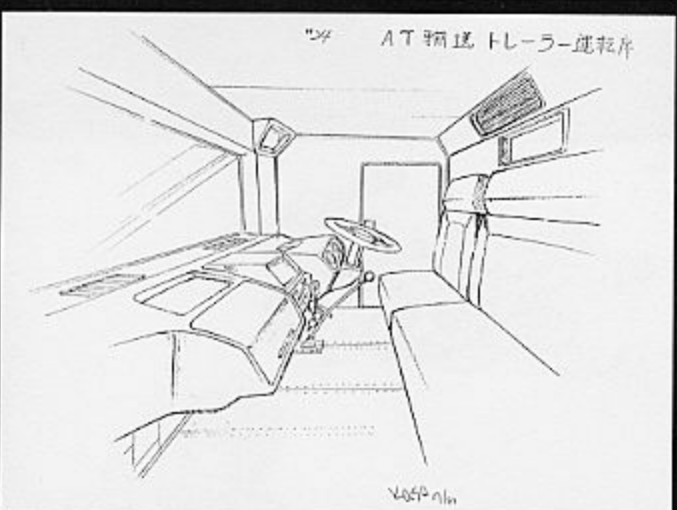
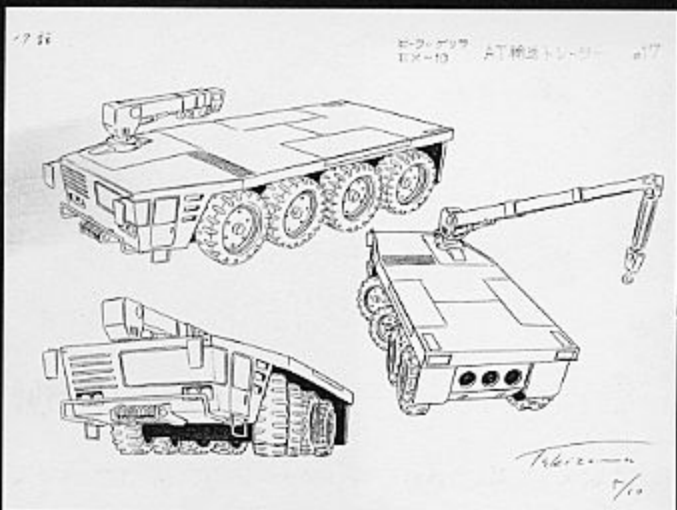
AT自身による地上での長距離移動は、PR液の劣化や兵員の疲労のため、あまり現実的なものではない。特に少しでもマシンな状態で最前線に立つ必要がある軍用の場合、別の輸送手段が必要となる。ここでは、ATの地上での運用に不可欠な各種トランスポートを取り上げていこう。

### ⊕ MTV-36-T大型AT輸送車 ビッグキャリアー



一個小隊3機+指揮官機の合計4機を輸送可能なトレーラー。最前線でのAT輸送を任務とするため走破性が高く、簡易整備用の設備も搭載している。

### ⊕ MTV-22-Tフラットキャリアー ⊕ 10輪型AT輸送トレーラー

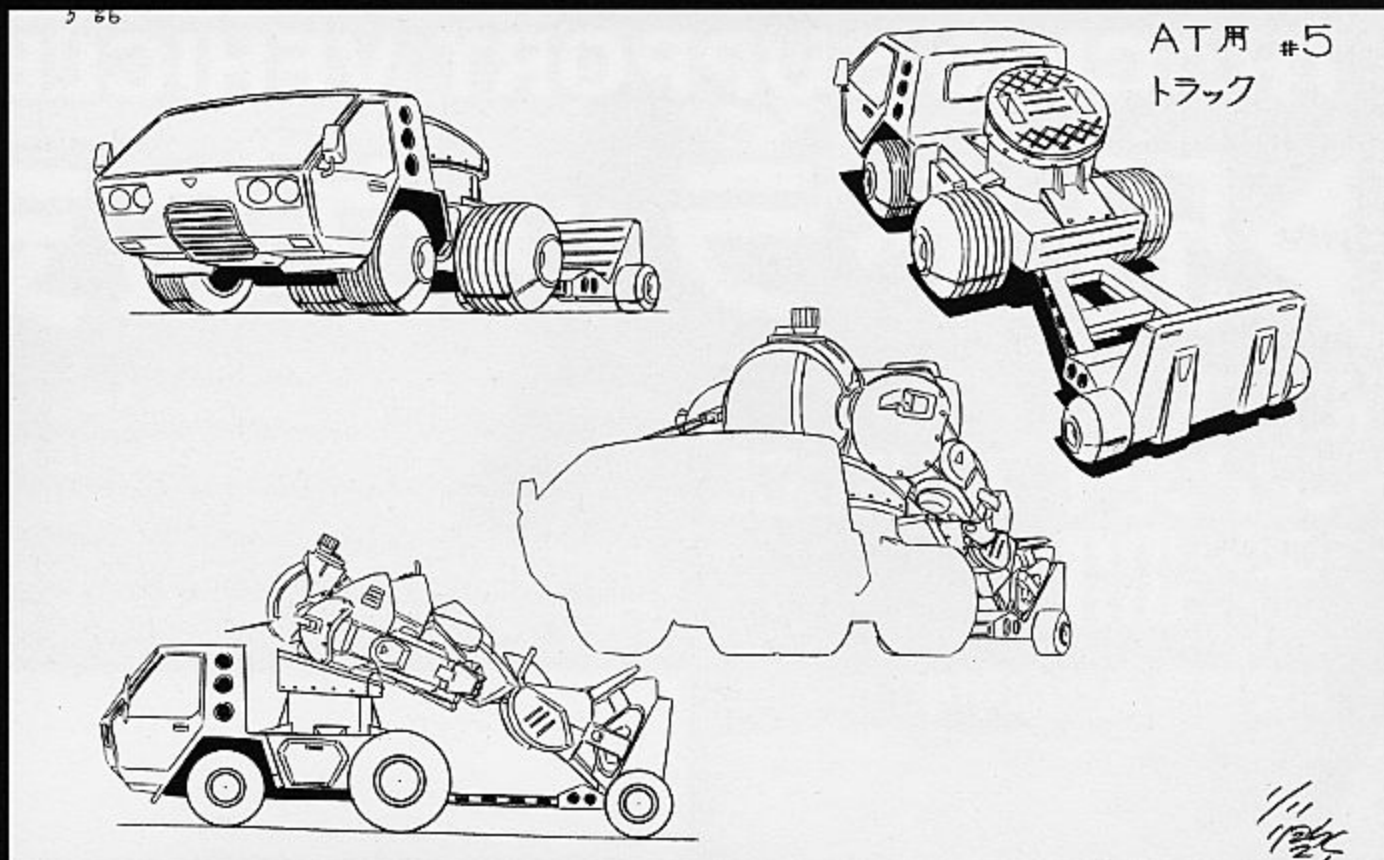


8輪オールステアリングとRBO (Run By Out) 機能により、悪路での走行能力を高めたAT輸送トレーラー。輸送可能なATは4機前後となっている。

クエントで使用されているAT輸送トレーラー。クラスにもよるか数機のATの輸送が可能で、AT以外の貨物の輸送にも使われている。

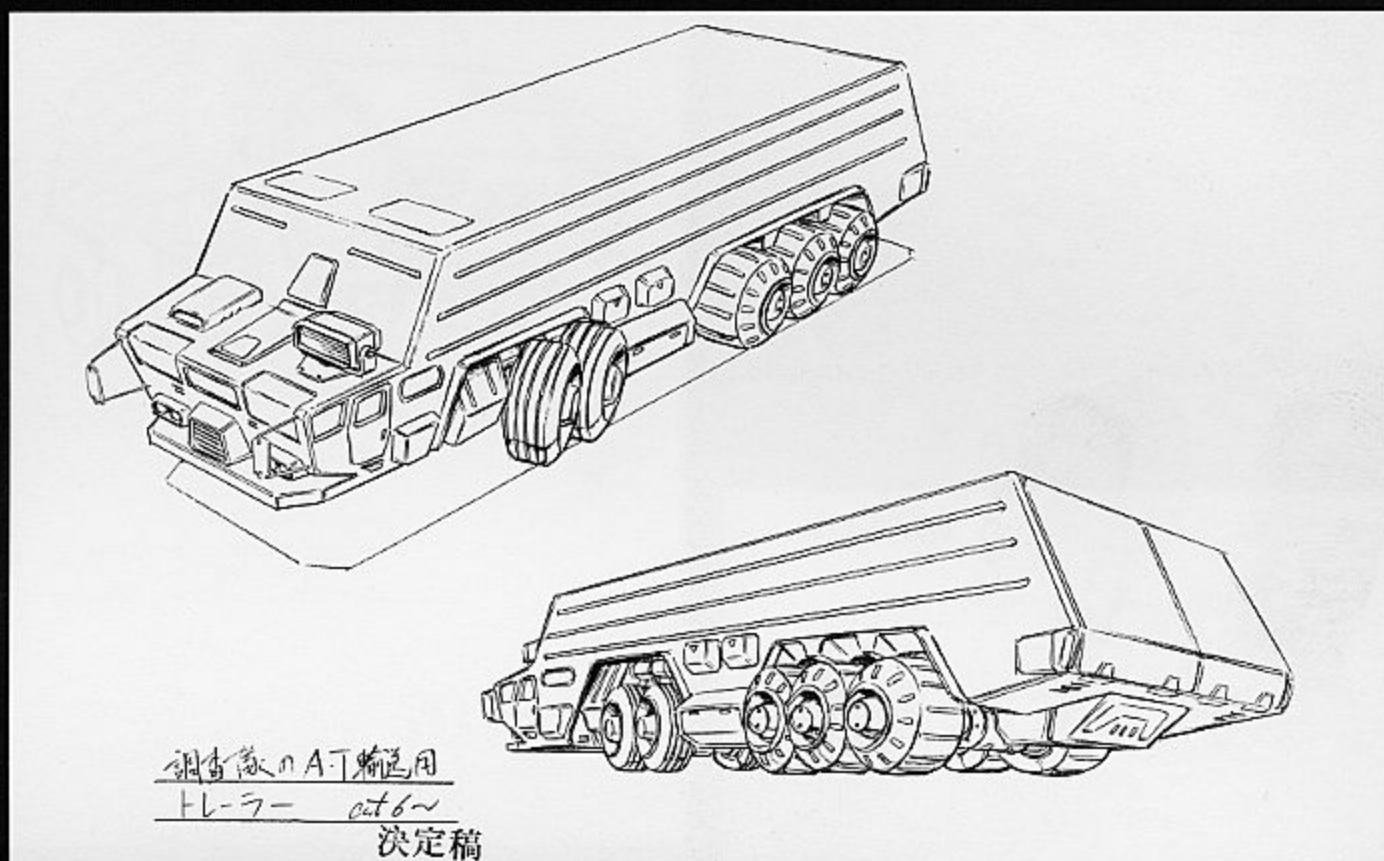
## ⊕ トーラム10カスタム

AT1機のみを搭載する小型トラック。故障したATを近距離輸送する時に使う車輛で、民間用のトラックがベースとなっているため、戦時運用上の性能は備えていない。しかしその使い勝手の良さから、市街地での戦闘に組み込まれた例もある。たとえばウド崩壊に前後した戦闘では、予備の機体を関係者に届けたと考えられている。



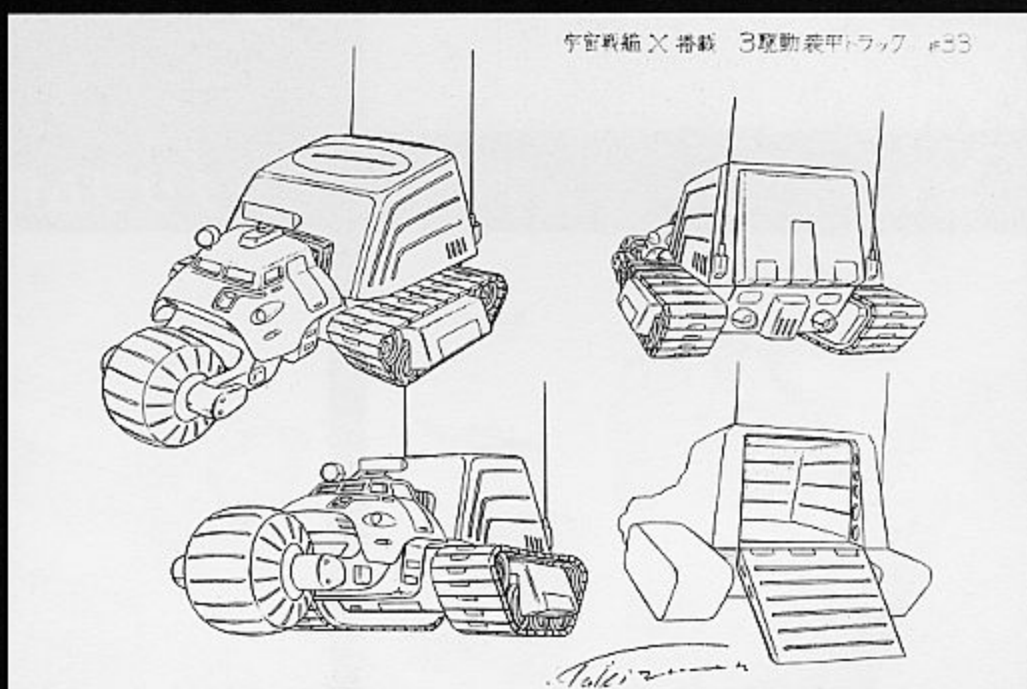
## ⊕ AT輸送用トランスポーター

ハードトップの屋根を持つAT輸送用トレーラー。降着状態のATを6機搭載可能で、後部ハッチが展開時にはそのまま斜路になる構造を取っているため、緊急時には降着状態のまま発進させることも容易。その積載量を生かしたATの補給やAT部隊の長距離移動が主な任務だが、耐候性も高いために調査任務に使用される場合もある。



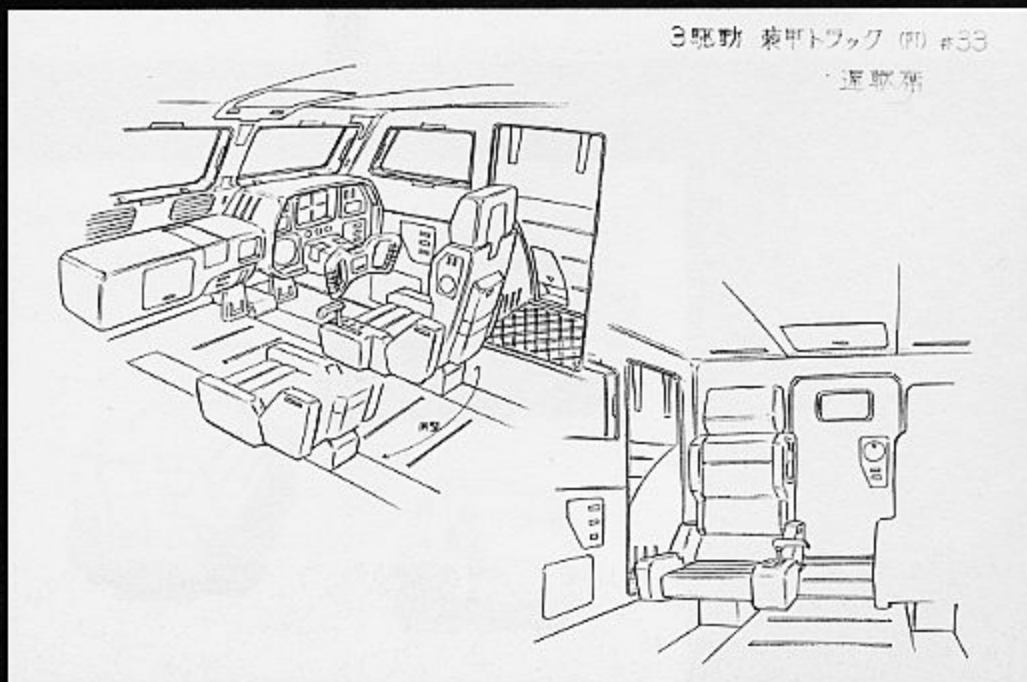
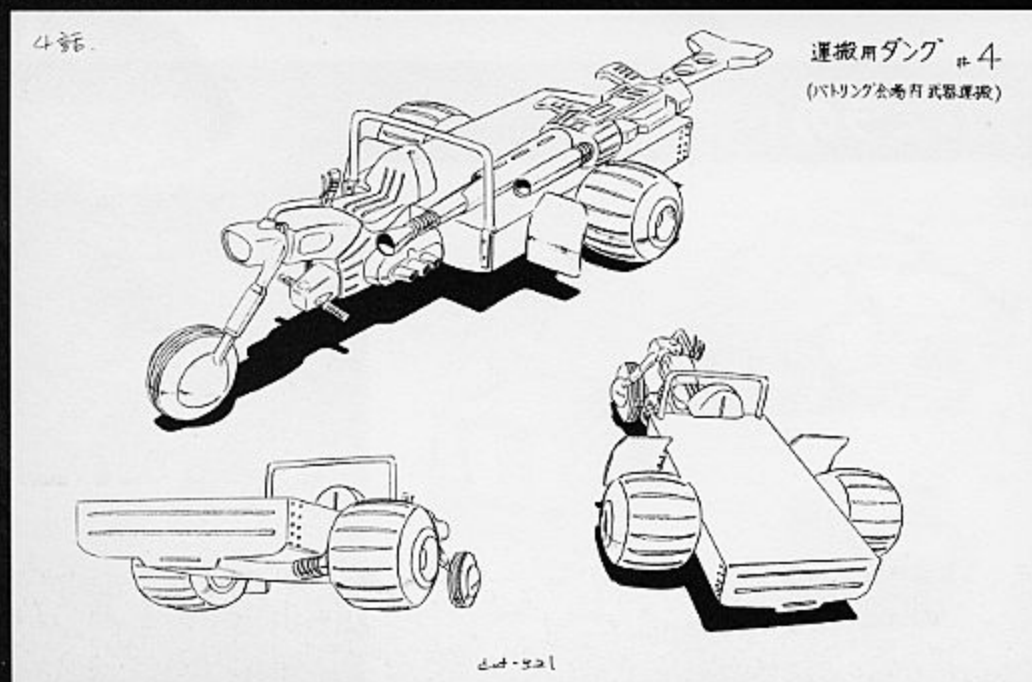
## ⊕ 3輪駆動装甲トラック

巨大な前輪+キャタピラという構成の特殊車両で、ATを2機搭載する能力がある。非武装だが装甲は厚く、またコックピットは気密式であるため極限環境にも耐えられ、居住性も良好。長期間の探査任務などでもパイロットの疲労は最低限に抑えられる。



## ⊕ 運搬用ダング

これはAT本体ではなく、ATの武装のみを運ぶ車両。元々は基地内で使われる重量物用軽便運搬車の流用で、これでも立派な軍用車両である。パトリングの会場でリアルバトル用の火器を運ぶ時に使用されていた。



⊕  
陸戦車両編  
⊕

# TRACK & SUPPORT VEHICLE

## FILE 53 トラック & 支援車両

### TRACK & SUPPORT VEHICLE

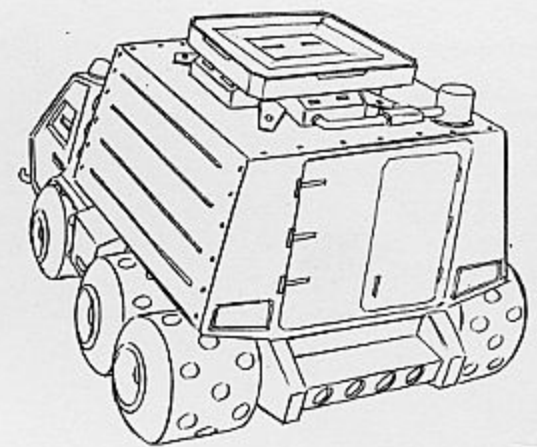
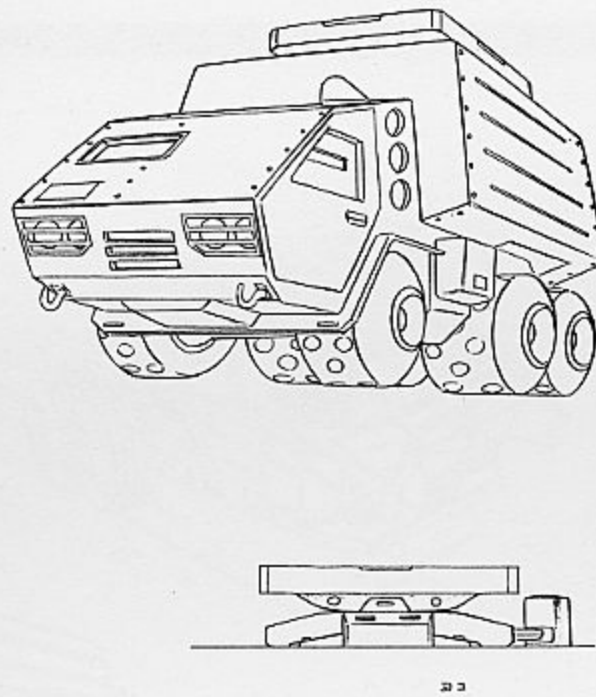
軍隊というシステムを戦場で機能させるために最も重要なのは、少なくとも陸上戦においては主力兵器ではない。それは補給物資そのものであったり、物資を移動させる手段であるトラックであったり、適切な命令を部隊に伝える通信機であったりする。これらの支援車両は地味な存在かもしれないが、その戦略的な価値は時に主力兵器をも上回る。軍隊の後方を支えるトラックや支援車両の数々をご紹介します。

#### 治安警察通信装甲車

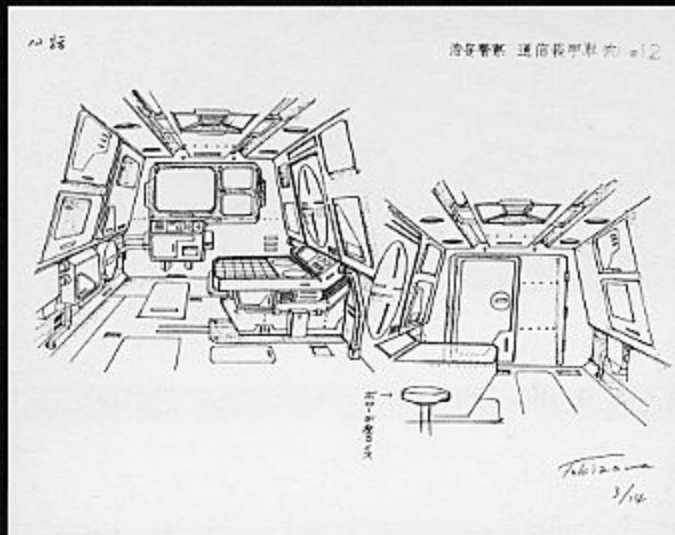
治安警察の保有する、トラックを改造した支援車両。装甲トラックの荷台に指揮通信の機器を設置し、限定的ながら移動司令部としての機能を持つ車両となった。ウド近郊でのみ使用され、指揮時には本部のサポートを前提としていたので、かなりの威力を発揮したようだ。

ウド近郊 治安警察 通信装甲車 #12

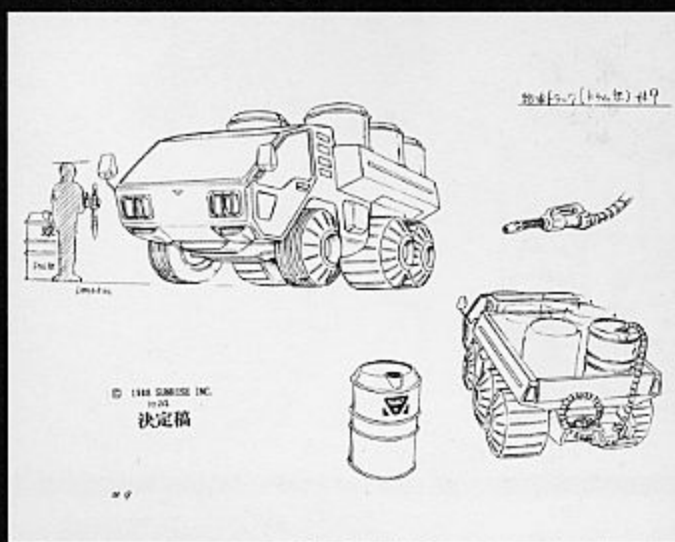
12話



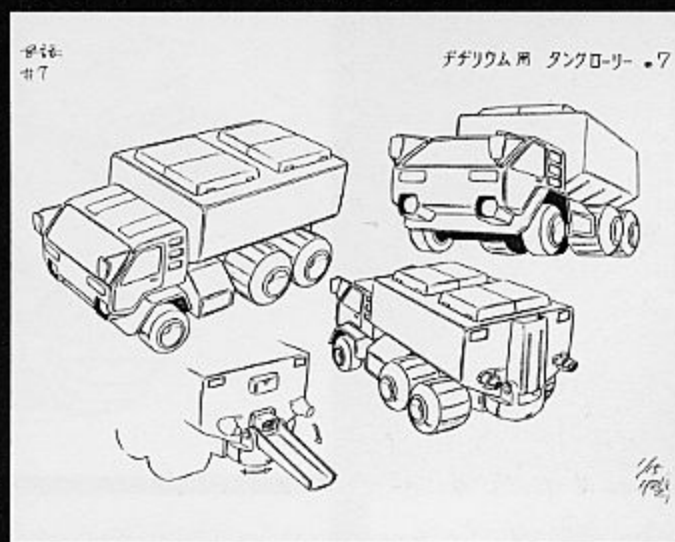
Takizawa



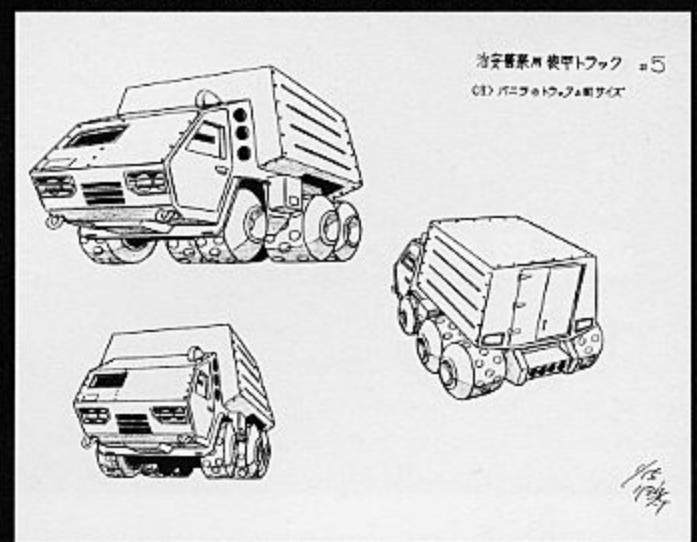
#### 給油トラック



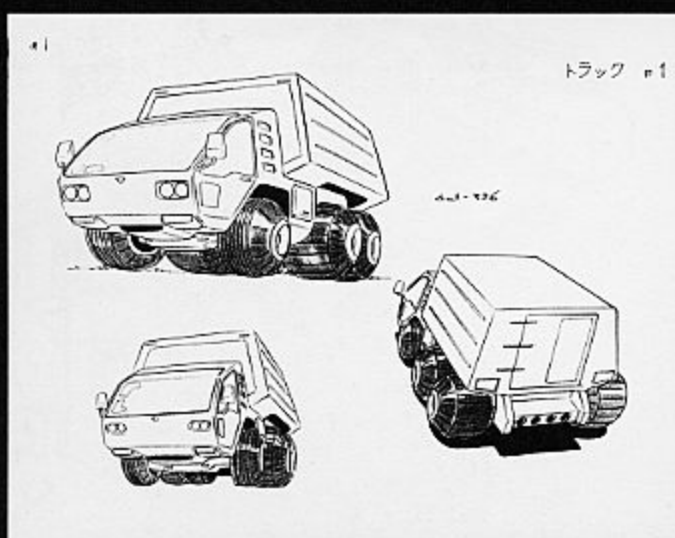
#### チチリウム用タンクローリー



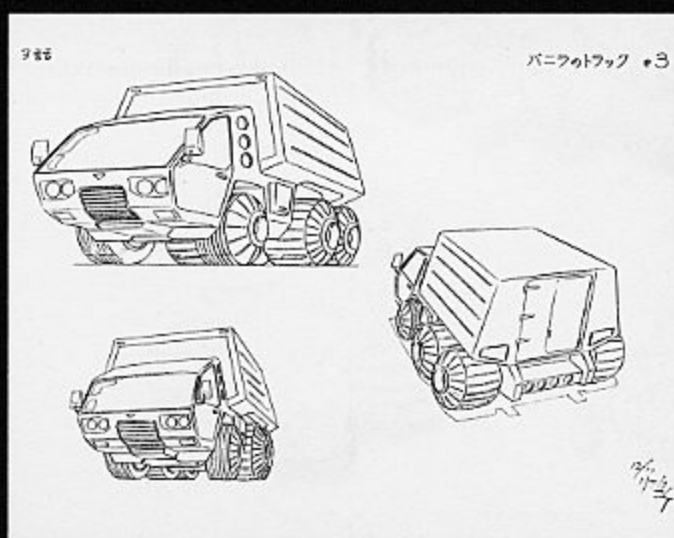
#### 治安警察装甲トラック



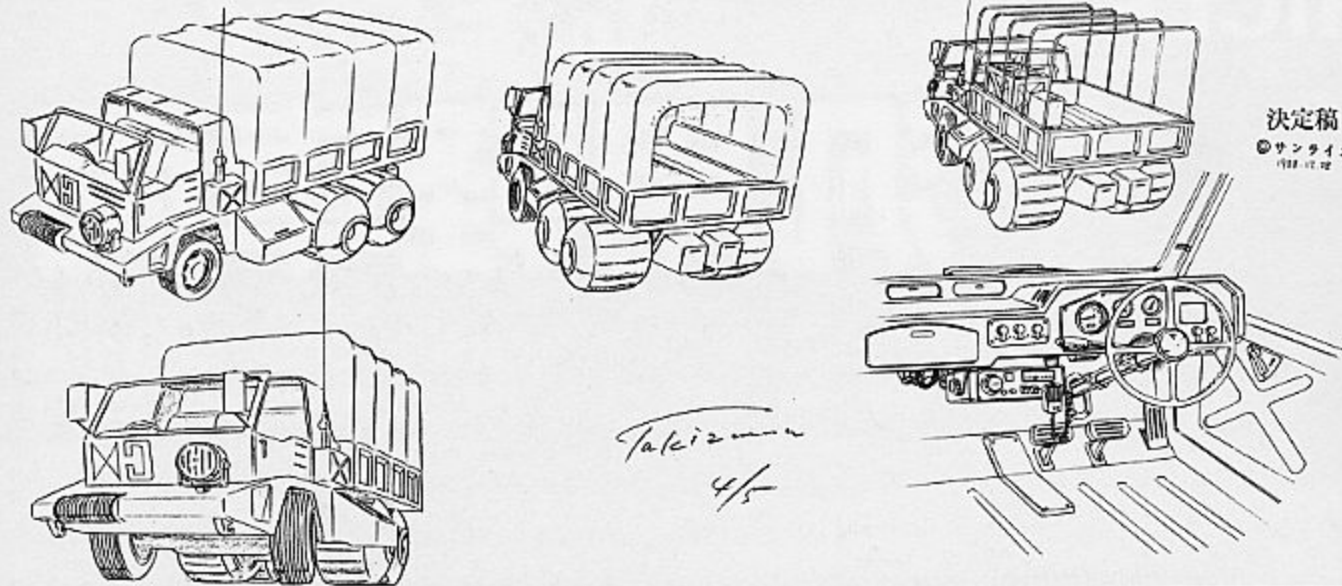
#### トラック



#### バナラのトラック



EX-10 配給 軍用トラック



決定稿  
©サンライズ  
198.11.22

Takizawa  
4/5

### MTV-26-T ビッグポーター

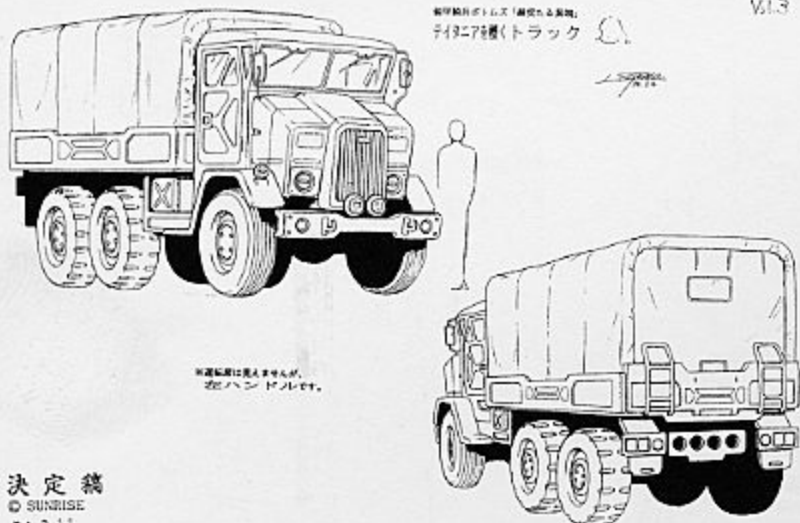
クメン国内などで多用されているトラック。民間用と軍用が共通パーツで構成されており、軍用は樹脂性の車体に耐弾シートを張っただけのものである。

### マナウラ軍 軍用トラック

マナウラ軍でかなりの長期に渡って使用され続けている軍用トラック。マニュアルシフト、左ハンドルという仕様。

新甲斐駒ボトムズ「藤原の馬場」  
子327種(トラック)

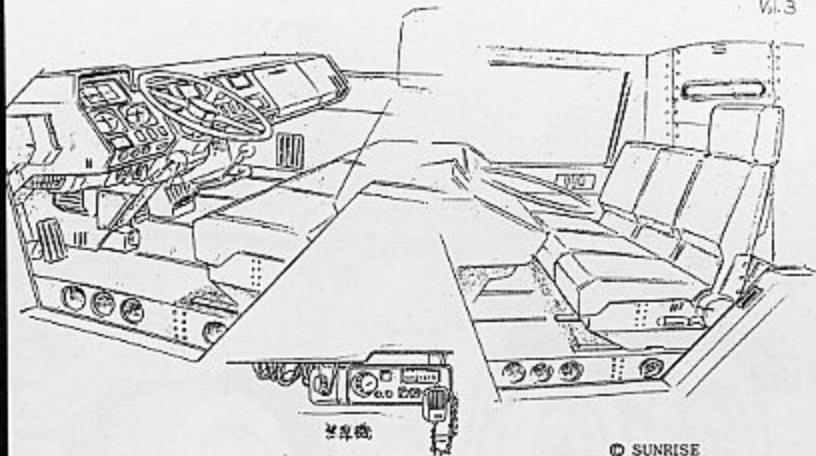
94 ヒロ  
SV1  
W.3



決定稿  
© SUNRISE  
94.3.11  
94.3.21

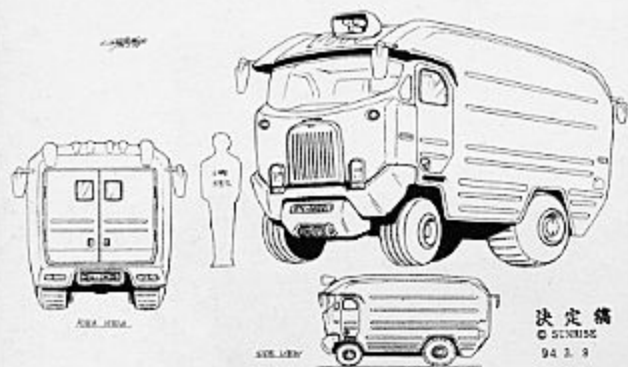
新甲斐駒ボトムズ「藤原の馬場」  
トラック・運転席参考

94 ヒロ  
SV1  
W.3



© SUNRISE

### 野戦救急車

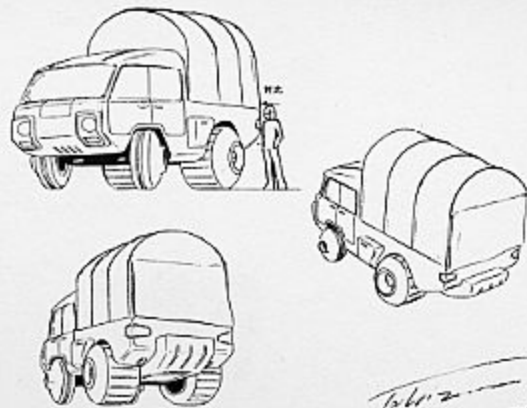


決定稿  
© SUNRISE  
94.3.9

マナウラ軍の救急車両で、同軍のトラックとはサイズが違うが同じシリーズ。個々の部隊ではなく病院ごとに配備されているようだ。

### ハゼガーのトラック

ハゼガーのトラック #41



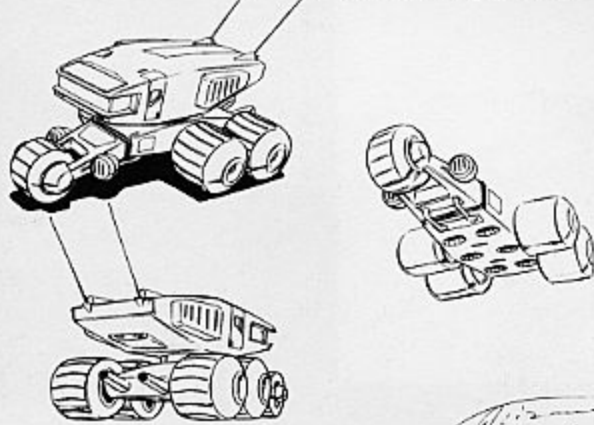
Takizawa  
7/24

クメントで使用されている標準的なトラックの1つ。基本的にゴメル市内でのみ使用され、砂漠地帯に乗り出すことはほとんどない。

### 5輪探査車

特徴的な構成の5輪により不整地走行能力を高めた、パララントの探査車両。特殊なもので数は多くないようだが、この種の支援車両は常に必要とされている。

パララント軍 5輪探査車 #39

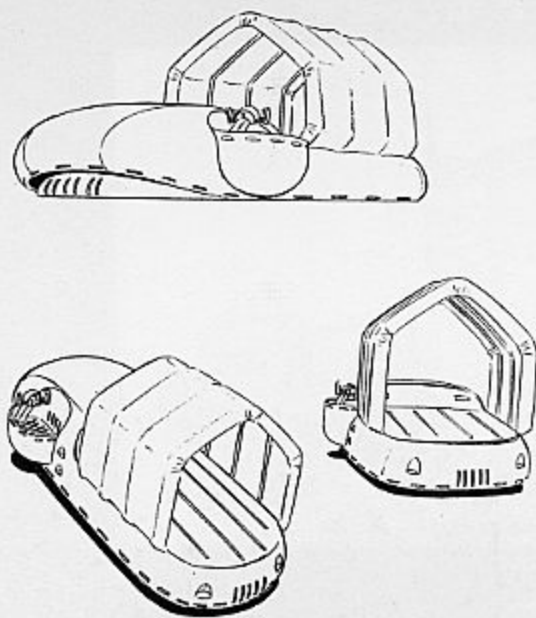


Takizawa  
11/19

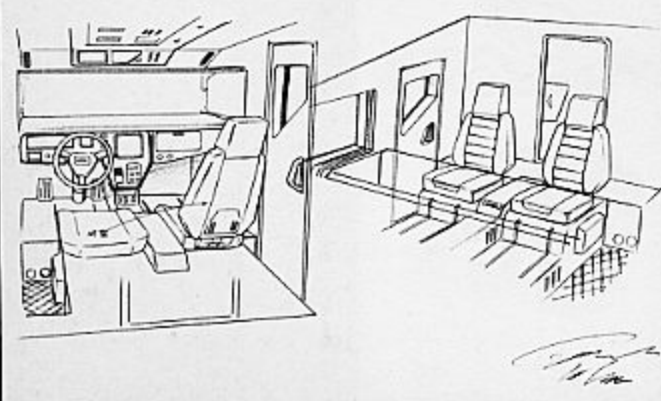
### サンドランナー 各種

砂漠地帯用の車両の多くは補給が効かないと言う事実から、トラックとしての機能を備えている。また地方や砂質、駆動方式などにより、多様なバリエーションが存在している。

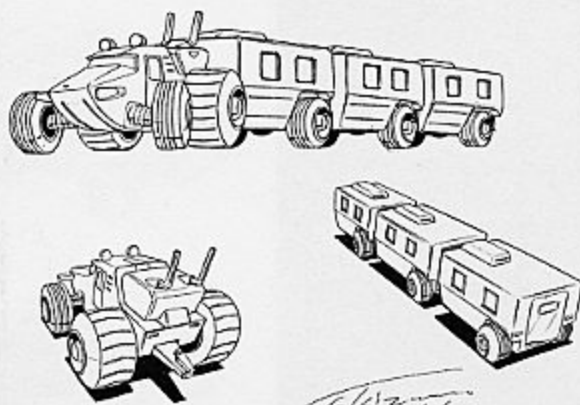
ル・シャゴの サンドランナー #41



パララント軍 5輪探査車(別) #39  
運転席

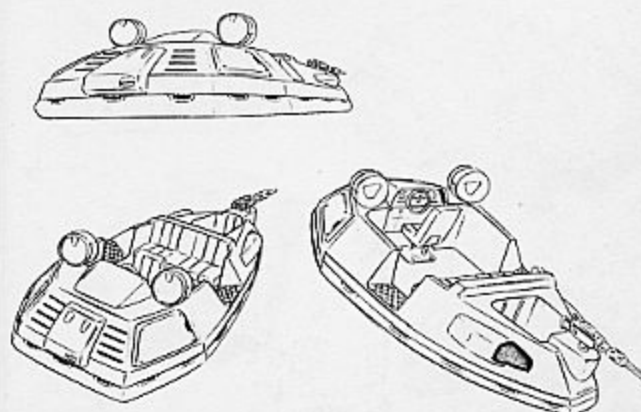


ゲーゴの サンドランナー #41



Takizawa  
7/18

取寄部隊 アロン・グランド 砂漠 サンドランナー #41



# SOFTSKIN VEHICLE

FILE 54

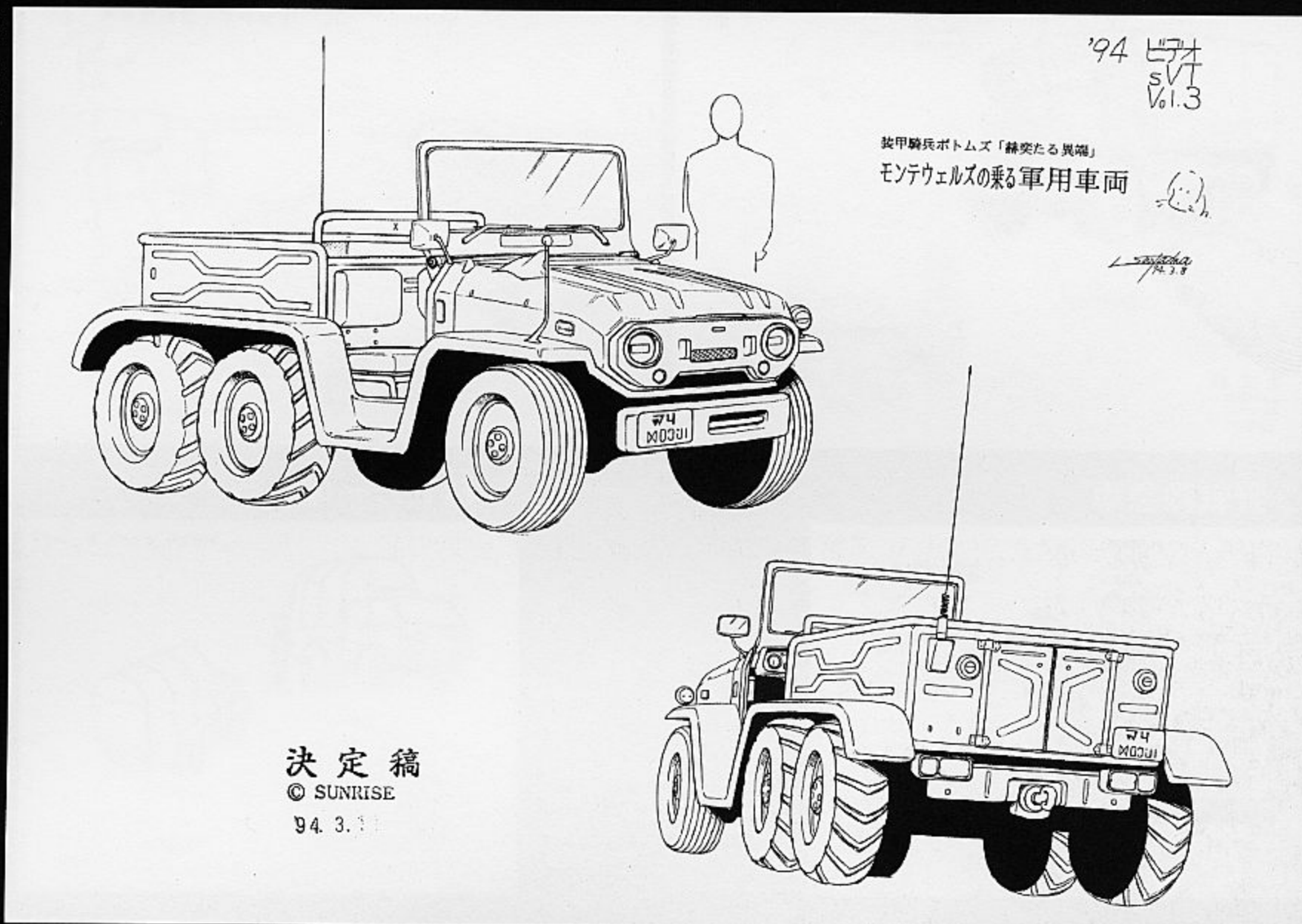
# 汎用軽車両

SOFTSKIN VEHICLE  
FILE >>>

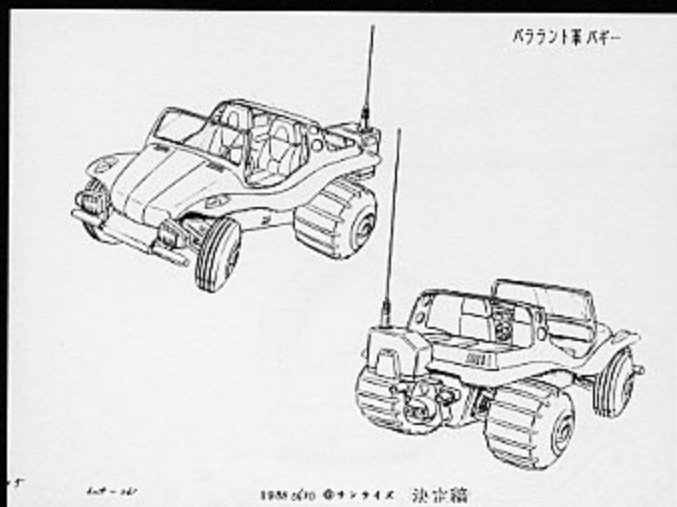
連絡、偵察、そして兵士の足として大量に使用される軽車両。これらは最前線から後方に至るまで、各所で大量に必要とされる兵器である。必要とされる要素そのものはどれも似通っているため、各国軍ごとの特色が出やすいメカニズムでもある。もっとも、最低限の性能があれば長期に渡って更新されない兵器でもあるから、現在の特色かどうかは判断が難しくはあるのだが。では、この類似したメカニズムを並列して見ていくことにしよう。

## ⊕ マナウラ軍ジープ

マナウラ軍で愛用されている6輪タイプの軍用車両。マナウラに限らず、星系内では、6輪や8輪の車両が足として相当に重視されている。

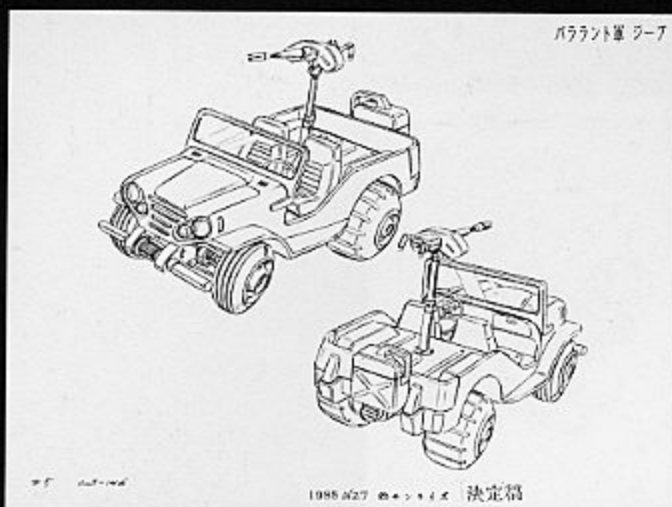


## ⊕ バラント軍バギー



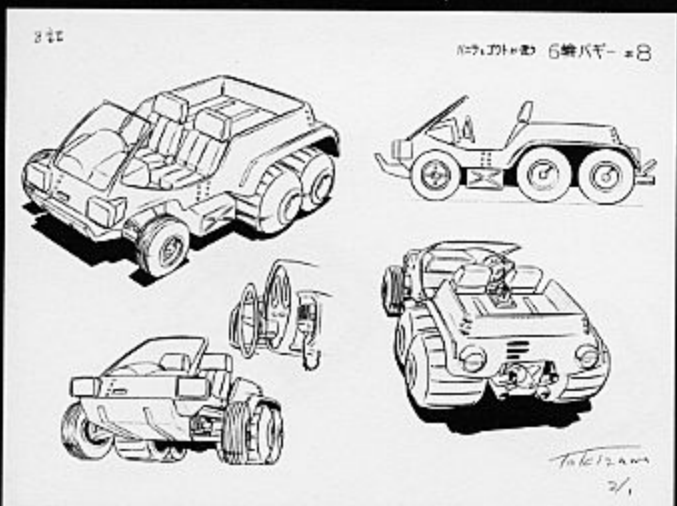
偵察用としてスピード重視となっており、強力な無線機も搭載している。しかし武装はなく、構造上車載兵器の装備も困難である。

## ⊕ バラント軍ジープ



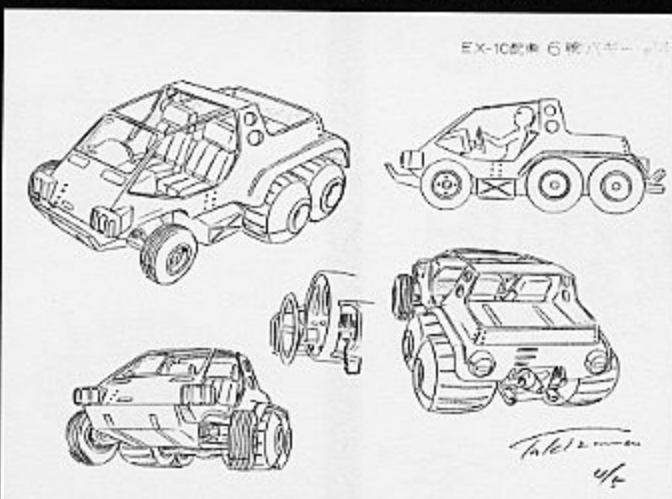
汎用性とコスト、そして信頼性を重視した軽車両。警備や連絡、パトロールなどには不可欠な車両で、機関銃程度ならば装備できる。

## ⊕ 6輪バギー



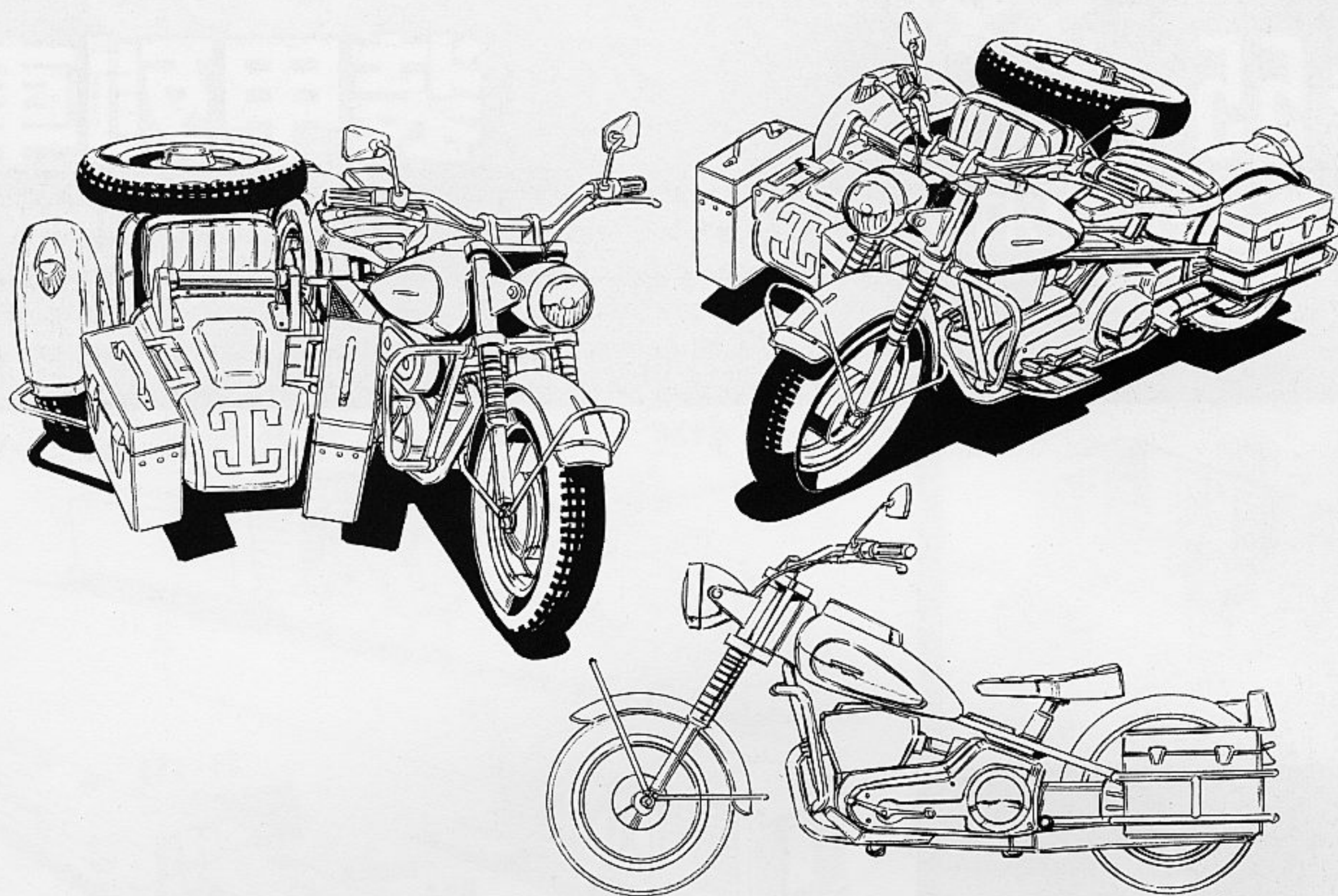
こちらはメルキア全土で愛用されているタイプ。メルキア軍も使用しており、性能はリトルパーサーと同等だが、屋根のない分快適さは勝っている。

## ⊕ MEV-31-T リトルパーサー



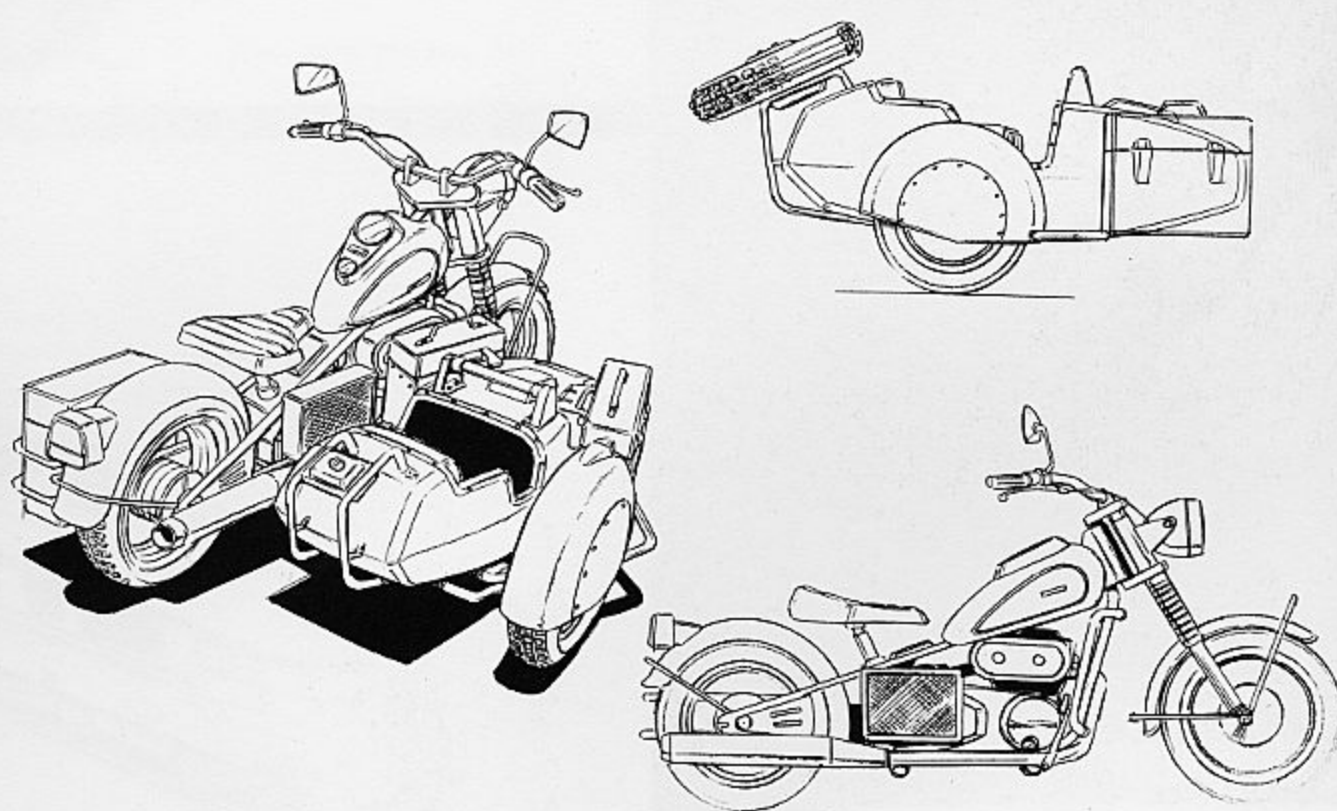
クメン国内、特にEX10近郊で軍民間わず足として使用されている6輪バギー。FRP製で軽量、操作性も燃費も悪くない。定員は2名。

軍用バイク (サイドカー付き) 1



1988 880404 ©サンライズ 決定稿

軍用バイク (サイドカー付き) 2



1988 880404 ©サンライズ 決定稿

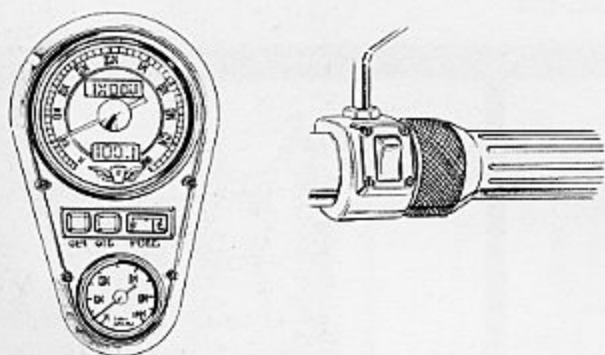
### ギルガメス軍軍用バイク

ギルガメス軍が偵察や連絡に多用する軍用バイク。サイドカー付きだがサイドカーの部分に動力はないタイプで、現用兵器の中では最古の設計なのではないかと言われるほど旧式。事実、ビッグボアの単気筒エンジン、最低限の機能のみをタンク上に配置した計器、極端に保守的なフレーム等々、化石のようなメカニズムの塊である。

### 軍用バイク各部

メーター類やキルスイッチなどの各部の詳細。いずれも新世代のバイクであるダンクより遅れたメカニズムだが、その分要素ごとの信頼性は高い。性能的には全体的に余裕がなく武装が施し難い、乗り心地が悪いという2点以外は実はダンクと同水準を維持している。

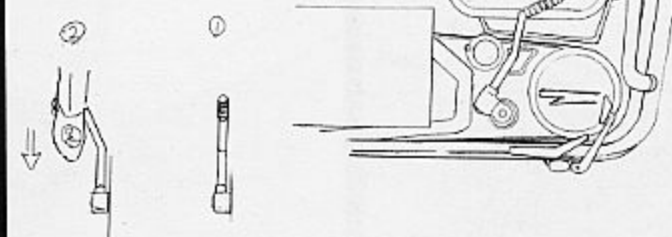
サイドカー補足設定



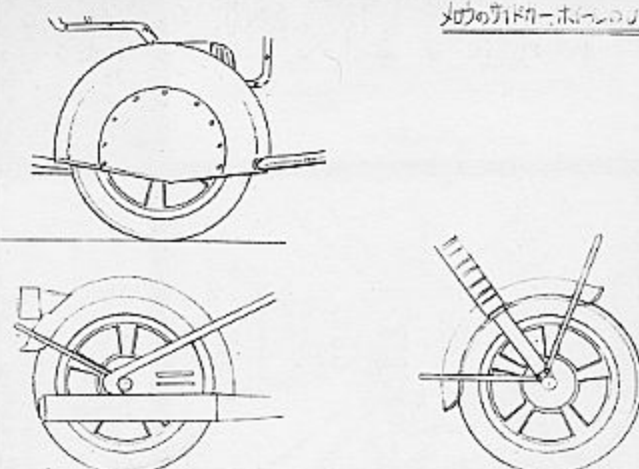
© 1988 SUNRISE INC. 021

決定稿

エンジン補足設定



メカのサイドカーホールの設定



1988 ©サンライズ

決定稿

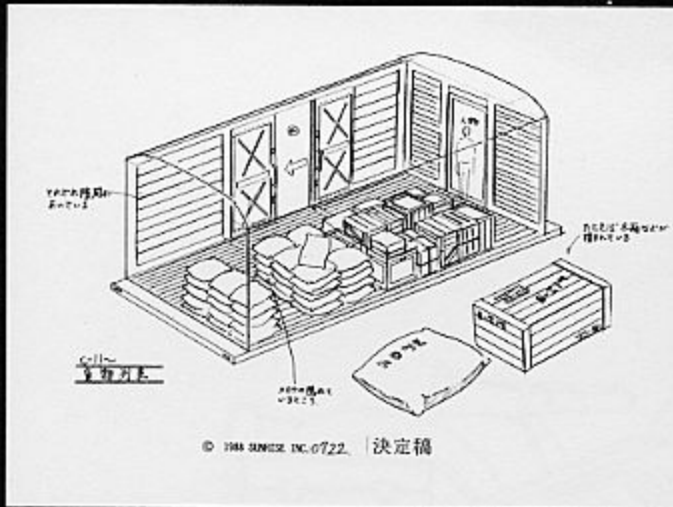
# ARMORED TRAIN

FILE 55

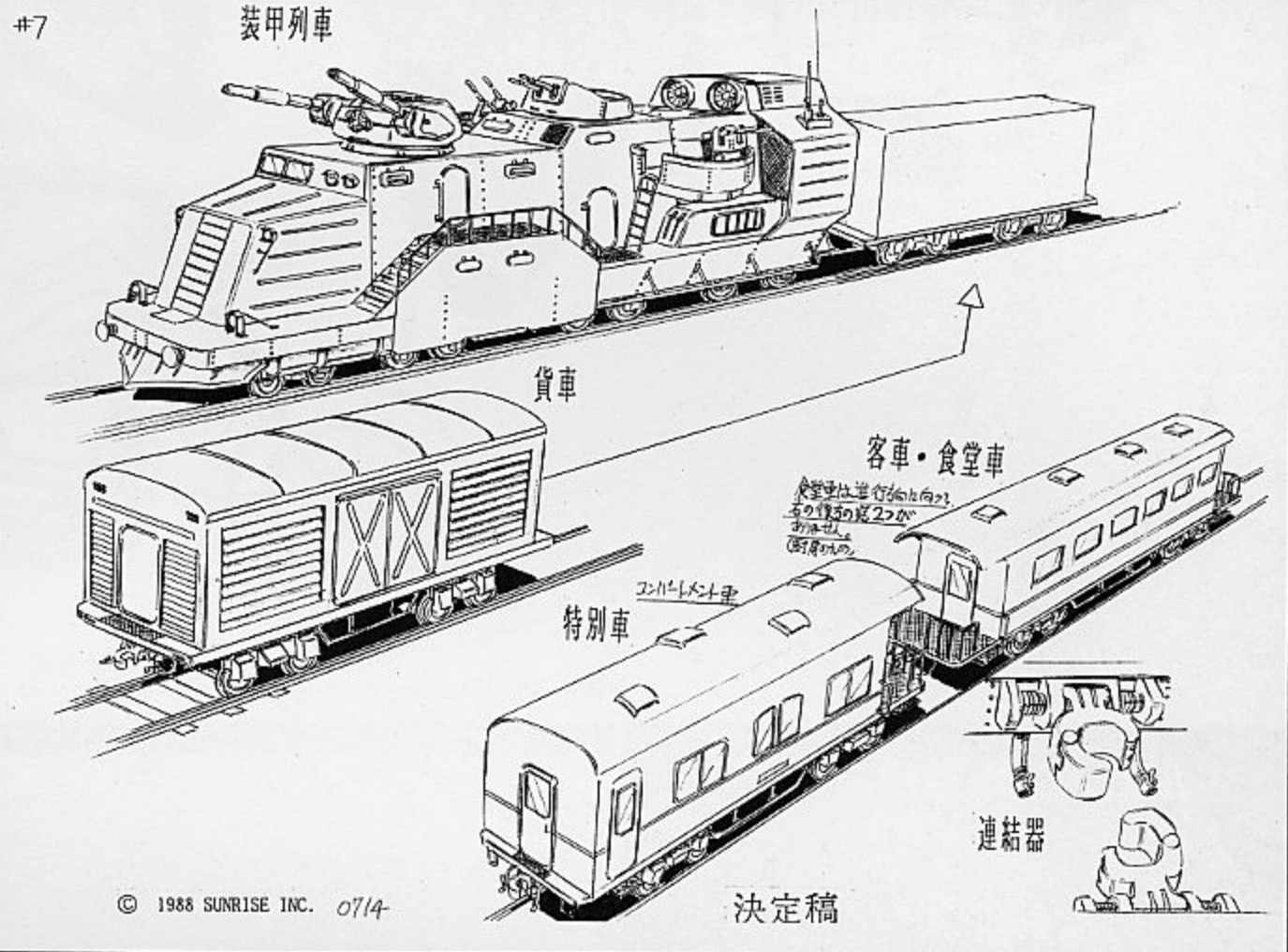
# 装甲列車

ARMORED TRAIN  
FILE >>>

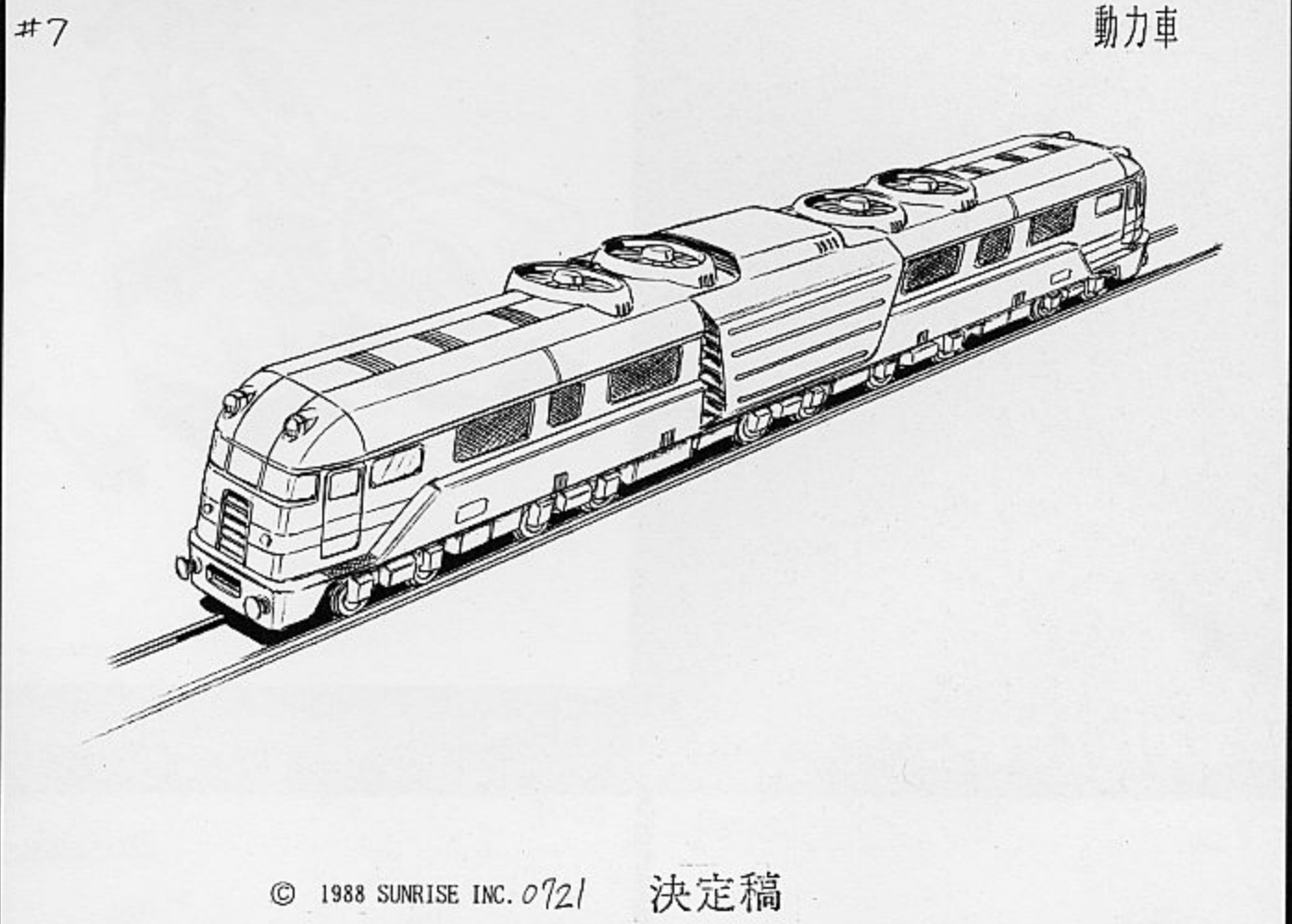
メルキアに限らず、ほとんどの有人惑星では何らかの軌道式交通機関が使用されている。その軌道を、あるいはその上を走っている車両そのものを守る場合に登場する兵器の一つが装甲列車だ。軌道の上を走るだけであるため究極の局地戦用兵器とも言え、あまり戦史の上に出てくる存在ではないが、特筆すべき存在ではあるだろう。ここでは、バンデットの襲撃事件で注目されたパラシュトラ山脈横断鉄道に連結された車両を紹介する。



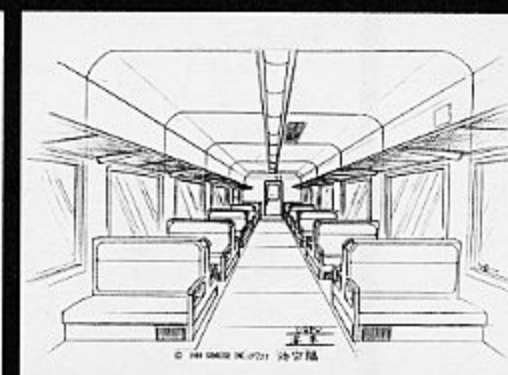
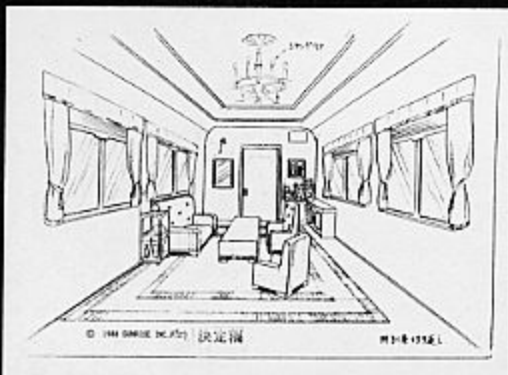
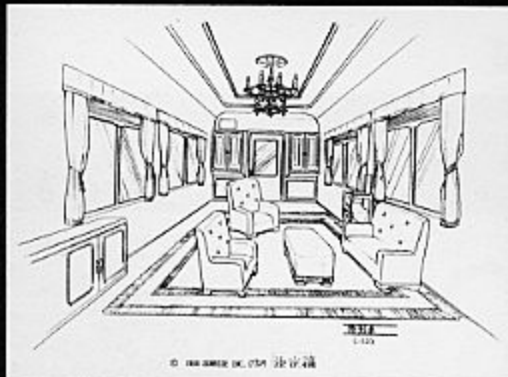
装甲列車（正確にはロッキン式重装甲軌道車）と各種の車両。装甲列車の砲塔には戦車と同等のものが使用されており、火力と火器管制能力は高い水準にあるようだ。



こちらは動力車。パラシュトラ山脈横断鉄道は電化されておらず、編成には自前の動力を持った動力車を必要とする。電化されていないのは、復旧を容易にするため。



## 車両内部



## GUN BOAT FTEC >> 出

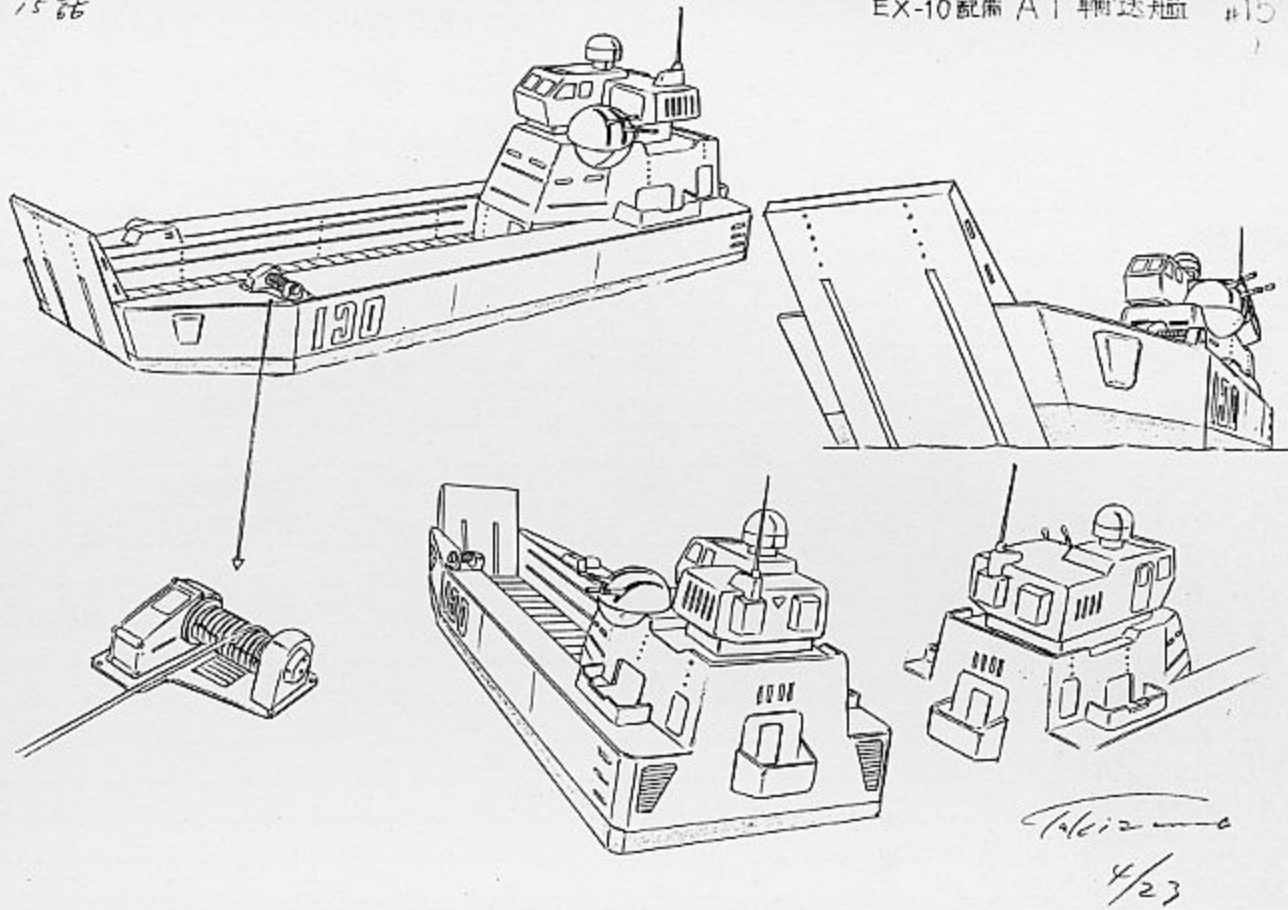
河川用の艦船は、その地形と河川の状況によって何が有効かは異なるが、使用できるならば大きな力となる。たとえば河川用艦艇を最も活用しやすい地形であるクメンの内乱ではビーラー、EX-10などの傭兵部隊を含めた政府軍共に、形は違えど河川用艦船を使用し、双方が大きな戦果を挙げている。ここでは、ビートル系の水陸両用ATの使用によってもっとも戦術的な河川利用を行ったとされる、EX-10の使用艦艇を取り上げていこう。

### ⊕ AT輸送艦

主にATの補給任務などに使われているが、最低限の武装も施されており、強襲揚陸艦的な作戦もこなせる艦。正面のランプからAT自身に歩かせて乗り込ませるほか、港の設備によって積載することもできる。河川用の輸送艦としては限界に近いサイズであるらしく、平底構造でダメージが薄いとはいえ、何度か座礁も経験している。

15話

EX-10配備 AT輸送艦 #15

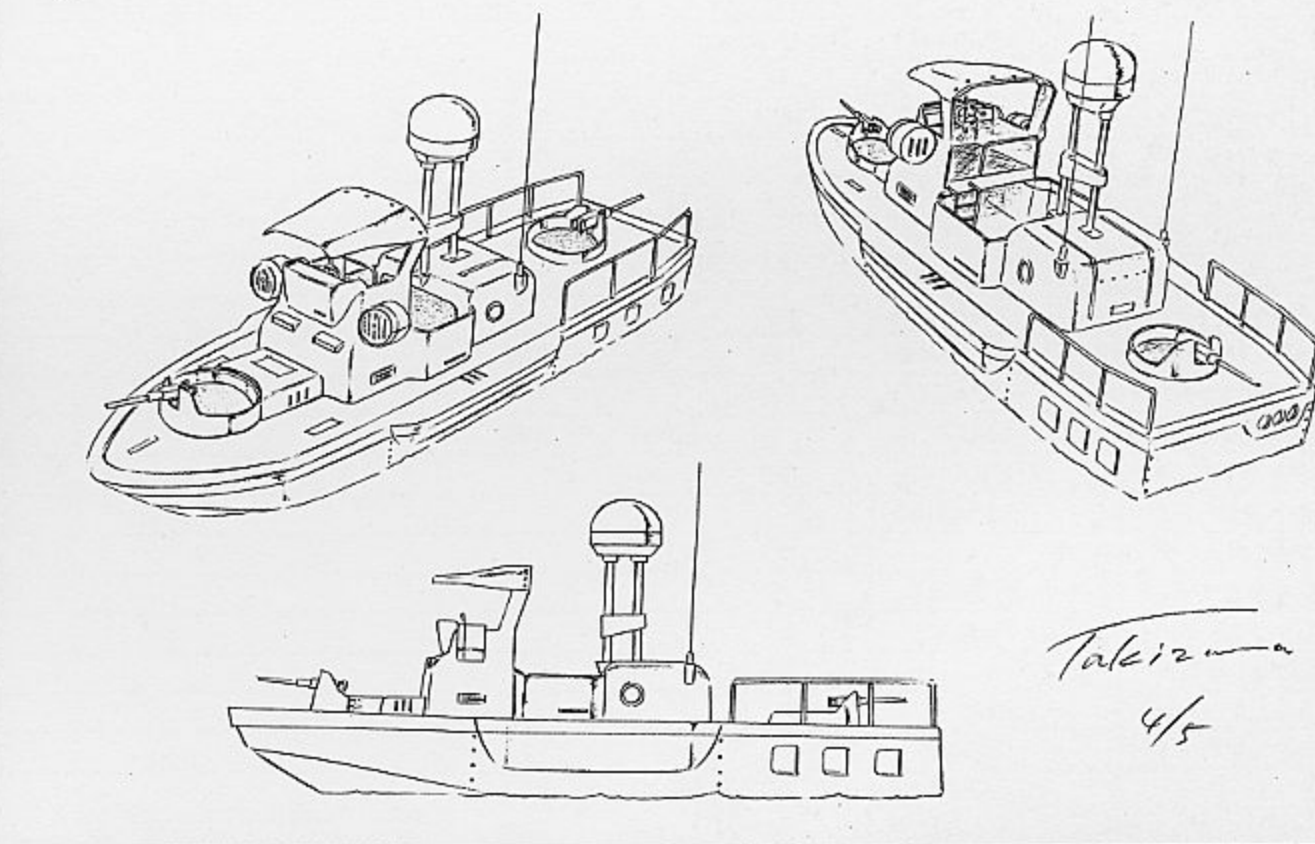


### ⊕ ガンボート

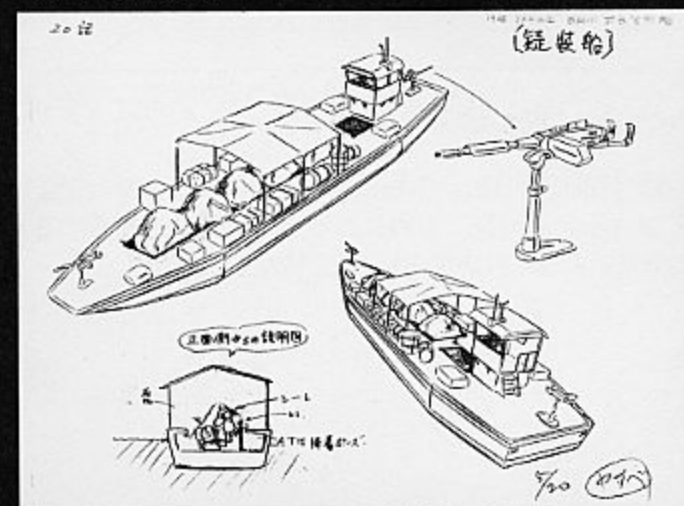
河川用の護衛艦的な存在で、輸送船の護衛からパトロール、水中・水際の火力支援まで多彩な任務をこなす汎用艦艇。クメンのように入り組んだ水系を持った土地では非常に有効な戦力だが、ATの発達によりその価値は低下しつつある。特に水中行動が可能なタートル系などへの対抗は難しく、近い将来に何らかの対策が必要になる。

14話

EX-10配備 ガンボート #14

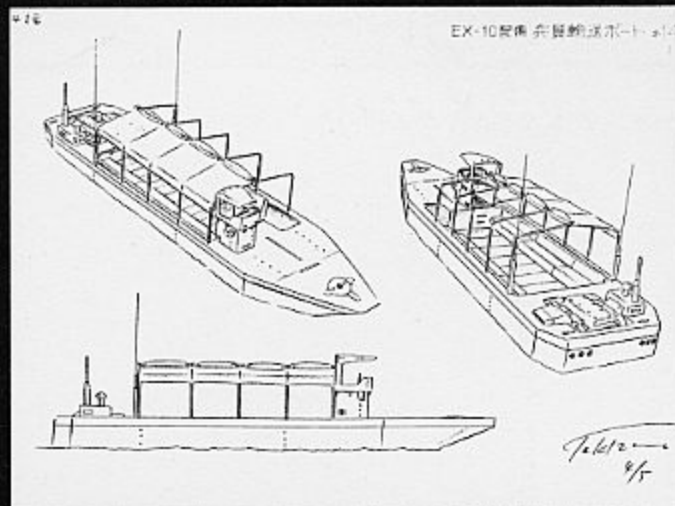


### ⊕ 偽装船



EX-10の特殊部隊が民間船に擬装し、特殊作戦を行った際に利用したもの。作戦中ラモー寺院を襲撃した際に撃沈されている。

### ⊕ 兵員輸送用ボート



EX-10に新兵を輸送する小型船。本来は内火艇でまともな戦力ではないが、搭載していた小火器でゲリラの攻撃を撃退した例もある。

## 装甲騎兵用銃火器カタログ

元々種類豊富だったAT用の銃火器は、数々の作品により現在ではその数はかなりのものとなっている。そこで、それらの兵器に対する理解を促進するため、簡単なカタログを作成してみた。判明しているデータは可能な限り投入してあるので、他の火器類と比較してほしい。

AT用兵器名称	形式番号	ページ	全長(mm)	重量(kg)	炸薬	炸薬総量(g)	装弾数	口径(mm)	弾種
ミッドマシンガン	GAT-19	40	1866	740	ロテアアップCEP22/11	5.2	20	30	
ヘビーマシンガン	GAT-22	9	3274	1010	ロテアアップCEP22/11	8.6	120	30	
ヘビーマシンガン改	GAT-22-C	21	1964	818	ロテアアップCEP22/11	8.6	120	30	
アサルトライフル	GAT-40-C	44	2450	807	ロテアアップCEP22/11	8.5	32		
大型ガトリングガン	GAT-42	24							
ブラディライフル	GAT-45-RSC	35	3421	1425	ロテアアップCEP22/11	8.9	150	30	
ブラディライフルショートバレルカスタム	GAT-45-RSC-C	30			ロテアアップCEP22/11	8.9	150	30	
ヘビーマシンガンBS	GAT-47	39							
ペンタトルーパー	GAT-49min	9	1440	410	ロテアアップCEP28/8	1.1	6	50	ロケット弾・50mm徹甲弾
ショットガン		53							散弾
カタバルトランチャー	G・BATM-04	59	1866	821	ムースンN-53F		15		
ガトリングガン	G・BATM-05	61							
ロッドガン	GAT-35	9	3785	2164	-	-	-	-	エネルギー弾
ハードブレードガン	G・BATM-02	59	3362	2638	-	-	-	-	エネルギー弾
ヘビーレーザーキャノン		43			-	-	-	-	
ハイパーフレイムスロウワー		43			-	-	-	-	
フレイムスロウワー	FTAT-16	49	1366	132	ロテアアップCEP05/10(燃料)	-	-	-	
ガトリング銃	GG-03	9		156			390	13	
サイドガトリングガン	GG-06-RR	11							
サイドガトリングガン		26							
イーグル	HMAT-31	24			-	-	2		ミサイル
ハンディミサイルランチャー	HMAT-38	47	3421	729	-	-	8		HC-7B(ホーミング)・VM-99D(核弾頭)
ハンドロケットランチャー	HRAT-23	47	1490	305	ロテアアップCEP28/8		11	50	ロケット弾・50mm徹甲弾
ハンディロケットガン	HRAT-30	47	3553	621	-	-	44		PR5k~12k *
ソリッドシューター	SAT-02	9		161			11		
ソリッドシューター	SAT-03	9	3503	562	-	-	15	60	
アーム・ソリッドシューター	SAT-04	11							
ショルダーミサイルポッド	SMAT-32	47			-	-			ミサイル
ショルダーロケット弾ポッド	SMAT-36	9		245	-	-	9		ロケット弾
ショルダーロケット弾ポッド	SMAT-37	34			-	-			ロケット弾
ショルダーミサイルガンポッド	SMAT-38	9	2544	482	-	-	9		HM-6C(ホーミング)・MN-5C(通常弾体)・VM-99F(核弾頭、現在使用禁止)
ショルダーミサイルポッド	SMAT-39	13			-	-	6		ミサイル
ショルダーミサイルポッド	SMAT-40	11			-	-	7		ミサイル
12連ショルダーミサイルポッド		43			-	-			ミサイル
SMM2連装ミサイル	SSM-21	9		83	-	-	2		ミサイル
2連SMMランチャー	SSM-25	11			-	-	2		ミサイル
3連SMMランチャー		26			-	-			ミサイル
シュトゥルムゲベル	StG-3b	67							
シュトゥルムゲベル改	StG-5A	69							
ソリッドシューター	X・SAT-01	47	3908	981	-	-	36	50	
ハンディソリッドシューター	X・SAT-05	56	1258	385	-	-	96	30	
ハンディソリッドシューター	X・SAT-06	38	2384	689	-	-	67	30	
ドロップバズ・フォールディングガン		26							
3連スモークディスチャージャー		10					3		スモーク弾
2連スモークディスチャージャー		24					2		スモーク弾

\*スタンディングトータス用の専用銃。作中での登場は1度、秘密結社が使用したのみ。重量は弾体を含まない数字。また28話は総集編。

※完全に個々のATの固定武装になっているものは入っていない。原理上ありえない部分については「-」と表記。空欄になっている部分は現時点では不明であり、今後の研究によっては随時更新していただきたい。

WOTAKUS

AT完全設定資料集  
AT PERFECT ESTABLISHMENT DATA

# Aircraft/ Space Ship

航空/宇宙艇編



# ROTATION-WING AIRCRAFT

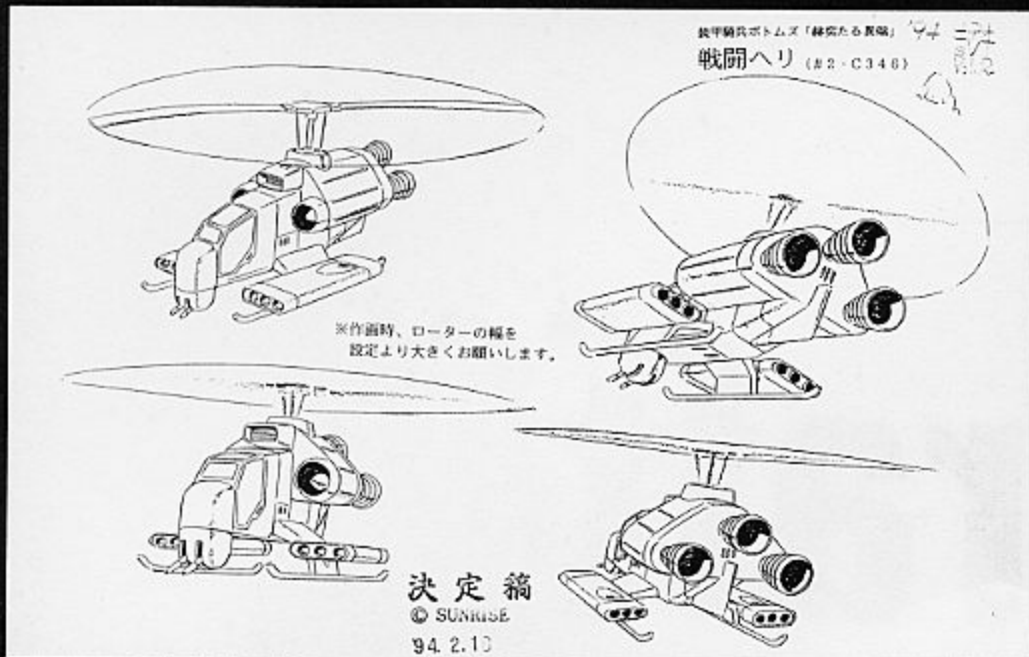
FILE 57

# 回転翼機

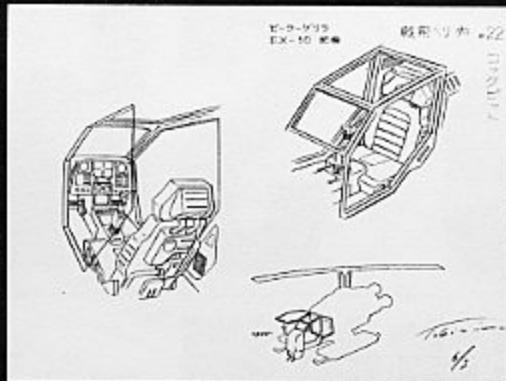
## ROTATION-WING AIRCRAFT

これはATの台頭以前からの傾向でもあったのだが、大気圏内用の航空戦力は現在、急速に戦術空軍化しつつある。これは一惑星上では戦略空軍など意味が薄いこと、戦略的な攻撃機能は宇宙戦力が担っていたという事実によるものなのだが、ATの台頭によってその傾向はかなり加速されている。ATの支援、輸送、対ATを中心とした対地攻撃が航空戦力の最も重要な役割となっている現在、これらの回転翼機は航空戦の主力だと言える。

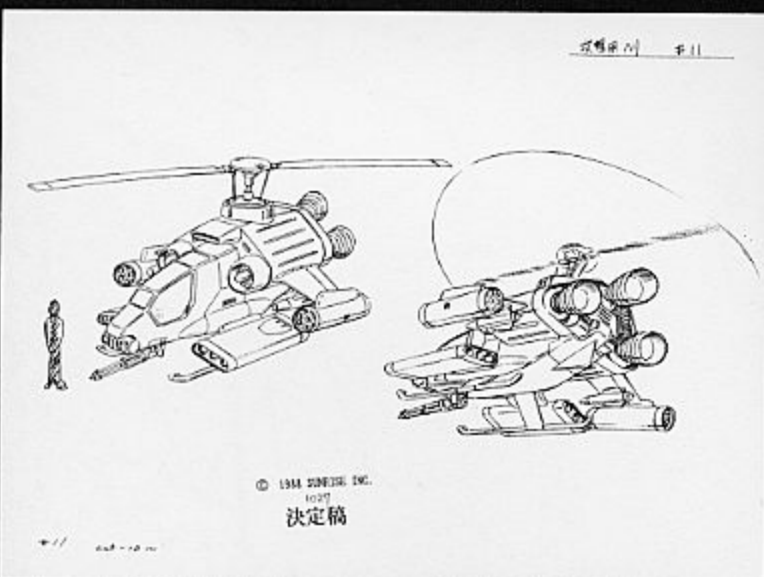
### ⊕ 戦闘ヘリ ファイヤーパロット



小型で使い勝手が良く、連絡や哨戒から対地攻撃まで、幅広い任務に使用されている。特にゲリラ戦に有効と評価されクメンでは多数が投入されていた。



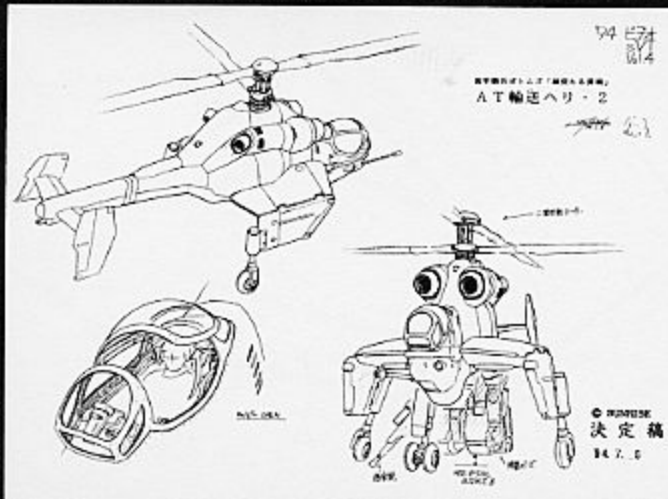
### ⊕ 重武装型



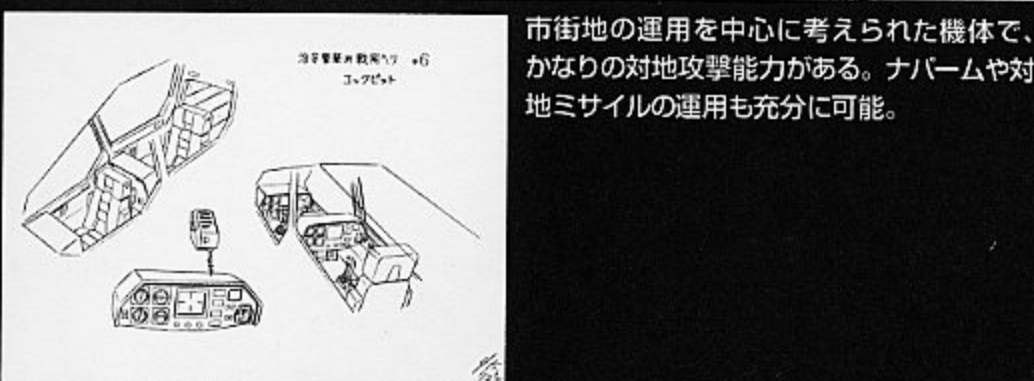
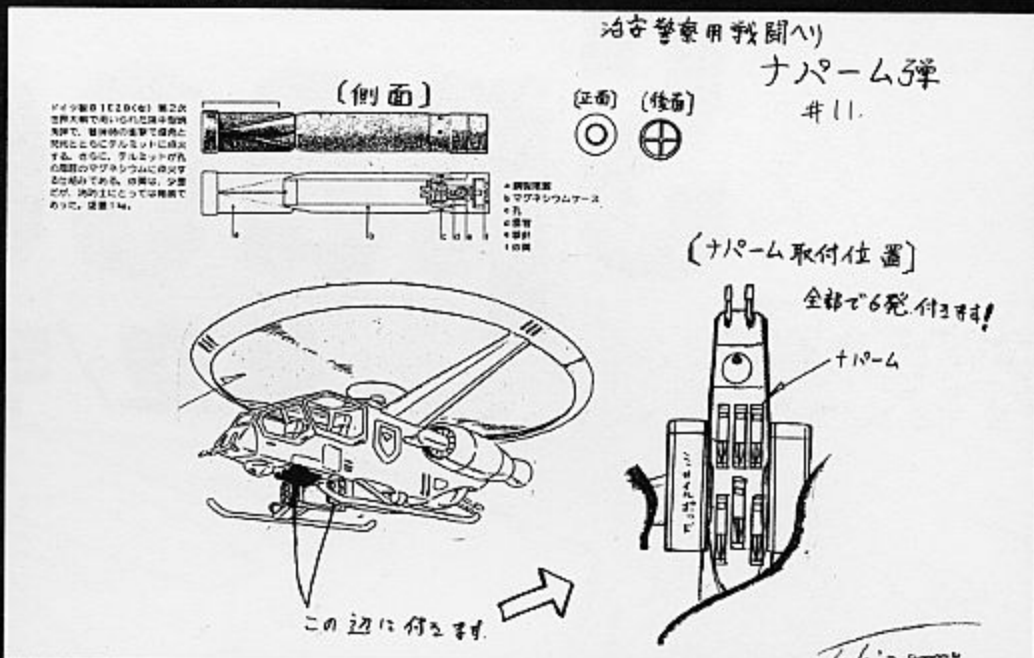
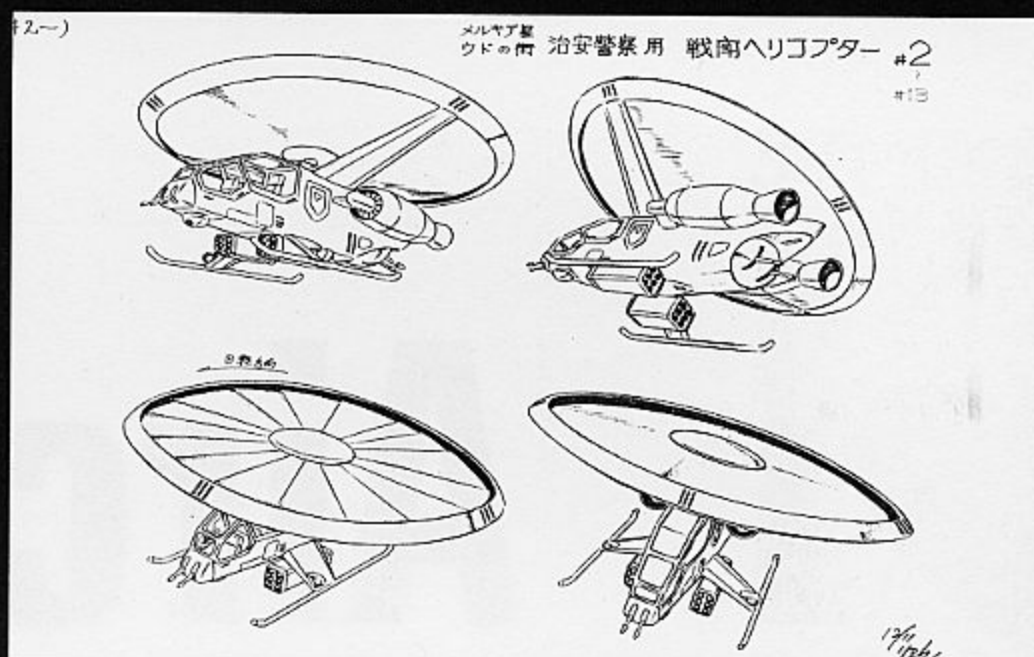
ファイヤーパロットの重武装型。対空戦闘も可能で、拠点防衛や迎撃任務などに使用されている。

### ⊕ TH-101ATラードル

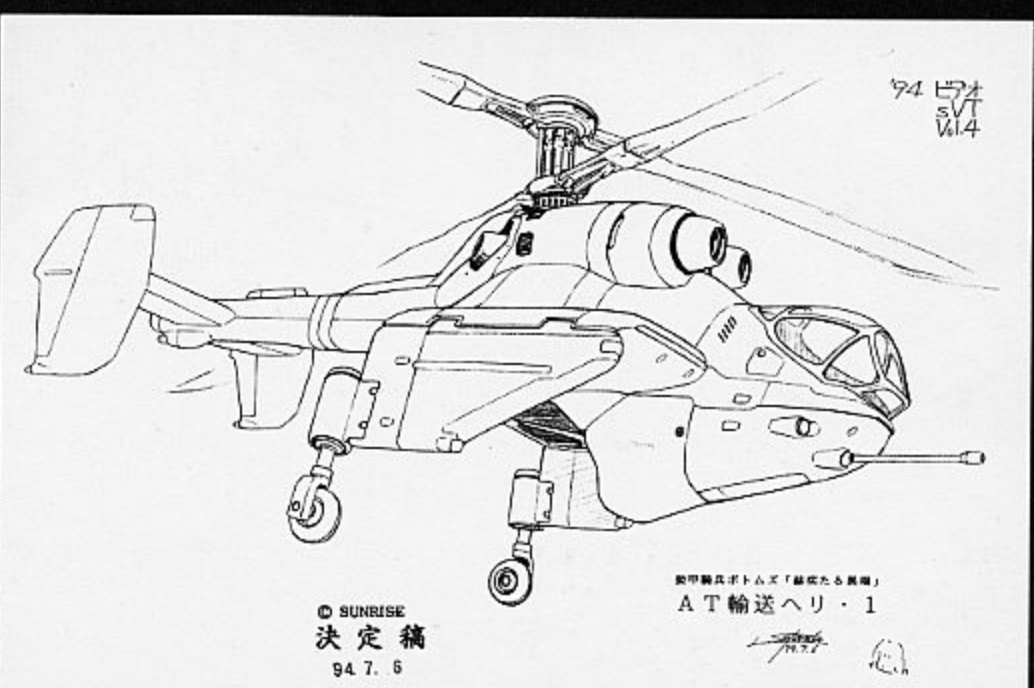
AT輸送用のヘリコプター。吊り下げたAT一機を敵前に直接降下させる目的で製作されたため、対地攻撃ヘリのように被弾経路を考えた形状となった。攻撃力は貧弱。



### ⊕ 治安警察用戦闘ヘリ

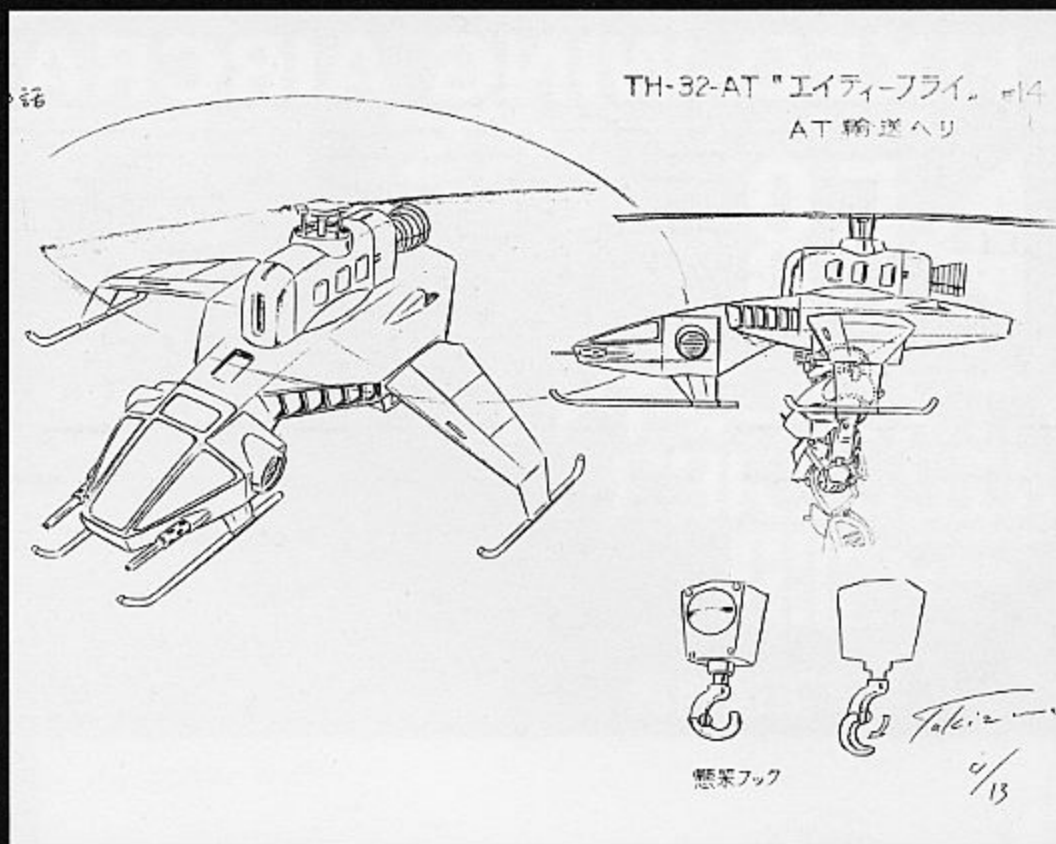
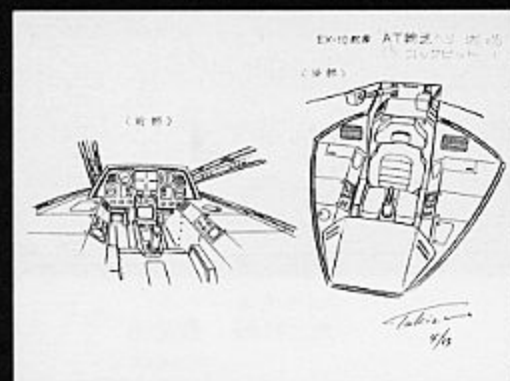


市街地の運用を中心に考えられた機体で、かなりの対地攻撃能力がある。ナバームや対地ミサイルの運用も十分に可能。



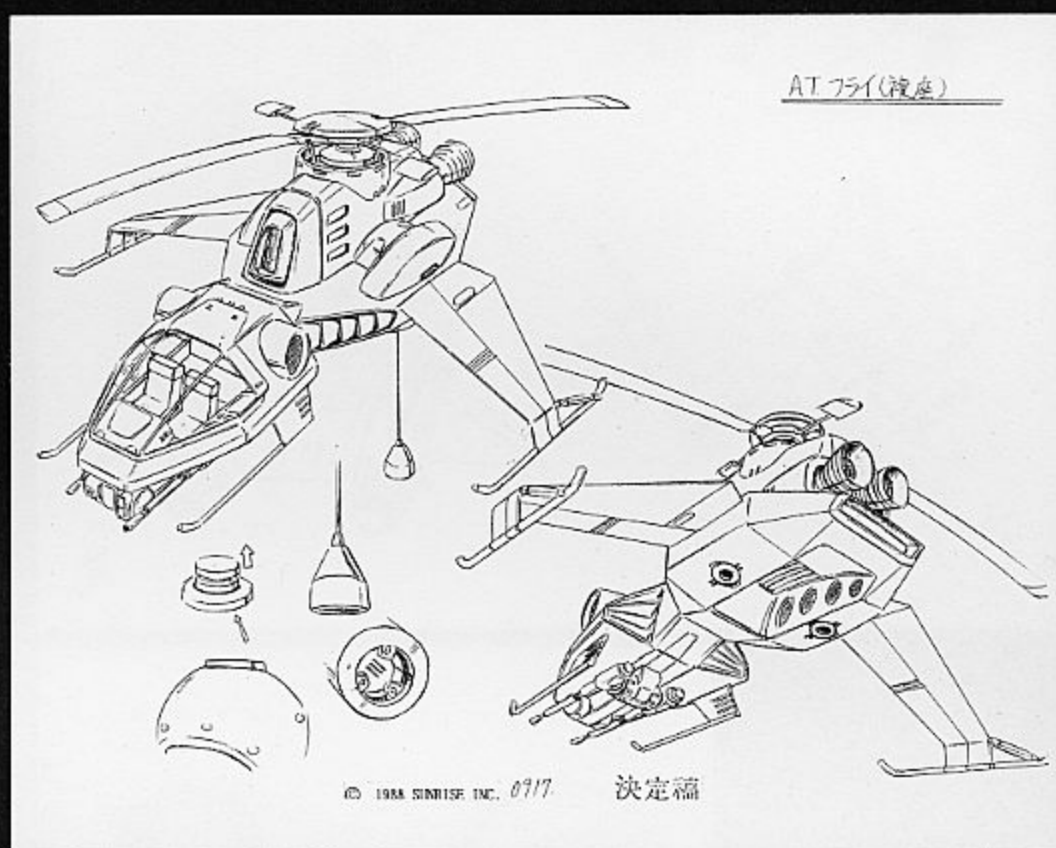
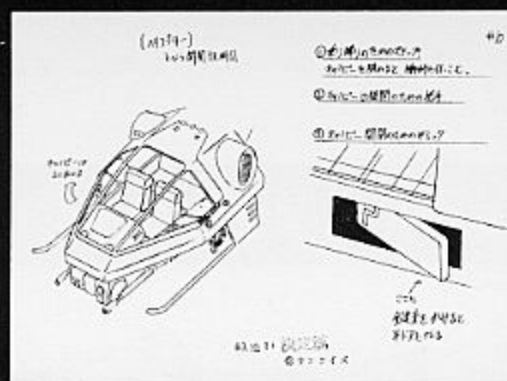
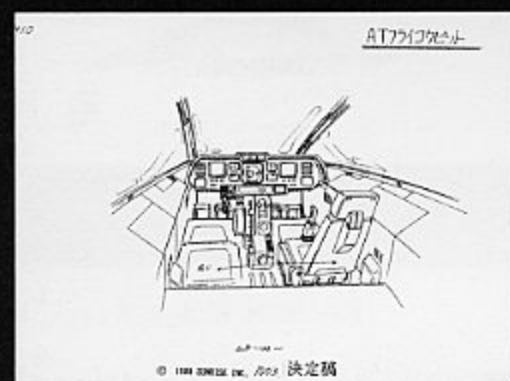
## ⊕ TH-32-ATエイティーフライ

AT1機を吊り下げて飛ぶ能力があり、攻撃能力も併せ持っている機体。柔軟性のある戦力展開が可能のため、小規模な任務に多用されている。



## ⊕ エイティーフライ複座型

こちらは複座型。とはいえ操縦は一人で可能で、ATパイロットを機体側に乗せる事ができるというもの。コックピット後部に積載スペースがある。

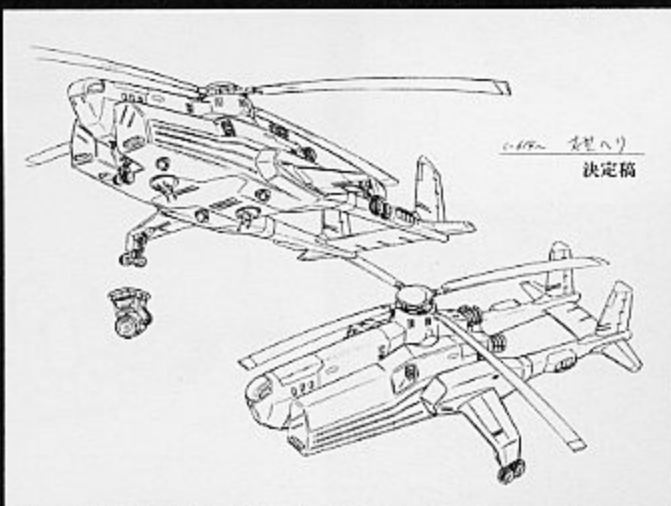


## ⊕ バラント軍対地攻撃ヘリ



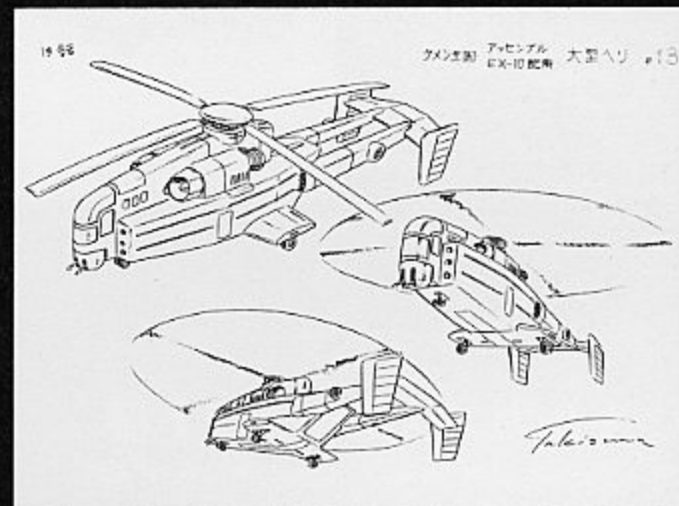
バラント軍の対地攻撃ヘリ。対AT攻撃能力が主眼に置かれている機体だが、ATの対空射撃によって返り討ちにされる場合も多く、効率の良い機体とは言いがたい。

## ⊕ 大型ヘリ



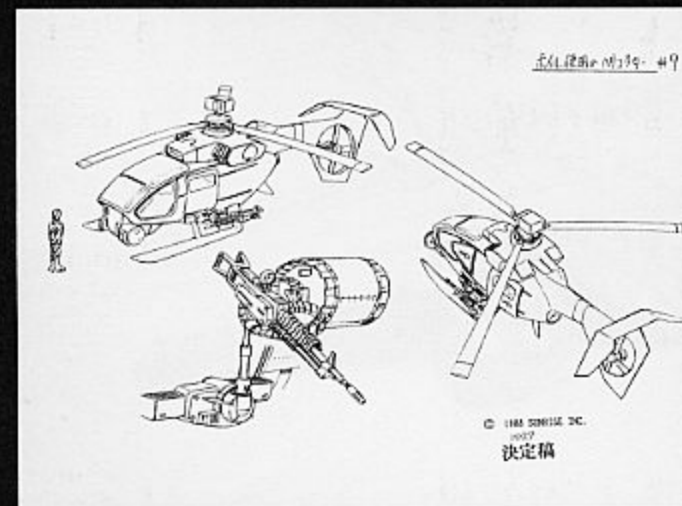
スパームウェイルの類縁の機体。一回り大型で積載能力も向上しており、貧弱ながら武装も施されている。配備はごく一部の部隊のみに限られており、数も少ない。

## ⊕ TH-28-Tスパームウェイル



同型機が広く各地に配備され、多くの団体に広く使われている標準的な大型ヘリコプター。主に輸送任務に従事しているが、ATを直接前線に届けるような行為も可能。

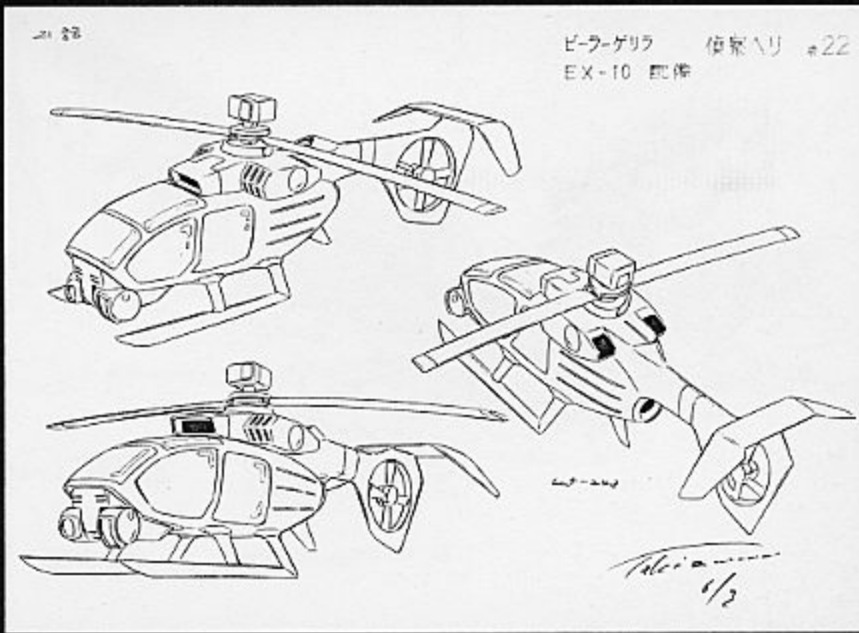
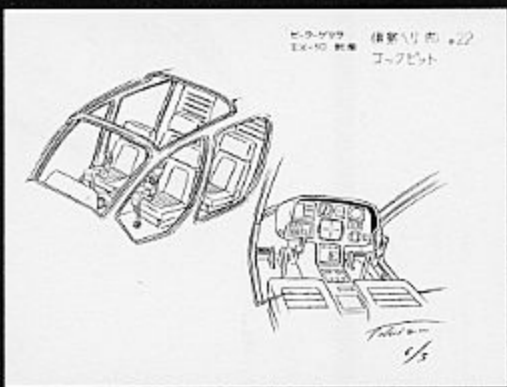
## ⊕ 武装型汎用偵察ヘリ



3枚ローターを装備したタイプの汎用偵察ヘリに、メルキア軍用重機関銃を装備したもの。大型の給弾機構も搭載されており、対人攻撃にはかなりの威力を発揮する。

## ⊕ 汎用偵察ヘリ

偵察や連絡、観測などに使用されている汎用機。数名の人間が搭乗可能。数種類のバリエーションが存在している。



# FIXED-WING AIRCRAFT

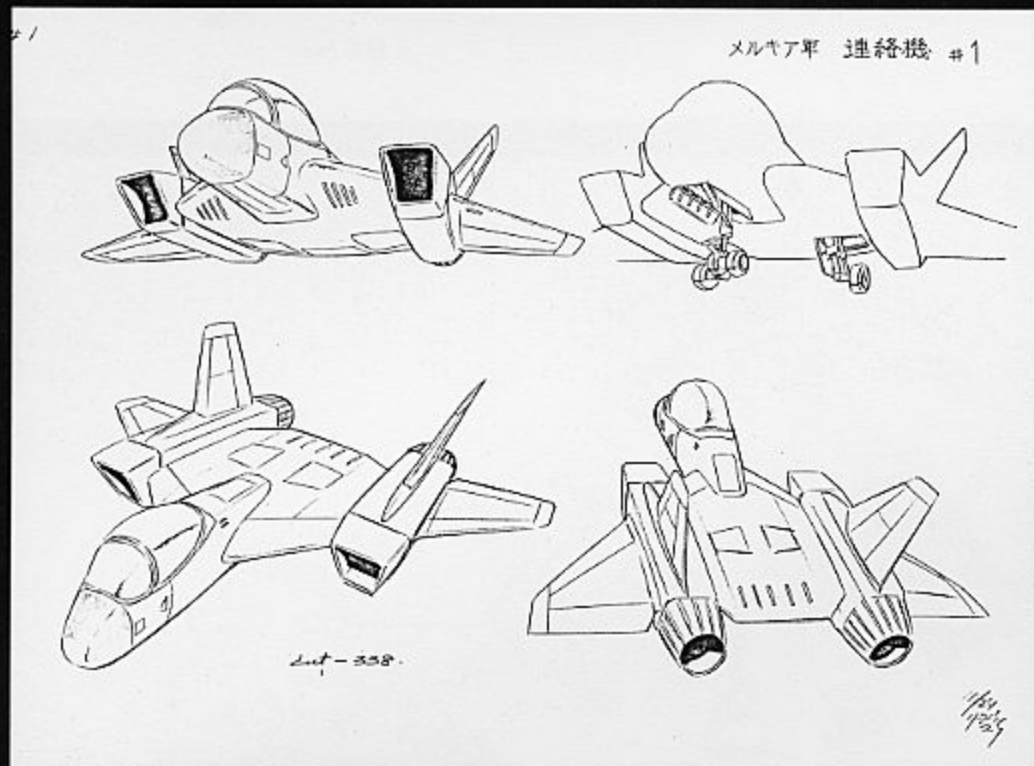
FILE 58

# 固定翼機

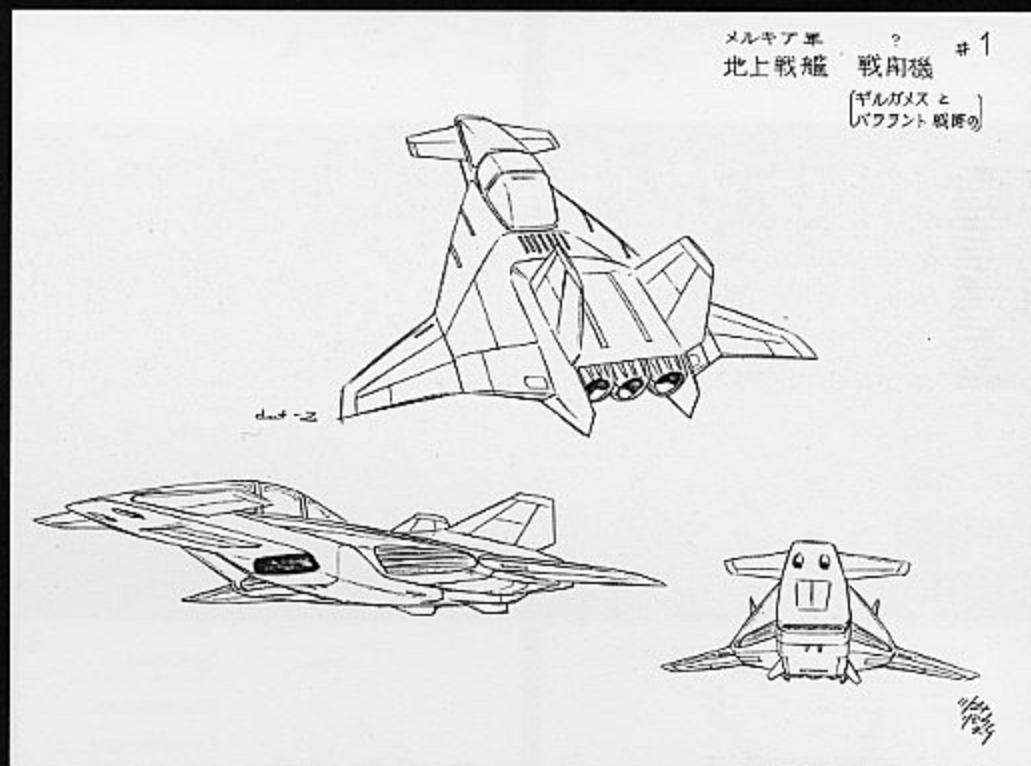
FIXED-WING AIRCRAFT  
FTCE>>03

戦術空軍化の進行により少数派となった固定翼機だが、それでも特定任務用としては必要とされ、かなりの機体が存在している。存在意義が薄れているとはいえ戦闘機は現役で、高速性や積載能力などの点では回転翼機に勝るため、戦術レベルの爆撃機や輸送機などではまぎれもなく主流である。しかし求められる役割がATの台頭によって変化してきているのは確かで、事実、ATの存在が前提となっている機体もかなりの数に上っている。

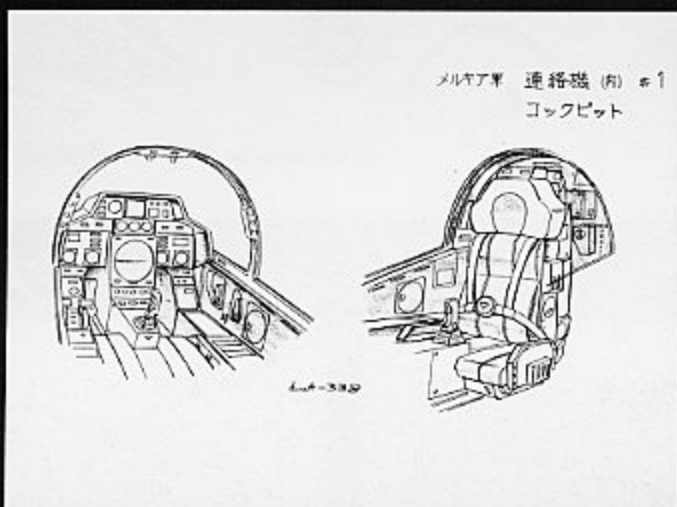
## ⊕メルキア軍連絡機



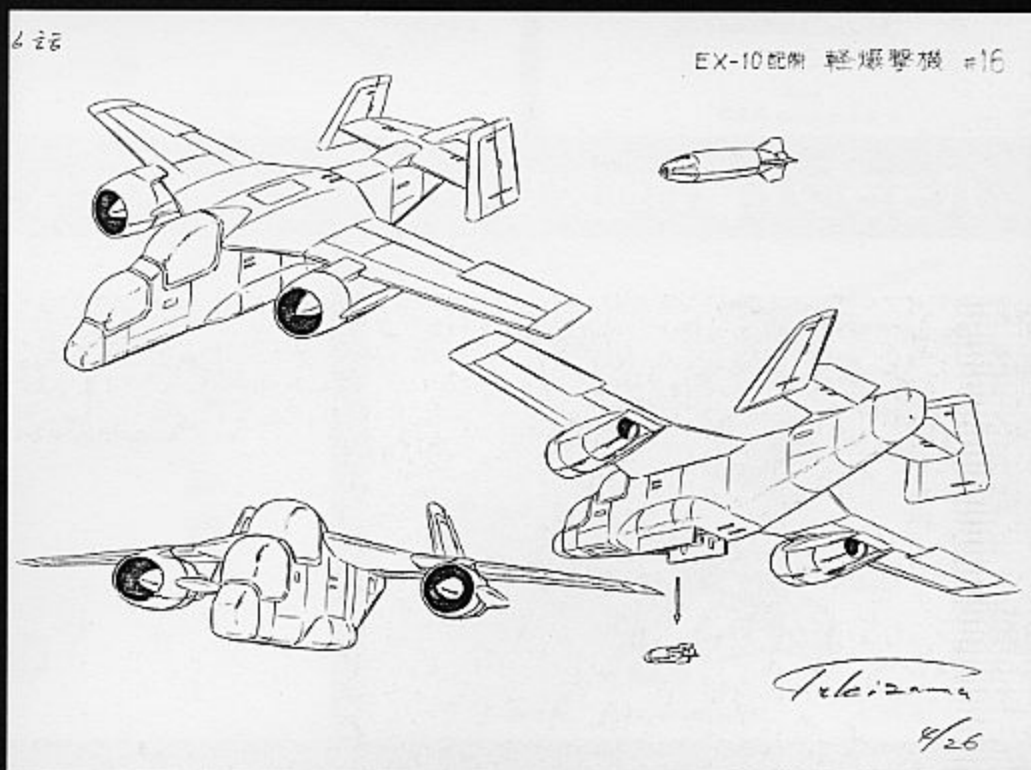
## ⊕ギルガメス軍戦闘機



高速性を重視した単座の連絡機。連絡機としての性格上操縦性も良く、STOL能力にも優るが、積載重量が極端に限られる欠点もある。

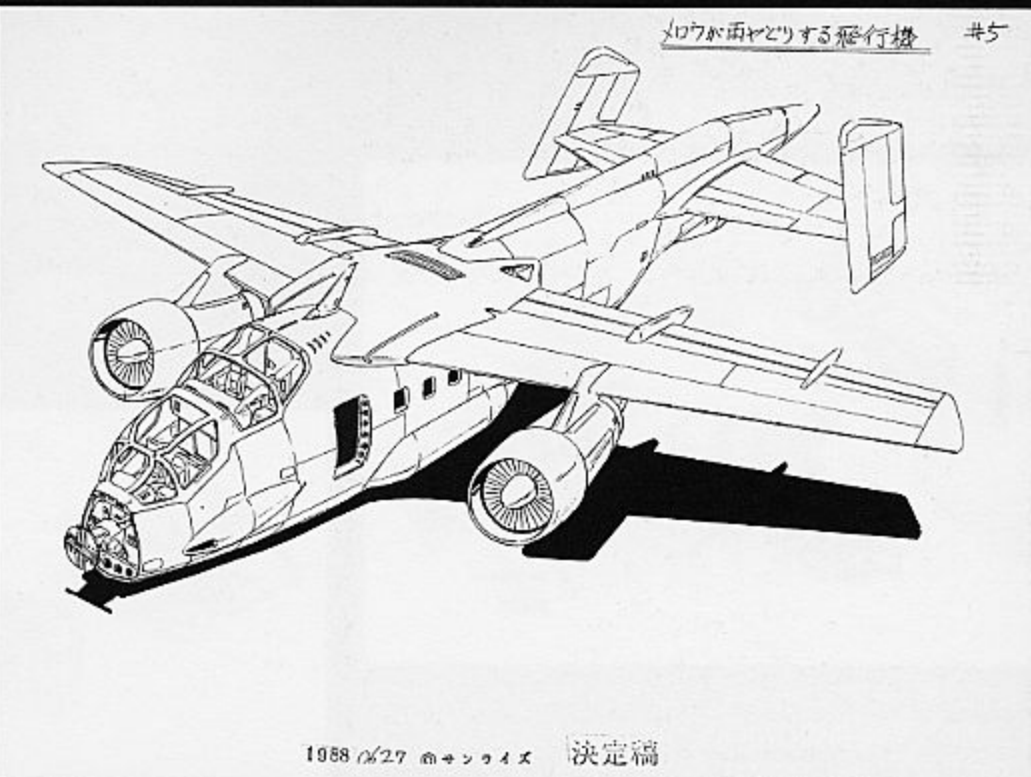


## ⊕ギルガメス軍軽爆撃機

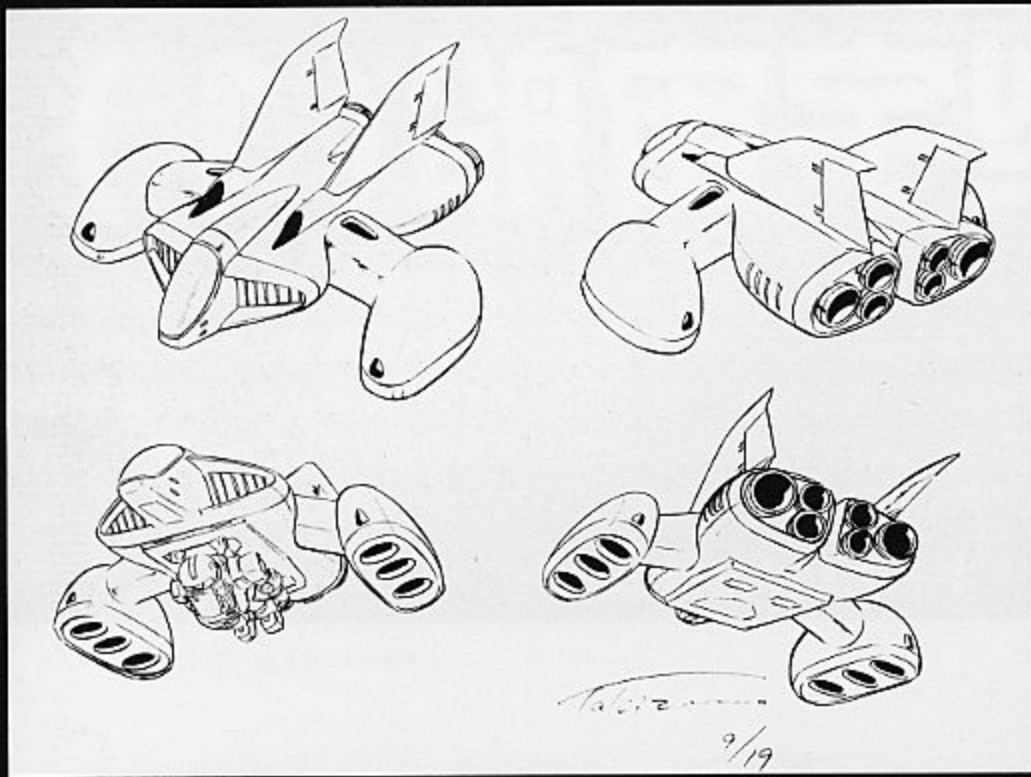


## ⊕ギルガメス軍クラフト機

ポピュラーな航空機の中では、最も対地攻撃力の高い機体。攻撃の精度は劣るが積載量でカバーできる。製造時期によりバリエーションが存在する。

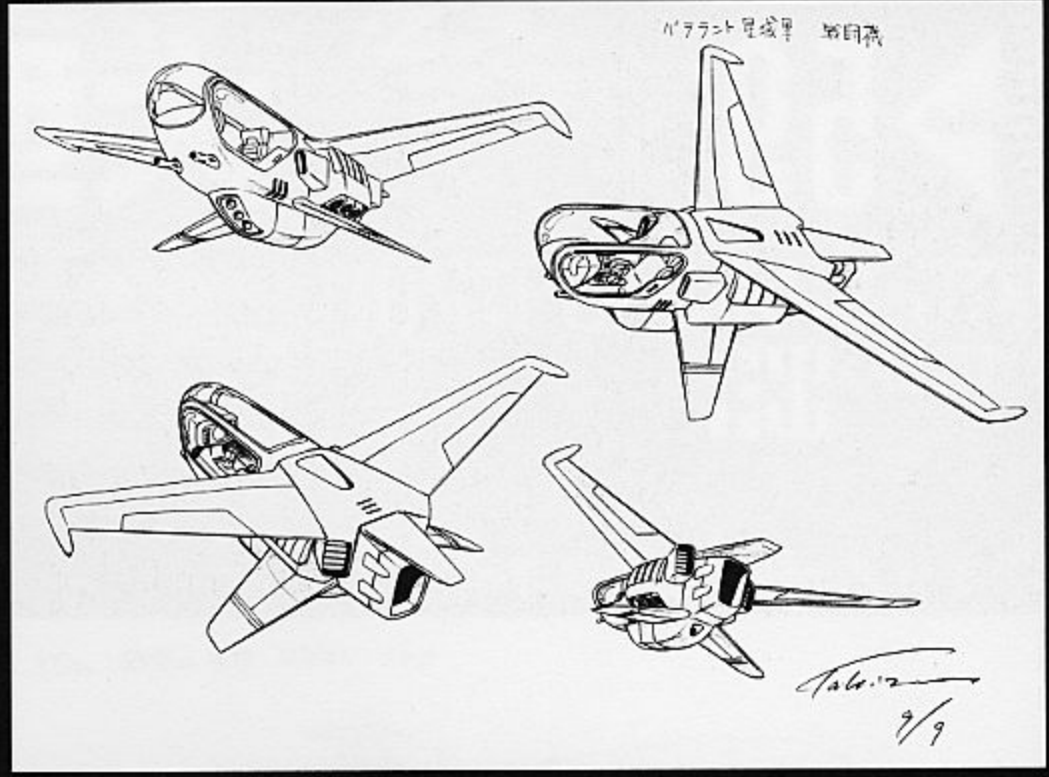


⊕ B・RAC-08-AT  
バラント軍哨戒機ATキャリー



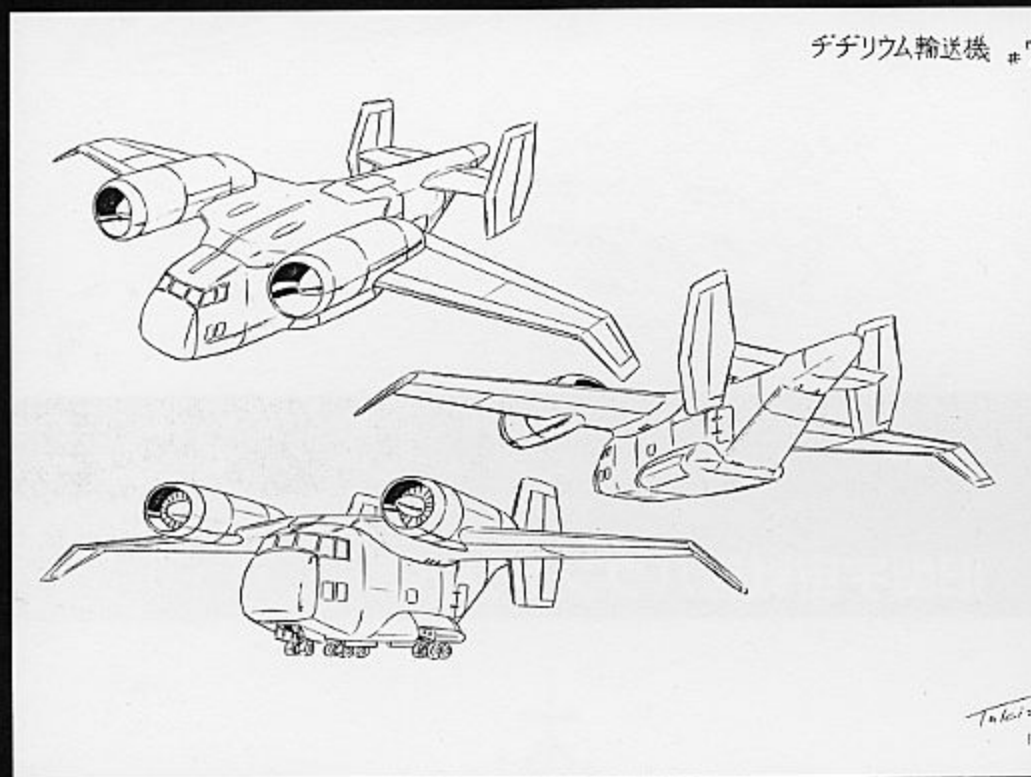
AT1機を吊り下げられる、VTOL哨戒機。各種センサーが充実しており、長時間の哨戒も可能だが、戦闘はAT1に任せているためか本体の武装は貧弱。

⊕ B・FH-14  
バラント軍汎用戦闘機



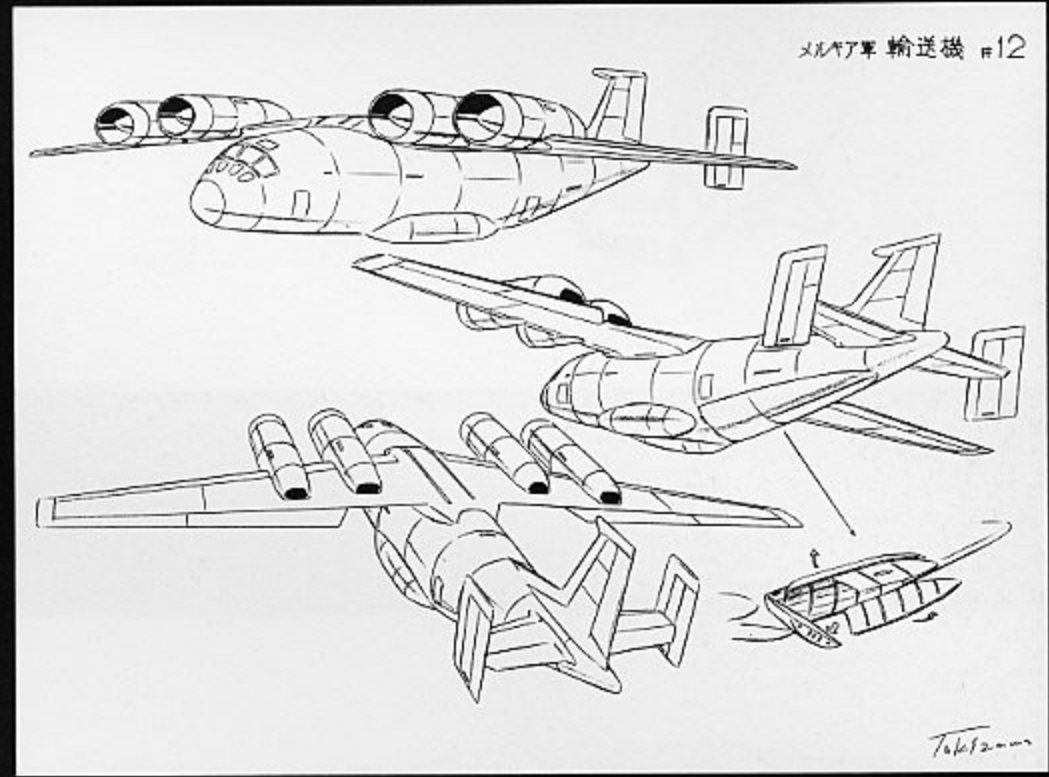
大気圏内での戦闘を重視しているが、本来は宇宙・大気圏の両用戦闘機。本質は迎撃機だが、偵察任務などにも利用される運用の幅が広い傑作機。

⊕ 双発輸送機



あまり普及していない中型の輸送機。荷役作業に配慮した設計で、重量物の輸送も可能な余剰出力も持っているが、絶対的な積載容積は多くない。

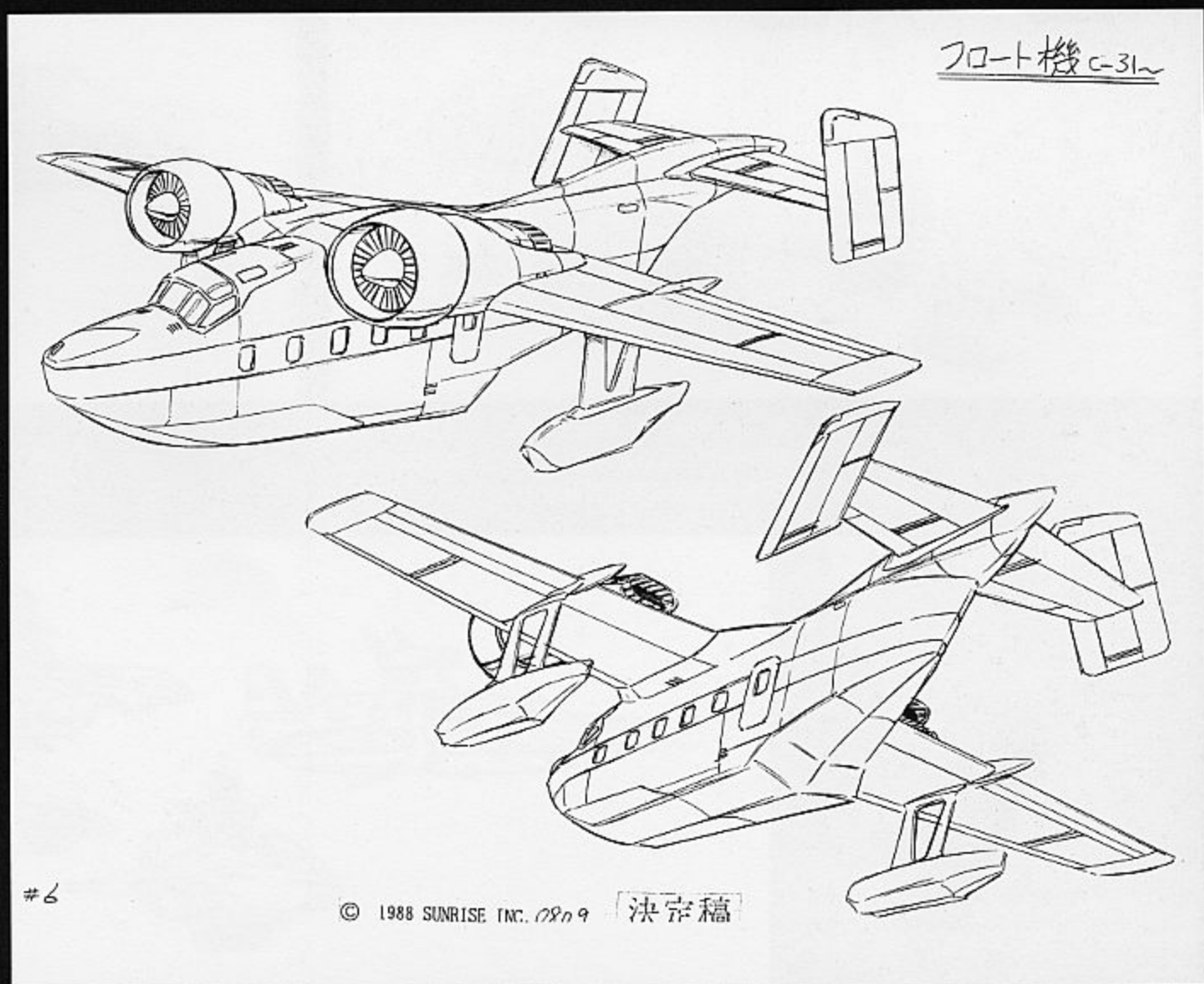
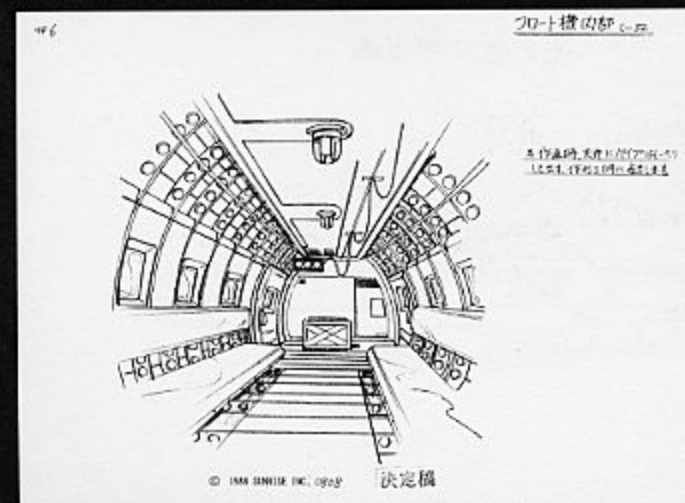
⊕ メルキア軍大型輸送機



同型機が各地に配備され、広く使われている標準的な輸送機。AT用空挺母機としての機能も持ち、大気圏内での緊急展開には不可欠な存在である。

⊕ メルキア軍フロート機

島嶼部への人員や物資の輸送任務に使われている水上機。双発で離着水能力も高く、エンジン配置や下面設計の妙によって多少なら荒れた水面でも着水できる。これは島嶼に設置された刑務所への囚人護送用の機体で、内装回りに警備用の装備が追加されている。

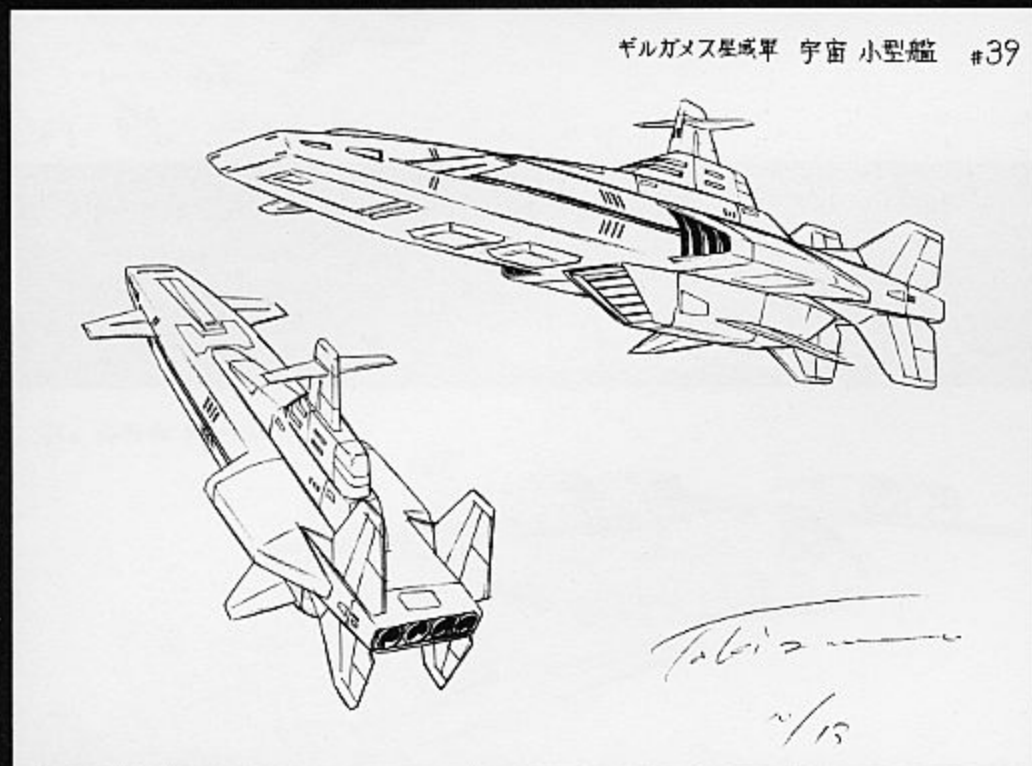


© 1988 SUNRISE INC. 0809 決定稿

BIG SPACE SHIP(1)  
FILE >> 59

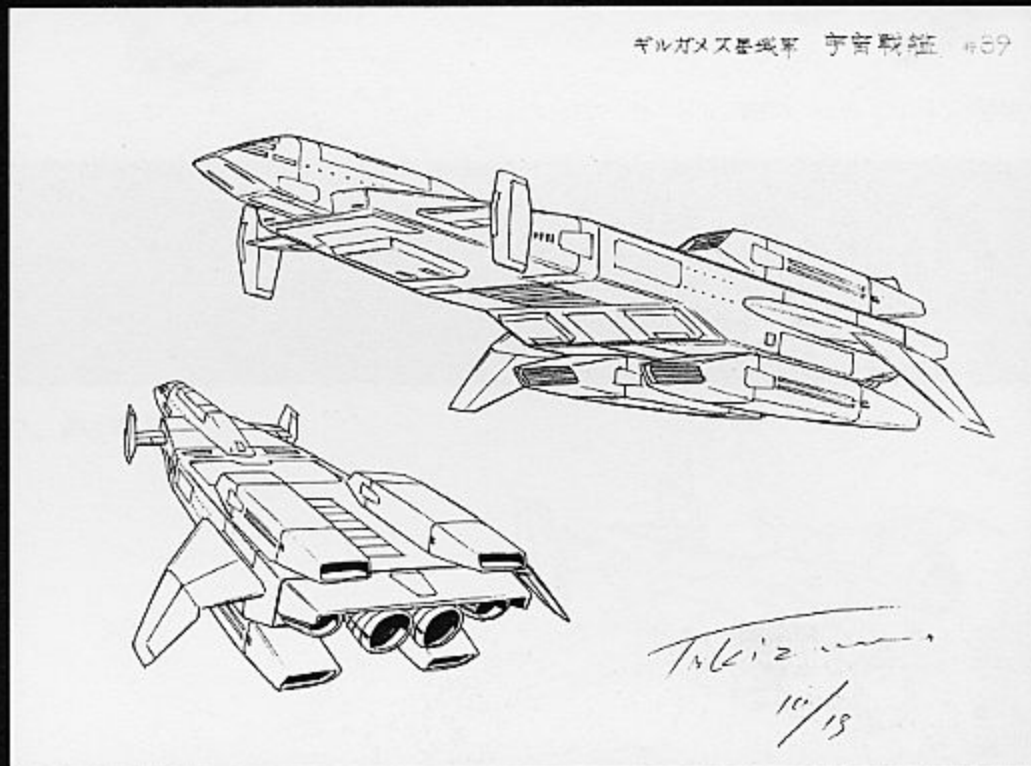
大量破壊兵器の戦略的意味の喪失とATの台頭により、宇宙戦艦は大戦の主力兵器の座からは退いた。しかしその後も宇宙艦は、両陣営においてきわめて重要な地位を占めている。哨戒、偵察、各恒星系間の通商維持、そしてATによる安価な宇宙戦争のための母艦機能。これらの機能を重視した百年戦争後期以降の宇宙艦の数々と、比較対象としての旧式宇宙艦と、同時代の典型的な大型民間輸送船のいくつかとを取り上げていこう。

### ⊕ オバノ一級高速重巡洋艦



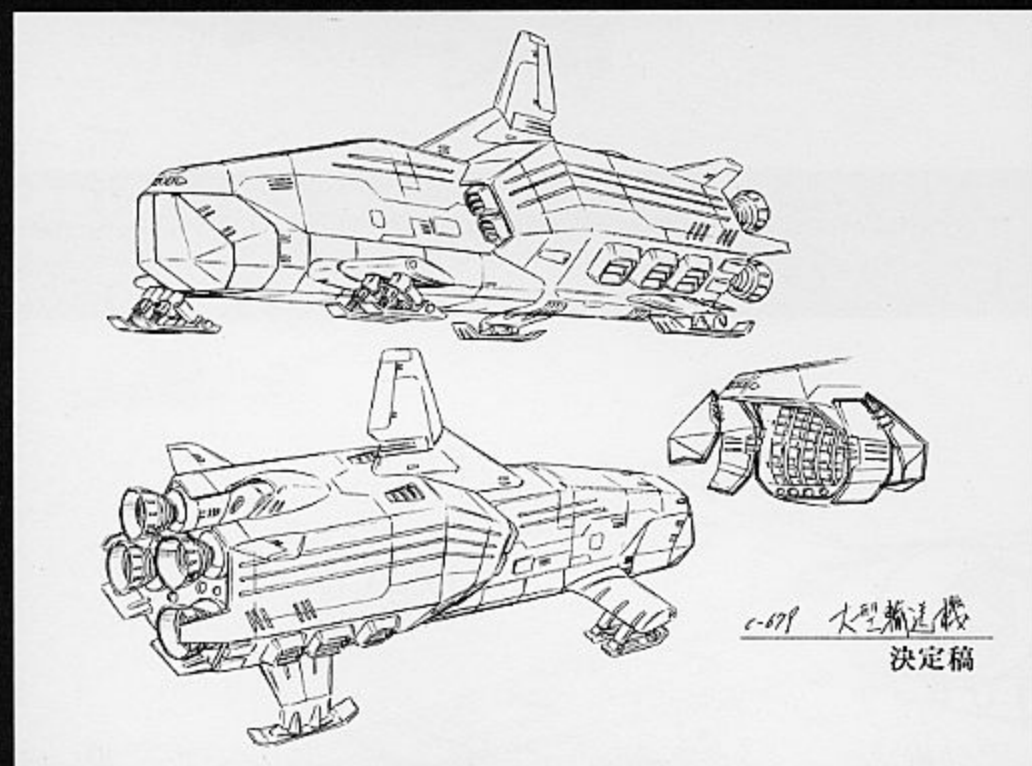
ギルガメスの主力重巡洋艦。ギーガ級をスケールダウンした艦で、同級よりも高速。惑星降下作戦などでは母艦として機能することもできる。

### ⊕ ギーガ級大型宇宙戦艦



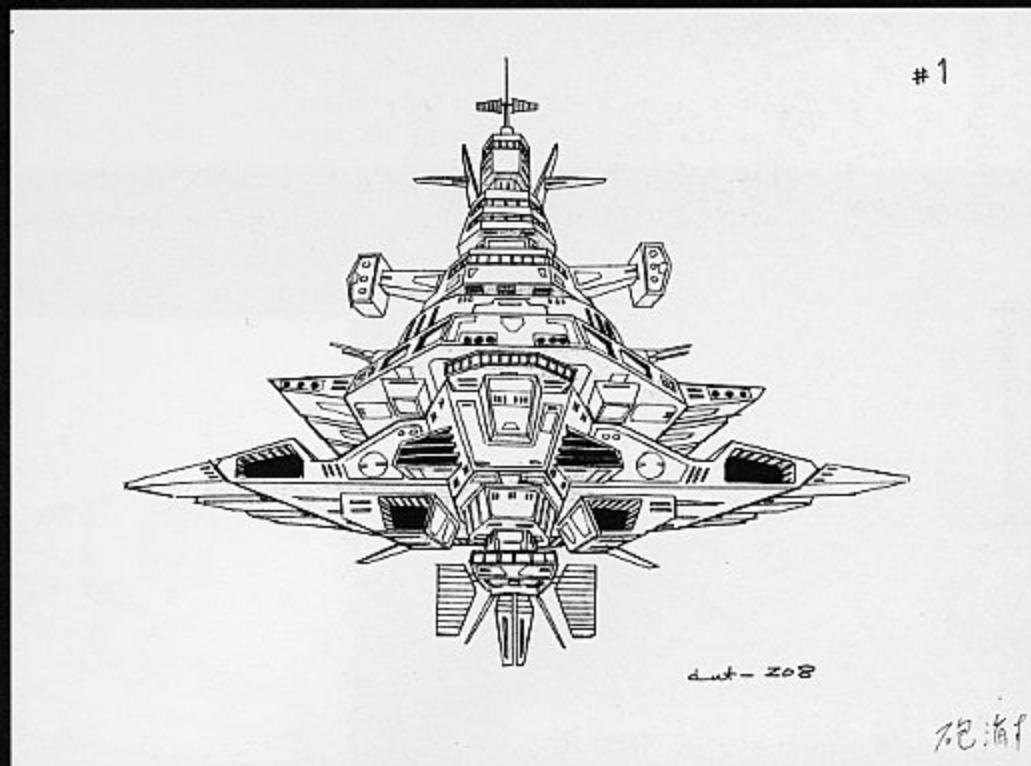
ギルガメスの最新鋭大型戦艦。MH航法用エンジンが強化され、銀河外周部から中心部までを2週間で移動できる。細かな設計変更によって大きく3種が存在する。

### ⊕ 大型輸送艦



大気圏突入能力と独自の恒星間飛行能力を併せ持つ宇宙輸送艦。宇宙から直接貨物を地表に届けられ積載量も大きい。あくまでも輸送艦であり戦闘能力は低い。

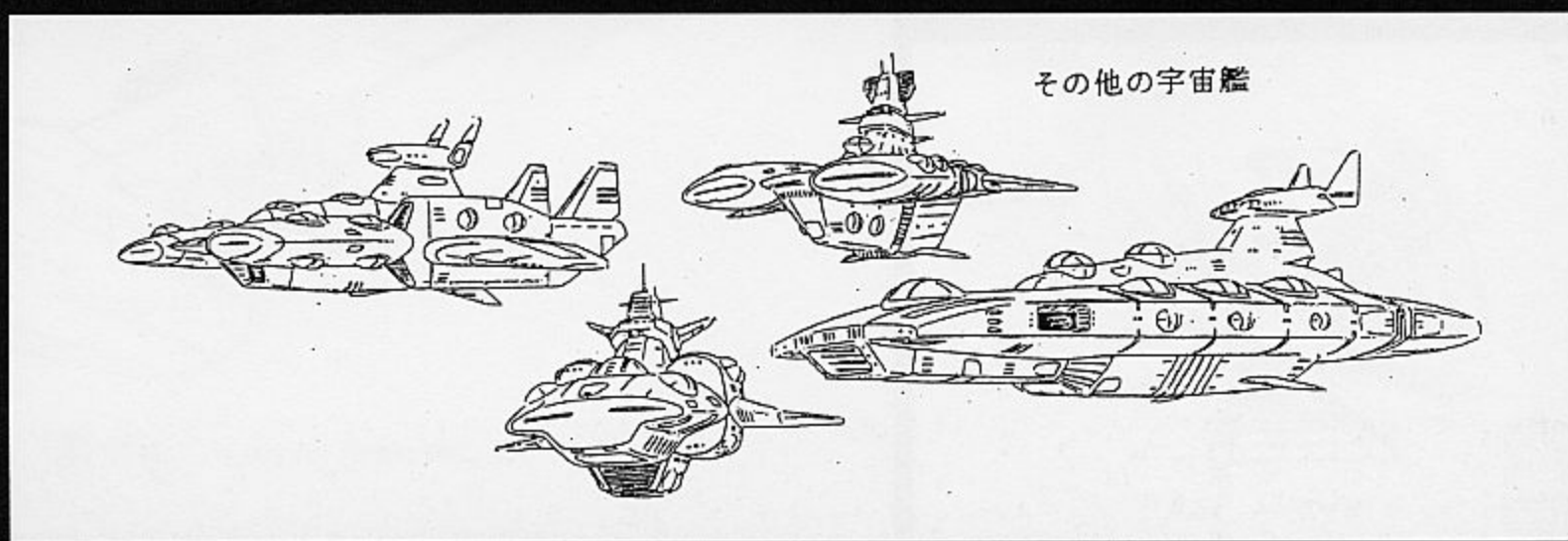
### ⊕ 旧型宇宙戦艦バウントント



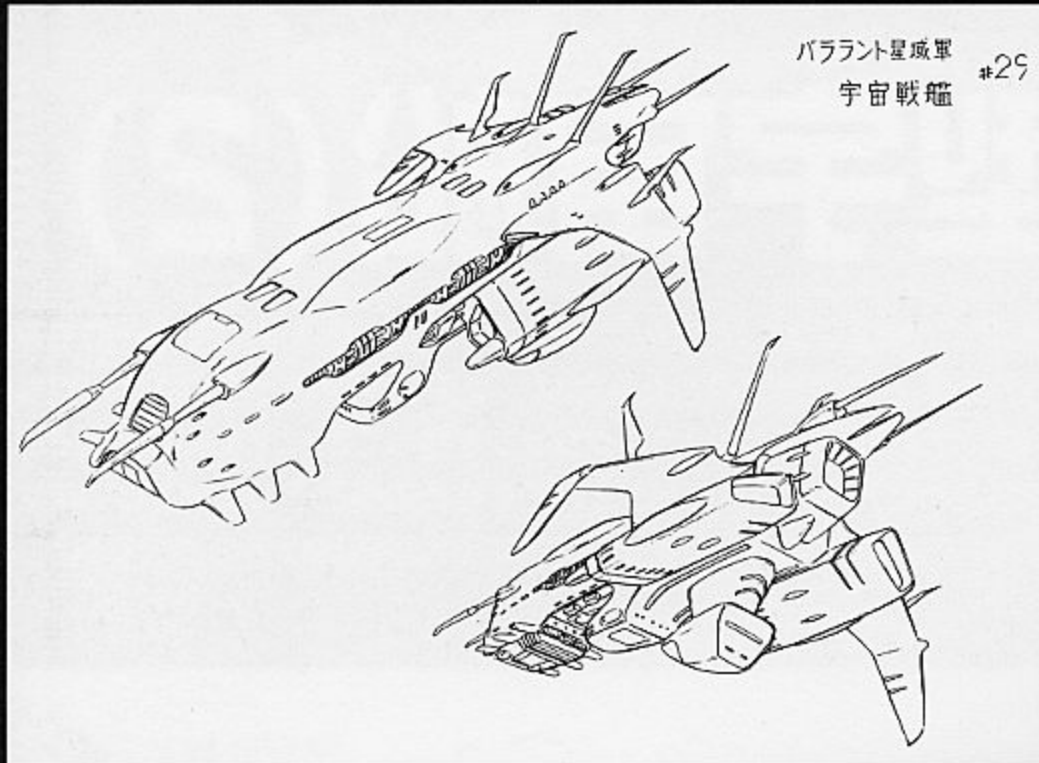
百年戦争初期にメルキアが独自に開発・調達した超大型艦で、ギルガメス軍の命令系統には属していない。旧式化して久しいが、現在も移動要塞的に使われ続けている。

### ⊕ その他旧型宇宙艦

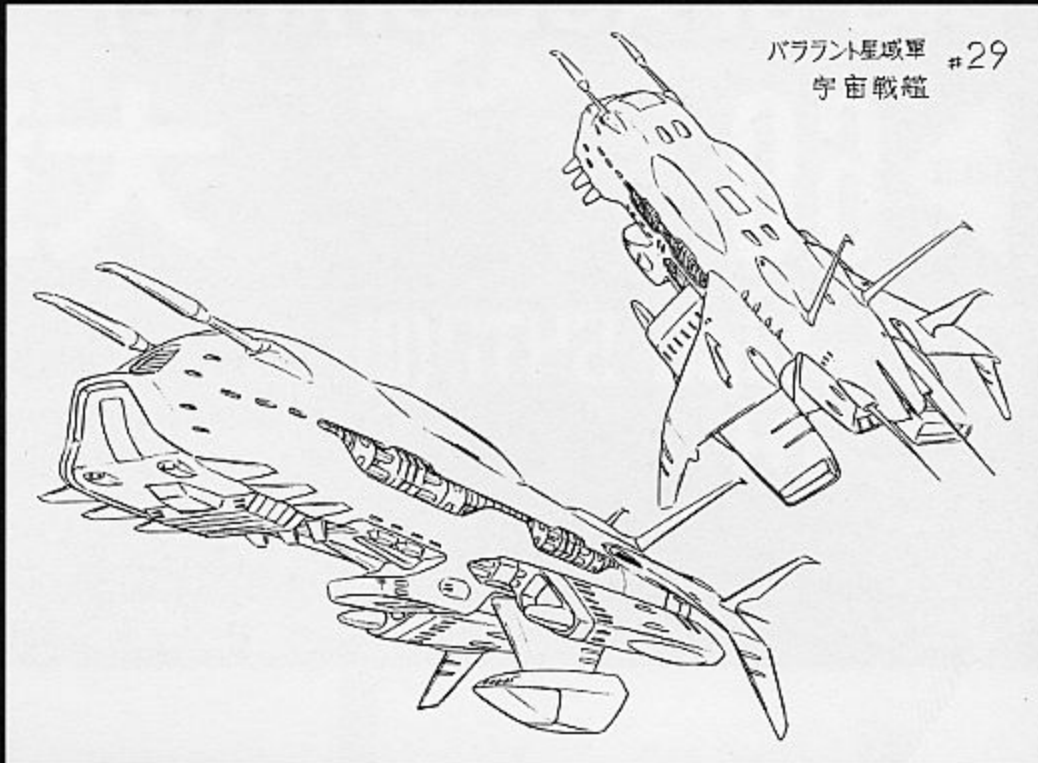
属した陣営や使用された時期も定かではない宇宙艦の数々。遅くとも百年戦争の中期以前の代物で、前銀河大戦時の艦である可能性すら否定できない。



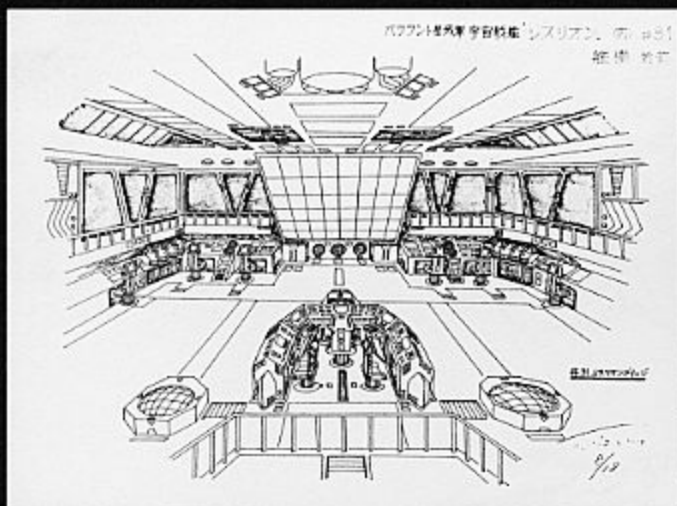
## ⊕ レスリオン級宇宙戦艦



パラント星域軍  
宇宙戦艦 #29



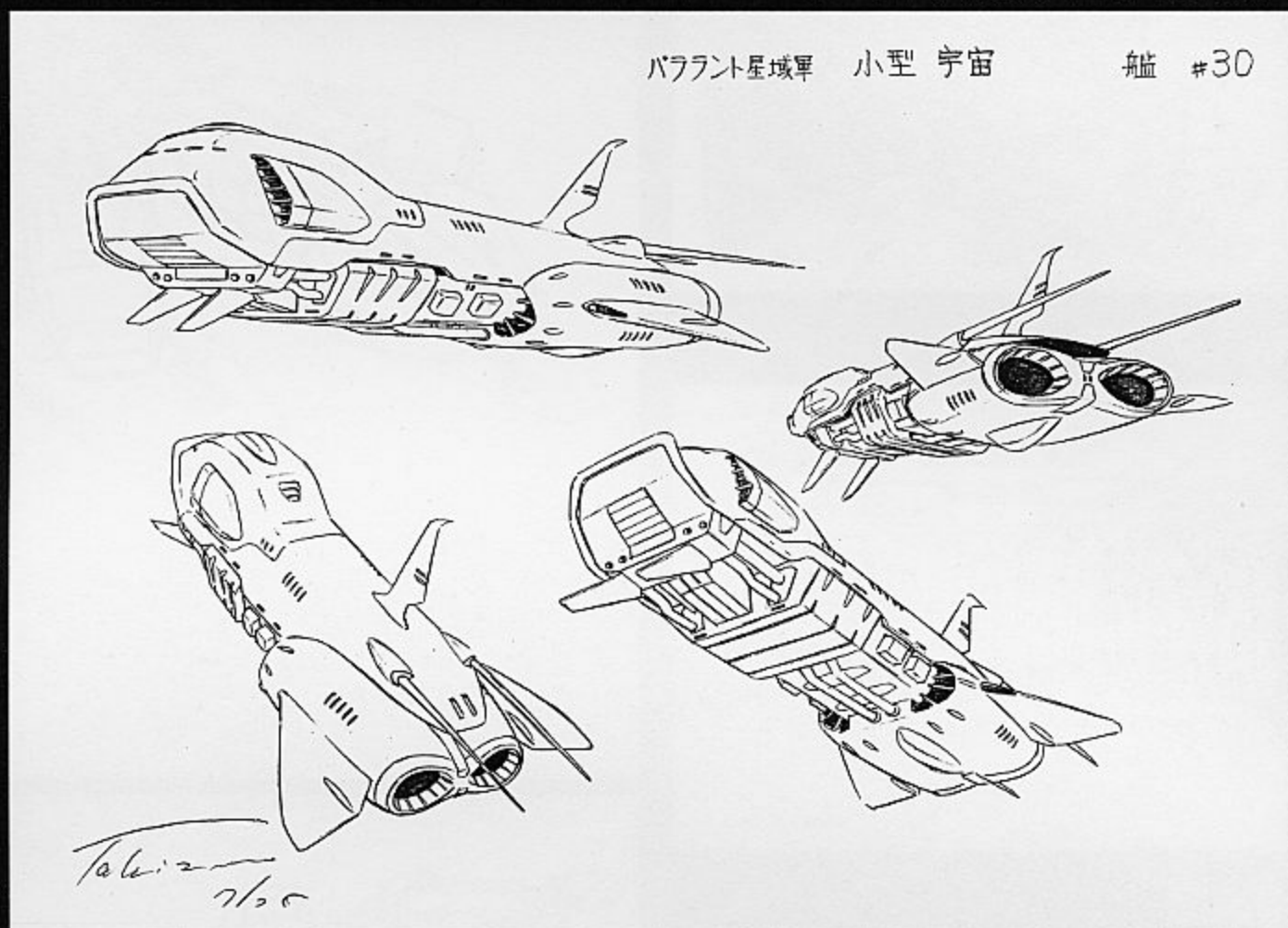
パラント星域軍  
宇宙戦艦 #29



パラント星域軍 宇宙戦艦「レスリオン」の内部  
艦橋 前部

## ⊕ ミーズ級小型宇宙戦艦

パラント星域軍 小型宇宙艦 #30

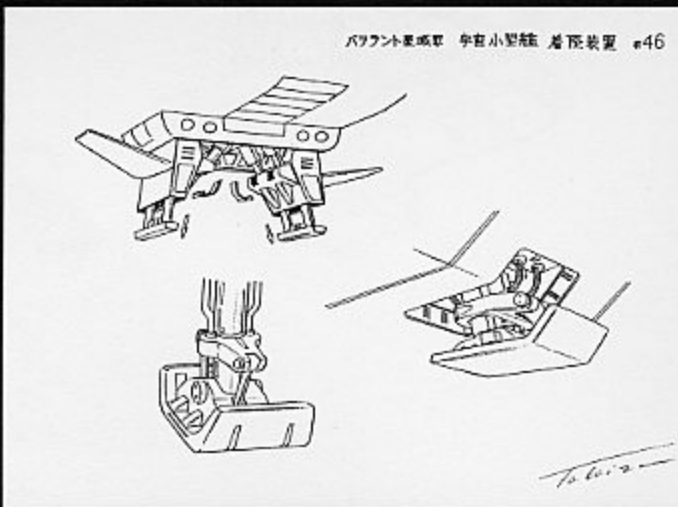


パラント最新鋭最大級の大型戦艦。本体の強大な武装に加え、500とも600とも言われるATや戦闘機を搭載している。系譜としてはミーズ級の強化拡大版。

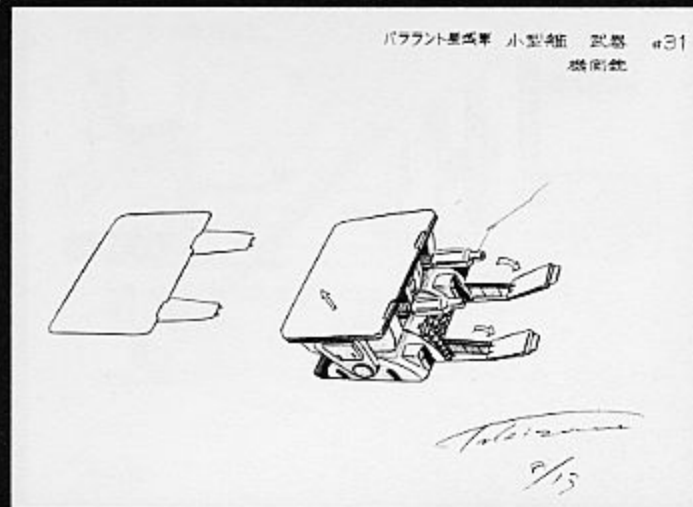
パラントの最新鋭小型宇宙艦。大気圏内戦闘が可能で小型戦闘艦で、AT40機、支援戦闘機15機に加え上陸用舟艇や装甲車などを搭載する能力がある。



パラント星域軍 小型宇宙艦 #31  
スペースシャトル・ドッキング装置

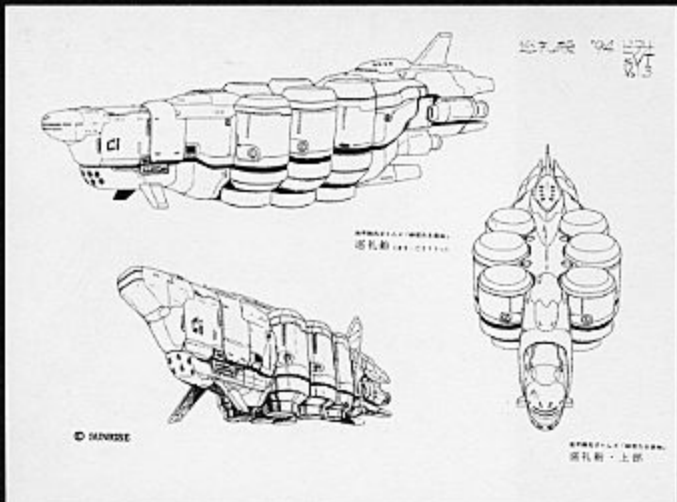


パラント星域軍 小型宇宙艦 着陸装置 #46



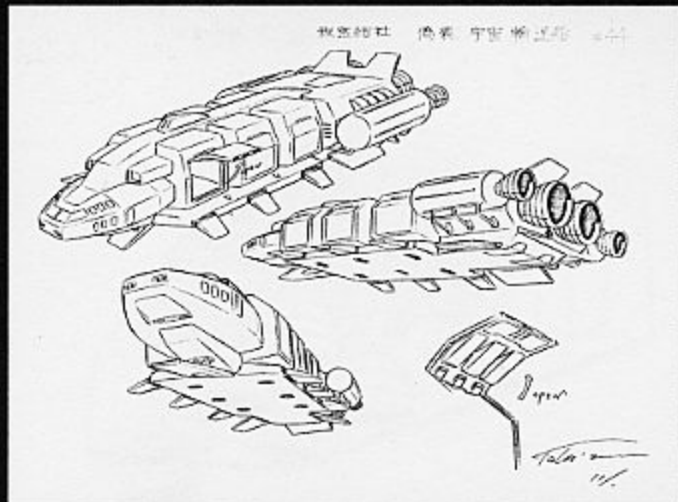
パラント星域軍 小型宇宙艦 武器 #31  
機内銃

## ⊕ 巡礼船



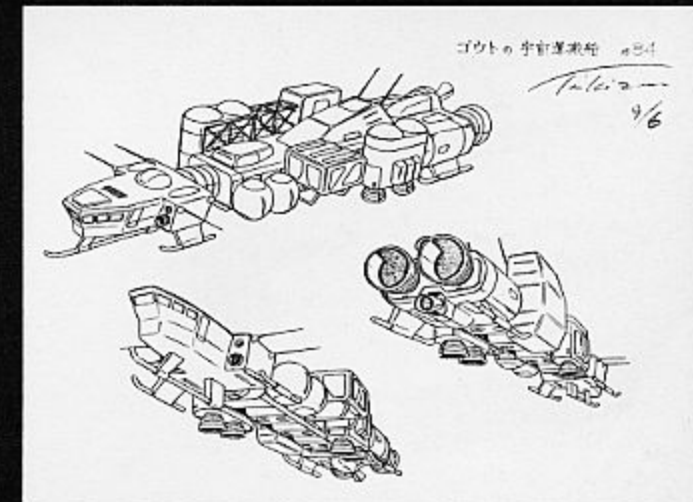
巡礼船 9/13  
8/13

## ⊕ 偽装輸送船



偽装輸送船 偽装宇宙船 #44

## ⊕ ゴウトの輸送船



ゴウトの宇宙運搬船 #24  
9/6

マーティアルの聖地アレギウムのある惑星シアゴノへ、巡礼者を運ぶためチャーターされた宇宙船。同型船が数隻まとめてチャーターされていたらしい。

商船シンテナーのシャトルと名乗っていたが、実際には秘密結社の偽装船。ATを搭載した偽装コンテナ多数をクエントに送り届けたり、増援のAT部隊を届けたりした。

武器商人のブルース・ゴウト氏の持ち船。小回りは利かないが、それなりに丈夫で積載能力も高い。サンサで戦闘に巻き込まれて大破してしまった。

# BIG SPACE SHIP(2)

FILE 60

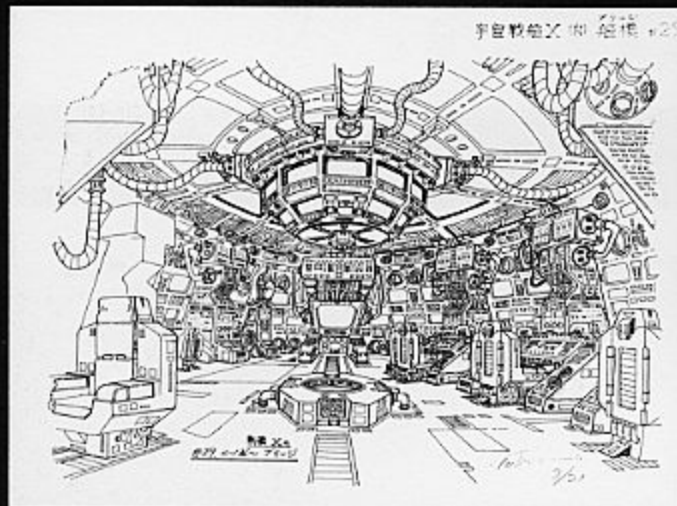
# 大型宇宙船(2)

9TG SPACE SHIP(II)

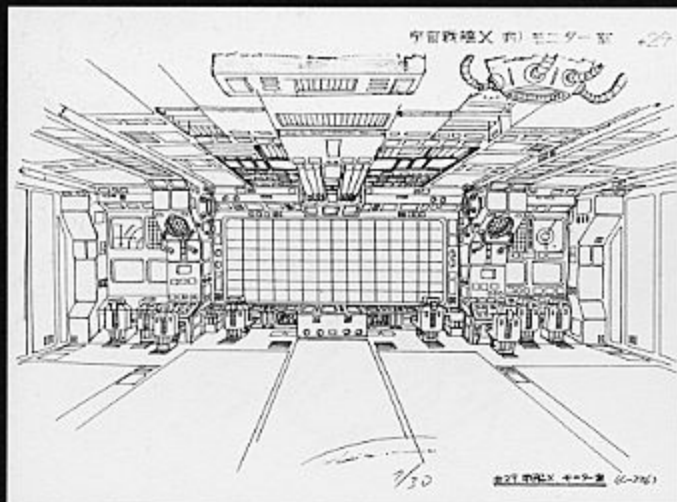
FTCE>> iM

百年戦争終盤から休戦期にかけて活動した艦船の中には、いささか特殊な艦の一群も存在する。秘密結社と俗称される集団に関連した艦船は、従来の宇宙艦とはいささか異なる特色を持っていた。彼らは軍需産業に深いコネクションを持っており、通常的手段では入手できない技術も持ち合わせていたようだが、それでも彼らの艦とその行動にはいまだ疑問も残っている。現時点で判明している、彼らに関する大型艦は以下の通りである。

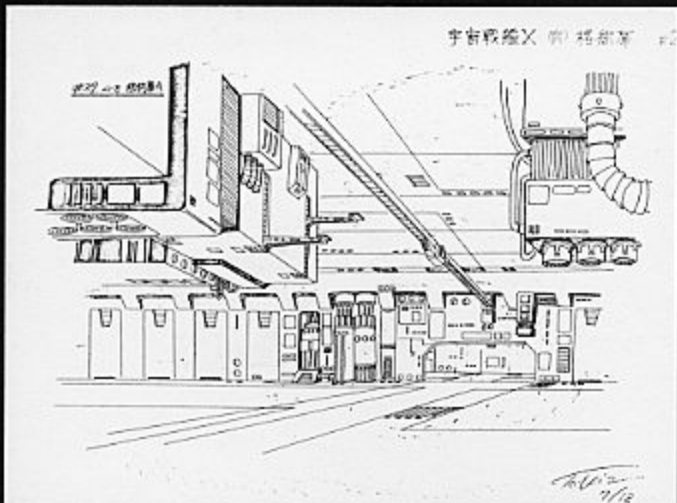
## ブリッジ



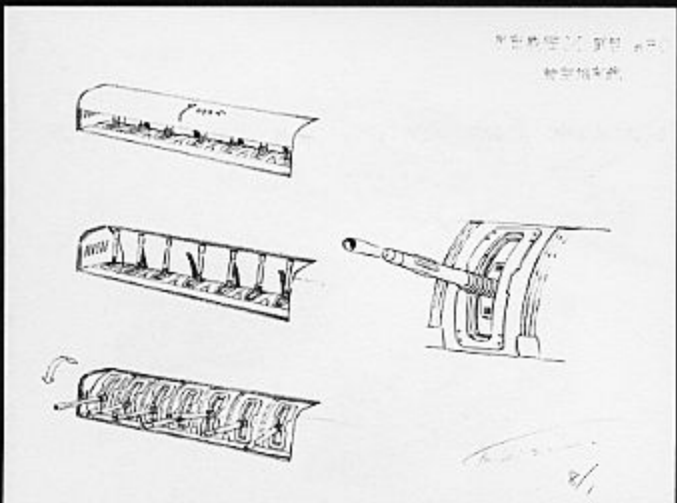
## モニター室



## 格納庫

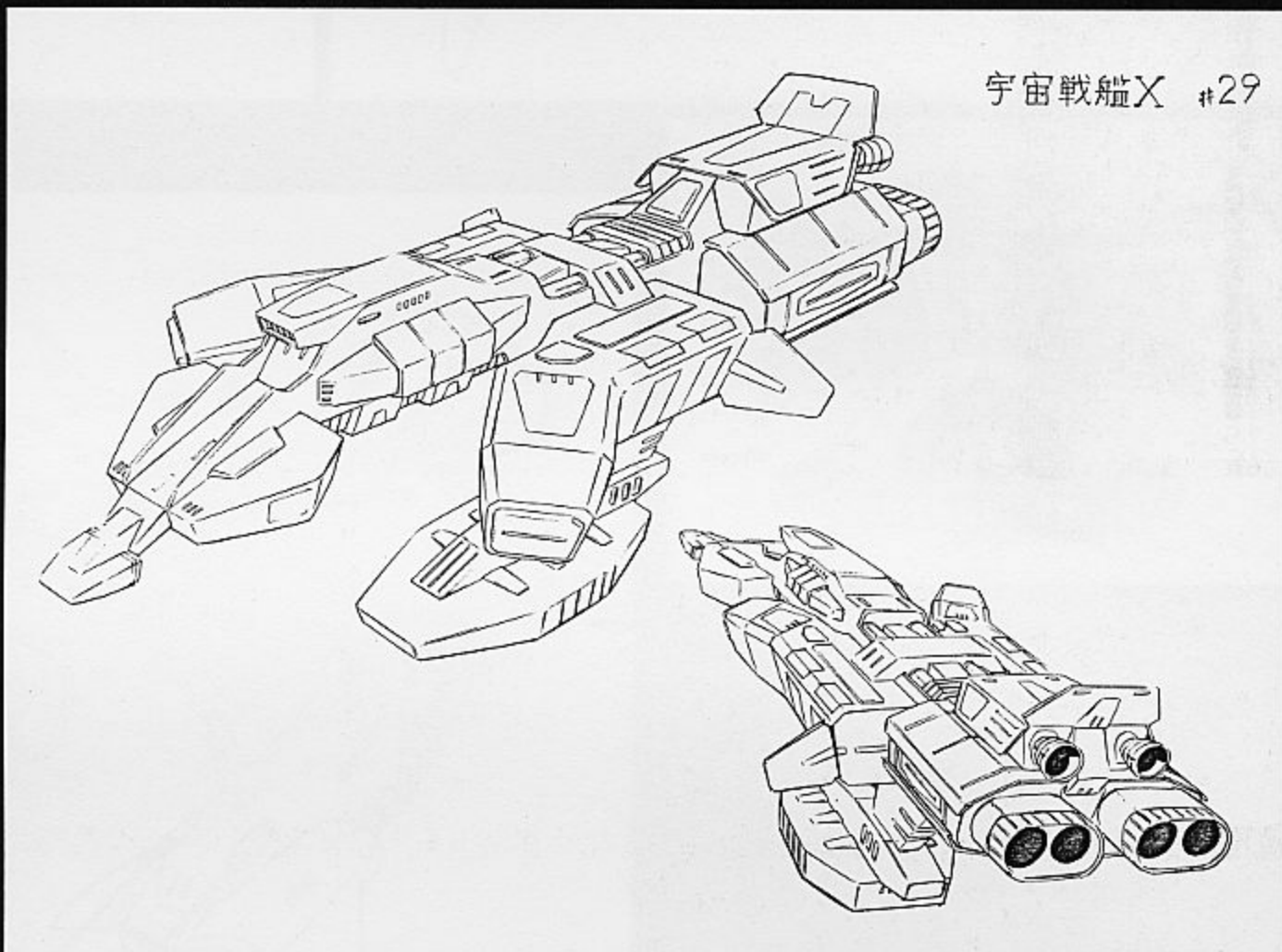


## 対空機関砲

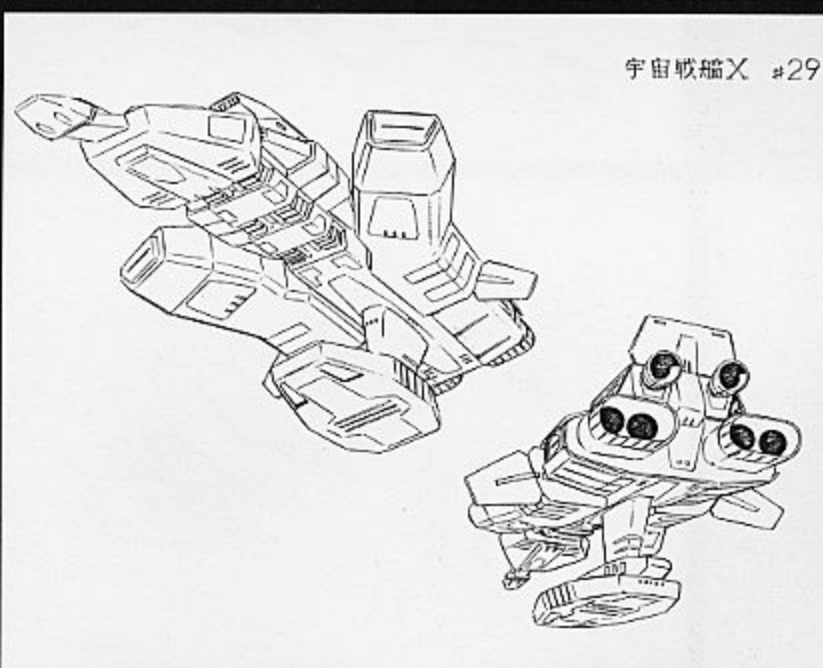


宇宙戦艦Xの側面などに用意されていたもの。メカニズムの発想としてはギルガメスのものに近いようにも見えるが、不明な点も多く、一概には判断出来ない。

## 宇宙戦艦X

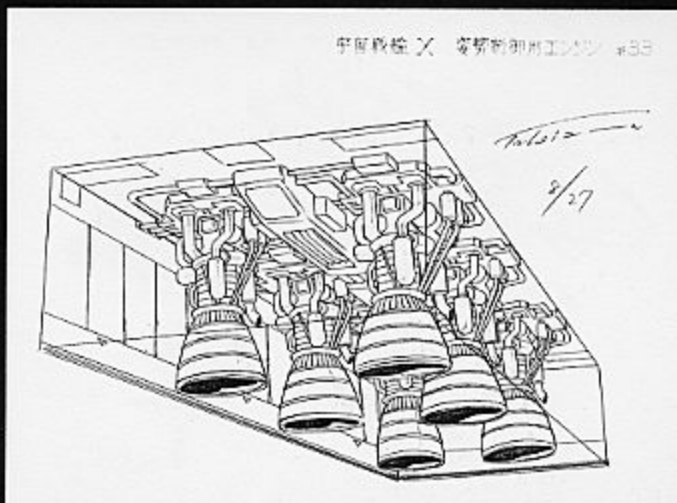


宇宙戦艦X #29



宇宙戦艦X #29

## 姿勢制御用エンジン

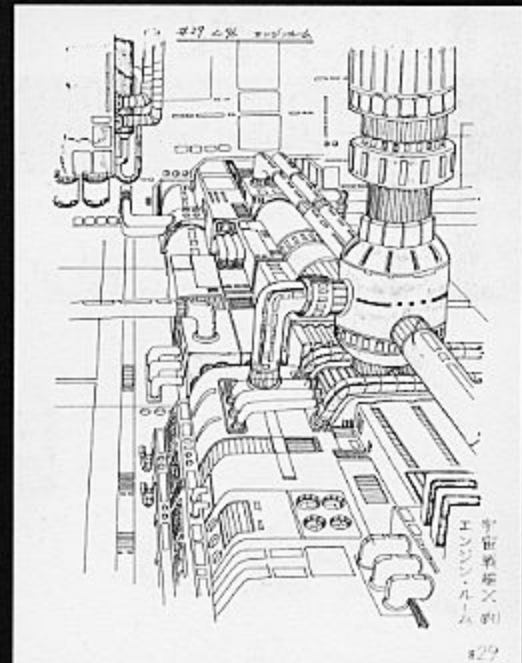


宇宙戦艦X 姿勢制御用エンジン #33

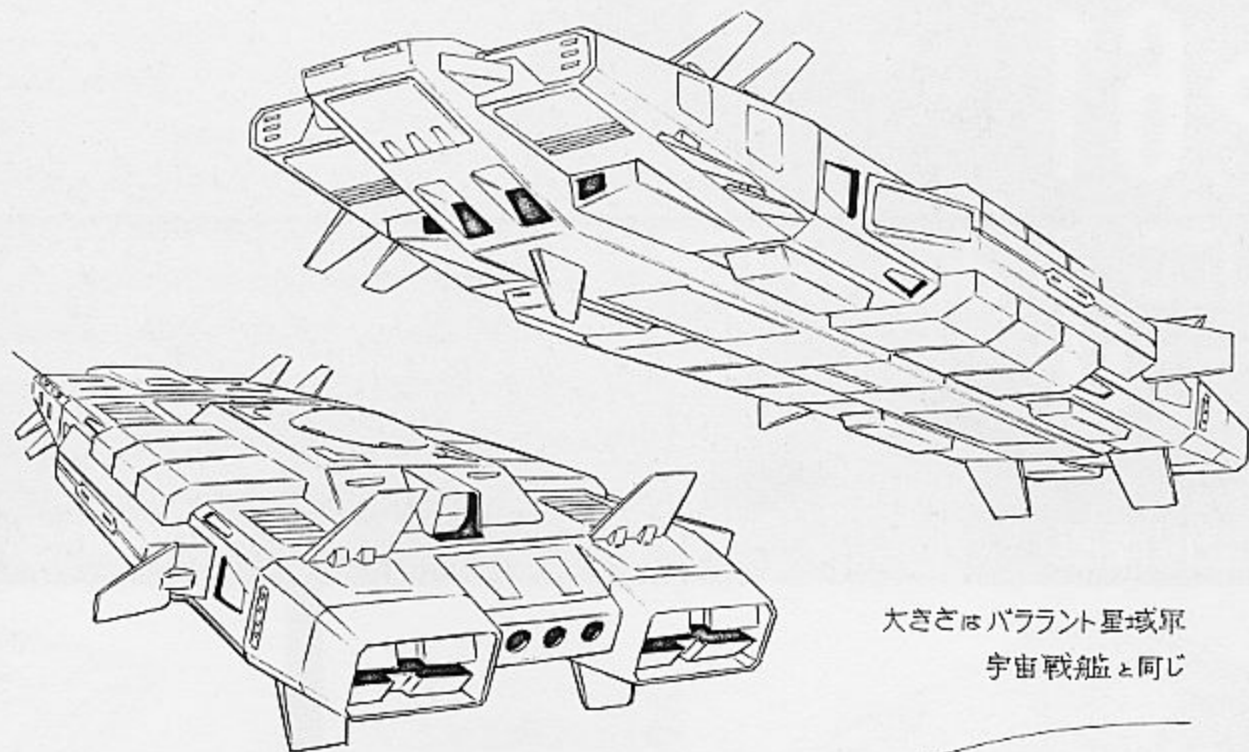
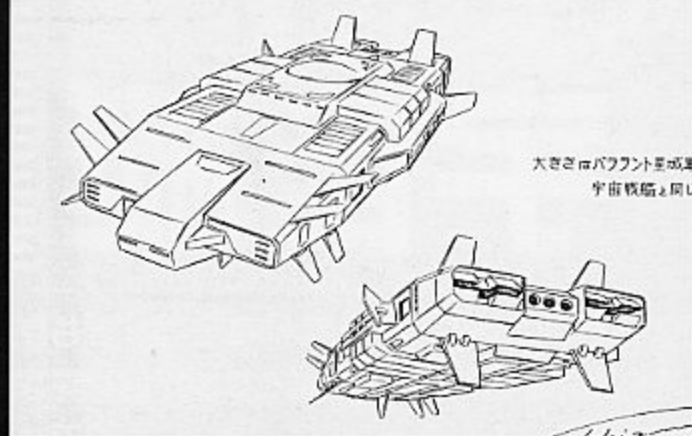
艦隊の各部に分散されており、簡単な改造を施すだけでAT程度なら撃破できる強力な武器となる。サンサ墜落後に改造され、実戦に投入されている。

秘密結社そのものではなく、関連するワズマンと呼ばれる存在が建造した艦。両陣営のいずれとも異なる思想で建造され、ギルガメス製兵器が搭載されていた。サンサ星に墜落後、遺棄。

## エンジンルーム



バラント軍が襲撃時にエンジンを止めようとしていたが、その作業を担当していたファッティのパイロットにはシステムの概略すらも掴めなかった。



### キリイの宇宙戦闘母艦

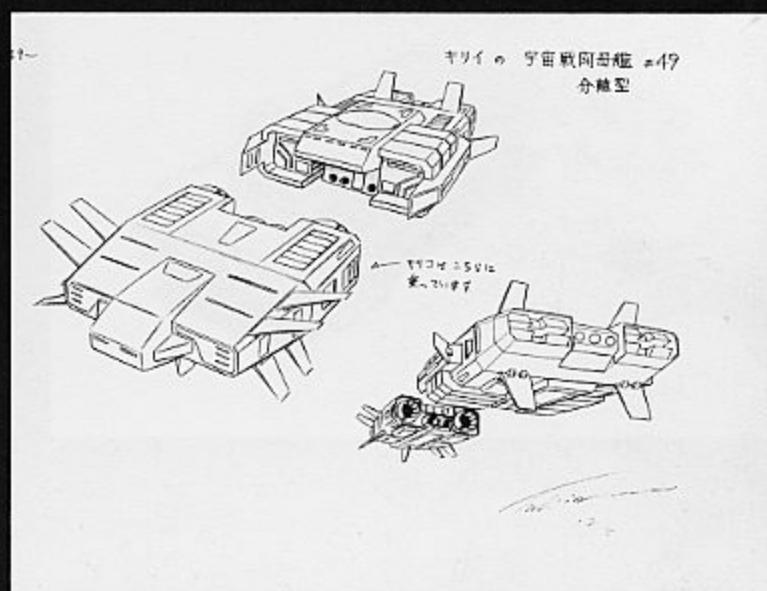
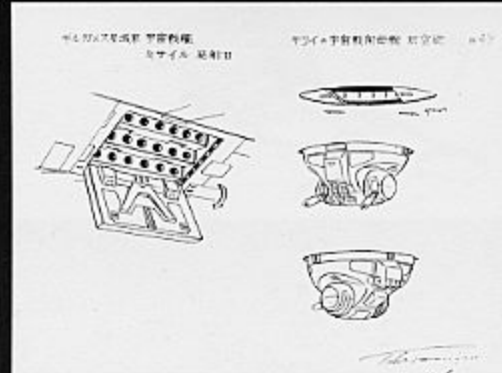
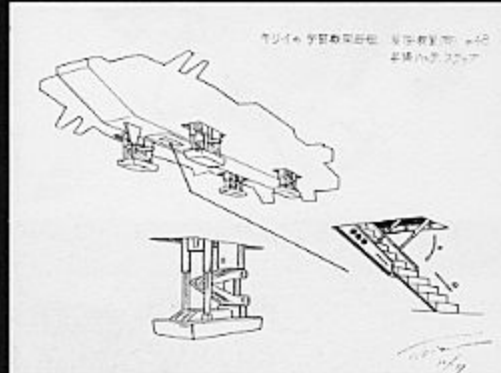
正式な艦名は不明。クエント消滅に大きく関わっていると思われる艦であり、ギルガメスの建艦思想に基いてはいるが不可解な部分も持ち合わせている。クエント事変の勃発以前よりクエント近傍宙域に展開し、独自の活動を展開していた。しかしワイズマンの人工惑星と呼ばれる謎のステーションとランデブー後、両陣営を敵に回した大規模戦闘を行い、撃沈されている。

大きさはパラント星域軍宇宙戦艦と同じ

Takizawa 10/25

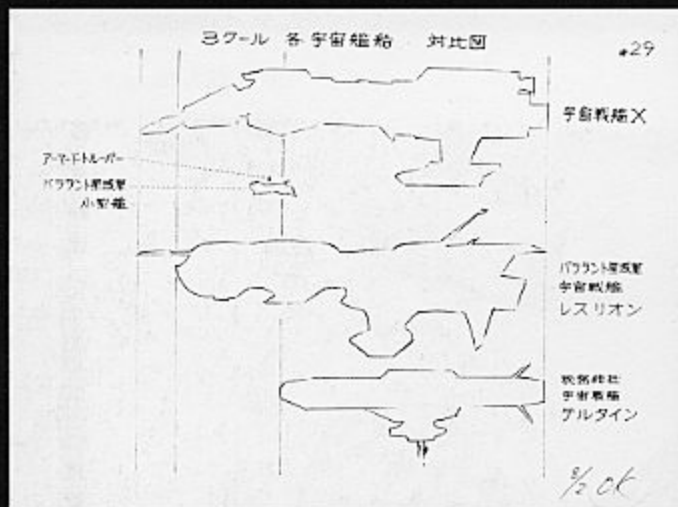
### 着陸脚

### 武装



### 分離状態

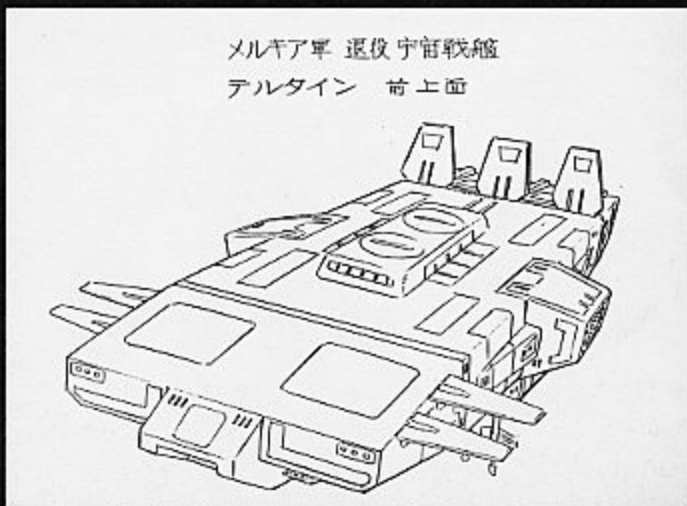
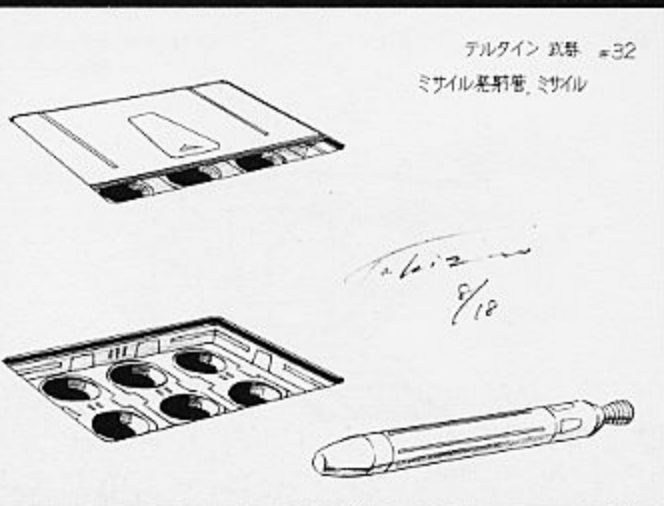
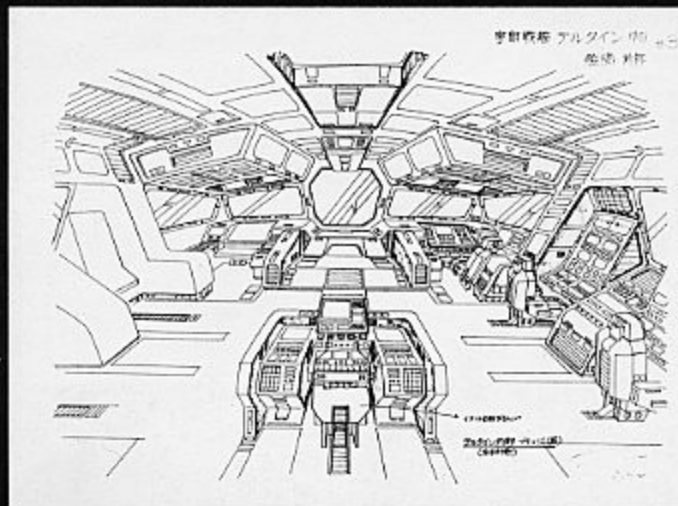
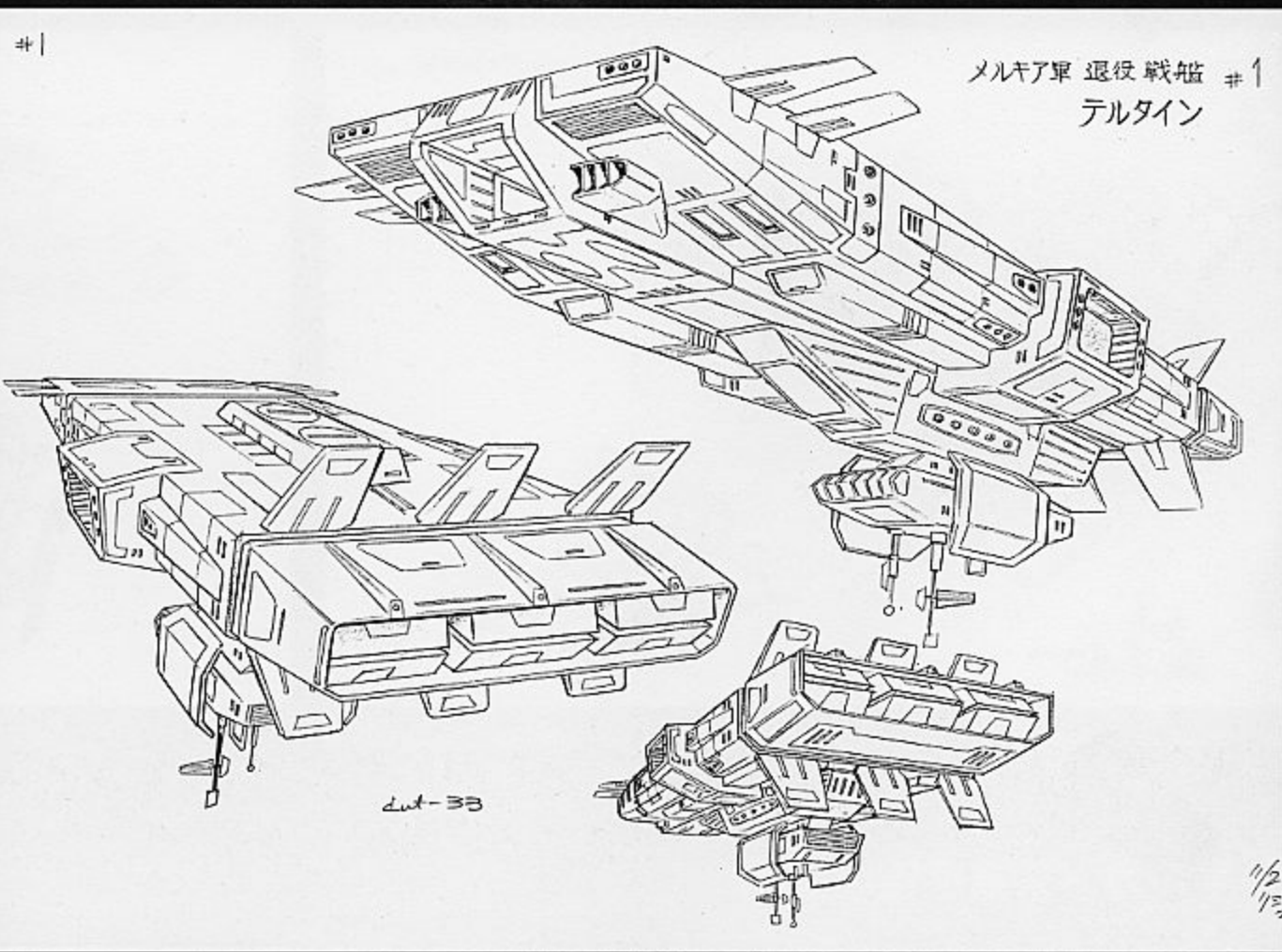
同艦は母艦と副艦の2隻に分離する機能を持ち、少なくとも母艦の方は大気圏に突入する能力も持っている。他に類例が見当たらない特異な設計である。



### <対比図>

### 退役宇宙戦艦テルタイン

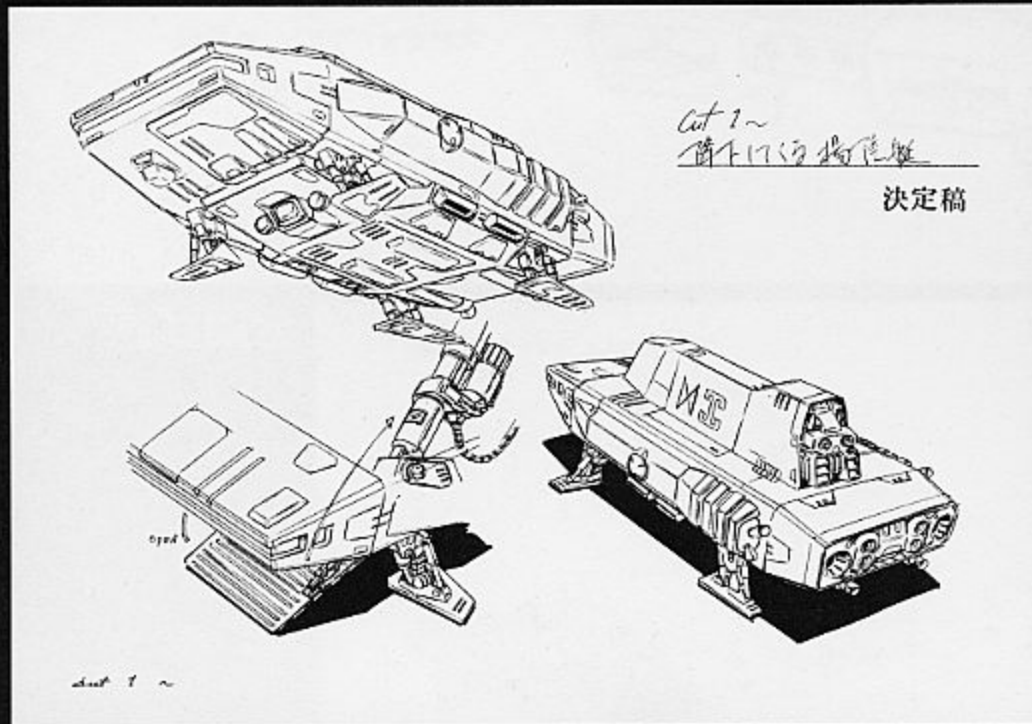
元々はギルガメスの旧式艦で、退役後に秘密結社に奪取されリド襲撃作戦を行った。その後の一時期の動向は不明だが、ドック入りして改装を受けていたという未確認情報もあり、その後の戦闘と考え合わせるならば、これはおそらく正しいと推測されている。再度動向が確認されたのは不可侵宙域で、サンサ近傍において宇宙戦艦Xの拿捕を行おうとして失敗、以後行方不明となっている。



### SMALL SPACE SHIP FILE >> i

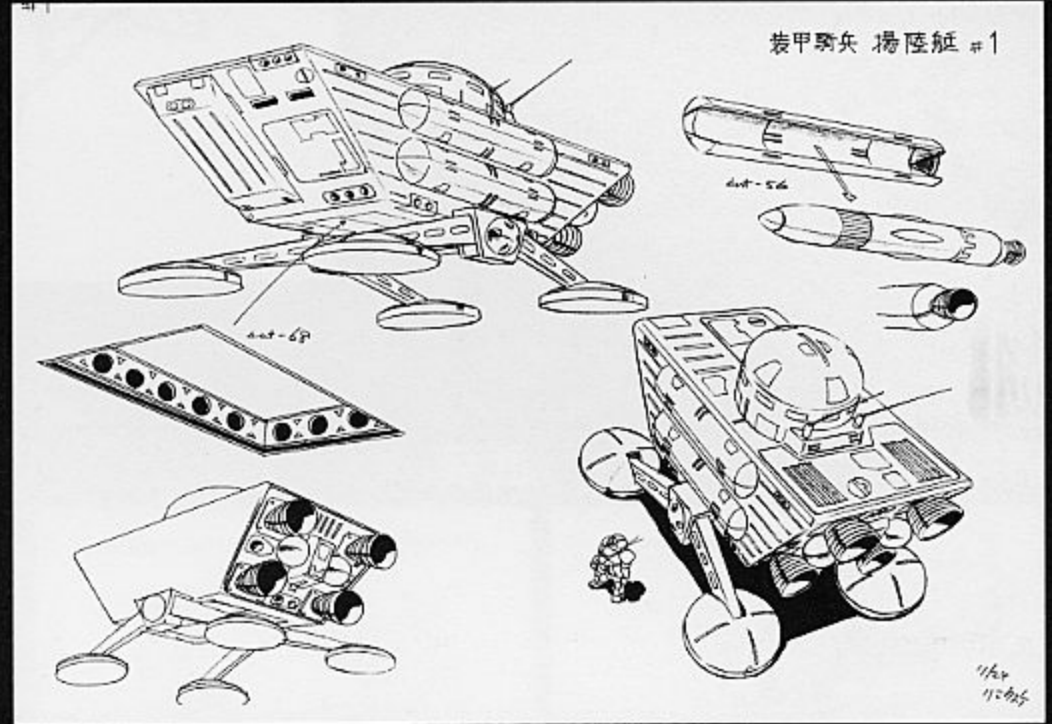
現在の宇宙戦闘の主役はまぎれもなくATだが、しかし同時に、宇宙用ATを支援する各種の小型宇宙機も重要な役割を果たしている。特に揚陸艇はATを部隊単位で直接目標に到達させるには必須のもので、戦場の名脇役とでも言うべき存在となっている。ここではそれら揚陸艇を中心に、少々乱暴だが純宇宙空間用の戦闘機、各種の小型シャトルや内火艇など類似のサイズの機体をひとまとめにし、小型宇宙機のあれこれをご紹介していこう。

#### ⊕ 大型揚陸艇



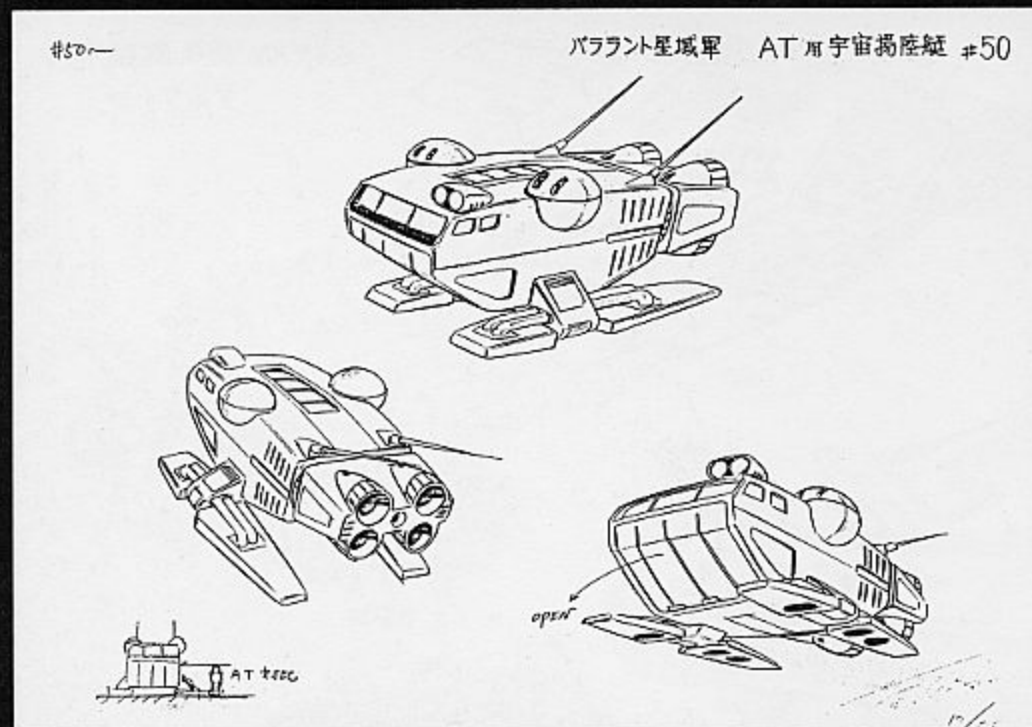
LCH05-ATより大型の降下艇。ATを輸送車両ごと降下させる能力があるが、支援火器もなく装甲も薄いため、後方への降下にしか使用されていない。

#### ⊕ LCH-05-AT宇宙揚陸艇



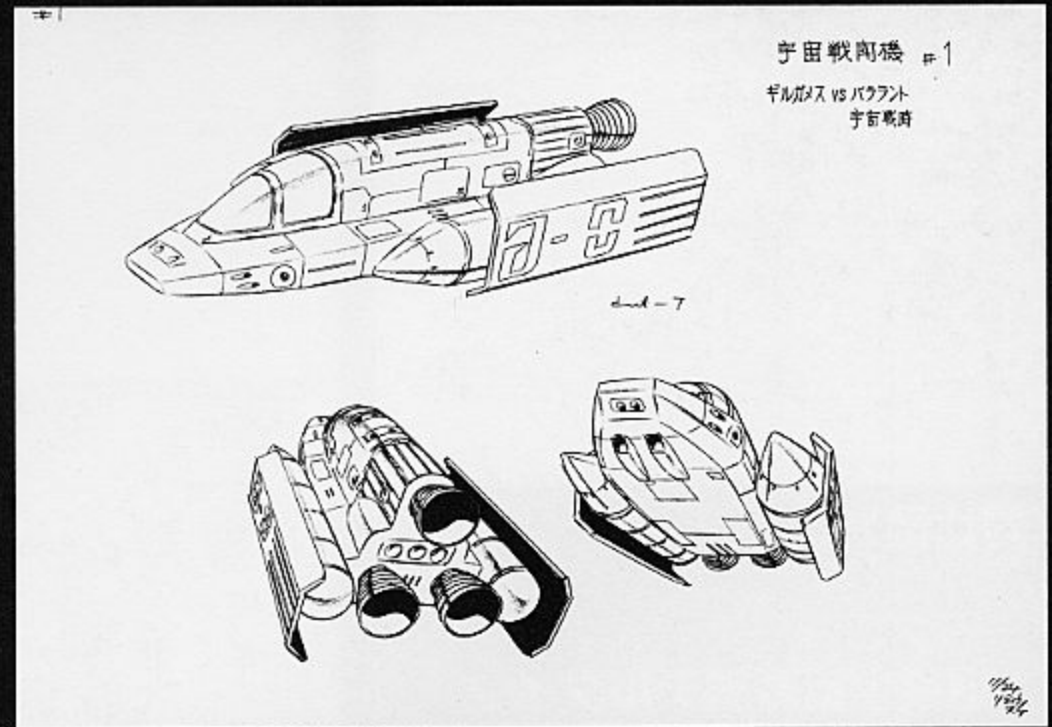
ギルガメスで最も普及しているAT用揚陸艇。10機のATを搭載し、大型ミサイルによって降下地点の抵抗を排除する。継続的な火力支援はできない。

#### ⊕ バラント軍宇宙揚陸艇 B・SFTV-AT-105ザーハット



軌道降下揚陸艇としてAT10機か貨物110tを輸送可能な機体。支援火力も充実しており、攻撃しつつATを揚陸させるような真似も可能なようだ。

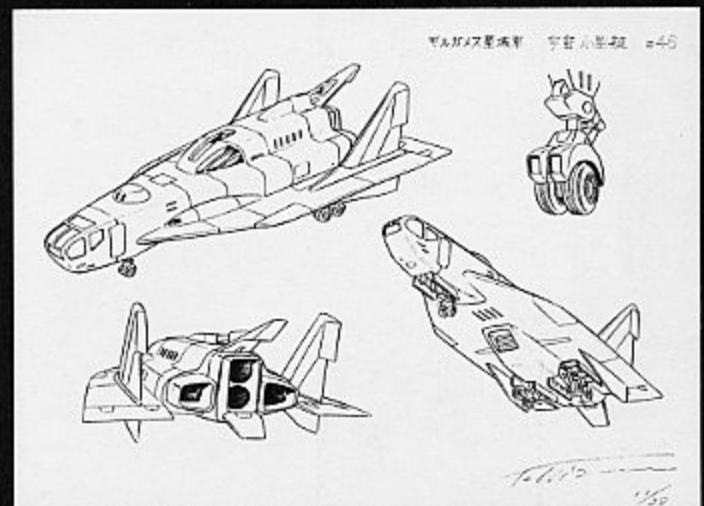
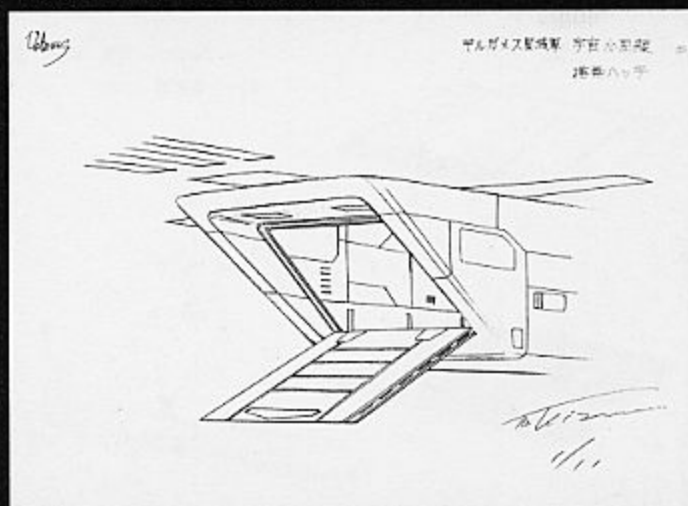
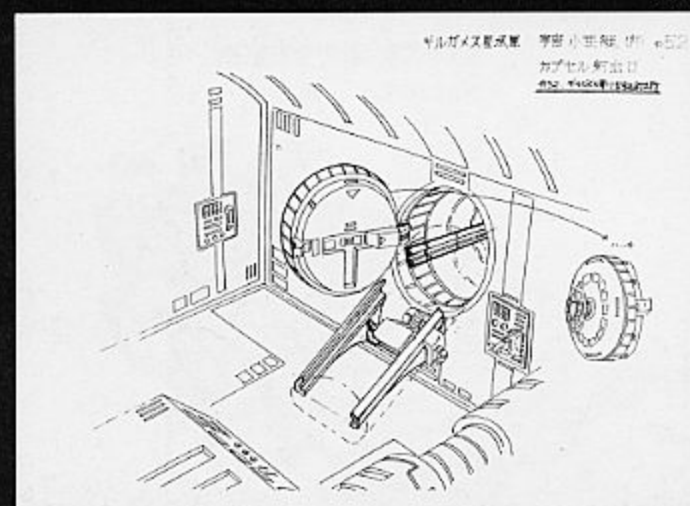
#### ⊕ SF-14-DH宇宙戦闘機



宇宙戦闘機というものの、実態は迎撃機に近い。バラントBFH-14よりも優速だが、旋回性能は劣り全般的にはほぼ互角。大気圏内は飛行できない。

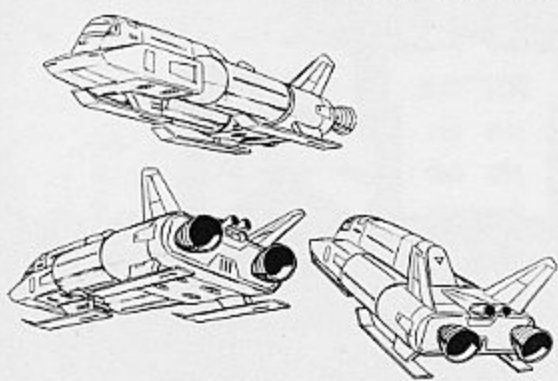
#### ⊕ ギルガメス軍宇宙小型艇

主に地上と宇宙の連絡に使われているが、恒星間飛行も可能な内火艇。脱出用に使われる場合もあり、その場合は脱出後の自由度が高くなる。また貨物用の機体ほどではないが艇内には十分なスペースがあり、予備資材の積載が容易なほか、追加装備の搬入・運用にも向いている万能艇である。



## ⊕ アロン・グランの宇宙探査艇

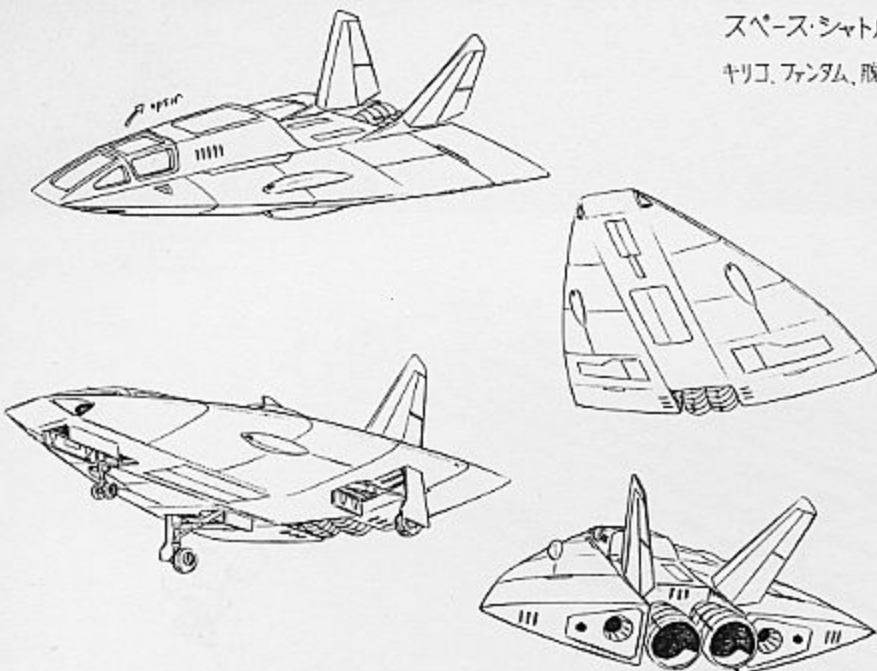
アロン・グランの宇宙探査艇 #39



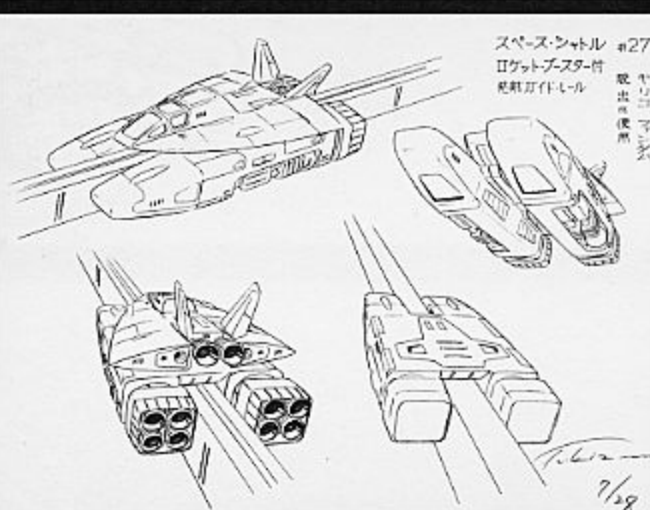
テルタインとキリィの宇宙戦闘母艦に積まれていた小型艇。同型が数機あるらしいが、監視ポッド等の仕様が同じかどうかは不明。

## ⊕ 脱出用スペースシャトル

スペースシャトル #27  
ヤリコ、ファンム、脱出に使用



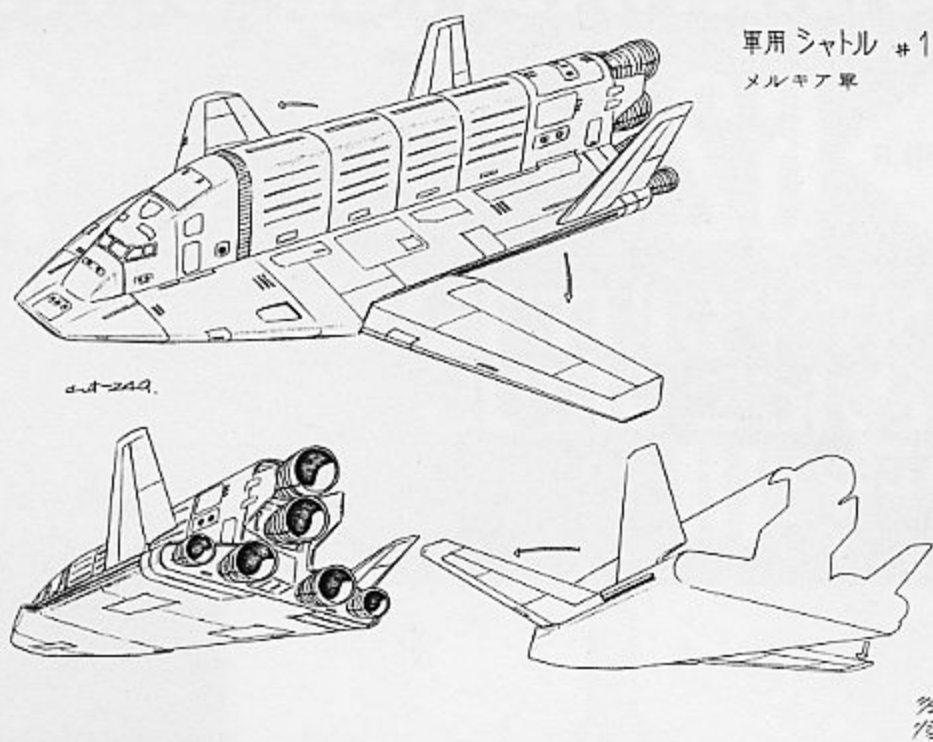
パイロット1名+PS用のカプセルという、限定された仕様の艇。秘密結社がクメンからの脱出用に用意していたものである。



スペースシャトル #27  
ロケットブースター付  
脱出用仕様

## ⊕ メルキア軍軍用シャトル

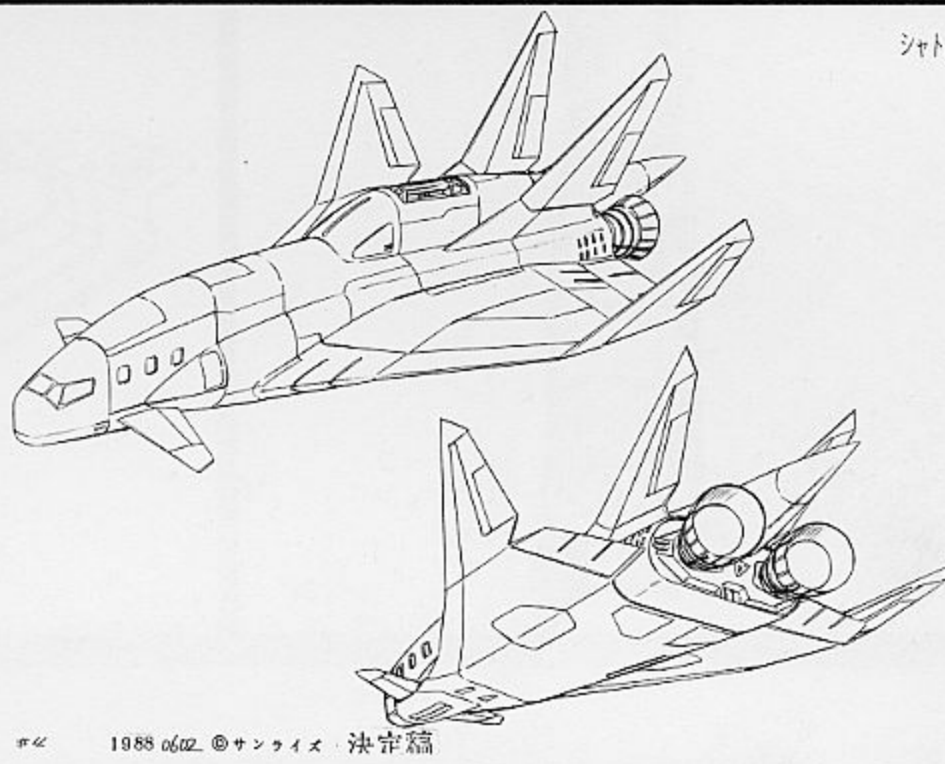
軍用 シャトル #1  
メルキア軍



純粋な往還機で大気圏内での飛行能力を重視しており、収納型の変翼を持つ。運用の幅はさほど広くないが、それなりに普及しているようだ。

## ⊕ ギルガメス軍旧型軍用シャトル

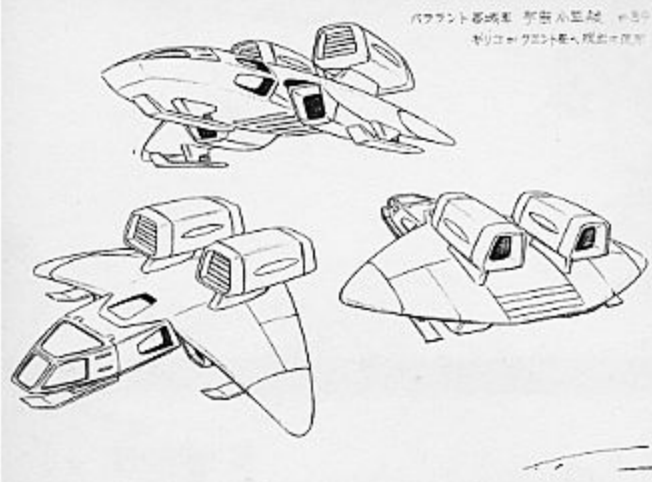
シャトル



ケルビン級宇宙戦艦に搭載されていたシャトル。現在ではほとんど見かけることもない旧型機で、現在の宇宙小型艇の前身となる機体である。

## ⊕ バラント軍宇宙小型艇

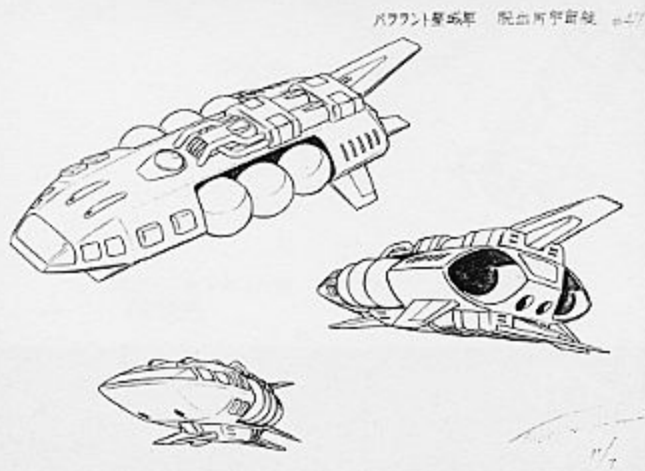
バラント軍宇宙小型艇 #37  
ヤリコ、ファンム、脱出に使用



一人乗りの小型艇ながら、恒星間飛行能力を持つ高性能機。ただしそのしわ寄せが離着陸性能にきているのか、事故も少なくないようだ。

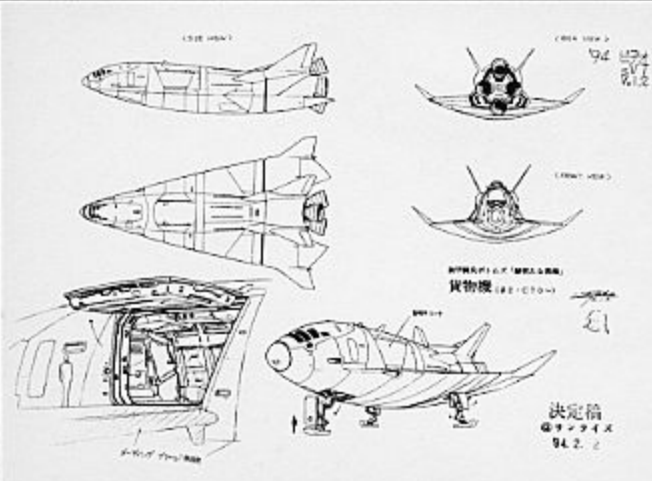
## ⊕ バラント軍脱出用宇宙艇

バラント軍脱出用宇宙艇 #47



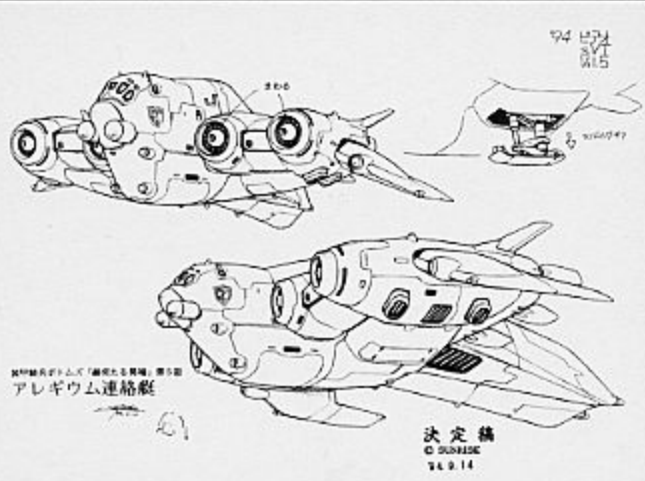
バラントの内火艇で脱出艇も兼ねている機体。脆弱な小型機で、収容人数もあまり多くない。当然ながら非武装である。

## ⊕ 民間貨物機



冷凍睡眠業者のモウラが保有する小型貨物機。冷凍睡眠カプセルを主な積み荷としており、対衝撃性に優れた船倉を持っている。

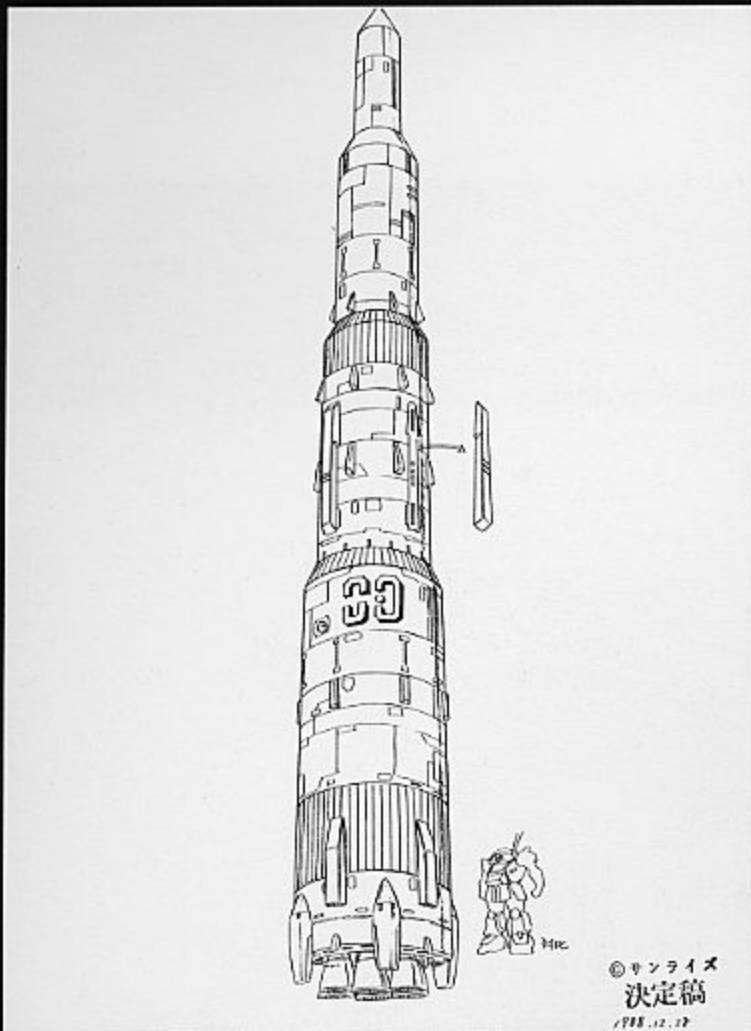
## ⊕ アレギウム連絡艇



アレギウムが保有する中型の連絡艇。4発機で、高価でもあるらしい。文字通り神の使徒としての任務を遂行している。

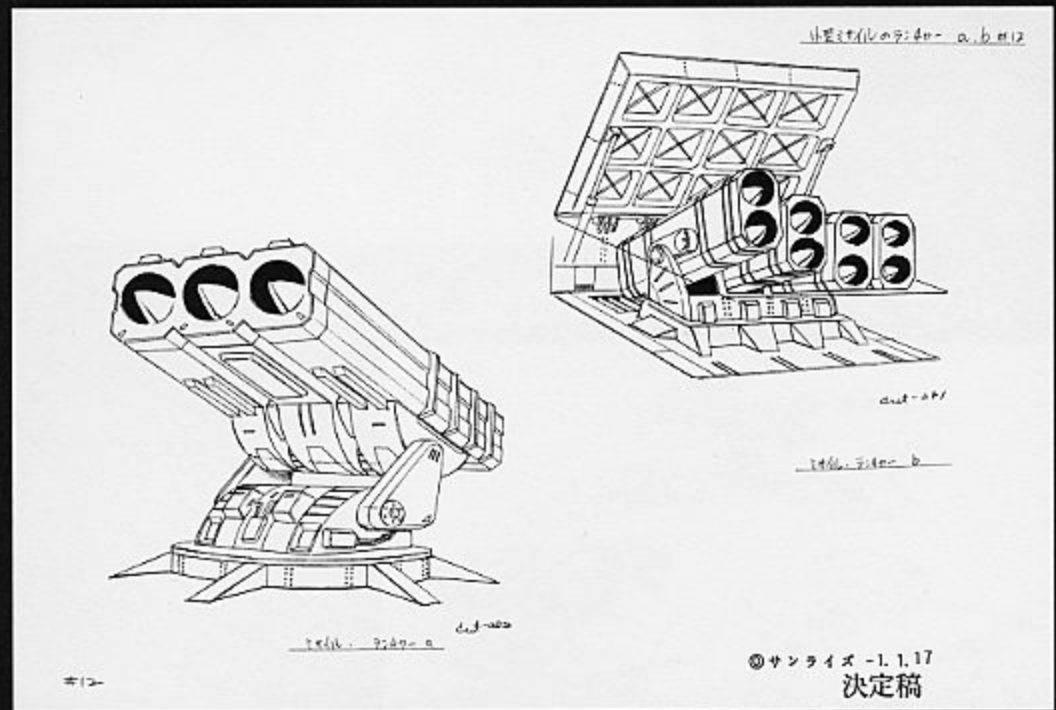
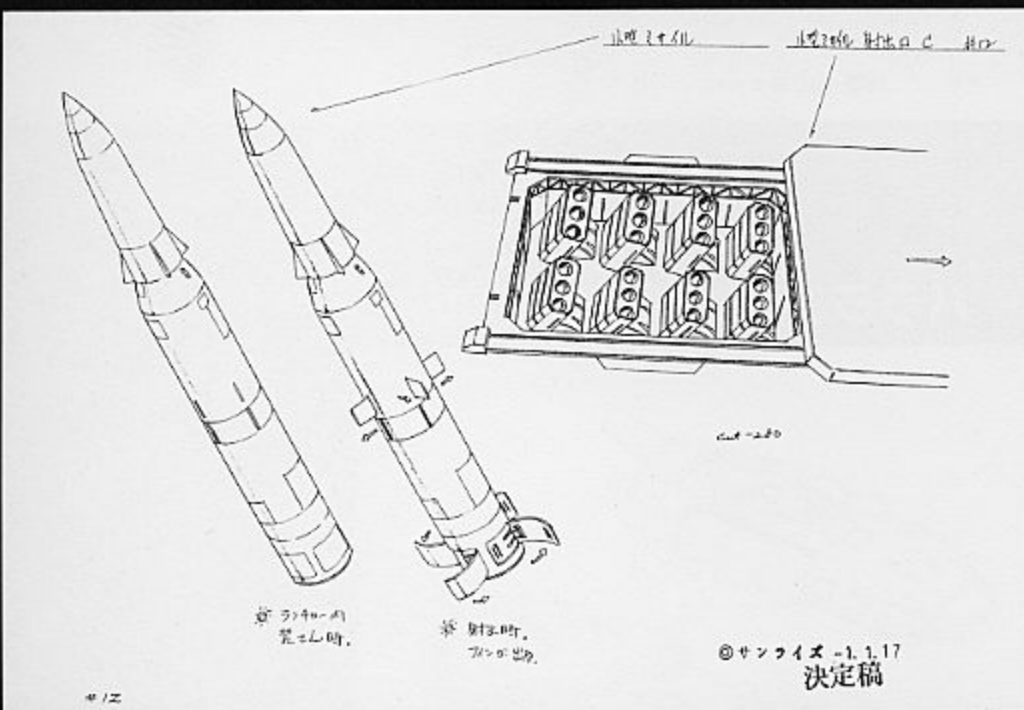
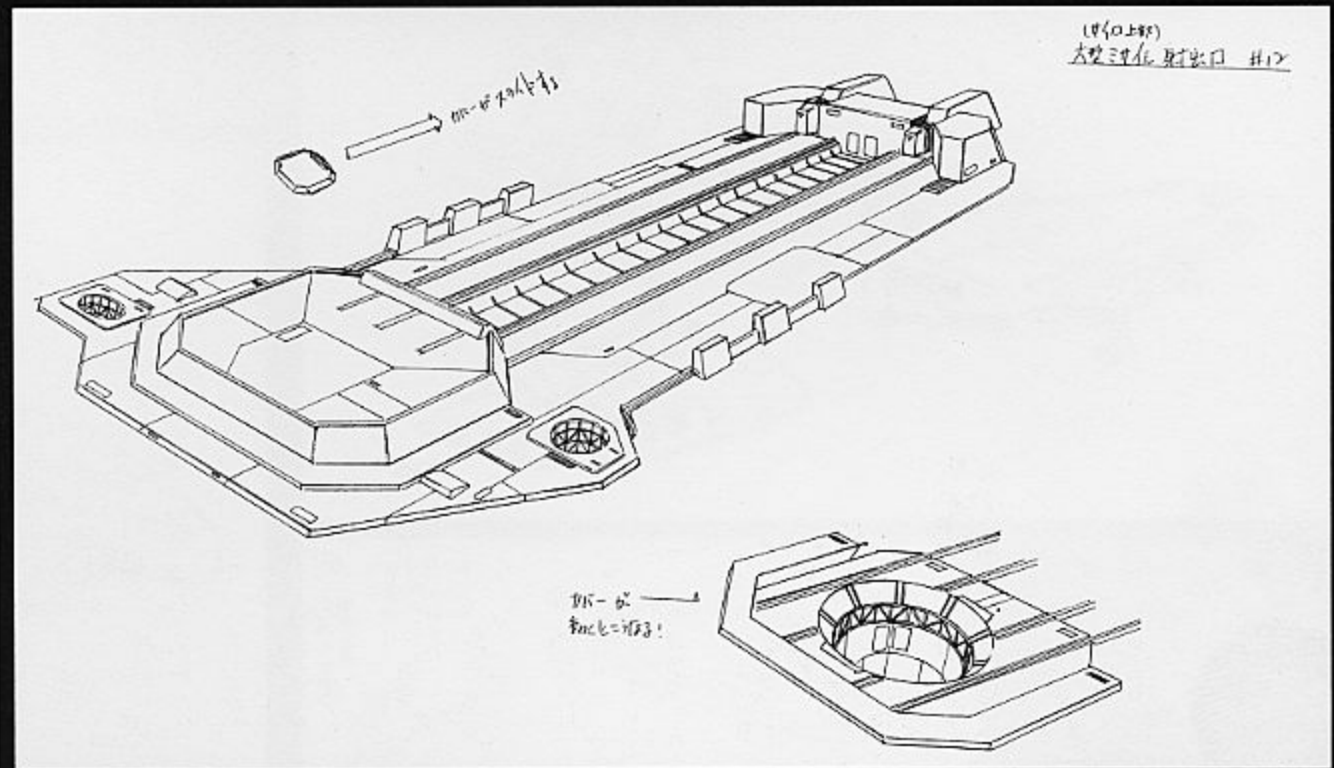
UNINHABITED  
SPACE ARMS  
FILE >> 62

宇宙兵器は大型艦や各種舟艇ばかりではなく、地上配備の対宇宙兵器や、昔ながらの偵察衛星なども使用されている。特に対宇宙兵器は時代遅れの代物となりつつあるが、迎撃に特化したシステムを組んでいるため、非常に効果的な戦闘を行える兵器システムとなっている。特に第四次銀河大戦の幕を開けたバラント軍のメルキア奇襲攻撃に対して最初に有効な反撃を行えたのは、これら対軌道兵器であることは特筆すべきことだ。



### ⊕ 対軌道大型ミサイル

地上配備型の対軌道ミサイル。地下式のサイロに装備されたかなりアナクロな代物で、3段式の構成を持ち、低温の液体燃料を使用する。第四次銀河大戦勃発時の奇襲に対する迎撃では、レスリオン級宇宙戦艦の一部を撃破している。

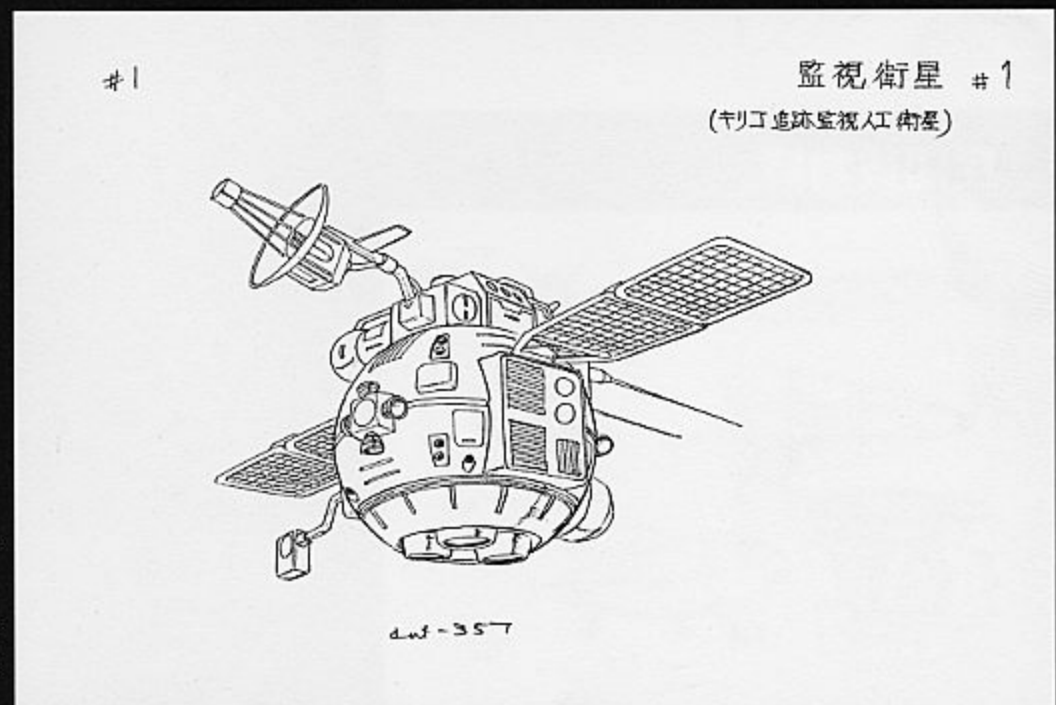


### ⊕ 対軌道爆雷ミサイル

これも地上配備型の、対軌道爆雷迎撃ミサイル。2段式で、軌道上からの攻撃兵器である軌道爆雷を低い軌道で迎撃する。サイロ1基につき3連装のランチャーが8器収納されている他、連装型のランチャーを4器まとめたタイプも存在する。

### ⊕ 監視衛星

これは宇宙兵器には分類されるが、武装した偵察プローブに近い。対スペース・デブリ用の兵器を備え、軌道上のデブリ帯にまぎれて地上を監視する。特定目標の追尾も可能だが、その場合はビーコンを監視対象に埋め込む必要があるようだ。



WOTWORLD  
AT 完全設定資料集  
AT PERFECT ESTABLISHMENT DATA

# Landscape

美術編



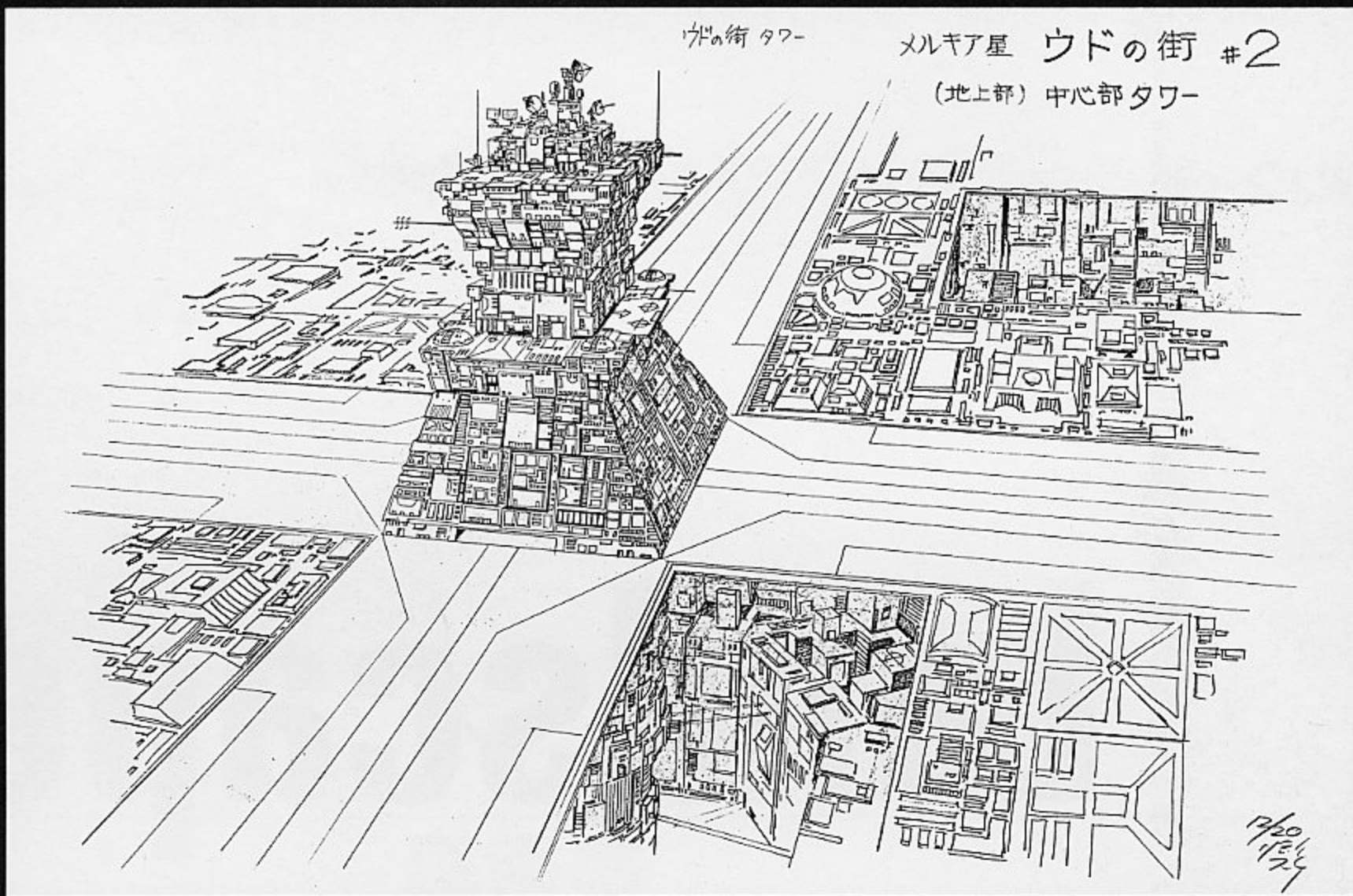
# MELKIA(1) UODOO

## FILE 63 メルキア星(1)～ウドの街～

MELKIA(1) UODOO  
FILE >> 63

メルキア星はギルガメス連合政府の現時点での主星であるが、百年戦争の戦禍はこの星にも及び、実に人口の4分の3が死滅している。この疲弊した星の街の典型的な例として、かつてはメルキア有数の精密工業地帯であり、崩壊時までは悪徳の都として知られていたウドを取り上げる。バラントの爆撃によってできた巨大クレーターに築かれ、酸の雨が降る地獄のような都市の姿を通して、戦後の都市の姿を浮き掘りにしていこう。

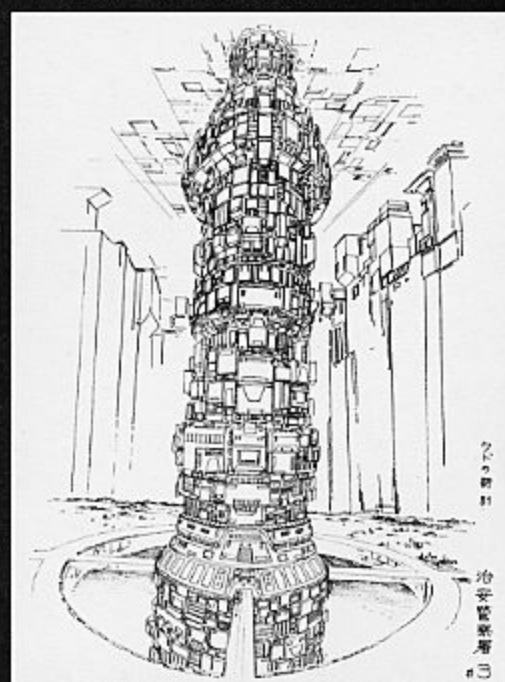
### 中央部タワー



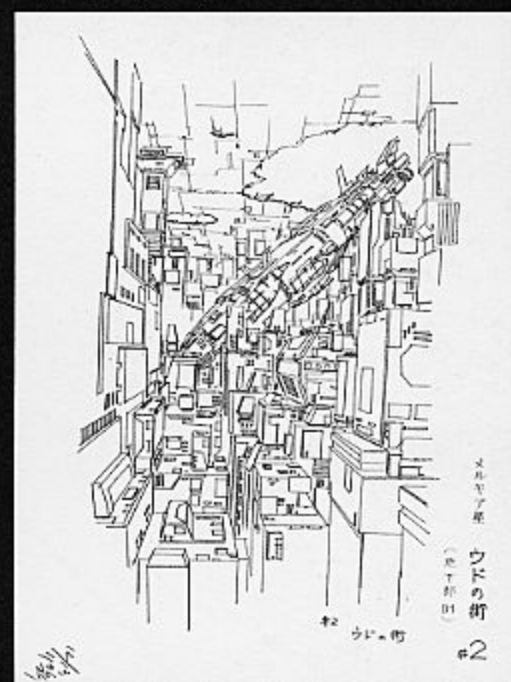
### 街全景



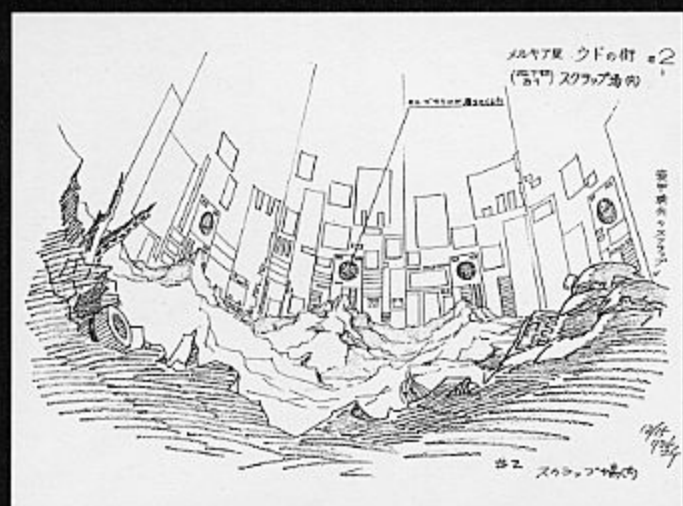
### 治安警察署



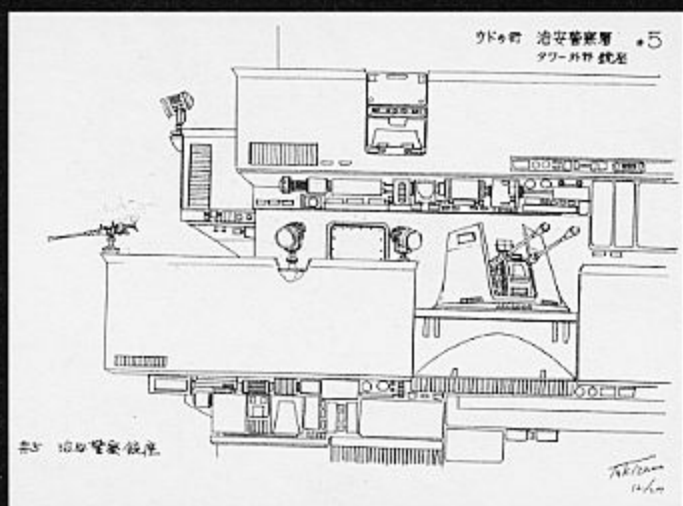
### 地下街



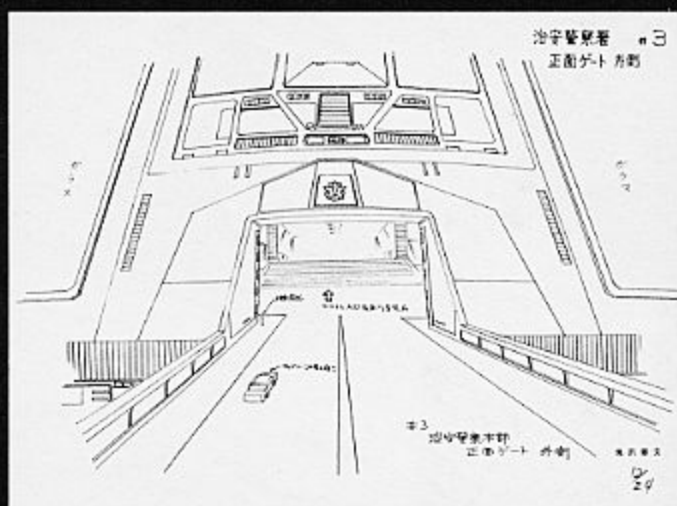
### スクラップ場



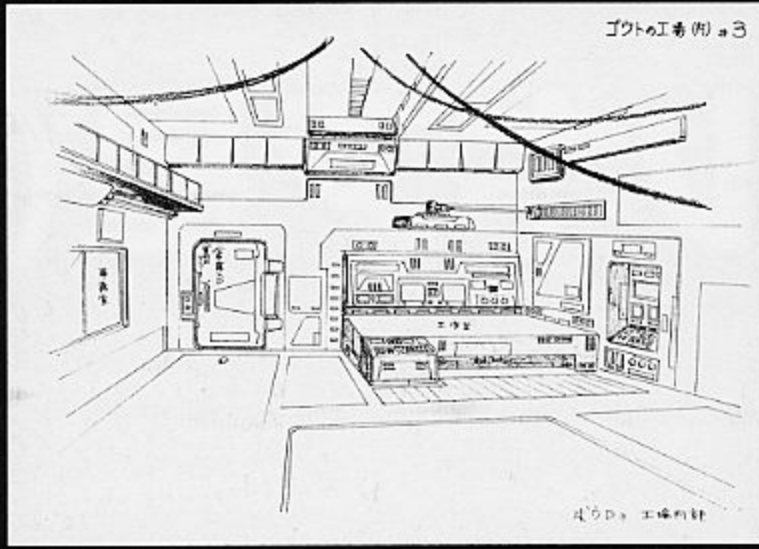
### 治安警察署タワー外部の銃座



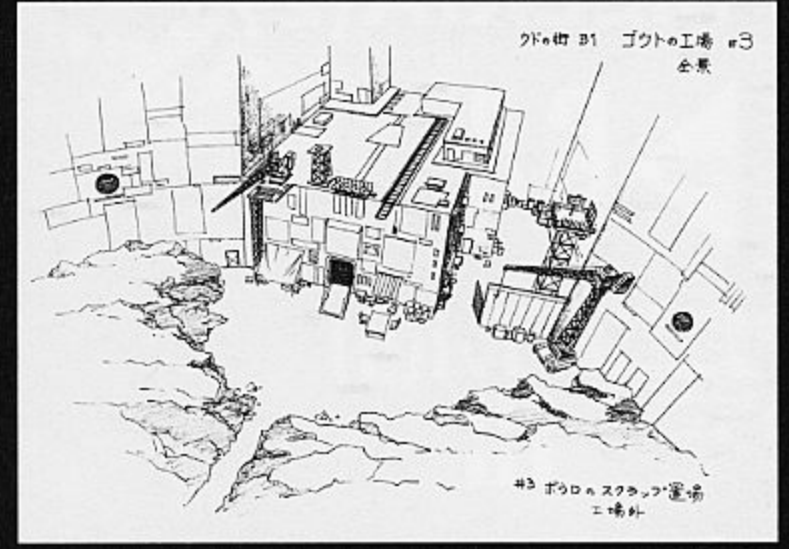
### 治安警察署正面ゲート



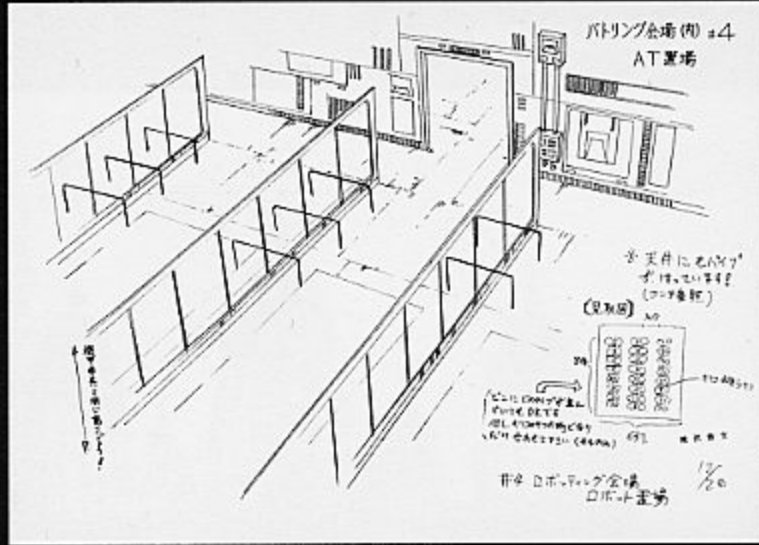
⊕ 工場内部(1)



⊕ 工場全景



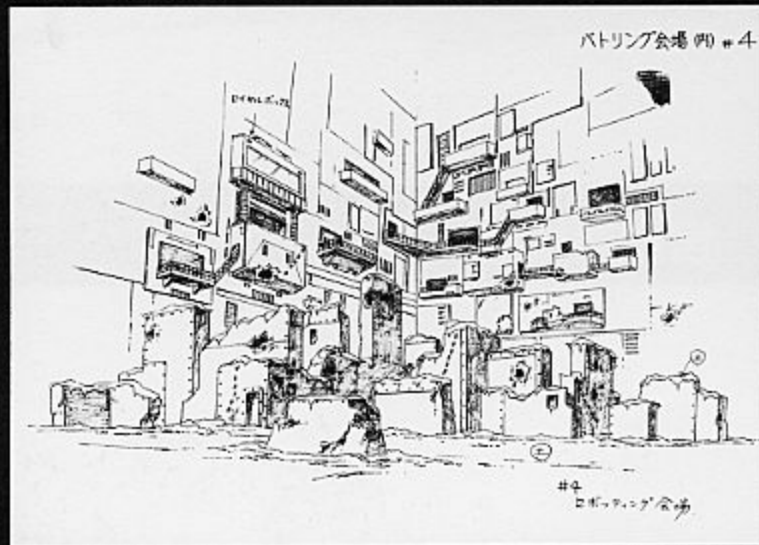
⊕ バトリング会場AT置き場



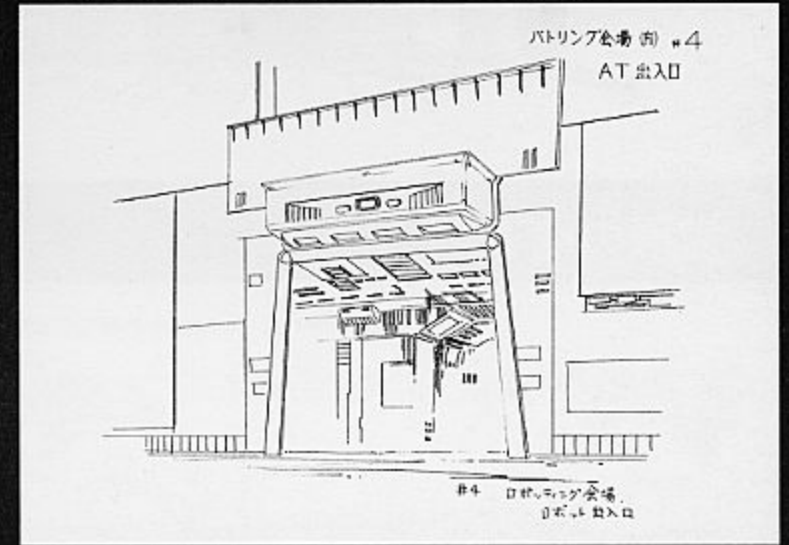
⊕ 工場内部(2)



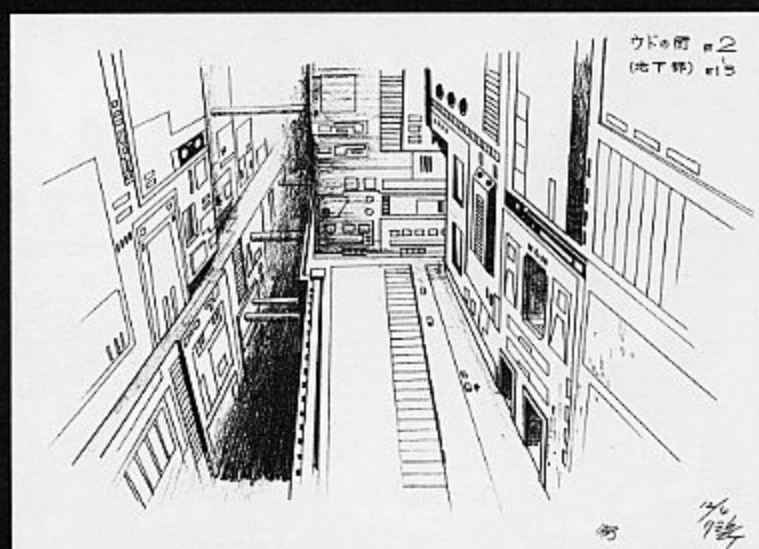
⊕ バトリング会場内部



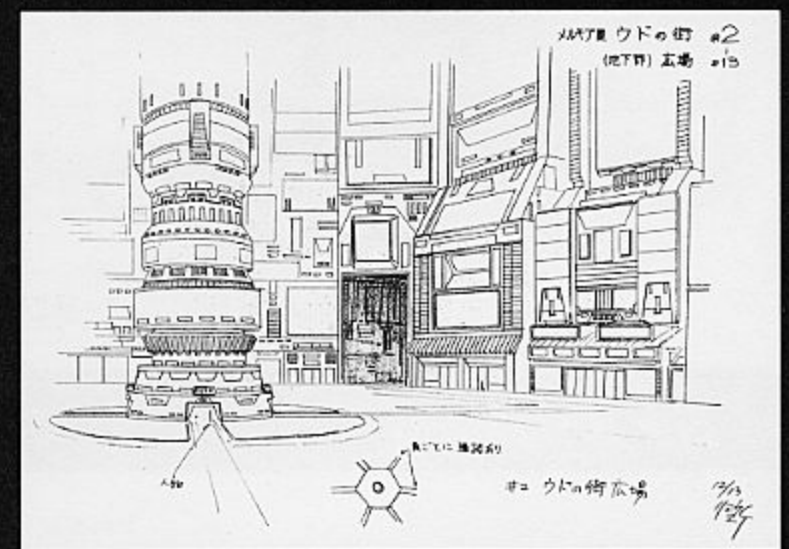
⊕ バトリング会場AT出入口



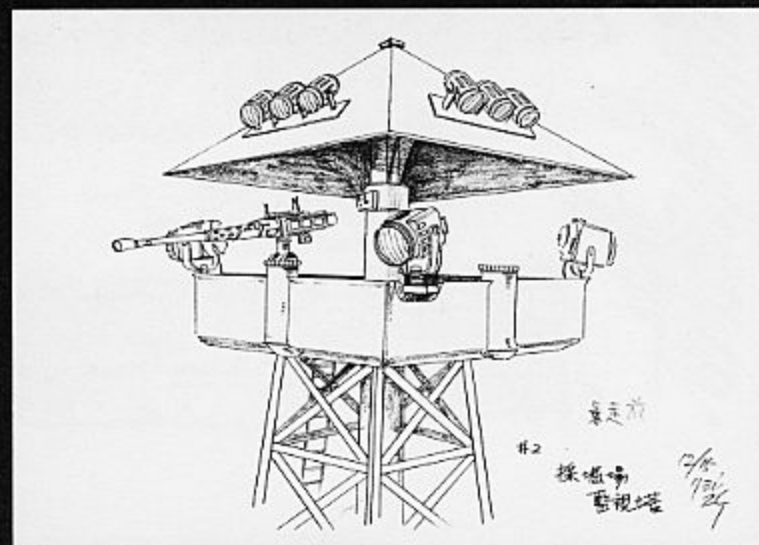
⊕ 地下街



⊕ 地下街広場



⊕ 採掘場監視塔



⊕ 暴走族アジト駐車場



# MELKIA(2)

FILE 64

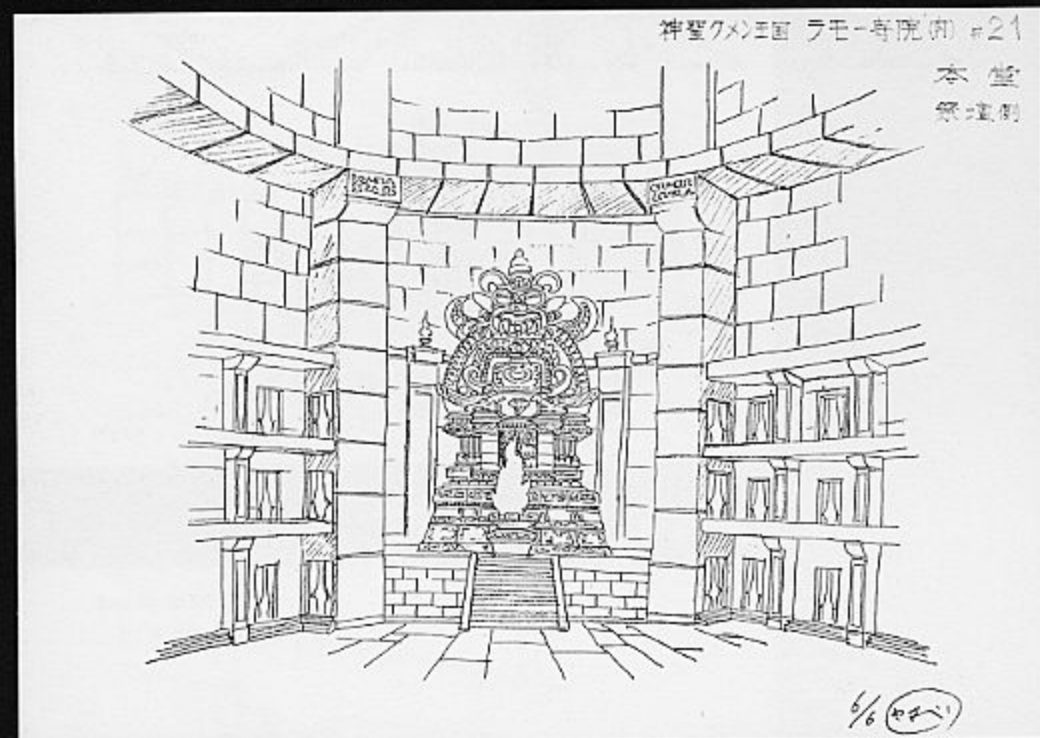
# メルキア星(2)

MELKIA(0)  
FTCE>> 10

本来は自然豊かな星であるメルキア星には、クメンなどの後進地域を中心に、戦禍に耐えて自然な風景を維持している地方も存在する。そして国土の大半は荒野となっているが、戦禍によって廃墟となった街の周辺で自然が回復し始めている例や、宇宙戦艦のそそり立つ廃墟など、都市とはまた違う風景も少なくない。ここでは都市部とはまた違う、もう一つのメルキア星の姿を追っていこう。

## クメン王国

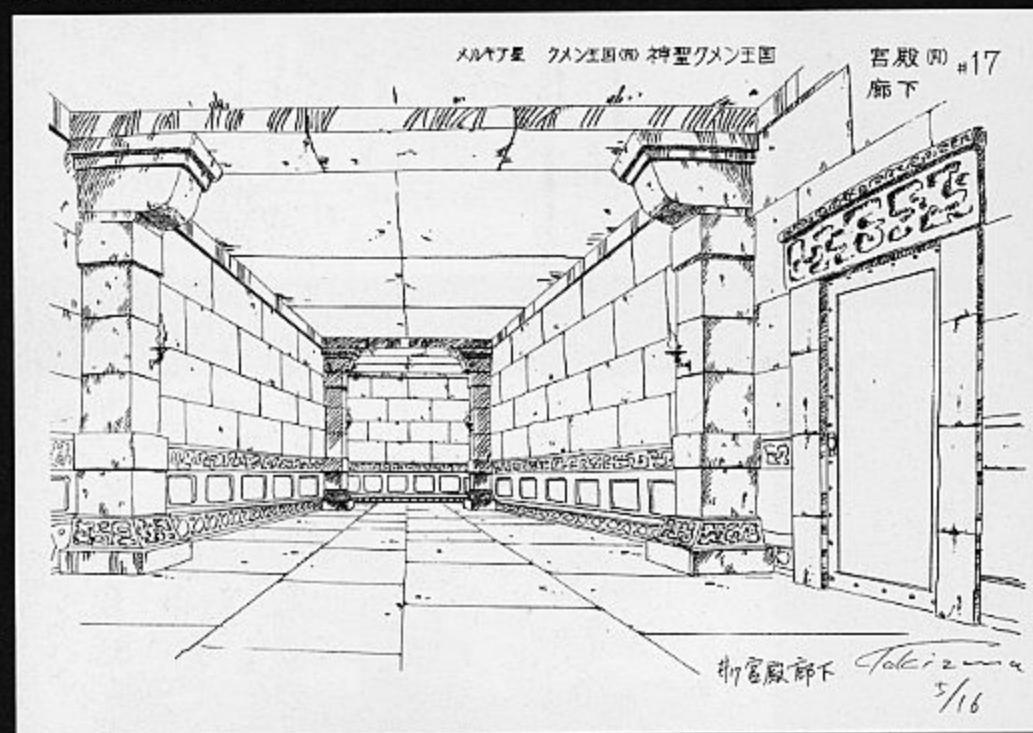
### ⊕ ラモー寺院内部



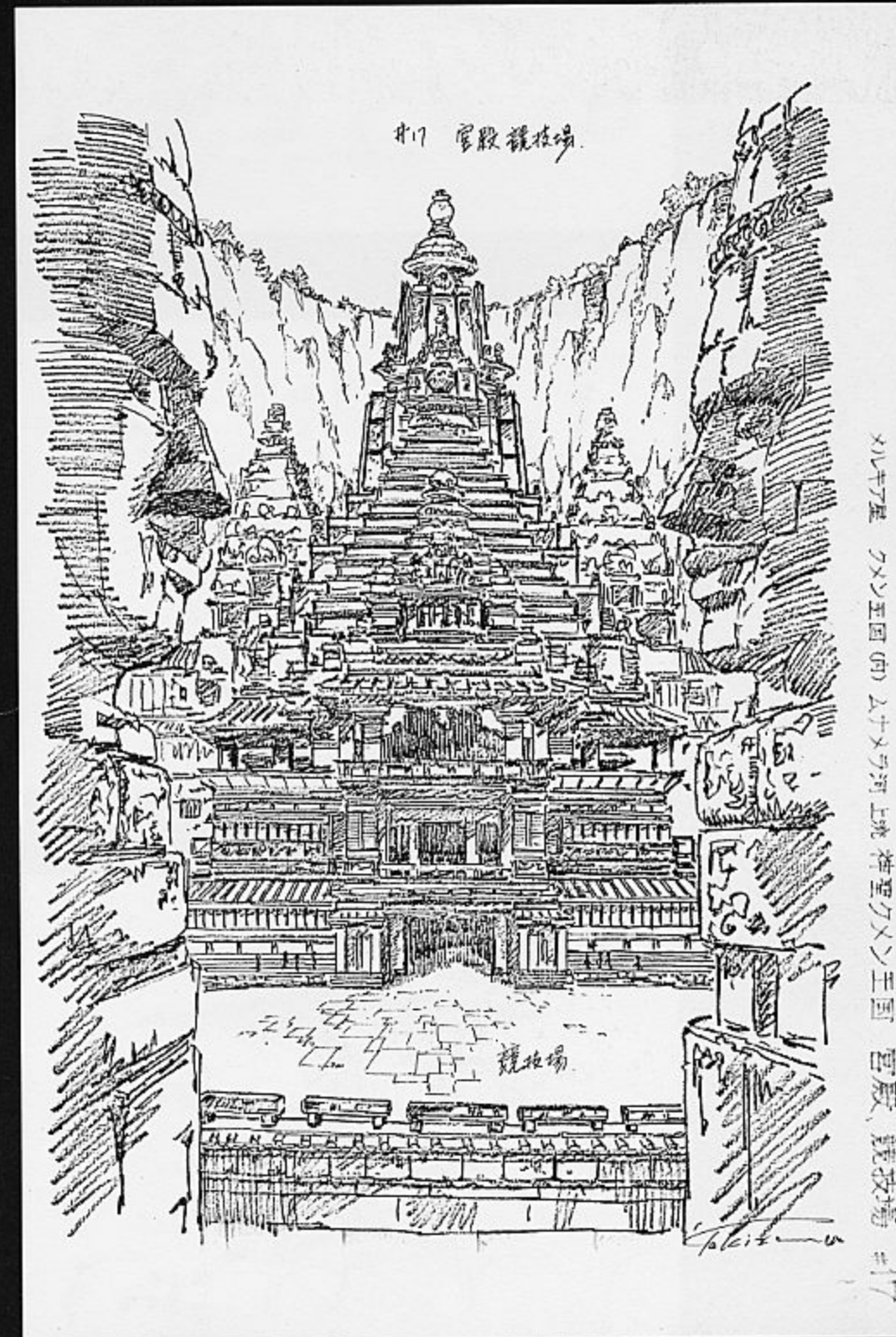
### ⊕ ラモー寺院



### ⊕ 宮殿の廊下



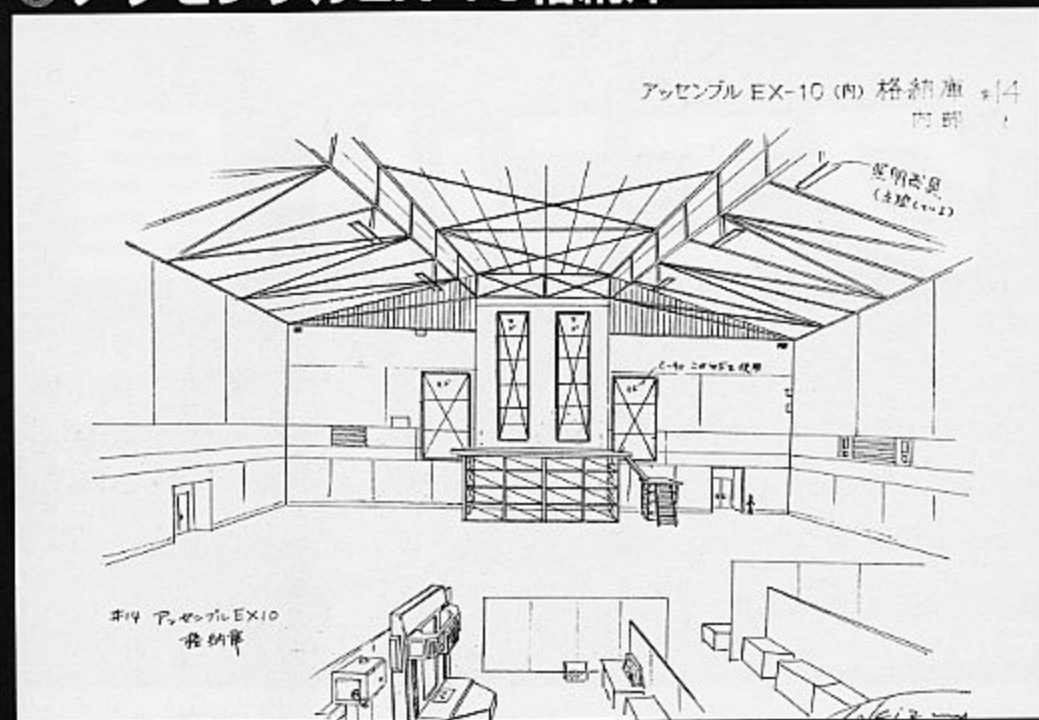
### ⊕ 宮殿競技場



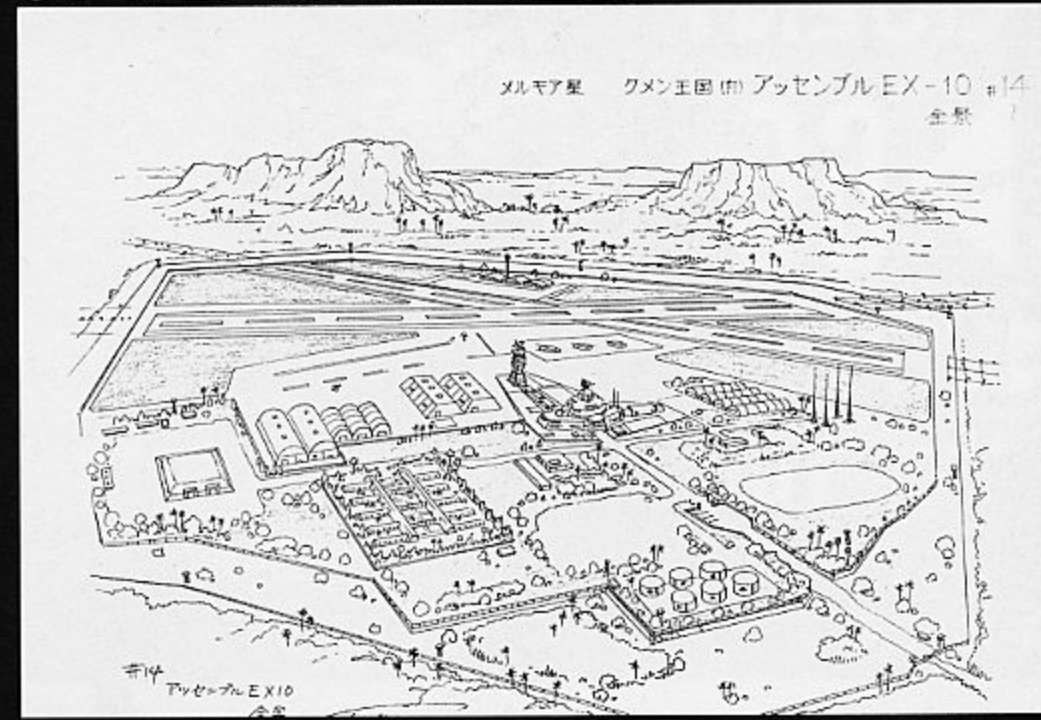
### ⊕ ムナメラ河流域



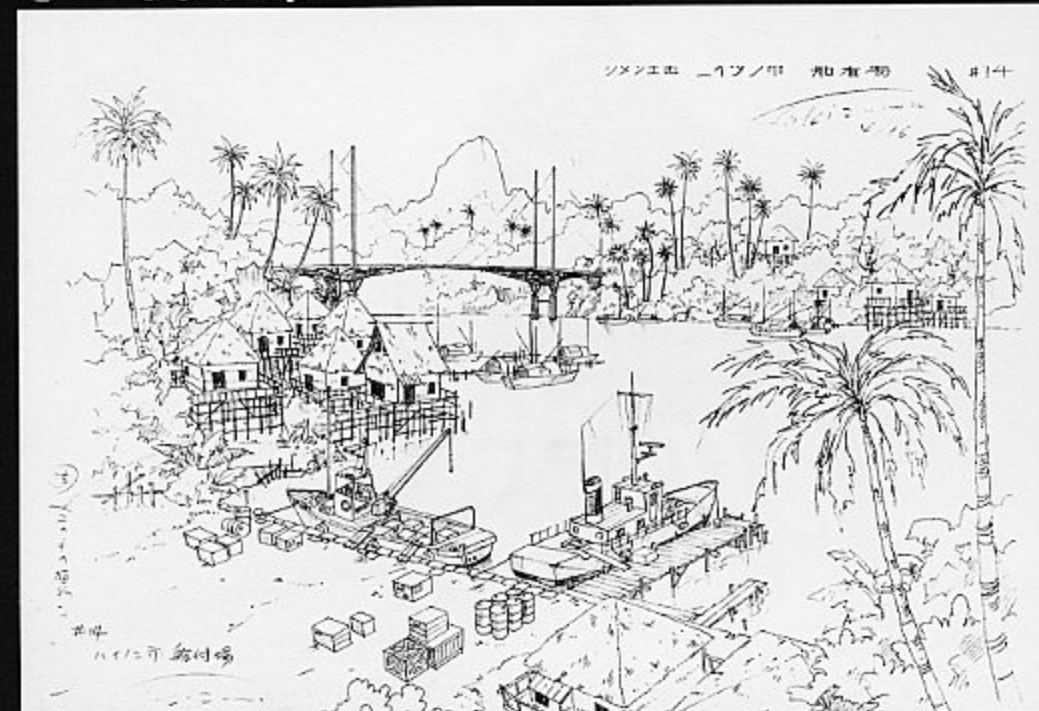
⊕ アッセンブルEX-10格納庫



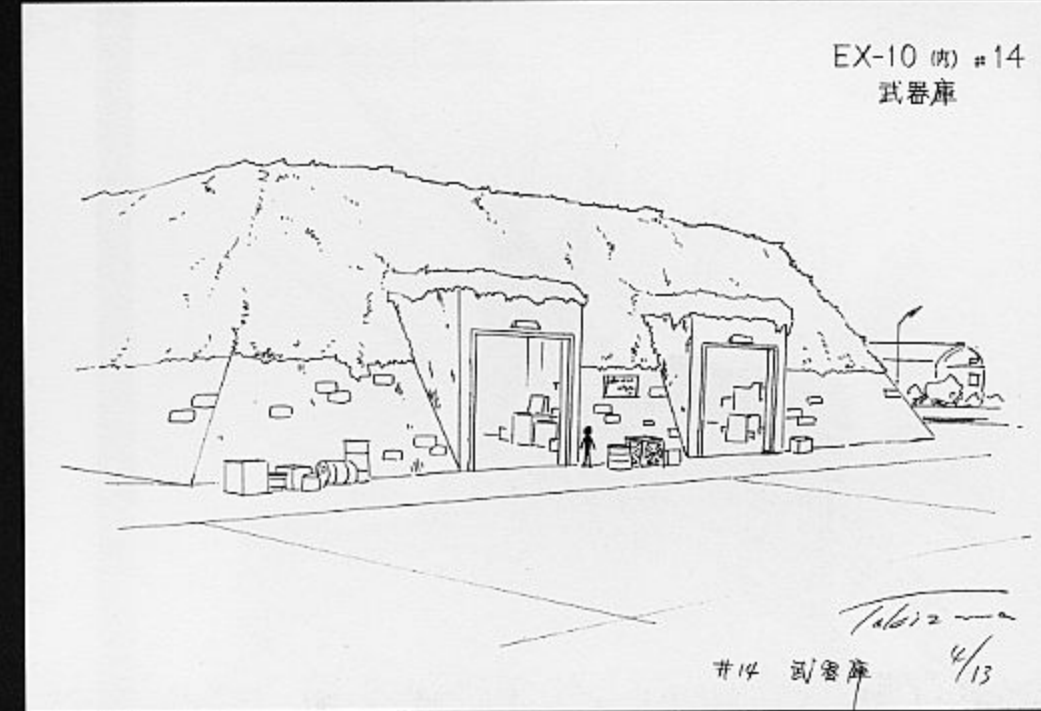
⊕ アッセンブルEX-10全景



⊕ ニイタン市

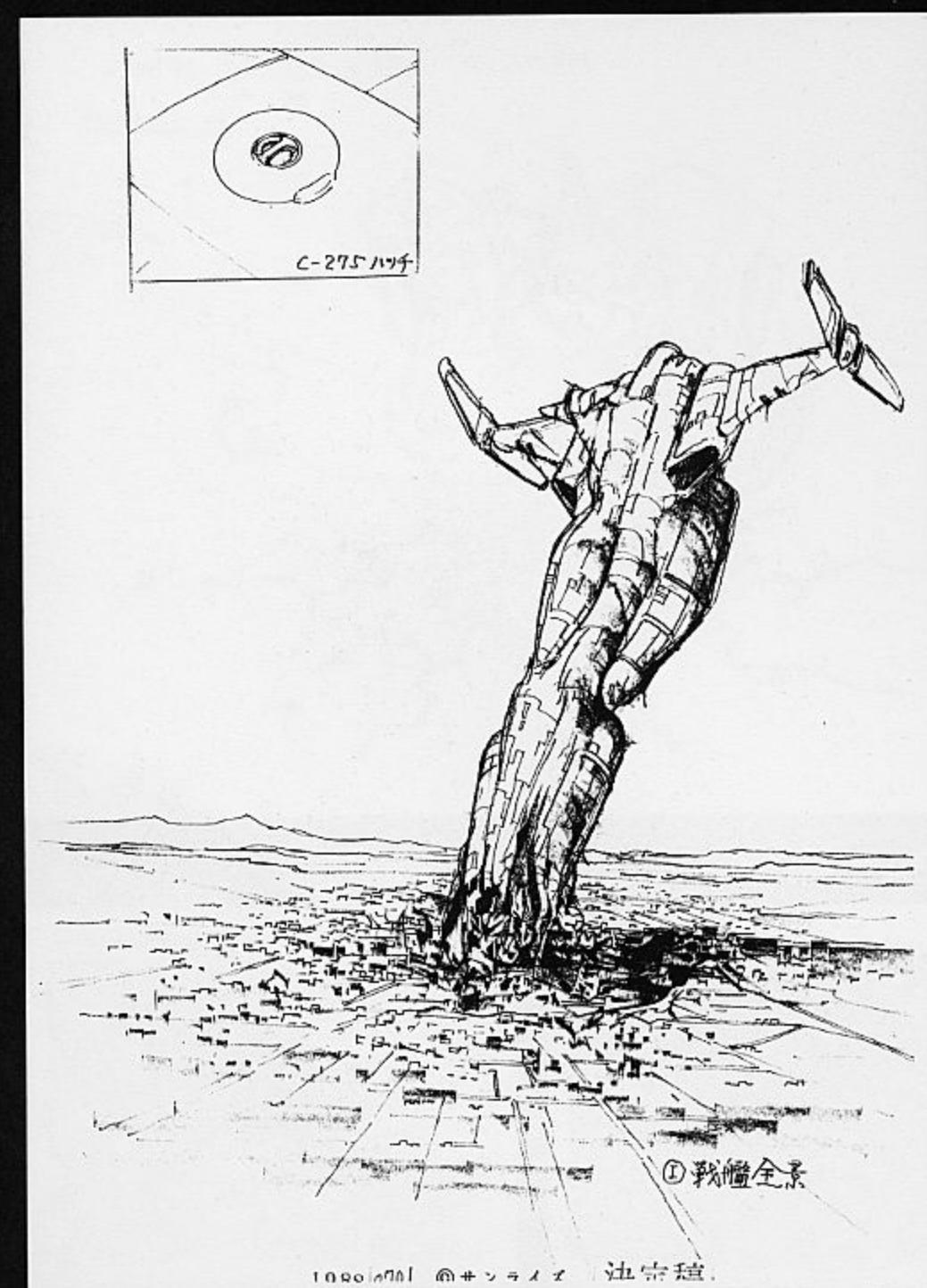


⊕ EX-10武器庫



宇宙船の落ちた街

⊕ 戦艦全景



⊕ 街全景

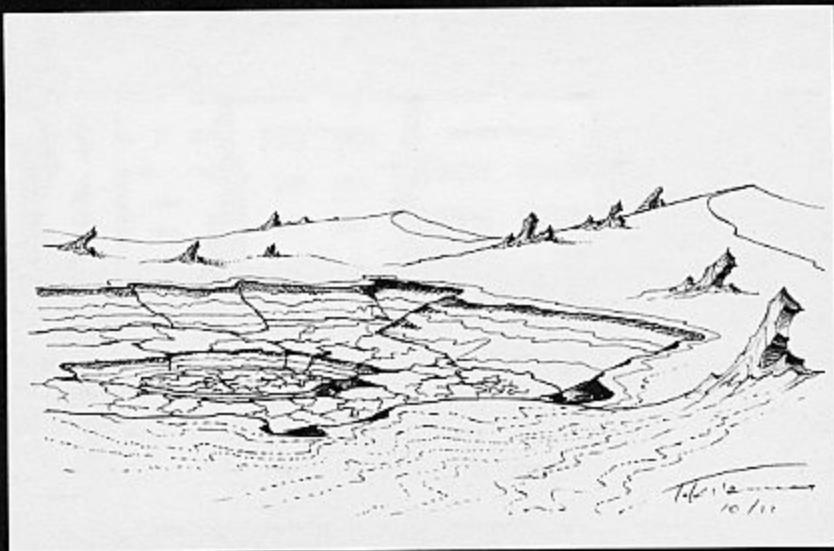


+

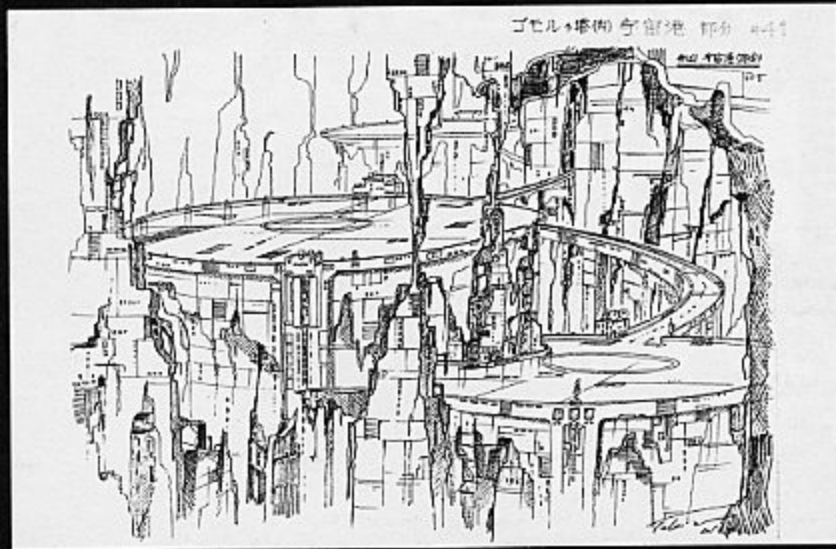
美術編

+

⊕ 大砂漠



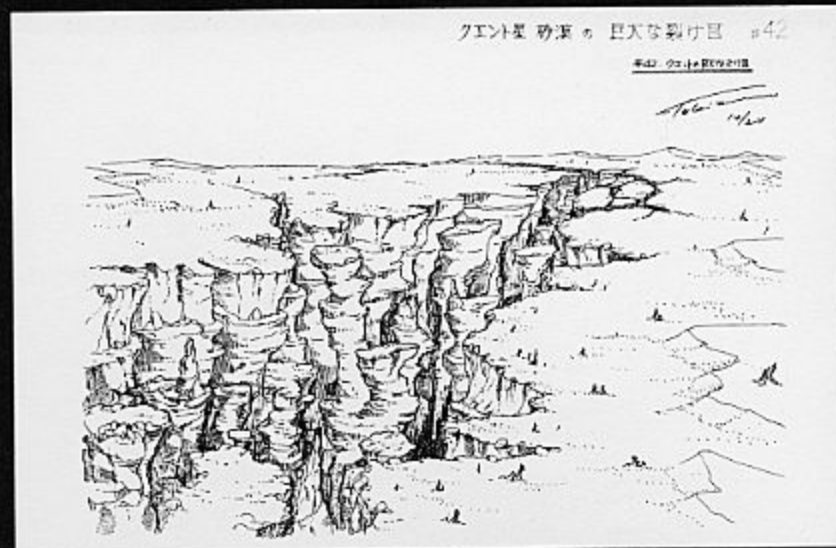
⊕ ゴモルの塔宇宙港内部



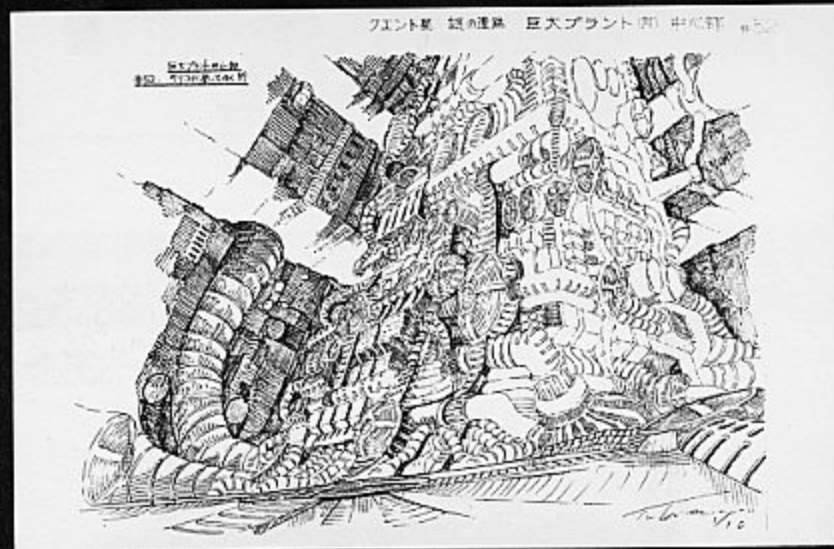
⊕ ル・シャッコの村



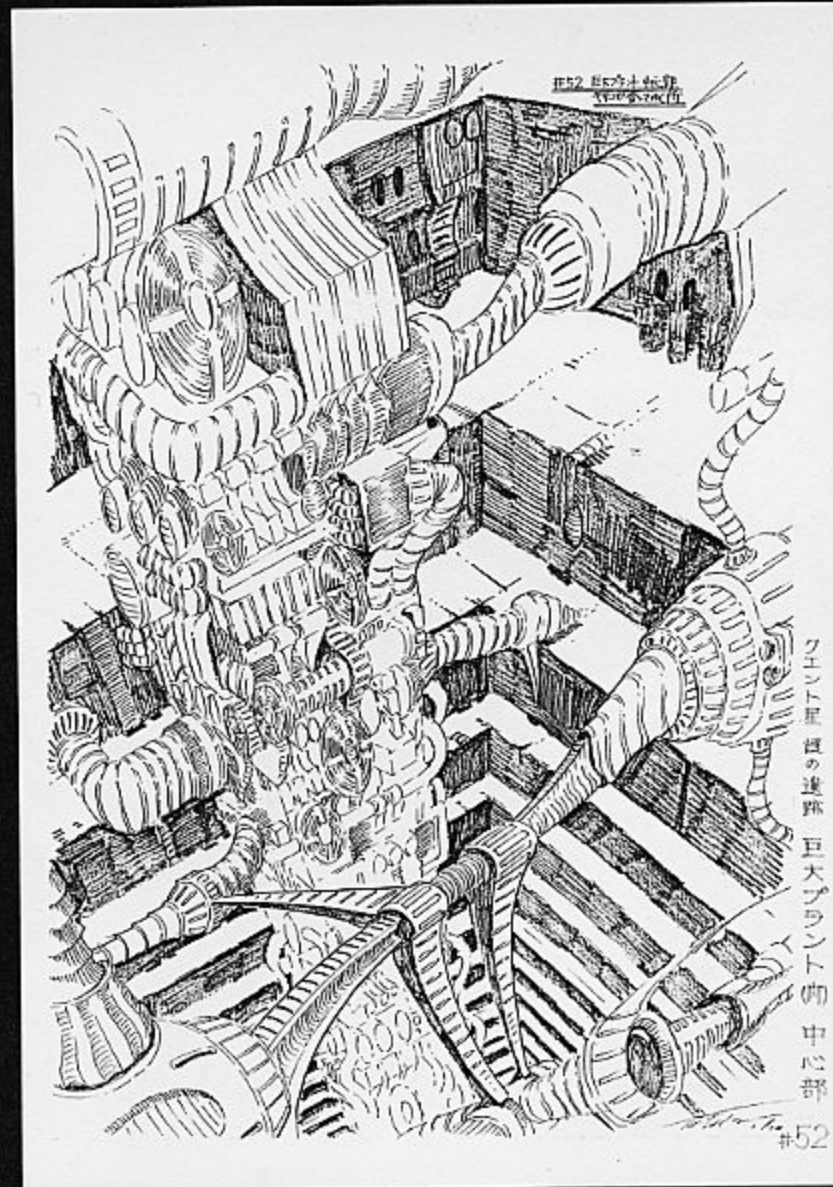
⊕ 砂漠の裂け目



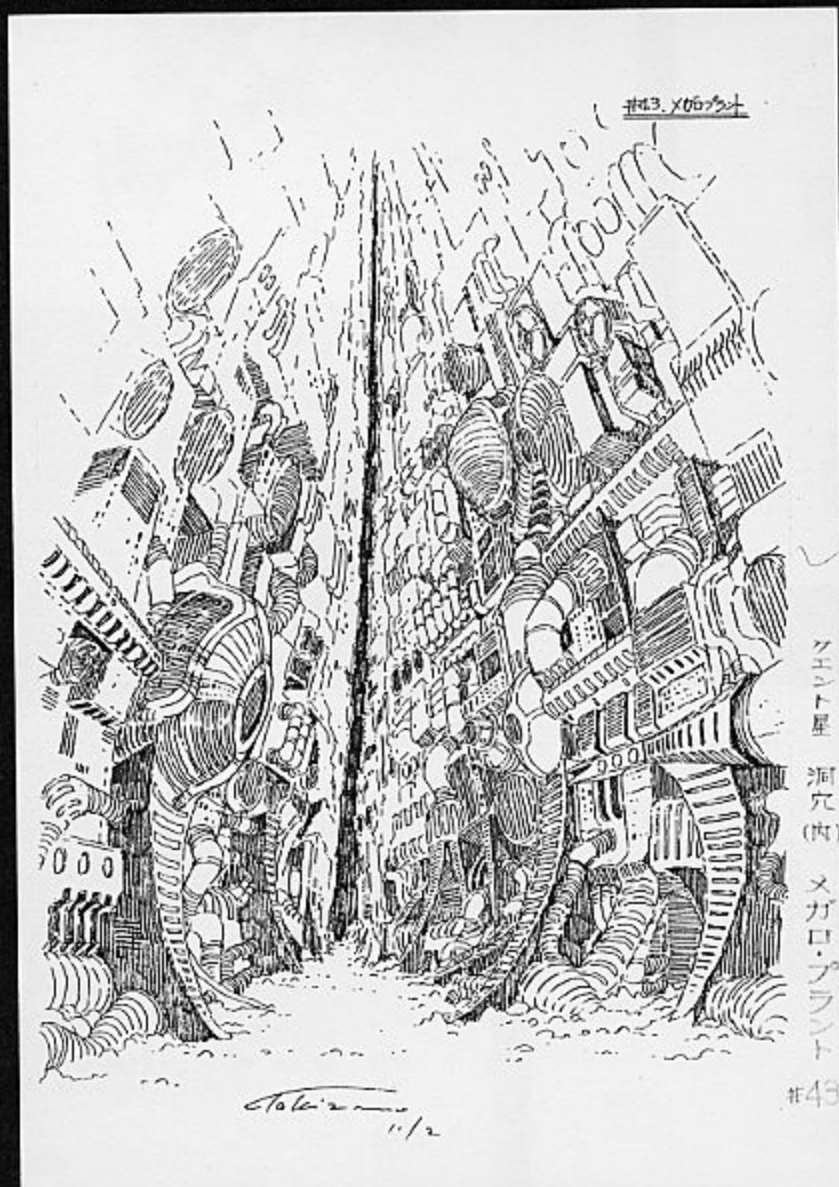
⊕ 巨大プラント内部



⊕ 巨大プラント中心部



⊕ 洞窟内メガロプラント



⊕ クエントの谷 浮かぶ機械



+

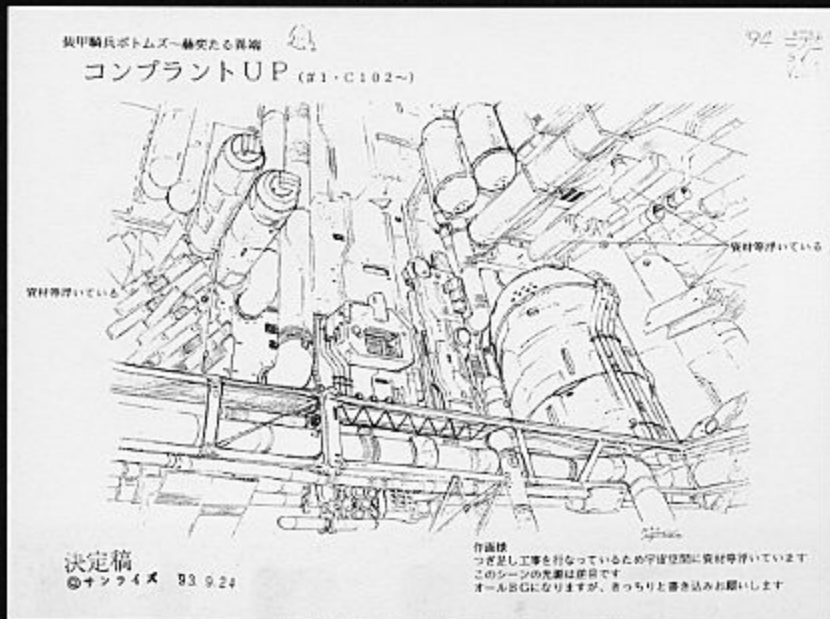
美術編

+

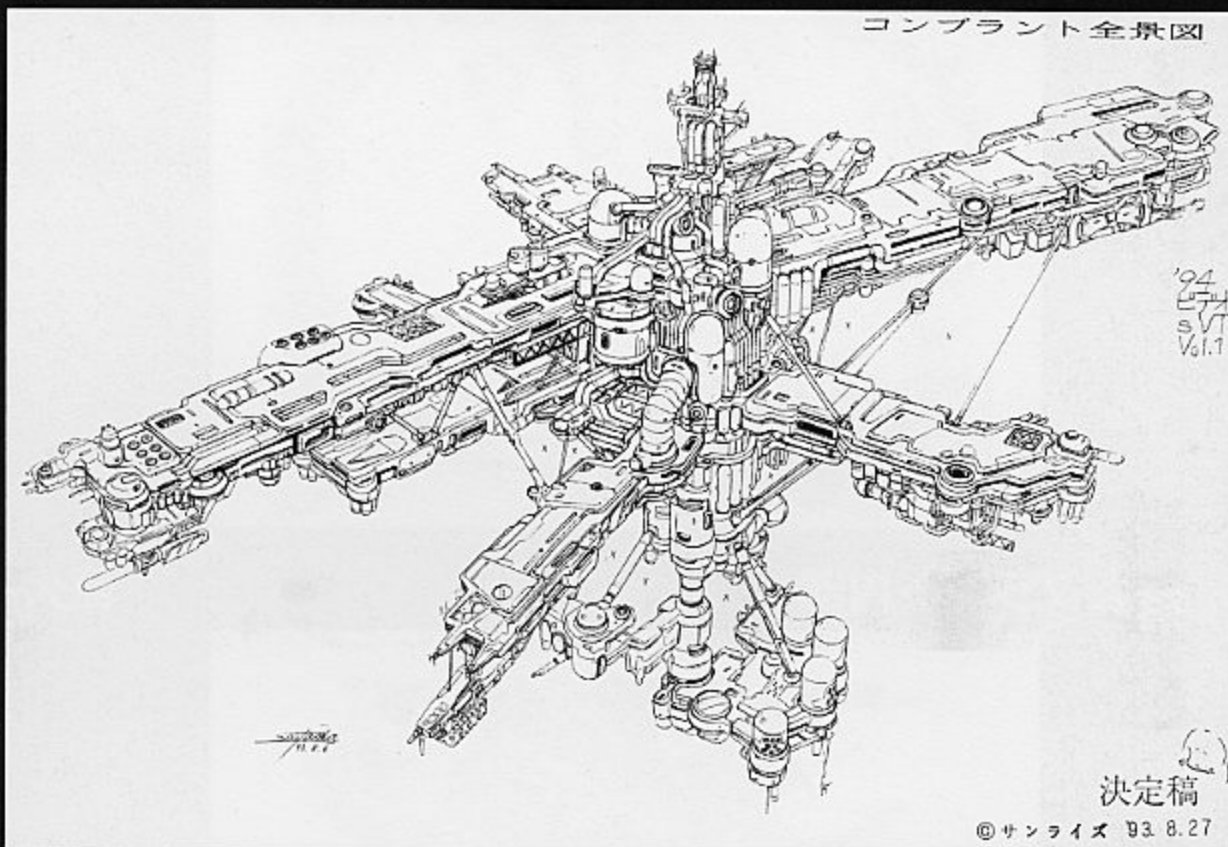
## CONPLANT FILE >> ii

人類の生活の場、そして戦いの場は、何も惑星上ばかりではない。特に「寒い棺桶」と呼ばれる負傷兵用の冷凍睡眠カプセルが普及した第四次銀河大戦期には、流通上の問題ともあいまって、その重要性は大きく増加している。ここでは、複数の工場船から発展していった典型的な宇宙都市であるコンプラントを例に取り、主要産業である冷凍睡眠関連施設をはじめ、宇宙都市としての機能のあれこれを紹介していこう。

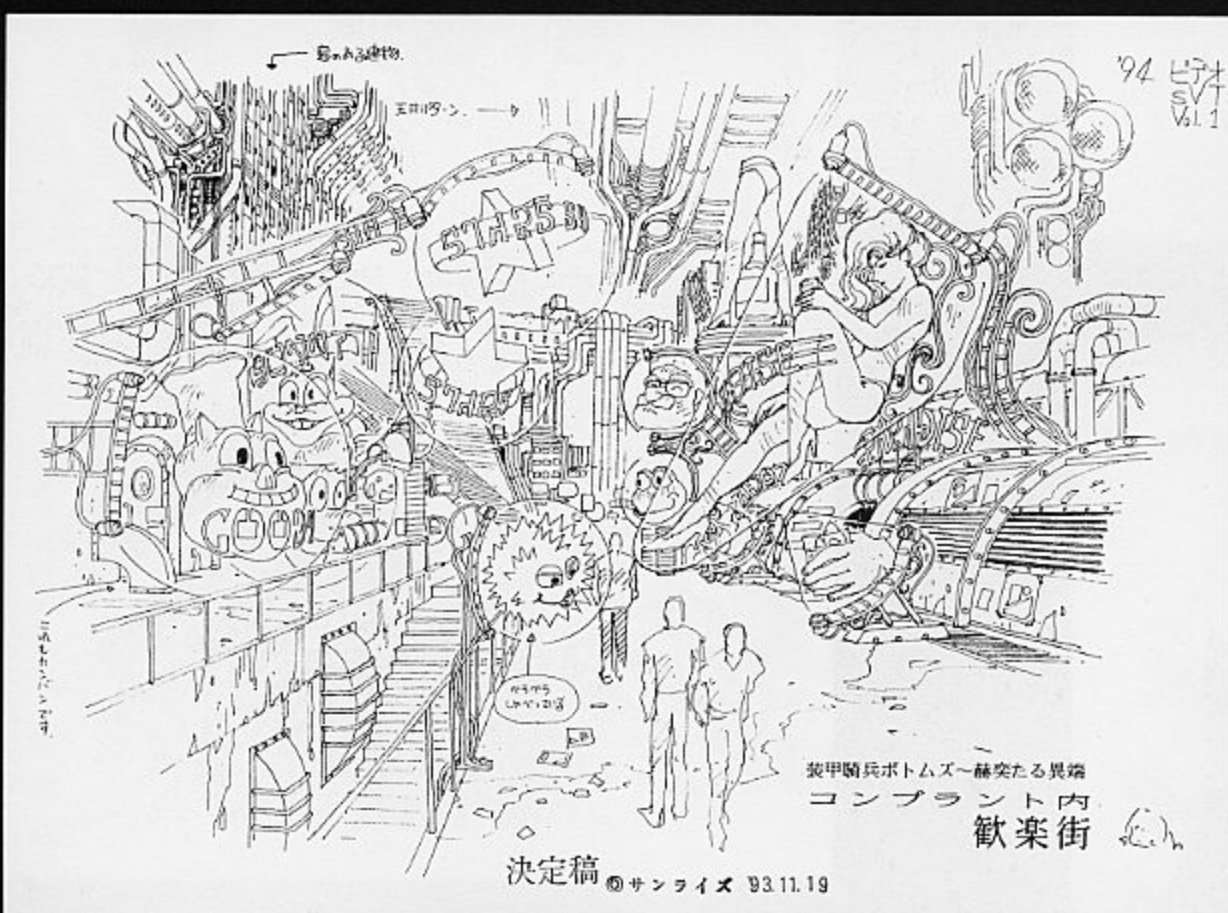
### ⊕ コンプラント側面



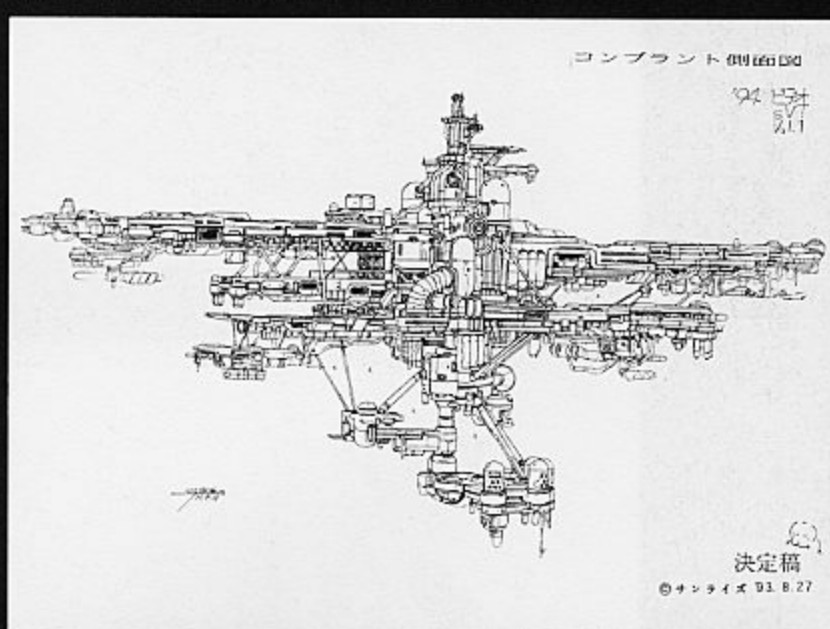
### ⊕ コンプラント全景



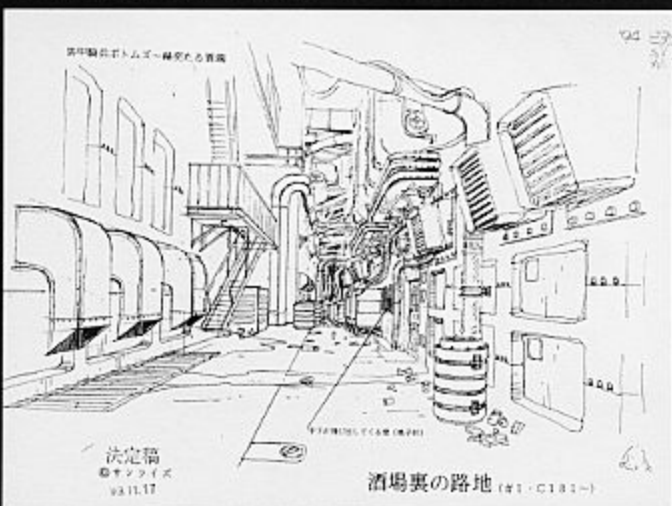
### ⊕ 歓楽街



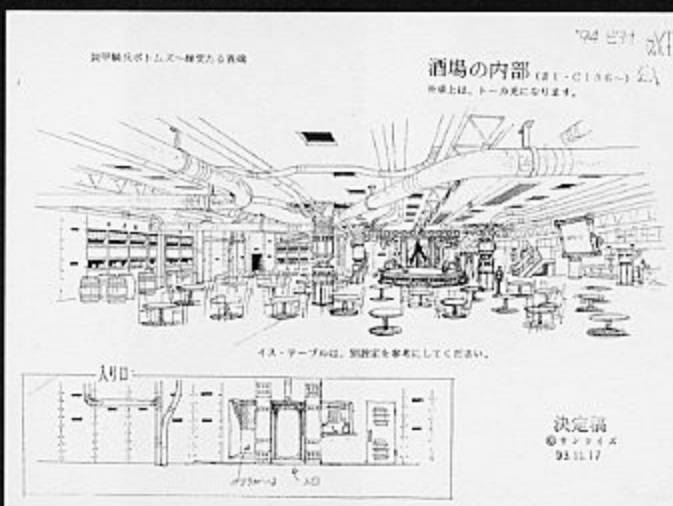
### ⊕ コンプラント アップ



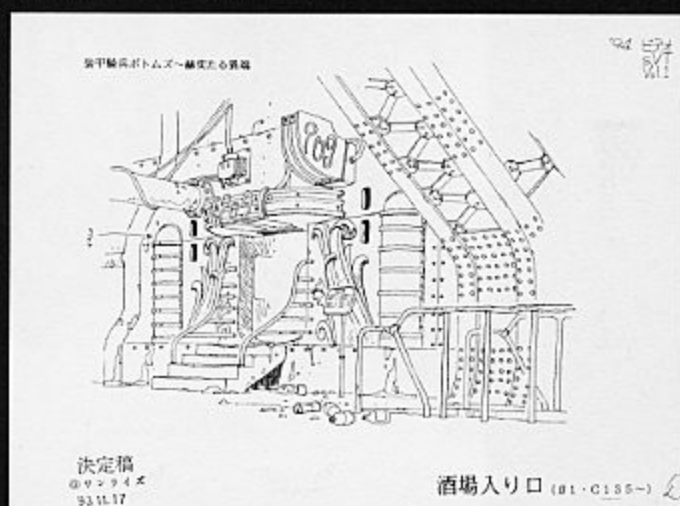
### ⊕ 酒場裏の路地



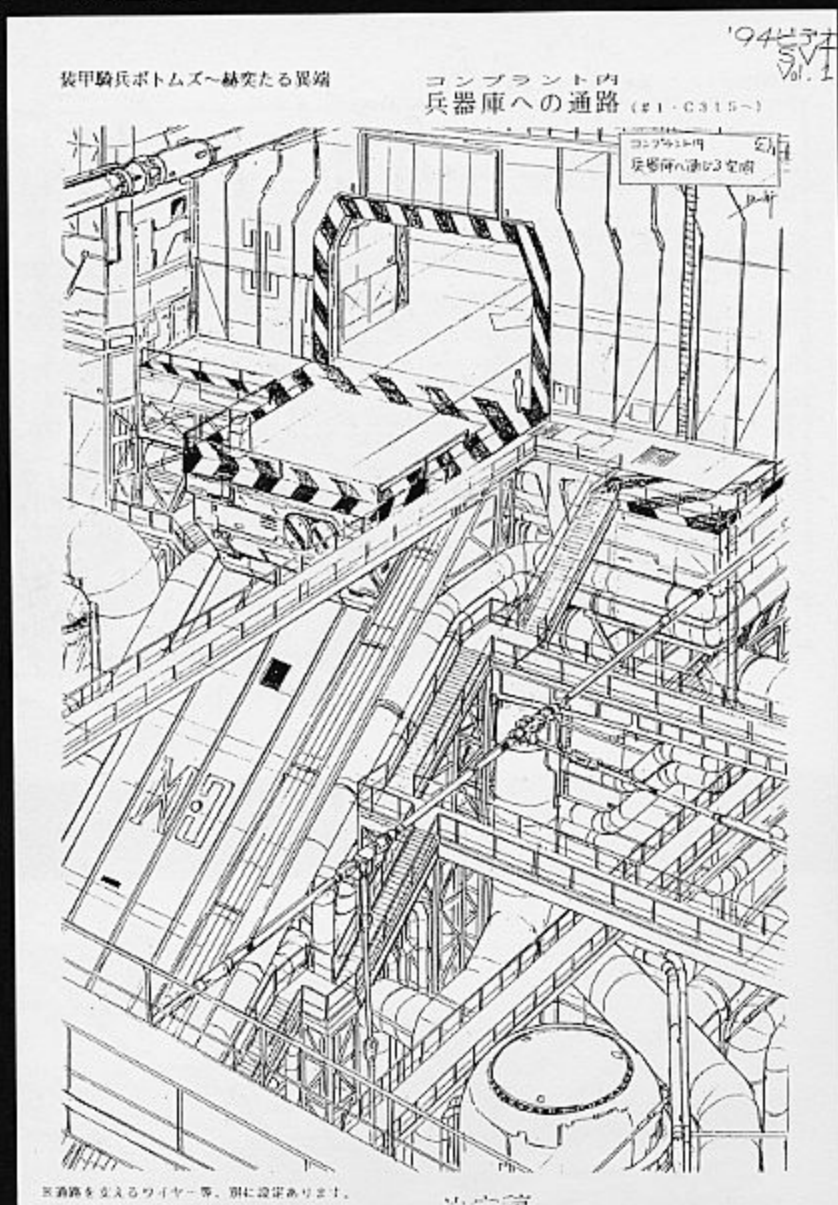
### ⊕ 酒場内部



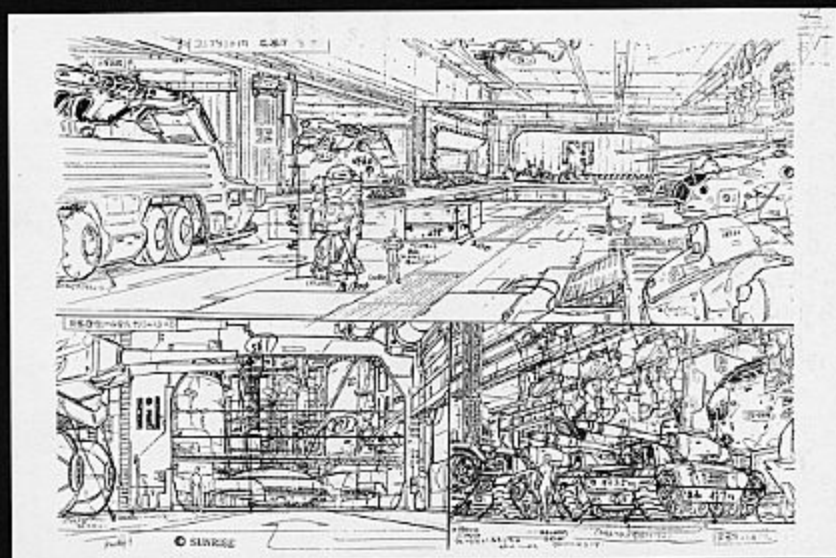
### ⊕ 酒場入り口



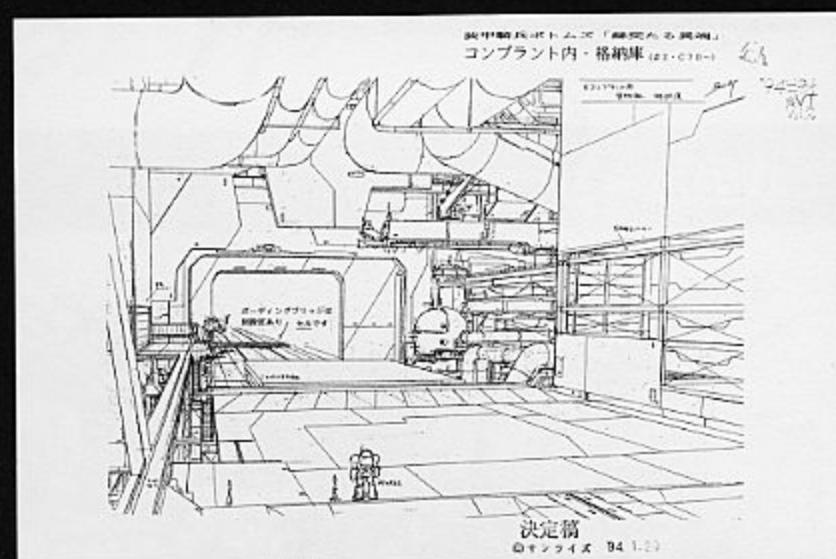
兵器庫への通路



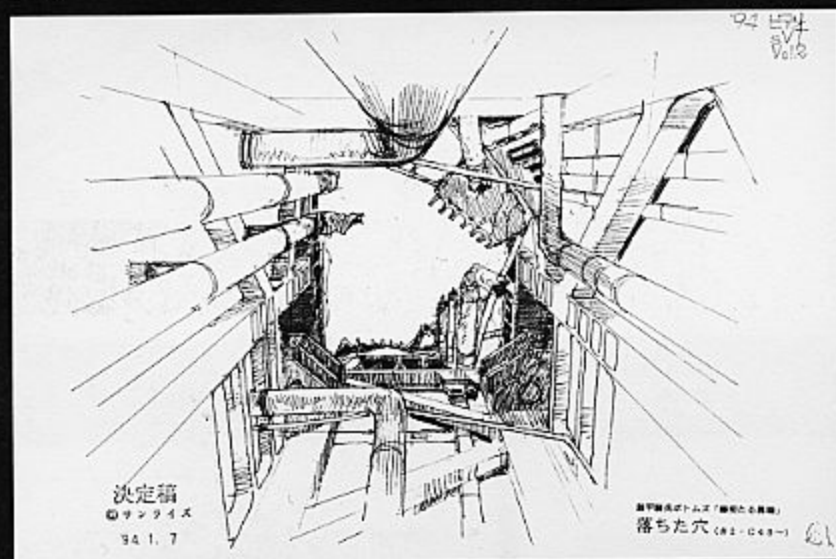
兵器庫



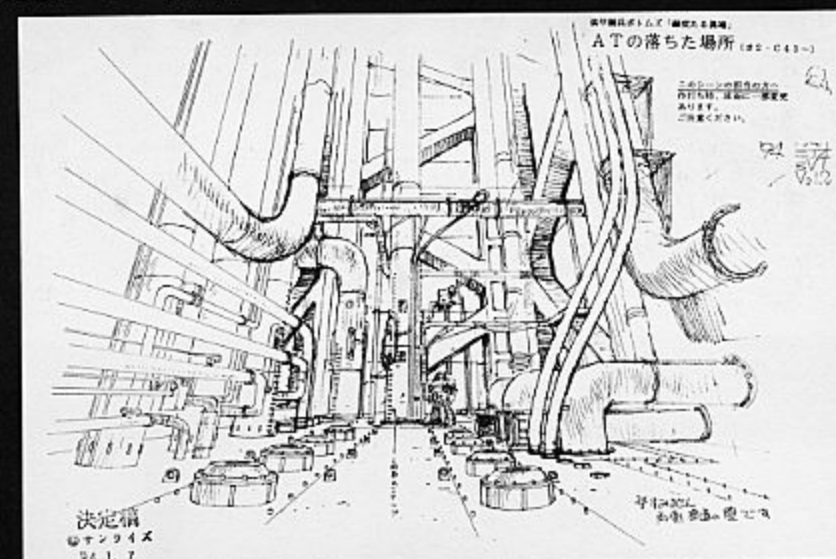
格納庫



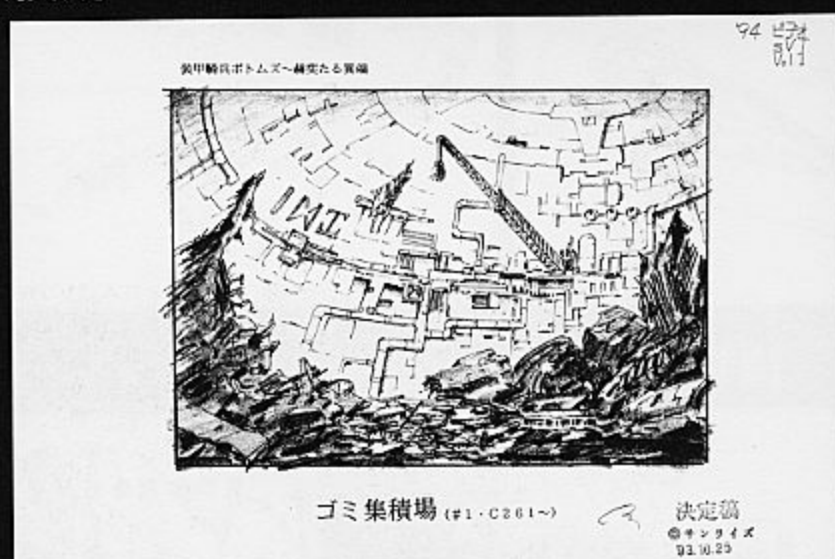
落ちた穴



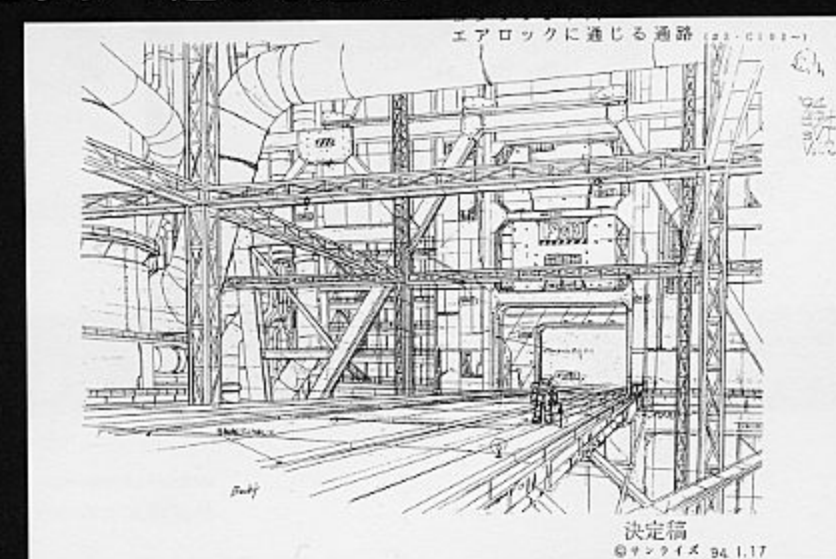
ATの落ちた場所



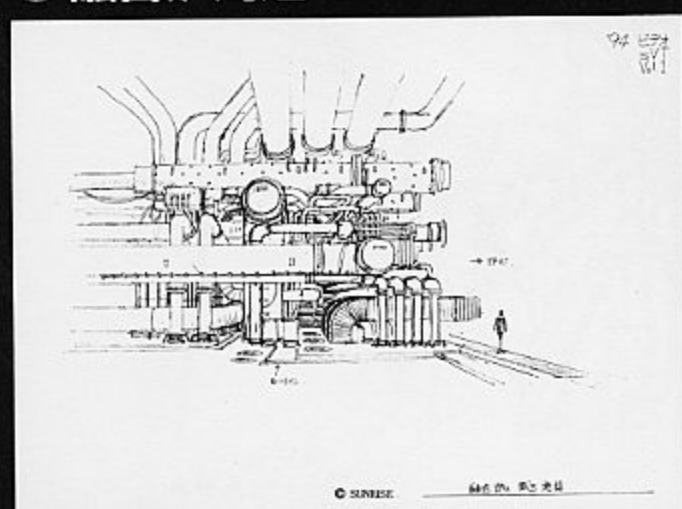
ゴミ集積所



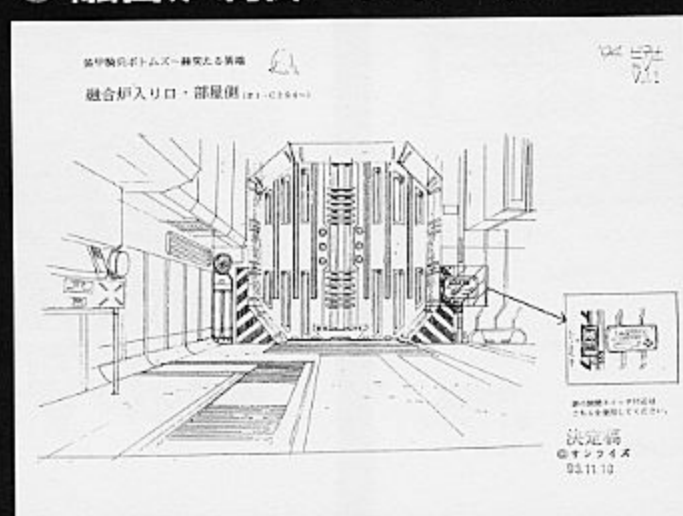
エアロックへ通じる通路



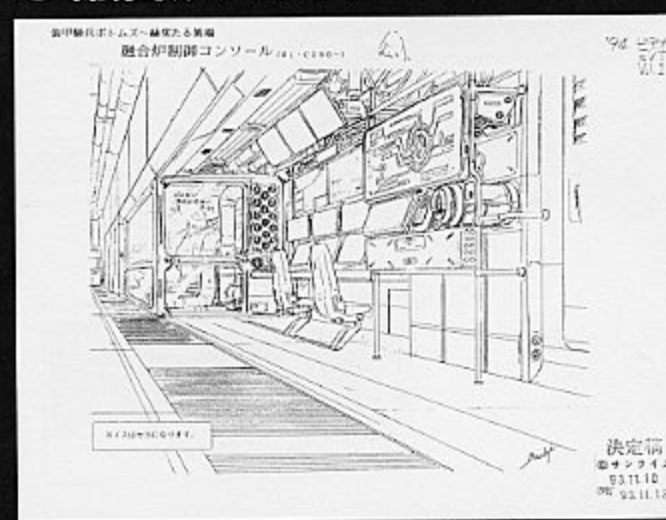
融合炉周辺



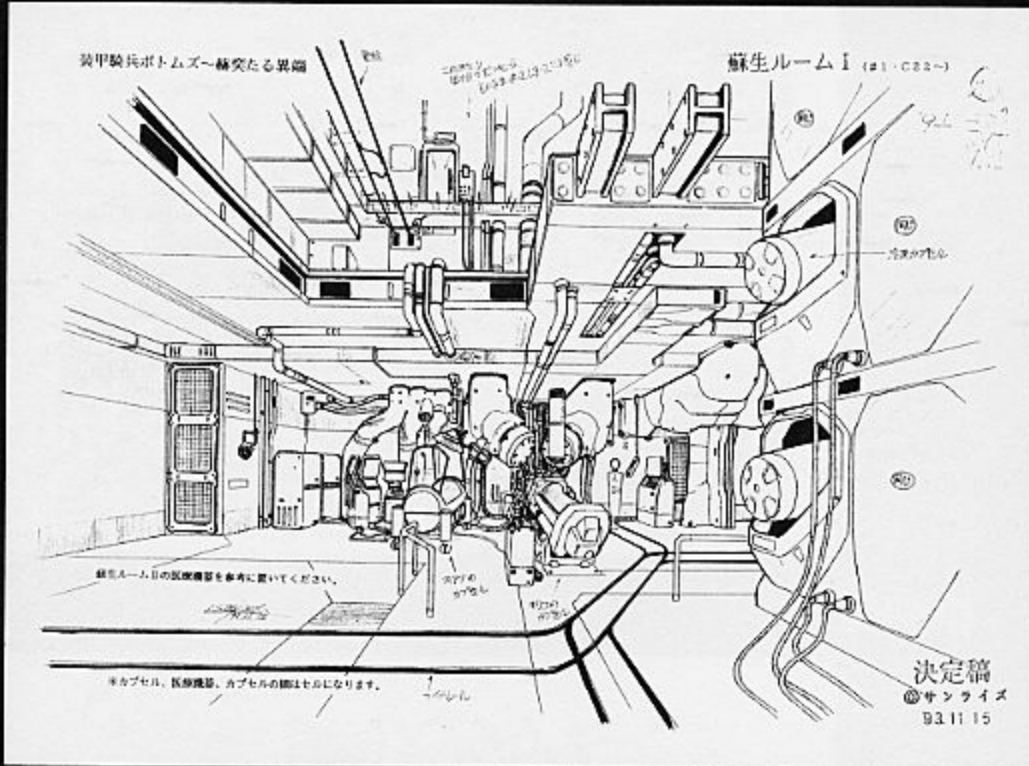
融合炉制御コンソール



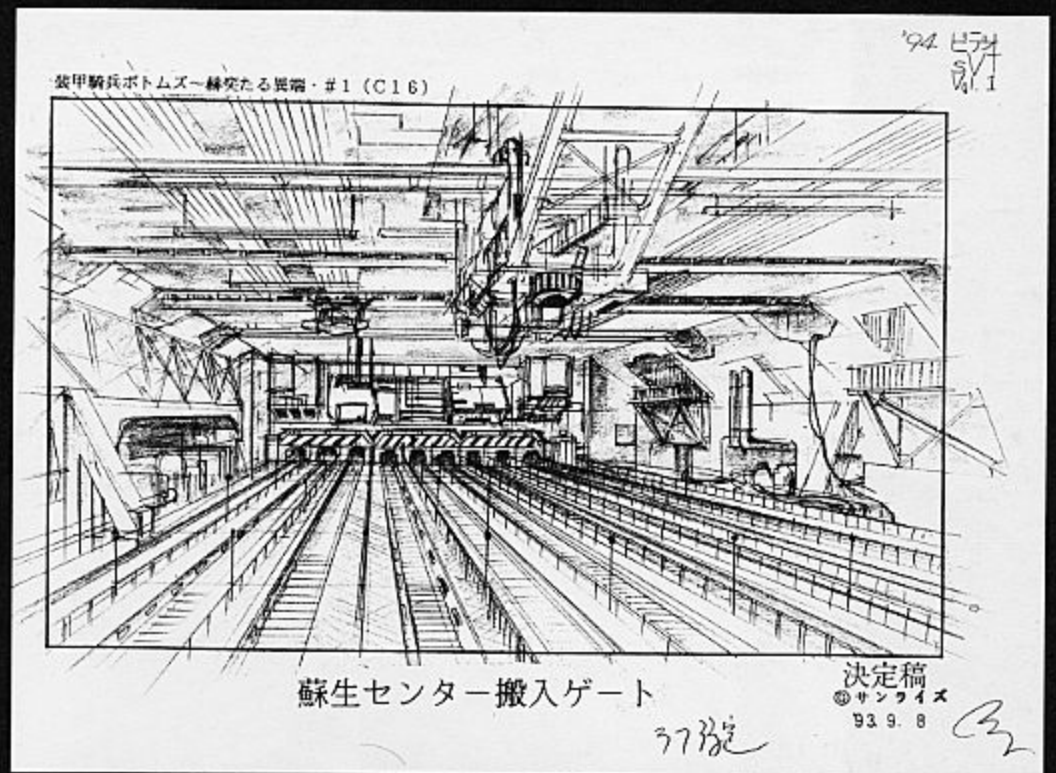
融合炉入り口



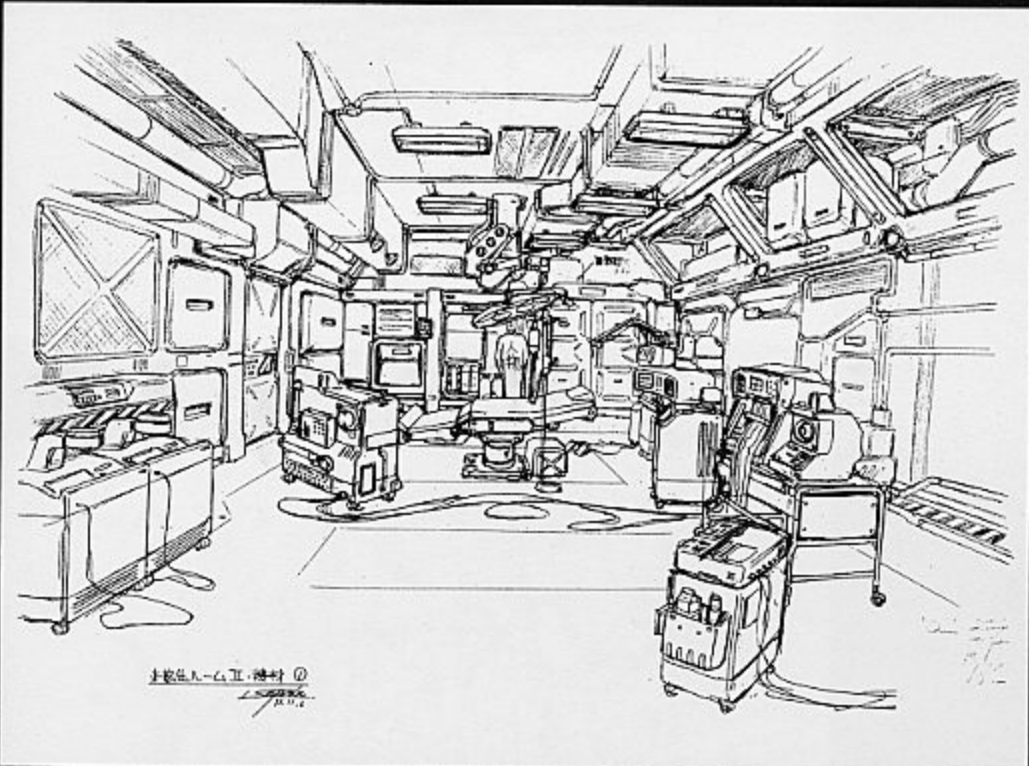
⊕ 蘇生ルーム



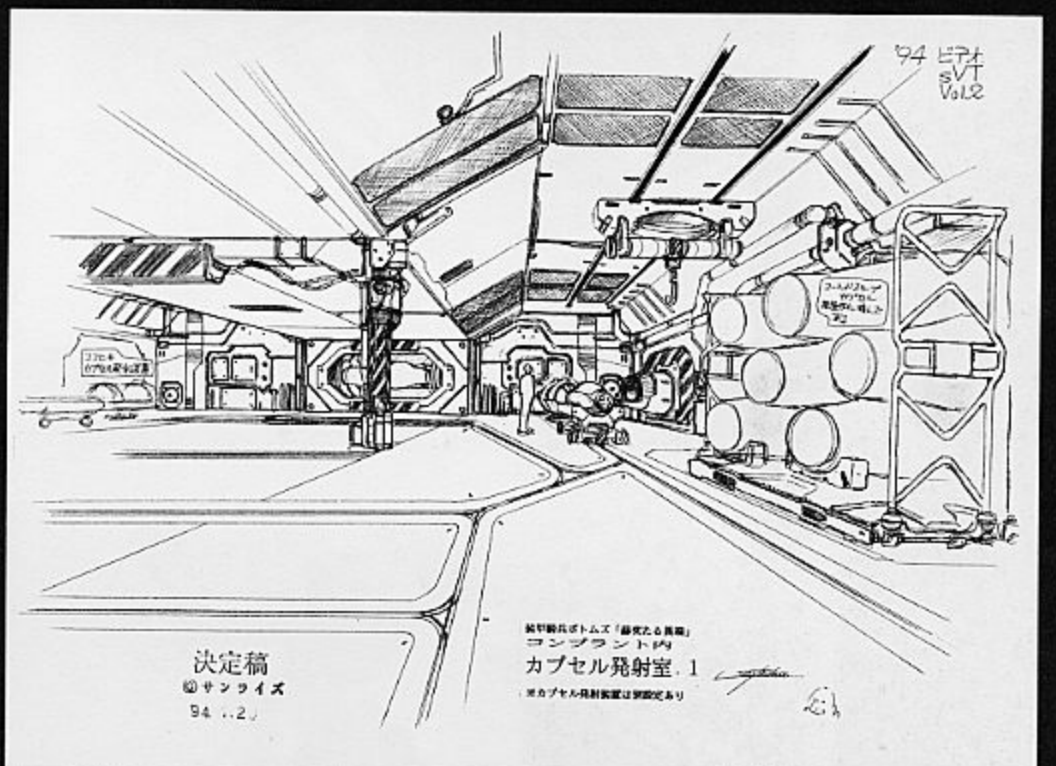
⊕ 蘇生センター搬入ゲート



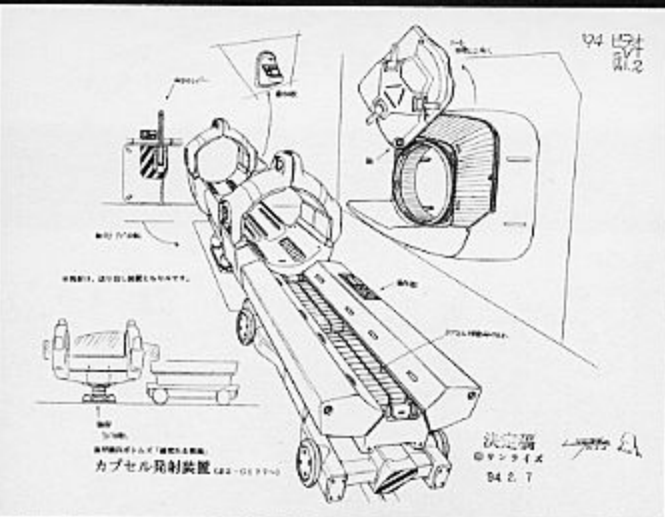
⊕ 蘇生ルーム内機械



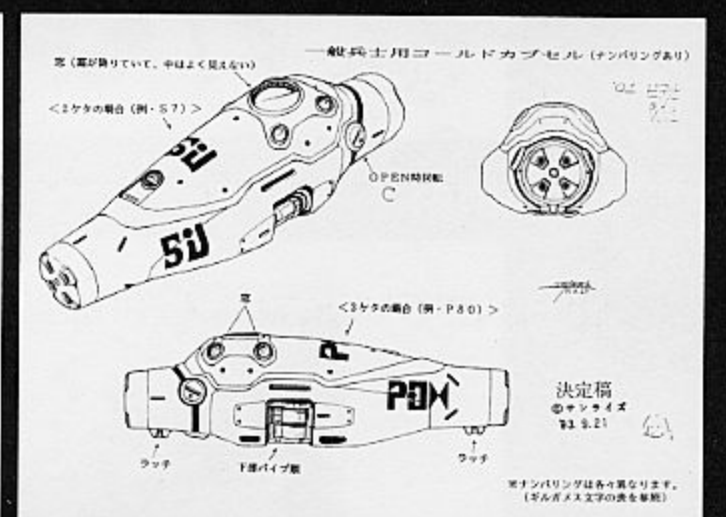
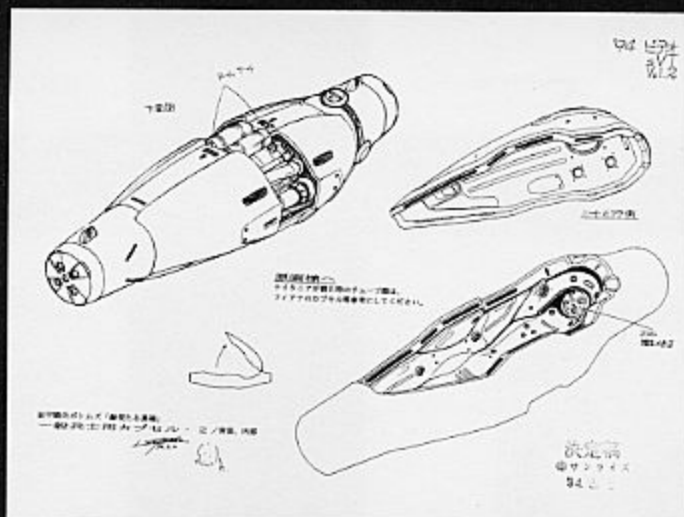
⊕ カプセル発射室



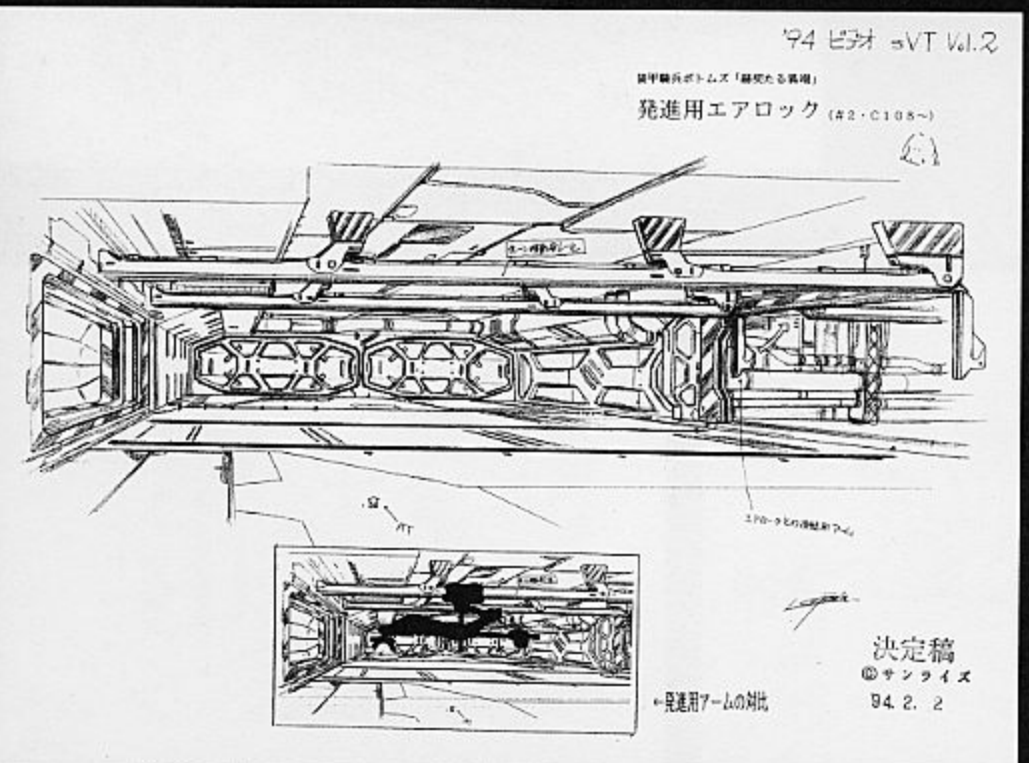
⊕ カプセル発射装置



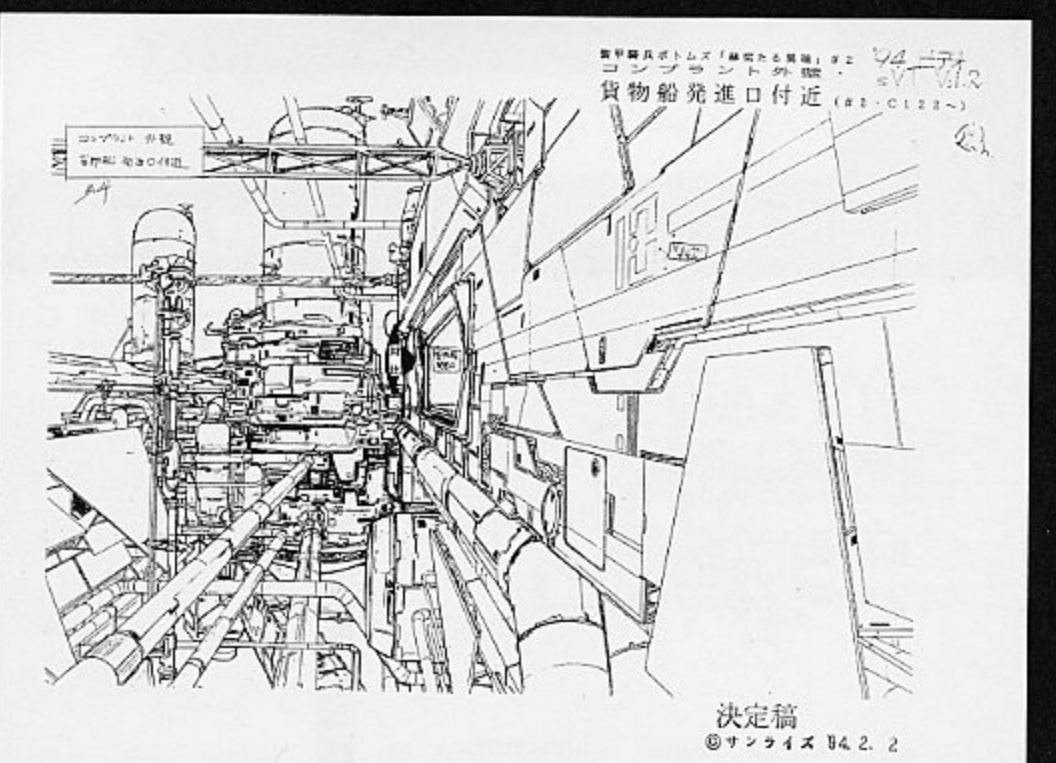
⊕ 一般兵用コールドカプセル



⊕ 発進用エアロック



⊕ 貨物船発進口



# SPECIAL SPACE CITY

FILE 67

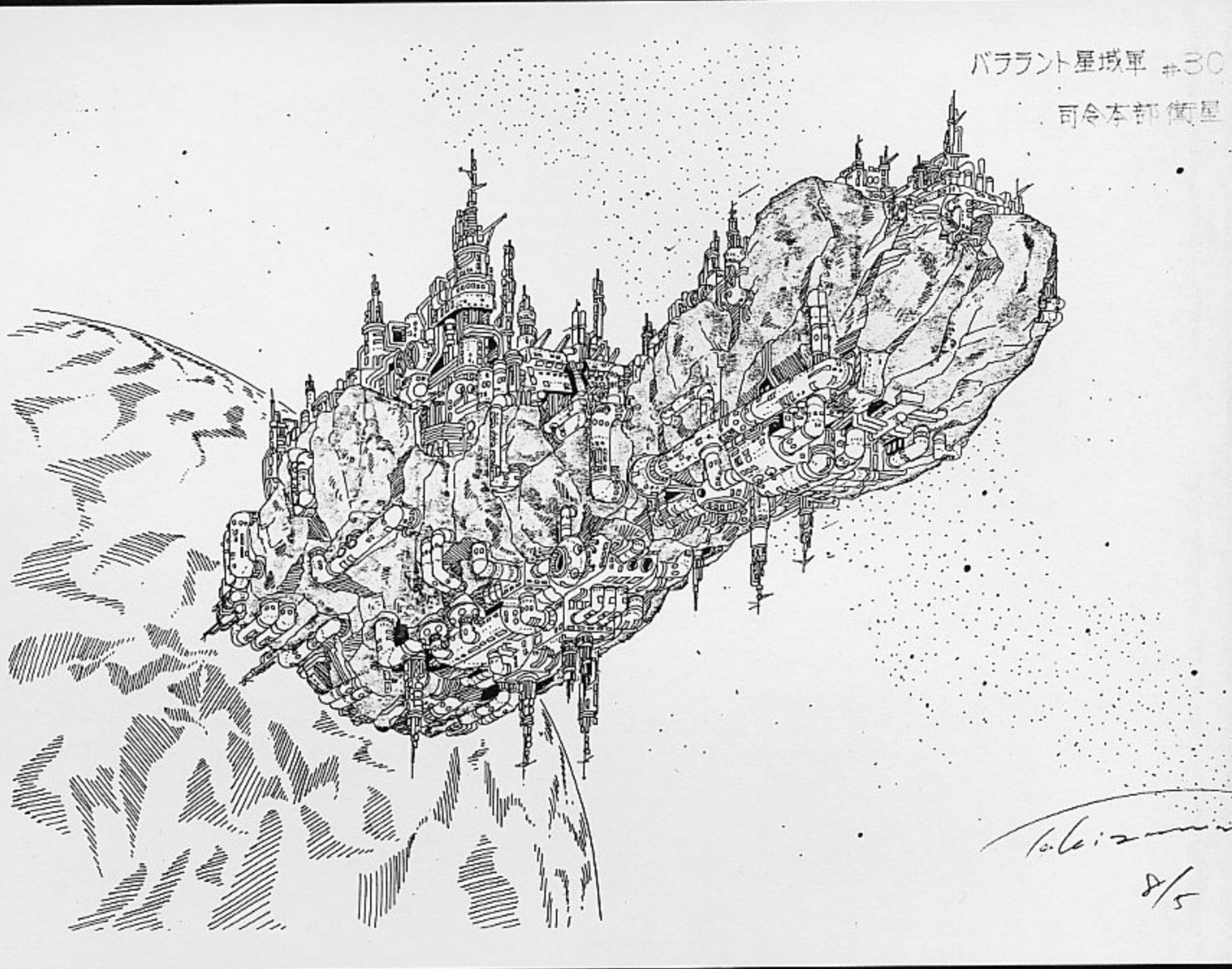
# 特殊宇宙都市

SPECIAL SPACE CITY  
FILE 67

宇宙都市というものは、そこが有人であり生命維持区画が必要であるという事実により、実は機構的にはあまり大きな差はない。しかしそれでも、特徴的な宇宙都市と言うものも存在している。ここでは、バララントの中枢である司令部衛星と、ワイズマンという謎の存在が生み出したとされる正体不明の人工天体という、通常の宇宙都市とは大きく異なる二つの宇宙都市を確認していこう。

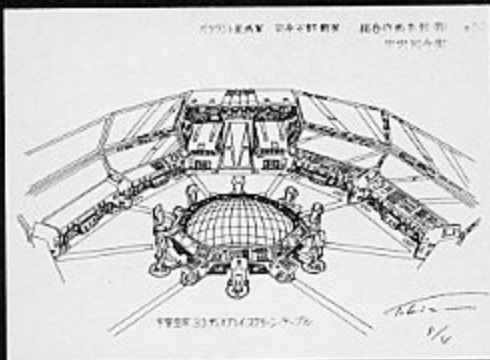
## バララント星域軍司令部衛星

本来の呼称はミノータス。惑星バララの衛星（直径33.8km）を改造した移動要塞で、バララント星域軍の指揮中枢だけでなく、バララント同盟全体の主星機能がすべてここに集約されている。同時に極めて強力な通信機能も備えており、政府を生物に例えるなら、頭脳と脊髄を兼ねた存在だと言えるだろうか。



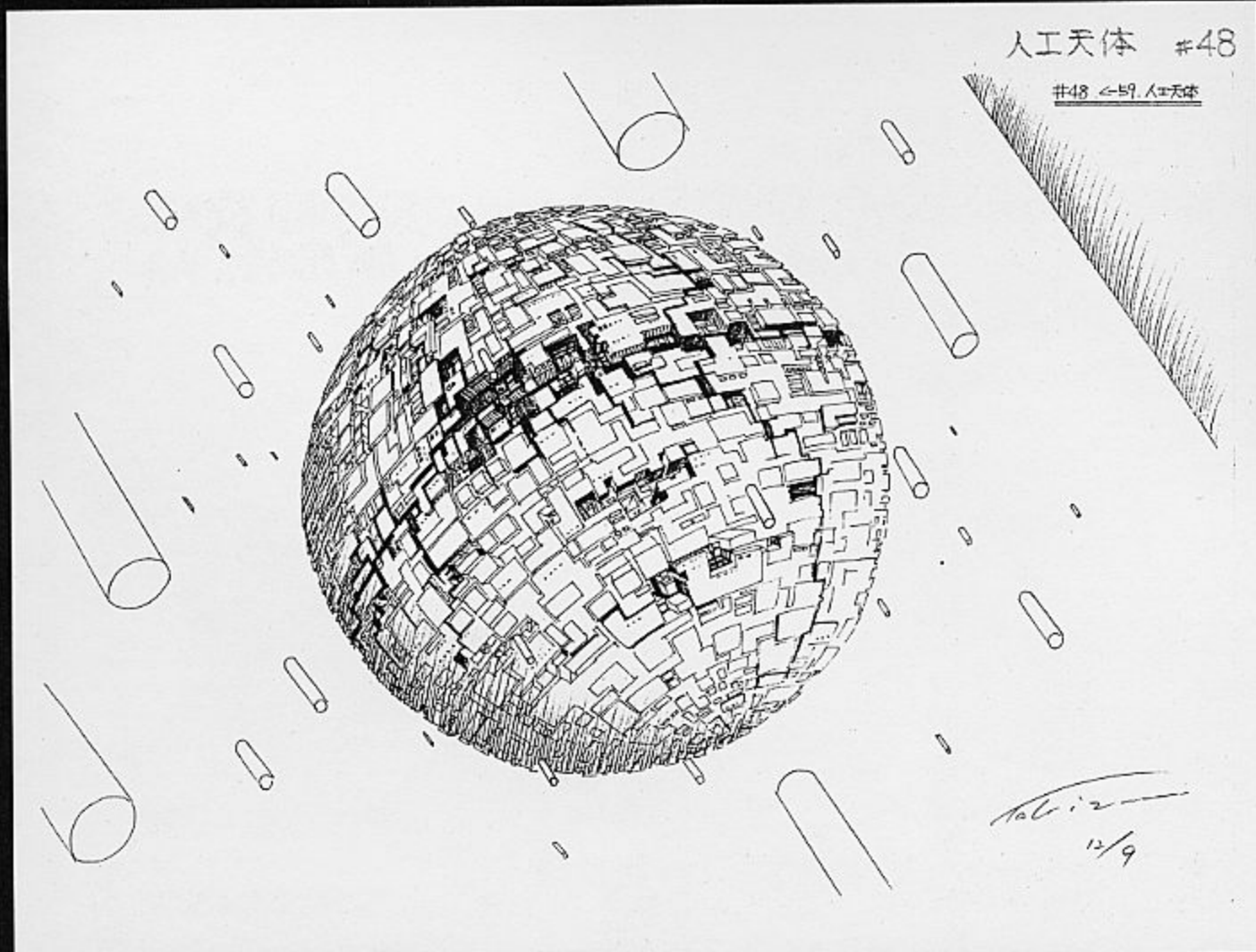
バララント星域軍 #30

司令部衛星



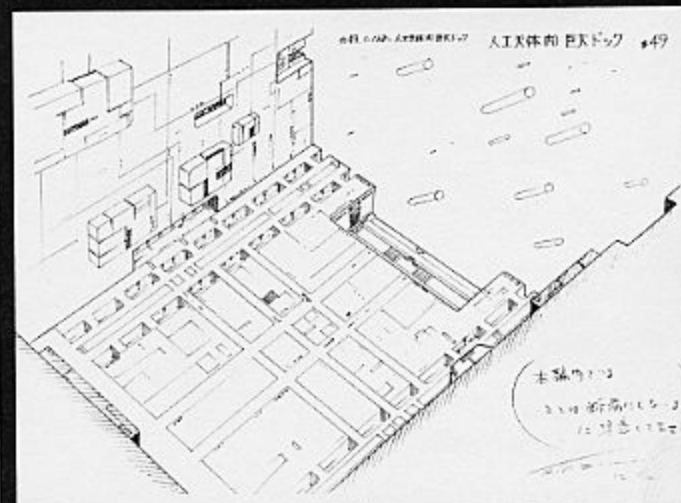
## ワイズマンの人工天体

クエント星近郊に存在する衛星で、独自の防御帯に守られた謎の多い存在である。一説には古代クエント文明の産物ではないかとも考えられている。クエント事変で破壊され、その残骸の一部をギルガメス軍が使用しているという噂もあるが、詳細は不明である。



人工天体 #48

#48 ← 59 人工天体



人工天体 巨大ドック #49

本編の12巻  
12巻の12巻  
12巻の12巻

この表は、現時点で存在する資料を勘案するとおそらくこうなのではないか、と考えられるスペックをまとめたものだ。正確なデータもあるが同時に現時点でも異説がある場合もあり、不明点も多い。あくまで今後の研究を脱んだ上での、叩き台的な存在と考えていただきたい。

GN機出力 (hp)	GN機出力 (km/h)	MCバック系	使用PR液 (hp/12)	PR液容量 (g)	燃料消費率 (g/h)	燃費効率 (h)	制御コンピューター	固定武装・装備	開発団体	備考	開発年度 (製作年、量産年)	ページ
230	51	スレック方式、1P-MJ-S2	DT-MO 10.2	184	20	218	MCT-128-C	アームパンチ	アデルハビッツ社		7198	4
230	51	スレック方式、1P-MJ-S2	ソルニグローム 12.9	160	20	158	GCM-2K	アームパンチ	アデルハビッツ社	外見は通常型と同一、本文に記述なし		4
								アームパンチ	アデルハビッツ社	外見は同一、本文に記述なし、異説に近い?		8
245	58	スレック方式、1P-MJ-S2	DT-MO 10.2	184	40	164	MCT-128-C	アームパンチ、電磁式バイルバンカー	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)			9
260 (210)	72 (45)	スレック方式、1P-MJ-S4	DT-MO 11.5	192	45	72	MCT-128-C, MCA-628	アームパンチ、ジェットローラーダッシュ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)		7212	10
								アームパンチ、ジェットローラーダッシュ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)		7213	12
								アームパンチ、ジェットローラーダッシュ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)		7213	13
								アームパンチ、ジェットローラーダッシュ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)		7213	13
								アームパンチ、ジェットローラーダッシュ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)		7213	13
								アームパンチ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)			14
								アームパンチ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)			14
								アームパンチ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)			14
								アームパンチ、電磁式バイルバンカー	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)			15
								アームパンチ、ジェットローラーダッシュ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)		7213	16
								アームパンチ、ジェットローラーダッシュ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)		7213	17
								アームパンチ、ジェットローラーダッシュ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)		7213	17
								アームパンチ、ジェットローラーダッシュ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)		7213	17
289	68	スレック方式、1P-MJ-S2	DT-MO2 10.8	142	20	20	MCT-128-C	アームパンチ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル) 誤りあり	ストロングバックと併用していた時期あり		18
								アームパンチ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)			18
156	40	スレック方式、1P-MJ-S2	DT-MO 10.2	138	10	148	MCT-128-C	アームパンチ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル) 誤りあり	型番の意味について異説あり		19
								アームパンチ、大型クロウ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)			19
160	58	スレック方式、1P-MJ-S4	DT-MS 11.5	160	35	192	MCT-128-C	アームパンチ、エアバージ、ハイドロジェット	アデルハビッツ社			20
								アームパンチ	アデルハビッツ社			21
								アームパンチ	アデルハビッツ社			21
								アームパンチ、雪上用スレッジ	アデルハビッツ社			22
								アームパンチ、高機動型雪上用スレッジ	アデルハビッツ社			22
								アームパンチ、雪上用スレッジ	アデルハビッツ社			22
								アームパンチ	アデルハビッツ社			23
								アームパンチ	アデルハビッツ社			24
								スモークディスチャージャーx2	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)			24
370	121	スレック方式、1P-MJ-S4	DT-MS-P 11.5	195	40	120	MCT-128-C4	アームパンチ、トランブルリガー	アデルハビッツ社			25
230	70	スレック方式、1P-MJ-S2	DT-MO 10.2	184	13	89	MCT-128-C	アームパンチ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)			28
300	75	スレック方式、1P-MJ-S2	DT-MO 10.2	185	35	231	MCT-128-C	バイルバンカー	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)		7198	28
								アームパンチ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)			29
								アームパンチ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)			30
								アームパンチ、機関銃	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)			30
								アームパンチ、大型クロウ	アデルハビッツ社 (カスタムモデル)			31
								アームパンチ	アデルハビッツ社、ウッドヘルト社 (カスタムモデル)			31
250	72	スレック方式、1P-MJ-S4	DT-MS 11.5	169	20 (PRSP使用時)	147	MCT-128-C II	アームパンチ (左腕のみ)、ホリング砲、アイアンクロー、PRSPバック	アデルハビッツ社 (原形のみ、秘密結社によるカスタムモデル)		7214	33
		スレック方式、1P-MJ-S2	DT-MO2	184		158	MCT-128-C	アームパンチ、ワイヤーウインチ	アデルハビッツ社			34
								アームパンチ、ワイヤーウインチ	アデルハビッツ社			34
395	130	スレック方式改、1P-ML-S4	DT-MS-P 11.5	195	30	80	MCM-1MX	アームパンチ、スモークディスチャージャーx2	アデルハビッツ社、秘密結社	制御コンピューターの型番をMCM/MXとする数もあり	7214	35
410	160	スレック方式改 (0-レック方式)、3P-L-S4	DT-MS-P 11.5	200	58 (PRSP使用時)	22	MCM-2MX	11ミリ機関銃x1、アイアンクロー、アームパンチ	秘密結社		7214	36
320		スレック方式、1P-LJ-S4	DT-MH 12.8	170	45	120	MCT-328-SS	11ミリ機関銃x2、ダブルバイルバンカーx2				37
								11ミリ機関銃x1、アイアンクロー、アームパンチ、雪上用スレッジ				37
418	180	スレック方式改 (0-レック方式)、2P-L-S4	DT-MS 11.5	200	120 (PRSP使用時)	162	MCM-2M	11ミリ機関銃x1、アイアンクロー、アームパンチ、サンドリッパー	秘密結社		7214	38
296	78	スレック方式、1P-MJ-S2	DT-MO 10.2	184	20	46	MCT-128-C	ジャイアントスラッシュクロー、追加型ジェットローラーダッシュ機構				39
350 (320)	68 (42)	スレック方式、2P-LJ-S4	DT-MS 11.5	190	32	166	MCT-228-CF	アームパンチ、スワンビーグラッグ	メレンブルク社	( )内はスワンビーグラッグ使用時の数字	7214	40
								アームパンチ	メレンブルク社 (カスタムモデル)			41
								アームパンチ、雪上用スレッジ	メレンブルク社			42
								アームパンチ、雪上用スレッジ	メレンブルク社			42
508	216											43
399		スレック方式、2P-LJ-S4	DT-MS 11.5	230	25	57	MCT-288-AC	50ミリ機関銃x2、アイアンクローx2、ミサイルx4		( )内はアーマー装着時の数字		43
360 (320)	70 (65)	スレック方式、1P-NJ-S4	DT-M 9.6, DT-MO 10.2	180	60 (PRSP使用時)	162	QT-M-11J	バイルバンカー、スワンビーグラッグ	ゴモル市備兵センター	( )内はスワンビーグラッグ使用時の数字		44
300	50	スレック方式、1P-NJ-S5	DT-K 8.8, DT-M 9.6, DT-MO 10.2	180	53	120	QT-M-10J	バイルバンカー	ゴモル市備兵センター			44
300	62	スレック方式、1P-LK-S2	DT-MO 10.2	207	40 (PRSP使用時)	142	MCT-128-D	11ミリ機関銃x2	ウッドヘルト社		7207	46
300	65	スレック方式、1P-LJ-S4	DT-MS 11.5	110	20 (PRSP使用時)	80	MCT-221-CF II	11ミリ機関銃x2、アームパンチ	ウッドヘルト社			46
320 (300)	70 (65)	スレック方式、1P-LK-S4	DT-MO 10.2	190	45 (PRSP使用時)	82	MCT-221-C	11ミリ機関銃x2、アームパンチ、スワンビーグラッグ	ウッドヘルト社	( )内はスワンビーグラッグ使用時の数字		48
380 (360)	82 (78)	スレック方式、1P-LJ-S4	DT-MH 12.8	190	45 (PRSP使用時)	74	MCM-1MXI	11ミリ機関銃x2、アームパンチ、スワンビーグラッグ	ウッドヘルト社 (原形のみ、秘密結社によるカスタムモデル)	( )内はスワンビーグラッグ使用時の数字		48
								11ミリ機関銃x2	ウッドヘルト社			50
								11ミリ機関銃x2	ウッドヘルト社			50
								11ミリ機関銃x2、アームパンチ、スワンビーグラッグ	ウッドヘルト社			50
								11ミリ機関銃x2	ウッドヘルト社			50
								11ミリ機関銃x2、雪上用スレッジ	ウッドヘルト社			51
								11ミリ機関銃x2、高機動型雪上用スレッジ	ウッドヘルト社			51
								11ミリ機関銃x2、雪上用スレッジ	ウッドヘルト社			51
340		スレック方式、1P-LK-S2	DT-MS 11.5	207	40	120	MCT-211-CF II	11ミリ機関銃x2、アームパンチ	ウッドヘルト社 (カスタムモデル)			51
								11ミリ機関銃x2、アームパンチ	ウッドヘルト社 (カスタムモデル)			52
								11ミリ機関銃x2、アームパンチ、スワンビーグラッグ	ウッドヘルト社 (カスタムモデル)			52
		スレック方式、1P-LK-S2	DT-MO 10.2	207		142	MCT-128-D	11ミリ機関銃x2、アームパンチ	ウッドヘルト社			53
								11ミリ機関銃x2、アームパンチ、スワンビーグラッグ	ウッドヘルト社 (カスタムモデル)			53
		スレック方式、1P-MJ-S1	DT-MO	138		119	MCT-128		アデルハビッツ社			54
		スレック方式、1P-MJ-S1	DT-MO	119		98	MCT-28-E	ワイヤーフック射出装置	アデルハビッツ社			54
		スレック方式、1P-MJ-S2	DT-MS	170		101	MCT-128-C		アデルハビッツ社			55
180	52	スレックフル方式、1P-NI-S2	DT-M 9.6	95	10	182	MCM-1M	11ミリ3連装機関銃x2	秘密結社		7214	56
-	-	PP-BS, 305-II	BP-CC 11.8	188	92	98	GCT-2C	宇宙空間用突撃ブースター	バララント宇宙総軍生化学兵器設計局		7209	58
-	-	PP-BS, 305-II	BP-CC 11.8	188	92	98	GCT-2C	宇宙空間用突撃ブースター	バララント宇宙総軍生化学兵器設計局	GA/GBどちらの数字が不明、数字自体にも異説あり。		59
								バイルバンカー、サンダー、ショルダーミサイルポッド	バララント宇宙総軍生化学兵器設計局			60
												63
		PP-BS, 305-II		171		72	GCT-2C	スワンビーグラッグ	バララント宇宙総軍兵器設計局			63
								スワンビーグラッグ				63
		PP-BS, 306		188		78	GCT-2C	雪上用スレッジ	バララント宇宙総軍兵器設計局			63
								高機動型雪上用スレッジ				63
								雪上用スレッジ				63
-	-	PP-BS, 305	BP-CC 11.8	190		89	GCT-2C		TsABKHTN 中設計局			64
280	75	PP-BS, 305-II	BP-CC 12.9	215	105	75	GCT-2PT	50ミリ機関銃x1、クローアーム	宇宙総軍兵器設計局	制御コンピューターはGCT-1とする説もあり		64
												64
400	170	PP-BJ-XX	BP-CZ 11.2	187	13	138	NGCT-2CP	50ミリ機関銃x2、バイルバンカー、ミサイルランチャーx2、クラブクロー	宇宙総軍兵器設計局		7215	65
320	65	スレック方式、2P-MM-S4	DT-MS 12.8	184	40	150	MCT-328-C	アームパンチ、ザイルスバインド、スピラッド	マーティアル、ウッドヘルト社	開発年度はこの形に改題された年度、全巻の ( ) 内の数字はザイルスバインド使用時の数字。	7221	66
									マーティアル、ウッドヘルト社		7201	67
320	65	スレック方式、2P-MM-S4	DT-MS 11.8	184	40	138	MCT-328-C3	アームパンチ、ザイルスバインド、スピラッド、バイルバンカー	マーティアル、ウッドヘルト社	全巻の ( ) 内の数字はザイルスバインド使用時の数字。		68

# ATマシンスペック一覧表

AT名称(愛称)	スベル	形式番号	形式番号の意味	クラス	全高 (mm)	全幅 (mm)	全長 (mm)	全幅 (mm)	乾重量 (kg)	最大積載量 (kg)	最大歩行 (mm)	最大歩行 (mm)	GH走行速度 (km/h)	GH走行速度 (km/h)
スコープドッグ	SCOPEDOG	ATM-09-ST	ARMORED-TROOPER-MID-09-STANDARD	M級	3804	2208	1763	1936	6387	6627	14	6	82.6	41
スコープドッグII	SCOPEDOG II	ATM-09-SA	ARMORED-TROOPER-MID-09-SPACE-ASSULT	M級	4208	2208	2371	1998	6492	6764	14	6	82.3	41
スコープドッグ リド駐留部隊機	SCOPEDOG	ATM-09-ST	ARMORED-TROOPER-MID-09-STANDARD	M級	3811		2333	1982	6950		15		82	
スコープドッグ レッドショルダーカスタム	SCOPEDOG RED SHOULDER CUSTOM	ATM-09-RSC	ARMORED-TROOPER-MID-09-RED-SHOULDER-CUSTOM	M級	4210	2501	2663	1982	6892	7213	14	6	98.7	52
スコープドッグターボカスタム	SCOPEDOG TURBO CUSTOM	ATM-09-STTC	ARMORED-TROOPER-MID-09-STANDARD-TURBO-CUSTOM	M級	4017	2854	2263	1982	6799	7269	14	8	98.7	50.2
スコープドッグターボカスタム オドン暴動戦キリコ機	SCOPEDOG TURBO CUSTOM	ATM-09-STTC	ARMORED-TROOPER-MID-09-STANDARD-TURBO-CUSTOM	M級	3811		2263	1982	7120		14		83	
スコープドッグターボカスタム オドン暴動戦グレゴリー機	SCOPEDOG TURBO CUSTOM	ATM-09-STTC	ARMORED-TROOPER-MID-09-STANDARD-TURBO-CUSTOM	M級	4017		2263	2033	7462		14		83	
スコープドッグターボカスタム オドン暴動戦ムーザ機	SCOPEDOG TURBO CUSTOM	ATM-09-STTC	ARMORED-TROOPER-MID-09-STANDARD-TURBO-CUSTOM	M級	3811		2263	1982	7181		14		83	
スコープドッグターボカスタム オドン暴動戦パイマン機	SCOPEDOG TURBO CUSTOM	ATM-09-STTC	ARMORED-TROOPER-MID-09-STANDARD-TURBO-CUSTOM	M級	3811		2263	2033	7120		14		83	
スコープドッグ RS隊適性試験機	SCOPEDOG	ATM-09-ST	ARMORED-TROOPER-MID-09-STANDARD	M級	3804		1763	1936	6387		14	8	82.3	
スコープドッグレッドショルダーカスタム(TYPE1)	SCOPEDOG RED SHOULDER CUSTOM	ATM-09-RSC	ARMORED-TROOPER-MID-09-RED-SHOULDER-CUSTOM	M級	3804		1763	1936	7156		14		82.3	
スコープドッグレッドショルダーカスタム(TYPE2)	SCOPEDOG RED SHOULDER CUSTOM	ATM-09-RSC	ARMORED-TROOPER-MID-09-RED-SHOULDER-CUSTOM	M級	4010		1763	1936	7390		14		82.3	
スコープドッグ サンサ戦リーマン機	SCOPEDOG RED SHOULDER CUSTOM	ATM-09-RSC	ARMORED-TROOPER-MID-09-RED-SHOULDER-CUSTOM	M級	4877			7100			14		85	
スコープドッグターボカスタム サンサ戦キリコ機	SCOPEDOG TURBO CUSTOM	ATM-09-STTC	ARMORED-TROOPER-MID-09-STANDARD-TURBO-CUSTOM	M級	3811			7130			14		83.2	
スコープドッグターボカスタム サンサ戦グレゴリー機	SCOPEDOG TURBO CUSTOM	ATM-09-STTC	ARMORED-TROOPER-MID-09-STANDARD-TURBO-CUSTOM	M級	4017			7566			14		83	
スコープドッグターボカスタム サンサ戦ムーザ機	SCOPEDOG TURBO CUSTOM	ATM-09-STTC	ARMORED-TROOPER-MID-09-STANDARD-TURBO-CUSTOM	M級	3811			7120			14		83.5	
スコープドッグターボカスタム サンサ戦パイマン機	SCOPEDOG TURBO CUSTOM	ATM-09-STTC	ARMORED-TROOPER-MID-09-STANDARD-TURBO-CUSTOM	M級	3811			7133			14		83.2	
ストロングバックス	STRONG BACCHUS	ATM-09-STC	ARMORED-TROOPER-MID-09-STANDARD-CUSTOM	M級	3815	2215	1775	1992	7015	7200	25	10	62	42
デリケートスローター	DELICATE SLAUGHTER	ATM-09-STC	ARMORED-TROOPER-MID-09-STANDARD-CUSTOM	M級	3936		1805	2009	7218		24		61.9	
パープルベアー	PERPLE BEAR	ATM-09-SSC	ARMORED-TROOPER-MID-09-STEREO-SCOPE-CUSTOM	M級	3804	2208	1760	1870	6001	6180	8	4	72	45
フェイタルギア	FATAL GEAR	ATM-09-SSC	ARMORED-TROOPER-MID-09-STEREO-SCOPE-CUSTOM	M級	3914		1795	1881	6030		11		76.8	
マーシドッグ	MARHYDOG	ATM-09-WR	ARMORED-TROOPER-MID-09-WATER-RESISTIBLE	M級	3731	2168	2053	1982	6555	6795	14	4	62	42
マーシドッグHMC	MARHYDOG HMC	ATM-09-WPHMC		M級	3753		2642	1994	6987		14		63	
マーシドッグSTC	MARHYDOG STC	ATM-09-WPSTC		M級	3827		2694	2008	7183		25		60	
アバランチドッグ	AVARANCHEDOG	ATM-09-SNC		M級	3912		1788	1983	7215		16		75.3	
アバランチドッグHMC	AVARANCHEDOG HMC	ATM-09-SNHMC		M級	3934		1807	1992	7630		16		76.5	
アバランチドッグSTC	AVARANCHEDOG STC	ATM-09-SNSTC		M級	4057		1819	1999	7877		24		72.1	
ライアットドッグ	RIOTDOG	ATM-09-STC		M級	3815			7022					42.3	
スコープドッグ ドックマン専用機	SCOPEDOG	ATM-09-ST	ARMORED-TROOPER-MID-09-STANDARD	M級	3804		1768	1936	6788		16		82.2	
ライトスコープドッグ ヌメリコフ専用機	LIGHT SCOPEDOG	ATM-09-LC		M級										
バグラリードッグ	BURGLARYDOG	ATM-09-DD		M級	3852	2298	2191	1995	6597	7423	14	6	83	49
ライトスコープドッグ	LIGHT SCOPEDOG	ATM-09-LC	ARMORED-TROOPER-MID-09-LIGHT-CUSTOM	M級	3804	2208	1763	1920	4758	5333	14	6	112.5	52.3
ベルゼルガ・イミテイ	BERSERGA MITATE	ATM-09-HC	ARMORED-TROOPER-MID-09-HEAVY-CUSTOM	M級	4223	2627	2025	2568	7947	8812	16	6	82.1	43
スコープドッグ フォックススペシャル	SCOPEDOG FOX SPECIAL	ATM-09-STC		M級	4667		1785	1987	6968		14		88.1	
スコープドッグ ガナード専用機	SCOPEDOG	ATM-09-ST	ARMORED-TROOPER-MID-09-STANDARD	M級										
カプリオレドッグ	CABRIOREDOG			M級										
コサックドッグ	COSSACKDOG			M級										
ゴールデンハーフスペシャル	GOLDEN HALF SPECIAL			M級										
ブルーティッシュドッグ	BRUTISHDOG	ATM-09-GC	ARMORED-TROOPER-MID-09-GATLINGSCRAW	M級	3804	2208	2201	2349	6729	6983	14	6	85.2	52
バウンティドッグ	BOUNTYDOG	ATM-09-RC		M級	3894		1778	1944	6995		14	8	99.2	
バウンティドッグ ボイル専用機	BOUNTYDOG	ATM-09-BDC		M級										
ブラッドサッカー	BLOOD SUCKER	X-ATH-P-RSC		H級	4380	2920	2524	2888	7639	7932	15	5	82	53
ストライクドッグ	STRIKEDOG	X-ATH-02	EXTRA-ARMORED-TROOPER-HEAVY-02	H級	4250	2625	2500	2128	7322	7750	14	6	98	60
ガステイドッグ	GUSTYDOG	ATH-11-SA		H級	4299			7925	8263		15	5	82.9	45
フィアズリードッグ	FIERCELYDOG	ATH-12-SNC		H級	4285		2615	2929	7555		15		120	
ラビドリドッグ	RABIDLYDOG	X-ATH-02-DT	EXTRA-ARMORED-TROOPER-HEAVY-02-DESERT-TRIP	H級	4137	2434	2380	2758	7193	7737	14	6	108	62
スラッシュドッグ	SLASHDOG	ATM-09-GSC		M級	3900	2304	2542	2106	6917	7203	18	7	91.3	45.7
ダイビングビートル	DYVING BEETLE	ATH-06-WP	ARMORED-TROOPER-HEAVY-06-WATER-PROOF	H級	4148	2753	2108	2598	8130	8415	15	6	58	47
ダンピングビートル	DUMPING BEETLE			H級										
スライディングビートル	SLIDING BEETLE	ATH-06-SNC		H級	4289		2294	2600	8423		15		70.2	
スライディングビートルHMC	SLIDING BEETLE HMC	ATH-06-SNHMC		H級	4311		2304	2609	8581		15		71.6	
トライアルゴリラ	TRIAL GORILLA	ATH-X-HSW		H級	5063				10402					
スカラップスSL	SCALLOPS SL	X-ATH-07-DA		H級	4598				8144	8592	15	5	100.5	52
ベルゼルガWP	BERSERGA WP	ATH-Q64	ARMORED-TROOPER-HEAVY-QUANT-64	H級	4274	2865	2143	2671	8103	8333	14	8	48	42
ベルゼルガDT	BERSERGA DT	ATH-Q58	ARMORED-TROOPER-HEAVY-QUANT-58	H級	4274	2865	2155	2668	8356	8590	14	9	59	38
スタンディングトータス	STANDING TORTOISE	ATH-14-ST	ARMORED-TROOPER-HEAVY-14-STANDARD	H級	4022	2312	2122	2117	8033	8302	15	6	71.3	43
スタンディングトータスMk. II	STANDING TORTOISE Mk. II	ATH-14-SA	ARMORED-TROOPER-HEAVY-14-SPACE-ASSULT	H級	4022	2312	2123	2117	8305	8610	15	6	68.2	44
スタンディングタートル	STANDING TURTLE	ATH-14-WP	ARMORED-TROOPER-HEAVY-14-WATER-PROOF	H級	4022	2312	2123	2117	8264	8551	15	5	51	40
スタンディングタートル	SNAPPING TURTLE	ATH-14-WPC	ARMORED-TROOPER-HEAVY-14-WATER-PROOF-CUSTOM	H級	4022	2312	2123	2117	8196	8481	15	5	59	50
スタンディングトータスSTC	STANDING TORTOISE STC	ATH-14-STC		H級	4133		2835	2354	7771		26		65	
スタンディングトータスHAC	STANDING TORTOISE HAC	ATH-14-HAC		H級	4172		2652	2246	8191		25		66.2	
スタンディングタートルSTC	STANDING TURTLE STC	ATH-14-WPSTC		H級										
スタンディングトータス 砂漠用レッグDT	STANDING TORTOISE			H級										
スレッジトータス	SLEDGE TORTOISE	ATH-14-SNC		H級	4177		2653	2246	8159		16		74.8	
スレッジトータスHMC	SLEDGE TORTOISE HMC	ATH-14-SNHMC		H級	4182		2678	2246	8587		17		75.7	
スレッジトータスSTC	SLEDGE TORTOISE STC	ATH-14-SNSTC		H級	4183		2819	2371	8733		25		69.5	
スタンディングトータス ガタ・スペシャル	SLEDGE TORTOISE GATA SPECIAL	ATH-14-STC		H級	4053			8125	8455		18	6	65.5	44
スタンディングトータス改 スマーク専用機(スタプロス)	STANDING TORTOISE	ATH-14-WPA		H級	4024		4010	3488	8388		18		56.1	
スタンディングタートル イネット機	STANDING TURTLE	ATH-14-WP	ARMORED-TROOPER-HEAVY-14-WATER-PROOF	H級	4022		2123	2117	8264		15		51.2	
スタンディングトータス後期型	STANDING TORTOISE	ATH-14-ST	ARMORED-TROOPER-HEAVY-14-STANDARD	H級	4022		2122	2117	8033		15	6	71.3	
スタンディングタートル ゴメス専用機	STANDING TURTLE	ATH-14-WP	ARMORED-TROOPER-HEAVY-14-WATER-PROOF	H級	4022		2123	2117	8264		15		51.3	
マスカレイドコング	MASQUERADE KONG	ATM-06-ST	ARMORED-TROOPER-MID-06-STANDARD	M級	4005		2215	2093	7403		19	6	65.3	
マスカレイドコングMC	MASQUERADE KONG MC	ATM-06-MC		M級	4025		2217	2261	7403		19		64	
イグザートキャトル	EXERT CATTLE	ATM-04-ST	ARMORED-TROOPER-MID-04-STANDARD	M級	4011		2411	2159	8411		20	10	67.2	
スベンディングウルフ	SPENDING WOLF	ATM-08-MC		M級	3911		1820	1936	6582		17	10	65	
ツヴァーク	ZWERG	X-ATL-01-DT	EXTRA-ARMORED-TROOPER-LIGHT-01-DT	L級	2912		2426	1720	3322	3436	7	5	72	51
ファッティ	FATTY	B-ATM-03	BALALANT-ARMORED-TROOPER-MID-03	M級	4020	2312	1827	2057	8089	8812	16	6	60	32
ファッティSTC	FATTY STC	B-ATM-03-SNSTC		M級	4031		1954	2088	9062		28		41.08	
地上用ファッティ	FATTY GROUND CUSTOM	B-ATM-03	BALALANT-ARMORED-TROOPER-MID-03	M級	4020	2312	1827	2057	8089	8812	16	6	60	32
ファッティ陸戦用STC	FATTY GROUND CUSTOM STC	B-ATM-05-STC		M級	4099		1922	2040	9188		28		60.4	
ファッティ陸戦用HMC	FATTY GROUND CUSTOM HMC	B-ATM-05-HMC		M級	4133		1857	2060	9422		14		120.6	
ファッティ湿地戦用	FATTY MARSH CUSTOM	B-ATM-08-WP	BALALANT-ARMORED-TROOPER-MID-03-WATER-PROOF	M級	4108		1856	2116	8367		16	6	76.7	
ファッティ湿地戦用HMC	FATTY MARSH CUSTOM HMC	B-ATM-08-WPHMC		M級	4118		1964	2120	8409		16		98	
ファッティ雪上戦用	FATTY SNOW FIELD CUSTOM	B-ATM-06-SNST		M級	4095		2008	2333	9163		18	8	77.3	
ファッティ雪上戦用HMC	FATTY SNOW FIELD CUSTOM HMC	B-ATM-06-SNHMC		M級	4111		2117	2568	9210		18		130.8	

# VOTOMAS

AT完全設定資料集  
AT PERFECT ESTABLISHMENT DATA

2005年2月25日 初版発行

■編集 笠井 修 (そうゆう舎)  
 ■構成・執筆 江頭豊広  
 ■取材・執筆 池上隆之  
 ■本文デザイン 鶴巻文子 (ファウンダーション)  
 ■DTPレイアウト 小西佐知子 (ファウンダーション)  
 ■カバーデザイン 乾坤グラフィック (水山力也)  
 ■企画・担当編集 木村 晃

監修：株式会社サンライズ

[発行人] 原田 修  
 [編集人] 木村 晃  
 [発行所] 株式会社スタジオDNA  
 〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南3-37-1  
 編集部：03-5397-7371  
 営業部：03-5397-7761  
 [印刷・製本] 図書印刷株式会社

●本書の一部または全部を転載・複写・複製することを禁じます。  
 ●落丁・乱丁は当社にてお取り替えいたします。  
 ●定価はカバーに表示してあります。  
 ●本書の内容に関するお問い合わせは、一切受け付けておりません。

Printed in Japan  
 ISBN 4-7580-1028-5

©サンライズ  
 ©株式会社スタジオDNA

本書の使い方	002
■AT Machine ATマシン	003
FILE01 スコープドッグ	004
FILE02 スコープドッグ用一般装備	008
FILE03 スコープドッグターボカスタム	010
FILE04 オドン戦参加機	012
FILE05 サンサ戦参加機	015
FILE06 ストロングボックス	018
FILE07 パープルベア	019
FILE08 マーシィドッグ	020
FILE09 アバランチドッグ	022
FILE10 ライアットドッグ	023
FILE11 その他武装バリエーション	024
FILE12 バーグラリードッグ	025
FILE13 スコープドッグ系カスタム1	028
FILE14 スコープドッグ系カスタム2	030
FILE15 スコープドッグ用大型兵器	032
FILE16 ブルーティッシュドッグ	033
FILE17 バウンティドッグ	034
FILE18 ブラッドサッカー	035
FILE19 ストライクドッグ	036
FILE20 ラビドリッドッグ	038
FILE21 スラッシュドッグ	039
FILE22 ダイビングビートル	040
FILE23 スライディングビートル	042
FILE24 トライアルゴリラ	043
FILE25 スカラップスSL	043
FILE26 ベルゼルガ	044
FILE27 スタンディングトータス	046
FILE28 スタンディングタートル	048
FILE29 トータス系カスタムモデル1	050
FILE30 トータス系カスタムモデル2	052
FILE31 マスカレイドコング	054
FILE32 イグザートキャトル	055
FILE33 スペンディングウルフ	055
FILE34 ツヴァーク	056
FILE35 ファッティー	058
FILE36 陸戦型ファッティー	060
FILE37 ファッティー系カスタムモデル	062
FILE38 ビズィークラブ	064
FILE39 ブロッカー	064
FILE40 エクルビス	065
FILE41 エルドスピーネ	066
FILE42 オーデルバックラー	068
INTERVIEW1 ボトムズを語る	
高橋良輔(総監督)×井上幸一(設定制作)	070
COLUMN1 検証・スコープドッグの謎と欠点	074
■Equipment 個人装備編	075
FILE43 ギルガメス軍 標準AT用スーツ	076
FILE44 各種AT用スーツ	078
FILE45 歩兵用対AT兵器	080
FILE46 歩兵用大型兵器	082
FILE47 ハンドガン	084
FILE48 その他装備品	085
INTERVIEW2 ボトムズを語る	
大河原邦男(メカニックデザイン)	086
COLUMN2 設定なきメカニズム	088
■Combat Vehicle 陸戦車両編	089
FILE49 地上戦艦	090
FILE50 重量級対AT車両	091
FILE51 軽量級対AT車両	092
FILE52 AT輸送車両	094
FILE53 トラック&支援車両	096
FILE54 汎用系車両	098
FILE55 装甲列車	100
FILE56 河川用艦船	101
COLUMN3 装甲騎兵用銃火器カタログ	102
■Aircraft/Spaceships 航空機/宇宙艦編	103
FILE57 回転翼機	104
FILE58 固定翼機	106
FILE59 大型宇宙船1	108
FILE60 大型宇宙船2	110
FILE61 宇宙艇	112
FILE62 無人宇宙兵器	114
■Landscape 美術編	115
FILE63 メルキア星1~ウドの街~	116
FILE64 メルキア星2	118
FILE65 クエント星	120
FILE66 宇宙都市	122
FILE67 特殊宇宙都市	125
付表 ATマシンズベック一覧	126